

静岡県韮山町

史跡北条氏邸跡発掘調査報告 I

—御所之内遺跡第13次発掘調査報告—

2002

韮山町教育委員会

静岡県韮山町

史跡北条氏邸跡発掘調査報告 I

— 御所之内遺跡第13次発掘調査報告 —

2002

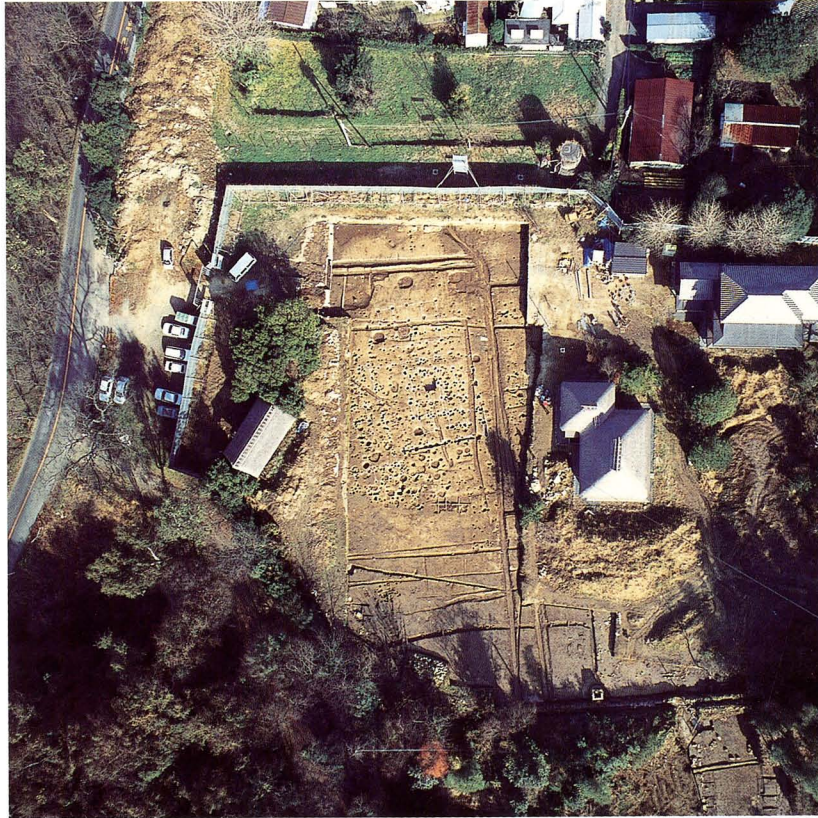
韮山町教育委員会



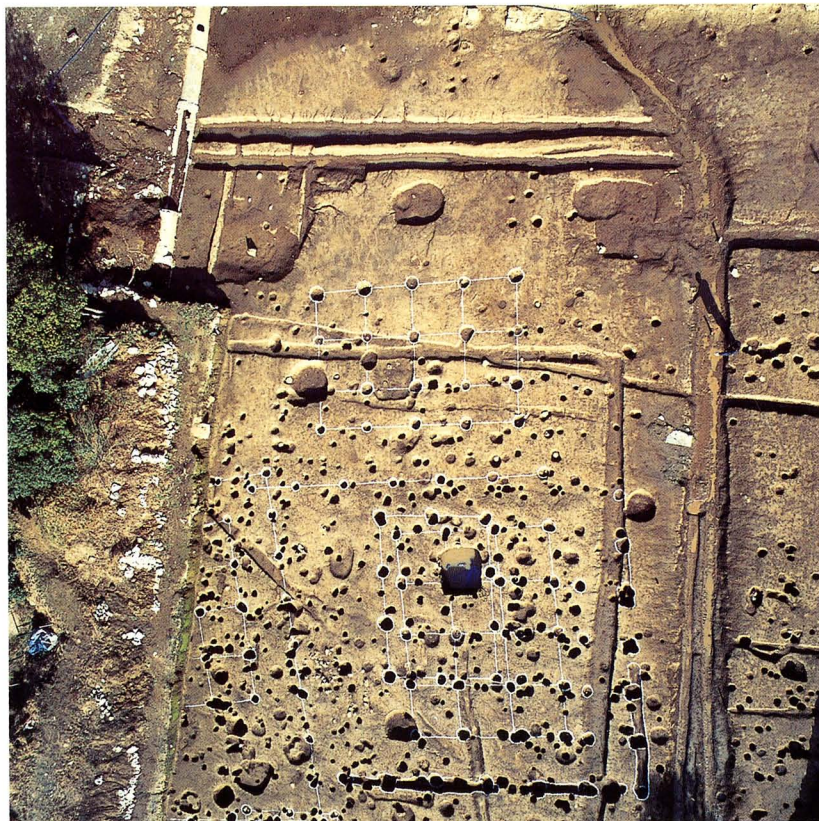
1. 遺跡遠景(北西より)



2. 遺跡遠景(東より)



1. 調査区全景



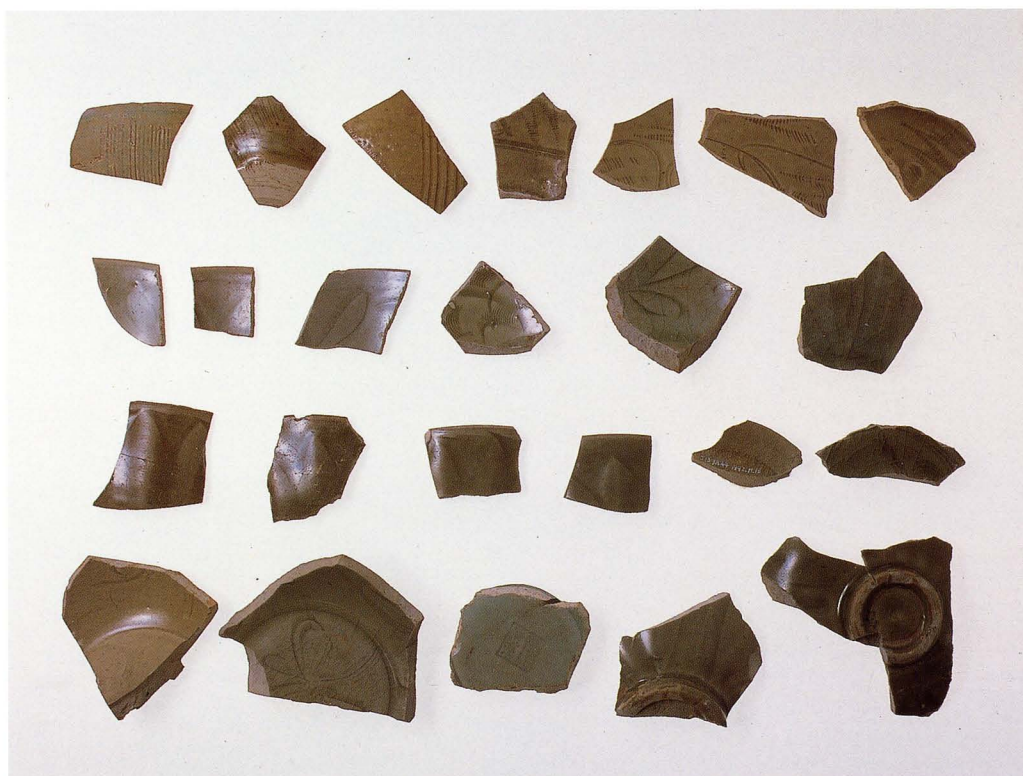
2. 第1～4号掘立柱建物跡



1. 第4号溝状遺構



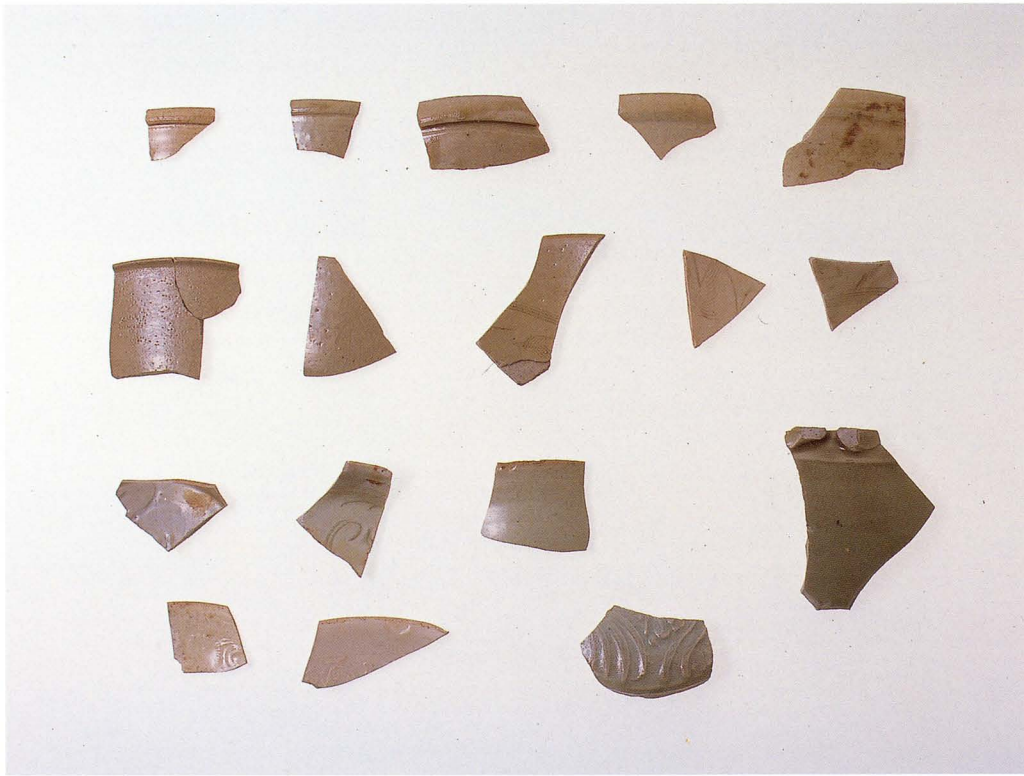
2. 第10号遺構



1. 貿易陶磁(青磁)



2. 貿易陶磁(青磁)



1. 貿易陶磁(白磁)



2. 貿易陶磁(青白磁・陶器)



1. 国産陶器(瀬戸美濃)



2. 国産陶器(瀬戸美濃)



3. 国産陶器(渥美 刻画文壺)



1. 第2号井戸出土かわらけ



2. 第2号井戸出土かわらけ



3. 第4号溝状遺構出土かわらけ



1. 第4号溝状遺構出土かわらけ



2. 瓦質 風炉・火鉢



3. 瓦

序

御所之内遺跡の第13次発掘調査は、平成4年から5年にかけて、企業の研修所建設をきっかけに行いました。発掘調査の結果、多数の掘立柱建物跡や中国製の陶磁器など貴重な遺構・遺物が発見され、さらに、これらが鎌倉時代の北条氏の屋敷や、今まで実体が明らかではなかった円成寺である可能性が指摘され、本遺跡の重要性が注目されるようになりました。

そのため、文化庁の指導のもと、県文化課・町教育委員会・企業の三者で検討を重ねた結果、本遺跡は日本の中世史上大変貴重な遺跡であり、その歴史的価値を評価して史跡として保存する方向で協議を進めることになりました。平成7年には史跡整備委員会も発足し、委員の先生方のご研究・ご討議を経て、平成8年9月に「史跡北条氏邸跡」として指定されました。

その後、「史跡北条氏邸跡」では史跡の追加指定や、整備のための確認調査などを行ってきました。また、今年度は、「史跡北条氏邸跡」・「史跡伝堀越御所跡」・「史跡願成就院跡」の3つの史跡と、それを取り囲む遺跡や文化財を一体として整備・活用するために、「守山中世史跡群整備基本計画」が刊行されております。

このように貴重な遺跡の成果をまとめた本書を刊行することは、誠に喜ばしいことであります。本書が学術研究や郷土の教育資料として活用されることを願ってやみません。

なお、最後になりましたが、関係諸機関ならびに調査に従事された方々に対し、心よりお礼を申し上げます。刊行の序といたします。

平成14年3月

葦山町教育委員会
教育長 植松 静治

例 言

1. 本書は、平成4年～平成5年に葦山町教育委員会が実施した御所之内遺跡第13次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東急電鉄株式会社の研修所建設計画に伴う事前調査で、葦山町寺家字御産所1224他、同字守山1219-1他で実施し、調査面積は2,826.68㎡である。
3. 発掘調査は平成4年3月9日から12月29日・平成5年3月18日から7月25日の2回にわたって実施した。遺物整理・報告書作成作業は平成11年4月1日より平成14年3月20日まで実施した。
4. 発掘調査は、原茂光と加藤学園考古学研究所秋本真澄が担当した。また、本報告書の遺物整理・図版作成は、池谷初恵が整理員を指導して実施し、原稿はⅡ章、Ⅲ章-1を原が、Ⅰ章、Ⅲ章-2、Ⅳ章を池谷が執筆した。編集は池谷が行った。
5. 出土遺物のうち、瀬戸美濃窯製品については(財)瀬戸市文化財センター藤澤良祐氏に、常滑窯製品については常滑市民俗資料館中野晴久氏に分析をお願いし、ご教示を賜った。また、貿易陶磁については、国立歴史民俗博物館小野正敏氏・鎌倉考古学研究所斎木秀雄氏・平泉町文化財センター八重樫忠郎氏にご教示を賜った。記して感謝申し上げる。
6. 本調査については、平成7年に「伊豆葦山円成寺遺跡-御所之内遺跡第13次調査-」として概要報告が刊行されている。本報告と概報の間で相違する点は本報告が正しい。なお、遺跡名は国史跡指定名称に従い「史跡北条氏邸跡」に統一する。
7. 調査体制は以下のとおりである。

発掘調査 平成4年度

調査主体	葦山町教育委員会	教育長	植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長	飯田孝雄	
発掘調査担当	葦山町教育委員会社会教育課	原茂光	
発掘作業員	田中 亨 山口利郎 町田欣也 小泉道治 高橋達郎 渡辺孝紀 森野公毅 鈴木正信 白井幸太郎 原信之助 富樫栄太郎 梶山 格 長島静夫 鈴木正信 原多江子 新見智子 大川愛紀子 桑原靖子 古川昭代 安倍真由美 後藤洋恵 小松法子 川合千賀子 森野みさ子 岩田郁子 海藤裕美子 屋代妥枝 西島和美 与五沢博子 渡辺淑敏 芹沢豊子 安倍孝子		

発掘調査 平成5年度 追加調査

調査主体	葦山町教育委員会	教育長	植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長	飯田孝雄	
	葦山町教育委員会社会教育課	原茂光	
発掘調査担当	加藤学園考古学研究所	秋本真澄	
発掘作業員	加藤学園考古学研究所 研究員 他		

整理調査 平成11～13年度

補助事業者	葦山町 町長	渡辺解太郎
調査主体	葦山町教育委員会	教育長 植松静治
調査事務局	葦山町教育委員会社会教育課長	鈴木容子 (平成13年12月まで)

	葦山町教育委員会社会教育課長	平井正之 (平成14年1月から)
	葦山町教育委員会社会教育課長補佐	中鉢賢治 (平成13年3月まで)
	葦山町教育委員会社会教育課	川口瑞樹 (平成13年3月まで)
		小島達彦 (平成13年4月から)
	葦山町教育委員会社会教育課学芸員	山田康雄 (平成13年4月から)
整理調査担当	非常勤嘱託職員	池谷初恵
整理作業員	原 多江子 今野朋子 斉藤禎子 高垣佐代子	

8. 本調査による図面・写真・遺物等の資料は、葦山町教育委員会で保管している。
9. 発掘調査・整理調査においては次の方々に、ご指導・ご助言を賜った。厚くお礼申し上げる次第である。

小和田哲男	湯之上 隆	小野正敏	河野眞知郎	家永遵嗣	藤澤良祐	中野晴久	百瀬正恒
橋本久和	伊野近富	中井 淳	八重樫忠郎	本澤慎輔	藤原良章	浅野晴樹	飯村 均
荒川正夫	斎木秀雄	宗臺秀明	服部実喜	汐見一夫	水澤幸一	田中 学	金子健一
塚本和宏	松井一明	鈴木敏則	渡井英誉	岩名建太郎	栗木 崇		

静岡県教育委員会文化課 (順不同・敬称略)

凡 例

1. 本書の遺構・遺物の縮尺・指示は次のとおりである。

(1) 遺構の略号と挿図の縮尺

遺構全体図		1 / 100
掘立柱建物跡	SH	1 / 80
井戸	SE	1 / 40
溝状遺構	SD	1 / 100
土坑墓	ST	1 / 40
土坑	SX	1 / 40

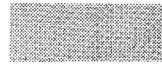
(2) 遺物挿図の縮尺 (縮尺の異なるものは図中に明記した。)

陶磁器・土器	1 / 3
瓦	1 / 4
石製品	1 / 3・1 / 4
銭貨	1 / 2

(3) スクリーントーンの指示 (使用例の異なるものは明記した。)



遺構面



石

(4) 遺物マークの指示

○ かわらけ

● 陶磁器

▲ 金属製品

- 方位は国土座標第Ⅷ系に拠っており、挿図中の方位記号はこの座標北を示す。
- 遺物の番号は遺構種別ごとの通し番号とし、本文・挿図・表・写真図版とも一致する。
- 遺構一覧表における計測値はmであり、() は残存値を示す。
- 遺物一覧表における計測値はcmであり、() は残存値を、－は不明または計測不可能を示す。
- 本書における貿易陶磁の分類は以下の文献に基づいている

横田堅次郎・森田 勉 1978 「太宰府出土の輸入陶磁器について」九州陶磁資料館研究論集 4

国立歴史民俗博物館 1994 『日本出土の貿易陶磁』東日本編 1

- 本書において、瀬戸美濃系施釉陶器・瀬戸美濃産陶器類・瀬戸美濃焼などを略して「瀬戸美濃」と記述する。また、古瀬戸後期様式は後と略し、ローマ数字で型式名を付記し、瀬戸・美濃大窯製品は大窯とし、算用数字で型式名を付記した。常滑焼・常滑産陶器は「常滑」と略して記述した。それぞれの編年は以下の文献に基づいている。

藤澤良祐 1991 「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館

藤澤良祐 1996 「生産 3 瀬戸」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通－研究の現状と課題」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸美濃大窯製品』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

中野晴久 1994 「生産地における編年について」『中世常滑焼をめぐって』資料集 日本福祉大学知多半島総合研究所

中野晴久 1996 「生産 1 瓷器系」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界』資料集 瀬戸市埋蔵文化財センター

目 次

卷頭図版

序

例言

目次

I. 遺跡の立地と歴史的環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
II. 調査に至る経緯・調査方針・調査経過	10
1. 調査に至る経緯	10
2. 調査経過	10
3. 土層	12
III. 遺構と遺物	13
1. 遺構	13
(1) 掘立柱建物跡 柱穴列（塀跡）	13
(2) 井戸	30
(3) 溝状遺構	32
(4) 土坑墓	47
(5) 土坑	51
(6) 集石	64
(7) ピット群	75
2. 遺物	77
(1) 掘立柱建物跡・柱穴列出土遺物	77
(2) 井戸出土遺物	77
(3) 溝状遺構出土遺物	81
(4) 土坑墓出土遺物	112
(5) 土坑出土遺物	113
(6) 集石出土遺物	116
(7) 遺構外出土遺物	128
IV. 調査の成果と課題	174
1. 遺物について	174
2. 遺構の時期的な展開について	187

遺構・遺物一覧表

写真図版

挿 図 目 次

第1図	御所之内遺跡の位置……………	1	第44図	第1号集石……………	66
第2図	遺跡の位置と周辺の地形……………	2	第45図	第2～5号集石……………	68
第3図	遺跡の位置と周辺遺跡分布図……………	4	第46図	第6～8号集石……………	69
第4図	守山中世史跡群の史跡と遺跡の位置…	7	第47図	第9～11号集石……………	71
第5図	遺跡周辺の地籍図……………	9	第48図	第12～15号集石……………	72
第6図	調査区設定図……………	11	第49図	第16・17号集石……………	73
第7図	基本土層図……………	12	第50図	第18・19号集石……………	74
第8図	遺構全体図……………	14	第51図	ピット群分布図……………	76
第9図	掘立柱建物跡・柱穴列配置図……………	15	第52図	掘立柱建物跡出土遺物……………	77
第10図	第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(1)…	16	第53図	柱穴列出土遺物……………	77
第11図	第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(2)…	17	第54図	井戸出土遺物(1)……………	78
第12図	第2・3号掘立柱建物跡 第2・3号柱穴列(1)…	18	第55図	井戸出土遺物(2)……………	79
第13図	第2・3号掘立柱建物跡 第2・3号柱穴列(2)…	19	第56図	井戸出土遺物(3)……………	80
第14図	第4号掘立柱建物跡 第4号柱穴列…	20	第57図	溝状遺構出土遺物(1)……………	82
第15図	第5号掘立柱建物跡……………	21	第58図	溝状遺構出土遺物(2)……………	83
第16図	第6号掘立柱建物跡……………	21	第59図	溝状遺構出土遺物(3)……………	85
第17図	第11号掘立柱建物跡 第8号柱穴列…	23	第60図	溝状遺構出土遺物(4)……………	88
第18図	第12号掘立柱建物跡 第9号柱穴列…	24	第61図	溝状遺構出土遺物(5)……………	89
第19図	第6・7号柱穴列……………	26	第62図	溝状遺構出土遺物(6)……………	90
第20図	第10号遺構(築地塀基礎)……………	28	第63図	溝状遺構出土遺物(7)……………	91
第21図	井戸配置図……………	29	第64図	溝状遺構出土遺物(8)……………	92
第22図	第1号井戸……………	30	第65図	溝状遺構出土遺物(9)……………	93
第23図	第2号井戸……………	31	第66図	溝状遺構出土遺物(10)……………	94
第24図	第2号溝状遺構……………	32	第67図	溝状遺構出土遺物(11)……………	95
第25図	中世溝状遺構配置図……………	33	第68図	溝状遺構出土遺物(12)……………	96
第26図	第1号溝状遺構……………	35	第69図	溝状遺構出土遺物(13)……………	97
第27図	第3・13～15号溝状遺構……………	36	第70図	溝状遺構出土遺物(14)……………	99
第28図	第4号溝状遺構(1)……………	37	第71図	溝状遺構出土遺物(15)……………	100
第29図	第4号溝状遺構(2)……………	38	第72図	溝状遺構出土遺物(16)……………	101
第30図	第5～11号溝状遺構……………	39	第73図	溝状遺構出土遺物(17)……………	102
第31図	第12・16～19号溝状遺構……………	41	第74図	溝状遺構出土遺物(18)……………	104
第32図	近世以降溝状遺構配置図……………	43	第75図	溝状遺構出土遺物(19)……………	105
第33図	土坑墓・土坑配置図……………	48	第76図	溝状遺構出土遺物(20)……………	107
第34図	第1～3号土坑墓……………	49	第77図	溝状遺構出土遺物(21)……………	108
第35図	第4・5号土坑墓……………	50	第78図	溝状遺構出土遺物(22)……………	110
第36図	第1～8号土坑……………	52	第79図	溝状遺構出土遺物(23)……………	111
第37図	第9～18号土坑……………	54	第80図	土坑墓出土遺物……………	112
第38図	第19～27号土坑……………	56	第81図	土坑出土遺物(1)……………	114
第39図	第28～38号土坑……………	58	第82図	土坑出土遺物(2)……………	115
第40図	第39～50号土坑……………	60	第83図	集石出土遺物(1)……………	117
第41図	第51～61号土坑……………	62	第84図	集石出土遺物(2)……………	118
第42図	第62号土坑……………	64	第85図	集石出土遺物(3)……………	119
第43図	1・2区 集石の配置と中世後期遺構…	65	第86図	集石出土遺物(4)……………	120

第87図	集石出土遺物(5)……………	121	第117図	遺構外出土遺物(24)－3区④……………	157
第88図	集石出土遺物(6)……………	122	第118図	遺構外出土遺物(25)－3区⑤……………	158
第89図	集石出土遺物(7)……………	123	第119図	遺構外出土遺物(26)－3区⑥……………	159
第90図	集石出土遺物(8)……………	124	第120図	遺構外出土遺物(27)－3区⑦……………	160
第91図	集石出土遺物(9)……………	125	第121図	遺構外出土遺物(28)－4区①……………	161
第92図	集石出土遺物(10)……………	126	第122図	遺構外出土遺物(29)－4区②……………	162
第93図	集石出土遺物(11)……………	127	第123図	遺構外出土遺物(30)－4区③……………	163
第94図	遺構外出土遺物(1)－1区①……………	134	第124図	遺構外出土遺物(31)－4区④……………	164
第95図	遺構外出土遺物(2)－1区②……………	135	第125図	遺構外出土遺物(32)－4区⑤……………	165
第96図	遺構外出土遺物(3)－1区③……………	136	第126図	遺構外出土遺物(33)－4区⑥……………	166
第97図	遺構外出土遺物(4)－1区④……………	137	第127図	遺構外出土遺物(34)－4区⑦……………	167
第98図	遺構外出土遺物(5)－1区⑤……………	138	第128図	遺構外出土遺物(35)－4区⑧……………	168
第99図	遺構外出土遺物(6)－1区⑥……………	139	第129図	遺構外出土遺物(36)－4区⑨……………	169
第100図	遺構外出土遺物(7)－1区⑦……………	140	第130図	遺構外出土遺物(37)－5区①……………	170
第101図	遺構外出土遺物(8)－1区⑧……………	141	第131図	遺構外出土遺物(38)－5区②……………	171
第102図	遺構外出土遺物(9)－1区⑨……………	142	第132図	遺構外出土遺物(39)－地点不明①……………	172
第103図	遺構外出土遺物(10)－1区⑩……………	143	第133図	遺構外出土遺物(40)－地点不明②……………	173
第104図	遺構外出土遺物(11)－1区⑪……………	144	第134図	出土遺物組成グラフ……………	175
第105図	遺構外出土遺物(12)－1区⑫……………	145	第135図	中世陶磁器産地別グラフ……………	176
第106図	遺構外出土遺物(13)－1区⑬……………	146	第136図	貿易陶磁の組成と時期別出土量グラフ……………	177
第107図	遺構外出土遺物(14)－1区⑭……………	147	第137図	瀬戸美濃の組成と型式別・器種別出土量グラフ……………	178
第108図	遺構外出土遺物(15)－2区①……………	148	第138図	瀬戸美濃の型式別・器種別出土量グラフ……………	179
第109図	遺構外出土遺物(16)－2区②……………	149	第139図	常滑の組成と型式別出土量グラフ……………	180
第110図	遺構外出土遺物(17)－2区③……………	150	第140図	常滑の型式別・器種別出土量グラフ……………	181
第111図	遺構外出土遺物(18)－2区④……………	151	第141図	かわらけの変遷と共伴遺物(1)……………	184
第112図	遺構外出土遺物(19)－2区⑤……………	152	第142図	かわらけの変遷と共伴遺物(2)……………	185
第113図	遺構外出土遺物(20)－2区⑥……………	153	第143図	主要遺物の出土量の推移……………	187
第114図	遺構外出土遺物(21)－3区①……………	154	第144図	主な遺構の変遷(1)……………	189
第115図	遺構外出土遺物(22)－3区②……………	155	第145図	主な遺構の変遷(2)……………	190
第116図	遺構外出土遺物(23)－3区③……………	156			

表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表……………	5	第10表	土坑一覧表……………	198
第2表	守山中世史跡群における発掘調査一覧……………	8	第11表	集石遺構一覧表……………	199
第3表	掘立柱建物跡一覧表(1)……………	194	第12表	中世遺物組成表……………	200
第4表	掘立柱建物跡一覧表(2)……………	195	第13表	中世以外の遺物一覧表……………	200
第5表	柱穴列一覧表(1)……………	195	第14表	中世土器・陶磁器組成表……………	200
第6表	柱穴列一覧表(2)……………	196	第15表	貿易陶磁分類別一覧表……………	201
第7表	井戸一覧表……………	197	第16表	常滑・渥美・湖西 器種・時期別一覧表……………	201
第8表	溝状遺構一覧表……………	197	第17表	瀬戸美濃 器種・時期別一覧表……………	202
第9表	土坑墓一覧表……………	197	第18表	山茶碗産地別一覧表……………	202

第19表	掘立柱建物跡・堀跡出土遺物一覧表	203	第34表	1区出土遺物一覧表(1)	214
第20表	井戸出土遺物一覧表(1)	203	第35表	1区出土遺物一覧表(2)	215
第21表	井戸出土遺物一覧表(2)	204	第36表	1区出土遺物一覧表(3)	216
第22表	溝状遺構出土遺物一覧表(1)	204	第37表	1区出土遺物一覧表(4)	217
第23表	溝状遺構出土遺物一覧表(2)	205	第38表	1区出土遺物一覧表(5)	218
第24表	溝状遺構出土遺物一覧表(3)	206	第39表	2区出土遺物一覧表(1)	218
第25表	溝状遺構出土遺物一覧表(4)	207	第40表	2区出土遺物一覧表(2)	219
第26表	溝状遺構出土遺物一覧表(5)	208	第41表	2区出土遺物一覧表(3)	220
第27表	溝状遺構出土遺物一覧表(6)	209	第42表	3区出土遺物一覧表(1)	221
第28表	溝状遺構出土遺物一覧表(7)	210	第43表	3区出土遺物一覧表(2)	222
第29表	溝状遺構出土遺物一覧表(8)	211	第44表	4区出土遺物一覧表(1)	223
第30表	溝状遺構出土遺物一覧表(9)	212	第45表	4区出土遺物一覧表(2)	224
第31表	土坑墓出土遺物一覧表	212	第46表	4区出土遺物一覧表(3)	225
第32表	土坑出土遺物一覧表	212	第47表	5区出土遺物一覧表	225
第33表	集石遺構出土遺物一覧表	213	第48表	出土位置不明遺物一覧表	225

図 版 目 次

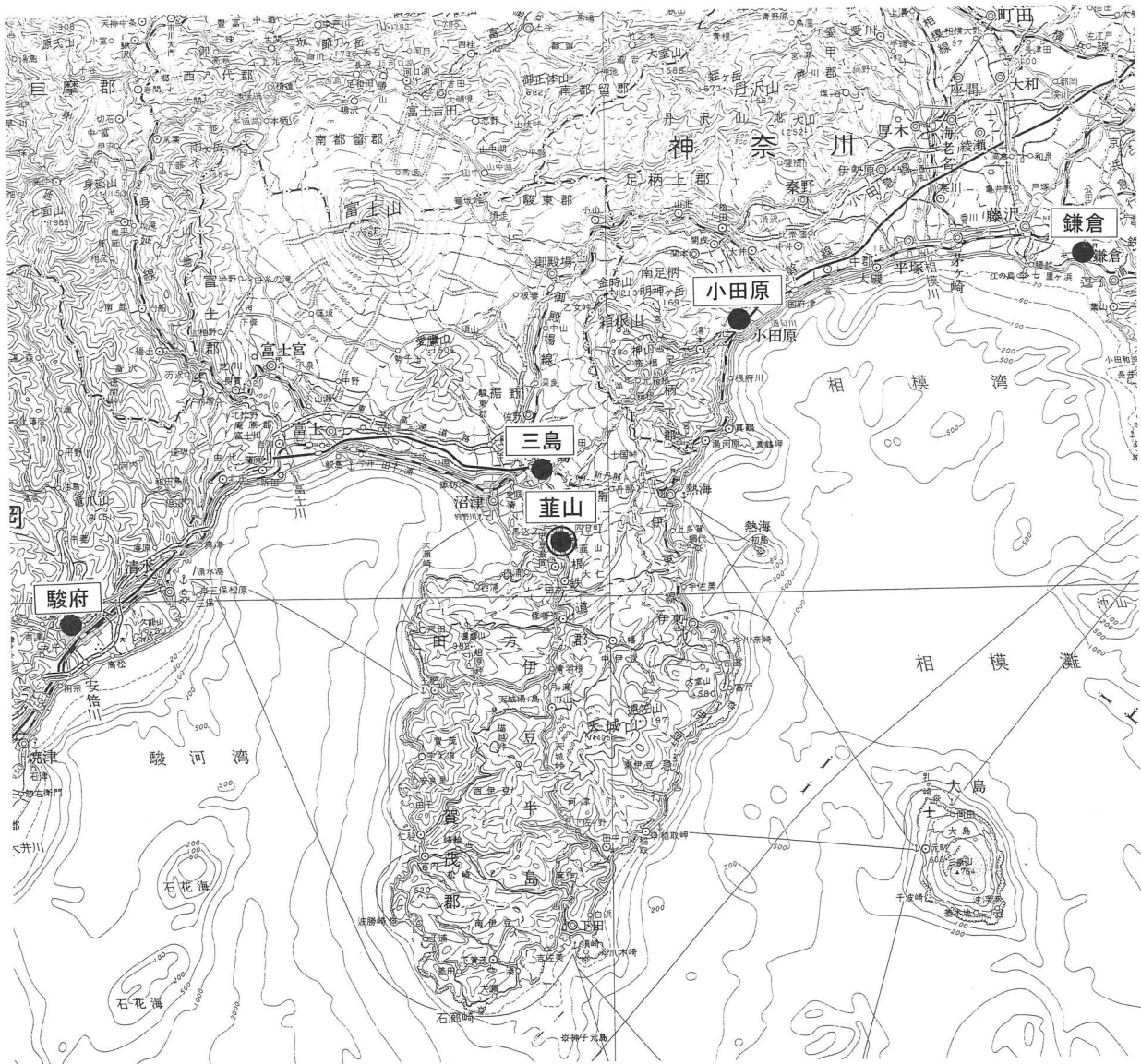
図版 1	1.調査区全景 2.第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列 3.第2・3号掘立柱建物跡・第2・3号柱穴列
図版 2	1.第2～4号掘立柱建物跡・第2～4号柱穴列 2.第4号土坑墓 3.第5号土坑墓
図版 3	1.第1号井戸(1) 2.1.第1号井戸(2) 3.1.第1号井戸(3)
図版 4	1.第3号溝状遺構 2.第4号溝状遺構 3.第4号溝状遺構土層断面
図版 5	1.第4号溝状遺構 2.第4号溝状遺構遺物出土状況 3.第5号溝状遺構
図版 6	1.第17号溝状遺構 2.1区集石検出状況 3.近世溝状遺構
図版 7	1.発掘調査風景 2.見学会風景 3.見学会風景
図版 8	1.第1号・2号井戸出土陶磁器 2.第1号溝状遺構出土陶磁器
図版 9	1.第3号溝状遺構出土陶磁器 2.第4号溝状遺構出土陶磁器
図版 10	1.第4号溝状遺構出土陶磁器 2.第4号溝状遺構出土瓦質製品
図版 11	1.第16号溝状遺構出土陶磁器 2.第16号溝状遺構出土陶磁器・瓦質製品
図版 12	1.近世溝状遺構出土陶磁器 2.軒丸瓦
図版 13	1.軒平瓦 2.平瓦
図版 14	1.銭貨 2.石製品(1)
図版 15	1.石製品(2) 2.石製品(3)
図版 16	1.第1号井戸出土かわらけ 2.第2号井戸出土かわらけ 3.第1号溝状遺構出土かわらけ 4.第2号溝状遺構出土かわらけ 5.第3号溝状遺構出土かわらけ
図版 17	第4号溝状遺構出土かわらけ
図版 18	1.第5号溝状遺構出土かわらけ 2.第10号溝状遺構出土かわらけ 3.第16号溝状遺構出土かわらけ 4.第19号溝状遺構出土かわらけ 5.第5号土坑墓出土かわらけ 6.第34号土坑出土かわらけ 7.第36号土坑出土かわらけ
図版 19	1.第39号土坑出土かわらけ 2.第50号土坑出土かわらけ 3.第56号土坑出土かわらけ 4.4区遺物集中地点出土須恵器・土師器 5.4区出土土師器

I. 遺跡の立地と歴史的環境

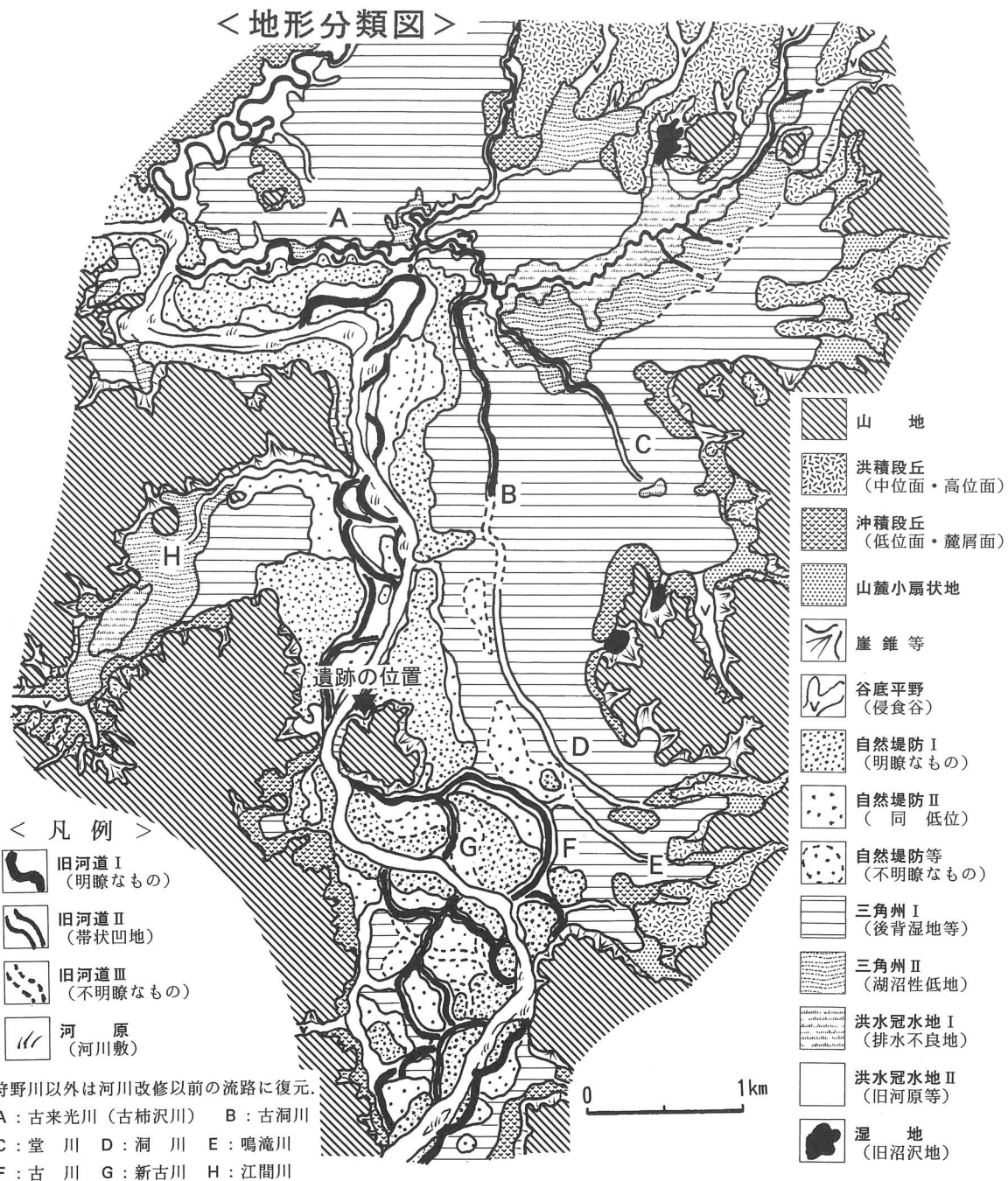
1. 地理的環境

韮山町は静岡県東部にあり、伊豆半島のつけ根部分、北伊豆地域の内陸部ほぼ中央に位置している。地形的には、伊豆半島を北流する狩野川によって形成された沖積平野である田方平野の南部に立地する。

韮山町の地形は、大きく山地、段丘、自然堤防、低地（後背湿地）に分けることができる。町域の東部約2/3は「多賀火山」の西側斜面が占める山地・丘陵斜面部である。一方、多賀火山の西側斜面に連続するように、標高128.4mの天狗岳（通称天ヶ岳）を主峰とする小山ないし丘陵状の地形が存在するが、これらは多賀火山噴出物とは異なる石英安山岩からなる貫入岩体である。また、御所之内遺跡の南部に存在する守山は町域の最西部に位置し、狩野川右岸部にある標高101.8mの小山である。この守山は狩野川を挟んで西側に展開する静浦山地の一部をなすが、安山岩の貫入岩体によって孤立丘の様相を呈している。段丘は、多賀火山帯の西麓一帯、平野部との境に展開する。



第1図 御所之内遺跡の位置



第2図 遺跡の位置と周辺の地形 韮山町史第十巻「韮山の自然と風土」より

自然堤防は狩野川の現在の河道に沿って、比較的大規模なものが発達している。また、旧河道や推定される帯状凹地沿いにも、小規模な自然堤防が形成されている。低地は狩野川と山地の間の展開する平野部の大半を占める。狩野川をはじめするいくつかの河川によって形成された後背湿地である。この他、東部の山地の西麓には、比較的緩やかな小規模扇状地が形成されているが、主に北部に多く、南部の西麓ではそれほど発達していない。

御所之内遺跡は、町域の西端、狩野川右岸に立地する守山から北方にのびる自然堤防上に展開する。この自然堤防は、御所之内遺跡のある守山裾部を最南端とし、途中分断や未発達な箇所を経て、原木付近まで2.5kmに及ぶ。遺跡の範囲は、韮山町四日町字築山・御所之内、寺家字御産所・守山地籍に所在

し、総面積は10万㎡に及ぶ。標高は、平均14.7mである。

2. 歴史的環境

葦山町における旧石器時代の遺跡は現在まで14遺跡が知られているが、調査例は非常に少なく、表面採集などによる資料が多い。そのため、出土層位や遺跡の広がりなどは明確ではなく、詳細は不明である。

縄文時代の遺跡は約30遺跡が周知されているが、出土した遺物等から時期が明確な遺跡は24遺跡である。主な発掘調査例には、宮原A遺跡(10)・宮原B遺跡(11)・神崎遺跡(15)・久根ヶ崎遺跡などがある。これらはいずれも東部の山地やそれから続く段丘状に立地している。当町においては、大規模な丘陵・緩斜面が少ないため、縄文時代の遺跡は近隣に比べてあまり多くはない。また、現在までのところ、大規模な集落跡なども検出されていない。神崎遺跡で検出された縄文時代後期の敷石住居が唯一の住居跡例である。また、葦山カントリークラブ地内遺跡群では、多数の落とし穴が検出されている。町内北部の低位の段丘面末端に位置する久根ヶ崎遺跡では、当地域では類例の少ない縄文晩期の土器が多数出土したことで注目されている。

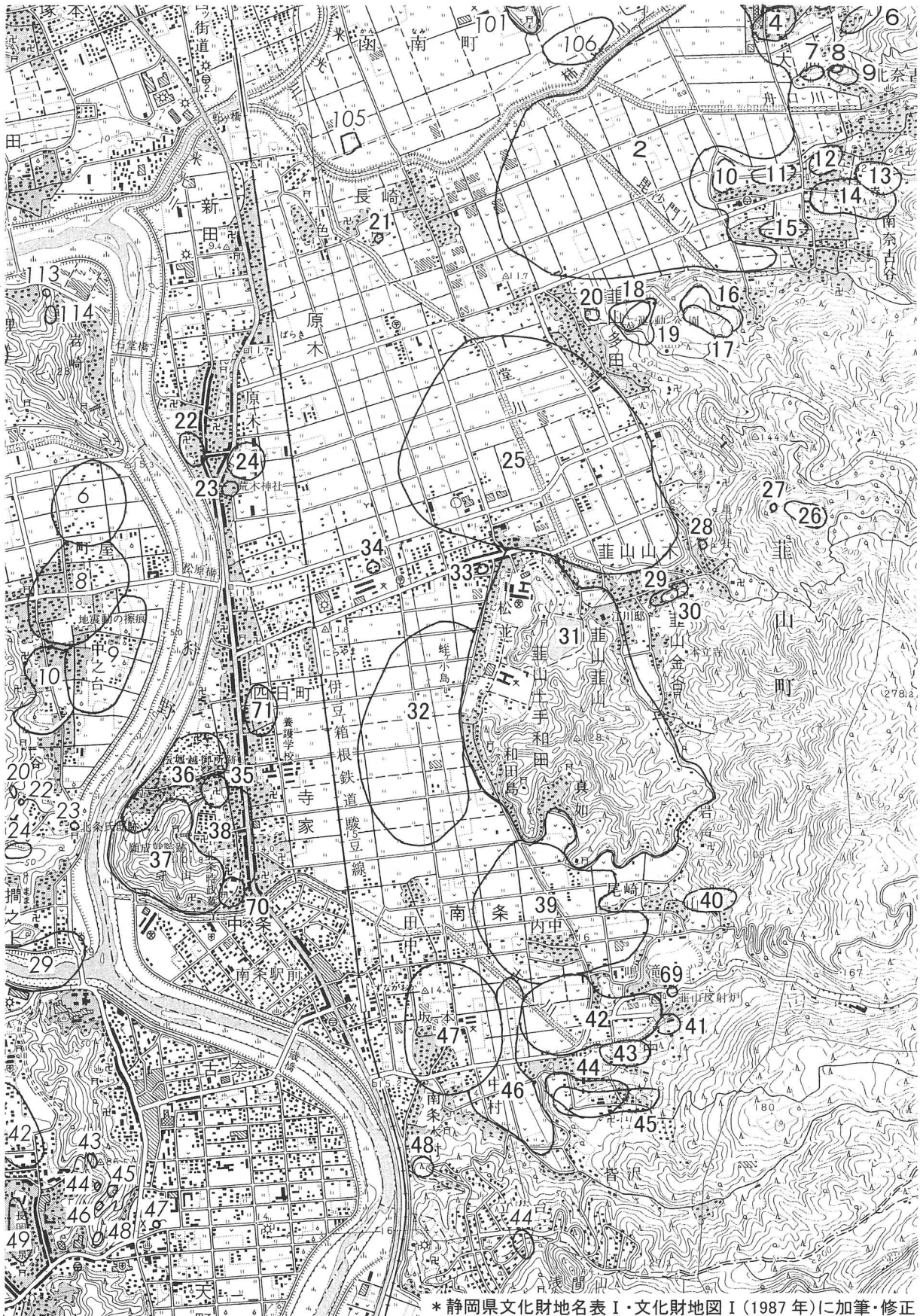
弥生時代になると、集落が低地に進出するためか、葦山町においては急激に遺跡数が増加する。主な遺跡では、山木遺跡(25)・蛭ヶ島遺跡(32)・宮下遺跡(42)・内中遺跡(39)を挙げることができる。これらのうち、蛭ヶ島遺跡・宮下遺跡などを除き、弥生時代後期から営まれた遺跡が多いことが特徴である。当町の弥生時代遺跡で特筆すべきは、多数の水田が確認されていることである。有名な山木遺跡をはじめとして、宮下遺跡・内中遺跡などでも水田跡が検出されており、大量の木製品が出土している。一方、住居跡は、神崎遺跡・葦山城内遺跡で確認されている。

水田跡や木製品で有名な山木遺跡であるが、1997年に行われた第14次調査では、13基の方形周溝墓が検出された。さらに1994年に調査された第10次調査の溝状遺構もその可能性が考えられ、山木遺跡の墓域の範囲が確認されつつある。山木遺跡は部分的な調査が多く、全体像を把握するには至っていないが、葦山城内遺跡の住居跡群を集落と考えれば、集落域・水田等生産域・墓域などの有機的なつながりが解明される可能性がある。また、遺跡の存続が古墳時代まで継続していることも明らかになってきており、集落の存続期間やその背景なども課題である。

古墳時代になると、丘陵上やその末端部にいくつかの古墳群があらわれてくる。主なものは、多田大塚古墳群(19)・台古墳群(43)などである。多田大塚古墳群は、1977年と1989～1990年に発掘調査が行われた。鏡や馬具が出土した4号墳、盾持人の人物埴輪が出土した6号墳など、10基の古墳から構成される古墳群である。なお、当該期の集落跡の調査例は非常に少なく、花ヶ崎遺跡で中期頃の住居跡が6軒確認されたにとどまっている。ただし、御所之内遺跡の中世遺構面の下部から、古墳時代や奈良・平安時代の遺物がまとまって出土しており、下層に当該期の集落が予想されている。

奈良・平安時代では、坂本遺跡(47)・前峠遺跡などの調査例がある。このうち、坂本遺跡では「万」「人」「久」などの墨書が多数出土している。これらの遺跡は、町中心部の低地にある自然堤防上に立地しており、現存集落の下に、当該期の集落が遺存している可能性が高い。また、町内には条里制の基づく「田方条里」と呼ばれるN-22°-Wの表層条里が残存している。山木遺跡の発掘調査でも、10世紀の条里遺構が確認され、残存する表層条里とほぼ一致することが検証された。

次に中世の様相を概観する。葦山は源頼朝の旗揚げから、豊臣秀吉による葦山城攻め・後北条氏滅亡まで、中世史上画期となる事柄の舞台となった重要な地域であり、そのため多くの館や城跡などの遺跡・文化財が残されている。



第3図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図 (1/25,000)

御所之内遺跡(36)は、鎌倉幕府執権職北条氏の本貫地の館跡、鎌倉幕府滅亡後北条氏ゆかり子女によって建てられた円成寺や室町時代の堀越御所が次々と営まれていったことが発掘調査で明らかとなっている。また、遺跡内には、御所之内、御産所、築山などの地籍名が存在し、伝北条政子産湯の井戸や、御所の庭にあったと伝える「七つ石」の伝承なども残っていて、居館・御所の存在を示す環境が良好に残されている。

願成就院跡(38)は北条時政の祈願寺であり、臨池庭園形式の寺院跡である。現在までの調査で、南塔・堂の雨落溝・段状遺構などが検出されている。しかし、いずれも小規模な調査であり、南塔以外は伽藍配置等を確定するには至っていない。満願寺跡(70)では3地点の調査が行われており、前期の井戸跡や後期の溝状遺構などが検出されている。また、溝や石積みなどで区画した平場がいくつか作られており、願成就院跡と関連する遺構群である可能性が高い。守山砦(37)は堀越御所の後詰めの城と推定されているが、該当する遺構が検出されておらず詳細は不明である。光照寺跡(35)は吾妻鏡にみえる頼朝亭の伝承をもつ遺跡である。鎌倉時代初期の井戸が検出されているが、調査地点が限られているため詳細は明らかではない。以上の5遺跡が守山を中心に長期間営まれており、中世において当地域が重要な位置を占めていたことがわかる。また、御所之内遺跡には「史跡北条氏邸跡」と「伝堀越御所跡」の2つの史跡が、願成就院跡には「史跡願成就院跡」の国指定史跡が所在する。これら5つの遺跡と3つの史跡を包括して、「守山中世史跡群」と呼称する。

第1表 周辺遺跡一覧表

韮山町							
2	奈古谷低地遺跡群	4	神明原遺跡	6	浮名古墳群	7	花ヶ崎遺跡
8	伽藍沢遺跡	9	伽藍沢古墳群	10	宮原A遺跡	11	宮原B遺跡
12	花立遺跡	13	国清寺北古墳群	14	国清寺	15	神崎遺跡
16	芋ヶ窪遺跡	17	芋ヶ窪古墳群	18	妹ヶ久保遺跡	19	大塚古墳群
20	熊野神社	21	長崎神社	22	原木下町遺跡	23	荒木神社
24	荒真木遺跡	25	山木遺跡	26	滝之洞遺跡	27	太閤陣場古墳
28	下向山遺跡	29	山木下町遺跡	30	山木館	31	韮山城
32	蛭ヶ島遺跡	33	兵衛/森遺跡	34	道下遺跡	35	光照寺
36	御所之内遺跡	37	守山砦	38	願成就院跡	39	内中遺跡
40	山田古墳群	41	宮/後遺跡	42	宮下遺跡	43	台古墳群
44	長者ヶ原遺跡	45	皆沢日向古墳	46	皆沢低地遺跡	47	坂本遺跡
48	犬間洞古墳群	70	満願寺跡	71	正念寺		

函南町							
101	向原館	105	肥田古館	106	池之尻遺跡	113	岩崎遺跡
114	岩崎遺跡						
伊豆長岡町							
6	花ノ木遺跡	8	町屋遺跡	9	窯の壇遺跡	10	吉祥寺廃寺
20	桜ヶ平A遺跡	22	窯石場遺跡	23	四反畑窯遺跡	24	御丈馬場遺跡
29	棚之上遺跡	42	田端遺跡	43	源氏山(弥勒洞)遺跡	44	源氏山(細洞)遺跡
45	源氏山(万法院)遺跡	46	源氏山(多門山)遺跡	47	若宮遺跡	48	源氏山(岩鼻)遺跡
49	高天ヶ原遺跡						
大仁町							
44	富士見夫婦塚						

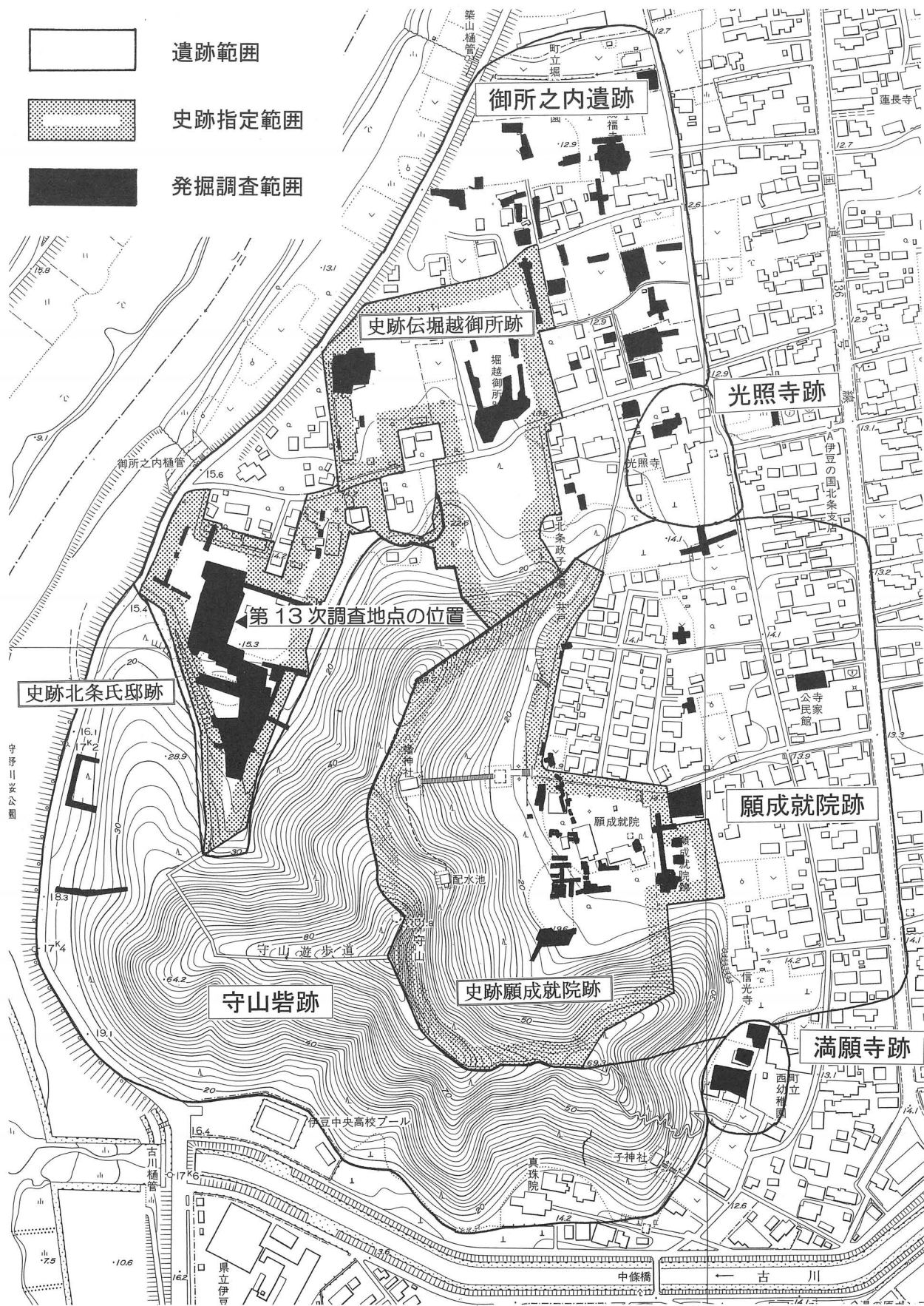
守山中世史跡群の東側、国道136号線を隔て正念寺跡(71)がある。ここは現在の寺名を蓮長寺といい、正応五年(1292)銘の宝篋印塔基台が残されている。発掘調査でも12世紀末～13世紀初頭の井戸が検出されている。また、この付近は四日町の地名が三齋市としての北条市に由来するといわれ、中世において当地域の経済的中心であったと推定される。

一方、町域東側の山麓部にも中世遺跡が多く存在する。葦山城跡(31)は北条早雲築城の城といわれている。現在までに、県立高校内で2地点、周辺の無量寺地区・芳池地区などで約10地点の調査が行われており、堀や道路状遺構、屋敷跡などが検出されている。また、源頼朝旗揚げの際に攻撃したといわれる平兼隆の館跡に比定されている山木館(30)や、中世墓が確認された下向山遺跡(28)などがある。葦山城の西側の低地には、弥生～古墳時代の遺跡である山木遺跡・蛭ヶ島遺跡などがあるが、これらの遺跡でも包含層から平安時代～中世の遺物が検出されており、葦山城や関連する遺跡の広がりを推測させる。この他、兵衛ノ森遺跡(33)、道下遺跡(34)、長者ヶ原遺跡(44)で中世遺物が発見されているが、遺構等の検出はなく詳細は明らかではない。

町域東北部に位置する国清寺(14)は、関東管領上杉氏が開祖となり14世紀中頃に建立された寺院で、伊豆国守護所の比定説などもあるなど、中世葦山におけるもう一つの中心地であった。発掘調査は寺院の西側の3地点で行われ、中世後期の遺構・遺物が検出されている。また、国清寺では上杉禅秀の乱(1416年)の折に合戦が行われており、軍事的な拠点でもあった。寺の周囲に一部残っている土塁にもその名残りをみることができる。国清寺裏手の山麓には授福寺遺跡がある。国清寺の奥の院と位置づけられており、毘沙門堂付近で道路修理が行われた際に中世墓が発見された。また周辺には五輪塔破片や玉石などがみられ、一帯に中世墓が群在していたと考えられる。

以上のように、葦山においては主に3つの中世の遺跡集中地が認められる。また、多田の大塚古墳群のうち、2号墳で1基、4号墳から2基の中世墓が認められている。

近世の葦山は、天領として葦山代官江川氏が治めるようになる。その遺跡は、重要文化財江川邸や幕末の史跡反射炉として残されている。いずれも整備に伴い一部発掘調査が行われ、近世の葦山のようすも徐々に明らかになっている。



第4図 守山中世史跡群の史跡と遺跡の位置

第2表 守山中世史跡群 発掘調査一覧表

遺跡名	調査次	調査期間	所在地	調査面積	調査原因	調査成果
御所之内遺跡群	予備	S57. 9～10月	四日町字御所之内934-1	605㎡	宅地分譲	園池・井戸等
御所之内遺跡群	1次	S58. 1～3月	四日町字御所之内934-1		範囲確認	園池・遺水等
御所之内遺跡群	2次	S58. 4～12月	四日町字御所之内934-1他	1048㎡	範囲確認	井戸等
御所之内遺跡群	3次	S59. 8～9月	四日町字築山1005-6他	119㎡	個人住宅建設	堀
御所之内遺跡群	4次	S61. 3月	四日町字築山981-1	72㎡	寺院建設	堀・井戸等
御所之内遺跡群	5次	S61. 10月～S62. 1月	四日町字御所之内939-8	497㎡	保養所増築	園池・井戸等
御所之内遺跡群	6次	S62. 6月	四日町字築山1006-1	43㎡	個人住宅建設	溝
御所之内遺跡群	7次	S62. 4～7月	四日町字築山981-1	277㎡	寺院建設	堀・井戸・土坑墓・近世建物
御所之内遺跡群	8次	S63. 4月、H元. 2月	四日町字御所之内932-1 字築山1007-2	63㎡	個人住宅建設	堀・井戸、こけら経
御所之内遺跡群	9次	H2. 2～3月	四日町字御所之内974	445㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝 井戸・かわらけ溜
御所之内遺跡群	10次	H3. 1～3月	四日町字御所之内927-1 字築山1008-1	231㎡	個人住宅建設	井戸・溝等
御所之内遺跡群	11次	H3. 7～8月	寺家字池島28-4	97㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・井戸等
御所之内遺跡群	12次	H4. 1～2月	四日町字御所之内929-1	68㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・井戸等
御所之内遺跡群	13次	H4. 3～12月 H5. 3～5月	寺家字御産所1224-1他	2930㎡	研修所建設	掘立柱建物跡・塀跡・井戸・土坑墓・
御所之内遺跡群	14次	H4. 9～10月	四日町字築山983-1他	216㎡	墓地造成	堀・溝・井戸等
御所之内遺跡群	15次	H5. 1～6月	四日町字御所之内927-1	390㎡	個人住宅建設	井戸・溝等
御所之内遺跡群	16次	H5. 6月	四日町字御所之内927-1	55㎡	アパート建設	井戸等
御所之内遺跡群	17次	H6. 2月	四日町字御所之内939-8	16㎡	保養所増築	園池・井戸
御所之内遺跡群	18次	H6. 5月	四日町字御所之内926-2	62㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝・土坑
御所之内遺跡群	19次	H7. 8～9月	四日町字御所之内971-2	101㎡	個人住宅建設	掘立柱建物跡・溝等
御所之内遺跡群	20次	H8. 2～4月	四日町字御所之内928-3	89㎡	個人住宅建設	
御所之内遺跡群	21次	H8. 6～8月	寺家字御産所23-1他	96㎡	個人住宅建設	溝・地山整形の段等
御所之内遺跡群	22次	H10. 8月～H11. 3月	寺家字御産所1219-5他	374㎡	範囲確認	土坑・溝・かわらけ溜・小鍛冶跡
御所之内遺跡群	23次	H11. 11月～H12. 3月	寺家字御産所1219-10	166㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	24次	H11. 3～5月	寺家字御産所16	45㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	25次	H12. 8～12月	寺家字御産所1219-7他	883㎡	範囲確認	土坑・溝等
御所之内遺跡群	26次	H13. 5月～H14. 1月	寺家字御産所1224-1他	446㎡	範囲確認	池・溝・柱穴等
願成就院跡	—	S34	寺家字池島	—	地形測量	園池範囲推定
願成就院跡	0次	S42	寺家字池島83-1他	140㎡	寺院建設	大御堂・南新御堂
願成就院跡	1次	S45. 2～3月	寺家字池島37-1他	590㎡	宅地造成	南塔
願成就院跡	2次	S45. 7～9月	寺家字池島83-4他	511㎡	範囲確認	南新御堂他
願成就院跡	3次	S49.	寺家字池島83-4他	135㎡	範囲確認	南新御堂他
願成就院跡	4次	S56. 8月～S57. 3月	寺家字守山1212-1他	281㎡	墓地造成	堂宇基壇・井戸他
願成就院跡	5次	S57. 8～9月	寺家字池島83-6他	88㎡	墓地代替地	玉石群・段状遺構
願成就院跡	6次	S63. 1～2月	寺家字池島83-4他	109㎡	収蔵庫建設	埋伏遺構・段状遺構
願成就院跡	7次	H元. 8～9月	寺家字池島112-1他	258㎡	公民館建設	
願成就院跡	8次	H7. 9～12月	寺家字池島80-2他	466㎡	宅地分譲	溝
光照寺跡	1次	S61. 5～6月	寺家字池島30-1	145㎡	寺院建築	井戸・溝
満願寺跡	1次	S62. 11月	寺家字池島93-3	103㎡	個人住宅建設	柱穴群
満願寺跡	2次	S63. 11月～H元. 2月	寺家字池島93-14他	492㎡	宅地分譲	井戸・土坑墓・溝・石積の段
満願寺跡	3次	H元. 7～8月	寺家字池島93-4	206㎡	個人住宅建設	土坑墓・溝・石積の段
守山砦守山西地区	1次	H11. 9～10月	中条字西大洞469-5他	275㎡	範囲確認	土坑・溝



第5図 遺跡周辺の地籍図

II. 調査に至る経緯・調査方針・調査経過

1. 調査に至る経緯

東京急行電鉄株式会社（以下、会社側と表記）から70周年記念事業として水宝閣跡地にセミナーハウス建設の計画があるとして、埋蔵文化財の存在確認調査依頼が提出されたのは平成3年(1991)3月18日のことであった。同月28日に現地踏査と後日の建物解体時に立会いを実施した結果、かわらけや陶磁器片の出土が確認された。30日、埋蔵文化財の確認結果を報告するとともに、ここで事業を実施する場合には発掘調査が必要であることを伝える。同年10月15日付けで教育長宛に発掘調査依頼が提出され、同月28日付けで埋蔵文化財発掘調査届を提出。11月19日付けで県教委から発掘指示が届く。翌平成4年(1992)2月3日、蕪山町と会社側との間で発掘調査委託契約を締結し、3月9日から発掘調査に着手した。

2. 調査経過

平成4年（1992）3月9日機材搬入後、土層と遺物包含層位を確認するため建物予定地の外側1.5mに沿って9箇所のテストピットを開ける。3月11日全体を予定建物の形状にあわせて1～5区に分けし、重機を投入して2m近い表土を除去しながら遺構検出に入った。工程は下表のとおりである。

以下、発掘調査の進行に併せて実施した打ち合わせ、調整等の経過を追ってみる。

会社側との打ち合わせは毎月1回行うこととした。遺構や遺物の量が予想を越えて数多く検出されたため、7月7日の打ち合わせで調査期間延長をお願いし、8月6日の打ち合わせで11月までの調査延長が承認された。9月3日及び10月2日の打ち合わせを経て10月10日には現地説明会を実施し、97名の参加者があった。この後、塀を伴った掘立柱建物などが検出され、遺跡の重要性が増したため、11月5日の打ち合わせで再度期間延長をお願いするが、期限内に調査を完了する見込みは難しくなった。

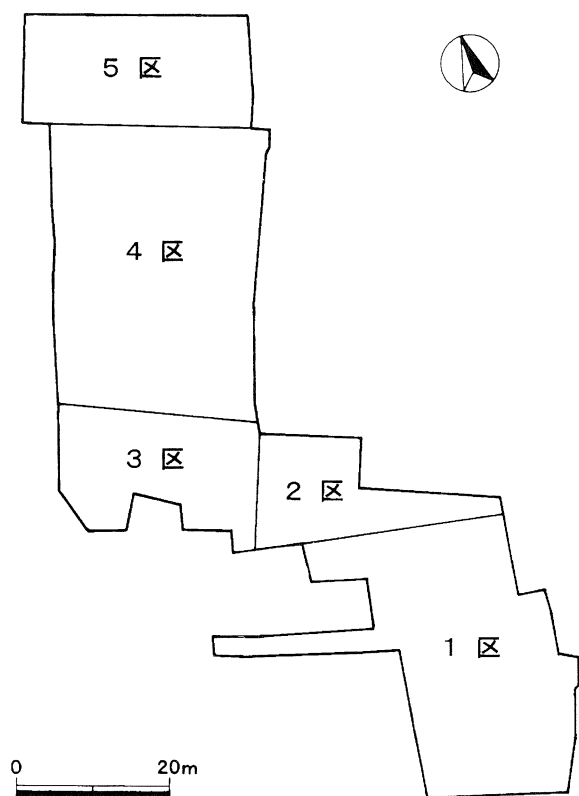
12月17日、現場をマスコミに公開する。21日には会社側へ工事関係の進行を一時ストップするように依頼する。年末から翌平成5年当初にかけて県文化課や研究者の視察や見学が相次ぎ、1月18日には

御所之内遺跡第13次調査工程表

I 期調査(平成4年)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1区	遺構検出・調査			実測	遺構検出・調査				実測
2区				遺構検出・調査					実測
3区	遺構検出・調査					遺構検出・調査			実測
4区	遺構検出・調査						遺構検出・調査		実測
5区				遺構検出・調査			実測		

※第II期調査については日誌不明のため、行程表作成出来ず



第6図 調査区設定図

静岡県考古学会から町長、教育長、県知事、県教育長、東急、文化庁宛に、保存と調査継続の要望書が提出された。県文化課、文化庁等と協議の末、2月17日に県教委を交えて会社側との協議(以下、三者協議)を行った。この席上、県文化課から町の体制が不十分なので、調査組織をつくり、継続調査が必要との指導を受けた。会社側は70周年事業として平成5年中に着工したい、そのために追加調査に応じる旨の回答があった。

2月20日、町教育委員会では他遺跡の発掘調査を実施する必要性が生じたため、町文化財保護審議委員会で検討し、当遺跡の調査を加藤学園考古学研究所に委託することにした。

3月10日、三者協議実施。継続調査の方法・金額・時期、および設計変更、国指定同意等についても協議する。同月15日、第Ⅱ期調査を開始する。また、遺跡の調査方法・評価について指導・助言する機関として調査委員会を設置し、4月10日、第1回の調査委員会を開催し、経過報告をするとともに、今後の調査方針、計画について検討した。

第Ⅱ期調査委員会構成

委員長 渡辺文三(町長) 副委員長 齊藤 宏 委員 小和田哲男 小野真一 大原美芳
 指導機関 五島康司 佐藤正知(県文化課)
 調査主体 韮山町教育委員会 調査員 秋本真澄(加藤学園考古学研究所)

6月5日、第2回調査委員会を開催し、検出遺構および遺物について検討する。6月21日、第3回調査委員会。遺物の年代および遺構の性格について検討する。7月25日、第Ⅱ期調査終了。

7月25日、第4回調査委員会開催。遺跡全体の評価および保存と開発について検討する。調査結果概要および保存策をまとめる。

8月16日、三者協議実施。調査結果報告および計画変更の要請をするが、会社側からは困難との回答。

9月13日、三者協議実施。文化庁と協議の結果、国指定の価値があるとして前回案を再提示。代替案や事業撤退等について協議する。

10月20日、発掘調査終了報告を会社側に提出。

10月26日、三者協議実施。

平成6年6月9日、文化庁と協議。国指定申請書を作成するよう指導がある。

8月1日、会社側と土地売買に関する覚書を締結。

12月13日、全調査費精算。会社側の支出は24,423,458円となる。

12月27日、調査用地確保のため、土地使用貸借を締結。

平成7年3月8日、史跡整備委員会設置。

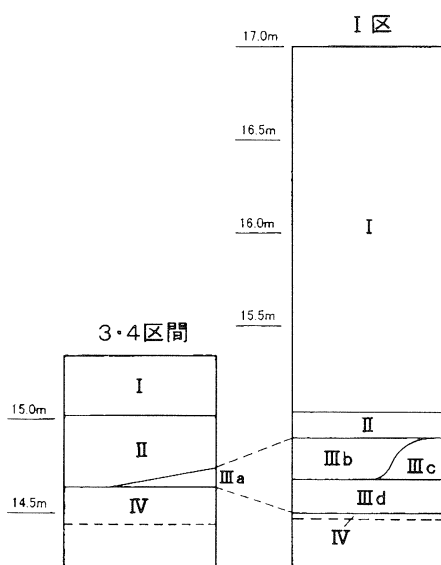
平成8年1月29日、国指定申請書を提出。3月23日国指定審議委員現地視察。

4月19日、国指定答申され、9月5日史跡「北条氏邸跡」として15,326.72㎡が指定告示される。

3. 土層

調査区の基本層序は次のとおりである。

- I層 盛土層で、北部では35cm前後、南部では1.9mほどみられる。
- II層 旧表土で、多くは畑の作土である。
- III層 中世遺物の包含層で、南部及び東部で厚く、北・西部では消滅してしまい、III層を除去すると中世遺構検出面となる。I区では土塁（IIIc 浅黄色系）と、それを覆うように分布するIIIb砂質層があり、その下部には造成による数枚の薄層からなるIII d層が堆積する。
- IV層 黄褐色系の中世基盤層で、北部では中世前期及び後期の遺構検出面となり、南部では中世前期の検出面となっている。IV層内には弥生時代後期から古代にかけての遺構・遺物を包含するが、中世遺構保存のため、調査していない。



第7図 基本土層図

Ⅲ. 遺構と遺物

1. 遺構

第13次調査は、4年度と5年度の2度にわたって調査が行われた。4年度は1区から5区に向けて谷奥の南側から北にかけて順次遺構を確認、調査を行った。翌年の5年度は、1区の拡張からはじまり、2・3区の柱穴の調査を行った。しかし、調査途中で、当遺跡の保存が検討されはじめたため、2・3区と4区の南側は、遺構の確認のみで掘り下げは行わずに保存した。

確認した遺構は、掘立柱建物跡12棟、塀跡と思われる柱穴列9基、低い土塁状の遺構1基、井戸4基、溝状遺構39基、土坑墓5基、土坑62基、集石遺構19基、その他柱穴等を含むピット多数である。

掘立柱建物跡12棟のうち、完掘したものは7棟である。他の5棟は柱穴の確認のみにとどまっている。柱穴列のうち3基は掘立柱建物跡を取り囲むように検出されており、塀跡と考えられる。5号柱穴列のみ確認にとどまっており、その他は調査を行っている。井戸は4基のうち2基を調査した。溝状遺構39基のうち、中世の遺構は19基で、その他は近世以降の溝である。土坑墓は5基検出され、いずれもかわらけなどの出土遺物がある。土坑は62基検出されているが、遺物が出土し時期を確定できたものは少ない。集石遺構は1区を中心に19基検出した。

(1) 掘立柱建物跡・柱穴列

掘立柱建物は12棟検出した。このうち完掘したのは第1号～第5号掘立柱建物跡、第11号・第12号掘立柱建物跡の7棟である。第6号掘立柱建物跡は一部の柱穴は確認のみの調査で、第7号～第10号掘立柱建物跡は柱穴プランの確認のみにとどまり、内部を調査していない。

第1号掘立柱建物跡 SH01 (第10・11図 図版1)

第1号掘立柱建物跡は調査区北部で検出した4×2間の総柱建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約51㎡である。南側に1.6mの底が設けられている。柱穴は南西隅を除き19基確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径40～60cmの比較的大きなものである。確認面からの深さは10～25cmと浅い。主軸方位は、N-86°-Wである。

南側に第1号柱穴列(SA01)が同方向で確認されており、当掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

出土遺物はピット14からかわらけの破片2点が出土したほか、わずかしか認められず、図示可能遺物はない。

第2号掘立柱建物跡 SH02 (第12・13図 図版1)

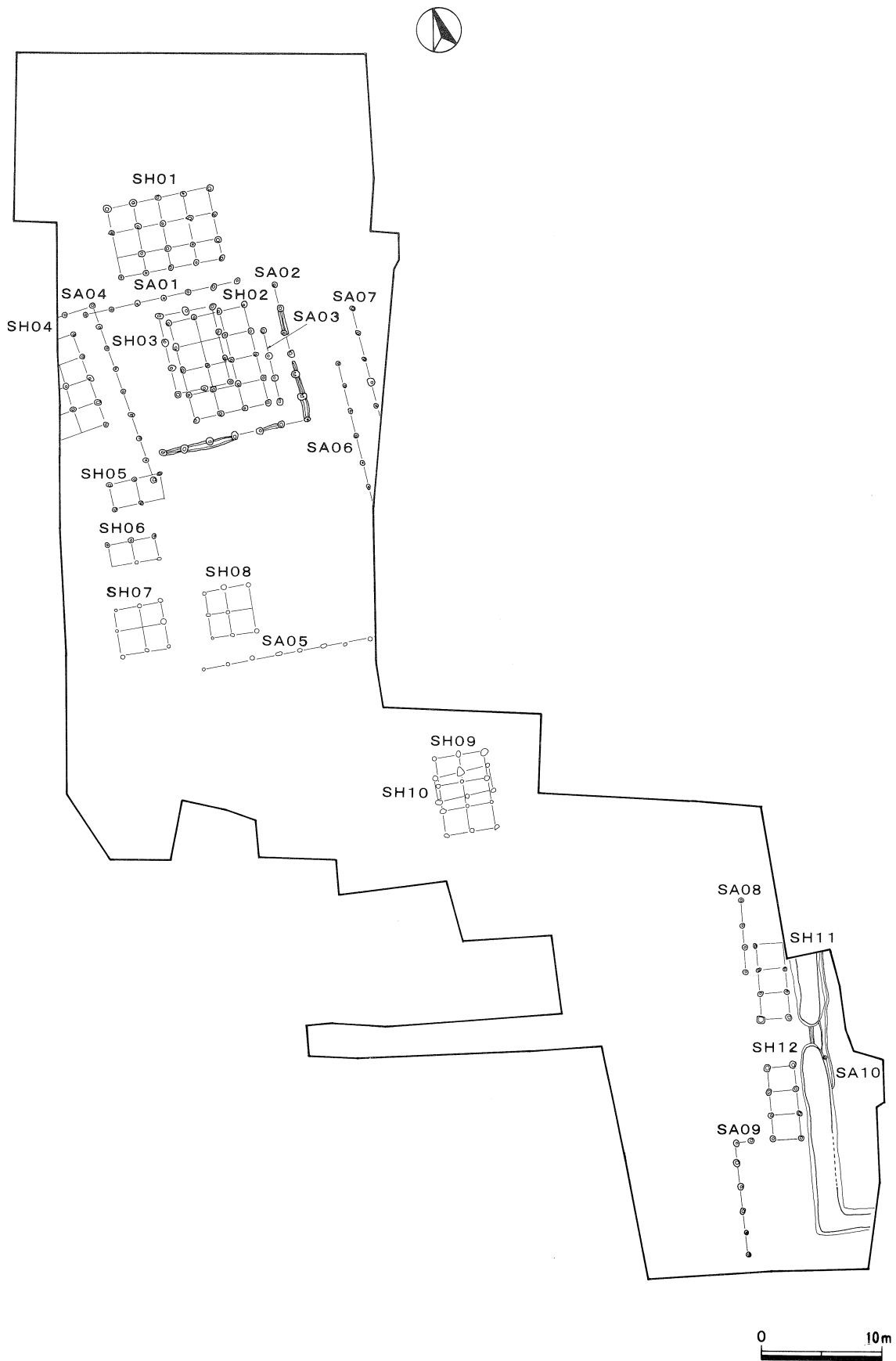
第2号掘立柱建物跡は調査区北部、第1号掘立柱建物跡の南側で検出した。第3号掘立柱建物跡と北西部で重複するが、新旧関係は不明である。3×4間の総柱建物で、柱間は2.1mを測る。面積は約56㎡である。柱穴は第1号井戸と重複している1基を除き19基確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径30～50cm、確認面からの深さは20～48cmである。主軸方位は、N-87°-Wである。

本遺構と第3号掘立柱建物跡を囲むように、東・南側に第2号柱穴列(SA02)が検出されている。また、東側に近接して第3号柱穴列(SA03)が同方向で確認されている。

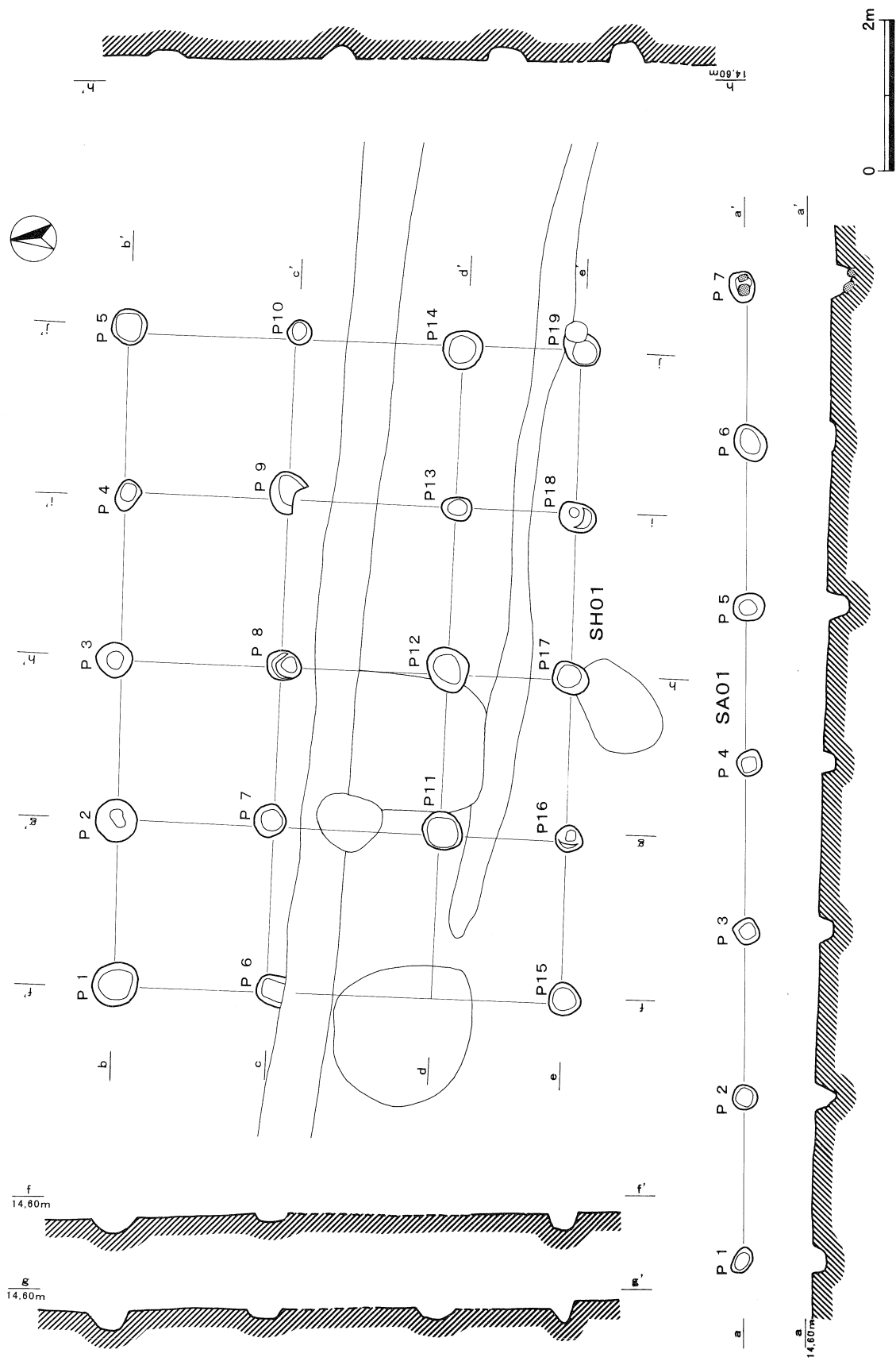
出土遺物はピット17から貿易陶磁白磁碗破片が、ピット2・4・5・10・12・13・16・18からかわらけの破片が、ピット3・7から鉄釘が出土している。図示可能なものはなかった。



第 8 図 遺構全体図



第9図 掘立柱建物跡・柱穴列配置図



第10图 第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(1)

第3号掘立柱建物跡 SH03 (第12・13図 図版1)

第3号掘立柱建物跡は第2号掘立柱建物跡の北西部で重複して検出された。新旧関係は不明である。2×3間の側柱建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約28.3㎡である。柱穴は10基確認され、北西隅のピット1は2基の重複が確認された。円形、楕円形、隅丸方形を呈し、径40~60cmの比較的大きなものである。確認面からの深さは25~50cmである。主軸方位は、N-87° 30'-Wである。

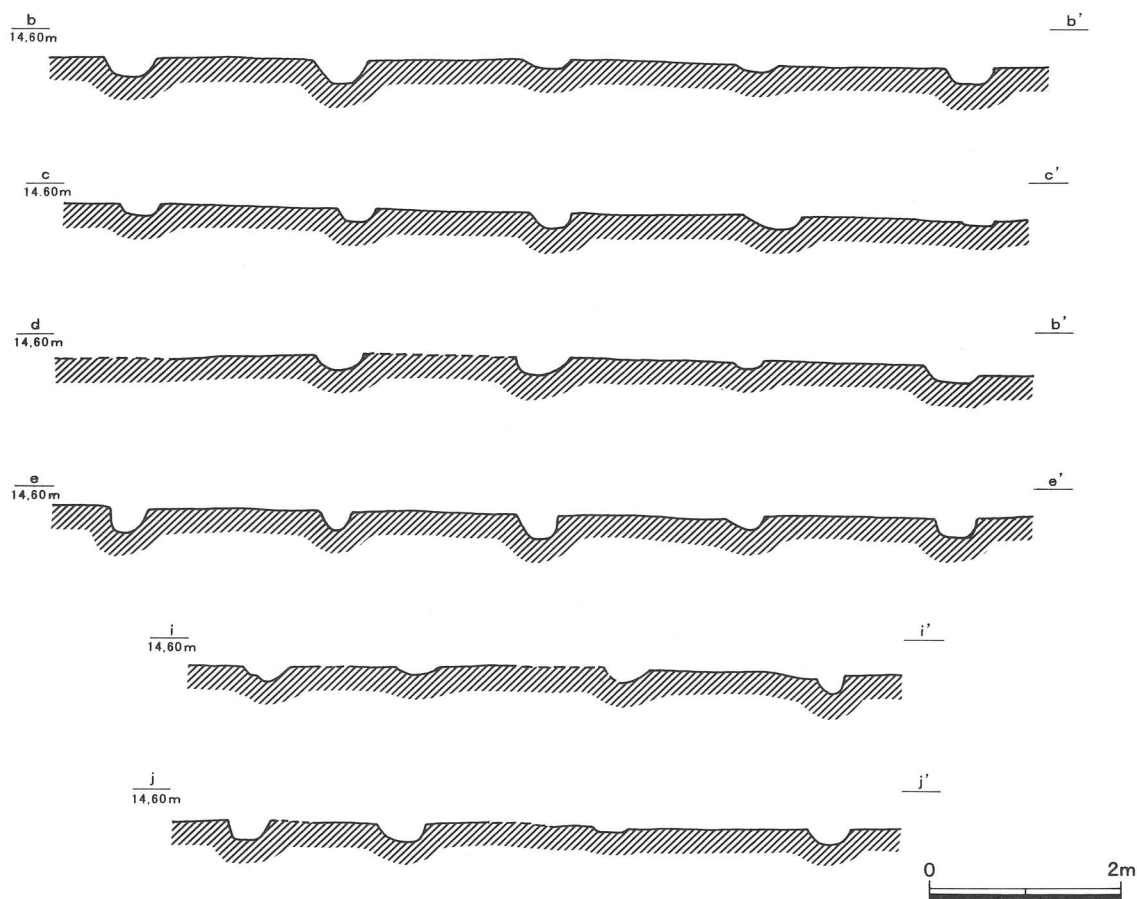
出土遺物はピット3から貿易陶磁白磁碗が、ピット2・3・4・6・8~10からかわらけが、ピット4から常滑甕・スラグが出土している。いずれも破片で、図示可能なものはなかった。

第4号掘立柱建物跡 SH04 (第14図 図版2)

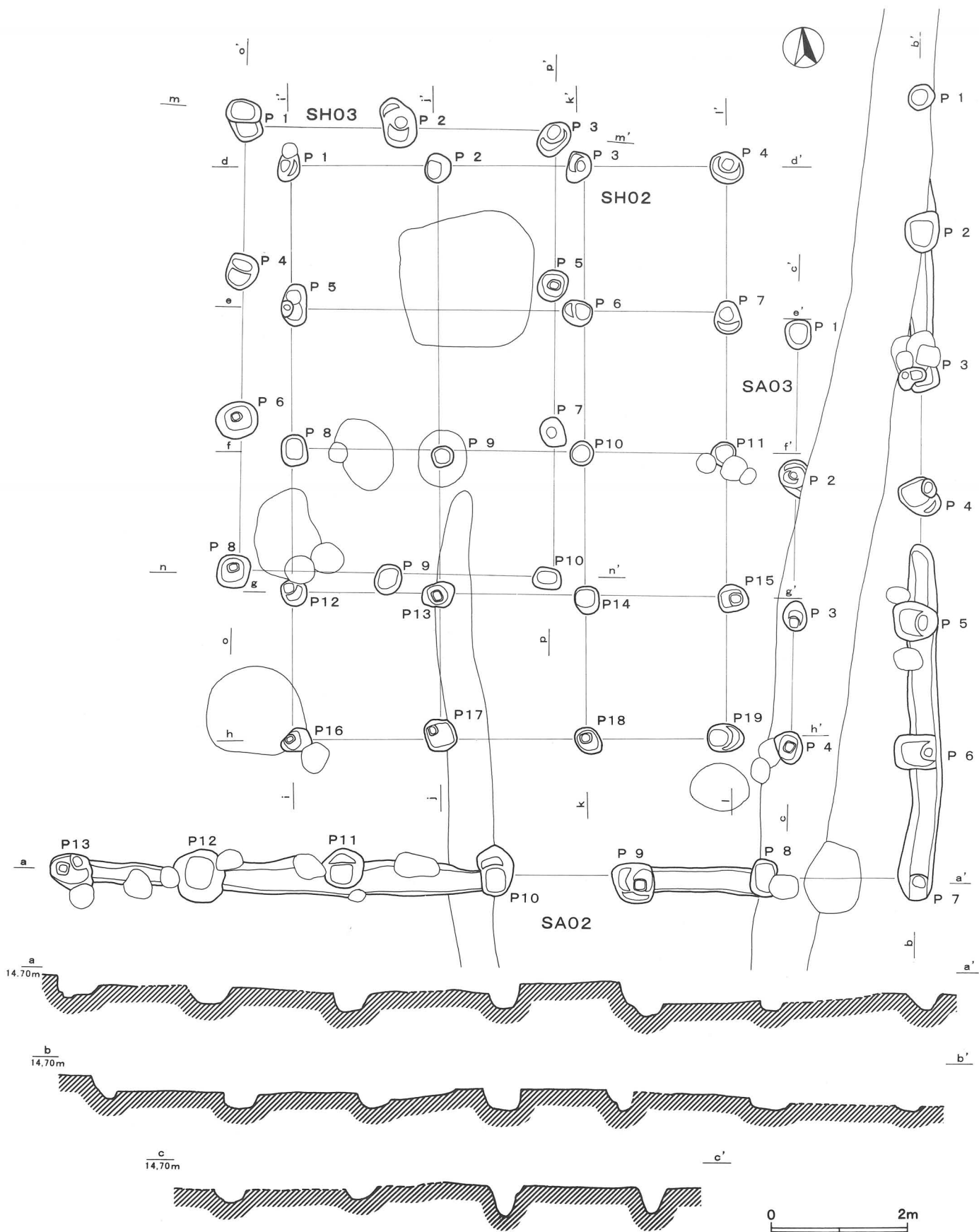
第4号掘立柱建物跡は調査区北西部で検出したもので、西側は調査区外にある。南北は4間、東西は2間以上の建物である。柱間は2.1mを測る。柱穴は7基確認された。楕円形またはやや不整な隅丸方形を呈し、径40~60cm、確認面からの深さは30~50cmである。主軸方位は、N-89° -Wで、第1~3号掘立柱建物跡とはやや異なる方向を示す。

北・東側に第4号柱穴列(SA04)が同方向で確認されており、本遺構に付随するものと思われる。

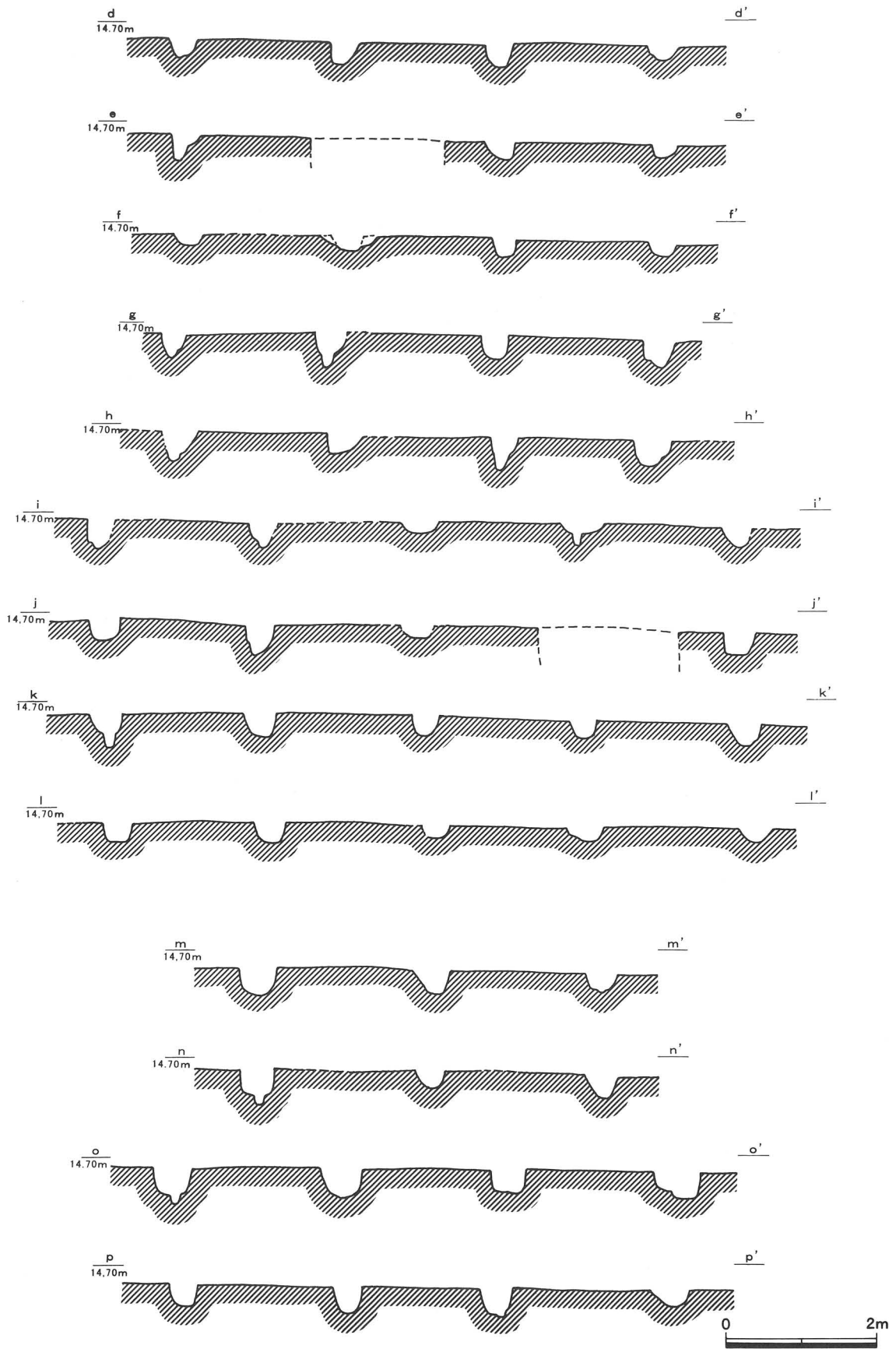
出土遺物はピット6を除くすべてのピットからかわらけの破片が出土したが、いずれも小片で図示はできなかった。また、ピット2から貿易陶磁白磁皿Ⅸ類が出土している。



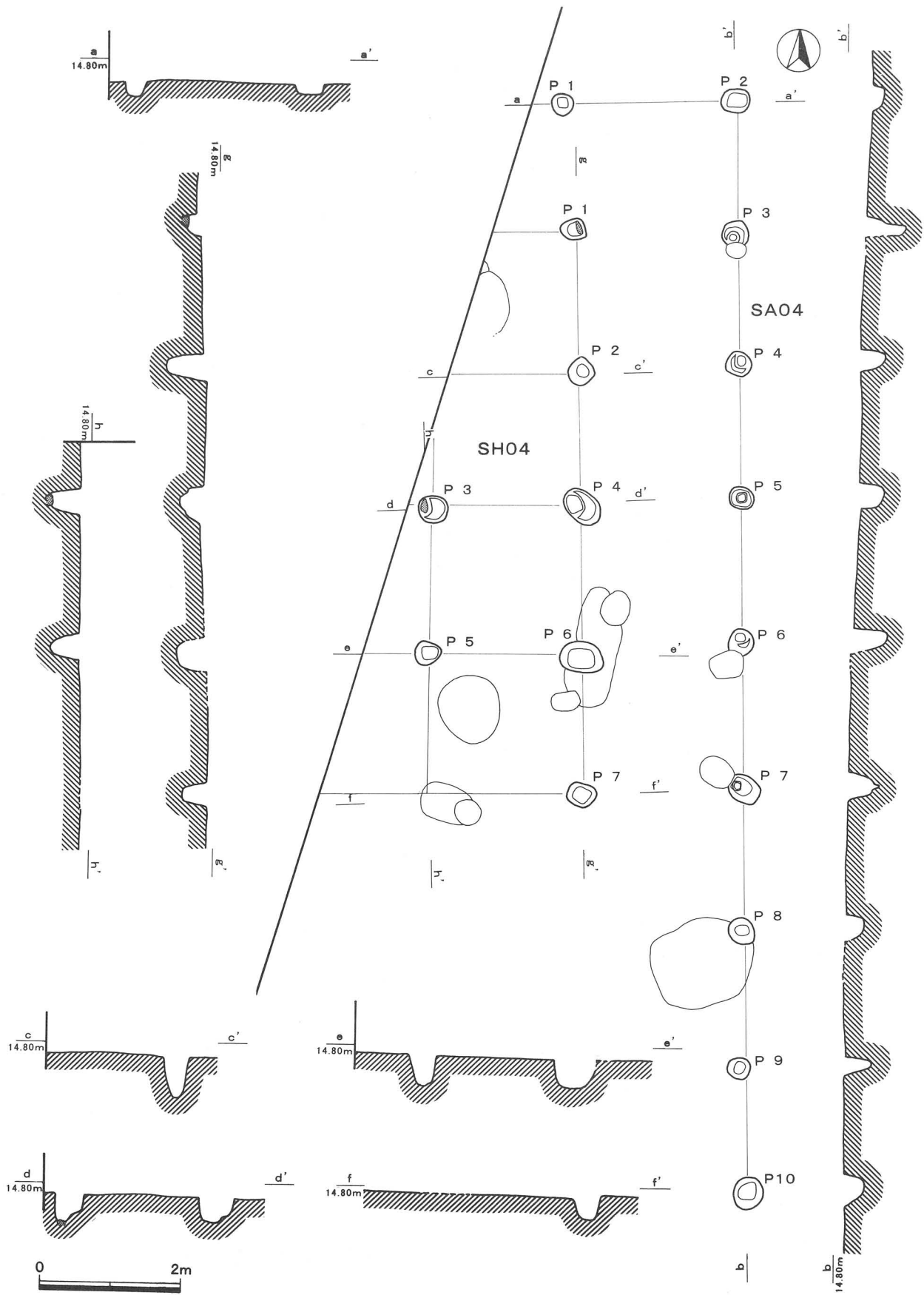
第11図 第1号掘立柱建物跡・第1号柱穴列(2)



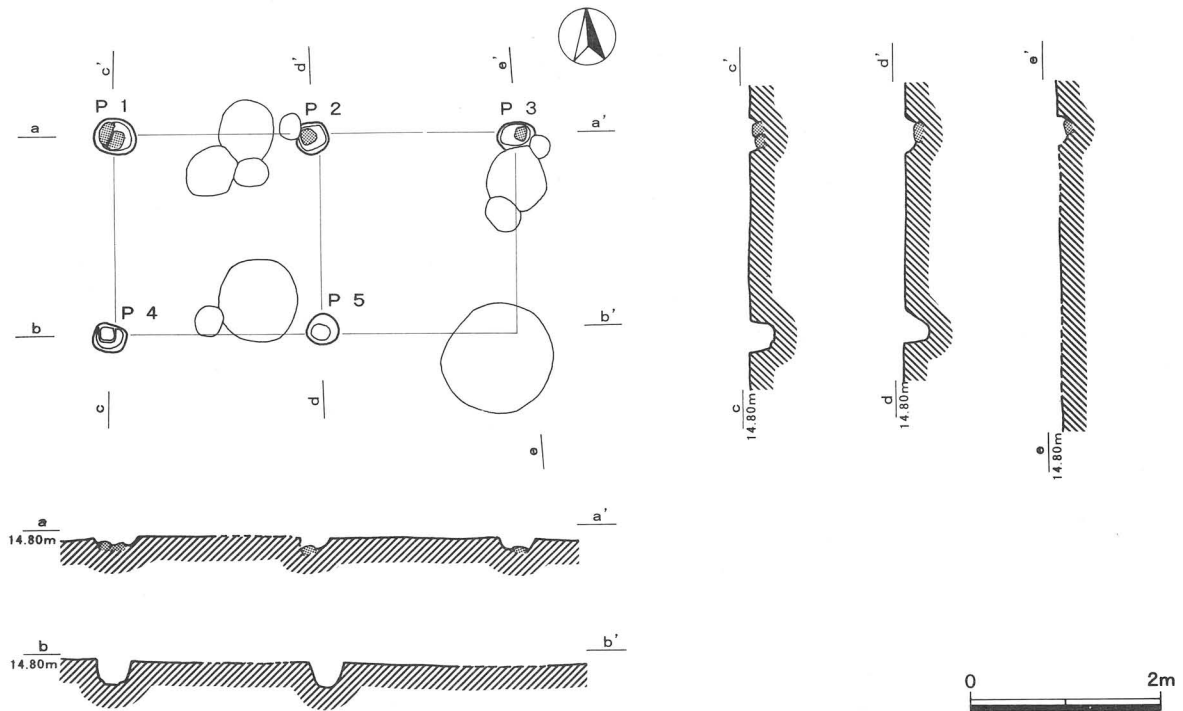
第12图 第2·3号掘立柱建物跡・第2·3号柱穴列(1)



第13图 第2·3号掘立柱建物跡・第2·3号柱穴列(2)



第14图 第4号掘立柱建物跡・第4号柱穴列



第15図 第5号掘立柱建物跡

第5号掘立柱建物跡 SH05 (第15図)

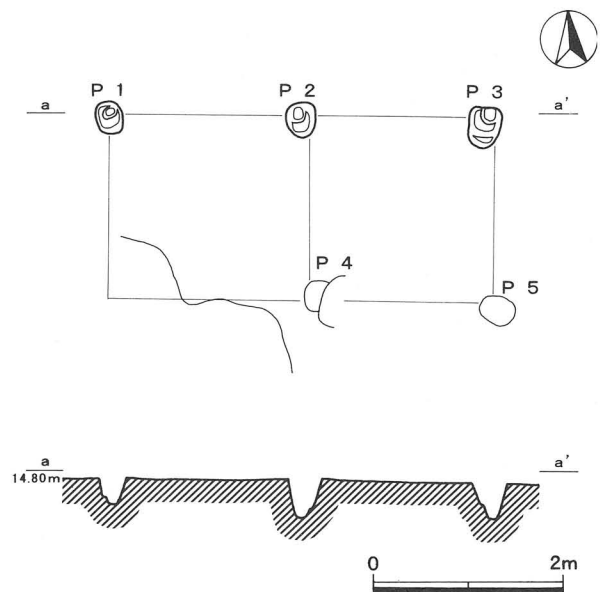
第5号掘立柱建物跡は第4号掘立柱建物跡の南で検出したもので、2×1間の建物である。柱間は2.1mを測り、面積は約9.5㎡である。柱穴は土坑と重複した南東隅を除き5基確認された。円形または隅丸方形を呈し、径は30～45cmである。確認面からの深さは10～27cmと比較的浅い。主軸方位は、N-82° 30'-Wである。

出土遺物はすべてのピットからかわらけの破片が出土したが、いずれも小破片で図示可能遺物はない。

第6号掘立柱建物跡 SH06 (第16図)

第6号掘立柱建物跡は第5号掘立柱建物跡の南に位置する建物で、同じく2×1間である。柱間は2.1mを測り、面積は約8.0㎡と推定される。柱穴は南西隅が攪乱によって確認できなかったが、5基を検出した。そのうち、ピット1～3のみ掘り下げを行い、ピット4・5は確認のみにとどまっている。楕円形・隅丸方形を呈し、径35～40cmを測る。確認面からの深さは30～40cmである。主軸方位は、N-84° 30'-Wである。

出土遺物はピット2からかわらけの破片、ピット3からかわらけと瓦が出土した。瓦のみ図示可能であった。



第16図 第6号掘立柱建物跡

第7号掘立柱建物跡 SH07

第7号掘立柱建物跡は調査区ほぼ中央、第6号

掘立柱建物跡の南で検出したもので、2×2間の建物である。柱間は2.0mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～50cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、N-83° 30' -Wである。

第8号掘立柱建物跡 SH08

第8号掘立柱建物跡は調査区ほぼ中央、第7号掘立柱建物跡と並列して検出された。同じく2×2間の建物である。柱間は2.0mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～50cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、N-83° 30' -Wである。

第9号掘立柱建物跡 SH09

第9号掘立柱建物跡は調査区中央やや南、2区で検出された。第10号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。2×3間の総柱建物である。柱間は2.1mを測る。柱穴は12基確認したが、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～40cmで、円形または隅丸方形と思われる。主軸方位は、N-80° -Wである。

第10号掘立柱建物跡 SH10

第10号掘立柱建物跡は、第9号掘立柱建物跡と重複して出された。1×2間の建物で、柱間は2.1mを測る。柱穴は確認のみで、内部の調査は行っていない。検出段階での柱穴の規模は、径30～40cmで、円形または楕円形を呈すると思われる。主軸方位は、N-88° -Wである。

第11号掘立柱建物跡 SH11 (第17図)

第11号掘立柱建物跡は、調査区の南部、1区で検出した。第12号掘立柱建物跡と南北に並列し、東側に塀跡と思われるSA10、西側に第8号柱穴列があり、いずれも同方向を示している。3×1間の建物で、柱間は2.0mを測る。面積は約13.2㎡である。柱穴は調査区外にある1基を除き、7基確認された。楕円形または隅丸方形を呈し、径20～40cm、確認面からの深さは10～20cmである。主軸方位は、N-15° -Eである。

出土遺物はピット6から瓦破片が出土したのみで、図示可能なものはなかった。

第12号掘立柱建物跡 SH12 (第18図)

第12号掘立柱建物跡は、調査区の南部、1区で検出した。第11号掘立柱建物跡と南北に並列し、東側に塀跡と思われるSA10、南西に第9号柱穴列があり、いずれも同方向を示している。3×1間の建物で、柱間は2.0mを測る。面積は約12.5㎡である。柱穴は8基確認された。楕円形または不整形な隅丸方形を呈し、径30～50cm、確認面からの深さは10～25cmである。主軸方位は、N-12° -Eである。

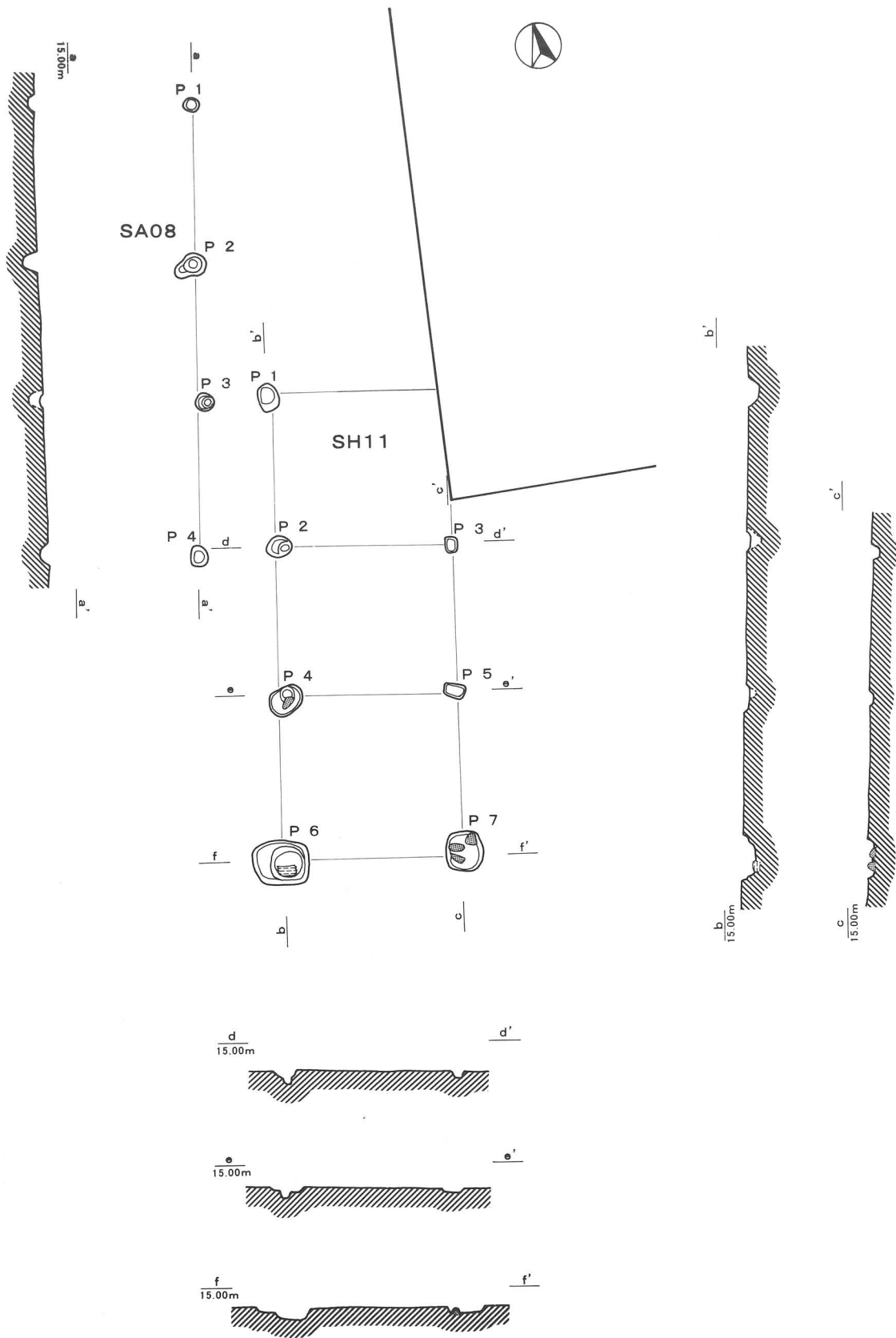
出土遺物はピット1～4からかわらけ破片が、ピット3から常滑甕が出土しているが、図示可能なものはなかった。

第1号柱穴列 SA01 (第10・11図 図版1)

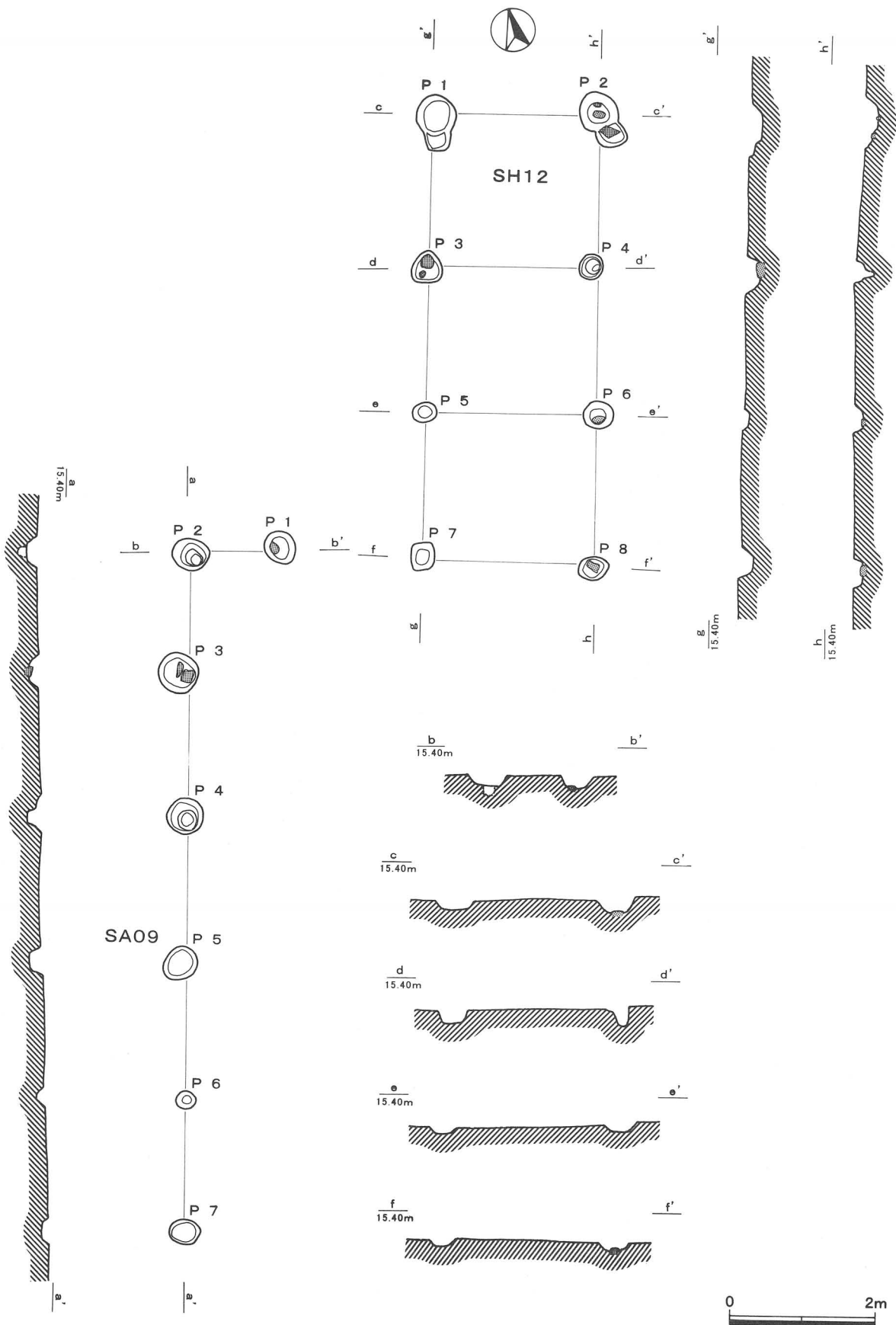
第1号柱穴列は調査区北部で検出したもので、北側に第1号掘立柱建物跡があり同方向を示す。同掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

確認した柱穴は7基で、長さは13.2mを測る。柱間2.1mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径30～40cmで、深さは10～30cmである。主軸方位はN-86° -Eである。

出土遺物はピット1・3～5でかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。



第17图 第11号掘立柱建物跡・第8号柱穴列



第18图 第12号掘立柱建物跡・第9号柱穴列

第2号柱穴列 SA02 (第12・13図 図版1)

第2号柱穴列は調査区北部で検出したもので、第2・3号掘立柱建物跡を囲むように逆L字形を呈している。両掘立柱建物跡あるいはいずれかに付随するものと思われる。

確認した柱穴は13基と溝状遺構4基で構成され、一部布堀を伴う塀跡と考えられる。検出された長さは南北12.0mで6間、東西12.92mで6間である。柱間は2.0～2.1mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径40～60cmで、深さは20～50cmを測る。主軸方位はN-87°-Wである。布堀の溝は4基で、南北に2基、東西に2基検出されている。断面U字状を呈す。

出土遺物はピット3を除くすべての柱穴・溝からかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示はできなかった。また、ピット11から貿易陶磁褐釉壺、ピット13から青磁劃花文碗、溝から白磁碗・青磁同安窯系碗が出土している。また東遠江系の山茶碗が出土しているが、小破片のため詳細は不明である。溝からは軽石製凹石が2点出土しており、第53図に図示した。

第3号柱穴列 SA03 (第12・13図 図版1)

第3号柱穴列は第2・3号掘立柱建物跡と第2号柱穴列の間で検出した。確認した柱穴は4基で、長さは6.6mを測る。柱間は2.1mである。柱穴は楕円形を呈し、径45～55cmで、深さは25～50cmである。主軸方位はN-3°30'-Eである。

出土遺物はピット2～4でかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第4号柱穴列 SA04 (第14図 図版2)

第4号柱穴列は調査区北西部で検出したもので、第4号掘立柱建物跡を囲むように、北・東に逆L字形に展開している。同掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

西側は調査区外にあるため、現状で確認した柱穴は10基である。南北は9基の柱穴で構成され8間、長さは15.5mである。東西では2基の柱穴が確認され、2間以上と思われる。残存長2.8mである。柱間は1.9～2.1mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径30～40cmで、深さは15～50cmである。主軸方位はN-3°30'-Eである。

出土遺物はすべての柱穴からかわらけ破片が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第5号柱穴列 SA05

第5号柱穴列は調査区ほぼ中央で検出したもので、東西方向に配置されている。第8号掘立柱建物跡の南に位置するが、主軸方位が若干異なっている。

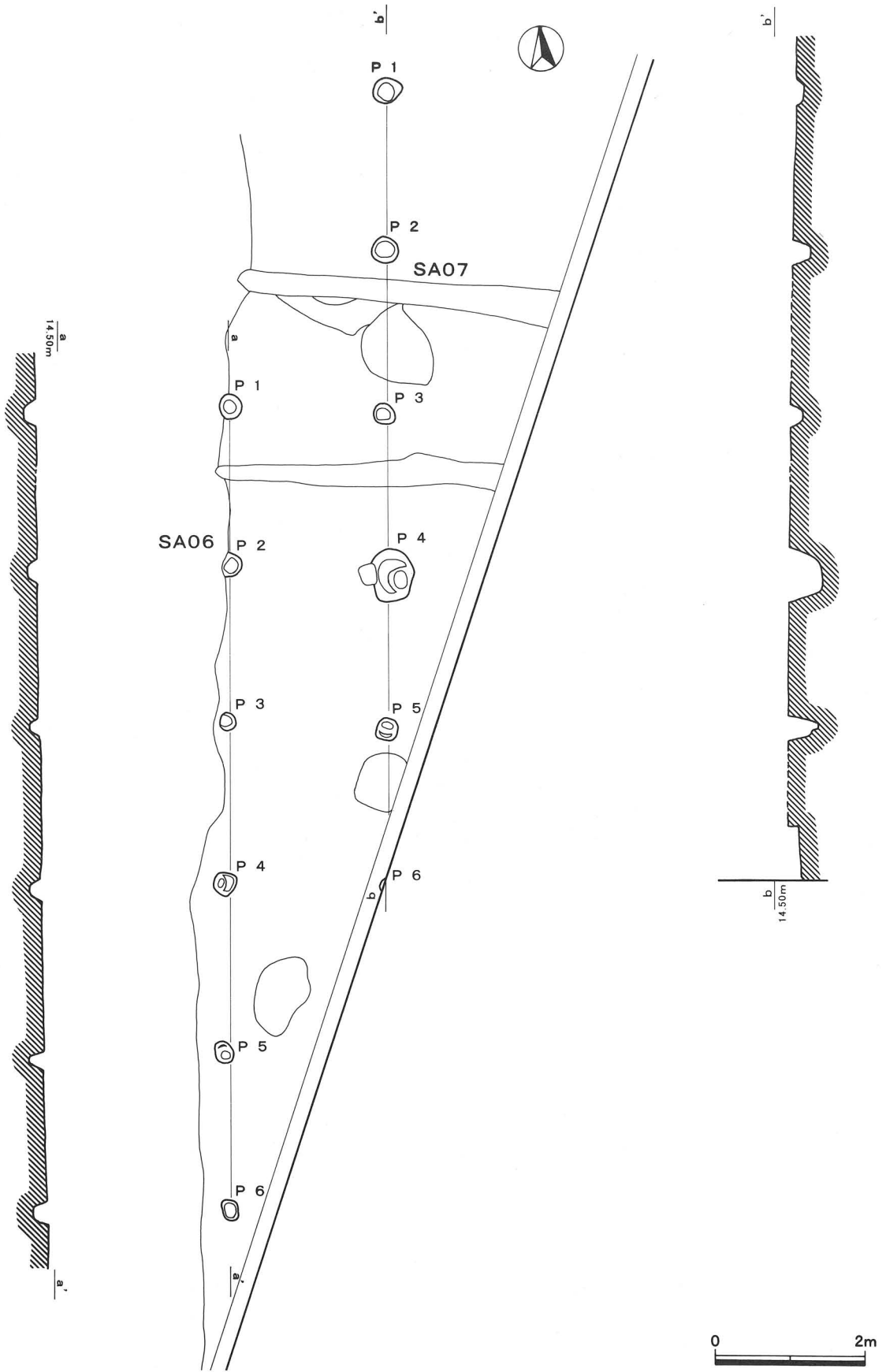
柱穴の確認のみを行い、内部の調査は行っていない。また、東側は調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認した柱穴は8基で、長さは14.2mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20～50cm、柱間は2.1mである。主軸方位はN-85°-Wを示す。

第6号柱穴列 SA06 (第19図)

第6号柱穴列は調査区北部の東端で検出したもので、南北に配置された柱穴列である。東側の第7号柱穴列とほぼ並列する。南側は調査区外にあるため、全体規模は不明である。

確認した柱穴は6基で、残存長は11.1mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20～35cmで、深さは10～30cmである。主軸方位はN-4°-Eである。

いずれの柱穴からも出土遺物は認められなかった。



第19図 第6・7号柱穴列

第7号柱穴列 SA07 (第19図)

第6号柱穴列は調査区北部の東端で検出したもので、南北に配置された柱穴列である。西側の第6号柱穴列とほぼ並列する。南側は調査区外にあるため、全体規模は不明である。

確認した柱穴は6基で、残存長は11.0mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~35cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-3°-Eである。

出土遺物はピット2・4・5からかわらけ破片が出土しているが、小破片のため図示できなかった。

第8号柱穴列 SA08 (第17図)

第1号柱穴列は調査区南部で検出したもので、南東側に第11号掘立柱建物跡があり同方向を示す。

確認した柱穴は4基で、長さは6.0mを測る。柱間は2.0mである。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~30cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-14°30'-Eである。

いずれの柱穴からも出土遺物は認められなかった。

第9号柱穴列 SA09 (第18図)

第1号柱穴列は調査区北南で検出したもので、北東側に第12号掘立柱建物跡があり同方向を示す。

確認した柱穴は7基で、北端はL字に屈曲する。南北長は9.6mで、柱間は1.8~2.0mを測る。柱穴は円形または楕円形を呈し、径20~30cmで、深さは10~20cmである。主軸方位はN-14°30'-Eである。

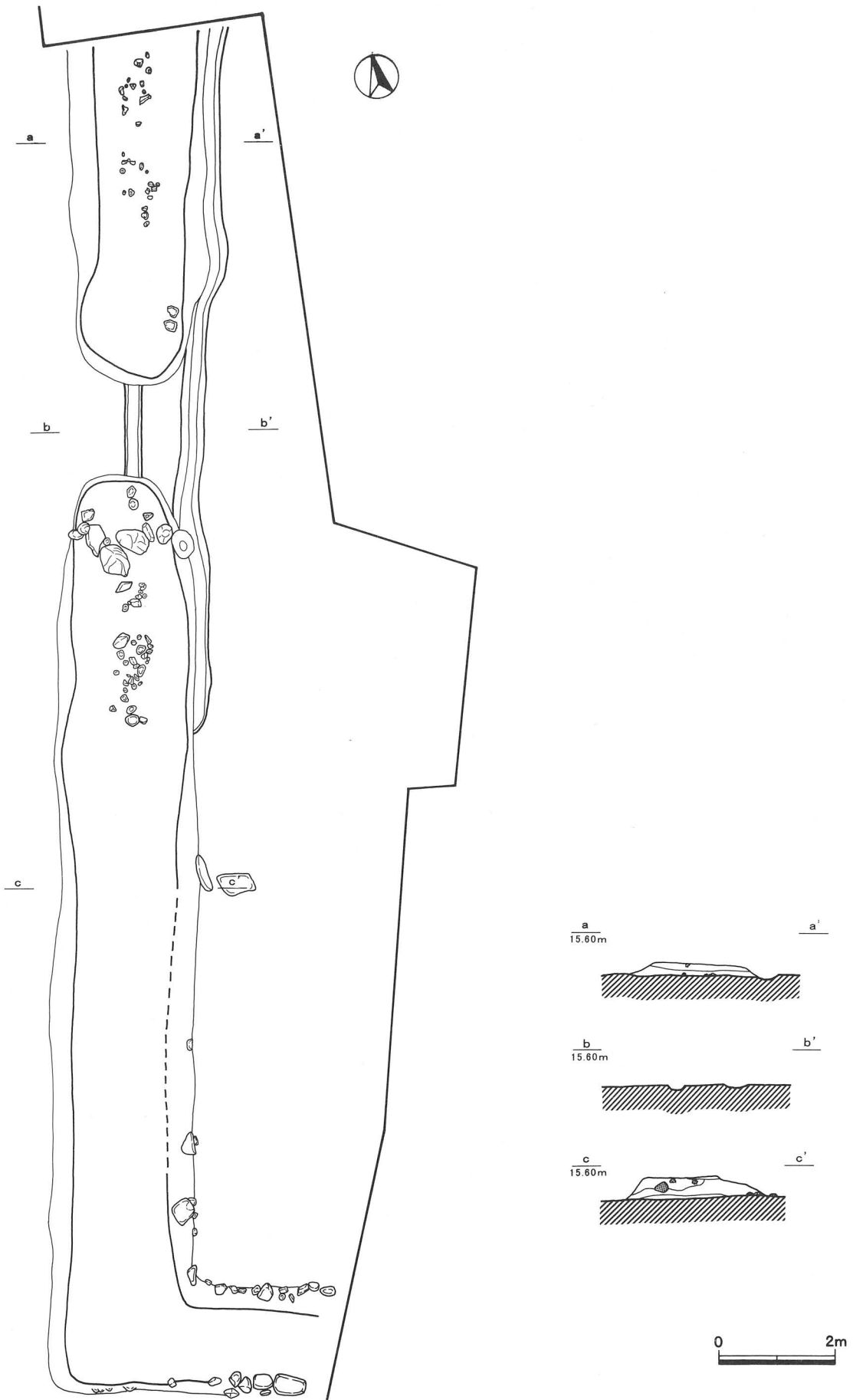
出土遺物はピット1~3・5・7でかわらけ破片、ピット6で瓦質製品、ピット7で常滑甕が出土しているが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。

第10号遺構 SA10 (第20図)

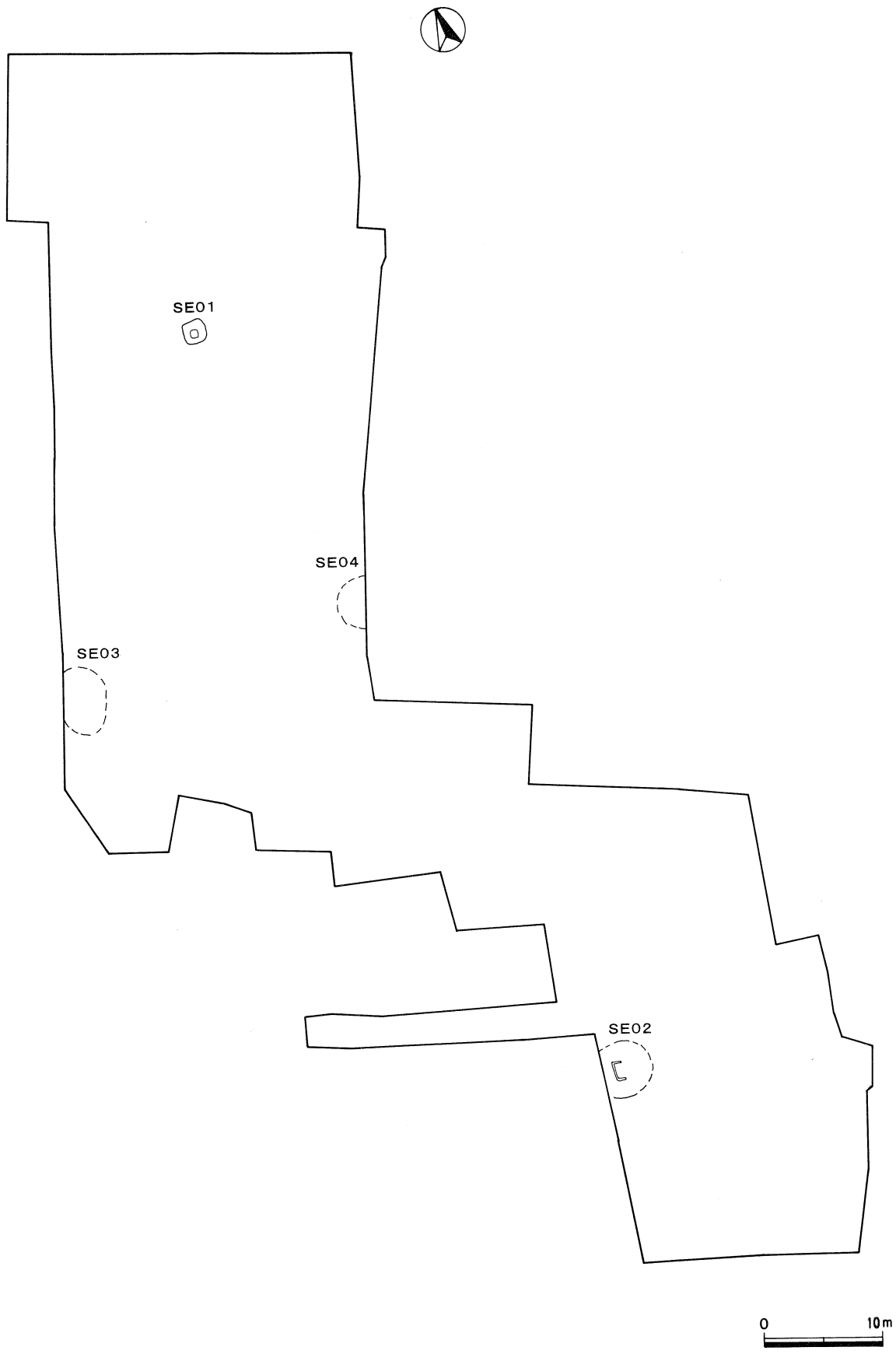
第10号遺構は調査区南東部で検出したもので、北・東側には調査区外にある。西側に第11・12号掘立柱建物跡、第8・9号柱穴列があり、ほぼ同方向を示す。

高さ20~30cmの低い土塁状の高まりが廻る遺構で、現状で確認できる規模は、南北23.5m、東西5.0mである。幅は1.9~2.7mを測り、南部で西側に屈曲している。南北方向のやや北寄りに切れ目があり、また、一部下層では2条の溝状遺構も確認された。主軸方位はN-10°-Eを示す。

出土遺物はかわらけ、貿易陶磁青磁碗、常滑甕、鉄釘などがあるが、いずれも小破片のため図示可能遺物はない。



第20図 第10号遺構（築地堀基礎）



第21図 井戸配置図

(2) 井戸

井戸は4基を検出したが、第1・2号井戸の2基のみ調査を行いし、他は確認のみにとどまった。

第1号井戸 SE01 (第22図 図版3)

第1号井戸は調査区北部で検出したもので、第2・3号掘立柱建物跡と重複しており、覆土の観察から本遺構が古いと認識した。

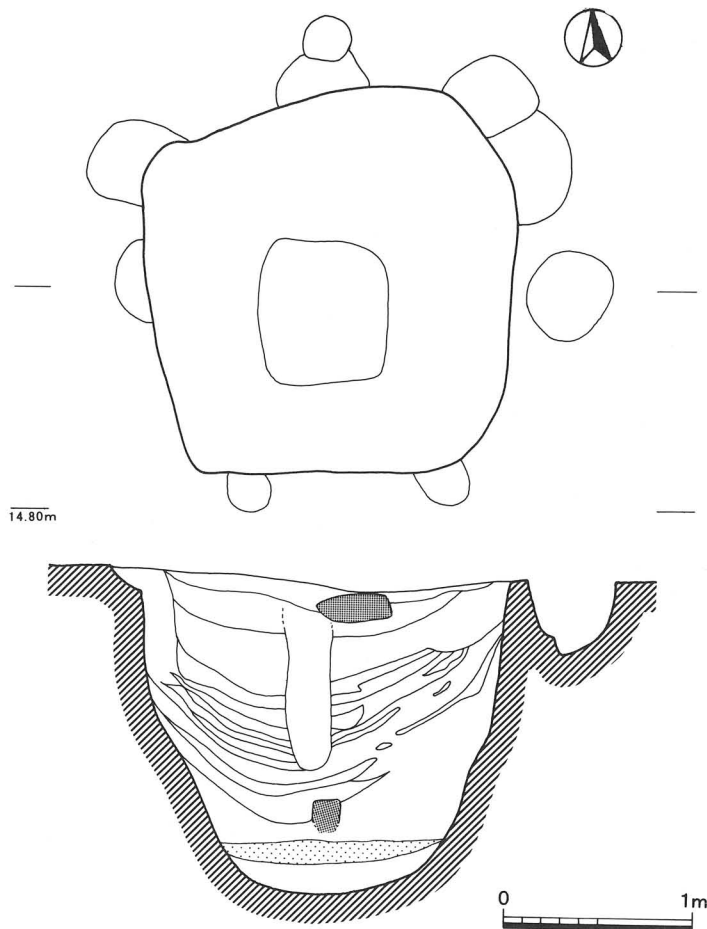
規模は上部が2.0×1.9m、底部が0.75×0.69mの隅丸方形を呈し、深さ1.7mの素掘りの井戸である。下部に砂層が堆積しており、また上部には周囲から流れ込んだ砂利層が認められた。

出土遺物は、貿易陶磁の白磁・青磁、東遠江系山茶碗、かわらけなどがある。かわらけの中には、古代末の様相を呈するものもあり、また古代末の灰釉陶器も出土している。

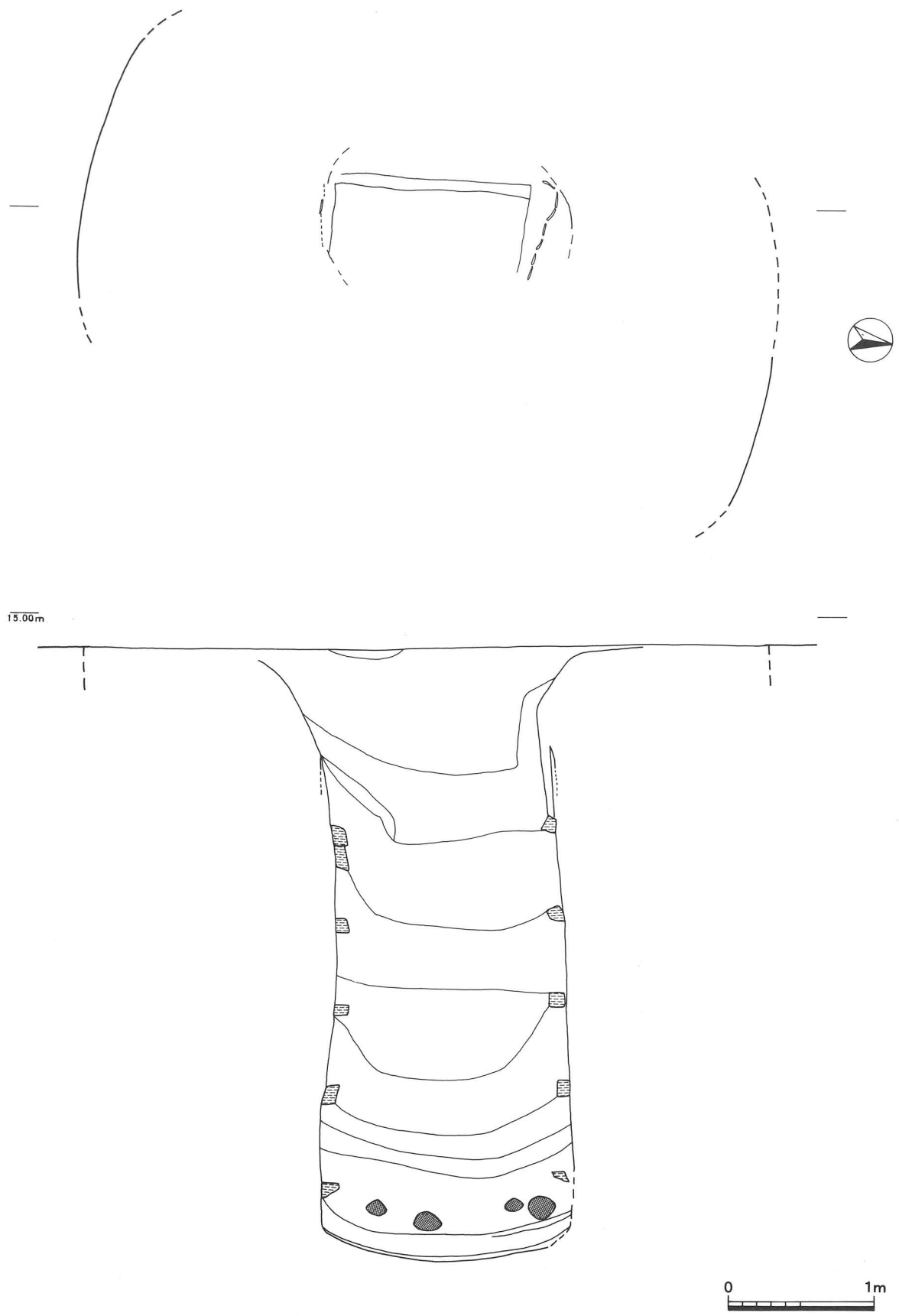
第2号井戸 SE02 (第23図)

第2号井戸は調査区南部の1区で検出した。調査途中で崩落したため、規模の詳細は明らかではなく、また掘り方もプランのみの確認である。木枠井戸で、木枠の規模は1辺1.5mの方形で、深さは4.2mまで調査を行った。掘り方は径4.9mほどの円形とみられる。

出土遺物は貿易陶磁白磁・青磁、常滑甕、東遠江系山茶碗、かわらけ等で、かわらけはロクロ成形のもと手づくね成形のものなどが大量に認められた。他に木製箸や種子、獣骨等が出土した。



第22図 第1号井戸



第23図 第2号井戸

第3号井戸 SE03

第3号井戸は調査区中央西寄りの3区で検出したもので、規模や覆土のようすから井戸と判断したが、検出面でのプランの確認のみで、調査は行っていない。5.0×4.0mの楕円形を呈すと思われるが、井戸の種類は不明である。

第4号井戸 SE04

第4号井戸も、プランの確認のみにとどまっている。調査区中央東寄りの4区で検出したもので、規模や覆土のようすから井戸と判断した。径5.0mの円形プランのみ確認した。

(3) 溝状遺構

溝状遺構は39基検出した。このうち、第1～19号が中世の溝であり、第20～39号は近世以降のものである。

中世の溝状遺構

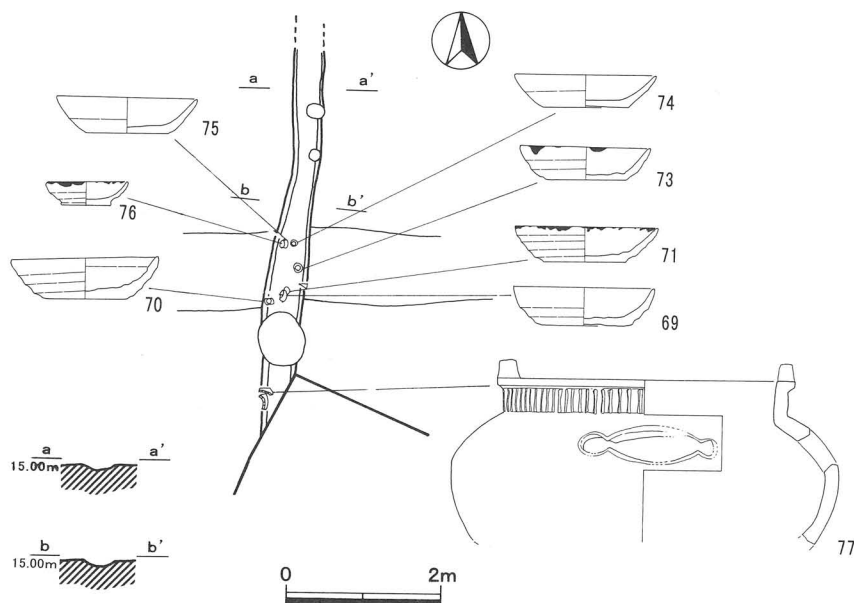
第1号溝状遺構 SD01 (第26図)

第1号溝状遺構は調査区ほぼ中央2区から3区にかけて検出した。東西に走る溝で、西部ではやや屈曲する。東端は第1号集石と重複したため、未調査である。検出長は36.6mで、幅0.6～1.2m、深さは29～45cmであった。断面はU字形を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に35cm下がっている。第2号溝状遺構・第11号溝状遺構と重複しており、第2号溝状遺構よりも本遺構が古く、第11号溝状遺構との新旧関係は不明である。

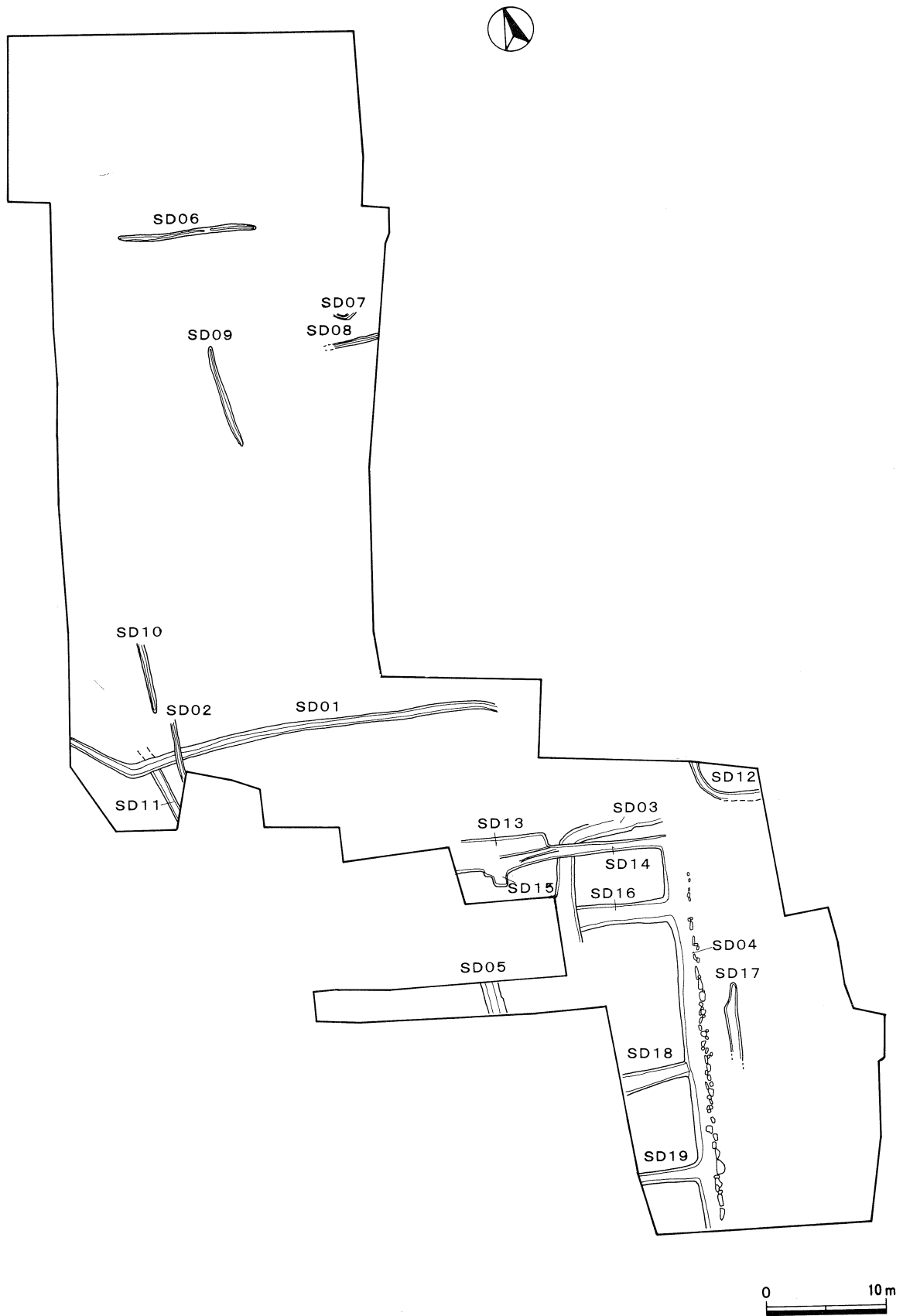
出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・山茶碗・砥石・銭貨などである。かわらけは、4ヶ所で集中する箇所が認められた。

第2号溝状遺構 SD02 (第24図)

第2号溝状遺構は調査区中央やや西寄りの3区検出した南北溝である。第1号溝状遺構と重複しており、本遺構が新しい。また、北部は未調査である。検出長は4.6mで、幅0.5m、深さは10cmと浅く、断面形は皿状を呈す。やや屈曲気味であるが、主軸方位は、N-4°-30'-Eである。溝底は検出範囲内



第24図 第2号溝状遺構



第25図 中世溝状遺構配置図

で、北側に19cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・常滑・瓦質風炉などがある。

第3号溝状遺構 SD03 (第27図 図版3)

第3号溝状遺構は調査区南部の1区で検出した。L字に屈曲する溝で、北部は攪乱のため確認できなかった。第14号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。検出長は16.5mで、幅1.45m、深さは40～70cmであった。断面はU字形を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に14cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・常滑・などである。

第4号溝状遺構 SD04 (第28・29図 図版4・5)

第4号溝状遺構は調査区南部1区で検出した南北溝で、北部は集石群と重複したため、未調査である。第16・18・192号溝状遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。東側のみは大小の礫によって石積状に構築されていた。検出長は31.6mで、最大幅2.0m、深さは40～70cmで、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-13°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に57cm下がっている。出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石・銭貨・スラグなどが出土している。とくにかわらけは実測個体で243点、総破片数で6,000点以上の数量が出土している。また、瓦質製品も種類・量ともに豊富で、火鉢・風炉・香炉などがあり、総破片数は65点を数える。

第5号溝状遺構 SD05 (第30図 図版5)

第5号溝状遺構は調査区南部、1区から西に延長したトレンチで検出された。南北に走る溝で、検出長は2.3mで、幅1.5m、深さは28cmであった。断面はU字形を呈し、主軸方位は、N-5°-Eである。

出土遺物は、検出範囲が限られているため少ないが、かわらけ・瀬戸美濃・釘などが出土している。

第6号溝状遺構 SD06 (第30図)

第6号溝状遺構は調査区北部の4区で検出した。東西にほぼ直線的に走る溝で、掘込みが浅いため東西端は検出できなかった。検出長は11.25mで、最大幅は0.5m、深さは7cm程度であった。断面は皿形を呈する。主軸方位は、N-76°-Wを指す。溝底は検出範囲内で、東側に11cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

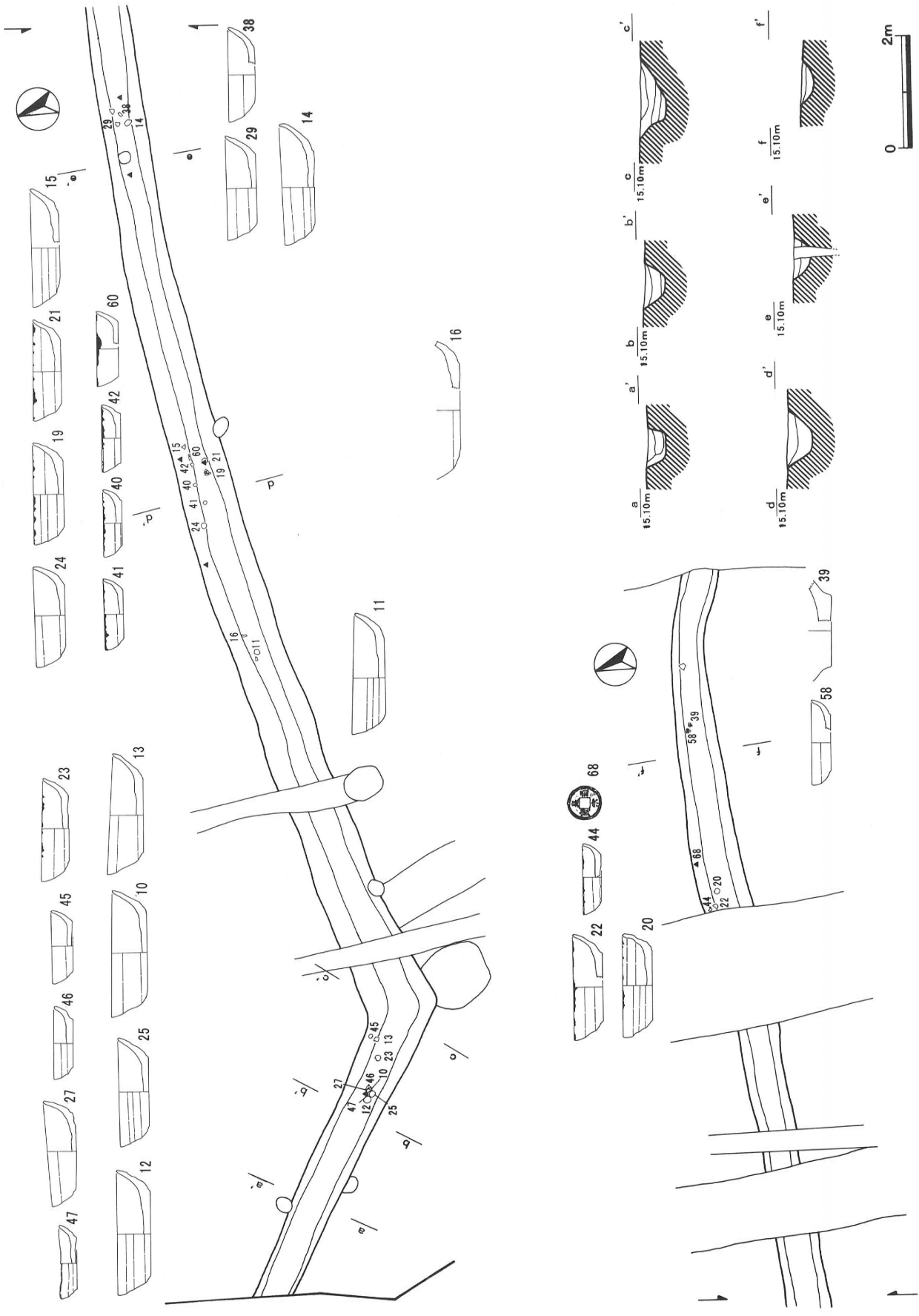
第7号溝状遺構 SD07 (第30図)

第7号溝状遺構は調査区北部4区で検出した。近世の第28号溝状遺構と重複しているため、一部を検出したにすぎない。やや屈曲気味の溝である。検出長は1.5mで、幅0.35m、深さは20cm、断面はU字形を呈する。

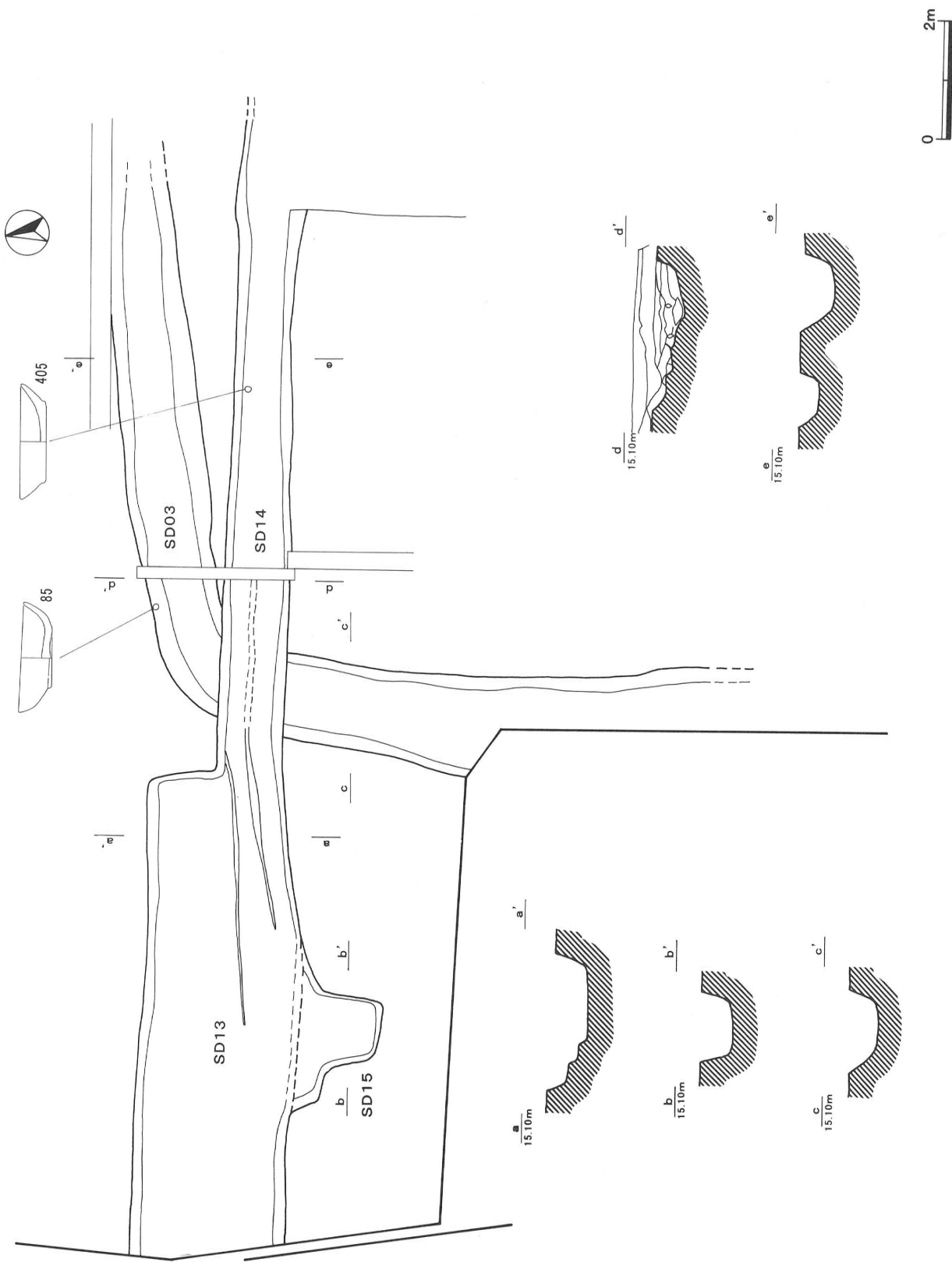
出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・釘などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第8号溝状遺構 SD08 (第30図)

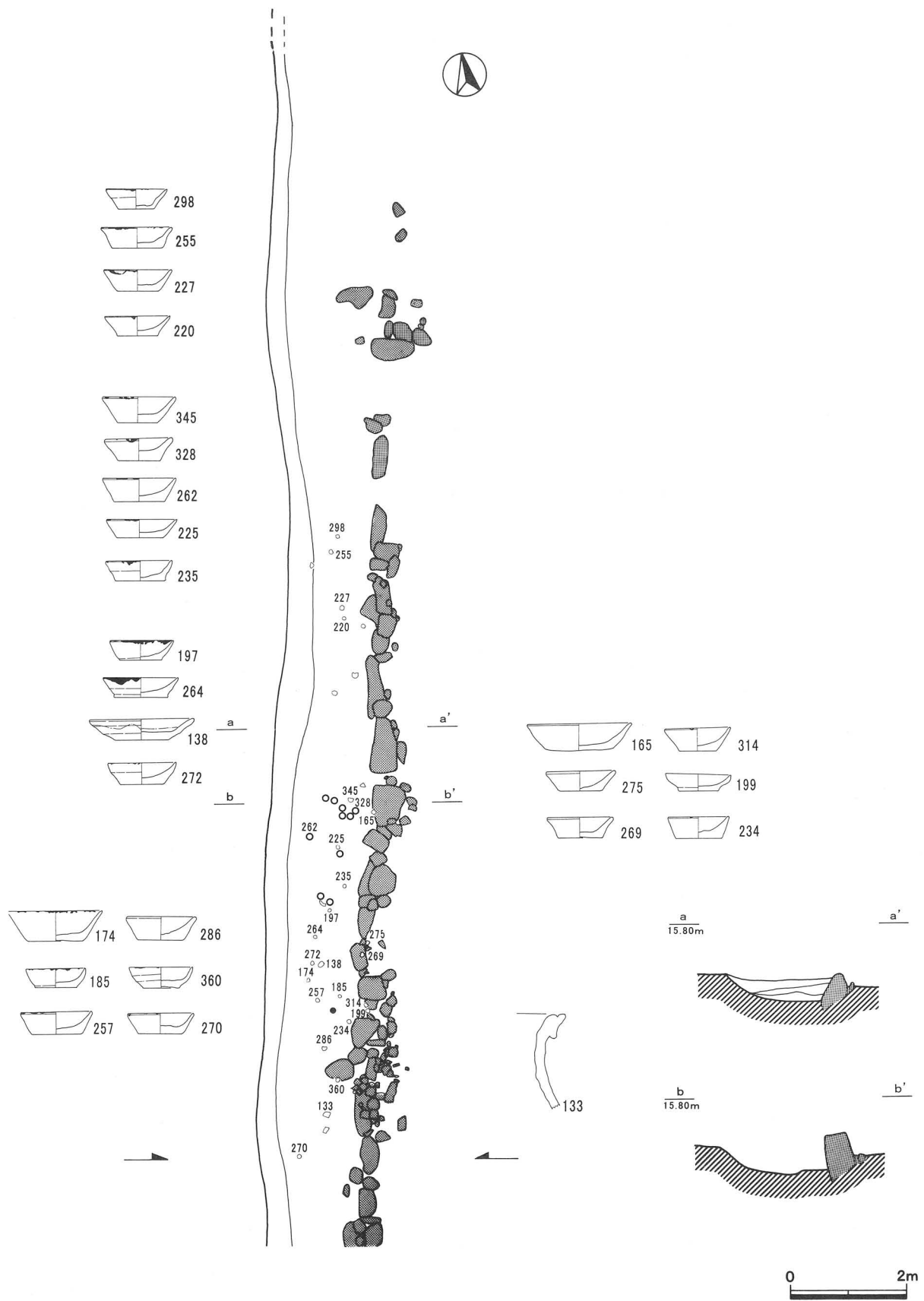
第8号溝状遺構は調査区北部4区で検出した。西側は近世の第21号溝状遺構と重複し、東は調査区外にあるため、一部を検出したにすぎない。検出長は3.75mで、幅0.20～0.45m、深さは10cmと浅く断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-83°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。出土遺物はなかった。



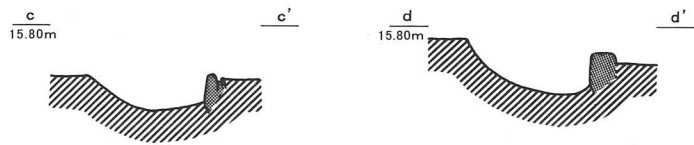
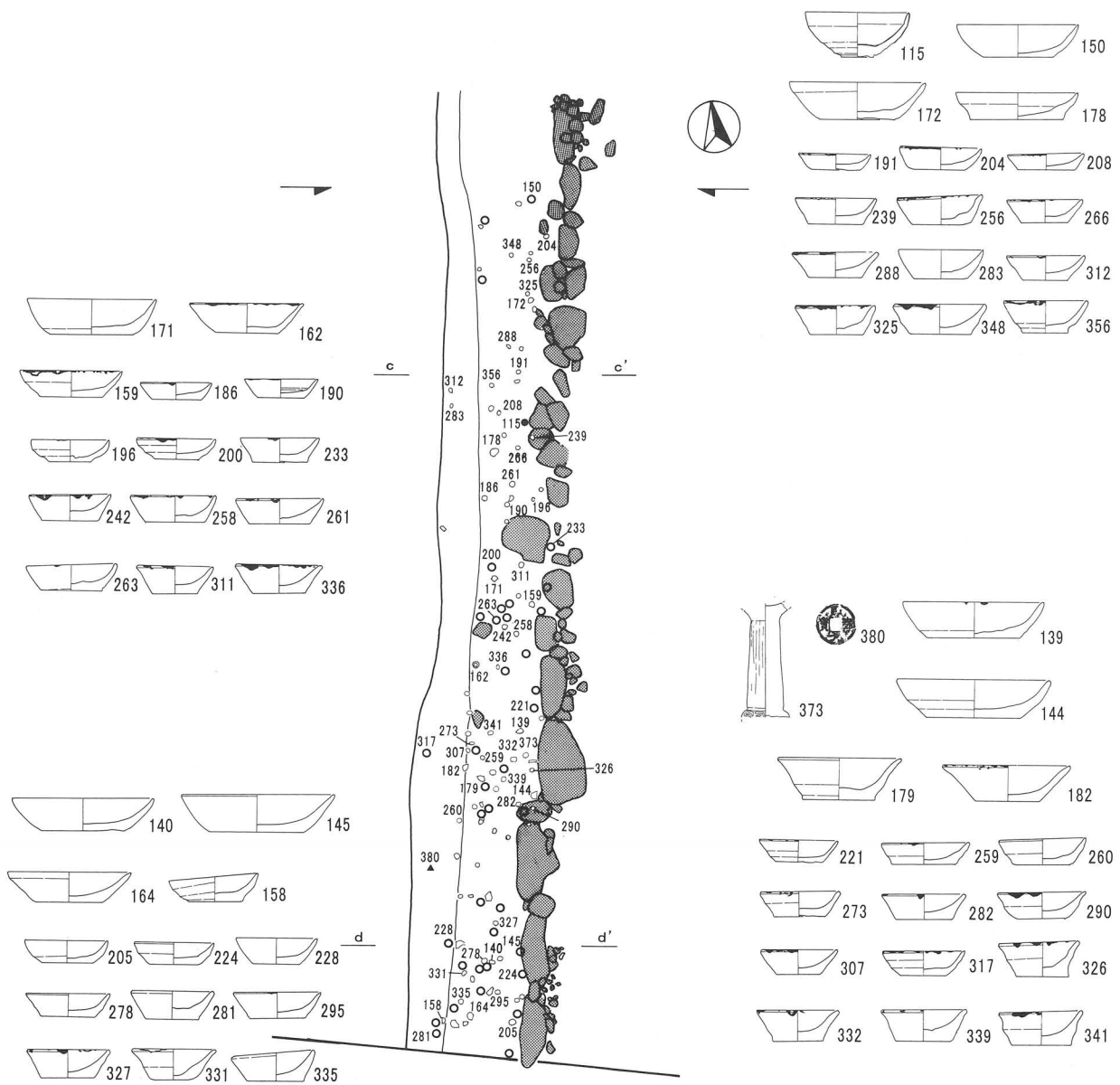
第26図 第1号溝状遺構



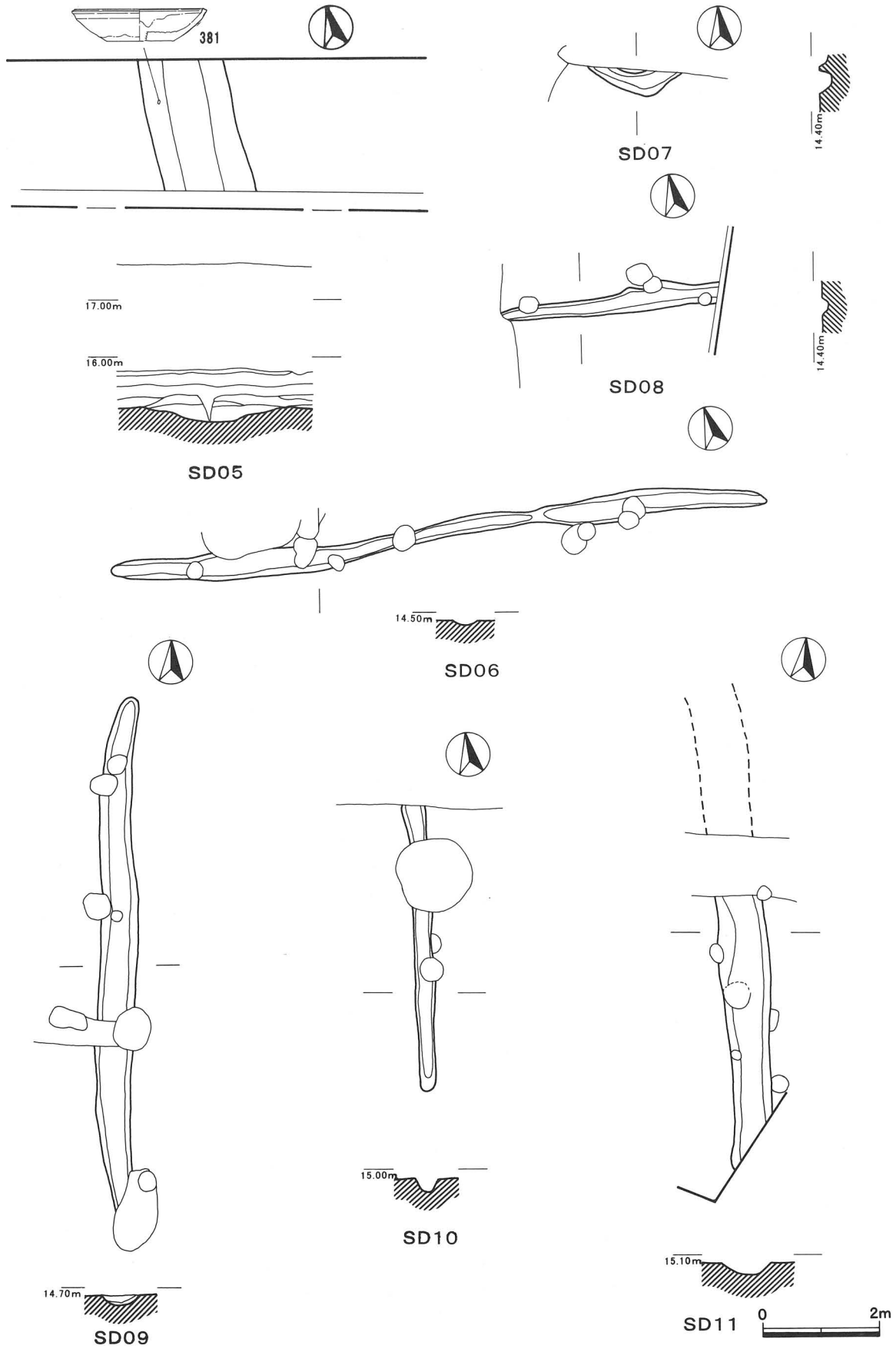
第27図 第3・13～15号溝状遺構



第28図 第4号溝状遺構(1)



第29図 第4号溝状遺構 (2)



第30図 第5～11号溝状遺構

第9号溝状遺構 SD09 (第30図)

第9号溝状遺構は調査区北部4区中央で検出した南北溝である。南部は土坑と重複しているため不明、北部は確認面からの深さが少ないため不明瞭であった。検出長は8.5mで、幅0.6m、深さは20cmであった。断面はU字形を呈し、主軸方位は、 $N-30^{\circ}-E$ である。溝底は検出範囲内で、北側に5cm下がっている。

出土遺物はかわらけの小破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第10号溝状遺構 SD10 (第30図)

第10号溝状遺構は調査区ほぼ中央3区で検出した南北溝である。北部はピット群・土坑等と重複しているため未調査、南部は確認面からの深さが少ないため不明瞭であった。検出長は4.9mで、幅0.4m、深さは20cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、 $N-9^{\circ}-E$ である。溝底は検出範囲内で、北側に15cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・常滑などがあり、貿易陶磁青磁碗1点・かわらけ5点図示可能であった。

第11号溝状遺構 SD11 (第30図)

第11号溝状遺構は調査区ほぼ中央3区で検出した。南北に走る溝で、南部は調査区外、北部は第1号溝状遺構と重複し、その北側は未検出であった。第1号溝状遺構との新旧関係は確認できなかった。検出長は4.25mで、幅0.6~0.9m、深さは20cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、 $N-7^{\circ}30'-W$ である。溝底は検出範囲内で、北側に6cm下がっている。

出土遺物にはかわらけ・貿易陶磁・常滑等があるが、貿易陶磁青磁碗1点のみ図示可能であった。

第12号溝状遺構 SD12 (第31図)

第12号溝状遺構は調査区東端2区で検出した。屈曲する溝で、両端ともに調査区外にあるため、全容は不明である。また、南側は近現代の水路があったため、確認できなかった。検出長は7.1mで、幅0.7m、深さは12cmと浅く、断面皿状を呈する。溝底は検出範囲内で、東側に2cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・常滑・瓦質製品などがあるが、図示可能遺物はなかった。

第13号溝状遺構 SD13 (第27図)

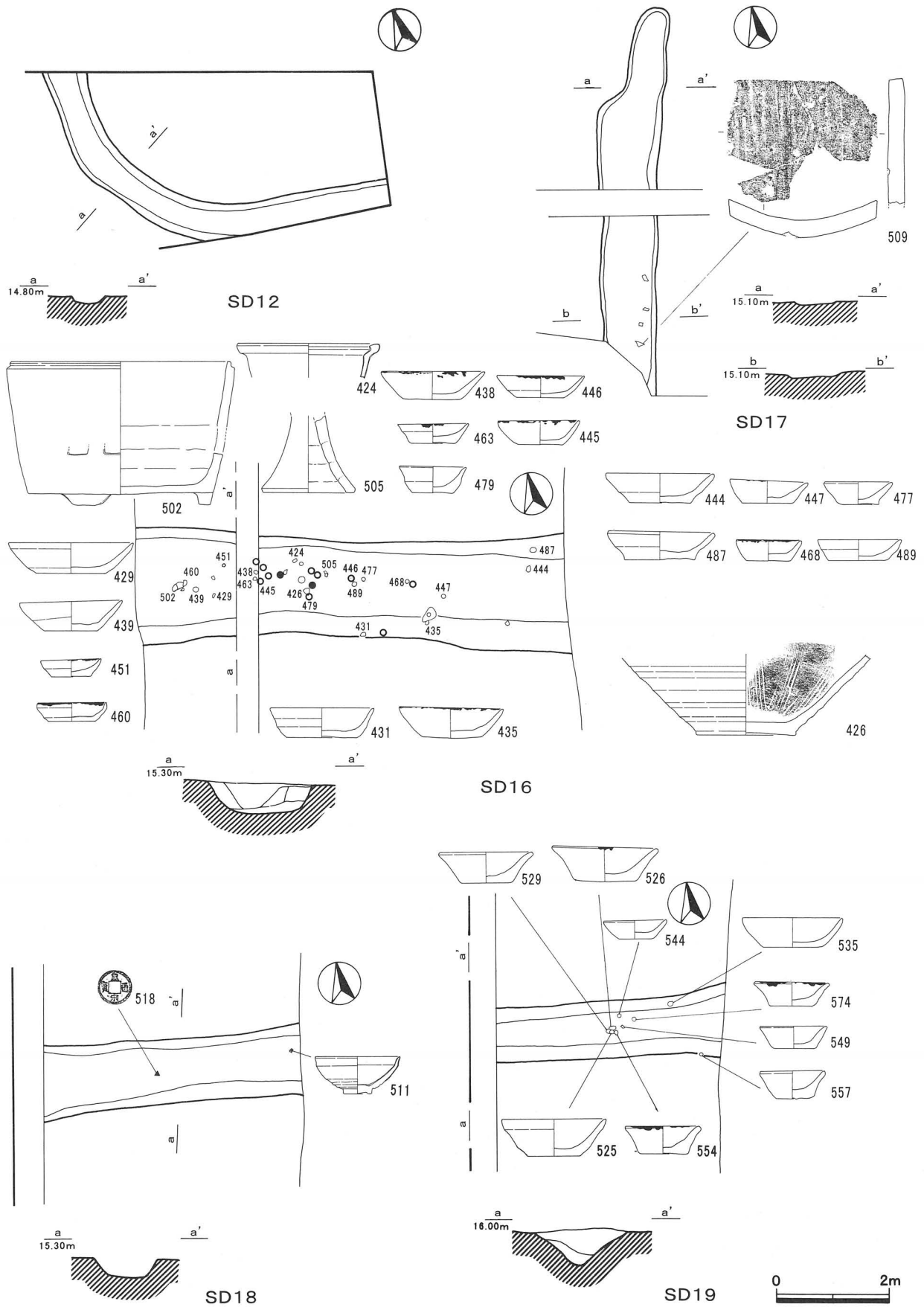
第13号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、第14・15号溝状遺構と重複しているが、新旧関係等は確認できなかった。検出長は8.3mで、確認できた幅1.65m、深さは52cmであった。断面は逆台形状を呈する。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品などがある。

第14号溝状遺構 SD14 (第27図)

第14号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、第3・13・15号溝状遺構と重複する。第3号溝状遺構より新しい溝で、第13・15号溝状遺構との新旧関係は不明である。また、第4号溝状遺構の北部とも重複するが、その新旧関係も確認できなかった。検出長は19.2mで、幅1.1m、深さは26cmを測り、断面は逆台形を呈する。主軸方位は、 $N-76^{\circ}-W$ を指す。溝底は検出範囲内で、西側に14cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・瓦・石製品等があり、種類・量ともに豊富である。貿易陶磁・常滑・かわらけ・石製品等が図示可能遺物であった。



第31図 第12・16~19号溝状遺構

第15号溝状遺構 SD15 (第27図)

第15号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。第13・14号溝状遺構と重複するが、一部の検出にとどまっているため、規模や方向など不明な点が多い。検出長は1.55mで、幅1m前後、深さは56cmであった。断面は逆台形状を呈する

出土遺物は、かわらけ・常滑などがあり、3点が図示可能であった。

第16号溝状遺構 SD16 (第31図)

第16号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、西部では第3号溝状遺構と、東部は第4号溝状遺構と重複する。第3号溝状遺構よりも新しく、第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は7.6mで、幅1.7~2.1m、深さは55cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-77°-Wを指し、第4号溝状遺構と直交する。溝底は検出範囲内で、東側に35cm下がっている。

出土遺物は種類・量ともに豊富で、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石等の石製品・刀子釘などの鉄製品などがある。とくにかわらけの出土量は多く、総破片数1,700点近く、図示可能個体数が70点あまりであった。また、瀬戸美濃も多く出土しており、38点出土し10点が図示可能であった。また志戸呂播鉢も2個体出土している。

第17号溝状遺構 SD17 (第31図 図版6)

第17号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。南北に走る溝で、第4号溝状遺構と併行するようにみえるが、北側は確認面からの深さが不明、南側は未調査である。検出長は6.3mで、幅0.6~1.0m、深さは10cmと浅く、断面皿状を呈する。主軸方位は、N-14°-30'-Wである。溝底は検出範囲内で、北側に4cm下がっている。

出土遺物は、かわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などがあるが、瀬戸美濃天目茶碗と平瓦のみ図示可能であった。

第18号溝状遺構 SD18 (第31図)

第18号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、東部は第4号溝状遺構と重複し、西部は調査区外である。第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は4.5mで、幅1.3m、深さは33cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-86°-Wを指し、第4号溝状遺構と直交するようすを示している。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・砥石・銭貨などがあり、全部で9点が図示可能であった。

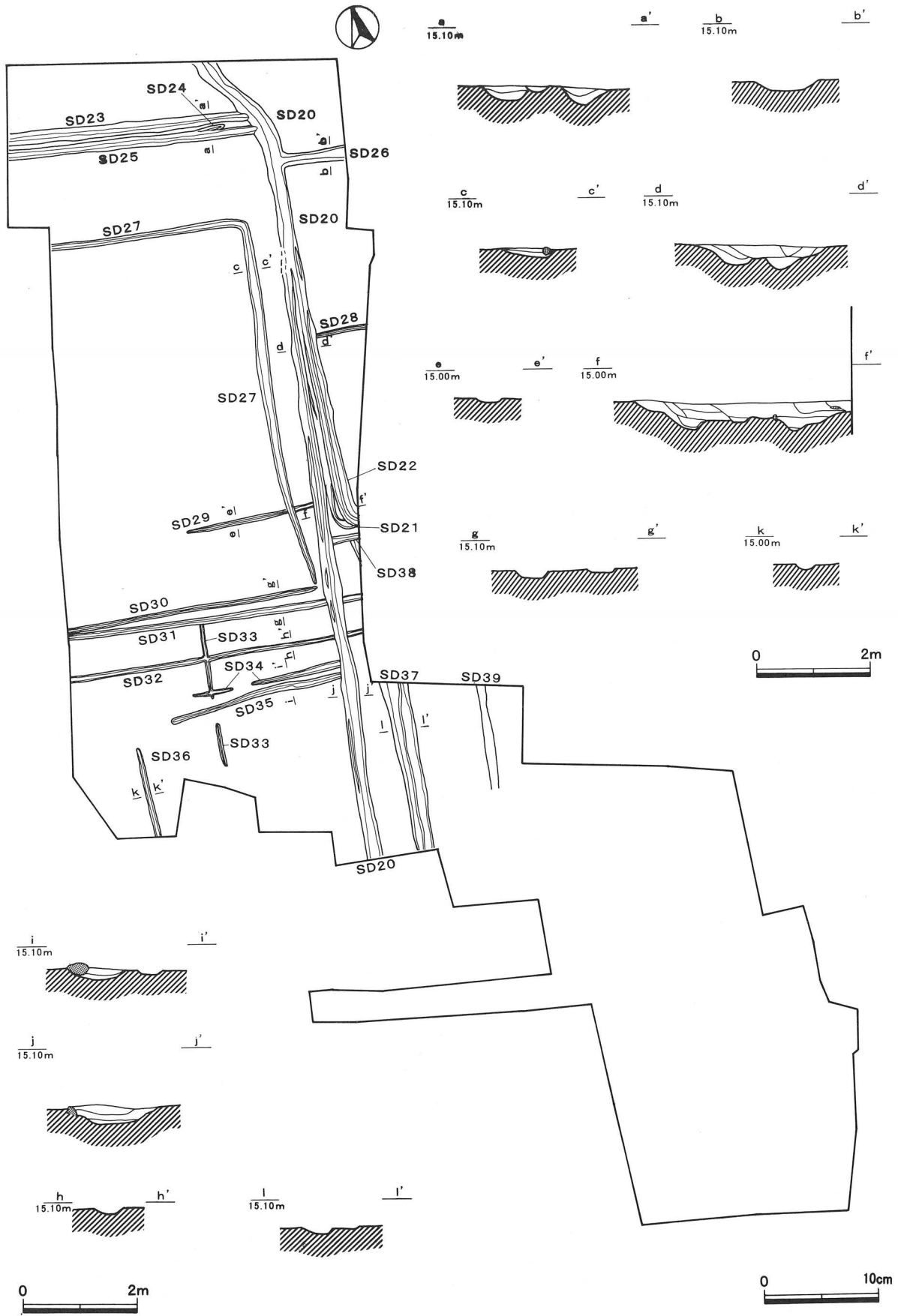
第19号溝状遺構 SD19 (第31図)

第19号溝状遺構は調査区南部1区で検出した。東西に走る溝で、東部は第4号溝状遺構と重複し、西部は調査区外である。第4号溝状遺構との新旧関係は不明である。検出長は4.0mで、幅1.0m、深さは63cmを測り、断面はV字形を呈する。主軸方位は、N-77°30'-Wで、第18号溝状遺構同様、第4号溝状遺構と直交する。

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品・瓦・砥石等石製品などがある。かわらけの出土量は多く、総破片数770点、図示可能個体数が54点であった。

近世以降の溝状遺構 (第32図 図版6)

第20~39号溝状遺構は近世以降の溝である。南北に走る比較的大きな溝である第20・21・22・37号溝状遺構とそれらと直交する東西溝の第23・24・25号溝状遺構などがあり、さらに小規模な溝が多数検出された。



第32図 近世以降溝状遺構配置図

第20号溝状遺構 SD20

第20号溝状遺構は調査区北部から中央やや南寄りの5区から2区にかけて検出された南北方向の溝状遺構である。南北端とも調査区外にあり、全体の規模は不明である。4区で第21・22号溝状遺構と重複するが、両者よりも本遺構が古い。また、第23～25・26号溝状遺構をはじめ多くの東西溝と直交しているが、それらとの新旧関係は確認できなかった。検出長は71.7mで、幅1.3～1.8m、深さは30～60cmであった。断面はU字形を呈する。北部でやや屈曲するが、主軸方位は、ほぼN-9°-Eを指している。溝底は検出範囲内で、北側に113cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃碗・徳利、唐津と肥前産の碗・皿、瓦質の竈などがある。この他、中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけなどが混入している。

第21号溝状遺構 SD21

第21号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出された南北方向の溝状遺構である。第20・22号溝状遺構と重複し、第20号よりも新しく第22号よりも本遺構が古い。北部は第20号溝状遺構と重複しているため不明、南部では東方向に屈曲して調査区外に延びている。検出長は14.1mで、幅0.55m、深さは33cmで、断面はU字形を呈する。南部の屈曲を除いた主軸方位は、N-5°-Eである。溝底はほぼ平らであった。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などがあるが、小破片のため図示可能遺物はなかった。

第22号溝状遺構 SD22

第22号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出された南北方向の溝状遺構である。第20・21号溝状遺構と重複し、両者よりも本遺構が新しい。北部は第20・21号溝状遺構と重複しているため不明、南部では第21号溝状遺構と併行して東方向に屈曲して調査区外に延びている。検出長は25.5mで、幅1.4m、深さは50cmで、断面は皿状を呈する。南部の屈曲を除いた主軸方位は、N-4°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に19cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などがあり、その他中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑なども混入している。いずれも小破片であり、図示可能遺物はない。

第23号溝状遺構 SD23

第23号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第24・25号溝状遺構と併行して配置されている。検出長は20.8mで、幅0.7～1.2m、深さは37cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に13cm下がっている。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿などである。その他中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・かわらけなども出土しており、図示可能遺物は中世の貿易陶磁白磁碗・瀬戸美濃天目茶碗である。

第24号溝状遺構 SD24

第24号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第23・25号溝状遺構と併行・一部重複している。25号溝状遺構との新旧関係は、本遺構が新しいことが確認されている。検出長は3.1mで、幅0.3m、深さは10cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に8cm下がっている。遺物は出土しなかった。

第25号溝状遺構 SD25

第25号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。東端は第20号溝状遺構と重複し、西部では調査区外にある。また、第23・24号溝状遺構と平行し、第24号溝状遺構と一部重複している。第24号溝状遺構より本遺構が古い。検出長は21.5mで、幅0.6～1.0m、深さは25～34cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-79°-Wである。溝底は検出範囲内でほぼ水平であった。

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃類、肥前産の磁器碗・皿、石製品などである。その他中世の瀬戸美濃・常滑・かわらけなども出土している。図示可能遺物は軽石を加工した石製品と中世の瀬戸美濃平碗である。

第26号溝状遺構 SD26

第26号溝状遺構は調査区北部5区で検出した東西溝である。西端は第20号溝状遺構と重複し、東端は調査区外に延びている。第20号溝状遺構と直交する位置関係にあるが、新旧関係等は不明である。検出長は5.3mで、幅1.2m、深さは48cmで、断面逆台形を呈する。主軸方位は、N-81°-Wである。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。遺物は出土しなかった。

出土遺物は、近世の陶磁器破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第27号溝状遺構 SD27

第27号溝状遺構は調査区北側4区で検出した溝状遺構で、逆L字形に配置されている。西端は調査区外にあり、南端は確認面からの深さが非常に浅くなっているため検出できなかった。検出長は総計で48.2m、幅は狭い部分で0.2m、最も広い部分は1.2mを測る。深さは10～25cmで、断面はU字形を呈する。主軸方位は、南北方向の溝でN-6°-30'-Eである。溝底は検出範囲内で、西から東へ21cm、南から北へ42cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・砥石・などが出土している。

第28号溝状遺構 SD28

第28号溝状遺構は調査区北部4区で検出した東西溝である。西端は第22号溝状遺構と重複し、東端は調査区外に延びている。第22号溝状遺構と直交する位置関係にあるが、新旧関係等は不明である。検出長は4.3m、幅0.4m、深さは13cmである。断面U字形を呈する。主軸方位は、N-86°-Wを指している。溝底は検出範囲内で、西側に5cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの小破片が少量出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第29号溝状遺構 SD29

第29号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第27号溝状遺構・第20号溝状遺構と重複する。また、西端は確認面からの深さが非常に浅くなっているため検出できなかった。検出長は11.4mで、幅0.4m、深さは5cmと浅い。断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-86°-Wで、上記の溝とほぼ直交する。溝底は検出範囲内で、東側に12cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑などであるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第30号溝状遺構 SD30

第30号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、第27号溝状遺構の南北方向とほぼ直交する。西端は調査区外に延びている。検出長は22.1mで、幅0.4m、深さは10cm、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-83°-30'-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に24cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などで、17世紀代の瀬戸美濃志野皿と瓦各1点が図示可能であった。

第31号溝状遺構 SD31

第31号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、第32号溝状遺構と平行する。東西両端は調査区外に延びている。検出長は25.5mで、幅0.6m、深さは14cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-83°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に39cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・中世のかわらけ・瀬戸美濃・常滑などであるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第32号溝状遺構 SD32

第32号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複し、第31号溝状遺構と平行する。第20号溝状遺構との新旧関係は不明である。東西両端は調査区外に延びている。検出長は25.0mで、幅0.5m、深さは15cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-84°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に29cm下がっている。

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第33号溝状遺構 SD33

第33号溝状遺構は調査区中央やや南の4区から3区にかけて検出した。南北に走る溝で、第30～32・34号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、第35号溝状遺構と交叉する付近では、掘込みが浅く検出できない部分がある。検出長は12.8mで、幅0.3m、深さは7cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-9°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に24cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などが出土しているが、いずれも小破片で図示可能遺物はない。

第34号溝状遺構 SD34

第34号溝状遺構は調査区中央やや南の3区で検出した。東西に走る溝で、第20号・33号溝状遺構と重複するが、新旧関係は不明である。また、一部掘込みが浅く検出できない部分がある。検出長は12.7mで、幅0.2～0.5m、深さは10cmと浅く、断面は皿状を呈する。主軸方位は、N-86°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に26cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・瓦質製品・石製品などで、ほかに中世のかわらけ片等もある。このうち、17世紀代唐津皿2点が図示可能であった。

第35号溝状遺構 SD35

第35号溝状遺構は調査区中央やや南の3区で検出した。東西に走る溝で、東部で第20号溝状遺構と重複するが新旧関係は不明である。西側は掘込みが浅いため検出できなかった。検出長は15.0mで、幅0.4～1.1m、深さは10～20cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-89°-Wである。溝底は検出範囲内で、東側に37cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器・かわらけ・瓦質製品・石製品等で、中世の瓦質火鉢と凹石状の石製品を図示した。

第36号溝状遺構 SD36

第36号溝状遺構は3区の南西で検出した南北方向の溝である。西部ではやや屈曲する。南端は調査区外の延びており、また北部は掘込みが浅いため検出できなかった。検出長は7.9mで、幅0.3～0.6m、深さは10cm前後であった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-4°-30'-Eである。溝底は検出範囲内ではほぼ水平であった。

出土遺物は、かわらけ小片と鉄釘があるが、小破片のため図示はできなかった。

第37号溝状遺構 SD37

第37号溝状遺構は2区で検出された南北溝である。第20号溝状遺構と平行するようであるが、南北両端とも調査区外に延びており全体は明らかではない。検出長は28.0mで、幅1.6～2.2m、深さは約30cmであった。断面はU字形を呈する。主軸方位は、N-7°-Eである。溝底は検出範囲内で、北側に20cm下がっている。

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などで、図示可能遺物は後者の中世のものであった。

第38号溝状遺構 SD38

第38号溝状遺構は調査区ほぼ中央4区の東端で検出した。東西に走る溝で、第20号溝状遺構と重複し、東側は調査区外に延びている。検出長は2.3mで、幅0.6m、深さは約40cm、断面はU字形を呈する。主軸方位は、検出部分が少ないため不明である。

出土遺物は、近世陶磁器、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などであるが、いずれも小破片であり図示可能遺物はなかった。

第39号溝状遺構 SD39

第39号溝状遺構は調査区ほぼ中央の2区で検出した南北溝である。検出面での確認のみで内部の調査は行っていない。確認できた検出長は9.2m、幅0.72mである。主軸方位は、N-9°-Eを指すとされる。

(4) 土坑墓

土坑墓とみられる遺構は5基検出された。いずれも調査区の北部、4～5区で検出された。

第1号土坑墓 ST01 (第34図)

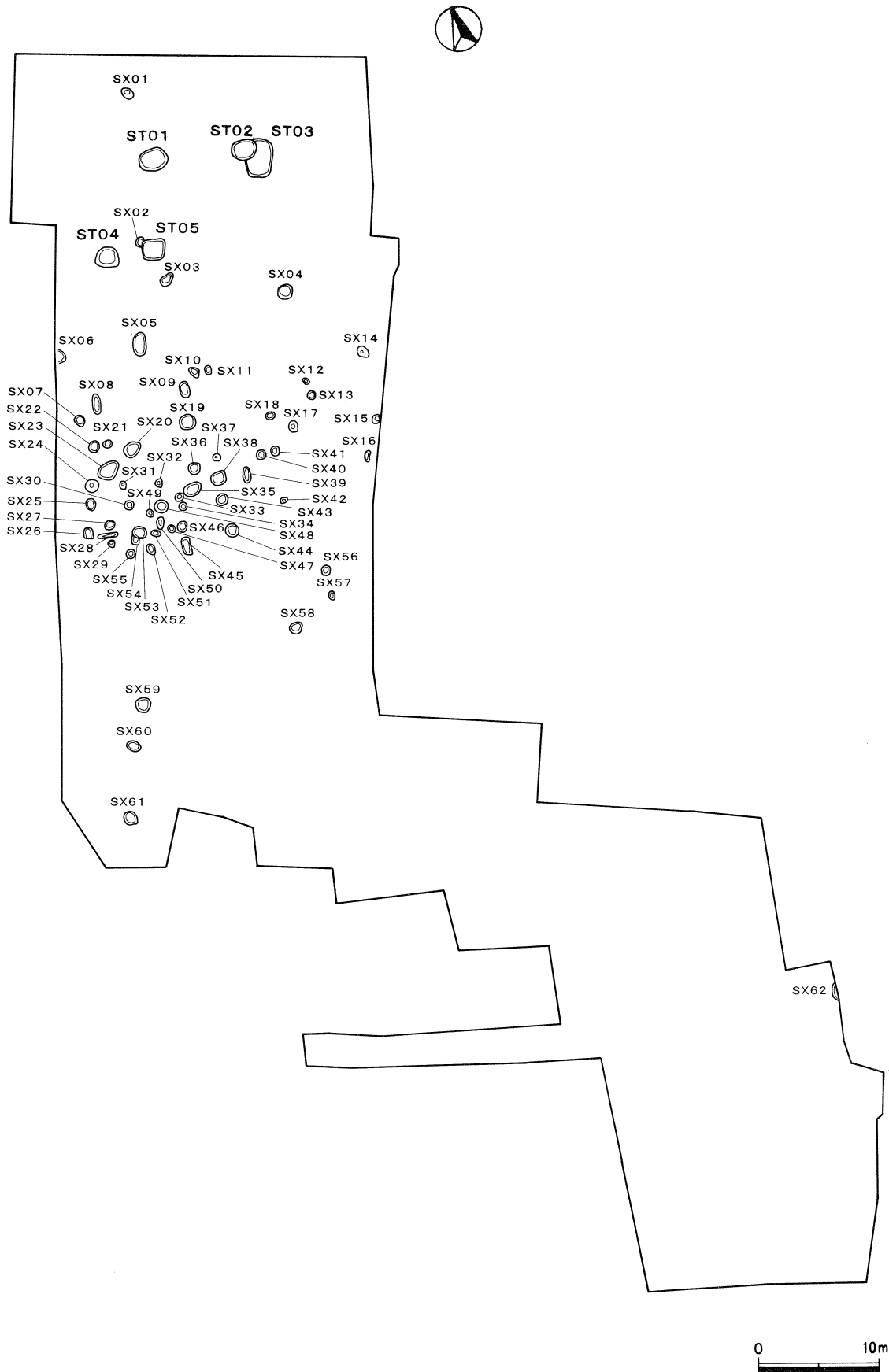
1号土坑墓は5区で検出した。2.36×1.86mの楕円形を呈し、深さは22cmを測る。西側の壁際に2基のピットが存在するが、本遺構に伴うものであるかは不明である。

出土遺物は、かわらけ・鉄釘で、かわらけ2点が図示可能であった。

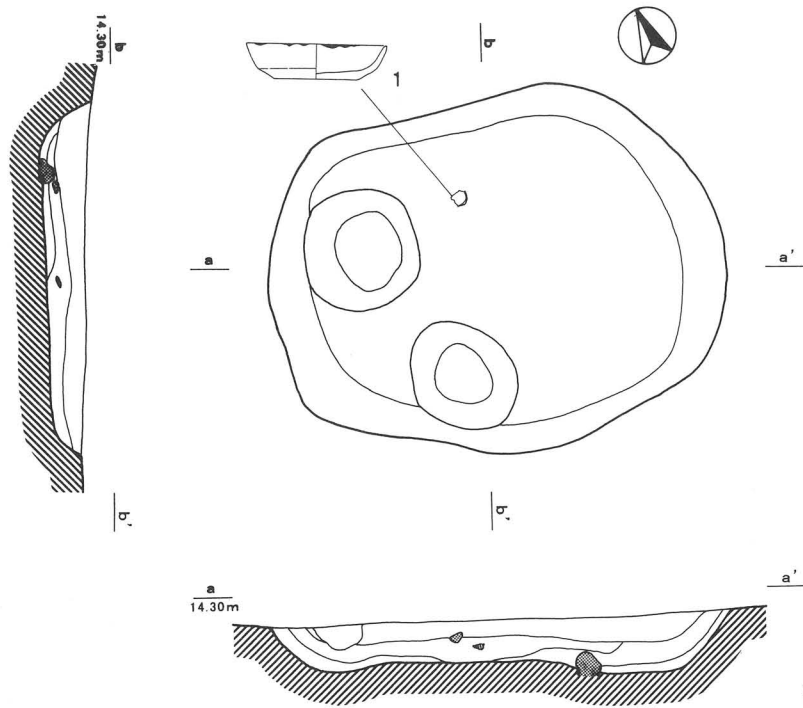
第2号土坑墓 ST02 (第34図)

第2号土坑墓は5区で検出した。第3号土坑墓と重複し、本遺構の方が古い。規模は2.14×1.6mの不整形で、深さは21cmである。また、2段の段差が認められた。

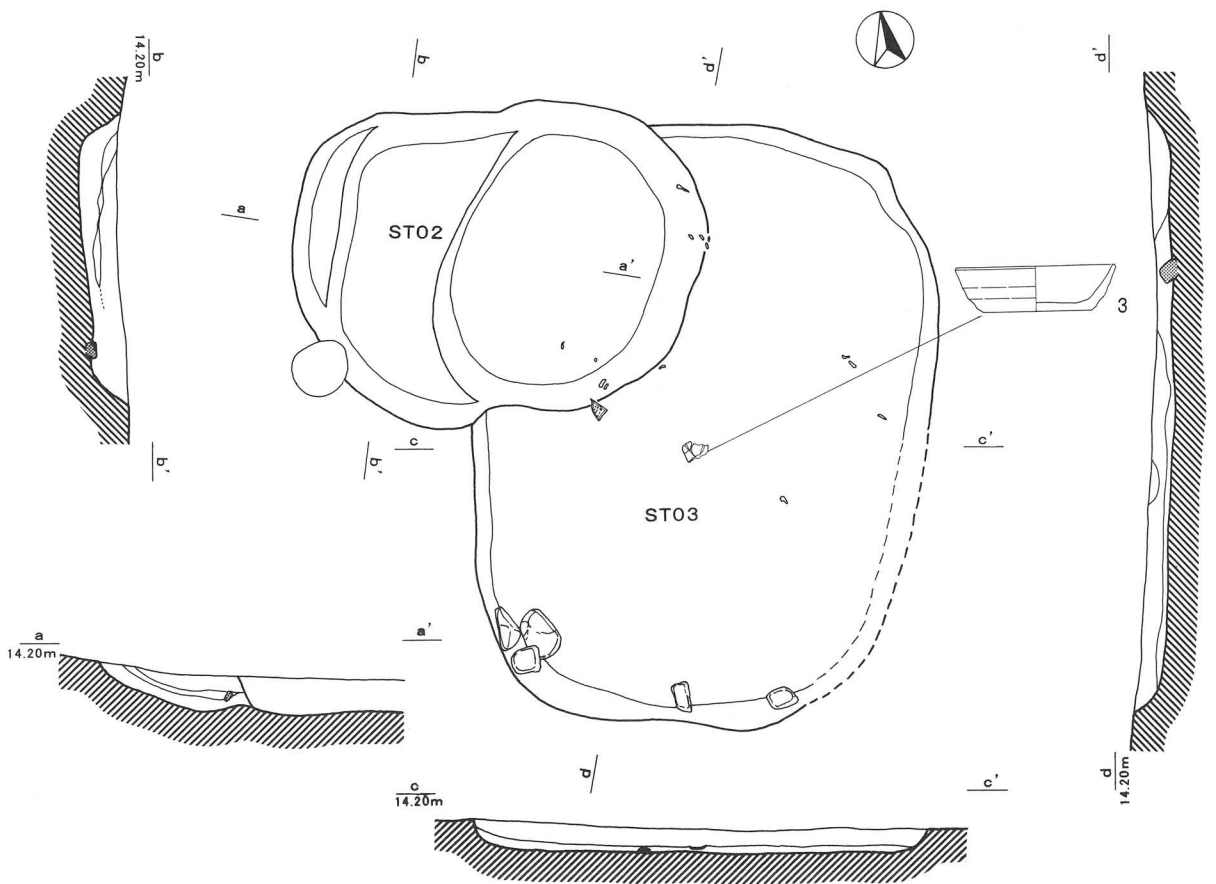
出土遺物は、かわらけ・鉄釘などで、他に漆片・骨片なども認められた。かわらけはいずれも小破片のもので、図示可能な遺物はなかった。



第33图 土坑墓·土坑配置图

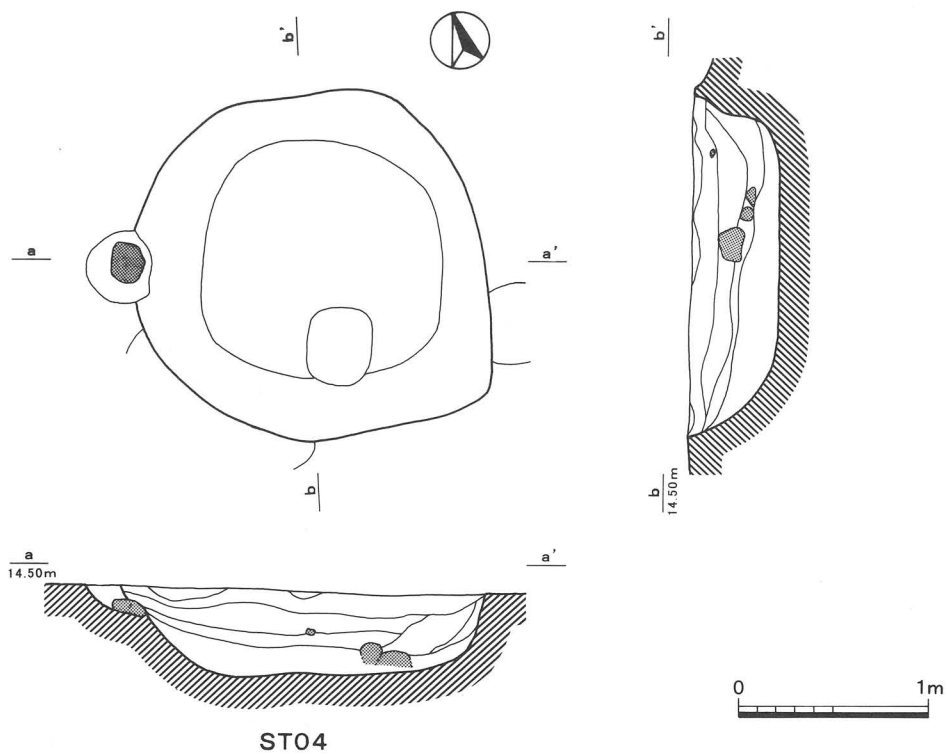


ST01

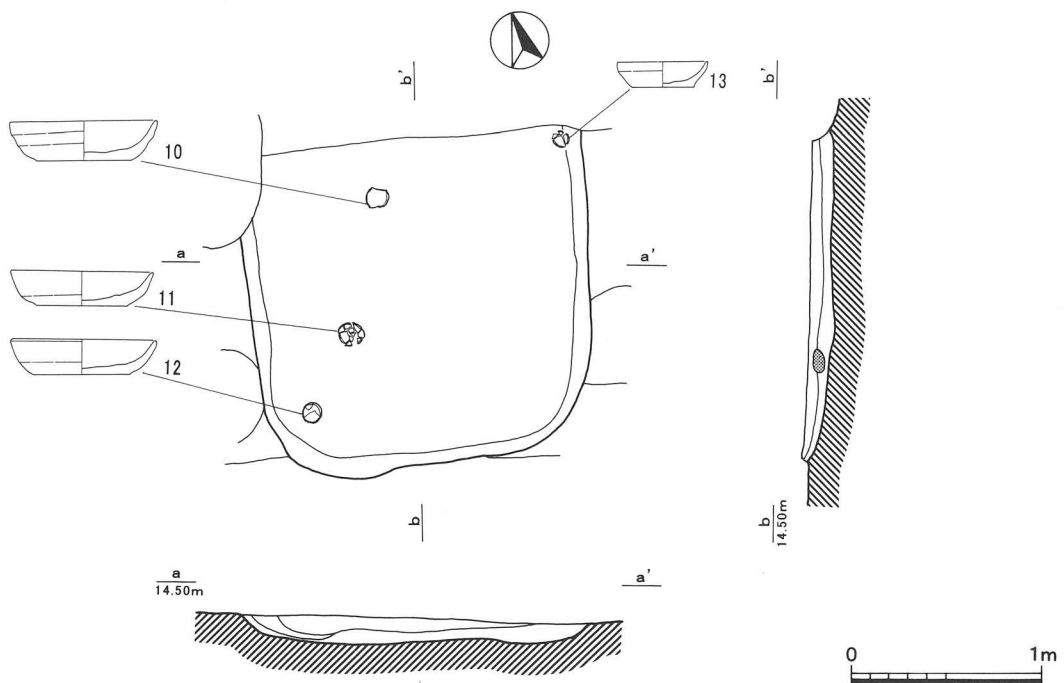


ST02·ST03

第34图 第1~3号土坑墓



ST04



ST05

第35図 第4・5号土坑墓

第3号土坑墓 ST03 (第34図)

第3号土坑墓は5区で検出した。第2号土坑墓と重複し、本遺構が新しい。3.15×2.4mの楕円形を呈し、深さは15cmを測る。

出土遺物は、かわらけ・瓦・鉄釘などで、骨片なども確認された。かわらけ1点が図示可能であった。

第4号土坑墓 ST04 (第35図 図版2)

第4号土坑墓は4区北部で検出した。1.9×1.85mの不整円形を呈し、深さは45cmを測る。出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・鉄釘などで、かわらけ4点が図示可能であった。

第5号土坑墓 ST05 (第35図 図版2)

第5号土坑墓は4区北部で検出した。近世の溝である第27号溝状遺構と重複したため、北部は確認できなかった。東西長1.71m、南北は残存長1.77mで、隅丸長方形を呈すと思われる。掘込みは非常に浅く15cmほどであった。

出土遺物は、かわらけ・常滑・軽石加工品・鉄釘・スラグなどで、覆土内で炭化物も認められた。かわらけ7点と軽石製の凹石1点が図示可能であった。

(5) 土坑

土坑は62基検出した。土坑墓も含まれている可能性もあるが、形態や出土遺物からでは判断できないため、土坑として一括した。また、1区は集石等が多く検出されたため、その下部の遺構については確認していない。2・3区も検出面上での遺構プラン確認にとどまっており、土坑と思われる遺構についても内部の調査を行っていないため、土坑として扱っていない。そのため、必然的に4・5区に集中する傾向にみえるが、1～3区の再調査によって、この範囲においても土坑と認識される遺構が検出されることをあらかじめ断っておく。

第1号土坑 SX01 (第36図)

第1号土坑は調査区北辺近く5区の北部で検出した。1.05×0.8mの楕円形を呈し、深さは18cmと浅い。遺物は出土しなかった。

第2号土坑 SX02 (第36図)

第2号土坑は調査区北部4区で検出した。0.87×0.7mの不整楕円形を呈し、深さは17cmを測る。第5号土坑墓と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第3号土坑 SX03 (第36図)

第3号土坑は調査区北部4区で検出した。1.38×0.8mの楕円形を呈し、深さは23cmを測る。出土遺物はかわらけ・常滑などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第4号土坑 SX04 (第36図)

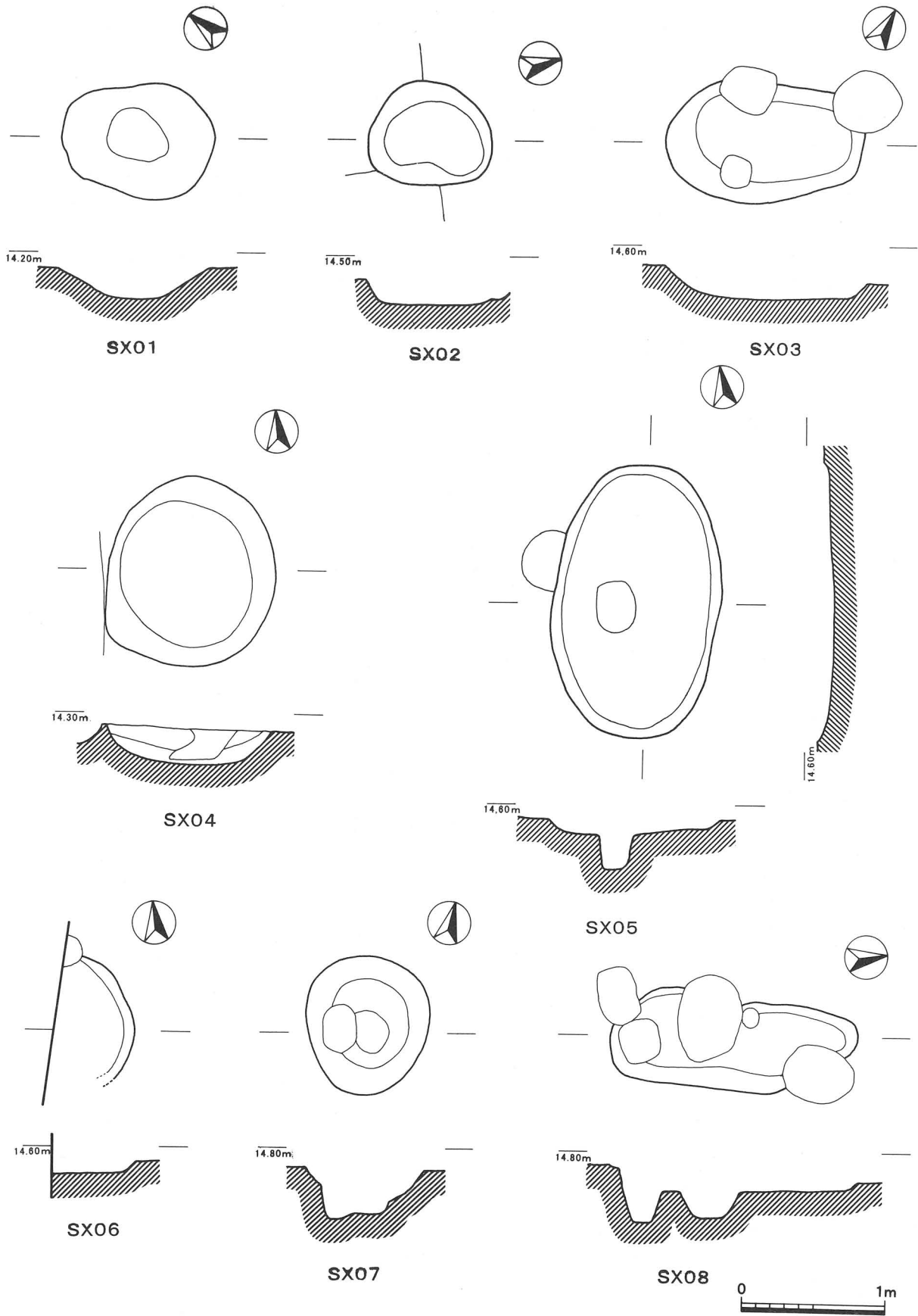
第4号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.33mの円形を呈する土坑で、深さは26cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第5号土坑 SX05 (第36図)

第5号土坑は調査区北部4区で検出した。1.9×1.15mの長楕円形を呈する土坑で、深さは10cm前後と浅い。かわらけの小破片が出土しているのみで、図示可能な遺物はなかった。

第6号土坑 SX06 (第36図)

第6号土坑は4区西端で検出した。西側は未調査であるが、0.87mの円形を呈する土坑と思われる。



第36图 第1~8号土坑

深さは確認した範囲では9cmであった。遺物は出土しなかった。

第7号土坑 SX07 (第36図)

第7号土坑は4区で検出した円形の土坑である。径0.96mの小形の土坑で、深さは28cmを測る。いくつかのピットと重複しているが、新旧関係は不明である。かわらけの小破片が出土しているのみで、図示可能な遺物はなかった。

第8号土坑 SX08 (第36図)

第8号土坑は4区で検出した。1.73×0.66mの長楕円形を呈する土坑で、深さは17cmを測る。出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能な遺物はなかった。

第9号土坑 SX09 (第37図)

第9号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.35m・短辺1.0mの不整形を呈する土坑で、深さは15cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第10号土坑 SX10 (第37図)

第10号土坑は調査区北部4区で検出した。1.1×0.75mの楕円形を呈すし、深さは8cmと非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第11号土坑 SX11 (第37図)

第11号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形を呈する土坑で、深さは10cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第12号土坑 SX12 (第37図)

第12号土坑は調査区北部4区で検出した土坑である。0.6×0.5mの楕円形を呈し、深さは14cmである。出土遺物はかわらけのみであり、いずれも小破片で、図示可能な遺物はなかった。

第13号土坑 SX13 (第37図)

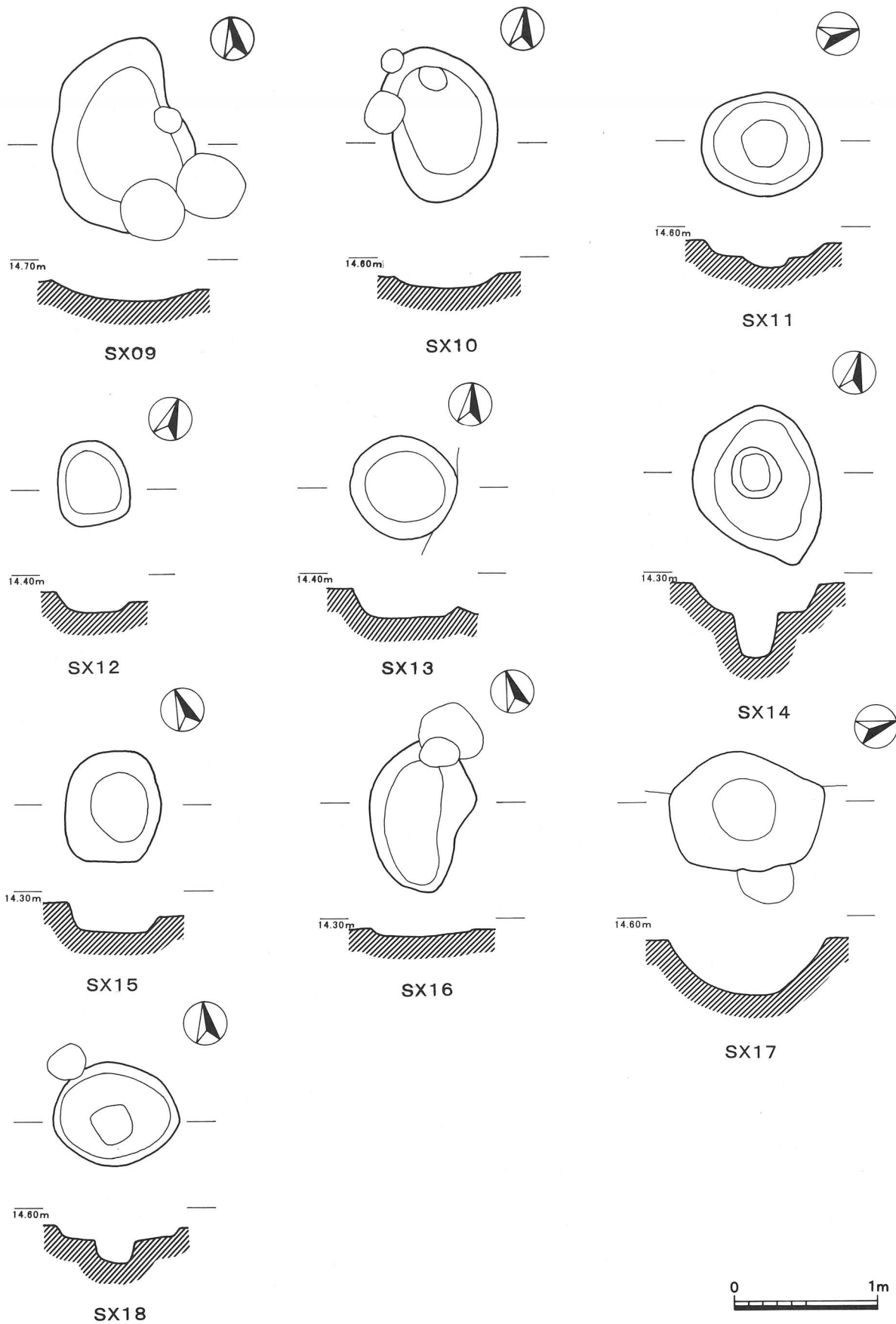
第13号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.75mの円形土坑で、深さは20cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第14号土坑 SX14 (第37図)

第14号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.05m・短辺0.9mの不整形を呈する土坑で、深さは20cmを測る。底部中央に径約40cm・深さ33cmほどのピットを伴う。出土遺物はかわらけ・古代末の土師器などがある。古代末の土師器1点が図示可能であった。

第15号土坑 SX15 (第37図)

第15号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.77m・短辺0.65mの隅丸方形を呈する土坑で、深さは21cmを測る。出土遺物はなかった。



第37图 第9~18号土坑

第16号土坑 SX16 (第37図)

第16号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.07m・短辺0.72mの不整形を呈する土坑で、深さは6cmほどで非常に浅い。小破片のかわらけが少量出土している程度で、図示可能な遺物はなかった。

第17号土坑 SX17 (第37図)

第17号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.05m・短辺0.8mの不整隅丸方形を呈する。断面U字状を呈す土坑で、深さは40cmを測る。遺物は出土しなかった。

第18号土坑 SX18 (第37図)

第8号土坑は調査区北部4区で検出した。0.88×0.72mの楕円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。底部中央でピットを検出したが、本遺構よりも新しい柱穴であると判断した。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第19号土坑 SX19 (第38図)

第19号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.45mの円形を呈する土坑である。深さは32cmを測り、底面はやや凹凸が認められた。かわらけが少量出土しており、手づくねかわらけ1点を図示した。

第20号土坑 SX20 (第38図)

第8号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.45m・短辺1.23mの不整形を呈する土坑で、底面はかなり凹凸が著しく、深さは16cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第21号土坑 SX21 (第38図)

第21号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.7mの円形を呈する土坑で、深さは18cmを測る。遺物は出土しなかった。

第22号土坑 SX22 (第38図)

第22号土坑は調査区北部4区で検出した。ピットや攪乱等により全体を検出することはできなかったが、短辺0.77m、長辺の残存長約1mの楕円形と呈すと思われる。深さは60cmで断面U字状を呈す。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第23号土坑 SX23 (第38図)

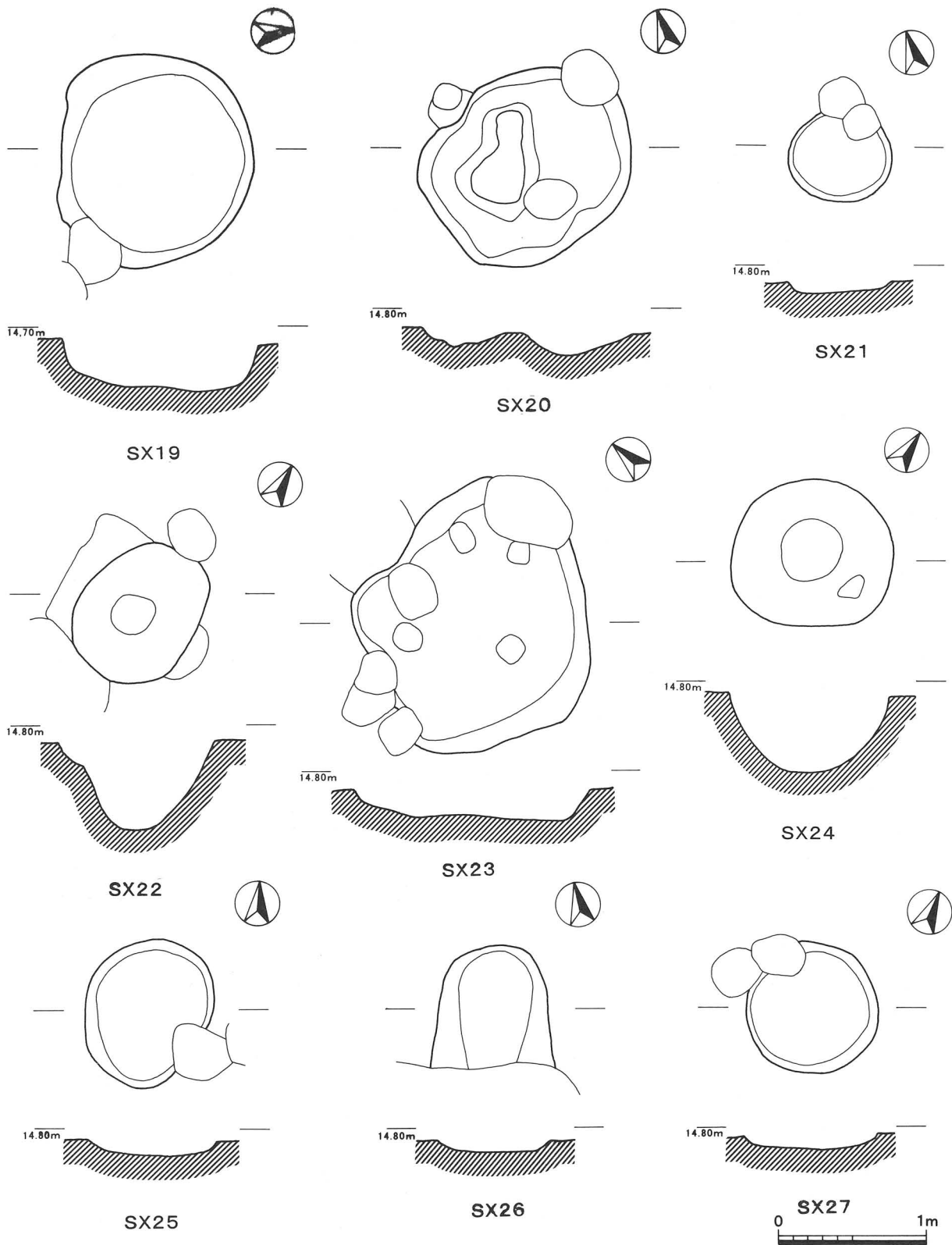
第23号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。長辺1.65m・短辺1.38mの不整形を呈し、深さは20cmである。多くのピットと重複しているが、いずれも新旧関係など不明である。遺物は出土しなかった。

第24号土坑 SX24 (第38図)

第24号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑である。断面U字状で、深さは55cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第25号土坑 SX25 (第38図)

第25号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径1.0mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。ピット1基と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な



第38图 第19~27号土坑

遺物はなかった。

第26号土坑 SX26 (第38図)

第26号土坑は調査区北部4区で検出した。南側は攪乱により確認できなかった。楕円形を呈すと考えられ、短辺は0.75m、長辺の残存長は0.8mである。深さは8cmで、非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第27号土坑 SX27 (第38図)

第27号土坑は調査区北部4区の西側で検出した。径0.9mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。ピット2基と重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・渥美甕破片などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第28号土坑 SX28 (第39図)

第28号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.65m・短辺0.45mの長楕円形を円形を呈する土坑である。深さは21cmを測り、底面は平坦である。出土遺物はかわらけ・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第29号土坑 SX29 (第39図)

第29号土坑は調査区北部4区で検出した。0.68×0.56mのやや不整な隅丸方形を呈する土坑で、深さは40cmを測る。出土遺物はかわらけ・常滑甕などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第30号土坑 SX30 (第39図)

第30号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.89mの円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。ピット2基と重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第31号土坑 SX31 (第39図)

第31号土坑は調査区北部4区で検出した。南側でピット2基と重複するため一部確認できなかったが、径0.65mの円形を呈する土坑と思われる。ピットとの新旧関係は不明である。深さは10cmと非常に浅い。遺物は出土しなかった。

第32号土坑 SX32 (第39図)

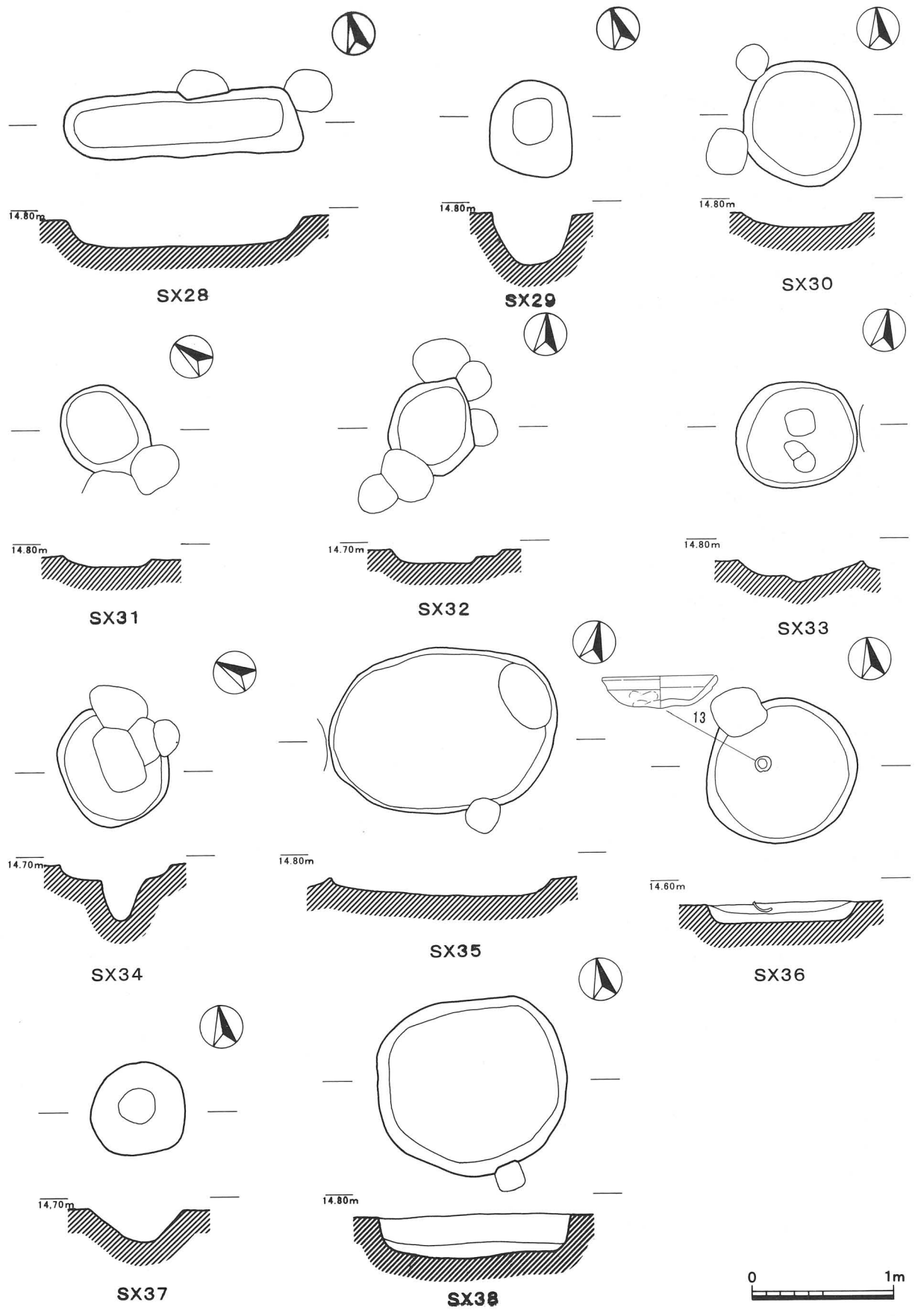
第32号土坑は調査区北部4区で検出した。多くのピットと重複しており、全体を確認することはできなかったが径0.65mほどの円形を呈する土坑と思われる。ピットとの新旧関係は確認できなかった。深さは8cmを測る。遺物は出土しなかった。

第33号土坑 SX33 (第39図)

第33号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形土坑である。深さは12cm程度で、底面はやや凹凸が認められた。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第34号土坑 SX34 (第39図)

第34号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.85mの円形を呈すると思われるが、東側が4基のピッ



第39图 第28~38号土坑

トと重複しているため全体の規模は不明である。ピットとの重複関係はいずれも不明である。深さは10cmと浅く、断面皿状を呈す。出土遺物はかわらけのみあるが、8点が図示可能であった。手づくね成形のかわらけが多い傾向がみられた。

第35号土坑 SX35 (第39図)

第35号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.58m・短辺1.16mの楕円形土坑である。深さは14cmを測る。2基のピットと重複するが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・石製品などがある。軽石製の凹石1点のみ図示可能で、その他かわらけ・陶磁器等は小破片のため図示できなかった。

第36号土坑 SX36 (第39図)

第36号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑で、深さは15cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・鉄釘などがあるが、かわらけ3点が図示可能であった。いずれも手づくね成形のかわらけである。

第37号土坑 SX37 (第39図)

第37号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.65mの円形を呈する。底面が小さい断面はU字状の土坑で、深さは25cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第38号土坑 SX38 (第39図)

第38号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.35mのやや不整な円形を呈する土坑である。覆土は2層に分層され深さは30cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・常滑・滑石製品・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第39号土坑 SX39 (第40図)

第39号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.43m・短辺0.7mのやや不整な楕円形の土坑で、深さは18cmを測る。ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあり、かわらけ1点を図示した。

第40号土坑 SX40 (第40図)

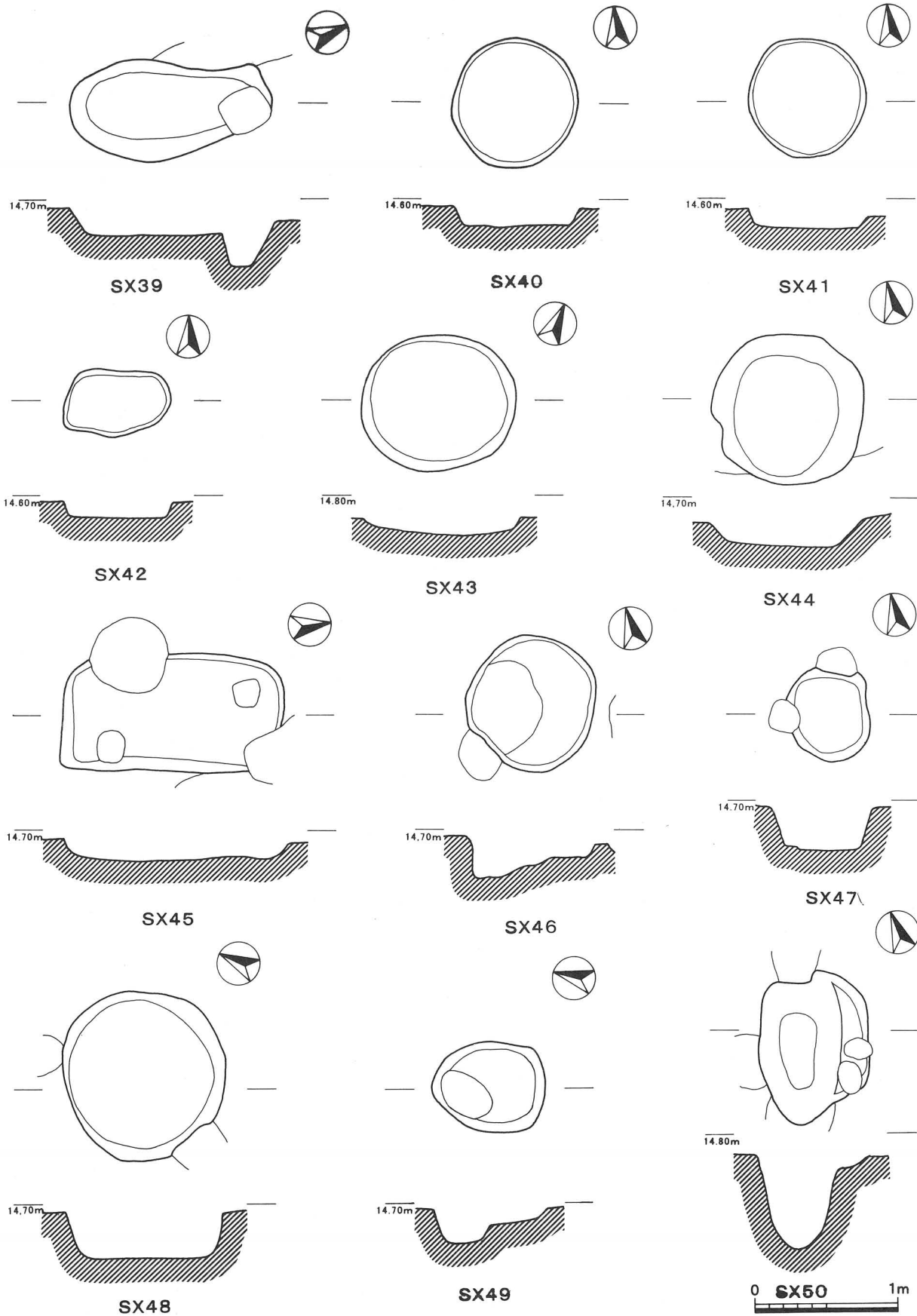
第40号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.86mの円形を呈する土坑で、深さは10cmと浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第41号土坑 SX41 (第40図)

第41号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.82mの円形土坑で、深さは14cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第42号土坑 SX42 (第40図)

第42号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.73m・短辺0.48mの不整形を呈する土坑で、深さは13cmと浅い。遺物は出土しなかった。



第40图 第39~50号土坑

第43号土坑 SX43 (第40図)

第43号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.05mの円形を呈する土坑である。深さは10cmで断面は皿状を呈す。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第44号土坑 SX44 (第40図)

第44号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.07mのやや不整な円形土坑で、深さは23cmを測る。南側は近世以降の第29号溝状遺構と重複しており、本遺構が古い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第45号土坑 SX45 (第40図)

第45号土坑は調査区北部4区で検出した。第27号溝状遺構・ピット等と重複しており一部不明瞭であるが、長辺4.53m・短辺0.82mの隅丸長方形を呈す土坑である。深さは12cmほどで非常に浅い。第27号溝状遺構よりも本遺構が古い、ピットとの新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第46号土坑 SX46 (第40図)

第46号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.9mのやや不整な円形を呈する土坑である。深さは13cmを測り、底面は凹凸が著しい。ピット等と重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第47号土坑 SX47 (第40図)

第47号土坑は調査区北部4区で検出した。0.66×0.55mの楕円形土坑で、深さは30cmを測る。出土遺物はかわらけ・銭貨などがある。かわらけは小破片で図示はできなかった。銭貨5点が図示可能であった。

第48号土坑 SX48 (第40図)

第48号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.15mの円形を呈する土坑で、深さは33cmを測る。出土遺物はかわらけ・渥美などがあるが、かわらけ2点のみ図示可能であった。

第49号土坑 SX49 (第40図)

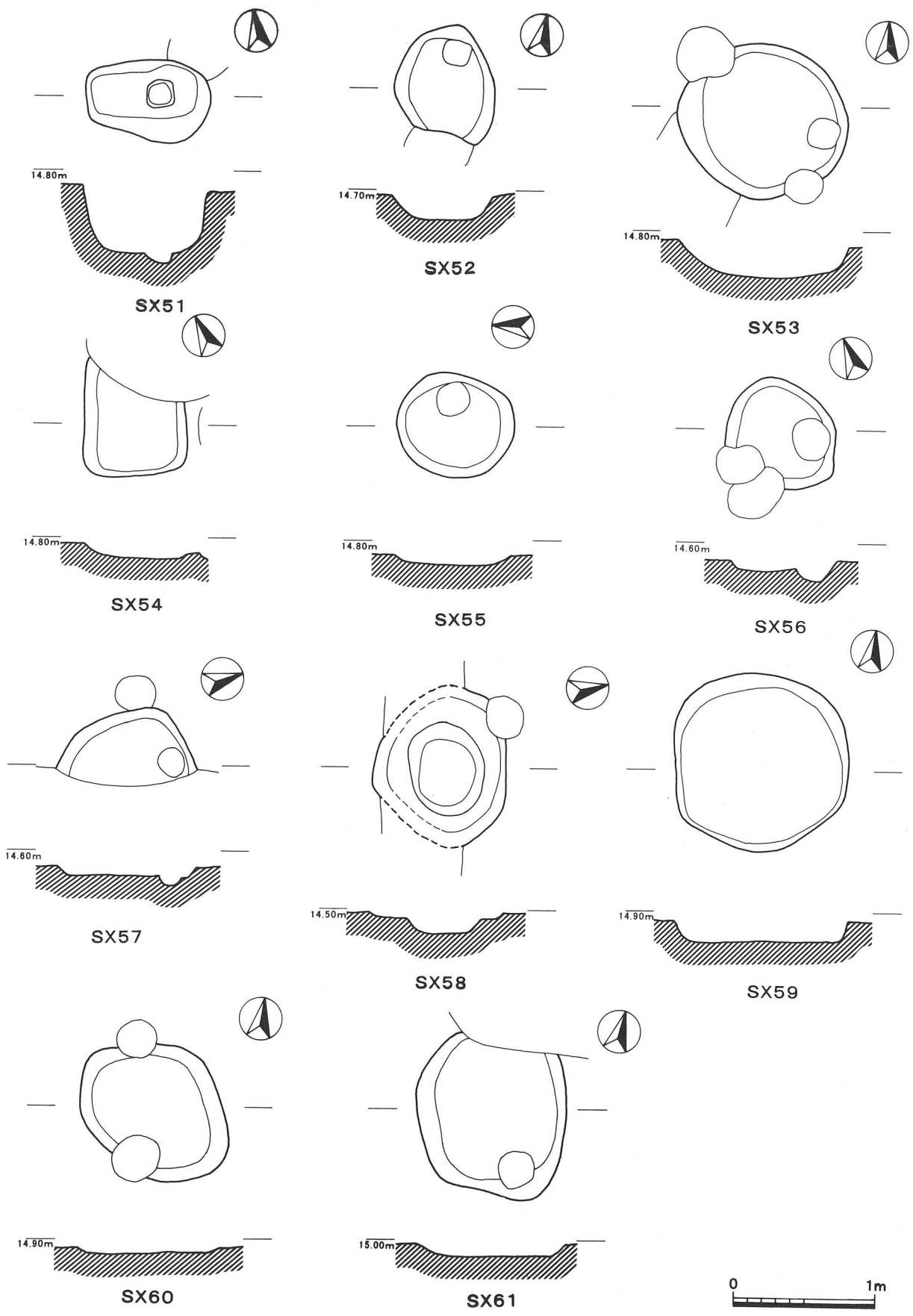
第49号土坑は調査区北部4区で検出した。0.8×0.65mの楕円形を呈する土坑で、深さは10cmを測る。ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第50号土坑 SX50 (第40図)

第50号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.08m・短辺0.75mの不整楕円形を呈す。東側に段を有しており、深さは65cmと深めである。出土遺物はかわらけのみで、5点が図示可能であった。本遺構からは手づくねかわらけが多く出土している。

第51号土坑 SX51 (第41図)

第51号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.87m・短辺0.6mのやや不整形な隅丸方形を呈す。深さは48cmで、坑底に1辺20cmほどの方形ピットが伴う。貿易陶磁白磁碗1点が出土しているが、小破片のため、図示はできなかった。



第41图 第51~61号土坑

第52号土坑 SX52 (第41図)

第52号土坑は調査区北部4区で検出した。南側はピットと重複しているため確認できないが、短辺0.7m・長辺0.75m以上の楕円形を呈する土坑と思われる。深さは18cmを測る。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第53号土坑 SX53 (第41図)

第53号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.13mの円形を呈する土坑で、深さは23cmを測る。第54号土坑やいくつかのピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第54号土坑 SX54 (第41図)

第54号土坑は調査区北部4区で検出した。第53号土坑と重複しているため、全体の規模は不明である。短辺は0.7m・長辺は残存長で0.83mで、隅丸長方形を呈すと思われる。深さは10cmで非常に浅く、東側にやや傾斜している。出土遺物はかわらけ・銭貨・鉄釘などがあり、銭貨1点のみ図示可能であった。

第55号土坑 SX55 (第41図)

第55号土坑は調査区北部4区で検出した。径0.8mの円形を呈する土坑ある。深さは6cmと非常に浅く、断面は皿状を呈す。ピットと重複するが、新旧関係は不明である。遺物は出土しなかった。

第56号土坑 SX56 (第41図)

第56号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺0.78m・短辺0.58mの不整形を呈す土坑で、深さは8cmを測る。3基のピットと重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物はかわらけのみで、手づくね成形かわらけ1点が図示可能であった。

第57号土坑 SX57 (第41図)

第57号土坑は調査区北部4区で検出した。近世以降の第20号溝状遺構と重複しているため、半分程度の検出である。新旧関係は本遺構の方が古い。確認できた残存長は0.88×0.54mで、楕円形を呈すと思われる。深さは6cmで非常に浅い。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第58号土坑 SX58 (第41図)

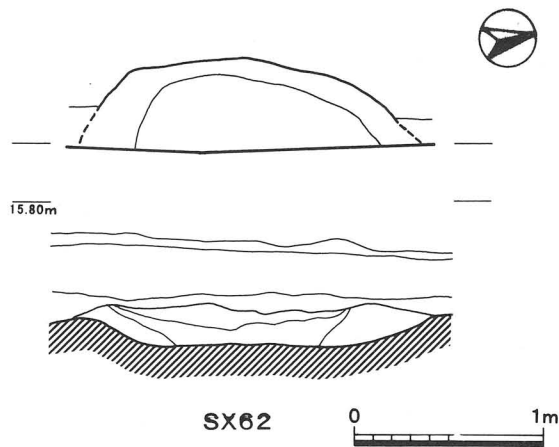
第58号土坑は調査区北部4区で検出した。近世以降の第31号溝状遺構と重複しているため、一部検出できなかった部分もある。残存長は1.12×0.94mで、楕円形あるいは不整形を呈すと考えられる。途中に段を有し、深さは14cmである。出土遺物はかわらけ小破片のみで、図示可能な遺物はなかった。

第59号土坑 SX59 (第41図)

第59号土坑は調査区北部4区で検出した。径1.25mの円形を呈する土坑で、深さは14cmを測る。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁・瓦質製品・石製品・鉄釘などがあるが、いずれも小破片であり、砥石1点のみ図示可能であった。

第60号土坑 SX60 (第41図)

第60号土坑は調査区北部4区で検出した。長辺1.0m・短辺0.95mの不整形な土坑である。深さはわ



第42図 第62号土坑

ずか3cmほどしか確認できなかった。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第61号土坑 SX61 (第41図)

第61号土坑は調査区北部4区で検出した。第1号溝状遺構と第37号溝状遺構と重複するため、全体を検出することはできなかった。第37号溝状遺構よりも本遺構が古い。第1号溝状遺構との新旧関係は確認できなかった。残存する規模は長辺1.05m・短辺1.0mの楕円形を呈す。深さは10cm程度である。出土遺物はかわらけ・貿易陶磁などがあるが、いずれも小破片であり、図示可能な遺物はなかった。

第62号土坑 SX62 (第42図)

第62号土坑は調査区南部1区の東壁際で検出した。半分以上が調査区外にあるため、全体の規模は明らかではないが、残存長は長辺1.82m・短辺1.48mで、楕円形を呈する土坑と思われる。確認された深さは25cmである。覆土から焼土・炭化物・骨片などが出土しているため、火葬遺構と推測される。出土遺物はなかったが、掘込み面や覆土の状態から、近世以降の遺構と考えられる。

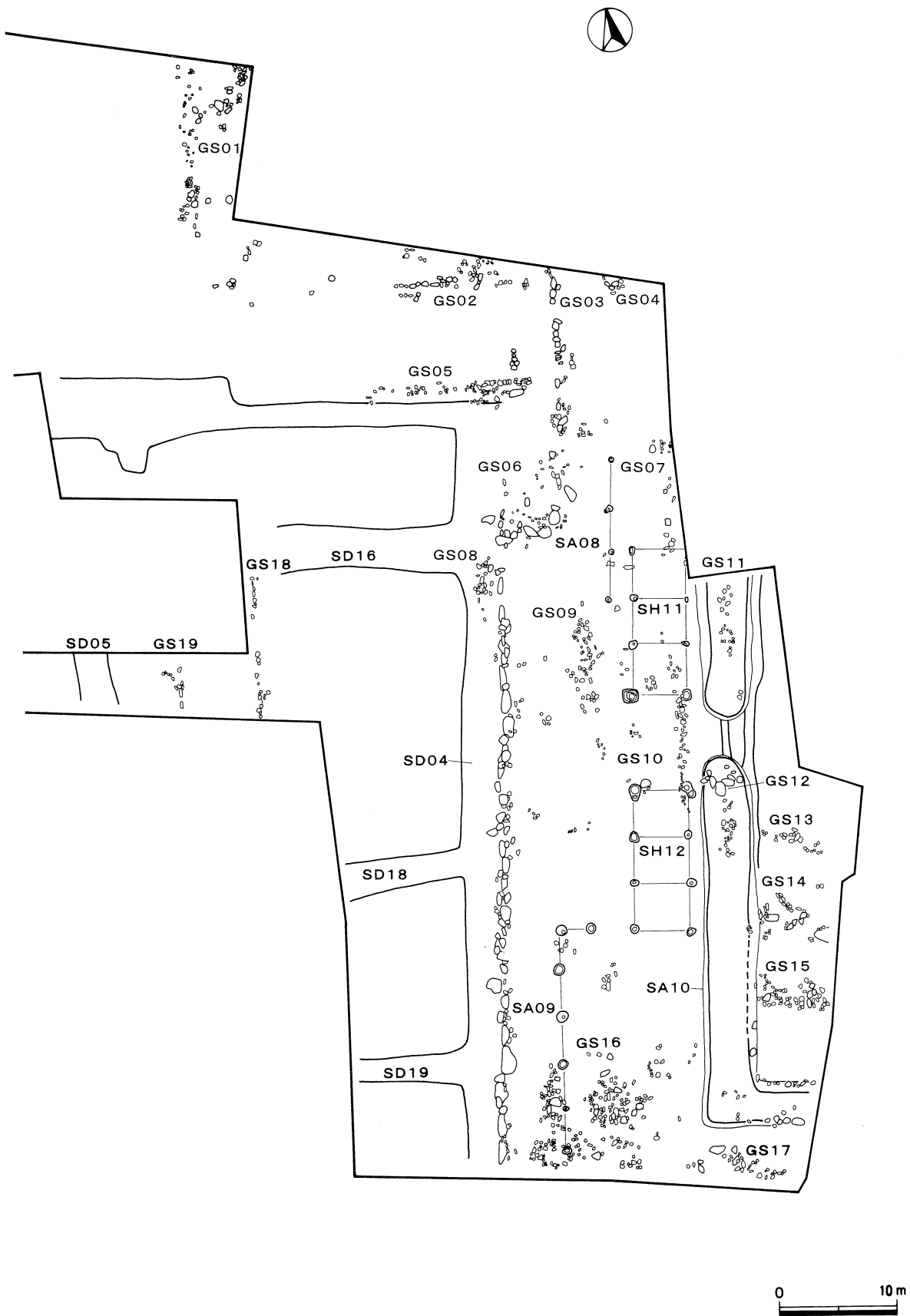
(6) 集石

1区～2区にかけて、礫が集中して分布する状況が検出された。これらの中には、密集して分布するものや、散在的にあるもの、列状に配置されている例など、様々なようすがみられた。礫の多くは、遺跡の背後にある守山の安山岩を利用したもので、一部狩野川の川原石も含まれていた。また、石製品や瓦、かわらけなどを伴っているものも多く認められた。調査時においては、とくにグルーピングは行わなかったが、整理の段階で便宜的に19ヶ所の集中域を設定し、集石として記述することにした。なお、調査段階においては、集石下部の調査は行われておらず、下部の遺構等の有無については不明である。

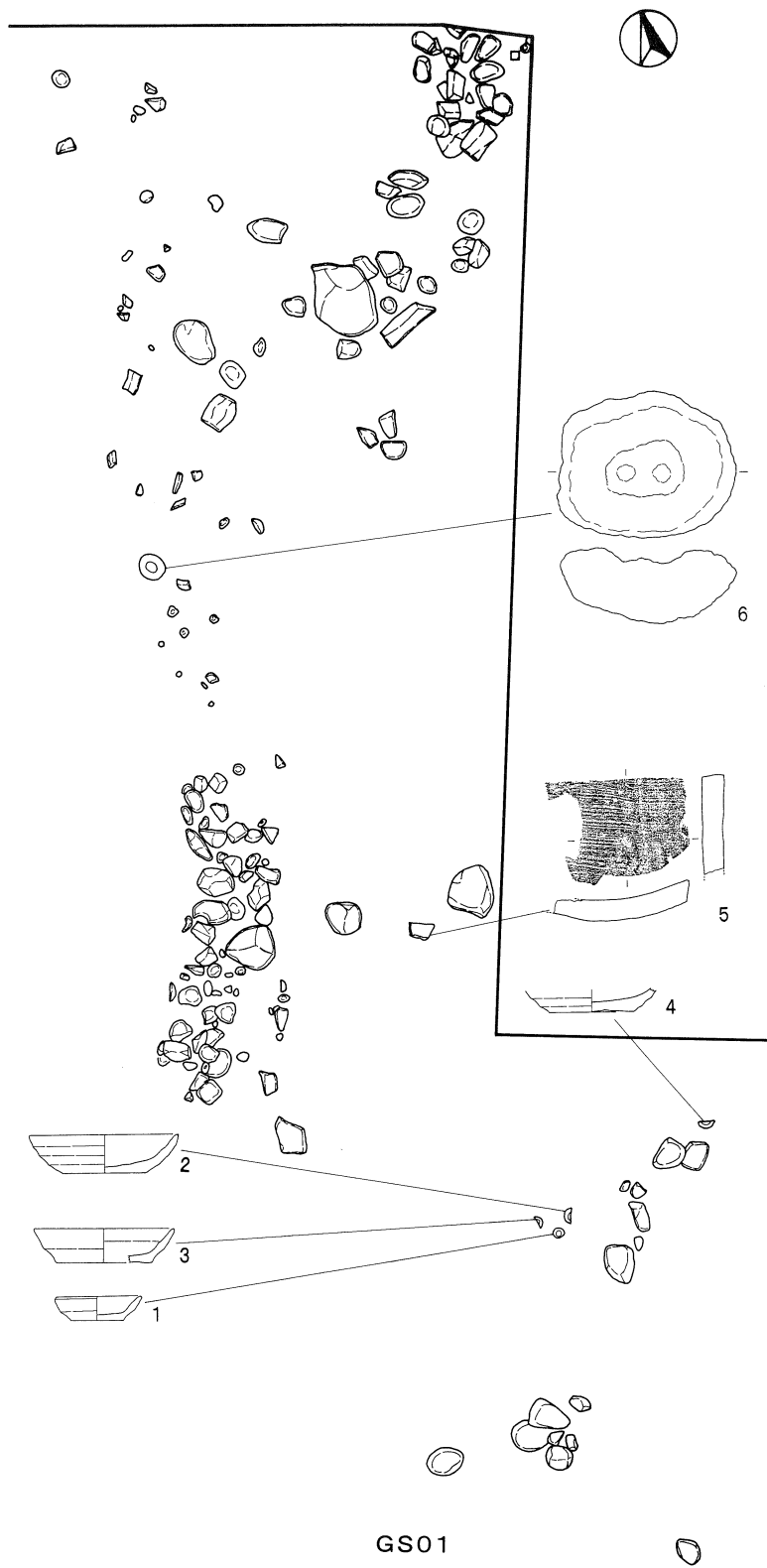
第1号集石 GS01 (第44図)

2区で検出したもので、北・東側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北9.6m、東西3.75mである。人頭大～拳大の礫がで構成され、2ヶ所で集中する範囲がある他は散在的に分布していた。

本集石範囲では、かわらけ・瓦・凹石状の石製品などが出土している。いずれの遺物も、集石がやや



第43図 1・2区 集石の配置と中世後期遺構



第44図 第1号集石

疎らな部分で出土しているため、この集石に伴うものであるかは、やや疑問がある。

第2号集石 GS02 (第45図)

2区東端で検出した。集石範囲は東西長5.74mで、北側が調査区外にあるため確認された南北長は2.05mである。一部人頭大～拳大の礫が2列の列状をなす部分が見られ、下部に溝状遺構の存在が予想されたが、下部調査を行っていないため不明である。

遺物は比較的多く、常滑片口鉢・かわらけ・瓦などが礫の間から出土している。

第3号集石 GS03 (第45図)

1区～2区にかけて南北に配置された集石である。北側は調査区外にあるため南北長は不明であるが、残存長で7.1mを測る。これに対し、東西幅は最も広いところで1.7mであった。人頭大の礫が1列に並び、これに拳大礫が付随するようすが観察された。本集石に伴う出土遺物はなかった。

第4号集石 GS04 (第45図)

2区東端で検出したもので、北側は調査区外にあるため、一部を確認したにすぎない。確認された集石範囲は南北0.7m、東西0.87mである。比較的小さい礫で構成されている。本集石に伴う出土遺物はなかった。

第5号集石 GS05 (第45図)

調査区南部の1区で検出した。南側で第14号溝状遺構と重複しているため、一部検出できなかったが、南北2.8m、東西7.0mの範囲に分布している。一部人頭大の礫が列状をなして配置され、その内部に拳大礫を充填しているような範囲も認められたが、南側が検出できなかったため、全体の構成は不明である。

出土遺物は、常滑甕破片が2点認められたのみで、図示可能遺物はなかった。

第6号集石 GS06 (第46図)

1区北部で検出したもので、南北4.45m、東西4.4mの範囲に分布していた。人頭大から一抱えほどの大きな礫が弧状に配置され、その北側に拳大の礫が散在的に配置され、全体には円形を呈すようである。

遺物は礫の空白部から多く出土している。かわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などで、かわらけ5点が図示可能であった。

第7号集石 GS07 (第46図)

1区東端で検出したもので、東側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北6.15m、東西1.1mである。人頭大～拳大の礫で構成され、現状では散在的に列状に並ぶような状況が認められた。遺物は出土しなかった。

第8号集石 GS08 (第46図)

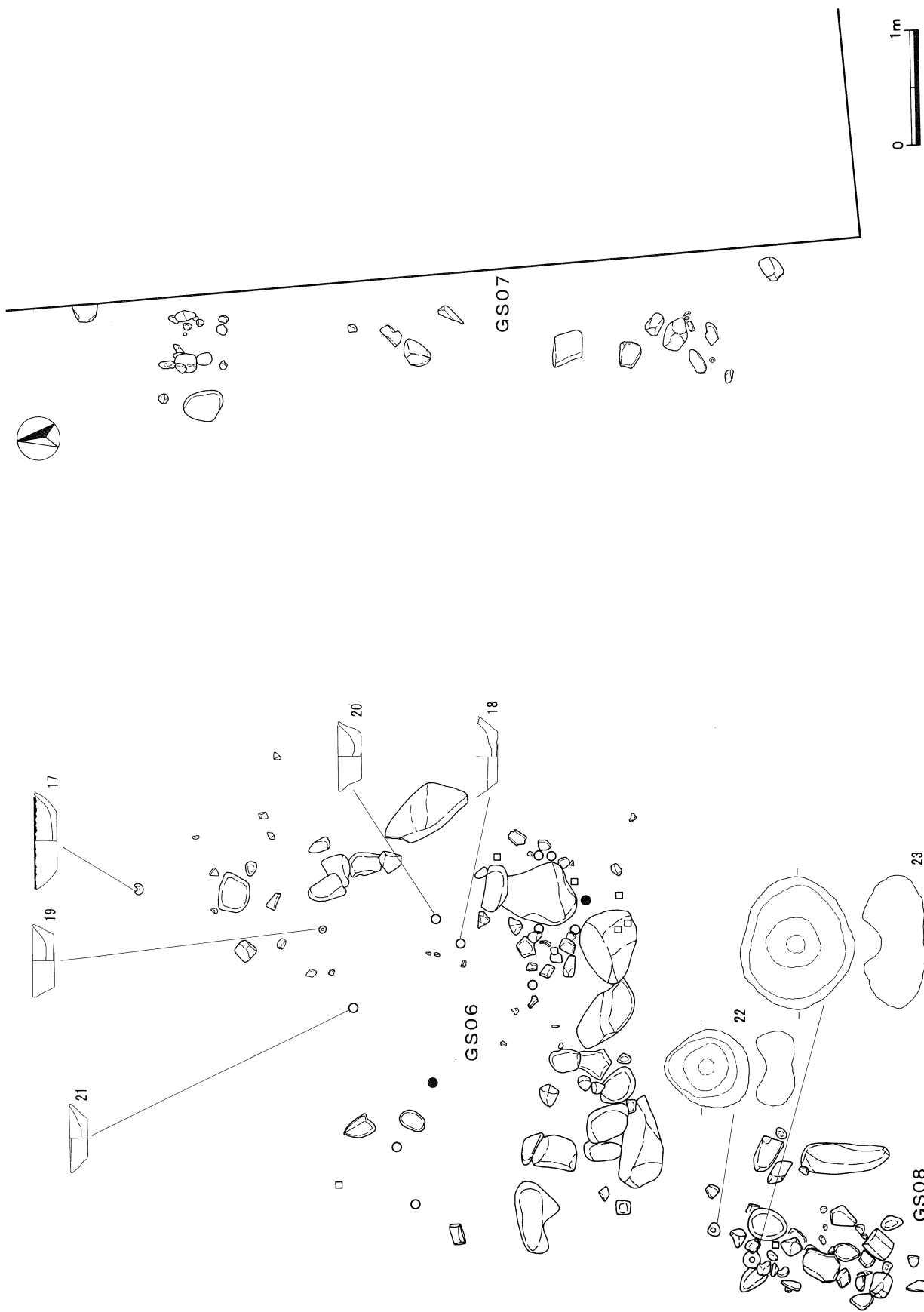
1区の第4号溝状遺構の北側で検出した集石である。第4号溝状遺構の延長上にあるが、下部調査を行っていないため、溝との関連・新旧関係等は不明である。範囲は南北1.95m、東西1.55mで、人頭大～拳大の礫が非常に密集して配置されている。集石の中には、軽石製の凹石状石製品2点が含まれていた。

第9号集石 GS09 (第47図)

調査区南部の1区で検出したもので、確認された集石範囲は南北4.9m、東西1.72mである。拳大程



第45図 第2～5号集石



第46図 第6～8号集石

度の比較的大きさの揃った礫がやや集中的に分布していた。

集石東側で瓦数点が出土し、軒平瓦1点を図示したが、集石域からやや離れて出土しているため、本集石に伴うものであるかは若干疑問がある。

第10号集石 GS10 (第47図)

調査区南部の1区で検出した集石で、第11号・12号掘立柱建物跡の間に分布する。掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。分布範囲は南北7.8m、東西4.63mで、人頭大～拳大の礫で構成されている。東側に列状に並ぶ配置があり、その周囲に密集する範囲や散在的な分布などが見られた。

本集石範囲からは、大量の瓦が出土している。総数97点で、35点を図示した。他にかわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・瓦質製品等が出土しており、かわらけ2点が図示可能であった。

第11号集石 GS11 (第47図)

1区の東部、築地基礎と思われる第10号遺構上で検出した。北側が調査区外にあるため全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北3.08m、東西1.35mである。比較的小形の拳大礫で構成される。第10号遺構を構成する礫になる可能性もあるが、調査段階ではその確認はしていない。

同一面上から平瓦1点が出土している。

第12号集石 GS12 (第48図)

第12号集石は、第11号同様第10号遺構上で検出した。集石範囲は南北2.53m、東西1.1mである。北側は人頭大から一抱えほどの大きな礫が集中し、南側は比較的小形の拳大礫で構成されるようすが認められた。

同一面上から平瓦1点が出土した。その他かわらけ小破片が出土しているが図示はできなかった。

第13号集石 GS13 (第48図)

1区第10号遺構東側で検出した小規模な集石である。確認された範囲は南北0.7m、東西0.97mである。人頭大～拳大の礫で構成される。遺物は出土しなかった。

第14号集石 GS14 (第48図)

第13号集石同様1区第10号遺構東側で検出した集石である。確認された範囲は南北1.72m、東西2.08mで、人頭大～拳大の礫で構成される。2ヶ所で比較的大きさの揃った礫が弧状に並ぶようすが認められたが、下部遺構の有無が不明のため、詳細は明らかではない。

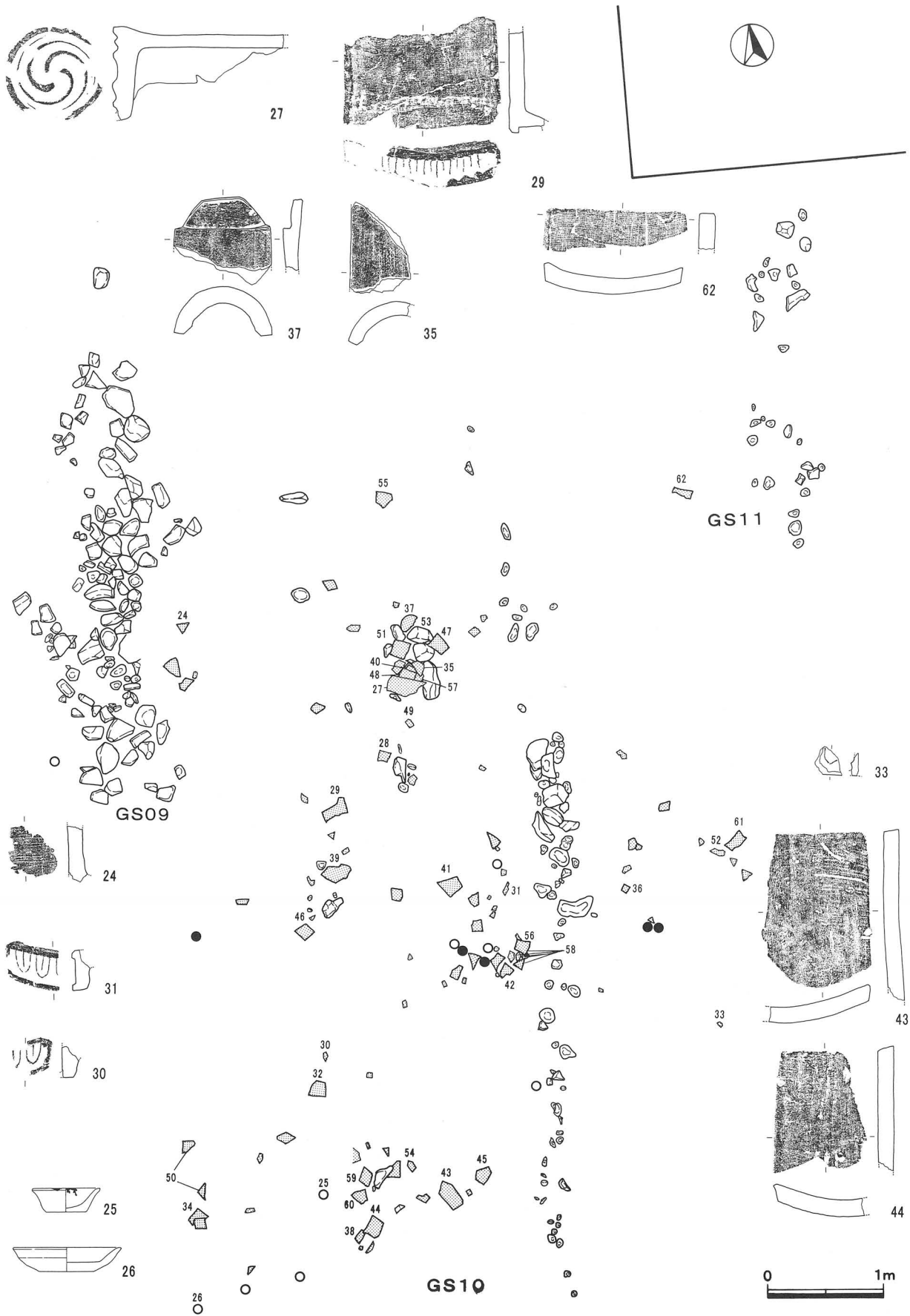
出土遺物は、瓦破片があるのみで、図示可能遺物はなかった。

第15号集石 GS15 (第48図)

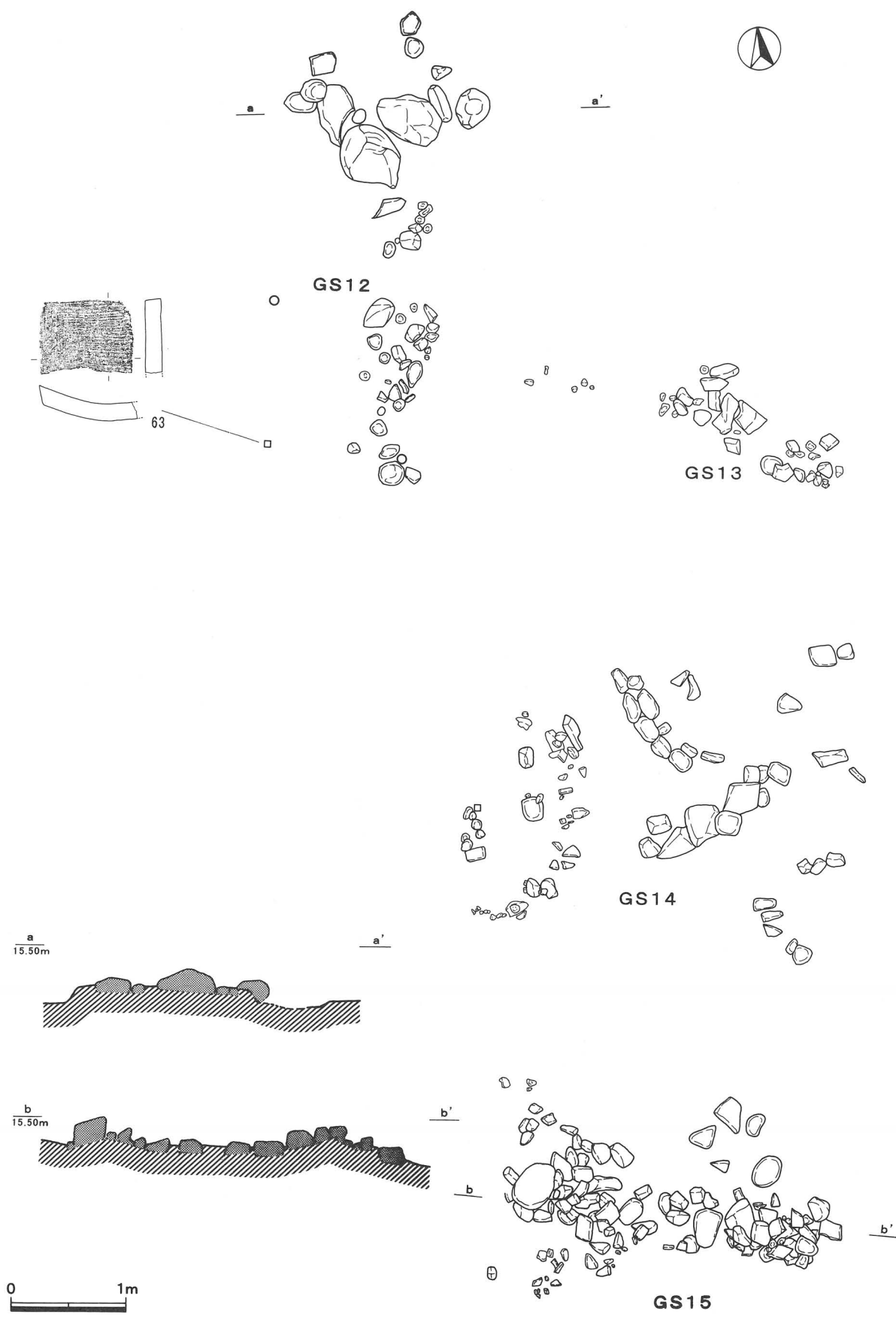
第13・14号集石同様1区第10号遺構東側で検出された。東側が調査区外にかかっているため、全体の規模は明らかではないが、確認された範囲は南北1.18m、東西1.75mである。人頭大～拳大の礫が比較的密集して分布していた。遺物は出土しなかった。

第16号集石 GS16 (第49図)

1区南部で検出したもので、南側が調査区外にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北4.48m、東西7.25mである。中間にやや分布の疎らな部分があるため2つに分かれる可能性もあるが、明白な境界が認められなかったため1基の集石として扱った。人頭大～拳大の礫で構成され、



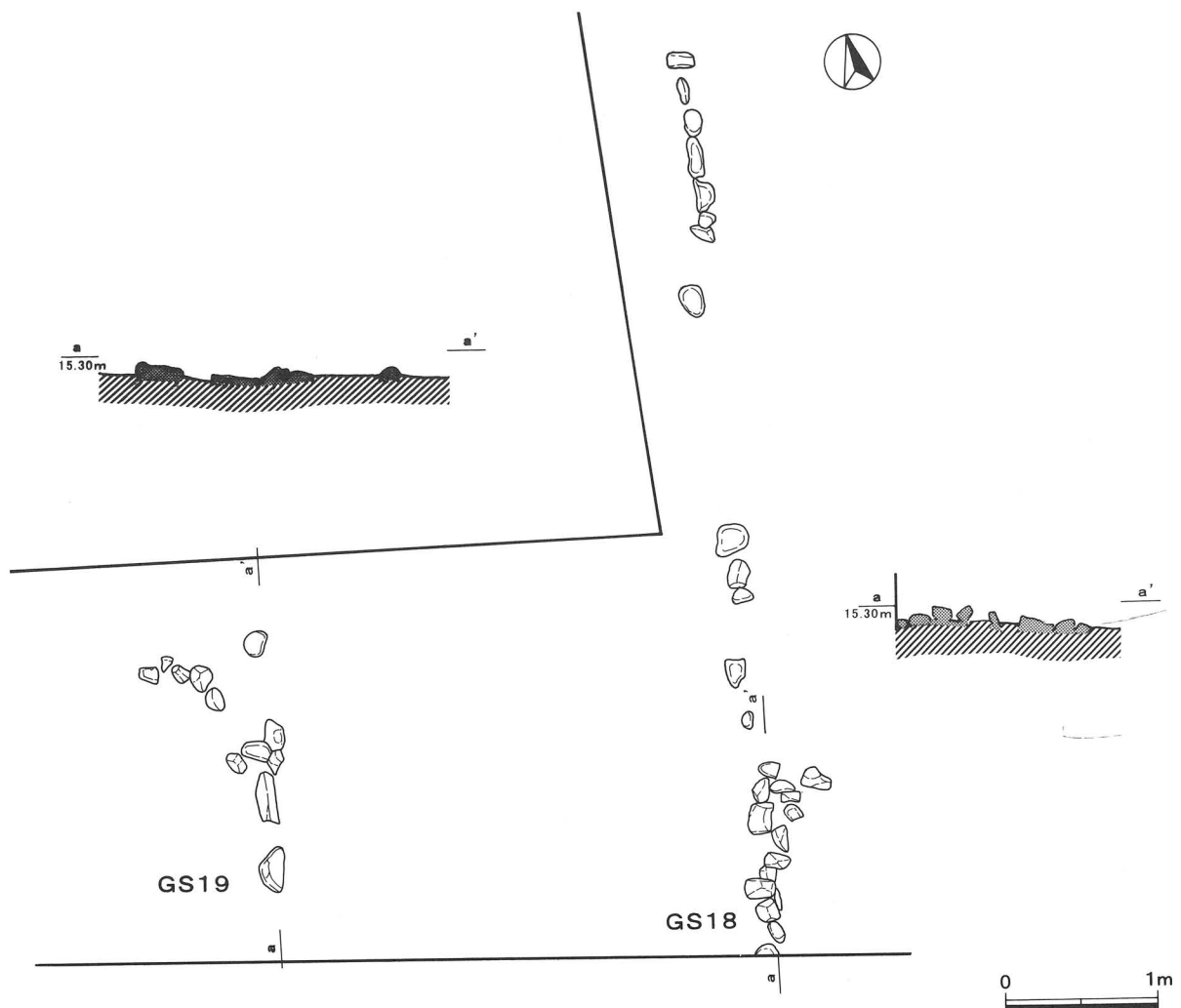
第47图 第9~11号集石



第48図 第12~15号集石



第49図 第16・17号集石



第50図 第18・19号集石

密集箇所と散在的な分布とがみられた。

出土遺物にはかわらけ・瀬戸美濃・常滑・瓦などがあり、瀬戸美濃播鉢・かわらけ・瓦、軽石製品を図示した。

第17号集石 GS17 (第49図)

1区南部の第16号集石東側で検出したもので、調査区南東隅にあるため全体の規模は不明である。確認された集石範囲は南北0.92m、東西2.56mである。比較的大きめの人頭大の礫が多く、周辺に散在する拳大の礫とで構成される。

出土遺物はかわらけのみで、2点が図示可能であった。

第18号集石 GS18 (第50図)

1区西端で検出した。拳大よりやや大きめの礫が、南北の列状に配置されたもので、集石というよりは列石に近い。南北ともに調査区外に延びているため。全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北3.7m、東西0.38mである。集石下部の調査を行っていないため明らかではないが、溝状遺構の構成礫の可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

第19号集石 GS19 (第50図)

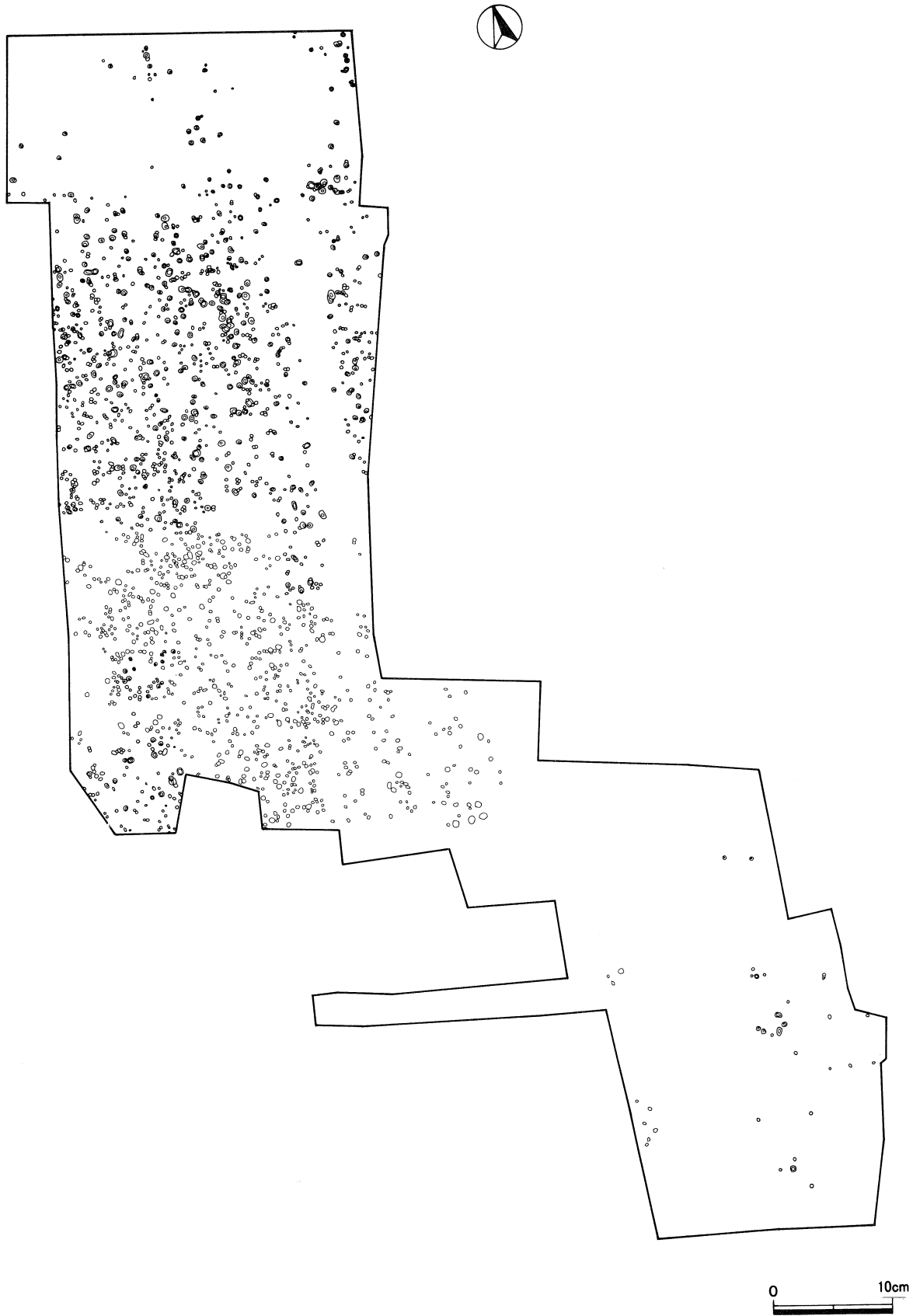
1区から西に設定したトレンチ内で検出した。南北ともに調査区外にあるため。全体の規模は不明であるが、確認された範囲は南北1.05m、東西0.58mである。第18号集石同様南北の列状に配置されたものであるが、詳細は明らかではない。遺物は出土しなかった。

(7)ピット群 (第51図)

本遺跡では掘立柱建物跡の柱穴と認識したもの以外に、多数のピットが検出されている。これらの多くは建物や柵列などを構成するものと思われるが、現状では認定はできなかつたため、ピット群として一括した。

検出数は、1区が25基、3区が128基、4区が636基、5区が107基、総数896基である。これらのうち、5区と4区の北側約2/3の範囲のみ、調査を行い、4区南部と2・3区はプランの確認にとどまっている。そのため、3区は11基が、4区は289基が未調査である。また、1区・2区については、集石下部の調査を行っていないため、そその下層にあるピット等については確認していない。したがって、現状でみえるピットの粗密はあくまでも調査の進捗によるもので、実際のピット分布状況を示していない。また、遺物が出土したピットは少ないため、時期認定が難しく、これらの中に近世以降のものも含まれていると思われる。

調査を行ったピットの形状は隅丸の角を基調とするものや、丸のものがあり、規模は径10～40cmで平均約27cmであった。深さは10cm～30cmまでさまざまである。



第51図 ピット群分布図

2. 遺物

(1) 掘立柱建物跡・柱穴列出土遺物

掘立柱建物跡・柱穴跡ともには遺物はほとんど出土せず、わずかにかわらけ小片が確認されるにすぎない。図示可能であったものは、6号掘立柱建物跡と2・3号掘立柱建物跡をめぐる第2号柱穴列のピット中からである。

第6号掘立柱建物跡 SH06 (第52図)

第6号掘立柱建物跡では、ピット2から丸瓦の破片が出土している。凸面には縄目、凹面には布目痕が認められる。

第2号柱穴列 SA02 (第53図)

第2号柱穴列は布堀を伴う塀跡であるが、その布堀の溝中より凹みを有す軽石製品が2点出土した。2は半分以下の残存であるが、中央に凹みを有す。3は左右端部の一部を欠いているもののほぼ全形が確認できる。いずれも凹みは表面のみに認められた。

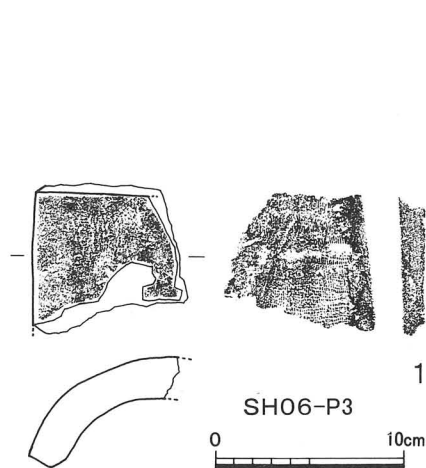
(2) 井戸出土遺物

第1号井戸跡 SE01 (第54図 図版8・16)

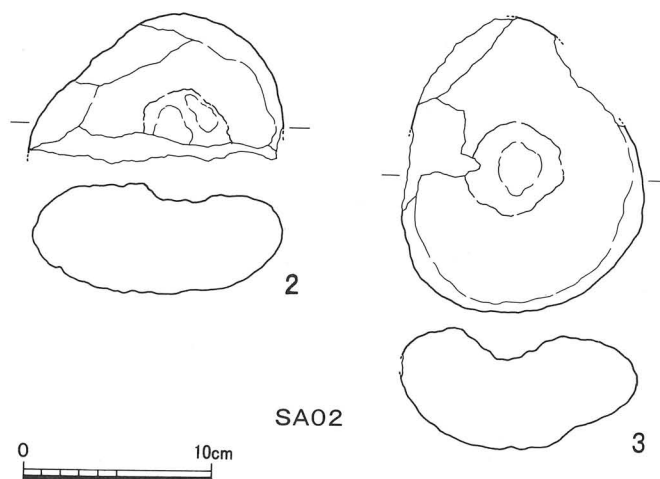
第1号井戸跡からは貿易陶磁13点、東遠江系の山茶碗類4点、かわらけ512点が出土している。このうち、30点が図示可能であった。

第54図1～5は貿易陶磁である。いずれも白磁で、1～3が碗、4が小壺、5は合子の蓋破片と思われる。6～8は東遠江系の山茶碗で、6・7が碗、8は片口鉢である。

当井戸で最も多く出土しているのはかわらけで、22点を図示した。9～13は大形のかわらけで、底径の大きい皿形の9・10と、底径が小さく坏状を呈す11～13との2タイプが認められる。いずれも底部が厚く器厚も全体に厚い特徴をもつ。14～29は小形のかわらけで、口径は9～10cmを測る。大形のかわらけ同様、底部が厚く、また突出する特徴が認められる。皿形と坏形の2タイプの形状があり、14・15・19～21は底径6.0～6.5cmの皿形、16・17は底径5.0～6.0cmの坏形である。さらに底径5.0cm以下の22～24がある。30は手づくね成形かわらけである。



第52図 掘立柱建物跡出土遺物



第53図 柱穴列出土遺物

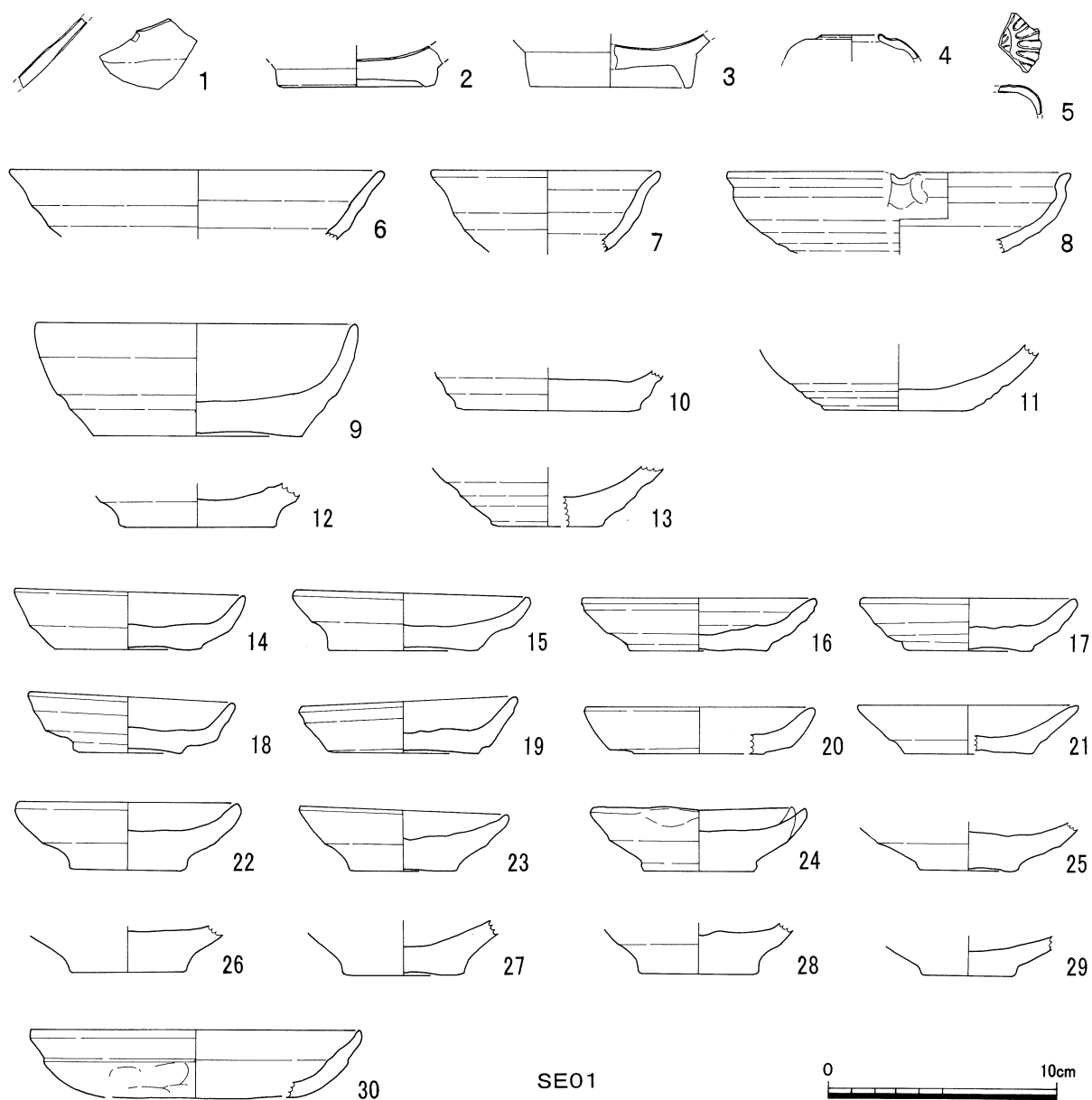
第1号井戸で出土した貿易陶磁は青磁を含まず、白磁は1がⅡ類、2がⅣ類、3がⅤ類に比定される。かわらけも30以外はすべてロクロ成形で、底部の厚い古代末土師器の系統にあるものが認められる。さらに、東遠江系山茶碗の年代等も考慮すれば、本遺構の年代は12世紀後半と考えられる。

第2号井戸跡 SE02 (第55・56図 図版8・16)

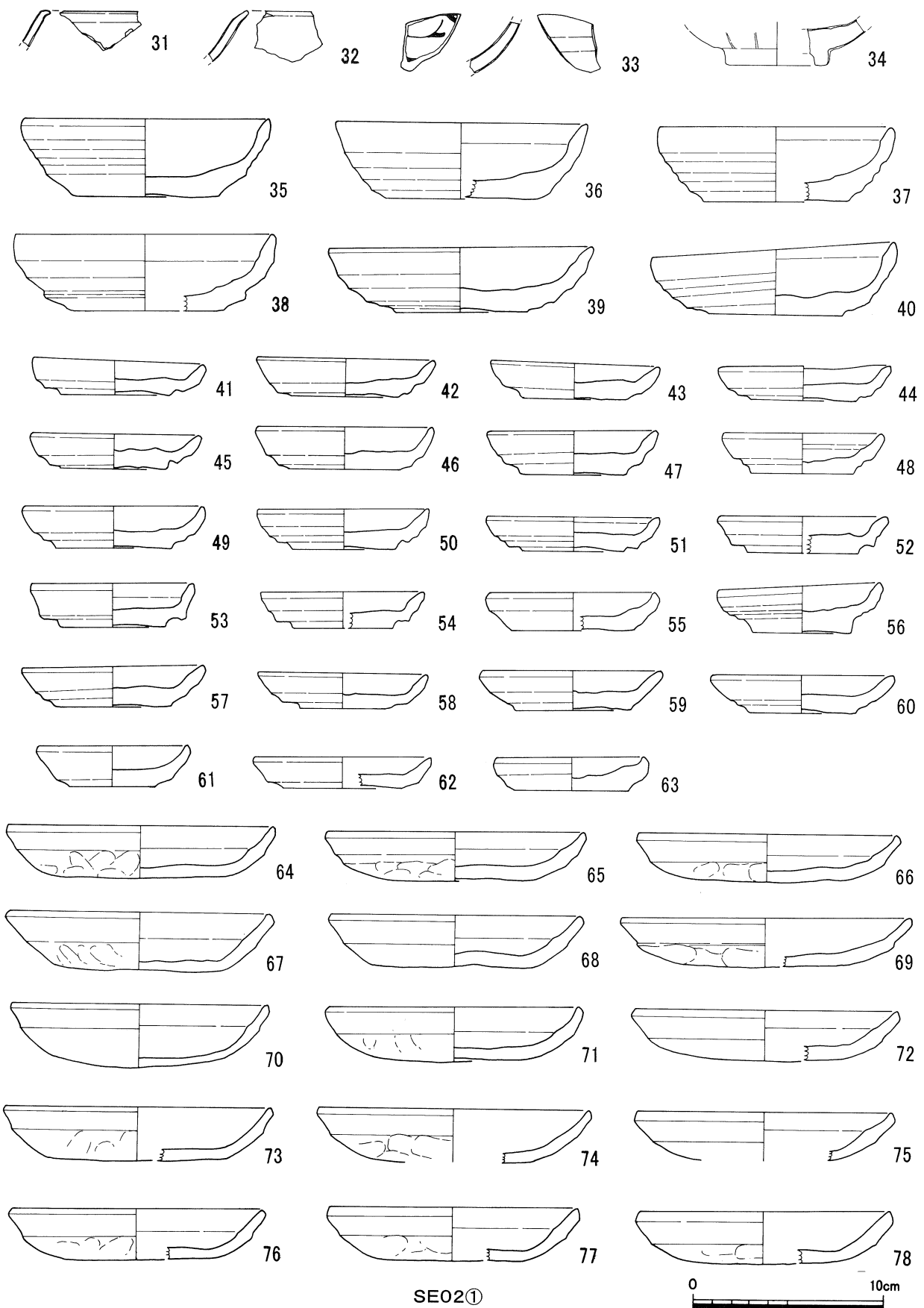
第2号井戸跡からは大量のかわらけが出土している。かわらけは、ロクロ成形と手づくね成形の2種があり、出土破片数は、前者が358点、後者が647点で、手づくね成形かわらけが多い傾向が認められた。この他、貿易陶磁8点、常滑3点、石製品が出土している。このうち、52点が図示可能であった。

31～34は貿易陶磁である。31・32は白磁碗で31がⅤ類かⅧ類、32は口禿のⅨ類である。33・34は龍泉窯系の青磁碗で、33が劃花文のⅠ-2類、34が蓮弁文のⅠ-5類である。

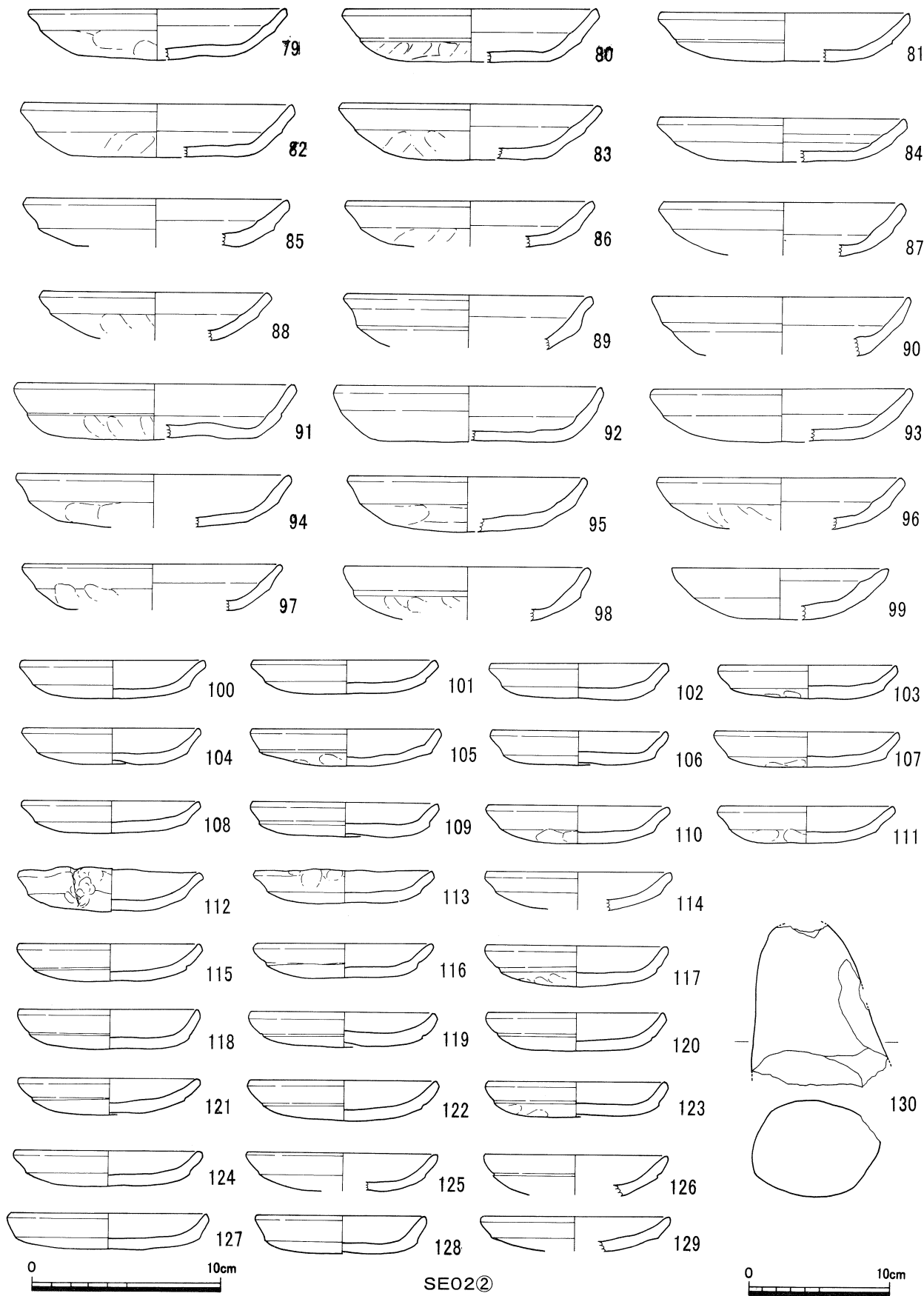
かわらけはロクロ成形29点、手づくね成形66点を図示した。ロクロ成形のかわらけは大小があり、



第54図 井戸出土遺物(1)



第55図 井戸出土遺物(2)



第56図 井戸出土遺物(3)

それぞれ第1号井戸同様に、底径の大きい皿形と底径が小さい坏形の2タイプが認められた。大形のかわらは口径13.0~14.0cmで、皿形の35~38は底径7.0~8.0cmである。器高は4.0cm前後のものが多い。坏形の39・40は底径7.0cm前後で、器高も3.5cm前後と皿形に比べてやや低い。また、坏形は体部の内彎が強い特徴がみられた。41~63は小形のロクロ成形かわらけである。口径は9.0cm前後、器高は2.0cm前後である。大形同様、底径の大小により分類が可能である。41~55・57・59・60は底径5.3~6.0cmの皿形である。56・58は底径が5.0cm前後を測る坏形のかわらけである。

64~129は手づくね成形のかわらけである。64~99が大形、100~129が小形のものである。

大形かわらけは、口径13.0~14.0cm、器高は2.5~3.0cmを測る。口唇部の形状によって以下の3種類が認められた。明瞭な面取りするものは64~69、弱い面取りのものは76・79・82~87である。また、91~99は口唇部に面をもたず、丸くなっているか尖り気味に仕上げているものである。さらに内底面の調整には、通常見られるナデ調整の他に粗いハケ状のナデが認められた。ハケ状の調整をもつものは64・68・79・80・81・94・95である。また、82・84のようにハケ状の調整を施した後ナデ調整をする例もある。

小形の手づくねかわらけは、口径9.4~10.0cm、器高は1.7~2.0cmである。全体の形状では、100~114のように口縁部が外反し口縁下に明瞭な稜を有するものと、115~129のように体部からそのまま口縁部が内彎し、口縁下はわずかに稜をつくるか沈線状になるものとが認められる。また、大形かわらけ同様口唇部に面取りを施すものと丸みのあるものの2種がある。面取りは100~114・117・120・122・123などで、口縁部が外反するものは面取りを有す傾向が認められる。ただし、大形かわらけに比べて面取りの幅は小さく明確ではない。口唇部を丸く仕上げるものは、115・116・118・119・121・124~129で、口縁部内彎タイプの多くがこの形状をとる。内底面の調整は、ナデとハケ状調整の2種が認められた。なお、112は口縁部から体部にかけて接合痕とその後の調整痕が明瞭に残っているもので、円盤切り込み技法がよくわかる例である。

130は大形の砥石である。軟質の砂岩系の石材を使用している。

第2号井戸跡は、出土した貿易陶磁の年代や手づくねかわらけが出土していること、ロクロ成形かわらけの形態や整形技法などから、13世紀初頭~前半の遺構と考えられる。また、図示はしなかったが2~3型式の常滑甕が出土していることもその証左と考える。

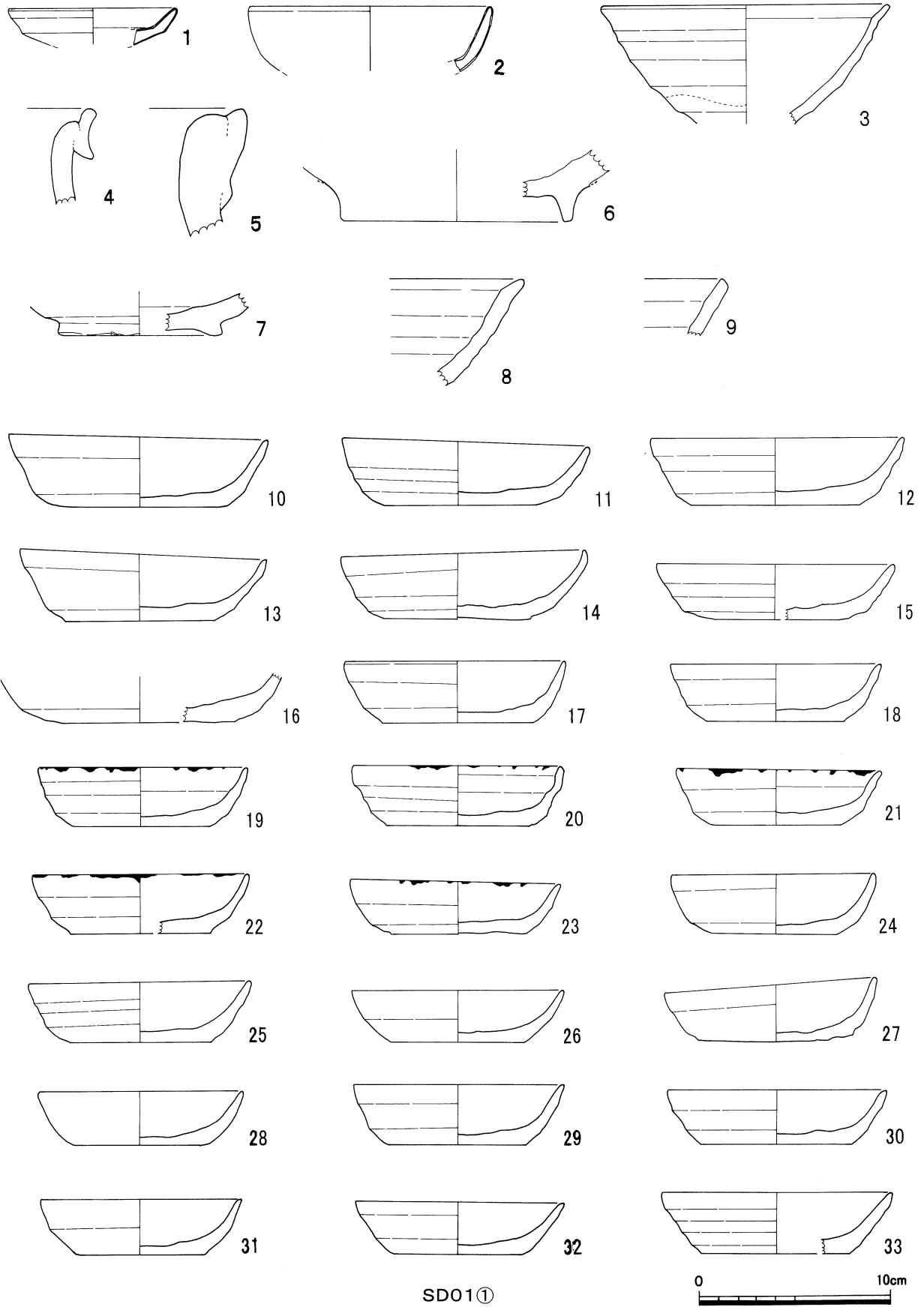
(3) 溝状遺構出土遺物

溝状遺構は39基検出されたが、そのうち第1~19号溝状遺構が中世、第20~39号溝状遺構は近世以降の遺構である。まとめて遺物が出土したのは、第1~4号溝状遺構で、とくに第4号溝状遺構は量・種類とも豊富な遺物が出土している。

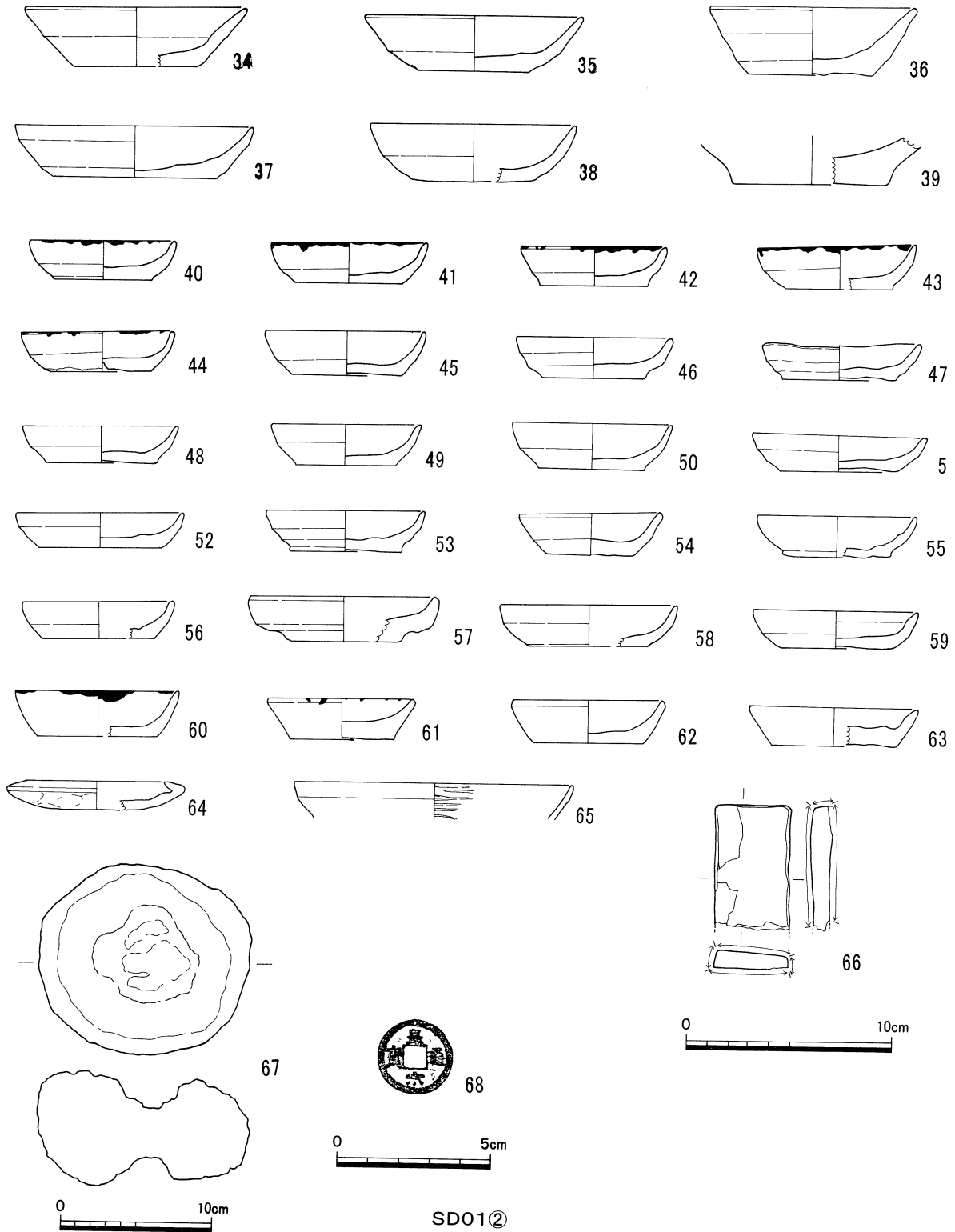
第1号溝状遺構 SD01 (第57・58図 図版8・16)

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・渥美・山茶碗・砥石・銭貨などである。貿易陶磁は、白磁碗・皿、青磁碗・皿、青白磁皿、緑釉・黄釉の盤など16点が出土しているが、図示可能遺物は1・2の青磁である。1は同安窯系の皿、2は龍泉窯系の皿か鉢である。瀬戸美濃は2点出土しており、3の平碗を図示した。古瀬戸中期Ⅱ・Ⅲ期である。常滑は甕20点、片口鉢Ⅰが7点出土している。2型式~10型式が出土しているが、4~6b型式が主体である。図示可能遺物は3点で、4は6b型式の甕、5は10型式の甕、6は片口鉢で、5~6a形式である。全体からみて5は混入であろう。また、6a型式の山茶碗も出土している。渥美は甕が6点出土したが、図示可能なものはなかった。山茶碗は碗・片口鉢などが5点出土している。7~9の3点を図示した。7は碗、8・9は片口鉢であろう。

かわらけは、破片数で4,269点出土している。図示可能遺物は10~64の55点である。本遺構出土のかわらけの分量は大きく以下の3つに分けることができる。口径12.0cmを越え、底径7.6~9.0cmの大形(10~15)、



第57図 溝状遺構出土遺物(1)



第58図 溝状遺構出土遺物(2)

口径10.0~11.5cmで底径6.5~8.0cmの中形(17~32)、口径8.0cm以下、底径5.0cm前後の小形(40~50・53・55・56)である。体部はやや内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾しながら開く。いずれも内底面に丁寧なナデを施し、底部には板状圧痕が認められる。なお、16は底径9.8cmを測る大形品である。また、51・52・58・59は口径8.0~8.5cmのもので、中形と小形の中間の大きさである。胎土・調整等は、他の3法量のものと共通してお

り、さらに2法量ある可能性もあるが、出土量が少ないため明確には規定できない。64は手づくねのコースター形のかわらけである。その他のかわらけは、上記の規格外のもので、前後の時期の混入と思われる。

65は瓦器碗である。楠葉産と思われる。

石製品は砥石と軽石製品の2点を図示した。66は残存長6.1cmの仕上砥で鳴滝産である。67は表裏にを凹み有す軽石製品である。銭貨は1点出土しており、68は北宋銭・皇宋通宝である。

以上の出土遺物、とくにロクロ成形かわらけの形態や技法の特徴、手づくね成形かわらけがみられないことなどから、当遺構の時期は13世紀後半に比定される。

第2号溝状遺構 SD02 (第59図 図版16)

かわらけ・瓦質風炉・常滑等が出土している。

かわらけは破片数で61点出土しており、69～76の8点が図示可能であった。69～75は口径10.0～11.4cmを測る。70～75は底径は6.5cm前後であるが、69は底径7.6cmを測り、他に比べて大きめである。76は口径6.4cmの小形かわらけで、底径が3.8cmと小さくがやや突出する。内底面にナデを施し、底部には板状圧痕が残る。SD01の法量分布と比較すると、69～75は中形、76は小形に相当すると考えられる。

77は瓦質風炉である。直立する口縁部には縦沈線が施され、上面には台形の突起が付けられる。体部には透かし窓が設けられている。

SD02のかわらけは、形態の特徴や内底面のナデが簡略化されていることなどから、SD01よりも後出のものと考えられる。当遺構の時期は13世紀末～14世紀以降の年代を想定しておきたい。

第3号溝状遺構 SD03 (第59図 図版9・16)

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・常滑・渥美などである。

貿易陶磁は白磁皿、青磁碗、褐釉壺、緑釉盤などが5点出土しているが、78～81の4点が図示可能であった。78は白磁の皿で、ⅡかⅢ類と思われる。79・80は青磁の劃花文碗で、79がⅠ-2類、80がⅠ-3類である。81は褐釉の壺で長胴壺であろう。

常滑は甕18点、片口鉢1点が出土した。図示した82は10型式の片口鉢Ⅱ類であるが、他の甕はすべて2～4型式で、やや混在している状況である。渥美の甕も5点出土しているが、図示はできなかった。

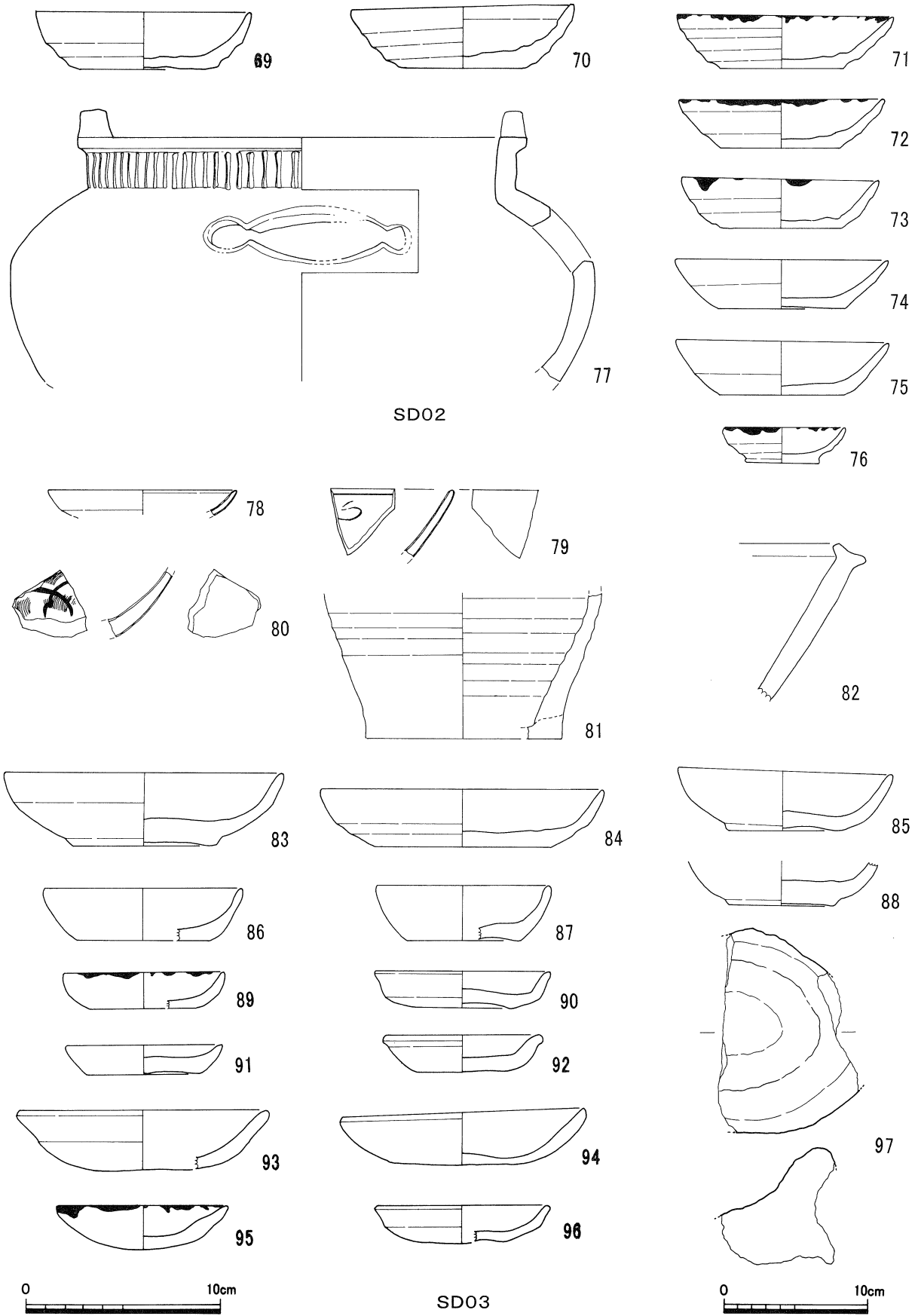
かわらけは472点出土した。このうち、83～96の14点を図示した。ロクロ成形(83～92)と手づくね成形(93～96)のものがある。83・84は口径14.0cmを超える大形のかわらけである。83は底径7.4cmで小さめの坏形、84は底径9.0cmの皿形である。85～87は口径9.0～11.0cmの中形のかわらけである。大形同様坏形(85・88)と皿形(86・87)に分けることができる。89～92は口径8.0～9.0cmを測る小形かわらけである。底径は5.0～6.0cmで、器高の低い皿形を呈す大・中・小のいずれも内底面のナデの有無は摩滅により確認できなかったが、底部の板状圧痕は認められなかった。

93～96は手づくね成形かわらけである。93・94は口径13.0cm前後の大形、95・96は口径9.0cm前後の小形のものである。いずれも器厚が厚く、口唇部が尖り気味である。95は口縁部にススが附着している。

出土遺物の年代は、貿易陶磁がやや古い様相を示しているものの、手づくね成形かわらけがかなり退化したものであり、ロクロ成形かわらけもやや小形化していることから、かわらけの年代は第2号井戸よりも新しく位置づけられ、当遺構の年代を13世紀中葉頃と考えておく。

第4号溝状遺構 SD04 (第60～67図 図版9・10・17)

出土遺物は、かわらけ・貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・志戸呂・瓦質製品・砥石・銭貨・スラグなどがある。とくにかわらけは実測可能個体で243点、総破片数で3,000点以上の数量が出土している。また、



第59図 溝状遺構出土遺物(3)

瓦質製品も種類・量ともに豊富で、火鉢・風炉・香炉などがあり、総破片数は65点を数える。

貿易陶磁は、白磁碗・皿、青磁碗・皿・鉢類、青白磁皿・合子、天目茶碗、緑釉盤など40点が出土している。このうち14点が図示可能であった。98は白磁の皿で口禿のⅨ類である。99～101は同安窯系青磁で、99は碗、100・101は皿である。102～105は龍泉窯系青磁の碗である。102は蓮弁文のⅠ-5類、103・104は端反碗、105は輪花小碗である。107・108は青磁の大形盤であろう。109は青白磁の合子・蓋である。110・111は天目茶碗である。110は建窯産と思われる。

瀬戸美濃は器種・量ともに豊富で、101点出土している。このうち112～132の21点を図示した。112～114は天目茶碗でいずれも古瀬戸後Ⅲ期である。115～117は小天目茶碗で、115が後Ⅱ期、116・117は後ⅠかⅡ期である。118～120は平碗である。118・120は後Ⅰ期、119は後Ⅳ古期である。121～123は灰釉施釉の縁釉小皿、121・122は後Ⅰ期、123は後Ⅳ古期である。124は後Ⅰ期の折縁中皿である。125は浅碗で後Ⅲ期。126・127は直縁大皿で126は後Ⅰ期、127は後Ⅲ期である。128は後ⅠかⅡ期の碗形鉢である。129は後Ⅲ期の小鉢、130は鉄釉施釉の小杯で後ⅠかⅡ期である。131・132は柄付片口で、132は後ⅠかⅡ期のものである。

常滑は甕58点、片口鉢18点、広口壺2点、碗1点、器種不明2点が出土している。甕は2形式～11型式、片口鉢は5型式～11型式までと、幅広い年代のものが出土している。図示可能なものは、133～137の5点である。133は6 b型式の甕である。134～136は片口鉢Ⅱ類で、134・135は8形式、136は11型式である。137は2～3型式の広口壺である。その他、渥美の甕が14点、渥美か湖西産の山茶碗が1点出土しているが、いずれも図示はできなかった。

138は志戸呂窯産の鉄釉縁釉小皿である。古瀬戸後Ⅳ古期併行期のものである。

当遺構からは、多種多様なかわらけが大量に出土している。器形によって以下の4類に分類した。

A類：体部が内彎して立ち上がる形状のものである。

B類：体部が直線的で全体に箱形を呈すものである。

C類：体部が直線的で、器高が高く底径の小さい逆台形を呈すもの。

D類：C類同様器高が高いものであるが、体部が内彎して立ち上がる。

D類を除いてはそれぞれ大中小の3法量があり、細部の形状や器厚によって、さらに細分した。

A類の大形かわらけ(A-Ⅰ類)は139・140で、口径12.0cmを測り、底径は7.0～8.0cm、器高は3.0cm前後である。中形かわらけ(A-Ⅱ類)は、150～161が相当し、口径8.0～11.0cmを測る。さらに口径10.0cm大のものと8.0cm前後ものに細分が可能である。小形かわらけ(A-Ⅲ類)は口径6.0～7.0cmを測るもので、183～205が相当する。以上のA類は大中小いずれも内底面に一方向の簡単なナデを施し、底部には板状圧痕を有す。

B類は口径と底径の差が比較的少ない箱形を呈すものである。法量により大中小の3種類があり、小形のもの形態・器厚によりさらに細分した。大形のもの(B-Ⅰ類)は141～148が該当する。口径は12.0～14.6cmを測り、底径は8.0～9.0cmである。口径にやや幅があり、さらに細分の可能性もあるが、現状では明確な法量差が認められなかった。内底面にやや粗雑なナデを施し、底部には板状圧痕を残す。中形のかかわらけ(B-Ⅱ類)は、162～172が該当する。口径9.9～11.6cm、器高は2.5cm前後、底径5.5～7.0cmを測る。口径・底径ともに法量にかなり幅があり、さらに大・小あるいは底径の小さなタイプなど細分ができる可能性もあるが、大形かわらけ同様、現状の数量では明確な差異を出すことはできなかった。小形かわらけ(B-Ⅲ類)は、当遺構で最も大量に出土しているもので、以下のように4種類に細分が可能であった。本類は口径と底径の差が小さい箱形(a)と差がやや大きく逆台形状を呈すもの(b)の2種に分かれ、さらに器高の厚さによってそれぞれ2細分できる。箱形で器厚が薄手のもの(B-Ⅲ-a 1)は206～213が該当する。口径は6.5～7.0cm、器高は2.0cm前後、底径は4.5～5.0cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多いが、ナデ調整を施している例がいくつか認められた。底部には板状圧痕がある。箱形で器厚が全体に厚いもの(B-Ⅲ-a 2)として230～264がある。口径は6.8～7.6cmでa 1類よりもやや大きめである。器高は2.0～2.5cm、底径は5.0cm前後であ

る。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多く、底部の板状圧痕も残っていない例が多い。

口径と底径の差が大きい逆台形のb類も器厚により1・2に細分した。器厚が薄手のもの(B-Ⅲ-b 1)は214~228が該当する。口径は6.3~7.2cm、器高は2.0~2.3cm、底径は4.0~4.8cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多いが、基本的にナデ調整を施しているものとみられる。底部には板状圧痕がある例が多い。器厚が全体に厚いもの(B-Ⅲ-b 2)として265~295がある。口径は6.6~7.6cmでやはりb 1類よりもやや大きめである。器高は2.0~2.5cm、底径は4.2~5.0cmである。内底面のナデは摩滅のため不明なものが多く、底部の板状圧痕も残っていない例が多い。

C類は口径と底径の差が大きい逆台形状を呈すかわらけである。大形のもの(I)は149の1点のみである。口径13.0cm、器高4.2cm、底径6.6cmを測る。内底面にナデを施しているが、底部の調整は不明である。中形の中形は器厚によって、薄手(C-II-1)と厚手(C-II-2)がある。C-II-1類は173~175で、口径は10cm前後を測り、底径は5.4~5.8cmである。内底面にはナデを施し、底部には板状圧痕が認められる。厚手のC-II-2類は179~182で、II-1類よりもやや大きめで、口径10.6~11.0cmである。小形かわらけのⅢ類も、器厚により2種類に細分できる。薄手のC-Ⅲ-1類は297~322で、口径は5.8~6.8cm、器高2.0cm、底径は4.0cm以下である。内底面のナデが施される例はほとんどなく、また底部の板状圧痕のないものも多くある。厚手のC-Ⅲ-2類は323~349で、Ⅲ-1類よりもやや大きめで、口径6.6~8.0cmである。器高も2.5cm前後とやや高めになる。底部が非常に厚く、また器形の歪みが著しいものが多い。内底面のナデ、底部の板状圧痕はほとんど認められない。

器高が高く、体部が内彎するD類は、小形かわらけのⅢ類のみ抽出できた。D-Ⅲ類に該当するものは、350~359で、口径6.6~7.0cm、器高2.5cm前後、底径は3.2~4.0cmを測る。内底面のナデはない例が多く、底部の板状圧痕もほとんど認められない。胎土は他に比べて白色味が強く、砂質の粉性のものである。大形・中形を抽出することができなかつたため、このD類はC類のパラエティの可能性もある。

当遺構のかわらけは、小形かわらけの占める割合が多いことが特徴で、また口縁部にススが付着しているものも多く、とくに小形かわらけでは9割近くにその傾向が認められる。本遺構出土のかわらけは非常にバラエティに富むが、共伴する陶磁器、とくに瀬戸美濃が数型式にわたり年代幅があるため、時期差か系統差かの判断は難しい。ただし、A類・B類は前代のかわらけと形態的な連続性が認められ、C類・D類はこれまでのかわらけにみられなかつた新しい形態であると考えられる。

瓦質製品は総数で65点出土しているが、図示可能遺物は362~374の13点である。362~366は火鉢である。362はスタンプ文と連珠文を有す大形品である。363・365は無文で扁球形の胴部の火鉢である。364は浅い鉢形を呈すもので三脚が付く。366は浅い大形のものである。367~370は風炉で、いずれもスタンプが付されている。367・368は花文、369は雷文、370は斜行文が頸部または、胴部下位に認められた。371・372は香炉である。371は口縁部下に雷文様のスタンプが、372は胴部下位に連珠文が付されている。373は燭台で、下部に巴文が認められる。374は大形の獣足である。

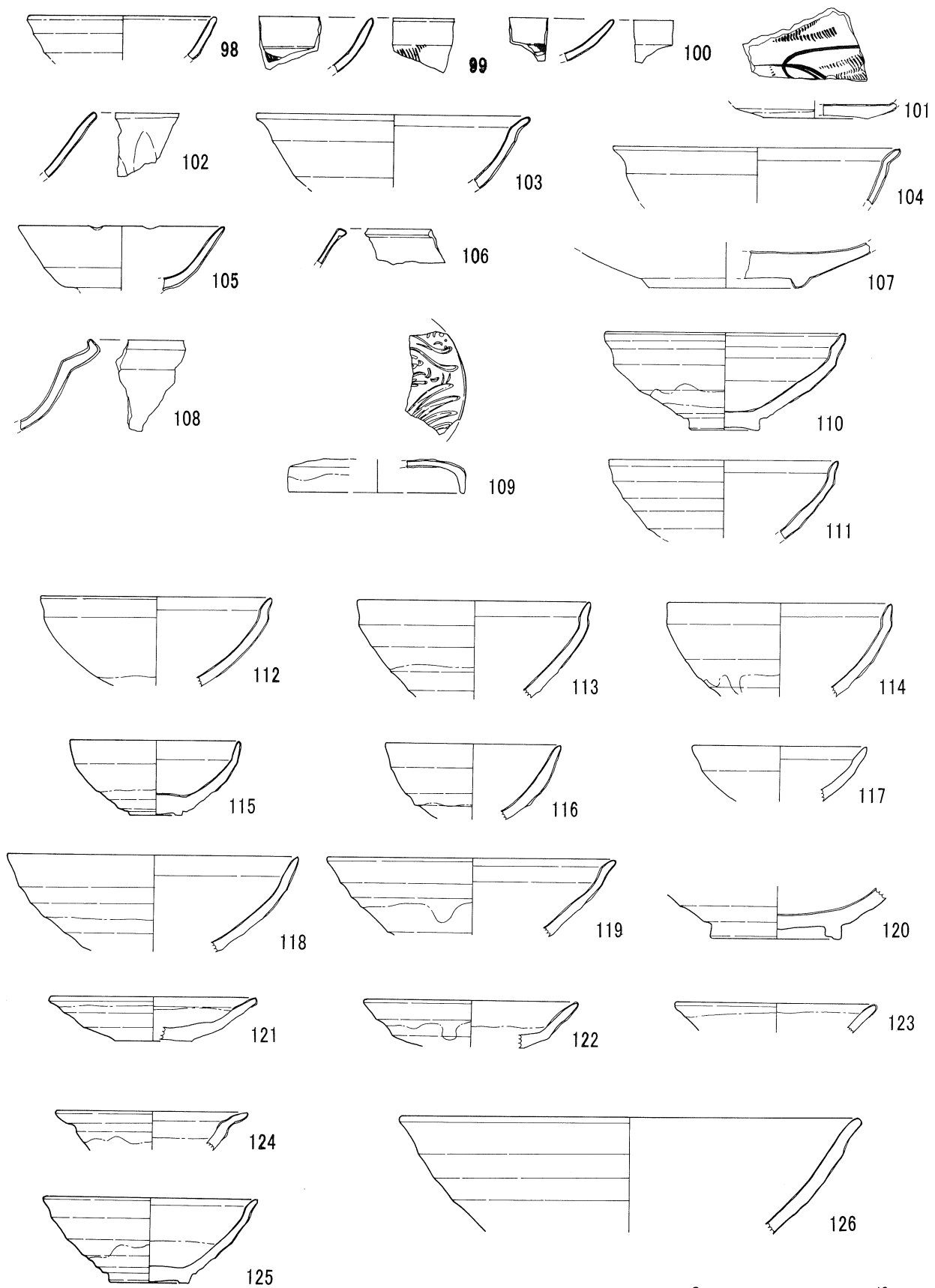
375~378は瓦で、375は巴文を有す軒丸瓦、376は丸瓦、377・378は平瓦である。

379は砥石で、伊予産の中砥と思われる。380は銭貨で熙寧元宝である。

第5号溝状遺構 SD05 (第68図 図版18)

検出範囲が限られているため、出土遺物は少ないが、かわらけ・瀬戸美濃・釘などが出土している。瀬戸美濃は381の御皿1点のみの出土である。古瀬戸中期Ⅲ期である。かわらけは59点出土しているが、図示可能遺物は382~384の3点である。いずれもロクロ成形で、小形かわらけである。382・383は口径9.0cm代、384は口径7.4cmである。

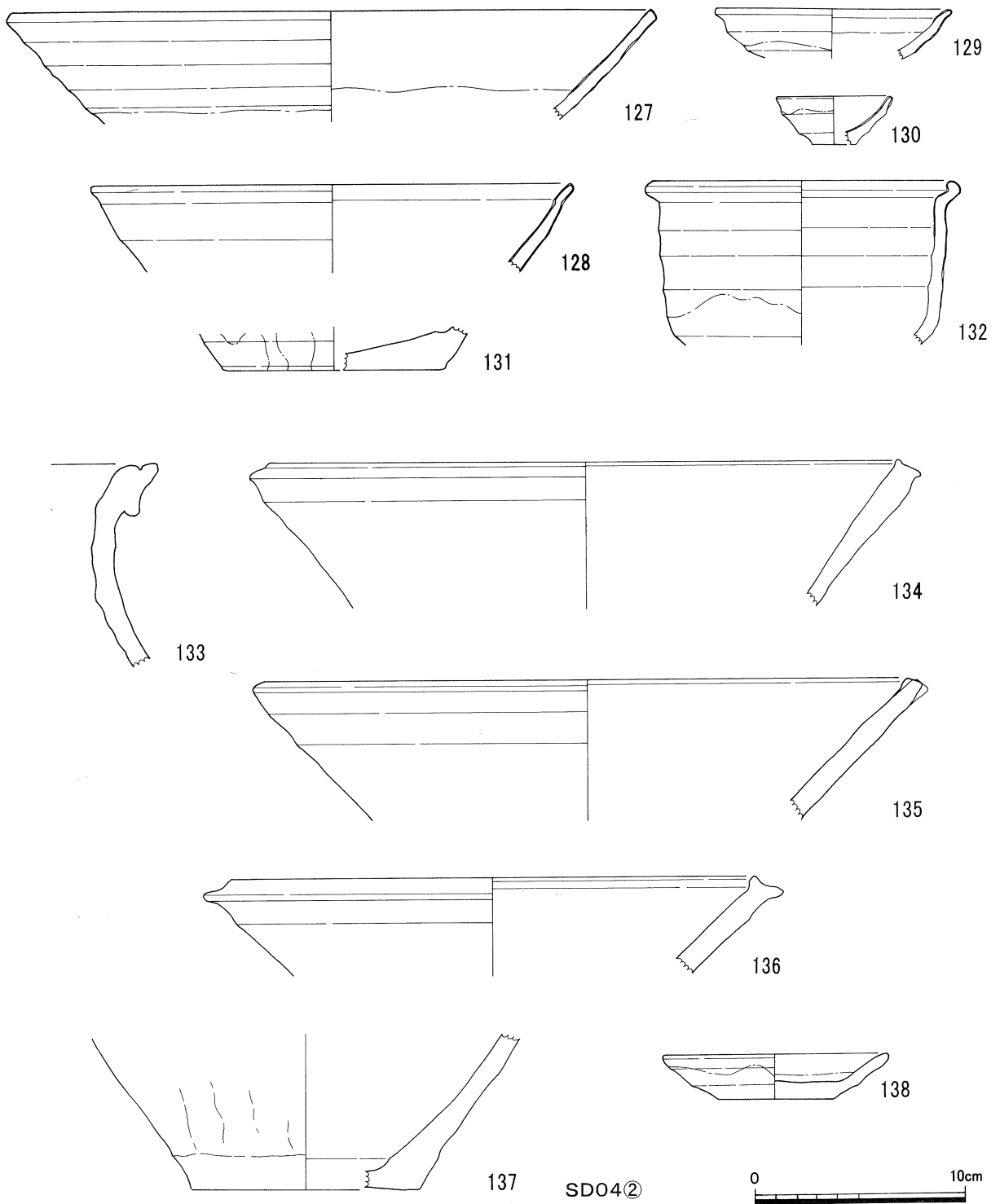
当遺構は出土遺物が少なく、また時期幅が認められるため、時期決定は困難である。



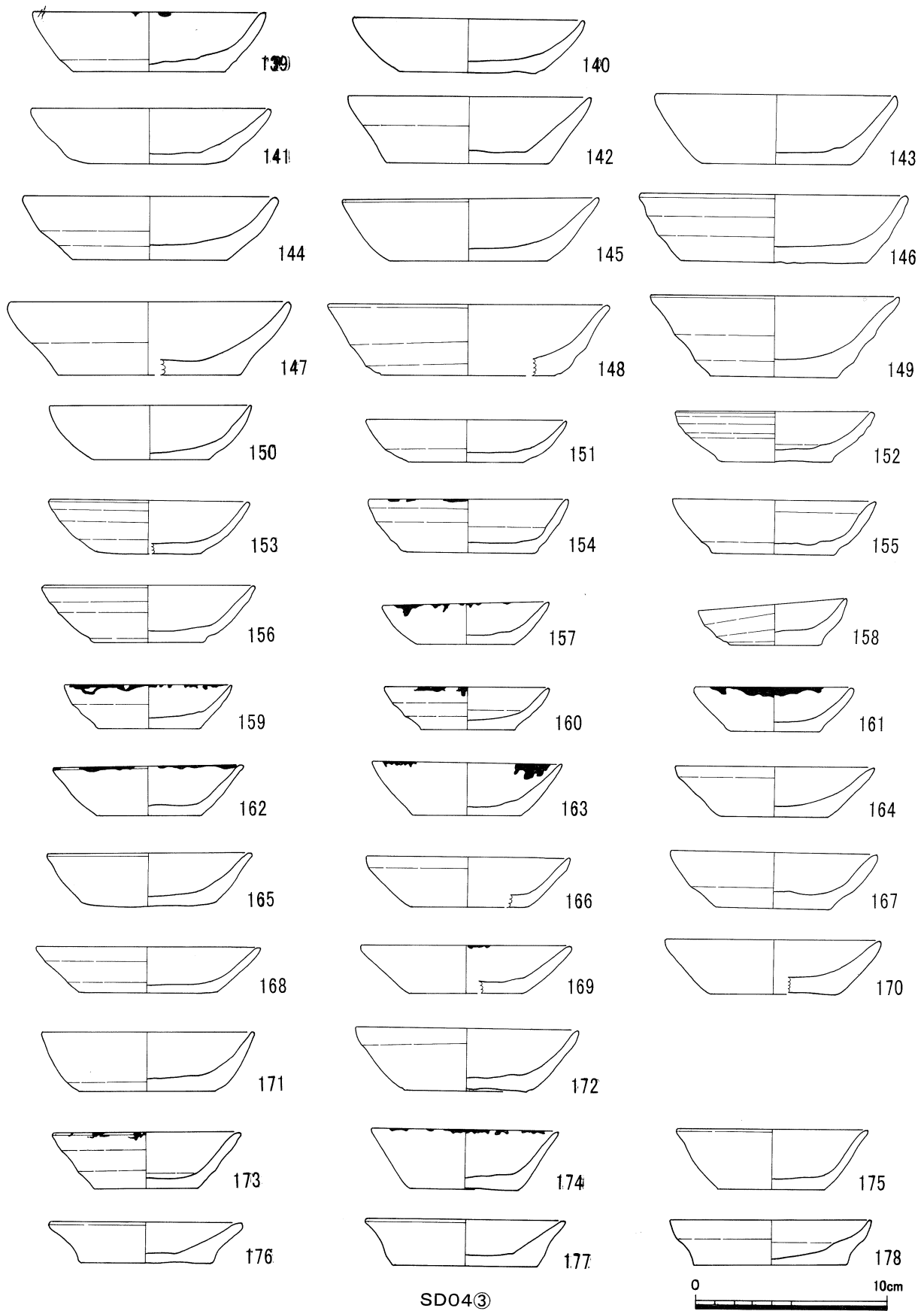
SD04①



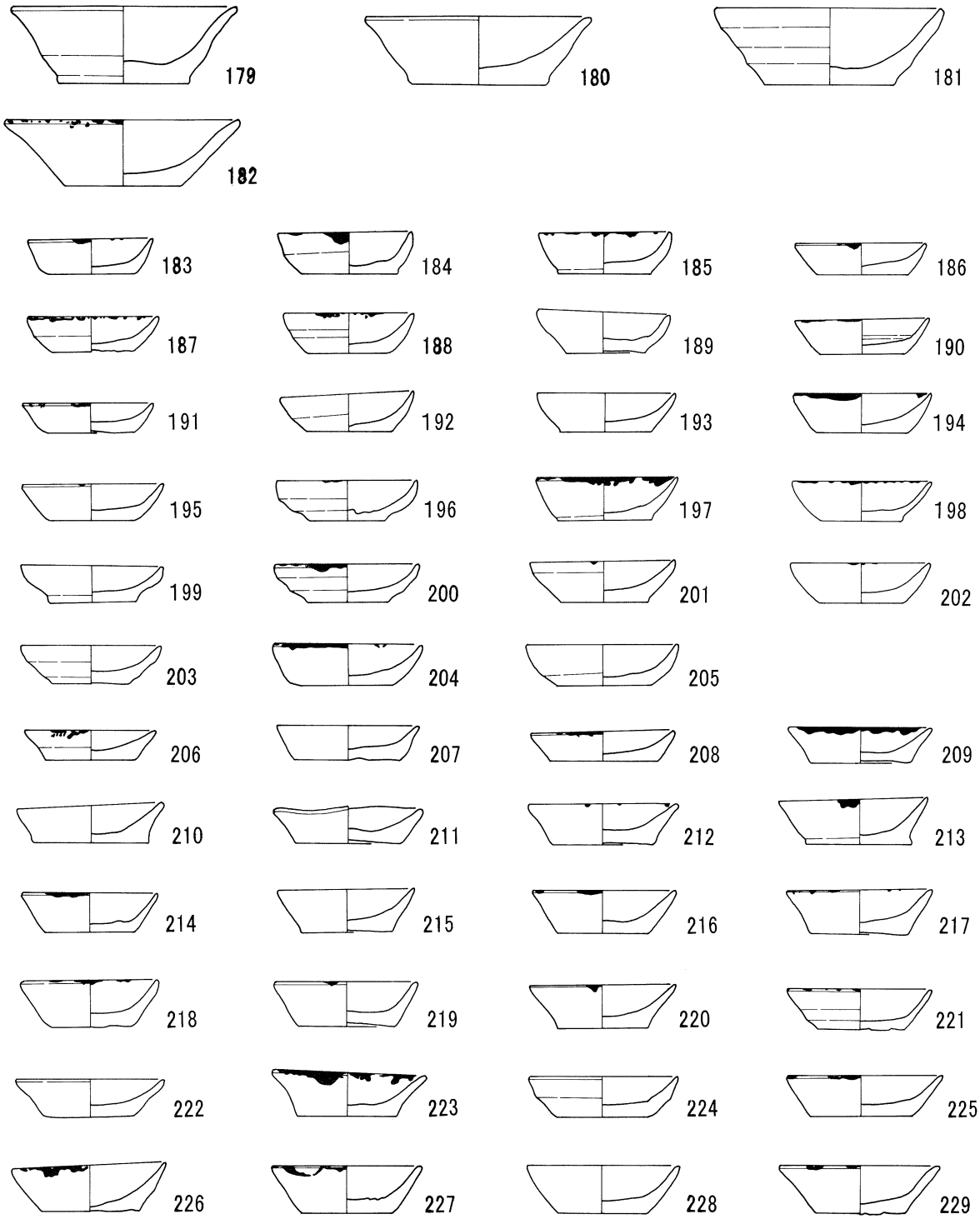
第60図 溝状遺構出土遺物(4)



第61図 溝状遺構出土遺物(5)



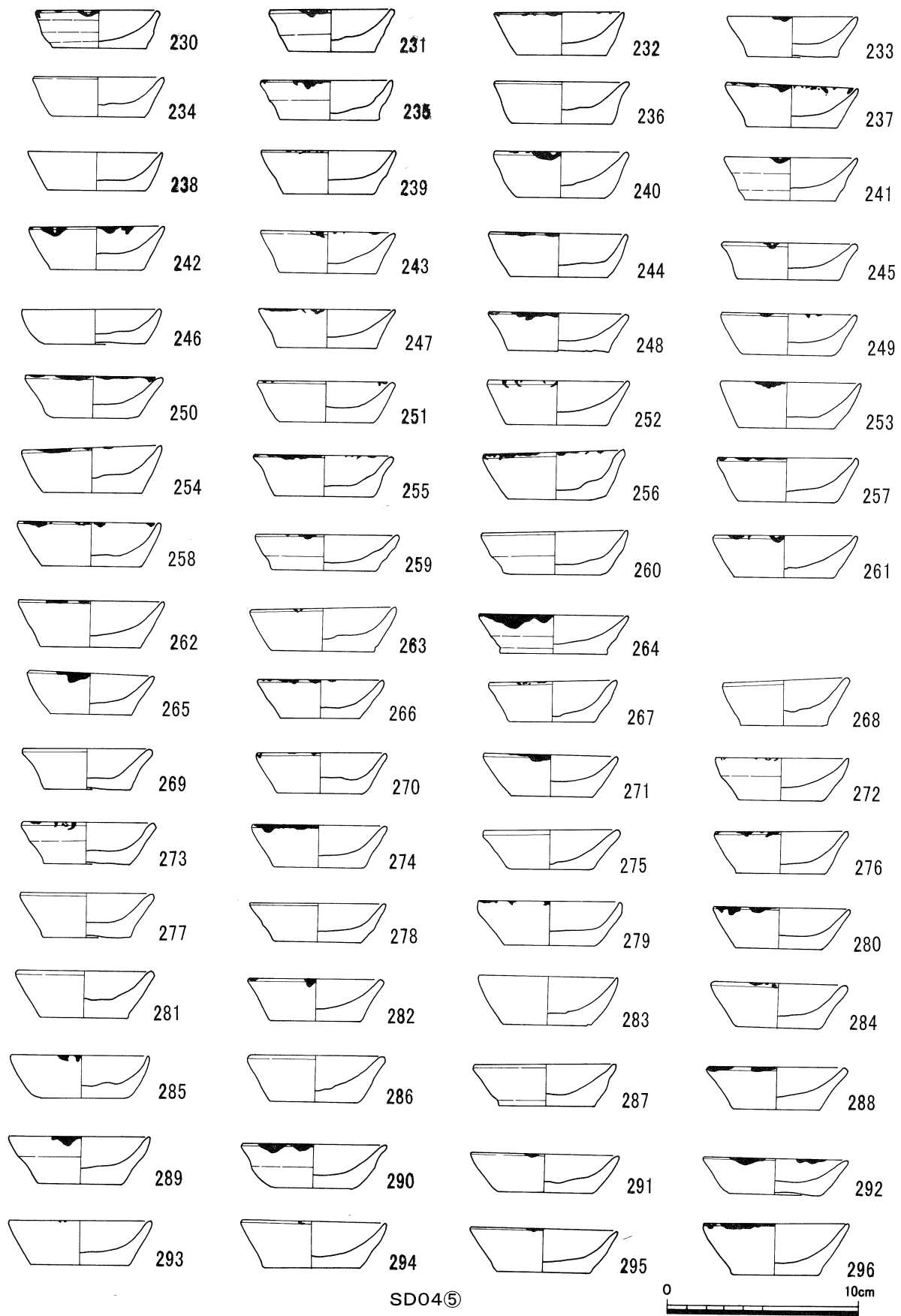
第62図 溝状遺構出土遺物(6)



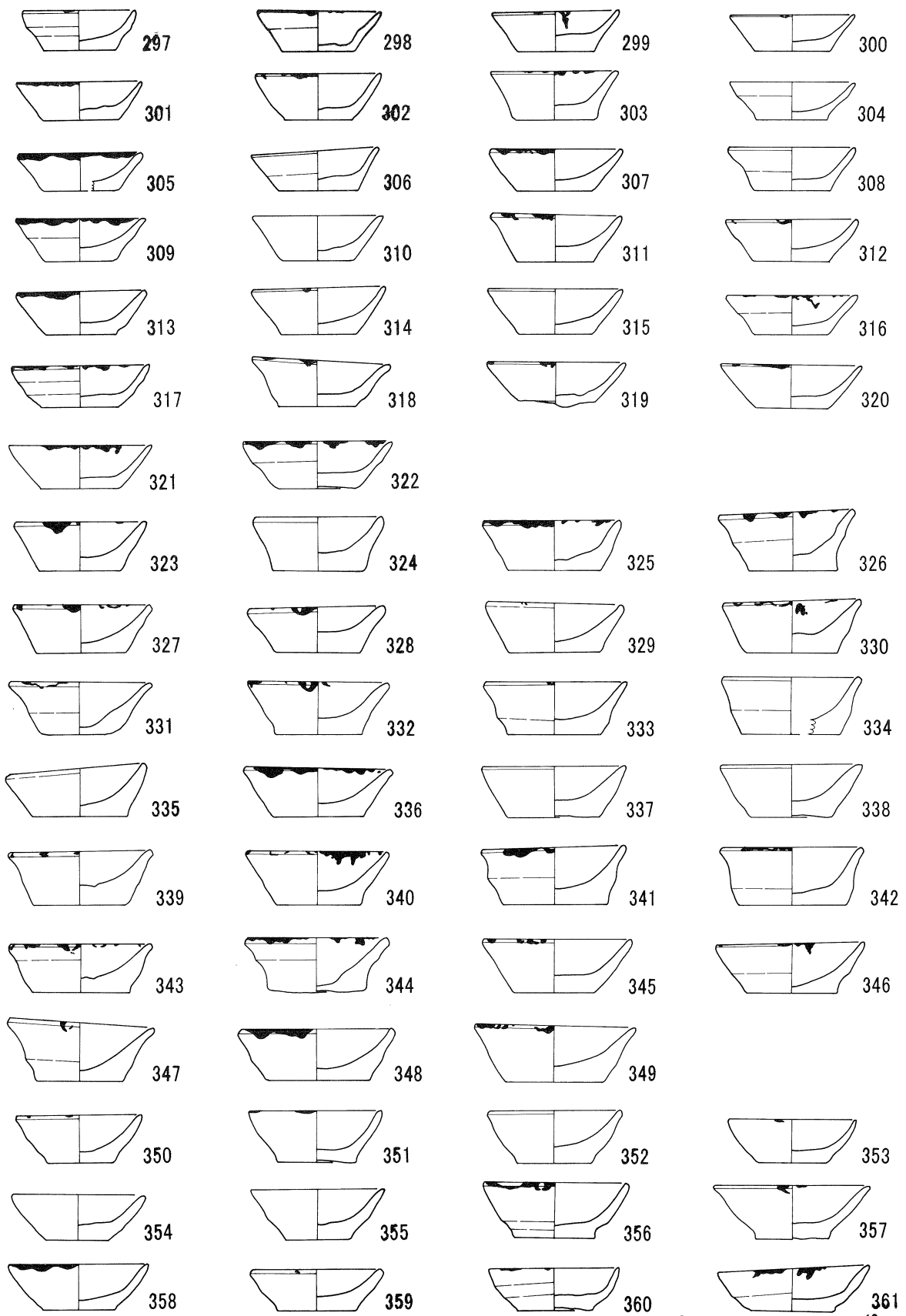
SD04④



第63図 溝状遺構出土遺物(7)

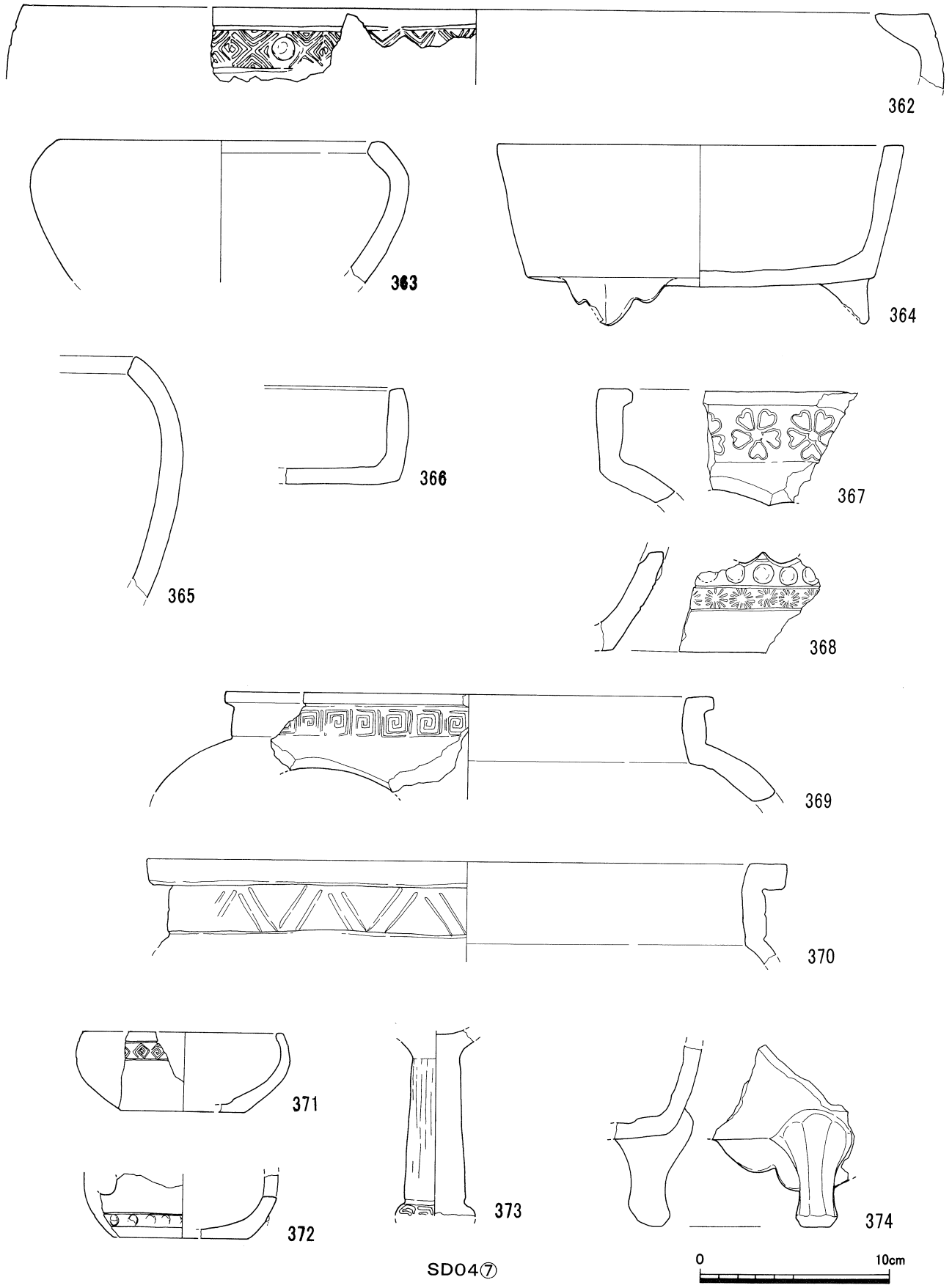


第64図 溝状遺構出土遺物(8)

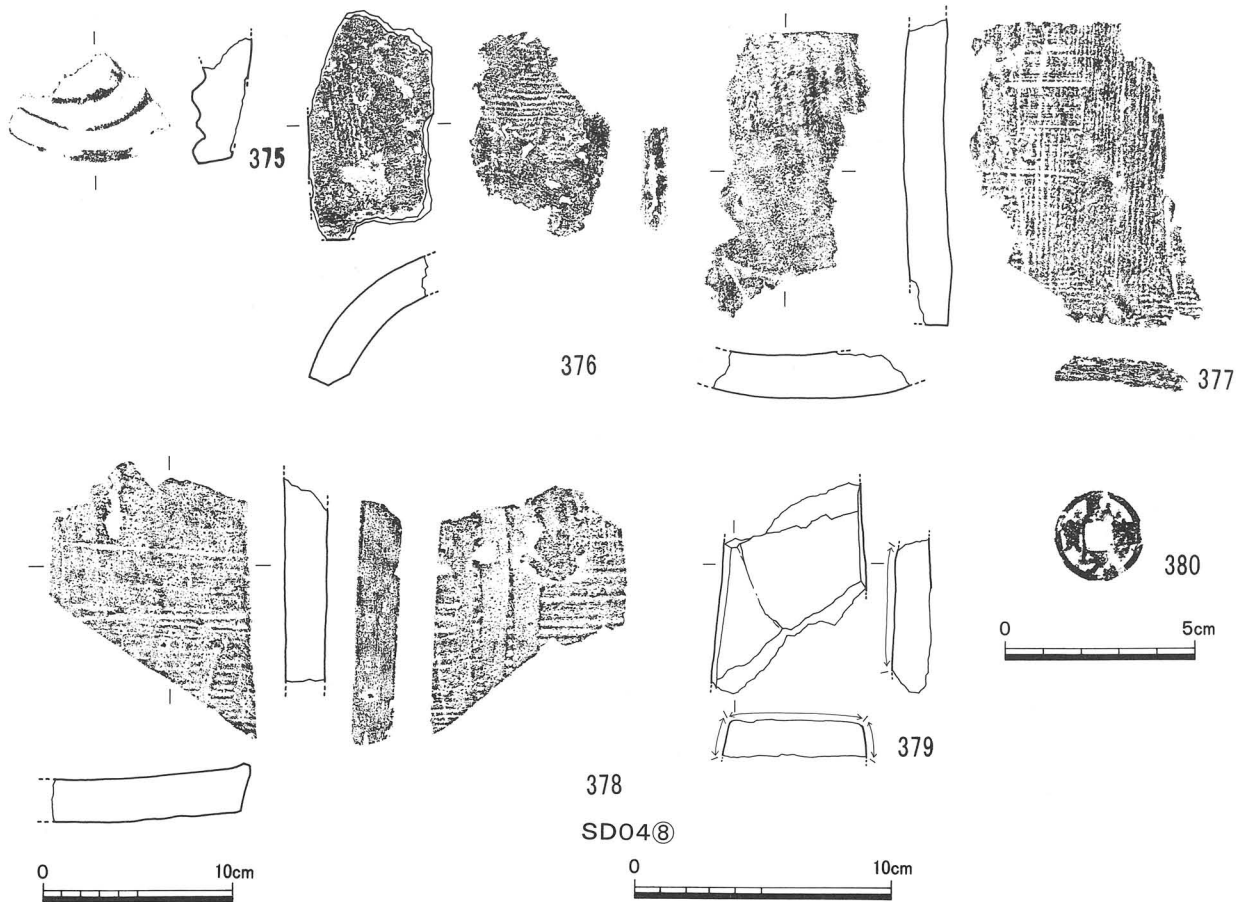


SD04⑥

第65図 溝状遺構出土遺物(9)



第66図 溝状遺構出土遺物(10)



第67図 溝状遺構出土遺物(11)

第6号溝状遺構 SD06

出土遺物は、かわらけの小破片が7点出土しているのみで、図示可能なものはなかった。

第7号溝状遺構 SD07

出土遺物は、かわらけ破片15点の他・貿易陶磁・釘などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。

第8号溝状遺構 SD08

出土遺物はなかった。

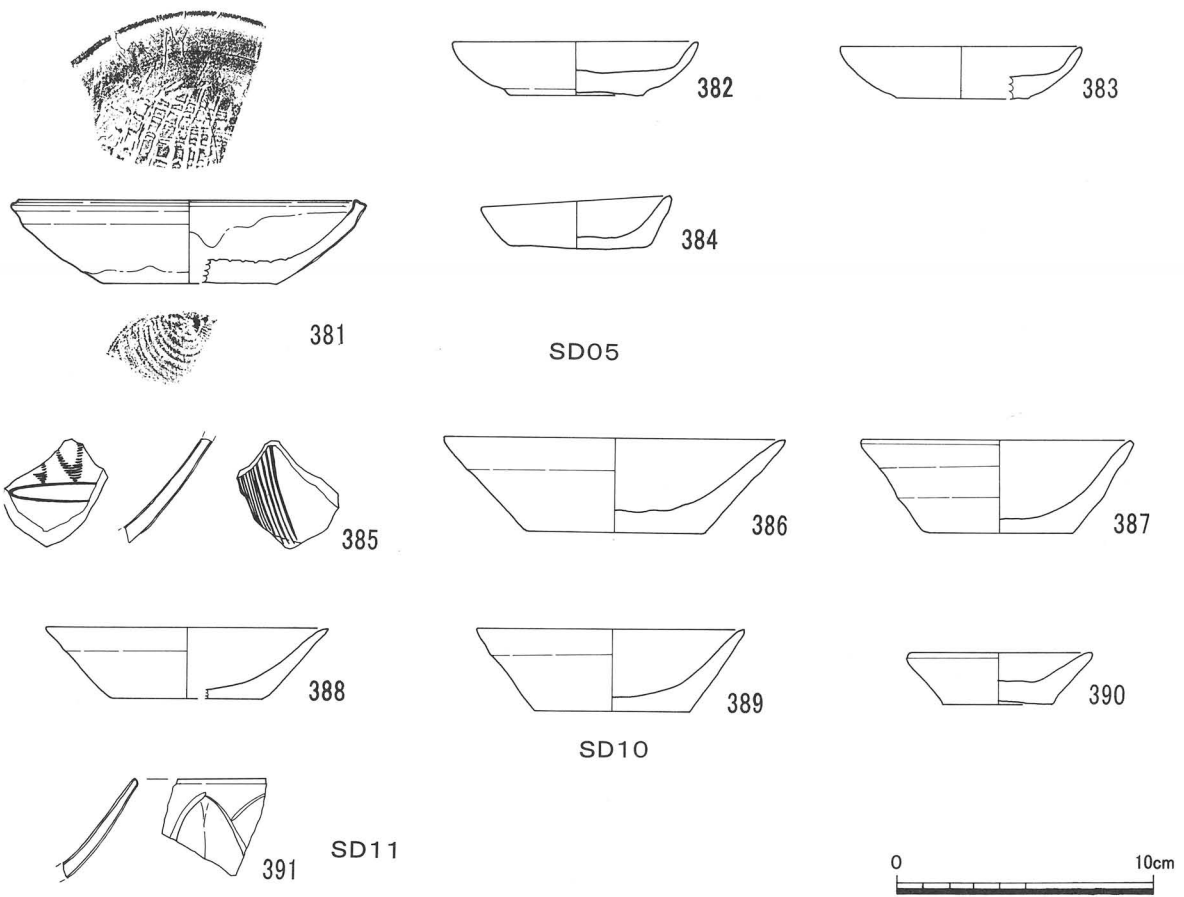
第9号溝状遺構 SD09

出土遺物はかわらけの小破片1点のみで、図示可能遺物はなかった。

第10号溝状遺構 SD10 (第68図 図版18)

出土遺物はかわらけ135点、貿易陶磁2点、常滑甕1点である。貿易陶磁青磁碗1点・かわらけ5点が図示可能であった。385は同安窯系青磁碗である。他に白磁皿B群が出土している。386~390はかわらけで、いずれもロクロ成形、体部が直線的に立ち上がるものである。

図示した貿易陶磁は中世前期のものであるが、かわらけは中世後期の15世紀代と考えられ、当遺構の



第68図 溝状遺構出土遺物(12)

時期も概期に比定されよう。

第11号溝状遺構 SD11 (第68図)

かわらけ120点、貿易陶磁2点、常滑2点が出土しているが、図示可能遺物は貿易陶磁青磁碗1点のみである。391は青磁碗のI-5類である。

出土した常滑甕は2～3形式、かわらけは手づくねを含む中世の古い段階のもので、当遺構は12世紀末～13世紀前半と考えられる。

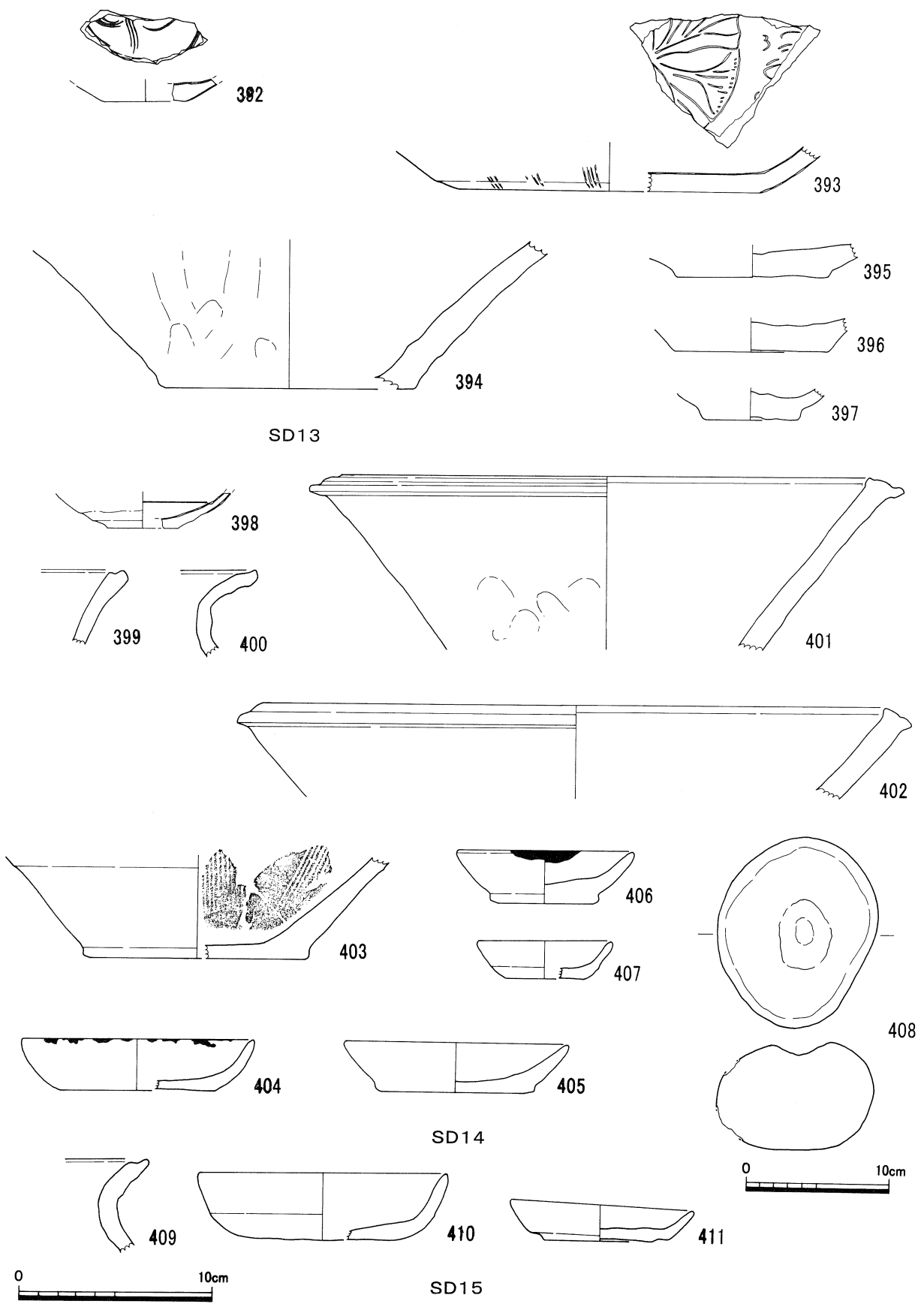
第12号溝状遺構 SD12

出土遺物は、かわらけ19点・常滑2点・瓦質製品1点などがあるが、いずれも小破片で図示可能遺物はなかった。当遺構の時期も不明である。

第13号溝状遺構 SD13 (第69図)

出土遺物は、かわらけ49点、貿易陶磁5点、瀬戸美濃1点、常滑は8点、瓦質製品1点などである。図示可能遺物は392～397の6点である。

392は貿易陶磁の龍泉窯系青磁皿で、劃花文が描かれる。393は瀬戸美濃・古瀬戸中Ⅲ期の折縁深皿である。内面に花文、外面には櫛描きの文様が認められる。394は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式に比定される。



第69図 溝状遺構出土遺物(13)

395～397はかわらけであるが、いずれも厚手の底部破片で、12世紀末～13世紀前半に比定される。当遺構はかわらけ・陶磁器ともに時期の異なるものが混在しており、時期決定は困難である。

第14号溝状遺構 SD14 (第69図)

出土遺物は、かわらけ305点、貿易陶磁4点、瀬戸美濃4点、常滑36点、志戸呂1点、瓦質製品6点、瓦4点、石製品1点等があり、種類・量ともに豊富であるが、図示可能遺物は398～408の貿易陶磁・常滑・かわらけ・石製品等の11点である。

398は貿易陶磁白磁の皿である。399は瀬戸系山茶碗の片口鉢である。藤澤編年の7型式である。400～403は常滑である。400は甕で3型式、401・402は片口鉢Ⅱ類で11型式である。403は志戸呂窯製品の播鉢で、古瀬戸後Ⅳ期併行のものである。

404～407はかわらけで、404・405は大形、406・407は小形品である。404・406は口縁部にススが付着する。408は凹みを有す軽石製品である。

当遺構の出土遺物は貿易陶磁や国産陶器の一部に時間幅があるが、全体としては中世後期のものと考えられる。

第15号溝状遺構 SD15 (第69図)

出土遺物は、かわらけ18点、常滑5点、渥美2点が出土し、409～411の3点が図示可能であった。409は常滑の甕で3型式である。410・411はかわらけである。410は手づくね成形、411はロクロ成形である。

第16号溝状遺構 SD16 (第70～72図 図版11・18)

遺物は種類・量ともに豊富で、かわらけ1,834点、貿易陶磁16点、瀬戸美濃38点、常滑38点、渥美3点、東遠江系山茶碗1点、志戸呂5点、瓦質製品44点、石製品5点、鉄製品7点が出土している。

貿易陶磁は白磁碗、青磁碗・盤・香炉、褐釉壺などが出土しているが、412～414の3点を図示した。412・413は同安窯系の青磁碗である。414は白磁の口禿碗・Ⅸ類である。

瀬戸美濃は天目茶碗・平碗・縁釉小皿などが出土している。このうち、415～424が図示可能であった。415・416は天目茶碗で415は後Ⅱ期、416は後Ⅲ期である。417は小天目茶碗で後Ⅲ期である。418・419は平碗で418が後Ⅲ期、419が後Ⅳ古期である。420～422は縁釉小皿、420は鉄釉施釉で後Ⅲ期、421・422は灰釉施釉で後Ⅳ古期である。423は大窯1段階の端反皿である。424は柄付片口で後Ⅲ期のものである。

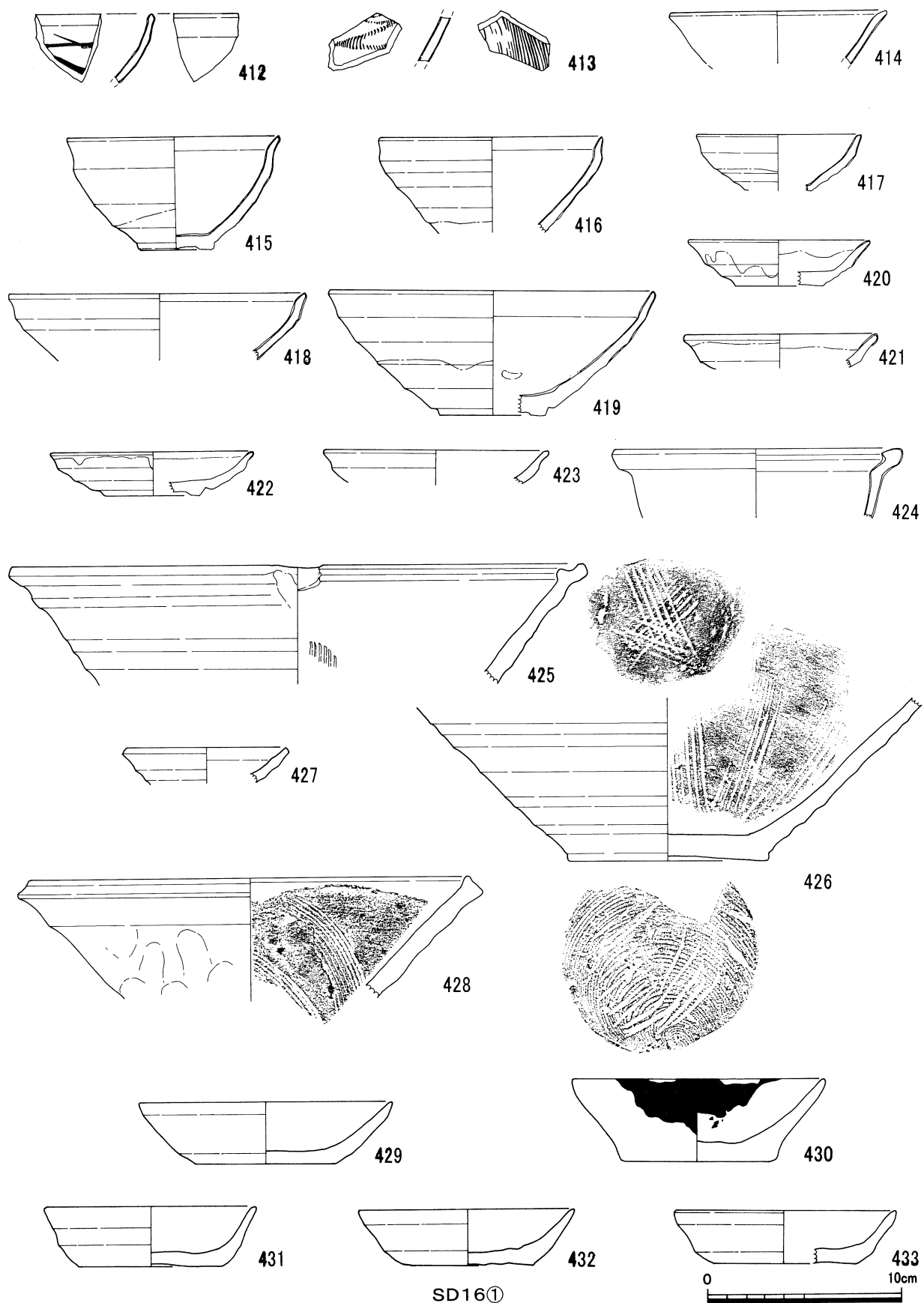
志戸呂は播鉢が出土しており、425・426の2点を図示した。瀬戸美濃の後Ⅳ期併行の播鉢である。

427は東遠江系山皿である。東遠江系山茶碗はこの1点のみの出土である。

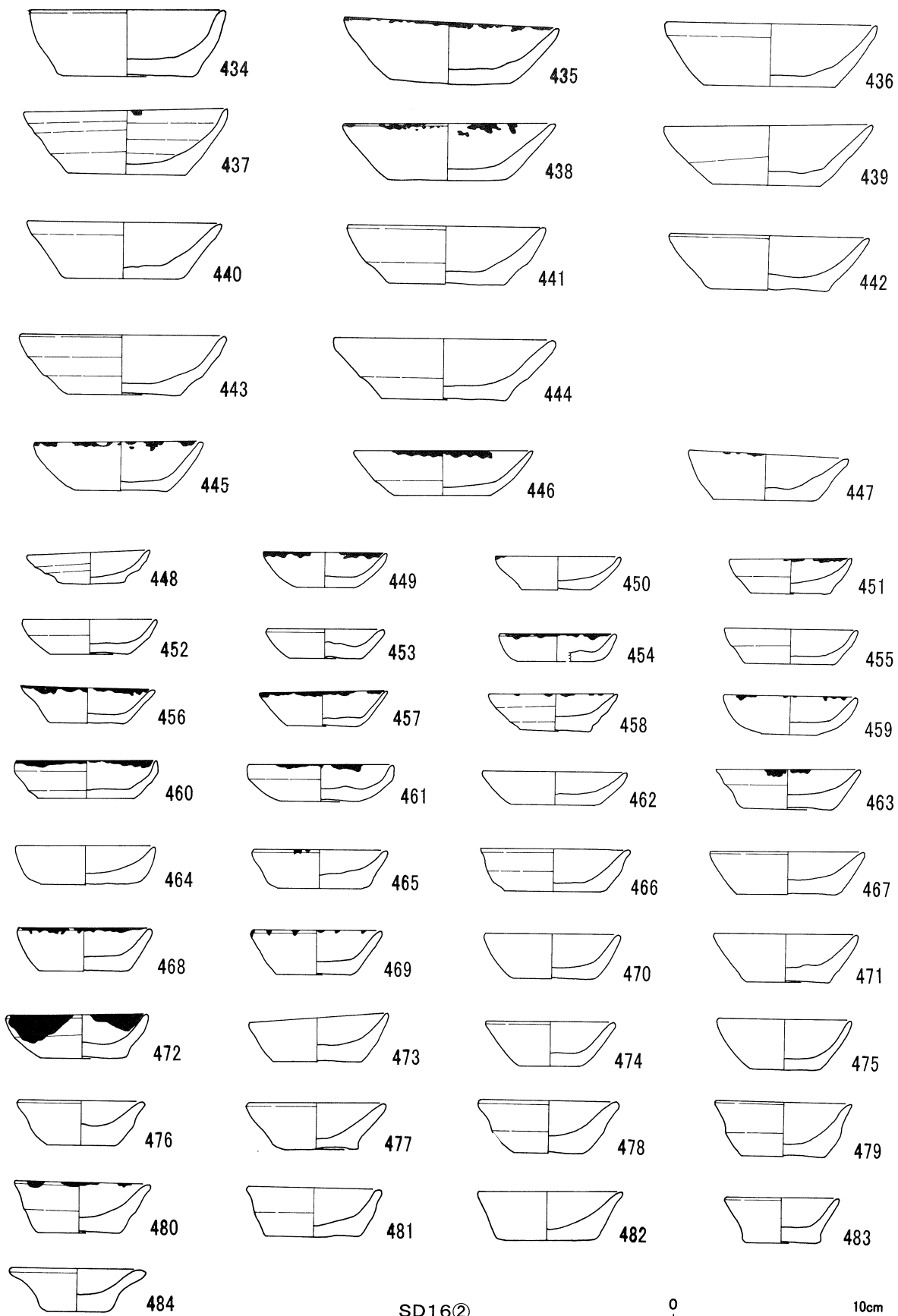
428は常滑の片口鉢Ⅱ類である。8形式に比定され、内面に播り目を有す。

429～499はかわらけである。当遺構のかわらけは、第4号溝状遺構のものと近似しており、同様の分類基準で記述する。

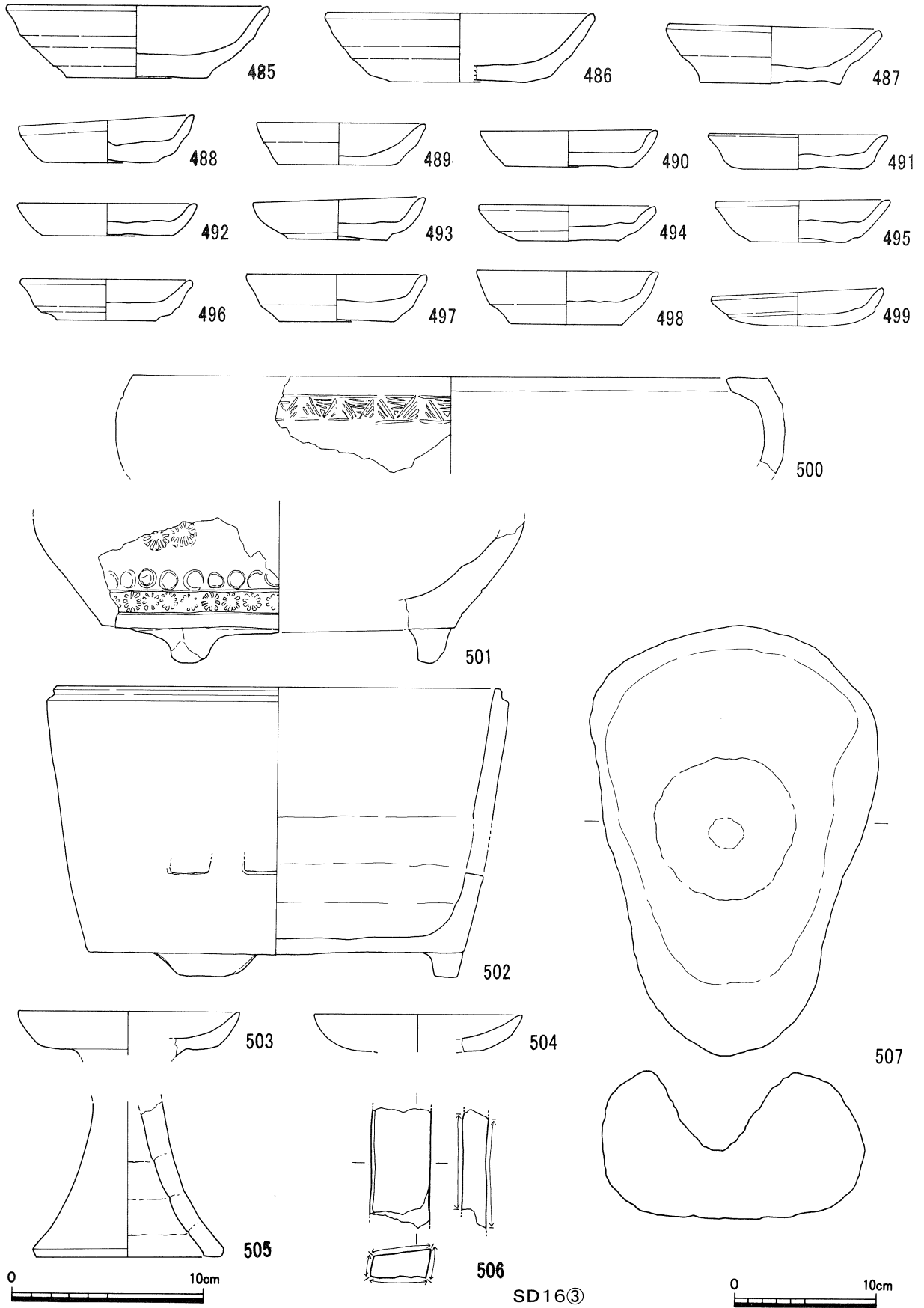
429は箱形を呈すB類の大形かわらけ(B-I)である。口径は13.2cmを測り、内底面にはナデを施す。430は逆台形状を呈すC類の大形かわらけ(C-I)である。底径は8.2cmで、第4号溝状遺構の例よりもやや大きい。口縁部にススを付着する。432・435～444はB類の中形かわらけ(B-II)である。口径は10.0～11.0cmで、底径は6.0～6.8cmである。底径がやや小さい傾向がある。445・446は体部が内彎するA類の中形かわらけ(A-II)である。448～452は同じくA類の小形かわらけ(A-III)である。453～473はB類の小形かわらけである。このうち、454・455は口径と底径の差が小さい箱形のa類薄手(B-III-a1)、464～467はやや厚手のもの(B-III-a2)である。456・457は口径と底径の差が大きく逆台形状を呈すb類の薄手タイプ(B-III-b1)、453・458～473は厚手のかわらけ(B-III-b2)である。474～484は器高の高い逆台形を呈するC類の小形かわらけ(C-III類)である。



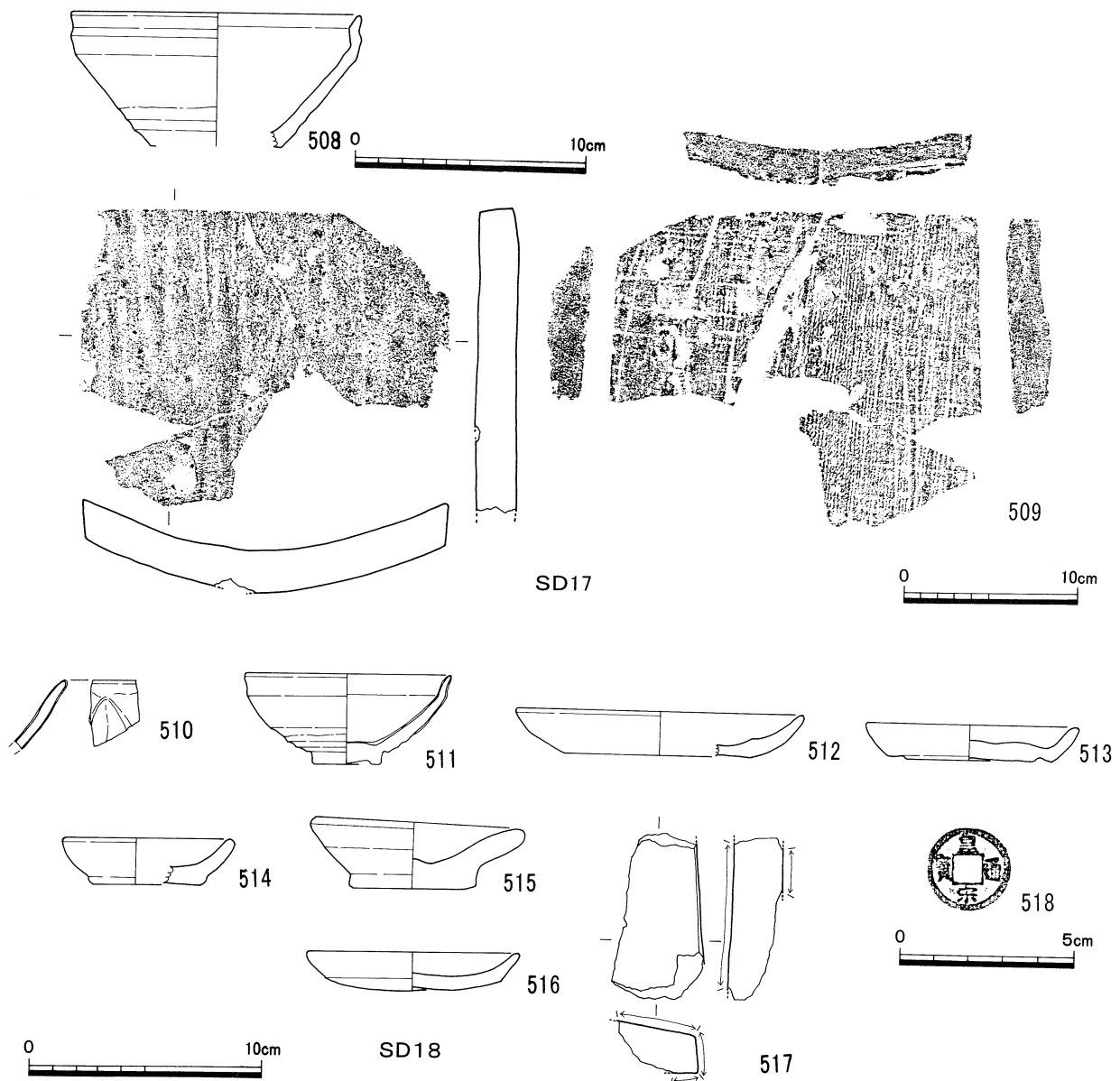
第70図 溝状遺構出土遺物(14)



第71図 溝状遺構出土遺物(15)



第72図 溝状遺構出土遺物(16)



第73図 溝状遺構出土遺物(17)

このうち、474・475・483は器厚が薄いもの(C-Ⅲ-1)、476～482・484は厚手のもの(C-Ⅲ-2)である。

また、485～498は古手のロクロ成形かわらけで、第2号井戸出土のものに近似する。499は手づくね成形かわらけで、同じく第2号井戸と同時期のものと思われる。

500～505は瓦質製品である。500・501は火鉢で、500は口縁下に斜行と横線のスタンプを有す。501は胴部に花文のスタンプと連珠が巡る。502は胴部に窓があり、行火と思われる。503～505は燭台で、503・504は受け皿部、505は脚部の破片である。

石製品は砥石・軽石製品などが出土している。2点が図示可能であった。506は砥石で伊予産の中砥である。507は表面に深く大きな凹みを有す軽石製品である。

第17号溝状遺構 SD17 (第73図)

出土遺物は、かわらけ29点、瀬戸美濃2点、常滑2点、瓦3点などがあるが、瀬戸美濃天目茶碗と平瓦のみ図示可能であった。508は瀬戸美濃天目茶碗で後IV古期のものである。509は平瓦で凸面に縄目を有す。

出土したかわらけは小破片で、また時期の異なる遺物が混在しているため、遺構の時期は不明である。

第18号溝状遺構 SD18 (第73図)

出土遺物は、かわらけ518点、貿易陶磁6点、瀬戸美濃1点、常滑8点、石製品3点、銭貨などがあり、全部で9点が図示可能であった。

貿易陶磁は白磁碗、青磁碗、青白磁梅瓶などが出土している。510は龍泉窯系青磁碗のI-5類である。瀬戸美濃は1点のみの出土で、511の小天目茶碗のみ図示可能であった。後Ⅱ期に比定される。

512～516はかわらけである。512は口径約13cmの大形のかわらけで、器高が低く扁平なものである。513～515は小形かわらけである。515は厚手で底部が突出する。516は手づくねかわらけである。

517は砥石で上野産の中砥である。518は北宋銭・皇宋通宝である。

当遺構は、陶磁器・かわらけともにいくつかの時期のものが混在している状況であり、時期を決定することは困難である。

第19号溝状遺構 SD19 (第74・75図 図版18)

かわらけ809点、貿易陶磁6点、瀬戸美濃18点、常滑10点、瓦質製品15点、瓦3点、石製品2点、銭貨などが出土している。

貿易陶磁は青磁碗、白磁皿、天目茶碗などが出土している。519・520の2点が図示可能である。519は口縁部に雷文を有す龍泉窯系青磁碗である。520は同じく龍泉窯系青磁碗で、口縁部が端反になるタイプである。

瀬戸美濃は天目茶碗、平碗、盤類などが出土しているが、521～523の3点を図示した。521は後Ⅱ期の平碗、522は灰釉施釉の輪花小鉢である。後Ⅰ期か後Ⅱ期。523は鉄釉の香炉で中Ⅱ期のものである。

かわらけは57点が図示可能であった。当遺構のかわらけも第4号溝状遺構と共通しているため、同様の分類基準で記述する。当遺構で最も多く出土したのは逆台形のC類かわらけである。524～533・536・543・545・546～552・554・557・559～565・574～577が該当する。524は大形のC-I類、525～533・536は中形のC-II類である。このうち、536は器厚の薄いC-II-1類、他は厚手の2類である。543・545・546～552・554・557・559～565・574～577は小形のC-III類である。543～546が薄手の1類、その他は厚手の2類である。

この他、箱形のB類が一定量、体部内彎のA類、器高がやや高めで内彎するD類が少量出土している。534・535・537・538は箱形を呈すB類の中形かわらけ(B-II類)である。553・555・567～570はB類の小形かわらけのうち、口径と底径の差がないa類の厚手に属するもの(B-III-a2類)、556は底径が小さめで薄手のかわらけ(B-III-b1)、544・571～573は厚手のもの(B-III-b2類)である。539～542は体部内彎のA類の小形かわらけ(A-III類)である。A類は小形のもののみ出土している。556・558はD-III類のかわらけである。

瓦質製品は578～580の3点を図示した。578は香炉の底部、579は双耳壺が鍋類の底部と思われる。580は燭台の脚部である。

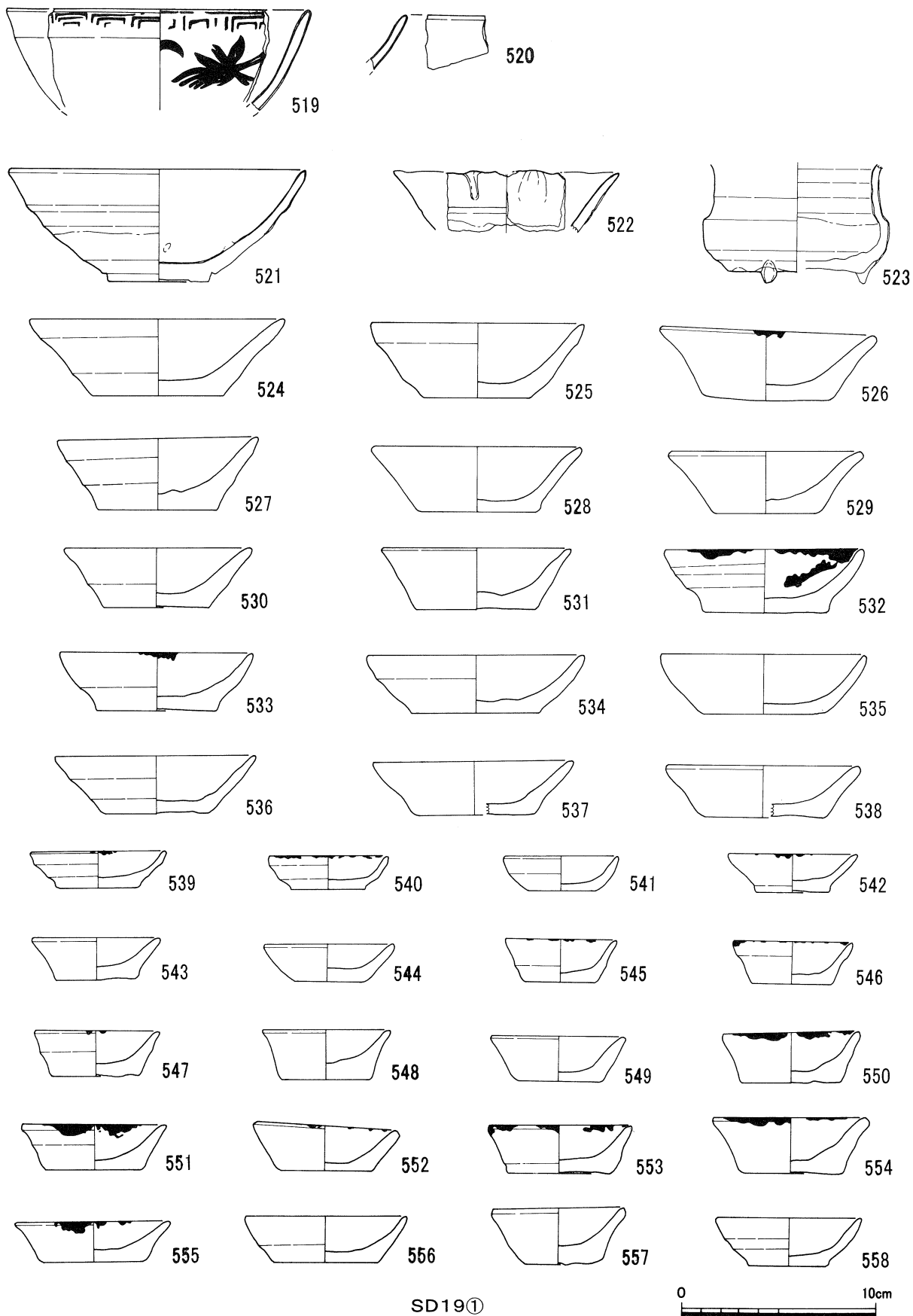
瓦は2点図示した。581は軒丸瓦で、破片資料であるが巴文の一部が認められた。582は丸瓦で、凹面に布目が残る。

石製品は2点を図示した。583は砥石で鳴滝産の仕上砥である。584は凹みをもつ軽石製品である。

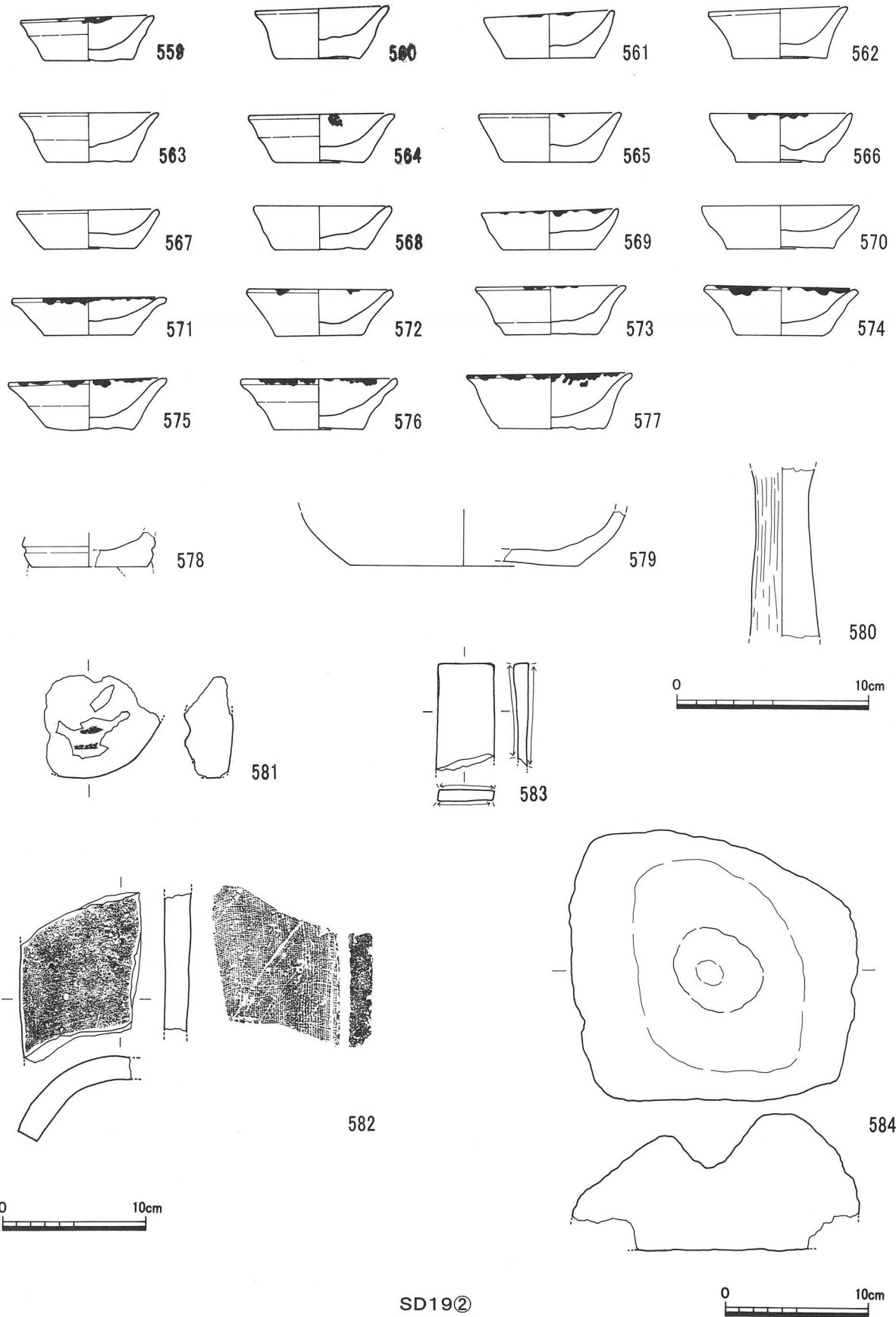
第20号溝状遺構 SD20 (第76・77図 図版12)

出土遺物は、瀬戸美濃・唐津と肥前産の碗・皿、瓦質の竈などがある。この他、中世の貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけなどが混入している。

瀬戸美濃は徳利・碗・皿などが出土している。585は鉄釉施釉の徳利で、大窯2～3段階のものである。



第74図 溝状遺構出土遺物(18)



第75図 溝状遺構出土遺物(19)

る。586は鉄釉稜皿で、大窯2後半段階に比定される。587～594は登窯期の瀬戸美濃製品である。587・588は天目茶碗、589は灰釉碗、590は鉄釉小杯、591は鉄釉の灯明皿である。592は志野釉の皿、593は灰釉施釉の皿、594は播鉢である。591・594以外はいずれも17世紀後半の所産である。

585は唐津産の碗で、豊付部に砂目が残る。

596～598は磁器である。596は美濃産の皿で、内面に花蝶文が描かれる。597は肥前産のくらわんか碗、598は同じく肥前産の皿で、見込みに松竹梅文が描かれている。

599は瓦質の竈である。外面はよく研磨されている。

600～605は石製品である。600・601は砥石、603～605は軽石製品である。あるいは中世の混入の可能性もある。

606～618は中世の遺物で、混入と思われる。606～610は貿易陶磁。606は白磁碗、607は白磁輪花皿である。608～610は龍泉窯系青磁で、608は劃花文碗、609は腰折皿、610は端反碗である。611・612は瀬戸美濃で、611は後、新期の天目茶碗、612は中期の折縁深皿である。613～615は常滑の甕である。9～10型式に比定される。616・617はかわらけである。616はロクロ成形の小形品、617は手づくね成形かわらけである。618は丸瓦である。

第21号溝状遺構 SD21

出土遺物は、近世陶磁器・貿易陶磁等があるが、図示可能なものはなかった。

第22号溝状遺構 SD22

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第23号溝状遺構 SD23 (第78図 図版12)

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃、肥前産の磁器碗・皿などである。その他、中世の貿易陶磁、瀬戸美濃、かわらけなども出土しており、図示可能遺物は中世貿易陶磁・瀬戸美濃各1点のみである。

619は白磁口禿碗・Ⅸ類である。620は瀬戸美濃天目茶碗で、後Ⅲ期のものである。

第24号溝状遺構 SD24

出土遺物はなかった。

第25号溝状遺構 SD25 (第78図)

出土遺物は、登窯期の瀬戸美濃、肥前産の磁器碗・皿、石製品などである。その他、中世の貿易陶磁、瀬戸美濃、かわらけなども出土している、図示可能遺物は中世の瀬戸美濃平碗と石製品である。

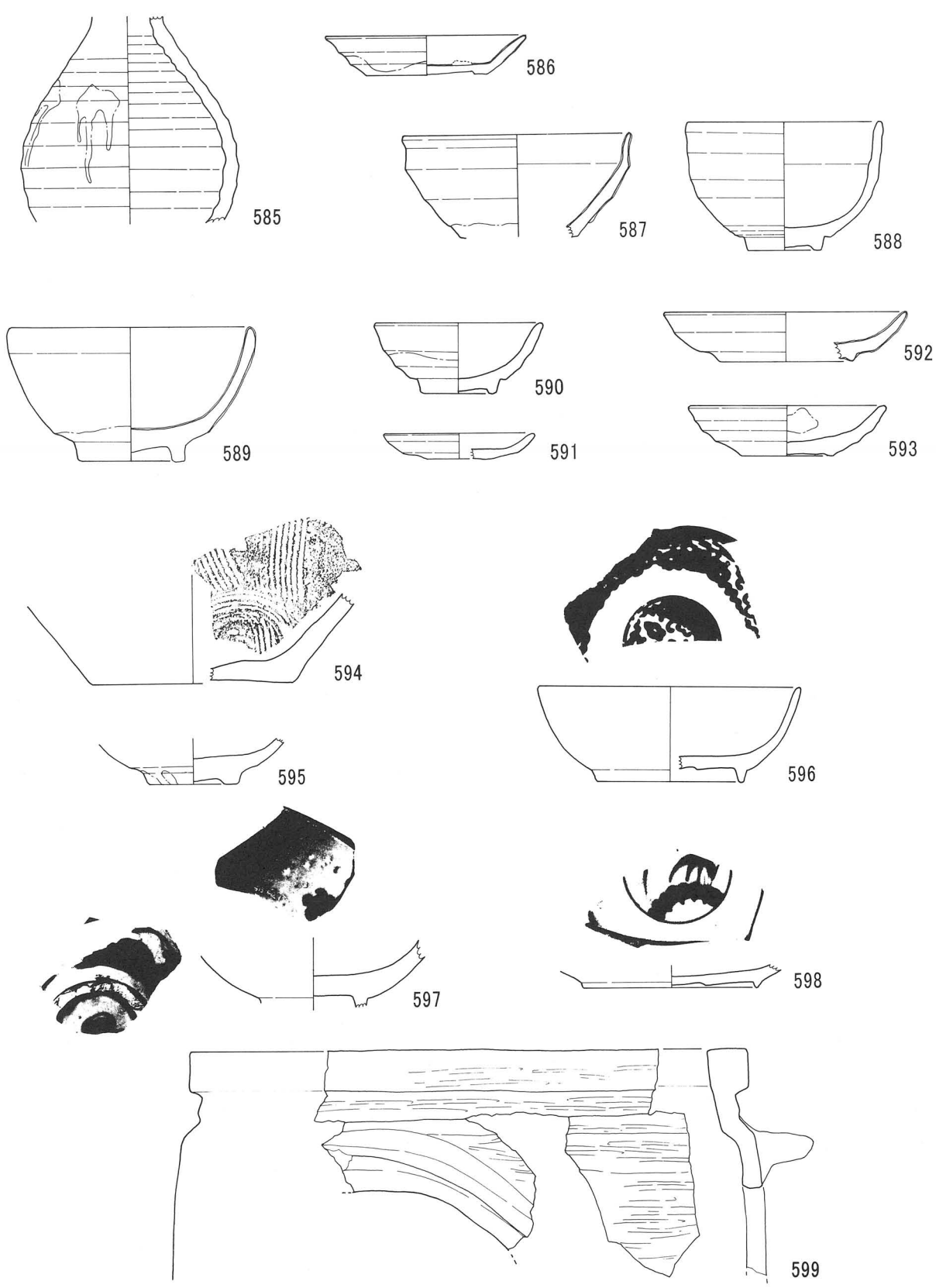
621は後Ⅱ期の瀬戸美濃平碗である。622は軽石を棒状に加工した製品である。

第26号溝状遺構 SD26

出土遺物は、近世陶磁器の小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第27号溝状遺構 SD27 (第78図)

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ、貿易陶磁、瀬戸美濃、常滑、石製品などである。623は瀬戸美濃・登窯期の天目茶碗で、17世紀後半のものと思われる。624は貿易陶磁・緑釉盤である。625は丸瓦であるが、胎土等の特徴から中世のものと思われる。626～632は石製品である。626・627



SD20①

0 10cm

第76図 溝状遺構出土遺物(20)



第77図 溝状遺構出土遺物(21)

は砥石、628～632は軽石加工品である。

第28号溝状遺構 SD28

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第29号溝状遺構 SD29

出土遺物はなかった。

第30号溝状遺構 SD30 (第79図 図版12)

出土遺物は、近世陶磁器、中世のかわらけ、瀬戸美濃、常滑、瓦などで、17世紀代の瀬戸美濃志野皿と瓦各1点が図示可能であった。633は瀬戸美濃登窯期の志野皿で、17世紀前半のものである。634は丸瓦の破片で、胎土の特徴から中世のものと思われる。

第31号溝状遺構 SD31

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第32号溝状遺構 SD32

出土遺物は、近世陶磁器・瀬戸美濃・常滑・鉄釘等があるが、図示可能なものはなかった。なかった。

第33号溝状遺構 SD33

出土遺物は、かわらけの小破片があるのみで、図示可能なものはなかった。

第34号溝状遺構 SD34 (第79図 図版12)

出土遺物は、近世陶磁器、瓦質製品、石製品などで、他に中世のかわらけ片等もある。このうち、17世紀代の唐津皿2点が図示可能であった。

635・636ともに唐津の皿で、灰釉が施される。見込みには胎土目の痕跡が認められた。

第35号溝状遺構 SD35 (第79図)

出土遺物は、近世陶磁器、かわらけ・瓦質製品・石製品等で、中世の瓦質火鉢と石製品を図示した。637は瓦質火鉢の大形獣足である。638は表面にわずかな凹みのある軽石加工品である。

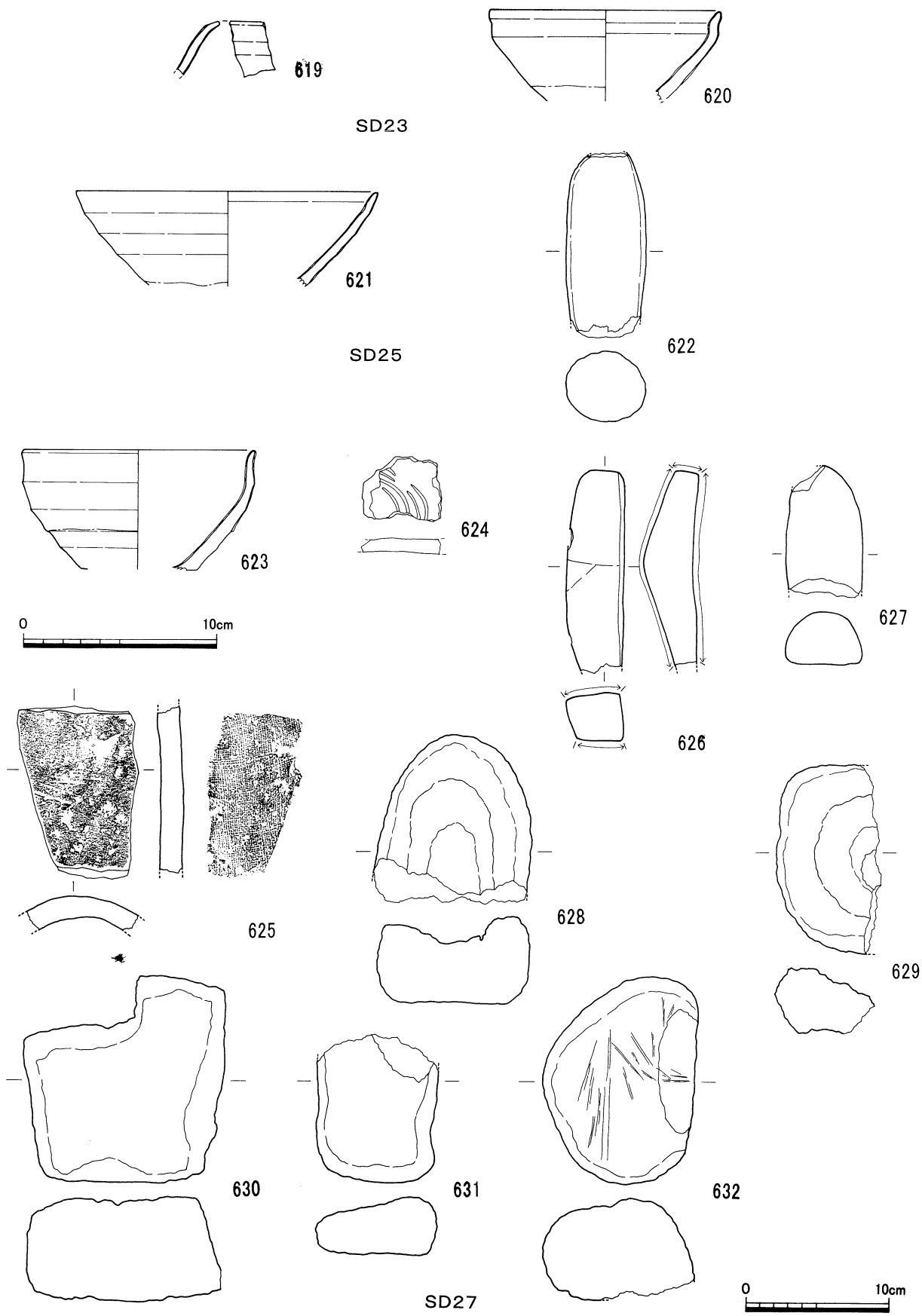
第36号溝状遺構 SD36

出土遺物は、かわらけ・鉄釘等で、図示可能なものはなかった。なかった。

第37号溝状遺構 SD37 (第79図)

出土遺物は、近世陶磁器の他、中世のかわらけ・貿易陶磁・常滑などで、図示可能遺物は中世のものである。

639～641は貿易陶磁で、639は白磁の皿、640は龍泉窯系青磁の蓮弁文碗（I-5類）である。641は青磁の稜花皿である。642は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式に比定される。643～645はかわらけで、いずれもロクロ成形の小形品である。



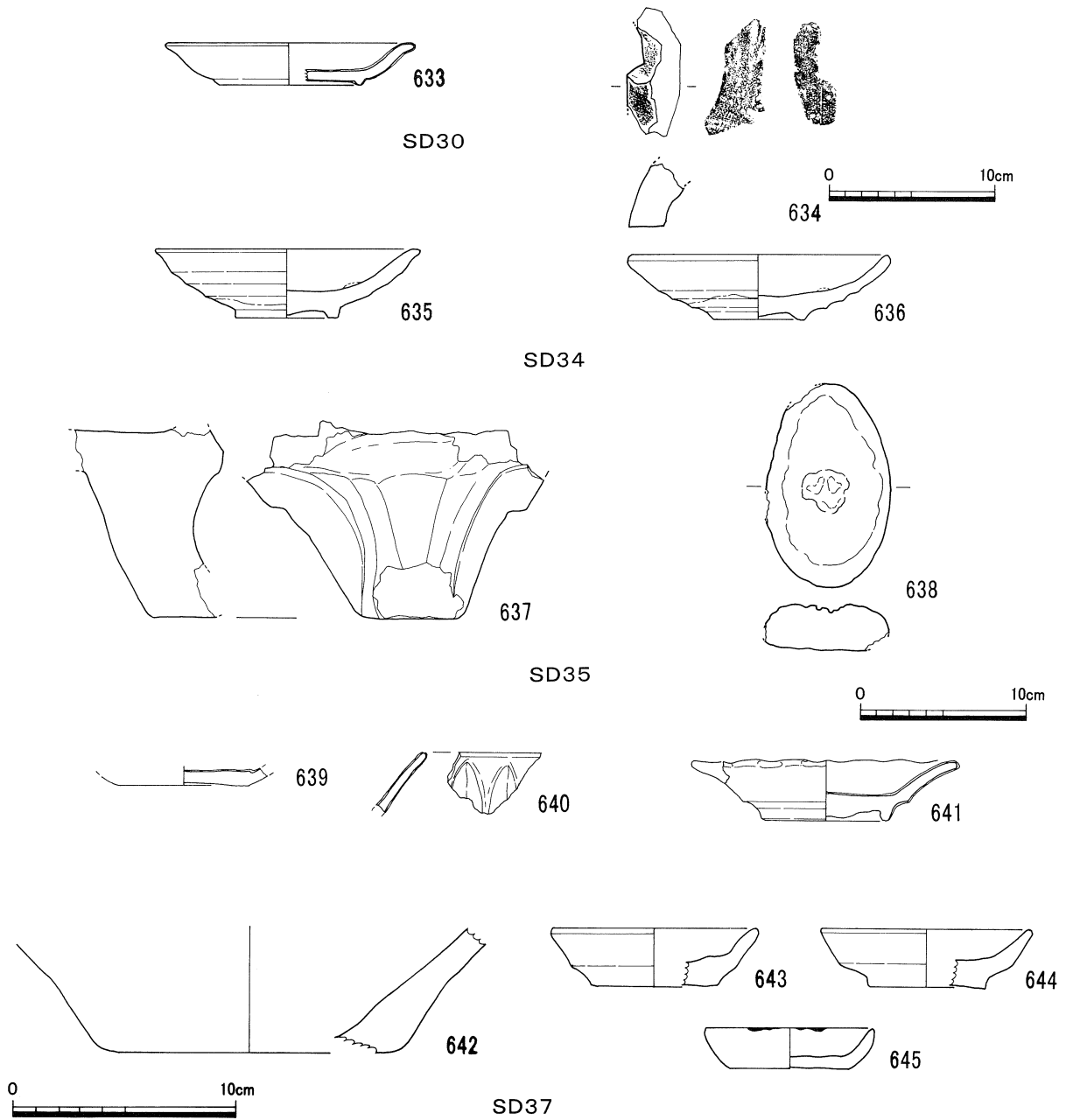
第78図 溝状遺構出土遺物(22)

第38号溝状遺構 SD38

出土遺物は、近世陶磁器・貿易陶磁・常滑・かわらけ等があるが、図示可能なものはなかった。

第39号溝状遺構 SD39

本遺構は確認のみにとどまっているため、出土遺物はなかった。



第79図 溝状遺構出土遺物(23)

(4) 土坑墓出土遺物

土坑墓は5基検出された。出土遺物はいずれもかわらけが中心で、陶磁器等の明確な共伴例はなかった。

第1号土坑墓 ST01 (第80図)

出土遺物は、かわらけ31点、鉄釘4点で、かわらけ2点が図示可能であった。

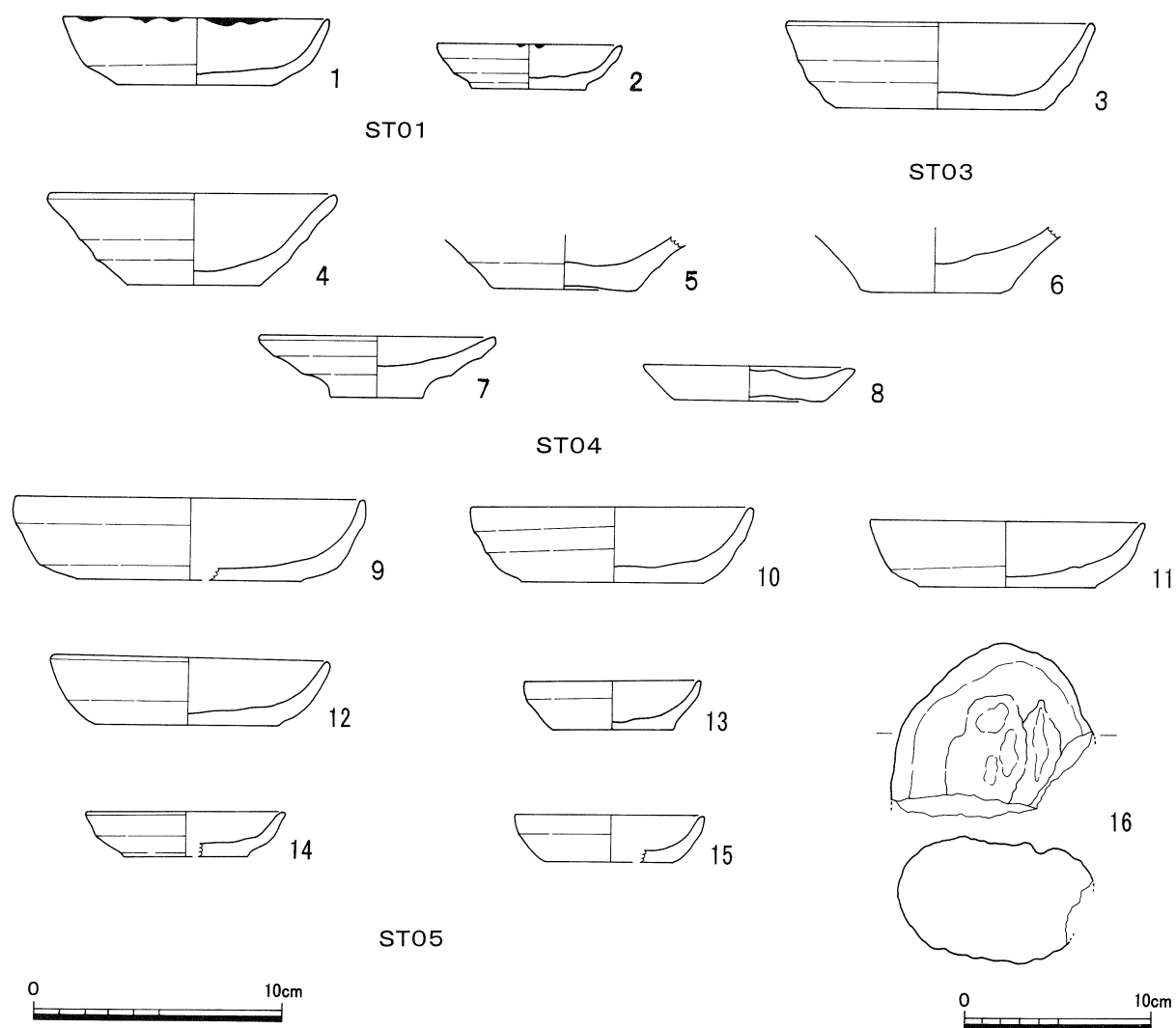
1・2はともにロクロ成形で、体部が内彎するものである。口縁部にスズが付着する。大小のセットと考えられる。

第2号土坑墓 ST02

出土遺物は、かわらけ9点、鉄釘14点などで、他に漆片、骨片なども認められた。かわらけはいずれも小破片で、図示可能遺物はなかった。

第3号土坑墓 ST03 (第80図)

出土遺物は、かわらけ14点、骨片などである。かわらけ1点が図示可能であった。3は口径と底径の差が小さい箱形のロクロ成形かわらけで、底部に板状圧痕を残す。



第80図 土坑墓出土遺物

第4号土坑墓 ST04 (第80図)

出土遺物は、かわらけ44点、貿易陶磁1点、瀬戸美濃1点、鉄釘1点などであったが、図示できたのはかわらけ4点である。4は底径が小さく逆台形状を呈すかわらけである。5・6は底部破片であるが、同様のタイプであろう。7は底部の突出する小形のかわらけ、8は器高の低い小形品である。

第5号土坑墓 ST05 (第80図 図版18)

出土遺物は、出土遺物はかわらけ382点、常滑1点、軽石加工品1点、鉄釘1点、スラグ1点などで、覆土内には炭化物も多く認められた。かわらけ7点と軽石製の凹石1点が図示可能であった。

9は口径14cmを越える大形のロクロ成形かわらけである。10～12は中形、13～15は口径8cm以下の小形かわらけである。いずれも形態や胎土が共通しており、大中小のセットと考えることができる。

(5) 土坑出土遺物

土坑は62基検出した。このうち、遺物が出土しているのは49基で、図示可能遺物が出土したのは12基である。ここでは、遺物を図示した土坑のみを記述することとし、それ以外の遺物の出土状況については遺構一覧表を参照されたい。

第14号土坑 SX14 (第81図)

出土遺物はかわらけ1点、古代末の土師器などである。図示可能遺物は1点のみである。1は柱状高台の土師器で、古代末のものと思われる。

第19号土坑 SX19 (第81図 図版18)

かわらけが88点出土しており、そのうちロクロ成形のものが56点、手づくね成形30点、不明2点であった。手づくね成形のかわらけが2/3近くを占める。かわらけ1点を図示した。2は手づくね成形かわらけで、口径11.6cm、器高3.0cmを測る。器高が高い小形化したタイプである。

第34号土坑 SX34 (第81図 図版18)

出土遺物はかわらけのみで、このうちロクロ成形が59点、手づくね成形が35点の計94点であった。8点が図示可能であった。

3～5はロクロ成形かわらけである。3・4は底部破片であるが、底径7.0cmを測り、大形かわらけと思われる。5は口径9.6cmの小形品である。6～10は手づくね成形かわらけで、6～9が大形、10が小形品である。いずれも口径に対して器高が高いタイプの手づくね成形かわらけである。

第35号土坑 SX35 (第81図)

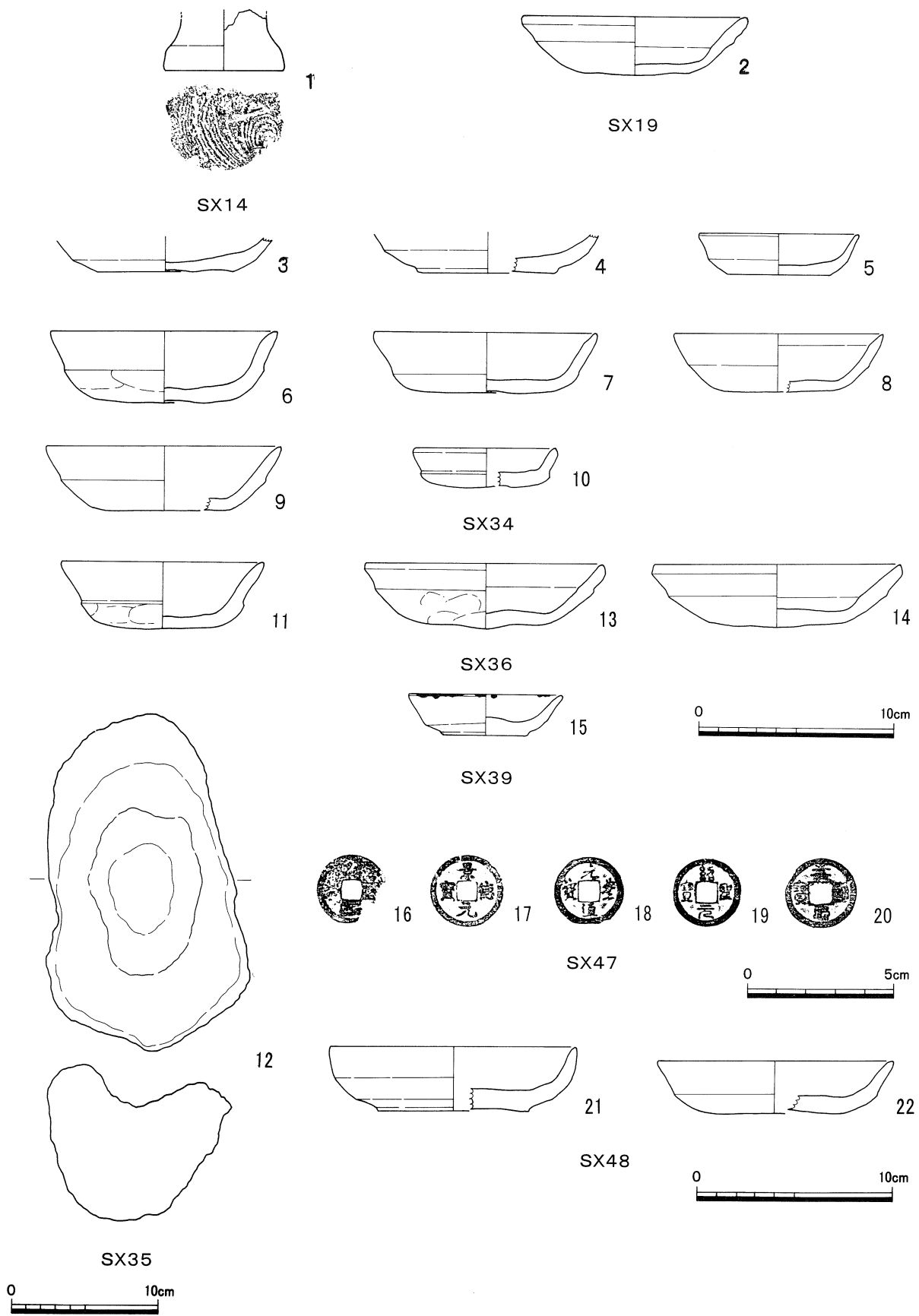
石製品1点のみ図示可能で、その他かわらけ・陶磁器類は小破片のため図示できなかった。11は凹みを有す軽石加工品である。

第36号土坑 SX36 (第81図 図版18)

出土遺物は108点、貿易陶磁1点、常滑1点、鉄釘などが出土しているが、かわらけ3点が図示可能であった。11～14はいずれも大形の手づくねかわらけである。

第39号土坑 SX39 (第81図 図版19)

出土遺物はかわらけ9点、貿易陶磁1点などで、かわらけ1点を図示した。15はロクロ成形の小形か



第81図 土坑出土遺物(1)

わらけで、口縁部にススが付着する。

第47号土坑 SX47 (第81図)

かわらけ17点・銭貨などが出土しているが、かわらけは小破片のため図示はできなかつた。銭貨5点が図示可能であつた。16は唐銭の開元通宝、17~20は北宋銭で、17が景德元宝、18が元豊通宝、19が招聖元宝、20が嘉祐通宝である。銭貨の出土から、本土坑が土坑墓の可能性もあるが、骨片等は出土しておらず、確定することはできなかつた。

第48号土坑 SX48 (第81図)

かわらけ49点、渥美1点などが出土した。かわらけ2点のみ図示可能であつた。21はロクロ成形、22は手づくね成形かわらけである。

第50号土坑 SX50 (第82図 図版19)

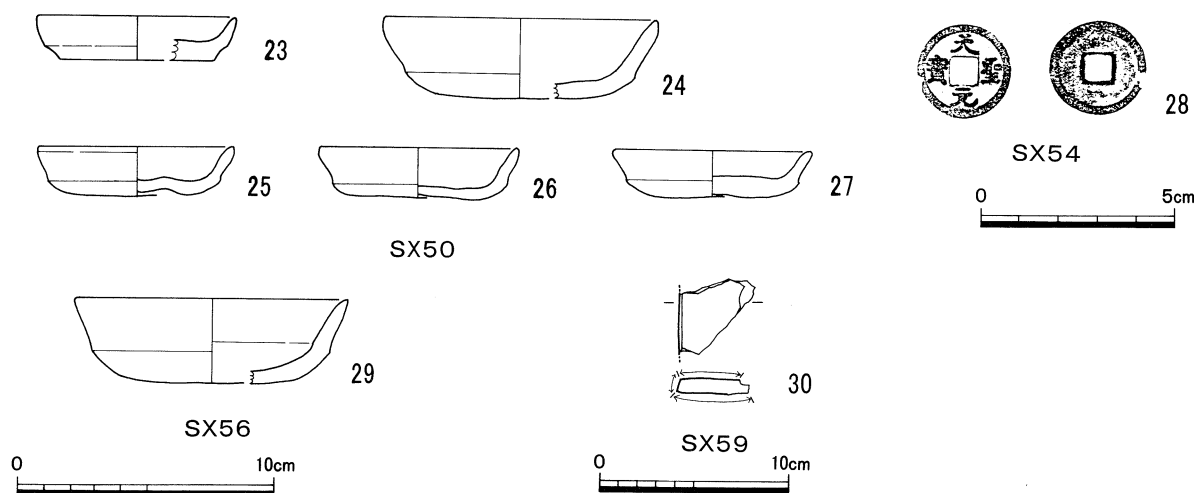
出土遺物はかわらけのみで、ロクロ成形かわらけ67点、手づくね成形かわらけ14点である。5点が図示可能であつた。23は小形のロクロ成形かわらけである。24~27は手づくね成形かわらけで、24が口径10cmの大形かわらけ、他は小形かわらけである。いずれも口径が小さく器高が高いタイプの手づくね成形かわらけである。

第54号土坑 SX54 (第82図)

出土遺物はかわらけ・銭貨・鉄釘などである。かわらけは微細な破片が36点あるのみで、銭貨1点のみ図示可能であつた。28は北宋銭・天聖元宝である。

第56号土坑 SX56 (第82図 図版19)

出土遺物はかわらけのみで、ロクロ成形25点、手づくね成形6点であつた。手づくね成形かわらけ1点が図示可能である。29は口径10.6cm、器高3.3cmを測り、口縁部が外反するものである。



第82図 土坑出土遺物(2)

(6) 集石出土遺物

集石は17基検出された。このうち、遺物が出土しているのは、第1・2・5・6・8～12・16・17号の11基である。なお、各々の集石範囲で同レベルで出土しているものを、遺構に伴うものと認定しており、若干の混入のある可能性もある。また、集石下部の調査は行われていないため、下部の遺構等の有無によっては遺物の状況が変更する可能性もある。

第1号集石 GS01 (第83図)

本集石では、かわらけ10点、瓦2点、石製品1点などが出土している。1～6の6点が図示可能であった。

1～4はかわらけで、いずれもロクロ成形である。1は口径6.8cmの小形、2～4は大形のものである。5は平瓦、6は凹みを有す軽石加工品である。

第2号集石 GS02 (第83図)

遺物は常滑3点、かわらけ34点、瓦21点などである。多くは礫の間から出土している。

7は常滑の片口鉢Ⅱ類で、11型式である。8は東遠江系の小皿である。9～14はかわらけで、いずれもロクロ成形のものである。9は器高が高く口縁部が大きく外反するもの、10・11は口径約10cmの中形タイプで、体部が内彎するものである。12～14は口径8cm以下の小形品である。

15・16は平瓦で、凸面に縄目が認められる。

第5号集石 GS05

出土遺物は、常滑甕破片が2点認められたのみで、図示可能遺物はなかった。

第6号集石 GS06 (第84図)

遺物はかわらけ27点、瀬戸美濃1点、常滑2点、瓦3点などで、かわらけ5点が図示可能であった。

17は口径10cmの中形かわらけで口縁部にススが付着している。19～21は小形のかわらけで、21のみは底径が小さく低い逆台形状を呈す。

第8号集石 GS08 (第84図)

瓦1点、石製品2点が出土した。22・23は凹みを有す軽石加工品で、集石の中に混在して出土した。24は軒平瓦の破片である。

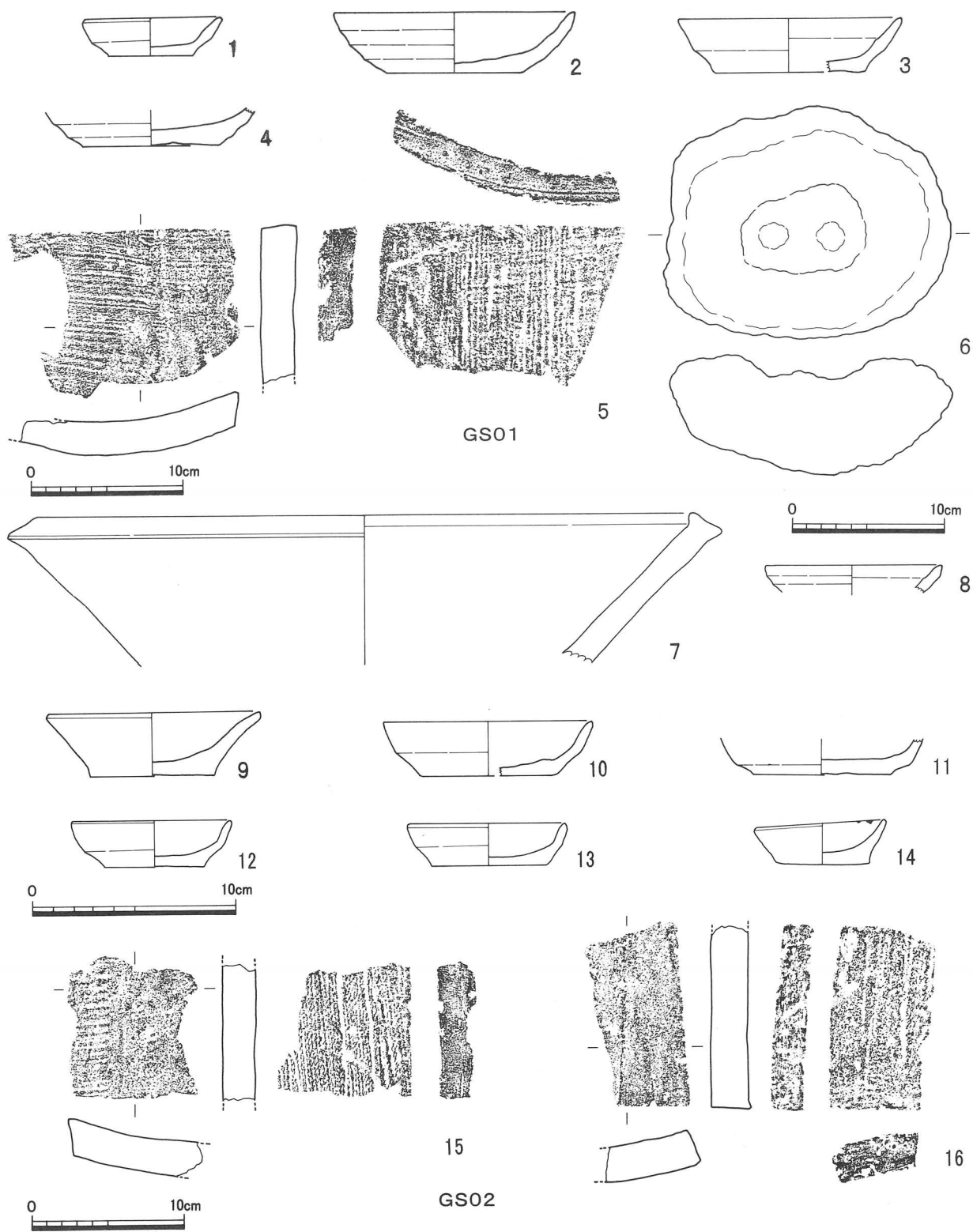
第9号集石 GS09 (第84図)

集石東側で瓦4点が出土し、24の軒平瓦1点を図示した。集石域からやや離れて出土しているため、本集石に伴うものであるかは確定はできない。

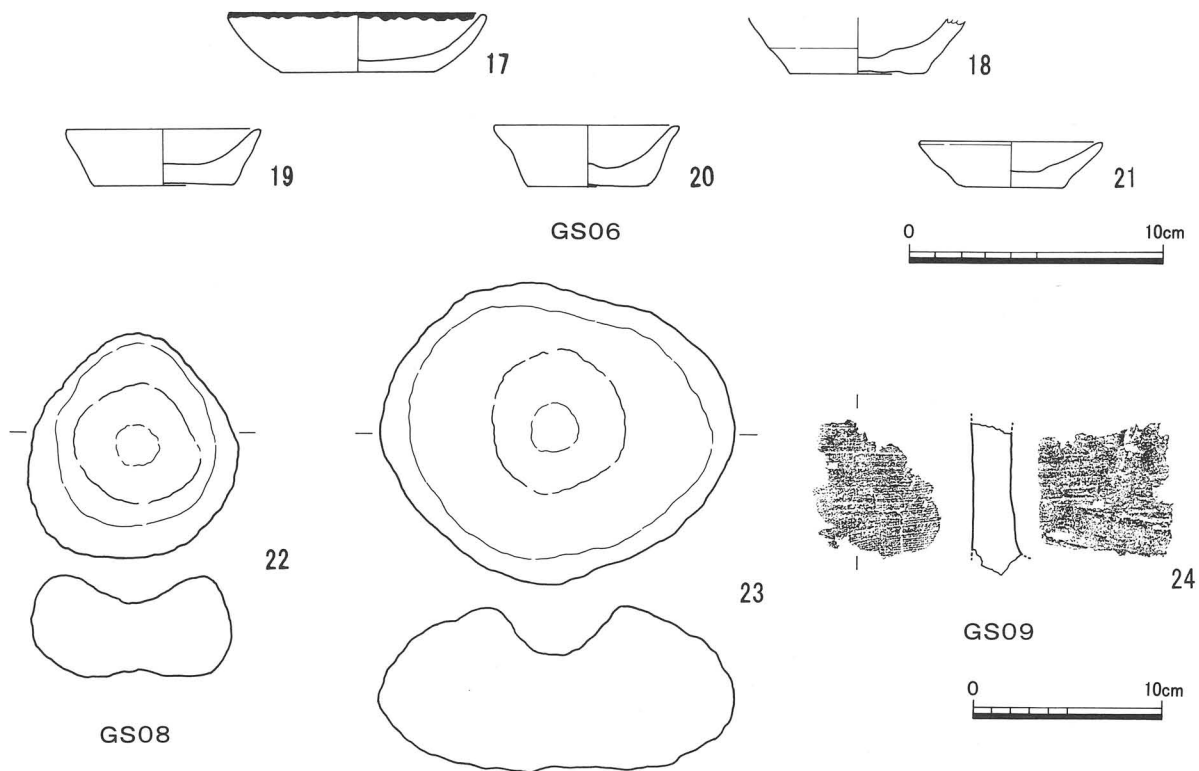
第10号集石 GS10 (第85～91図)

本集石範囲からは、大量の瓦が出土している。総数97点で、35点を図示した。他にかわらけ11点、貿易陶磁1点、瀬戸美濃1点、常滑3点、瓦質製品2点等が出土しているが、いずれも小破片であり、かわらけ2点のみ図示可能であった。

25は口縁部が外反する小形のかわらけである。26は口径11cmのやや大形のかわらけである。全体に厚手で、口縁部がやや外反する。27～61は瓦である。27・28は軒丸瓦で、27は瓦当に巴文を有す。29～34は軒平瓦である。29～31・33は瓦当文が認められたが、いずれも陽刻の剣頭文である。35～



第83図 集石出土遺物(1)



第84図 集石出土遺物(2)

37は丸瓦で、凸面に縄目、凹面に布目痕が認められる。38～61は平瓦である。このうち、40は全体の法量がほぼ推定できる破片で、全長32.9cm、下端幅22.9cm、厚さは最大で2.2cmを測る。本遺構出土の平瓦は、凸面に縄目をもつものがほとんどで、凹面は布目痕が残るか、丁寧なナデ調整を施している。

第11号集石 GS11 (第92図)

出土遺物は瓦1点のみであった。62は平瓦で、上端幅20cmを測る。凹面に布目痕が認められ、凸面はナデ調整である。

第12号集石 GS12 (第92図)

63の平瓦1点が出土した。その他かわらけ小破片3点が出土しているが図示はできなかった。

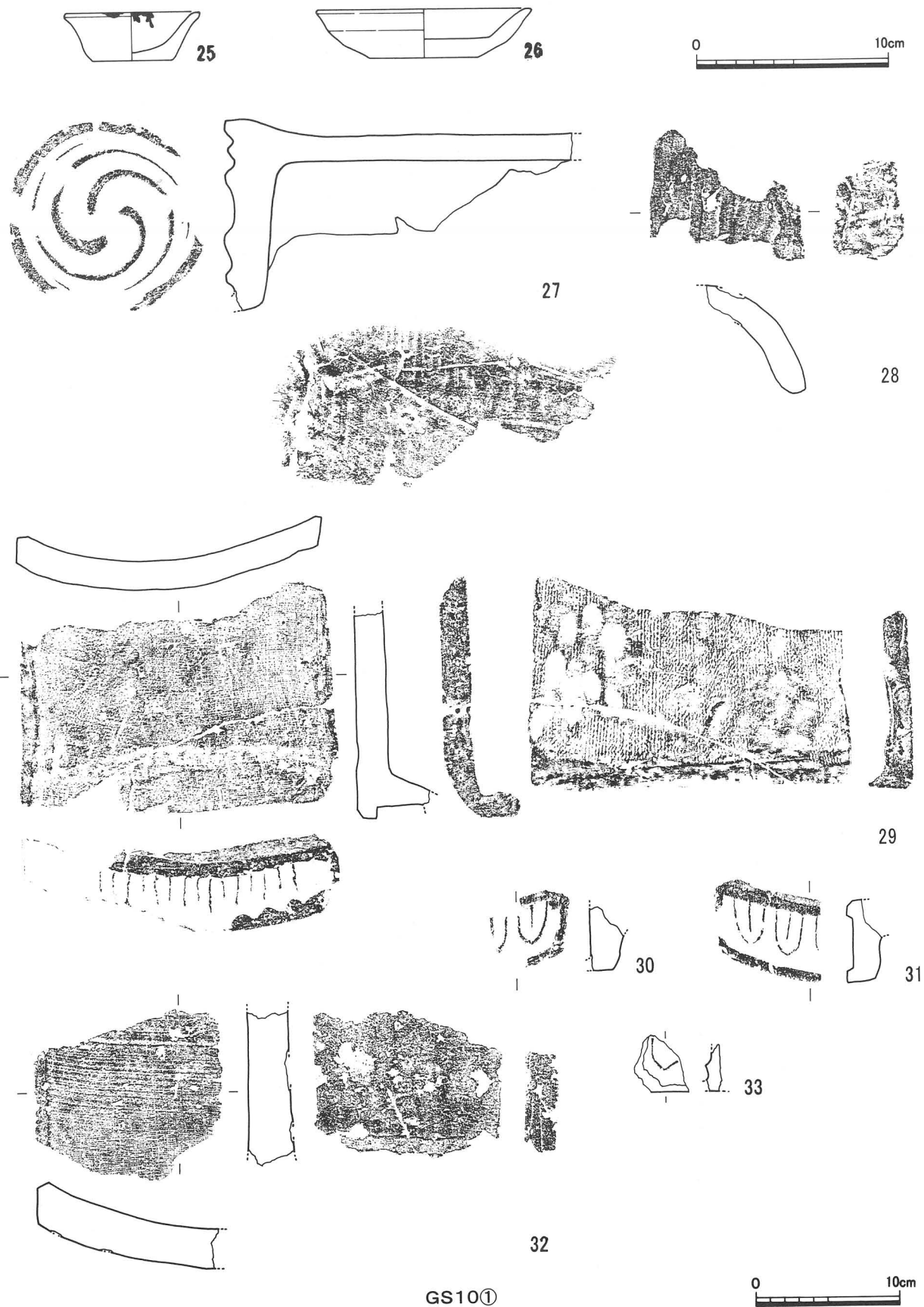
第16号集石 GS16 (第93図)

出土遺物はかわらけ5点、瀬戸美濃1点、常滑6点、渥美1点、瓦6点、石製品で、瀬戸美濃・かわらけ・瓦、石製品を図示した。

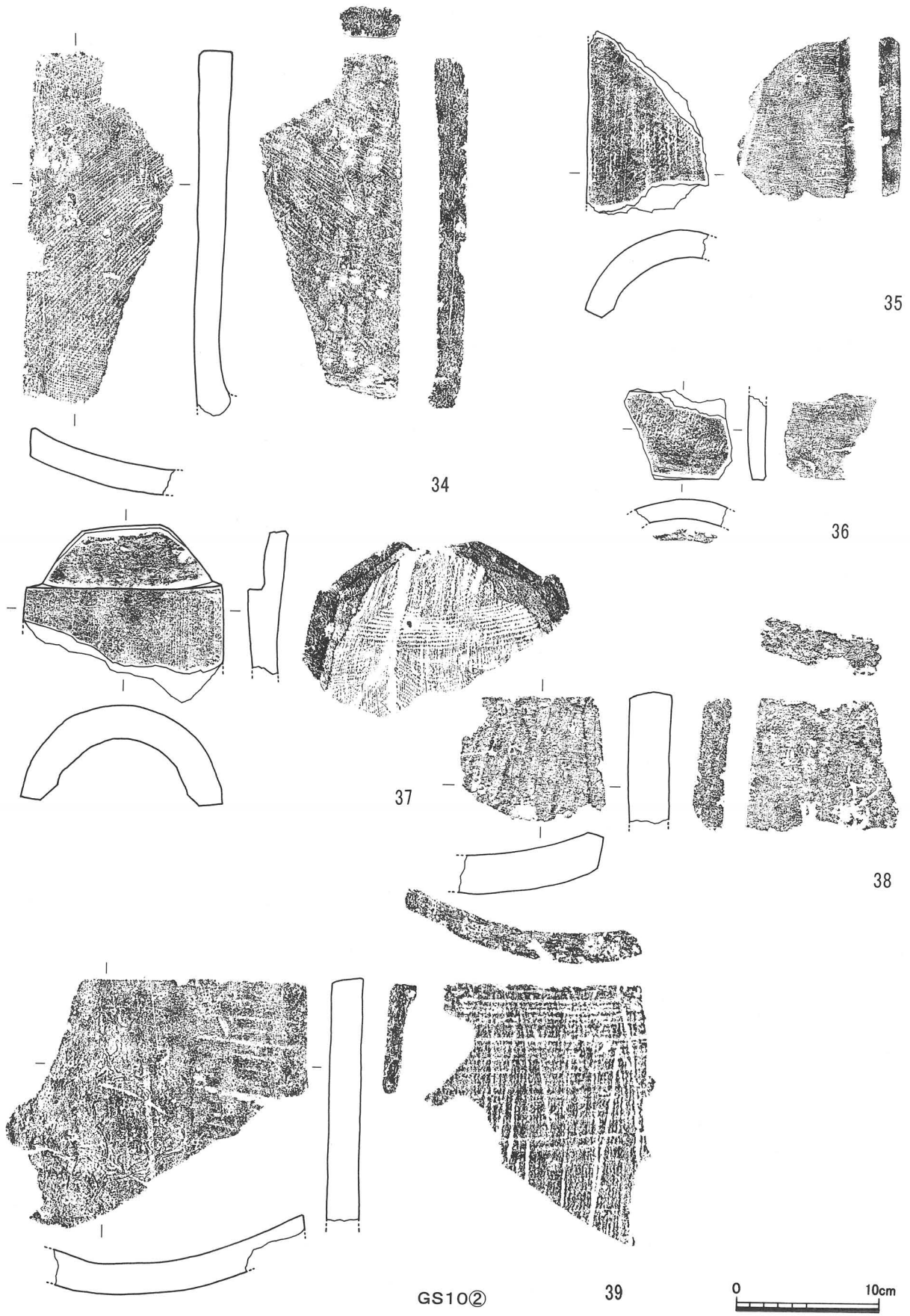
66は瀬戸美濃の播鉢で、後IV古期のものである。67は口径約12cmのロクロ成形かわらけである。68～70は平瓦で、いずれも凸面に縄目が認められた。71は軽石を円盤状に加工したものである。

第17号集石 GS17 (第92図)

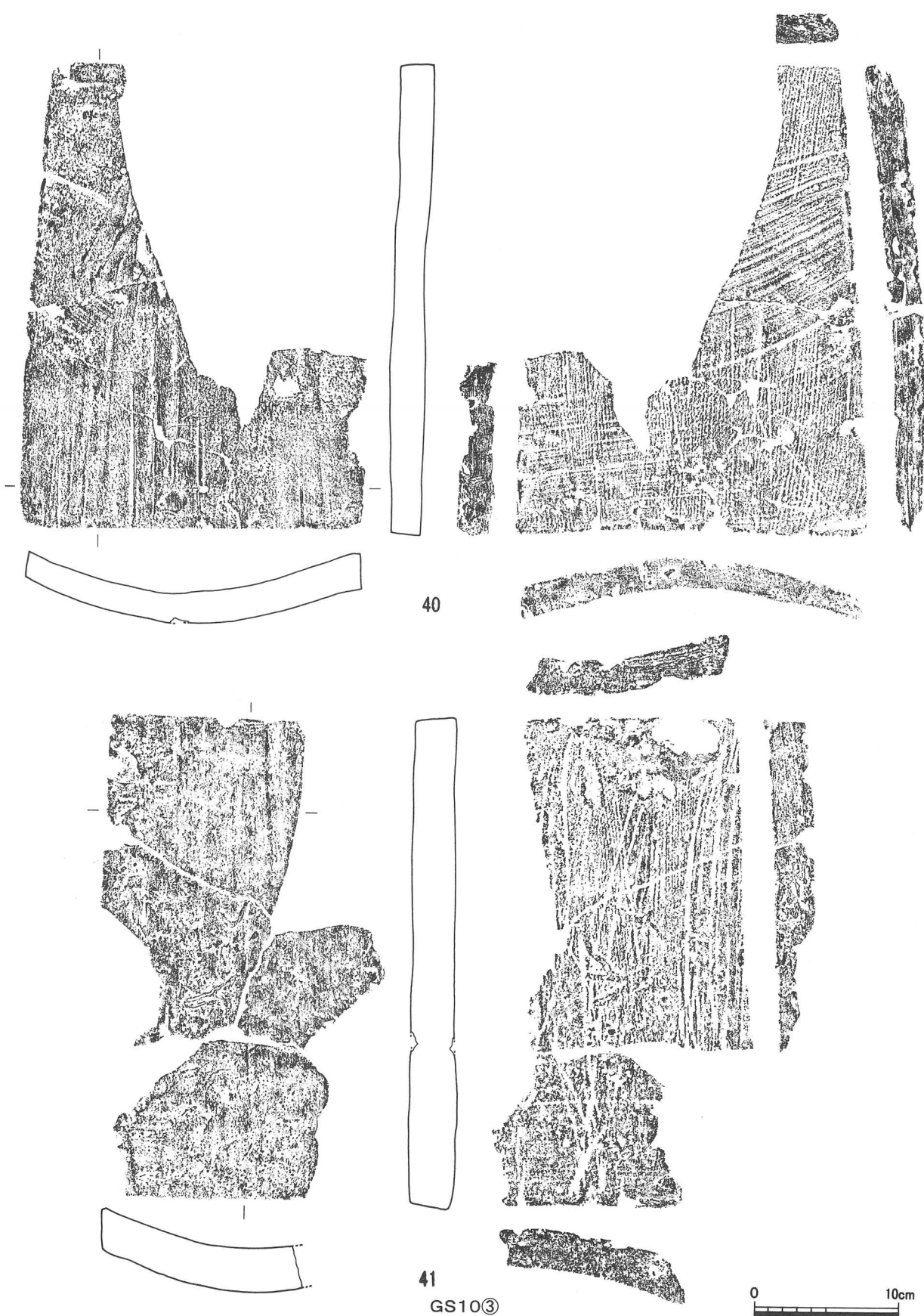
かわらけ2点が出土しており、図示可能であった。64・65はロクロ成形かわらけで、口径9cmを測る。底部が突出気味で体部が内彎するものである。



第85図 集石出土遺物(3)



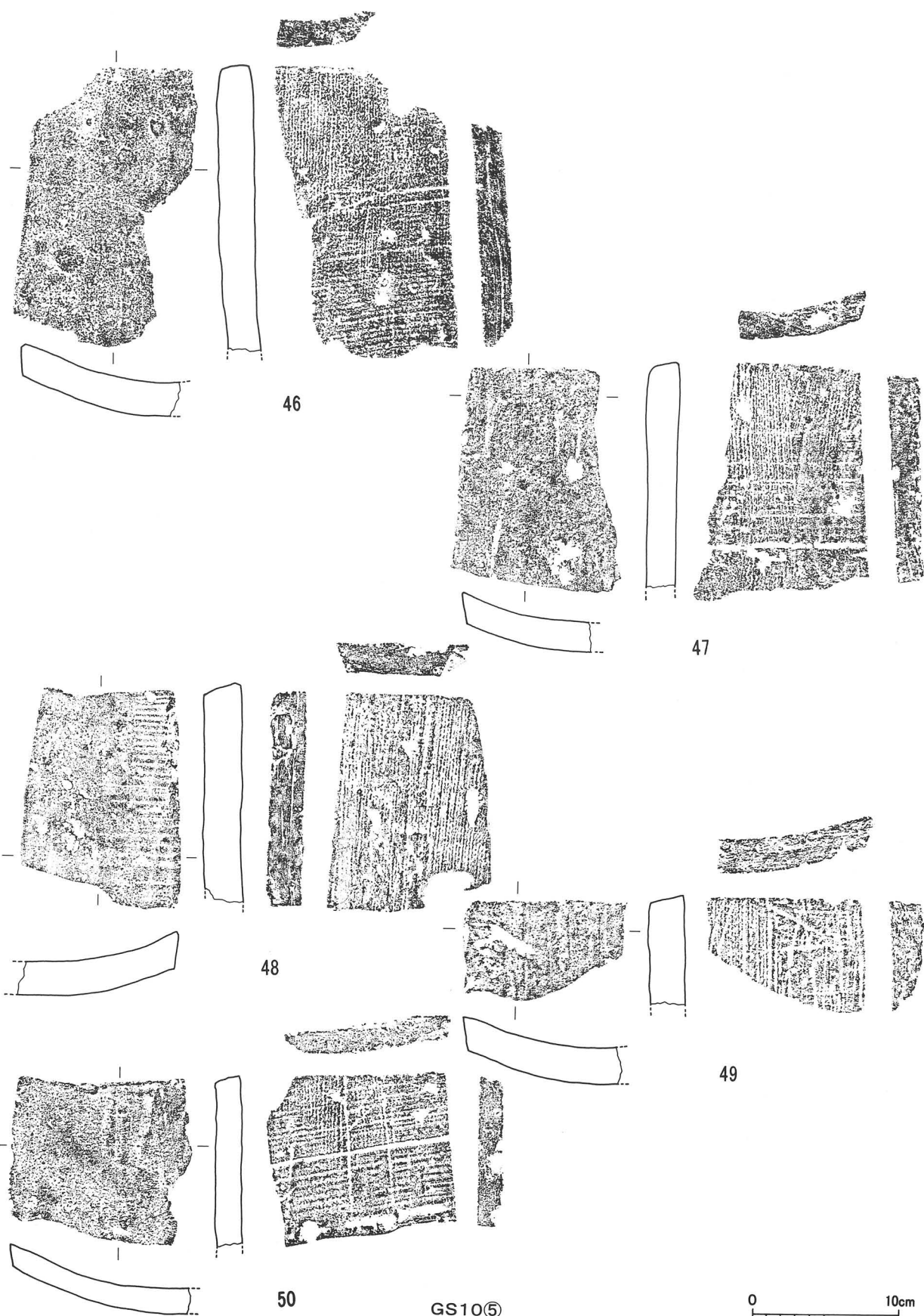
第86図 集石出土遺物(4)



第87図 集石出土遺物(5)



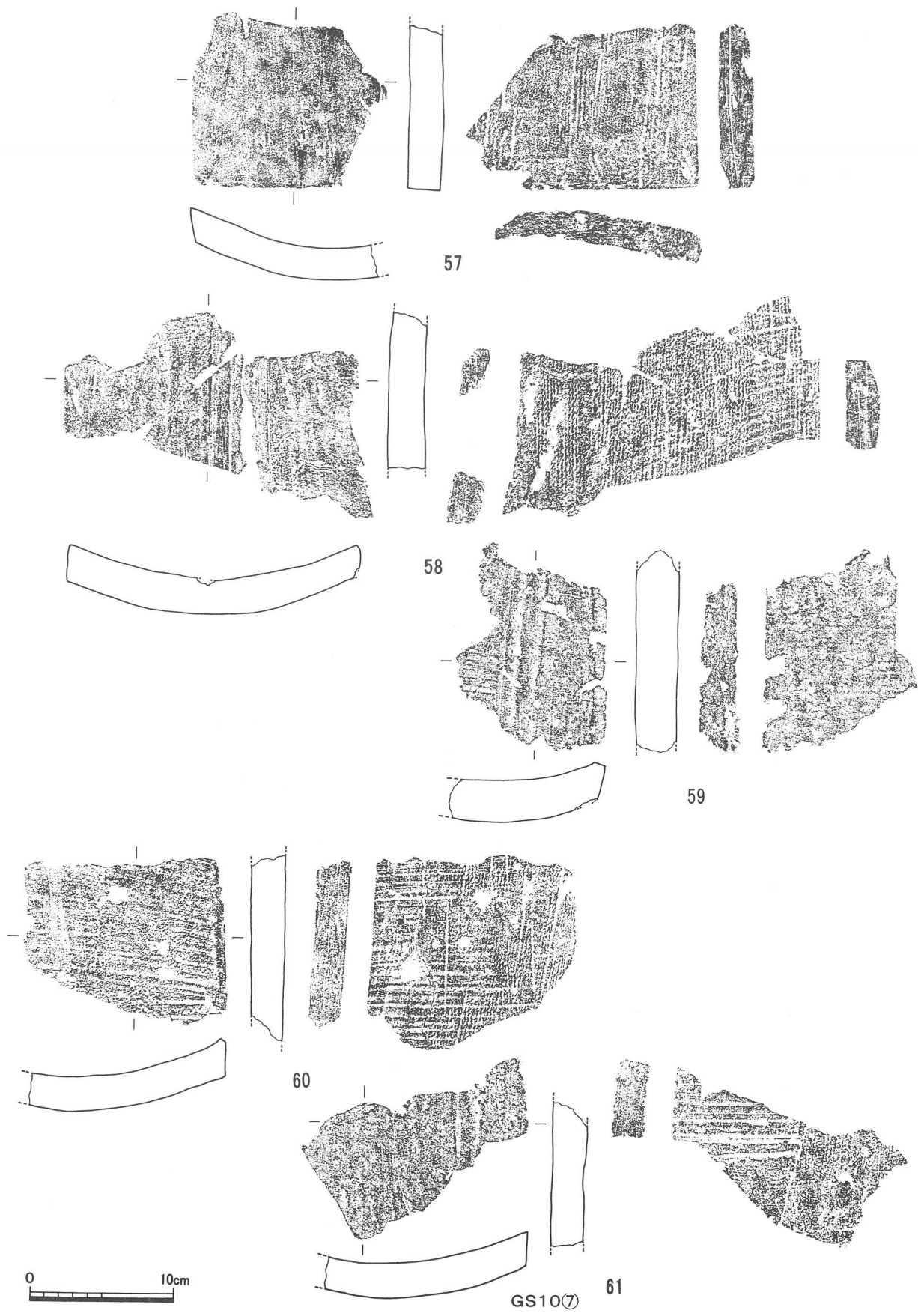
第88図 集石出土遺物(6)



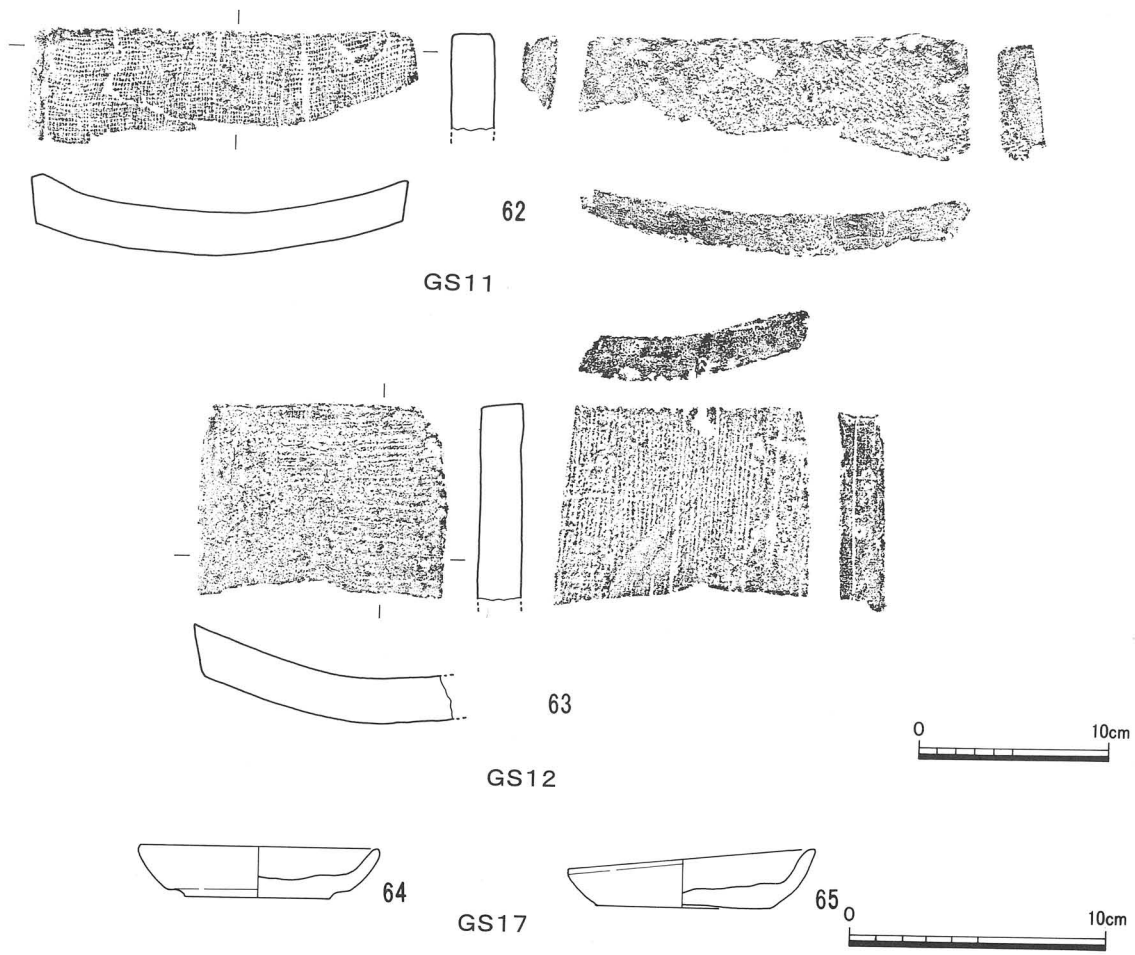
第89図 集石出土遺物(7)



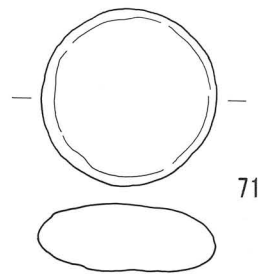
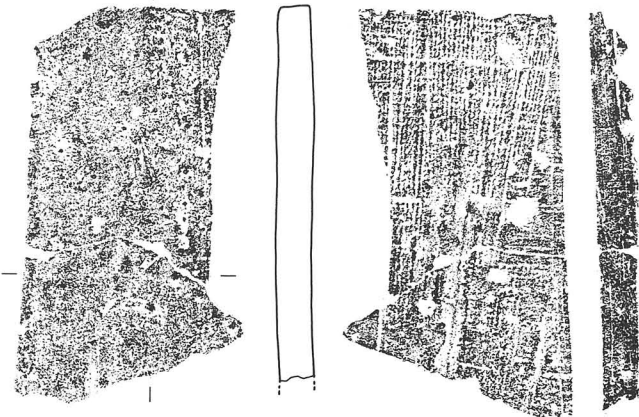
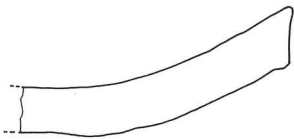
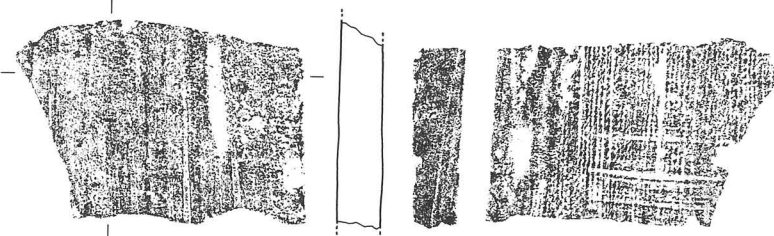
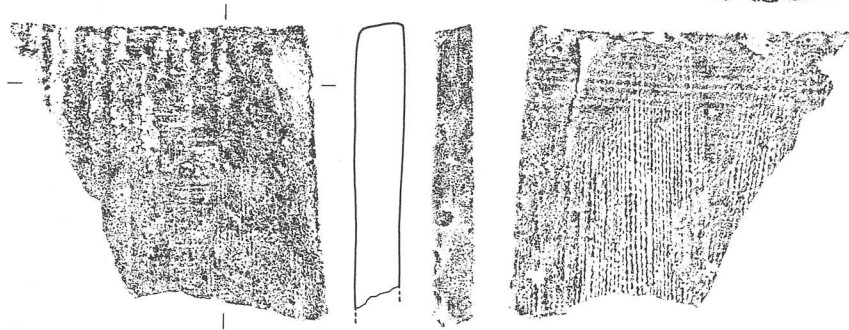
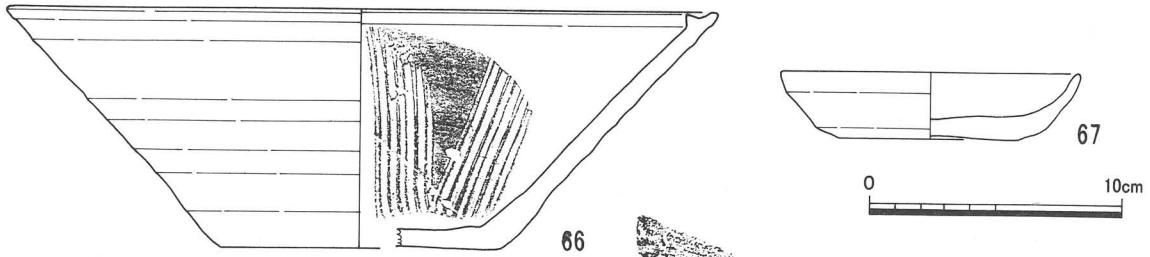
第90図 集石出土遺物(8)



第91図 集石出土遺物(9)



第92図 集石出土遺物(10)



70 GS16



第93図 集石出土遺物(11)

(7) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は1～5区の区別に記述する。

1区の出土遺物 (第94～107図)

1区は調査区南部に設定された区で、最も多くの遺物が出土している。出土遺物は、貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・渥美・かわらけ・瓦質製品・瓦・石製品・近世陶器などである。

第94・95図は貿易陶磁である。1～16は白磁で、碗(1～7)、皿(8～13・16)、坏(14)、小碗(15)がある。碗はⅡ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅸ類があり、12～13世紀のものが中心である。皿はⅣ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ類があり、12のⅨ類皿は内面に雷文と花文の型押文が認められた。16はB群の皿で、15の小碗とともに明代のものである。17～52は青磁である。17～22は同安窯系青磁で、17～19が碗、20～22が皿である。23以下は龍泉窯系青磁である。23～35は劃花文の碗で、23～30はⅠ-2類、31～33はⅠ-4類、34・35はⅠ-6類である。36～42はⅠ-5類の所謂蓮弁文碗である。いずれも鎬の明瞭なもので、13世紀代であろう。44～49は無文の碗、または底部破片のため分類不明のものである。このうち、44・49は口縁部端反のもので、14世紀後半代のものであろう。また、47は見込みに「河濱遺範」の印を有すもので、12世紀代の製品とされている。45は、高台周辺部を意図的に細かく打ち欠いているもので、同様の例は本遺跡において多く認められた。50は皿で、劃花文系の皿であろう。51は口縁部が折縁になる盤、52は香炉の脚部で「夜学香炉」と呼ばれているものであろう。53～57は青白磁で、53～55は皿、56・57は梅瓶である。58は天目茶碗の底部破片である。59は泉州産の緑釉盤である。

第96図60～87は瀬戸美濃である。60～62は天目茶碗でいずれも後Ⅱ期と後Ⅲ期に比定される。63は小天目茶碗で後Ⅰ期のものである。64～68は平碗である。後Ⅰ～後Ⅳ新期のものが出土している。69～72は縁釉小皿、73・74は折縁小皿である。75は後Ⅳ新期の腰折皿である。76は後Ⅲ期の卸皿で、口径は15cmを測る。77は折縁深皿、78は直縁大皿、82は卸目付大皿である。80・81・83は仏花瓶である。84・85は柄付片口で後Ⅰ・Ⅱ期である。86は鉄釉の小鉢である。87は入子である。

第97図88～106第98図107～112は常滑である。88～95は甕で3型式～11型式までのものが出土している。95～110は片口鉢で、95～102は片口鉢Ⅰで2～5型式、103～110は片口鉢Ⅱで7～11型式である。111は5～6 a型式の鶯口壺である。112は山茶碗で3型式に比定される。

第98図113～117は渥美である。113～115は甕、116は鉢である。117は刻画文の描かれた壺である。118は渥美か湖西産の山茶碗である。

第99図119～133は東遠江系の山茶碗である。119～123は碗、124～133は小皿である。13世紀代のものであろう。134は志戸呂産の插鉢で、瀬戸美濃の後Ⅳ期併行である。

第99図135～第101図260はかわらけである。ロクロ成形(135～246)と手づくね成形(247～260)が出土している。

135・136は口径14.0cmを越える大形のかわらけである。底径は小さめで、第1号井戸・第2号井戸から出土した坏形タイプに類似する。137～140は同じく第1号・第2号井戸出土かわらけと共通する小形タイプである。137・138は口径と底径の差が小さい皿形、139・140は底径の小さい坏形である。141～147・156は口径12cm代のもので、第1号溝状遺構の大形かわらけに相当する。148～155・159～161は同じく第1号溝状遺構の中形、171～182は小形かわらけである。162～170は体部が直線的に立ち上がるかわらけである。162・165～167は第4号溝状遺構の箱形B類の大形、169はその中形である。163は逆台形のC類の大形、168～170は中形である。183～246は第4号溝状遺構出土のものと共通する小形かわらけである。183～186・203～225・227～230は箱形のBタイプ、187・188は内彎するA類、231～234は逆台形C類の薄手、235～246は同類厚手のかわらけである。また、190・194はD類に相当する。

247～260は手づくねかわらけである。247～252は大形かわらけで、248～250は口唇部に面取りを

有すもの、252・252は厚手で器高の高いものである。253～260は小形のかわらけである。

第101図261～271は瓦質製品である。261・262は火鉢で、262は口縁部下にスタンプ文が巡る。263・264は風炉である。265～267は香炉、268～270は燭台である。271は獣足であるが、器種は不明である。

第102図272～第106図329は瓦である。272～277は軒丸瓦でいずれも巴文である。272・273・276は周縁部に連珠が付される。278～293は軒平瓦である。278は陰刻の剣頭文、279～287は陽刻の剣頭文である。288～291は半截花文半が描かれる。292・293は瓦当を欠く。

294～306は丸瓦である。凸面には縄目が、凹面には布目痕が残るものが多く認められる。307～329は平瓦で、凸面には縄目が、凹面には布目痕が、またはその後のナデ調整認められる。316は格子目のタタキが認められる。

第107図330～338は石製品である。330・331は滑石製の鍋である。332は同じく滑石製の温石で、孔が穿たれている。333～338は砥石である。333～335は中砥で、333・334が天草産、335が伊予産である。336～338は仕上砥で、鳴滝産である。

339は銭貨で北宋・聖宋元宝である。

第107図340以下は中世以外の遺物である。340・341は近世陶器で、340が唐津の碗、341は瀬戸美濃の志野皿である。342～345は灰釉陶器、346・347は須恵器である。348は土製管玉である。また、349は弥生時代中期の壺形土器である。350～353は古代瓦である。350は単弁蓮華文の軒丸瓦である。351～353は正格子文叩きが施された平瓦である。

2区の出土遺物（第108～113図）

2区は1区の北側に設定された比較的狭い調査区であるが、中世前期を中心に多くの遺物が出土している。

第108図1～39は貿易陶磁である。1～13は白磁で、碗のIV類・V類・VIII類、皿IX類、四耳壺III類が出土している。14～30は青磁である。14～20は同安窯系の碗・皿である。21～27は龍泉窯系の碗で、劃花文の類、鎬蓮弁文のB1類、B2・B3類、D1類などが出土している。28・29は盤類、30は蓮弁の折縁皿または鉢で、見込みに双魚文が描かれる。31～33は青白磁である。31は碗、32は内面に印花文を有す皿、33は合子である。34は天目茶碗である。35～39は泉州系の陶器である。35・36は緑釉の盤、37は壺と思われる。38・39は黄釉盤である。

第109図40～59は瀬戸美濃の陶器である。40～45は天目茶碗で、中IV期～後III期のものが出土している。46は小天目茶碗で後II期である。47～50は縁釉小皿である。後I～後IV新期のものである。51は中IV期の折縁深皿、52・54は挿鉢、53は盤類である。55は後III期の鉄釉浅碗、56は灰釉の平底末広碗である。57は中III期の鉄釉大海茶入である。58は大窯4段階の志野鉄絵皿である。59は瀬戸6段階の山茶碗・片口鉢である。

第109図60～69第110図71～73は常滑渥美産の陶器である。60～67は常滑の甕で2～8型式が出土している。68は常滑片口鉢Iで、2～3型式、69・71・72は片口鉢IIで6～10型式である。70は渥美産の鉢、73は渥美または湖西産の鉢である。

第110図74～77は東遠江系の陶器である。74は碗、75は小皿、76・77は片口鉢である。

第110図78～第112図199はかわらけである。ロクロ成形（78～181）と手づくね成形（182～199）がある。

78～138は厚手のかわらけで、第1号・2号井戸出土のものと共通する。大小があり、皿形（78・81～84・86～89・90～92・94・99・102）と坏形（79～81・93・95～98・103）の2種が認められた。

139～144は口径10.5～12.0cmで体部がやや内彎気味に立ち上がるもので、第1号溝状遺構出土のものと法量・器形が共通する。145～153は口径10.0～11.0cmで体部が直線的あるいは外反するもので、第4号溝状遺構のC類中形に相当する。154～181は小形かわらけで、155～161・171は第1号・2号溝状遺構の小形かわらけと共通する。172～181は第4号溝状遺構のものと類似し、172～176は箱形のB類、177～181は逆台形のC類である。166～170は口径8.0cm代のやや大きめの箱形のかかわらけである。

182～199は手づくねかわらけである。大形は口径14.0cm代、小形は10.0cm前後である。199以外は薄手で、全体に法量も大きめである。

第112図200～203は瓦質製品である。200は火鉢、201・202は香炉である。203は三足をもつ製品であるが、器種は不明である。204はかわらけ質の製品である。小形の香炉かと思われる。

第113図205～212は瓦である。205は軒丸瓦で、205は巴文、206は連珠文が付される。207・208は軒平瓦で、207は陰刻の剣頭文、208は半截花文である。209～212は平瓦である。凸面は縄目またはナデ、凹面は布目かナデ痕が認められる。212は格子目のタタキが認められる。

213・214は砥石で、213鳴滝産の仕上砥、214・215はそれぞれ上野産、伊予産の中砥である。

216・217は銭貨で、北宋銭・聖宋元宝、元祐通宝である。

218は近世陶器で、瀬戸美濃の灯明皿である。219は須恵器の瓶類、220は灰釉陶器の碗である。

221・222は石製の管玉で、古代のものであろう。

3区の出土遺物（第114～120図）

3区は2区の西側の調査区で、2区同様中世前期の遺物が多い傾向が認められた。

第114図1～37は貿易陶磁である。1～7は白磁で、碗Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ類の碗、Ⅴ・Ⅵ類の皿がある。また、7は皿類の四耳壺である。8～26は青磁である。8～14は同安窯系の碗・皿である。15～23は龍泉窯系の碗で、劃花文のⅠ類、鎬蓮弁文のB1類、B3類、D1・2類などが出土している。24は外面蓮弁文の折縁盤、25は同じく蓮弁文の折縁皿である。26は稜花皿である。27～32は青白磁である。27～29は皿で、28は内面に印花文、29は見込みに文様が描かれる。30は盤類または袋物であろう。31・32は梅瓶である。33・34は泉州産陶器で、33は黄釉の盤、34は緑釉の壺であろう。35～37は染付皿で、いずれもB-1群である。

第115図38～41は瀬戸美濃の陶器である。38は八稜皿、39は直縁大皿とともに後Ⅲ期である。40は大窯2後段階の丸皿、41は大窯3段階の天目茶碗である。

42～45は常滑の陶器で、42は2形式の甕、43・44は9形式の片口鉢Ⅱ類である。45は壺で、11～12型式に比定される。46・47は渥美または湖西産の鉢である。

48～50は東遠江系の山茶碗で、いずれも小皿である。

第115図51～第117図131はかわらけである。51～124・131はロクロ成形、125～130は手づくね成形である。

51～83は厚手のかかわらけで、第1号・2号井戸と共通する。51～71は大形のかかわらけで、第1号・2号井戸同様、口径と底径の差が大きい坏形（55・63・64・66）、底部が大きい皿形（51・54・69・70）の2種がある。73～83は小形かわらけで、坏形（74～78・80）、皿形（73・79・81・82）に分かれる。72は口径11.0cmで大小の中間の法量である。

84～90は口径11.0cm前後のかかわらけで、内底にナデ、底部に板状圧痕を有す。第1号溝状遺構の中形かわらけに相当する。93～100は第4号溝状遺構のかかわらけと類似する。93は逆台形を呈す大形のCⅠ類、94～98は中形のCⅡ類に該当する。100～104は器高が低く、口縁部が大きく開く形状である。106～124は小形のかかわらけである。107・108は第1号溝状遺構で出土するタイプ、111～124は第4

号溝状遺構出土のものに共通する。このうち、111～113は第4号溝状遺構のC類、114・115は内彎するA類、121は箱形を呈するB類である。

125～130は手づくねかわらけである。125・126は器厚の薄い大形のもの、127は厚手で器高の高いかわらけである。128～130は小形かわらけである。

131は体部内外面に墨書が施されたロクロ成形かわらけである。判読不明である。

第117図132・133は瓦質製品である。132は火鉢で口縁下にスタンプ文が巡る。133は風炉で口縁部に幾何学形のスタンプ文が描かれる。

第118図134～第119図144は瓦である。134は丸瓦で、凸面はナデ、凹面は布目痕が残る。135～144は平瓦で、凸面縄目かまたはその後ナデ、凹面は布目痕またはナデ痕が認められる。

第119図145～155は石製品である。145は滑石製の鍋である。146・147は砥石で、いずれも中砥であり、146が伊予産、147が上野産である。148は香炉形の石製品である。149は不明であるが、同様の製品と思われる。151～155は凹みをもつ軽石製品である。151・154は表裏両面から施されている。

第120図156・157は銭貨で、156は寛永通宝、157は北宋銭・皇宋通宝である。

158・159は近世陶器で、158は瀬戸美濃産の皿、159は志戸呂産の天目茶碗である。いずれも17世紀代のものである。

160・162は古代の灰釉陶器、162は緑釉陶器の碗である。163は土師器で、足高高台をもつ碗である。

4区の出土遺物（第121～129図）

4区は最も面積の広い調査区である。調査が遺構確認面までにとどまった部分も多いため、遺物量はそれほど多くはない。北部で古代の遺物が集中的に出土していることが注目される。

第121図1～25は貿易陶磁である。1～12は白磁で、II・IV・V・VIIIの碗、II～IV類、IX類の皿がある。10～12は明代の皿で、10はB群、11・12はC-1群である。13～22は青磁である。13・14は同安窯系の碗・皿、15～21は龍泉窯系の碗で、劃花文のI類、鎊蓮弁文のB1類、D2類などが出土している。22外面蓮弁文の折縁盤である。23・24は青白磁で、23が輪花皿、24は梅瓶である。25は褐釉有耳壺である。

第121図26～33は瀬戸美濃の陶器である。26～28は天目茶碗で、26が後I期、27・28が後IV新时期である。29は後II期の緑釉小皿、30は大窯段階の端反皿または丸皿である。31は灰釉の燭台と思われる。32・33は後IV新～大窯段階の播鉢である。

第122図34～38は常滑の陶器である。34～37は甕、38は片口碗である。39は渥美産の小碗、40は湖西産の碗である。41～45は東遠江系の山茶碗で、41・42は碗、43～45は小皿で、43は輪花小皿である。46は志戸呂産の鉄釉緑釉小皿で、瀬戸美濃後IV期併行のものである。

第122図47～第123図86はかわらけである。47～59はロクロ成形かわらけである。47～50は体部がやや内彎気味に立ち上がり、内底面にナデ、底部に板状圧痕を有すもので、47は第1号溝状遺構の中形、48・49は大形に該当する。52～54は底径が小さく逆台形状を呈すかわらけである。55～59は小形のかわらけで、55～57は器高の低いタイプ、5859は器高が高く逆台形になるものである。

60～86は手づくねかわらけである。60～70は大形品で、口唇部に丸みをもち口縁部が大きく外反するもの（61・63）と、口唇部が面取りされやや角張るもの（60・62・64・65）がある。66～70は厚手で器高の高いかわらけである。71～86は小形のもので、71～81は口径が大きめで薄手のもの、82～89は口径が小さめで厚手のかわらけである。

第123図87は瓦質の火鉢で、雷文のスタンプ文が施される。88～92は瓦で、88は唐草文の軒平瓦、89は丸瓦、その他は平瓦である。

第124図93～101は石製品で、93・94は砥石、95は滑石製で鍋かと思われる。96は黒色の扁平な石で、基石の代用品とも考えられるが不明である。97～101は軽石加工品で、97～99は凹みが認められた。101は円柱状の加工されたものである。

第124図102～106は銭貨で、103が唐銭・開元通宝である他は、すべて北宋銭である。107は近世志戸呂産の皿である。

4区北部から5区にかけては古代の土師器・須恵器などが集中して出土している。

第125図108～113は4区北西部で集中して出土した土器群である。108と109が重なって、また110～113も横位・逆位に重なるように出土している。また、2つの集中箇所は近接している。108は須恵器・坏蓋でTK10型式に比定される。109は丸底風の土師器坏で底部に木葉痕が残る。110は低脚の高坏である。111は平底の坏で、内外面とも丁寧なヘラミガキが施されている。112も平底の坏であるが、こちらは内外面ナデ調整である。113は碗形の坏部をもつ高坏である。

第125図114～第127図127は4区北東部に、排水のために深掘りしたテストピットから集中して出土した遺物である。114・115は土師器の平底鉢で、外面ナデ調整、内面ハケ調整である。116は胴部がやや扁平な球胴状の小型壺である。117～119は高坏、120は器台である。121～126は甕である。いずれも内外面ハケ調整で、126はさらにミガキが施される。127は壺で、外面ヘラミガキ、内面ハケ調整が施される。

その他、128以下は4区で出土した古代の土器等である。128～139は須恵器である。128は坏蓋で、陶邑系でTK23型式である。129も陶邑系の坏でON46型式である。130は6世紀代の坏である。131～133は甕である。胴部または頸部に櫛描文が描かれる。陶邑系である。134は小型壺、135は蓋、136～138は高台付坏である。139は甕である。140～159は土師器である。140～146は平底の坏である。いずれも体部が強く内彎し、口縁は内傾するものが多い。147は小型丸底壺で、外面は丁寧にミガキが施される。148～152は高坏である。153は壺である。154～156は台付甕、157は広口の甕である。158・159は大形の壺の口縁部で、縄文と貼付文を有すいわゆる大廓の壺である。

160～167は手づくねの小型土器である。167は底部が高台風につくられている。

168・169は灰釉陶器で、168が碗、169が広口瓶と思われる。170～172は古代瓦である。

173・174は古代の石製品で、173が滑石製の石製模造品、174が管玉である。175・176は土製模造品である。

5区の出土遺物（第130・131図）

5区は北側の調査区である。遺物出土量は他の調査区に比べて少ない。

第130図1～4は貿易陶磁で、1は白磁の四耳壺、2～4は青磁の碗である。

5・6は瀬戸美濃で、5が播鉢、6が大窯段階の丸皿である。7～9は常滑で、7は甕、8・9は片口鉢である。

10～18はかわらけである。10～14はロクロ成形のかわらけである。10は体部がほぼ直線的に立ち上がる大形のもの、11・12は同じく体部が直線的な中形のかわらけである。13・14は小形のかわらけで口縁部にススが付着する。15～18は手づくねかわらけである。口径は13.0～13.6cmで、16は口唇部に面取りを施す薄手のもの、他はやや厚手で口唇部も丸みをもつものである。

19・20は石製品である。19は産地不明の砥石、20は凹みのある軽石加工品である。

21～27は古代の遺物である。21～24は土師器の坏である。底部は平底で内外面ミガキまたはナデ調整である。25・26は土師器の甗である。27は石製模造品である。2孔があり、鏡の模造品であろう。

出土地点不明の遺物（第132・133図）

調査時あるいは整理段階で、出土地点不明となってしまった遺物について、以下に記述する。

第132図1～17は貿易陶磁である。1～8が白磁で、碗・皿・四耳壺などがある。9～13は青磁の碗、14は無文の折縁鉢である。15は青白磁の皿、16は同じく合子の破片である。17は泉州系の緑釉盤である。

18・19は瀬戸美濃で、18が後IV新期の灰釉縁釉小皿である。19は東濃系の山茶碗で、大畑大洞新段階のものと思われる。20～22は常滑の甕、片口鉢である。23は湖西産の山茶碗小皿である。

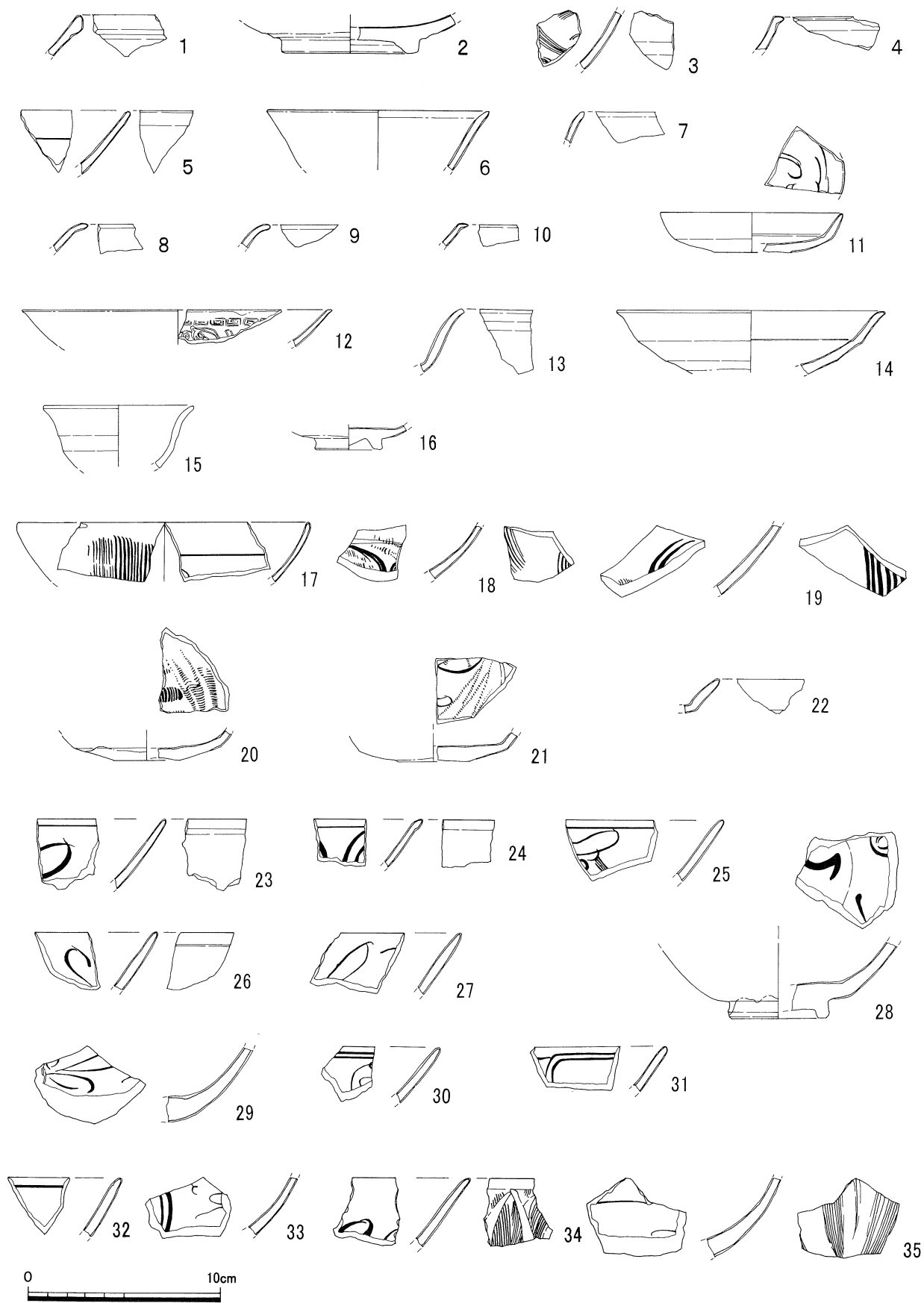
24～29はかわらけである。24・25はロクロ成形の大形かわらけ、26・27は小形のかわらけである。ともに厚手で底部がやや突出する。28は箱形を呈す小形かわらけで、口縁部にススが付着する。29は厚手の手づくねかわらけである。

30～32は瓦質の火鉢で、30は胴部に大形のスタンプ文、31は口縁部下にスタンプと連珠が巡る。

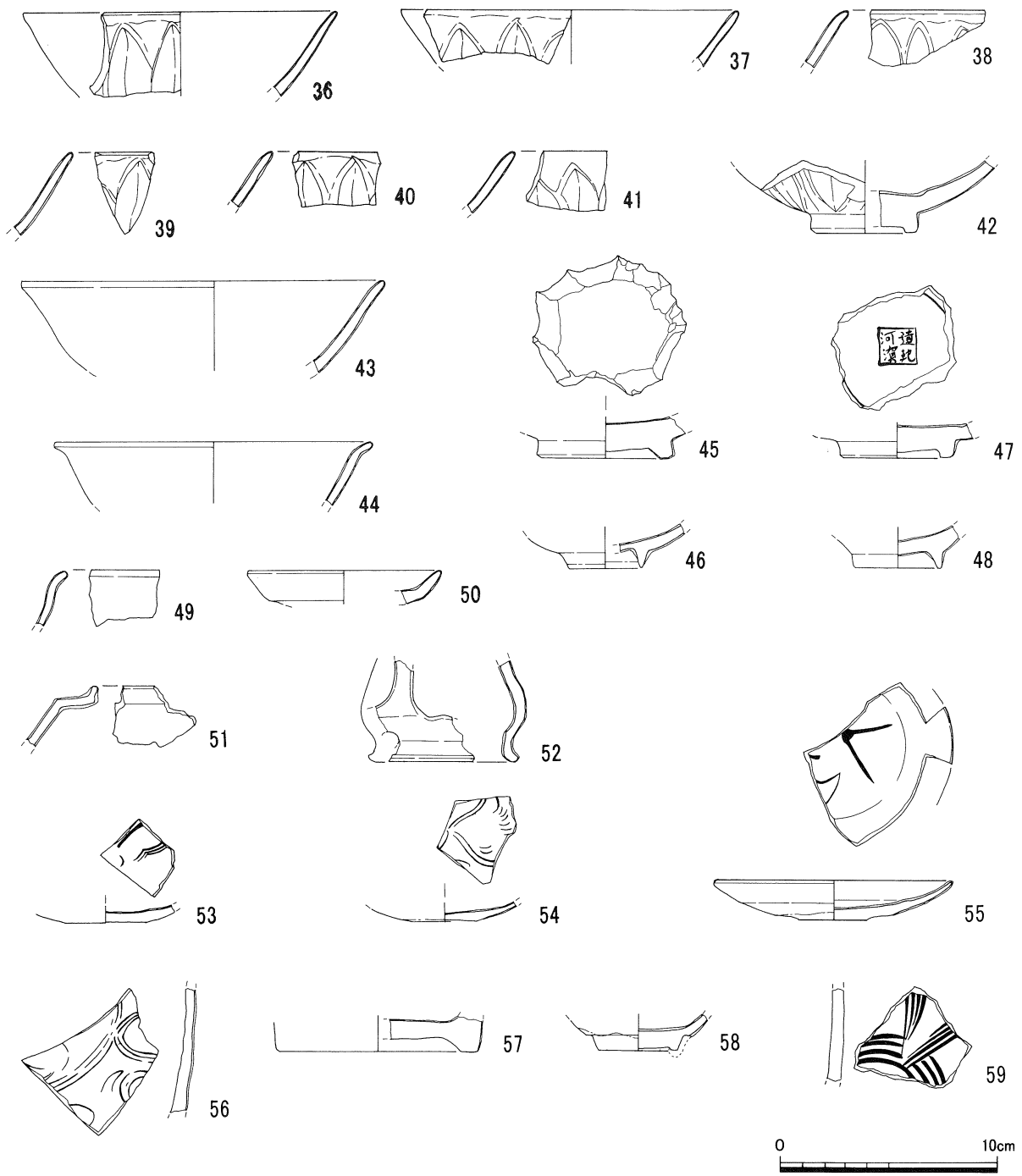
第133図33は軒丸瓦である。小破片であるが、巴文と思われる。34は香炉形の土製品であろう。

35～38は石製品で、35は磨石で、弥生から古墳時代のものと思われる。36～38は軽石加工品である。39は銭貨で、北宋・紹聖元宝である。

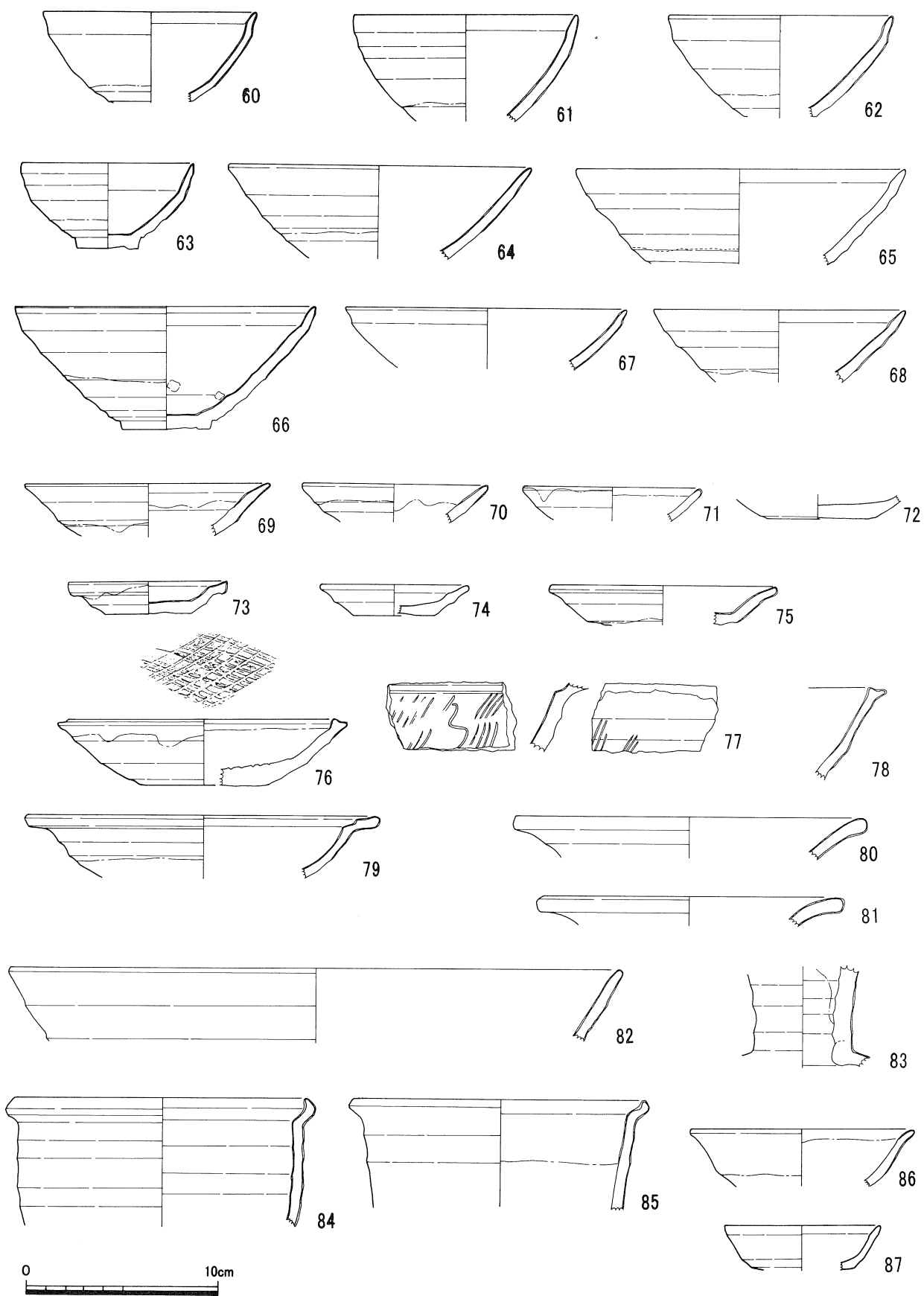
40～43は古代の土器で、40・41は須恵器で、40は波状文をもつ壺、41は高坏の脚部破片である。42は土師器坏、43は同じく高坏である。



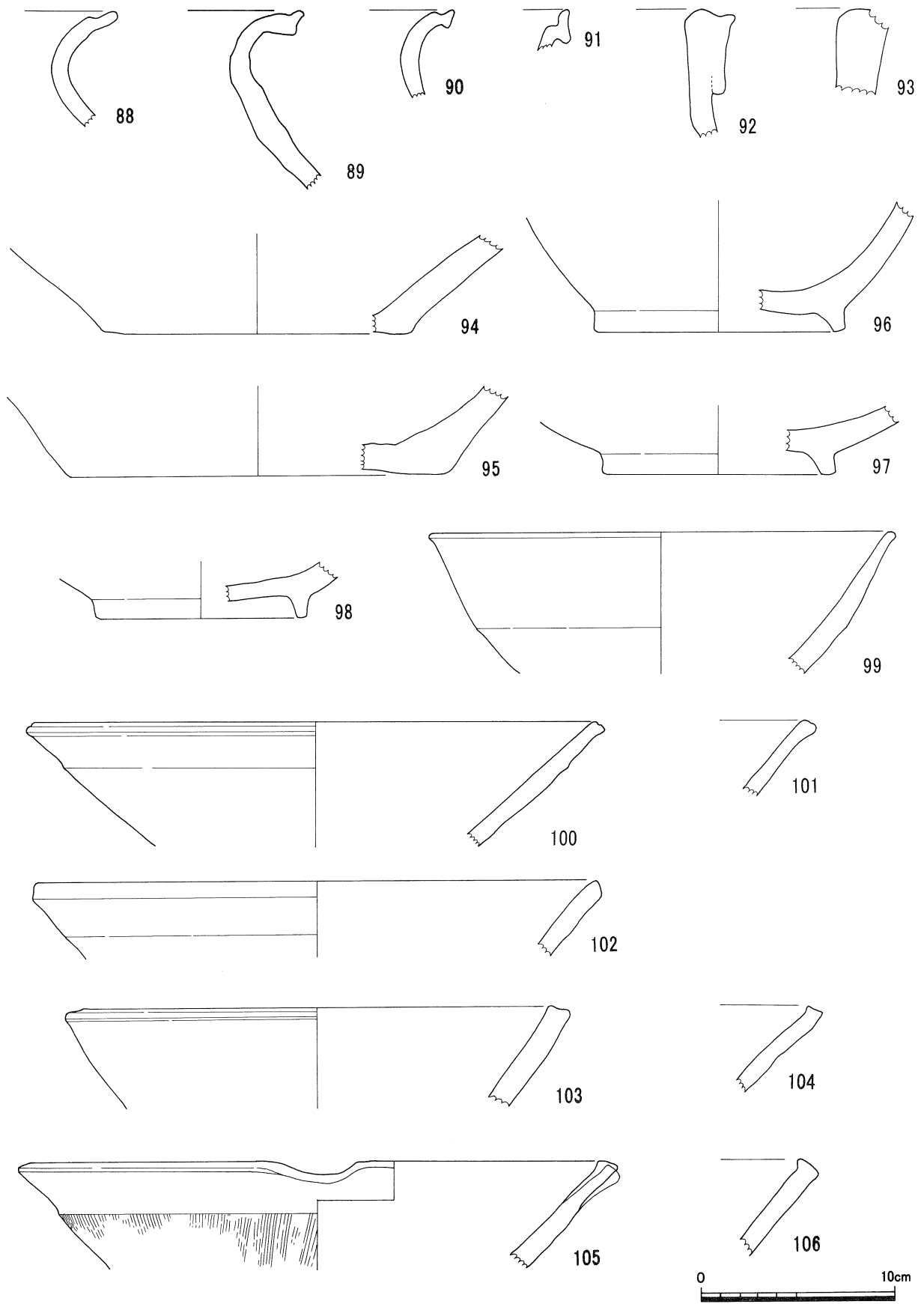
第94図 遺構外出土遺物(1)-1区①-



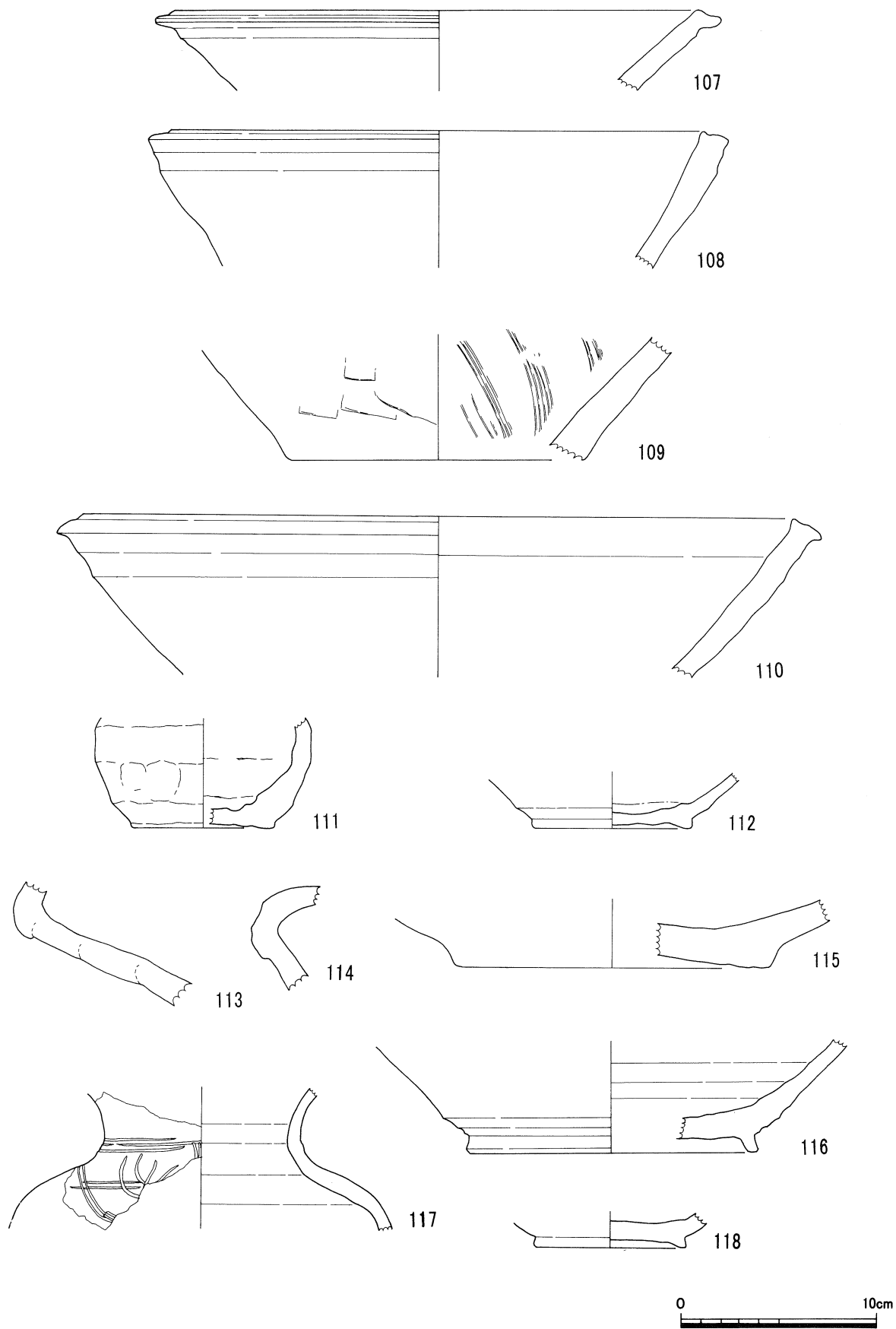
第95図 遺構外出土遺物(2)-1区②-



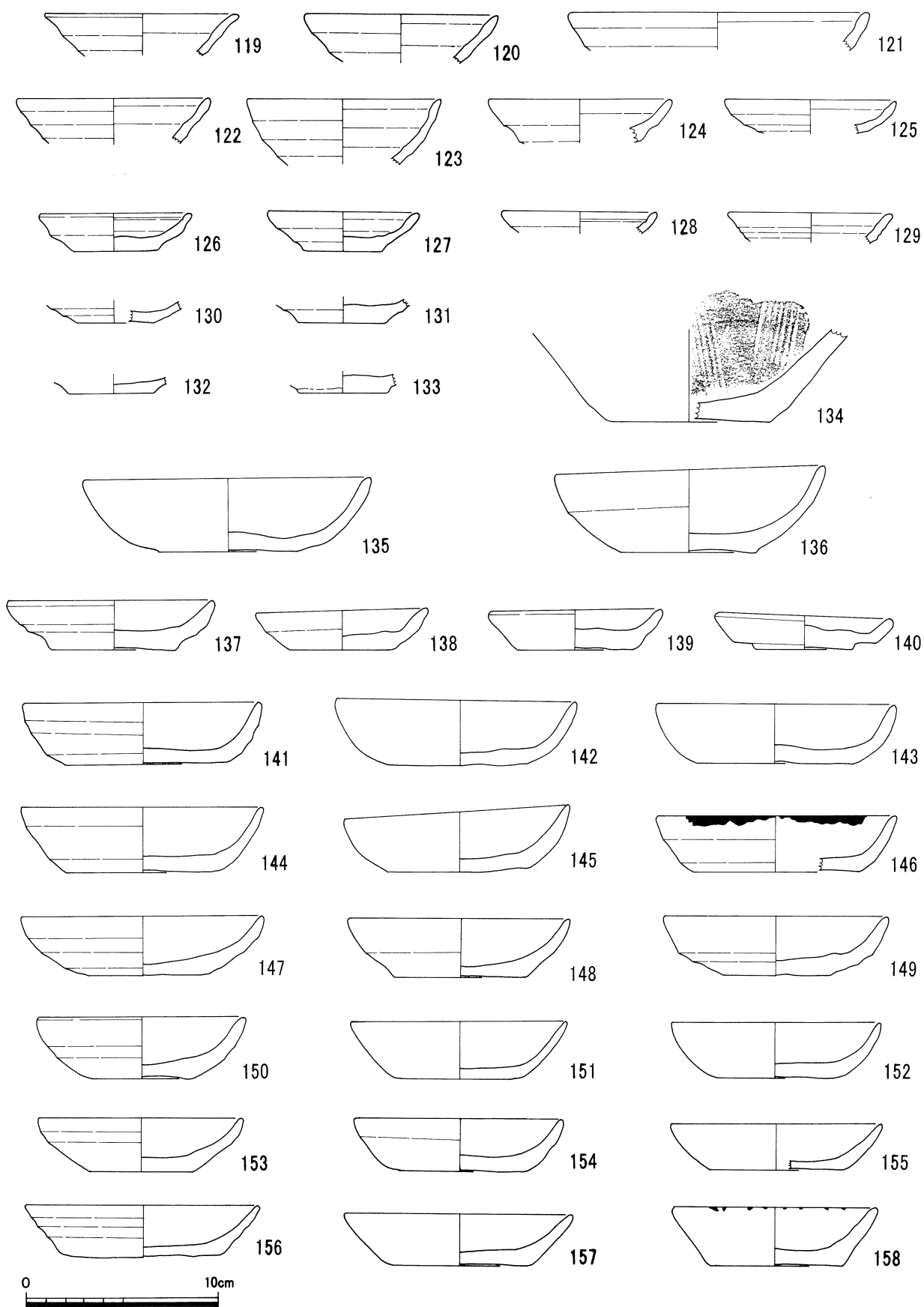
第96図 遺構外出土遺物(3)-1区③-



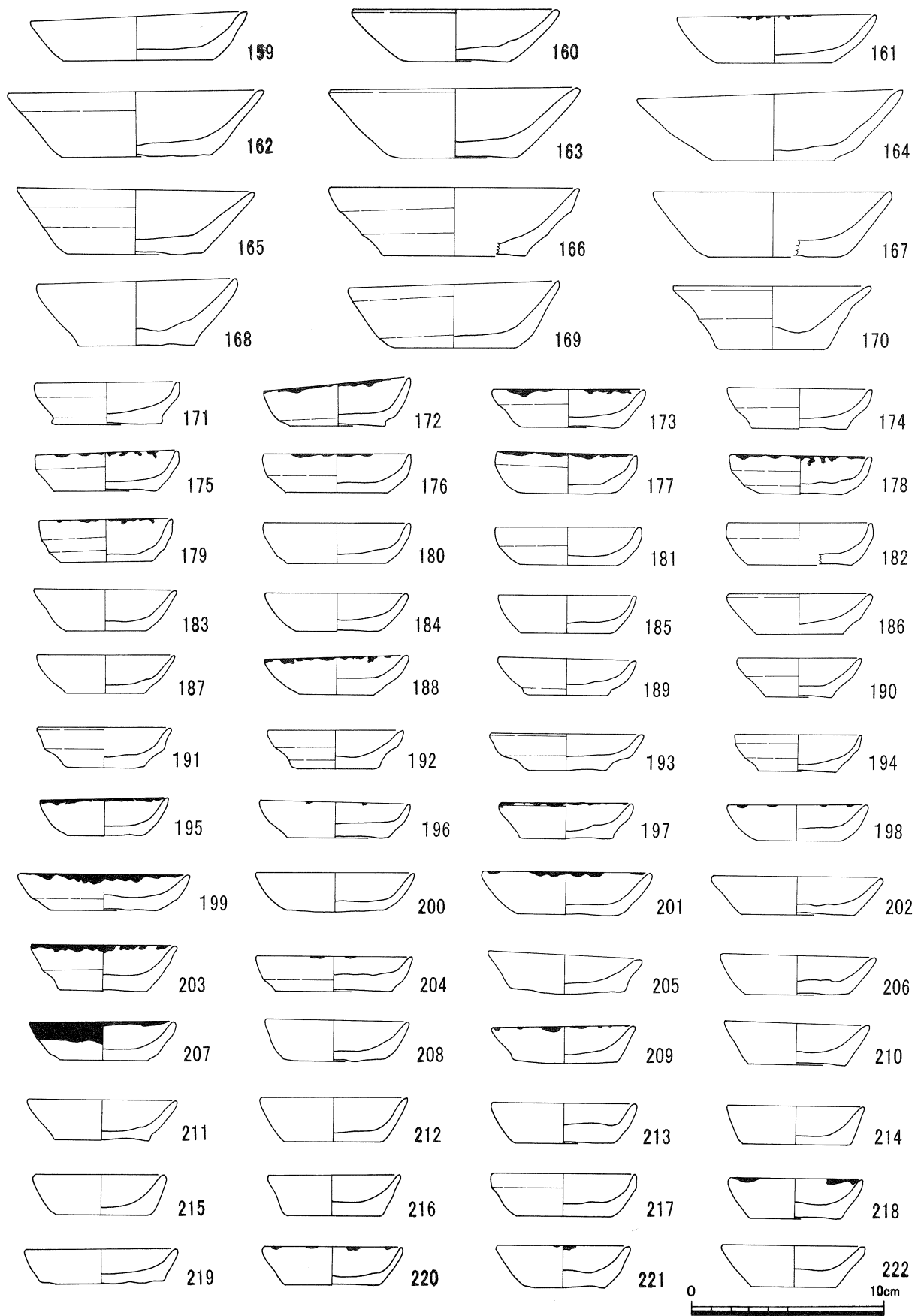
第97图 遺構外出土遺物(4)-1区④-



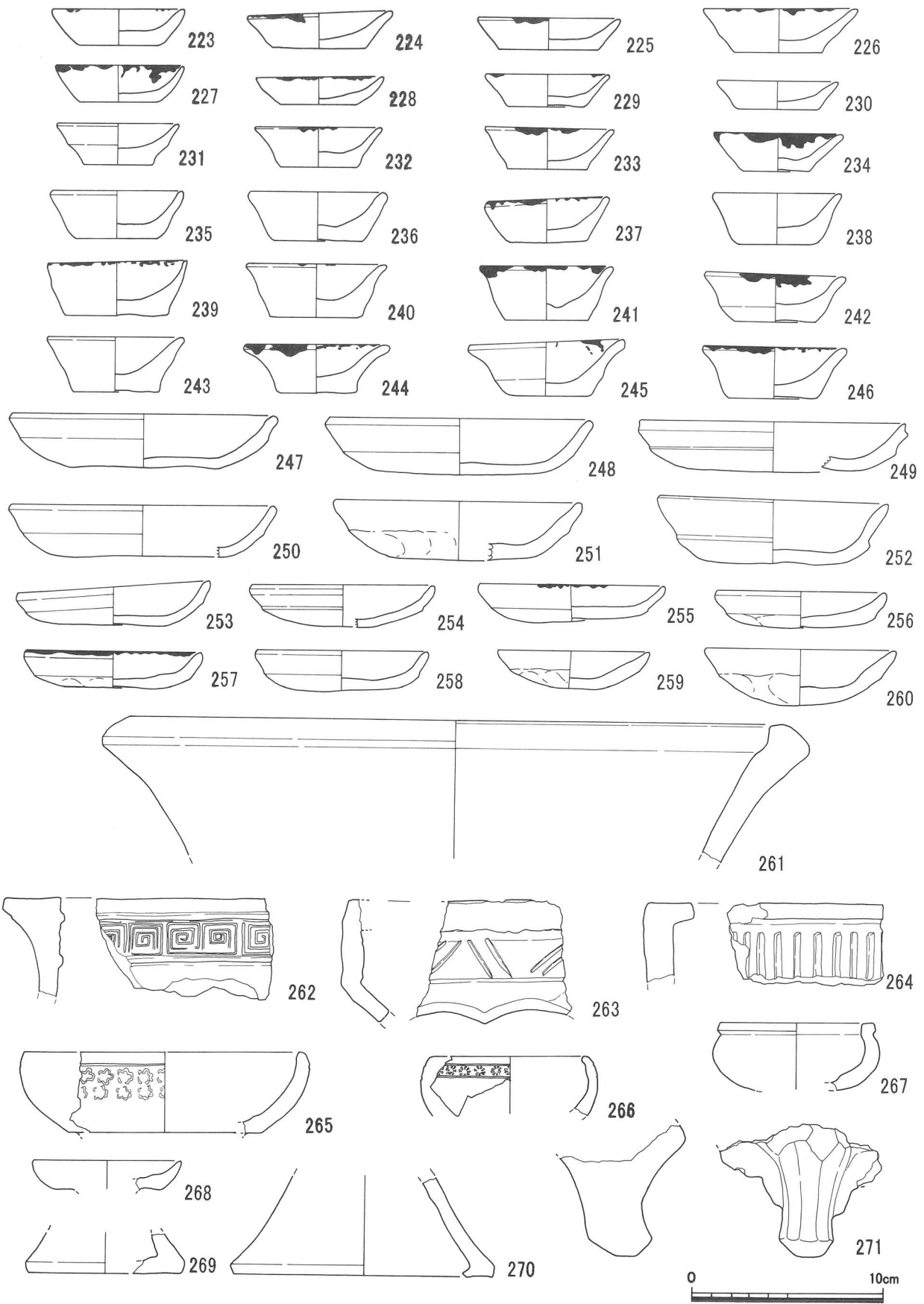
第98図 遺構外出土遺物(5)-1区⑤-



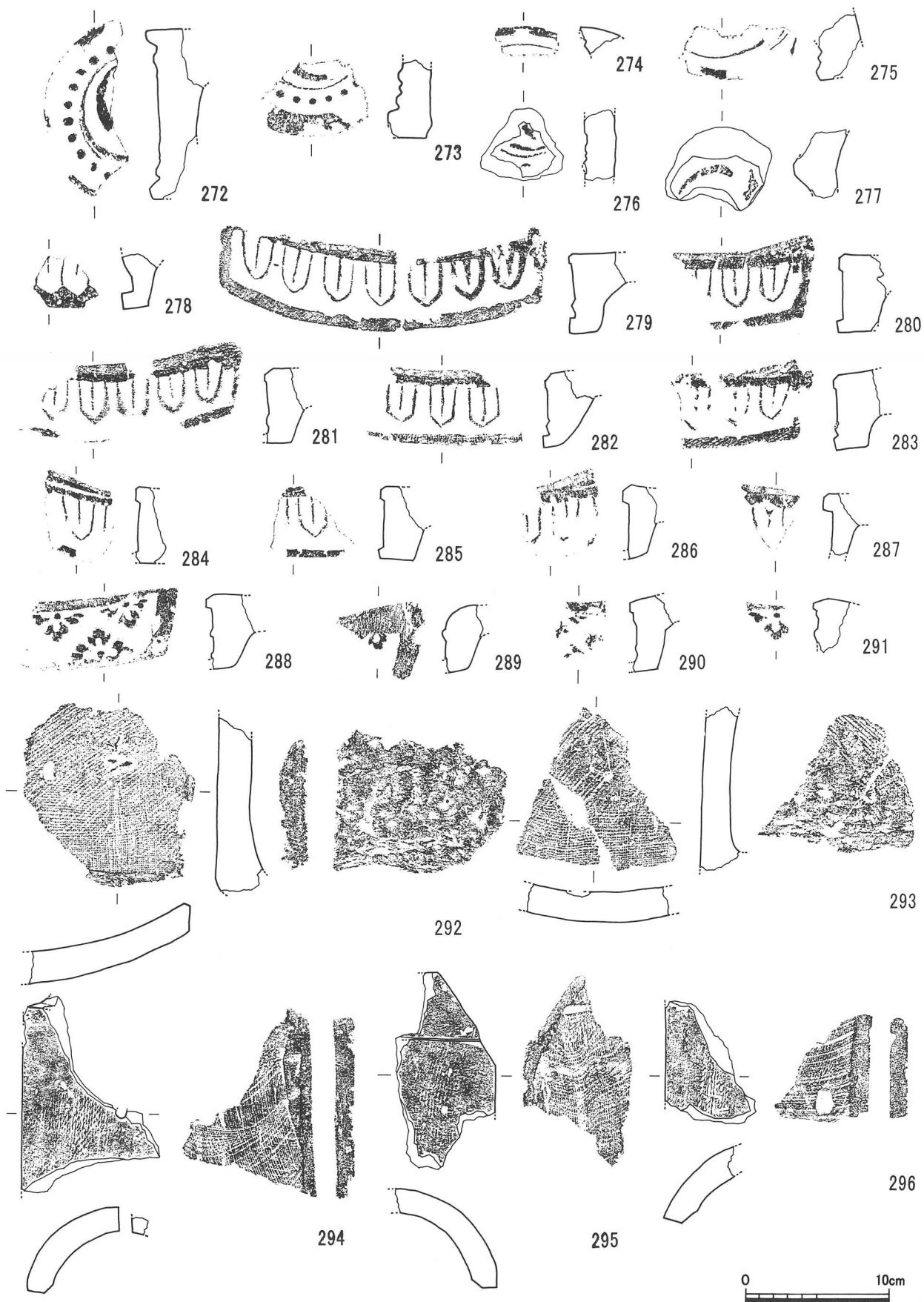
第99図 遺構外出土遺物(6)-1区⑥-



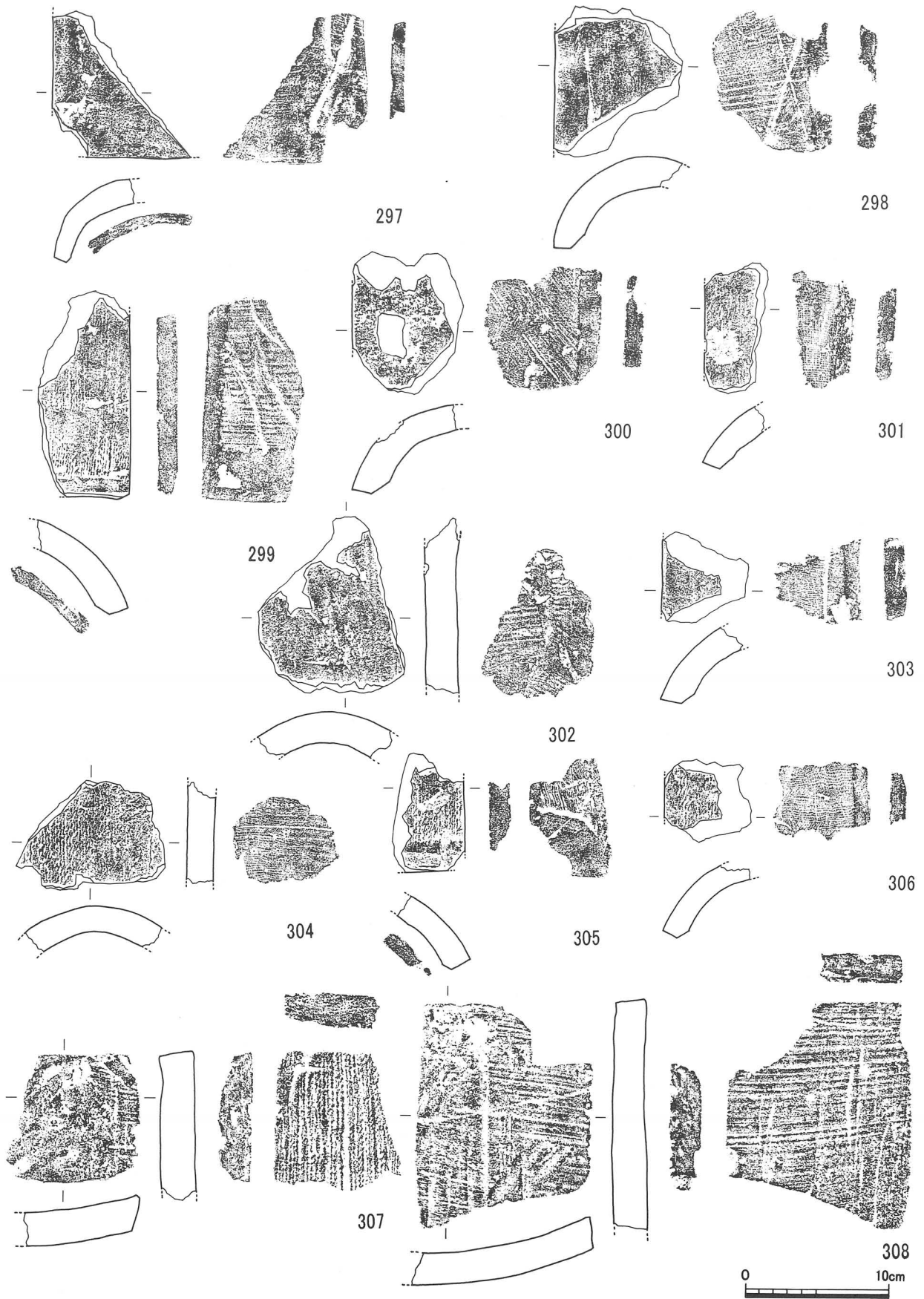
第100図 遺構外出土遺物(7)-1区⑦-



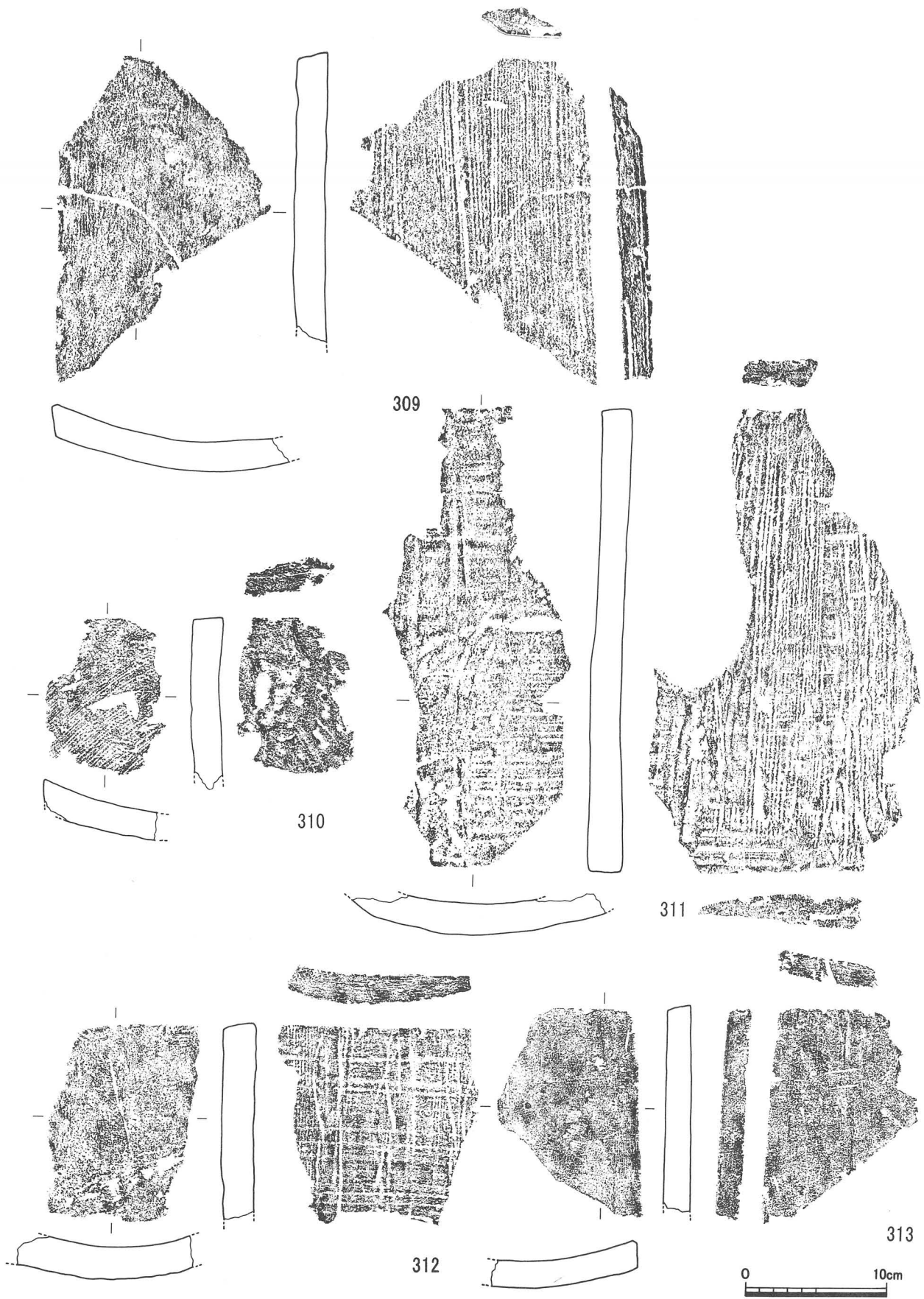
第101図 遺構外出土遺物(8)-1区⑧-



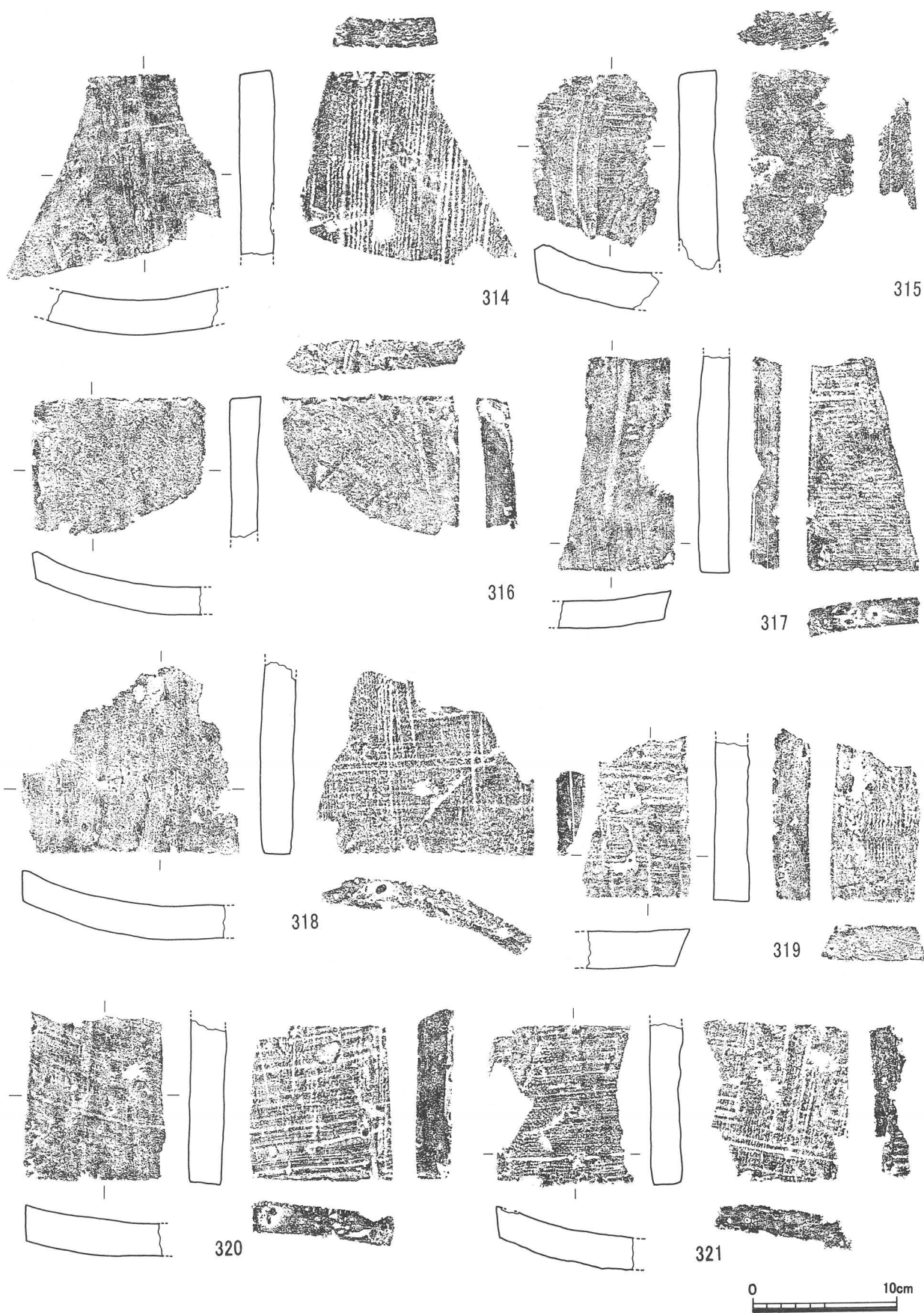
第102図 遺構外出土遺物(9)-1区㊸-



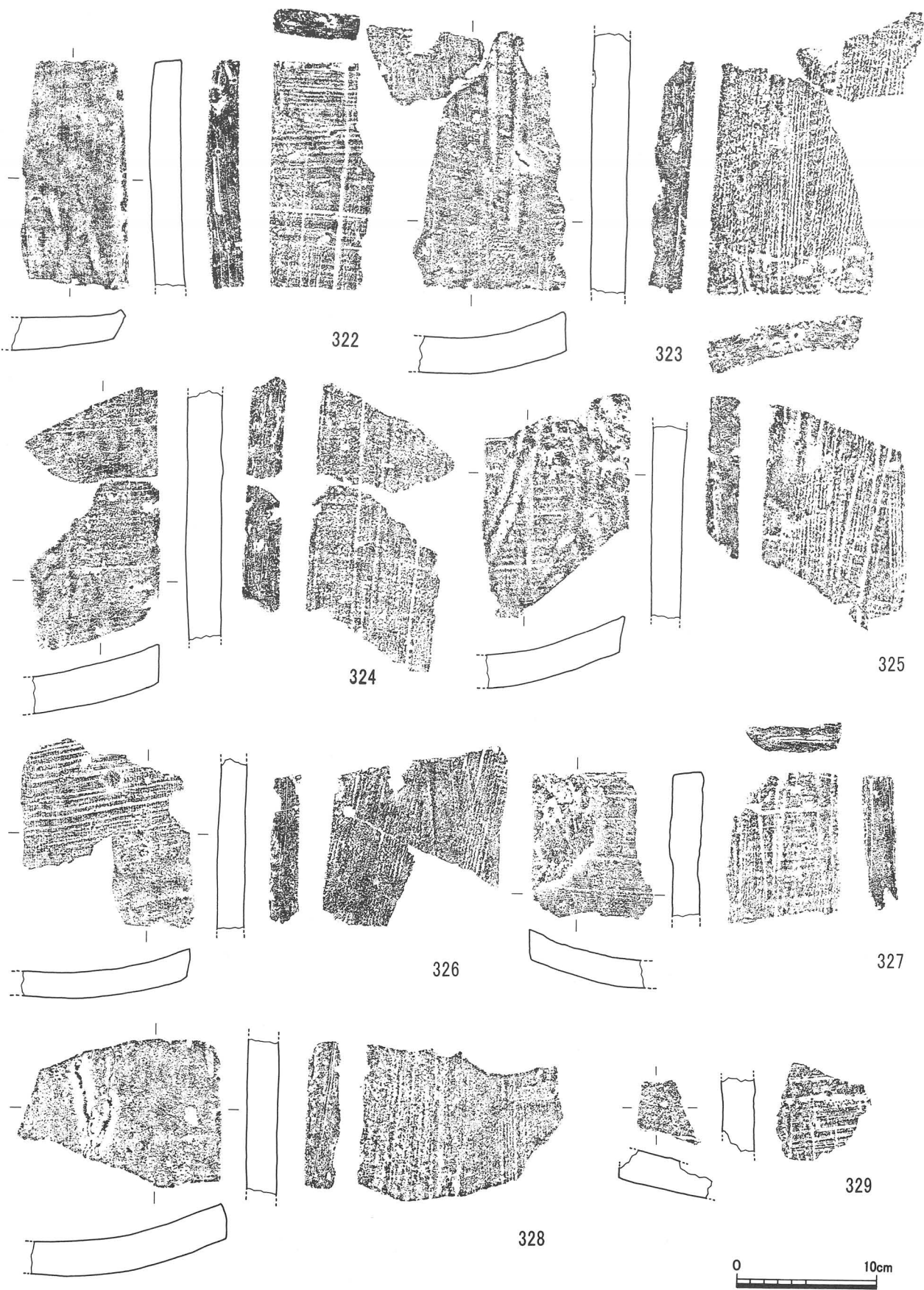
第103図 遺構外出土遺物(10)-1区⑩-



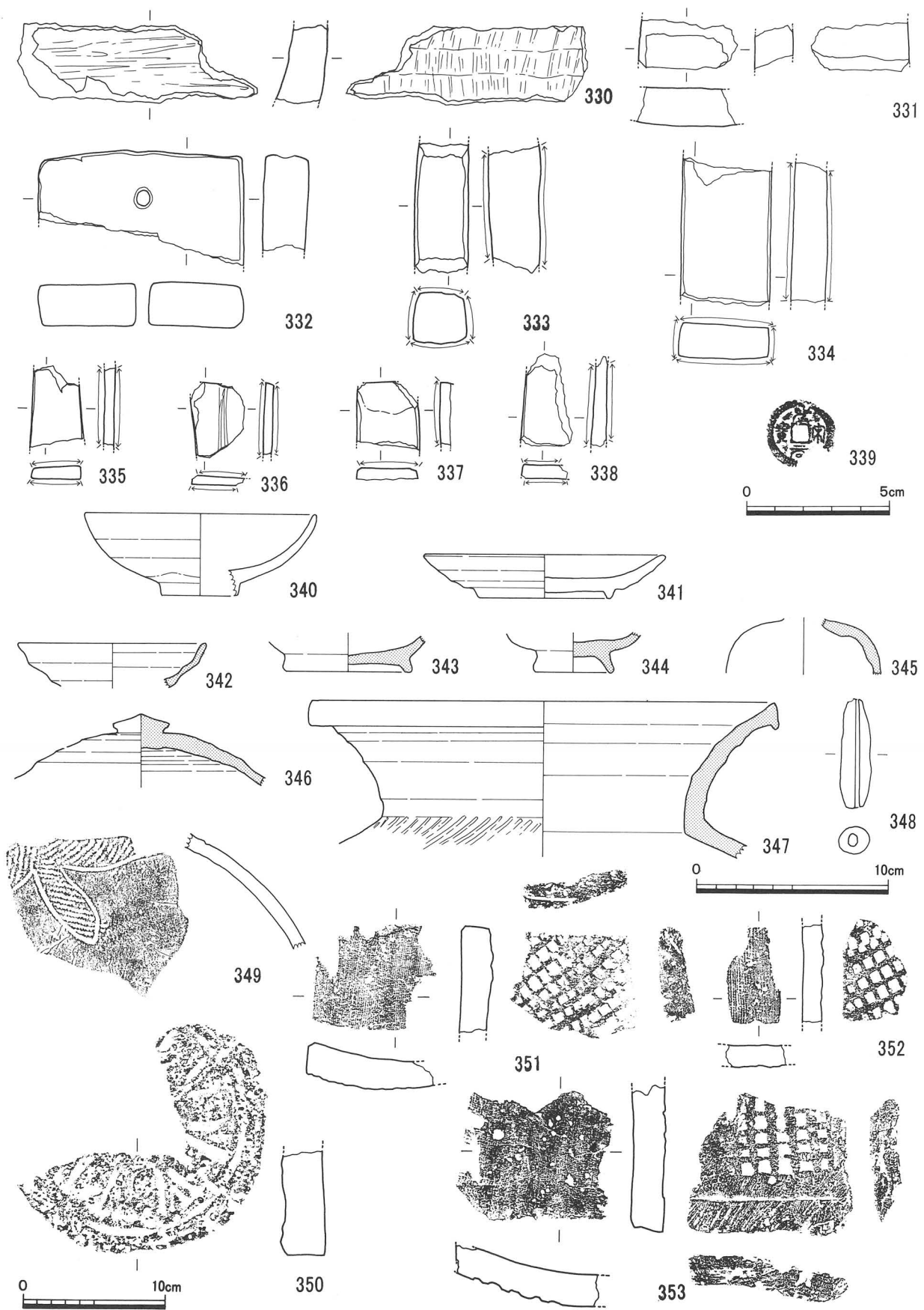
第104図 遺構外出土遺物(11)-1区⑪-



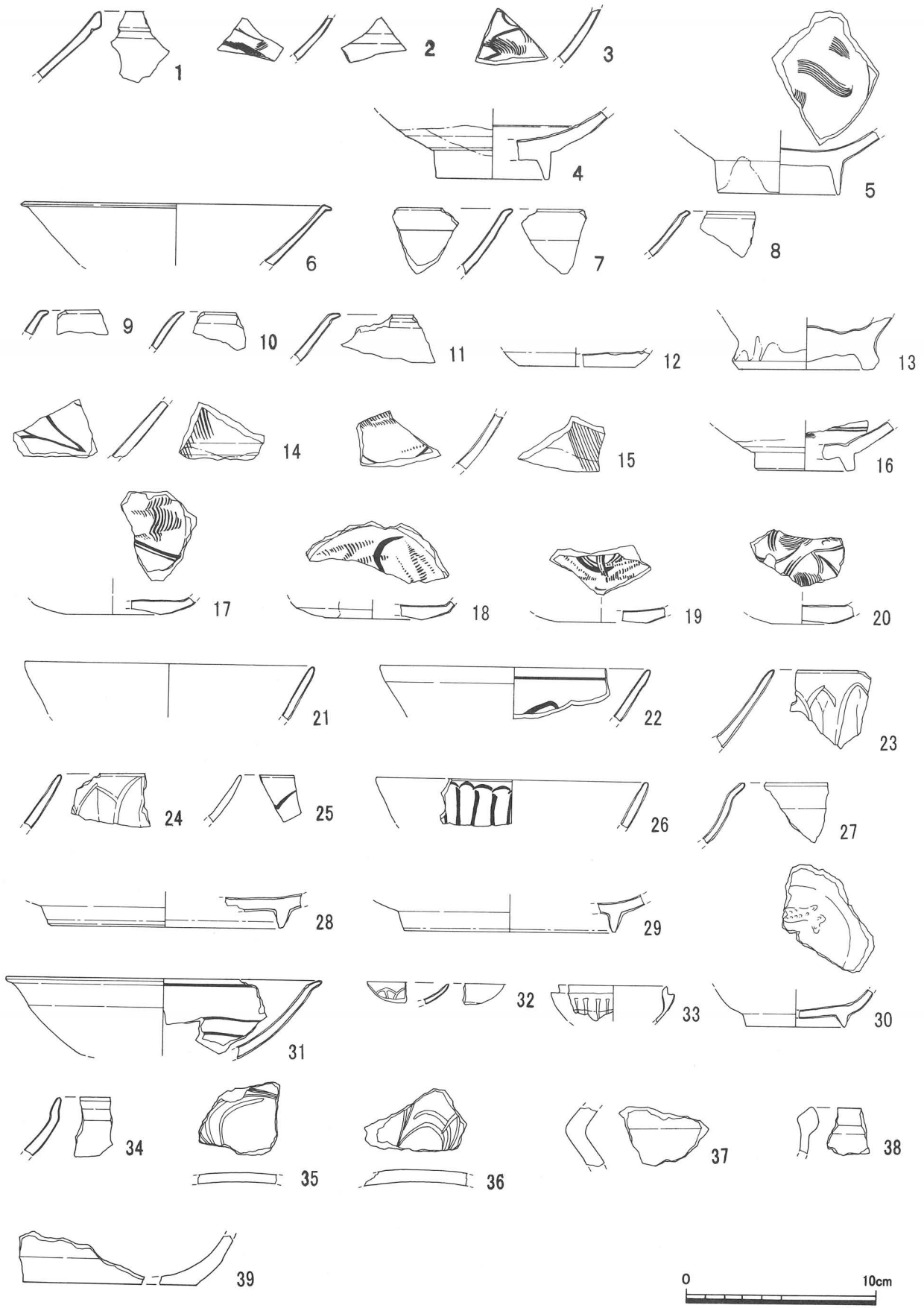
第105図 遺構外出土遺物(12)-1区⑫-



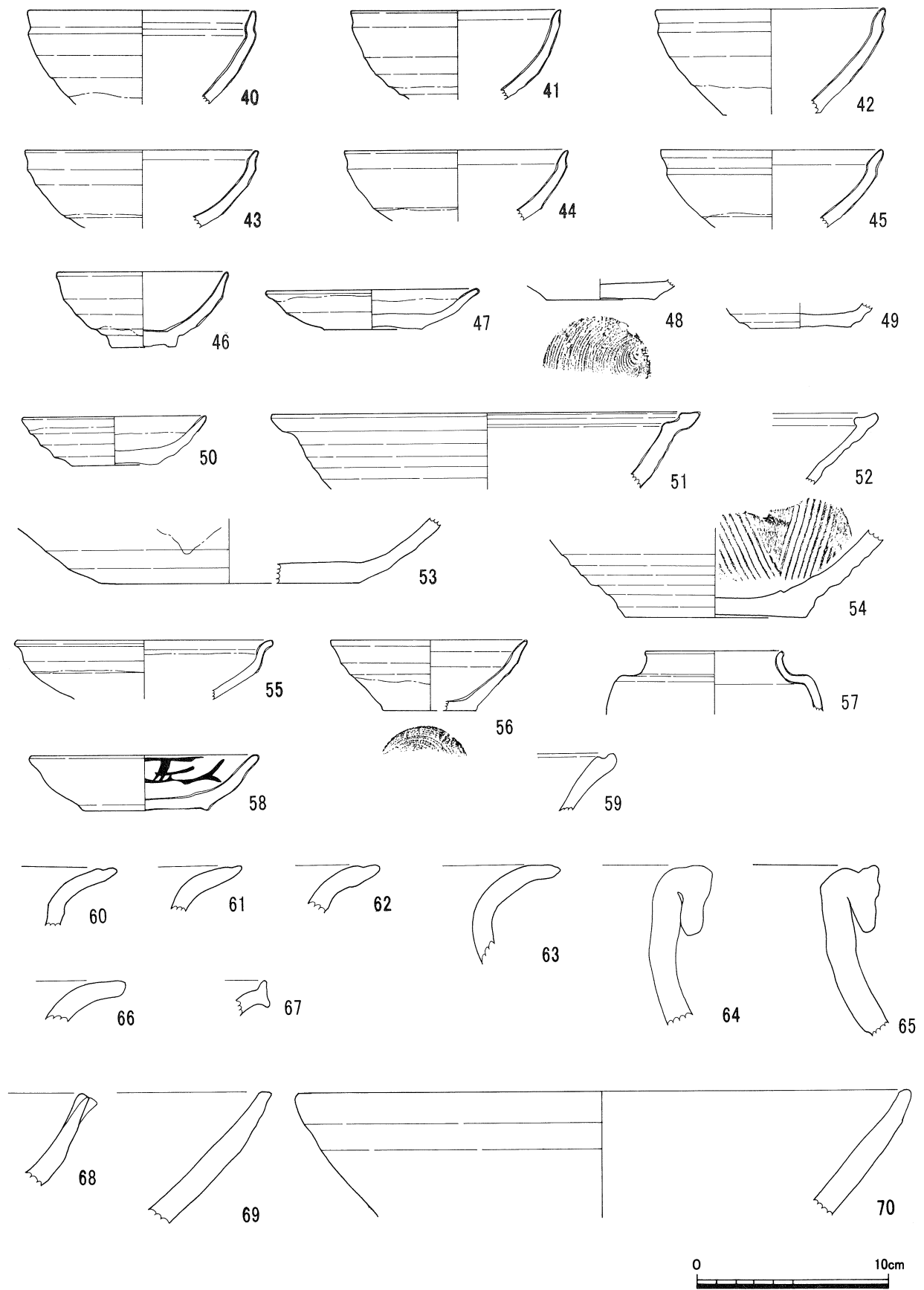
第106図 遺構外出土遺物(13)-1区⑬-



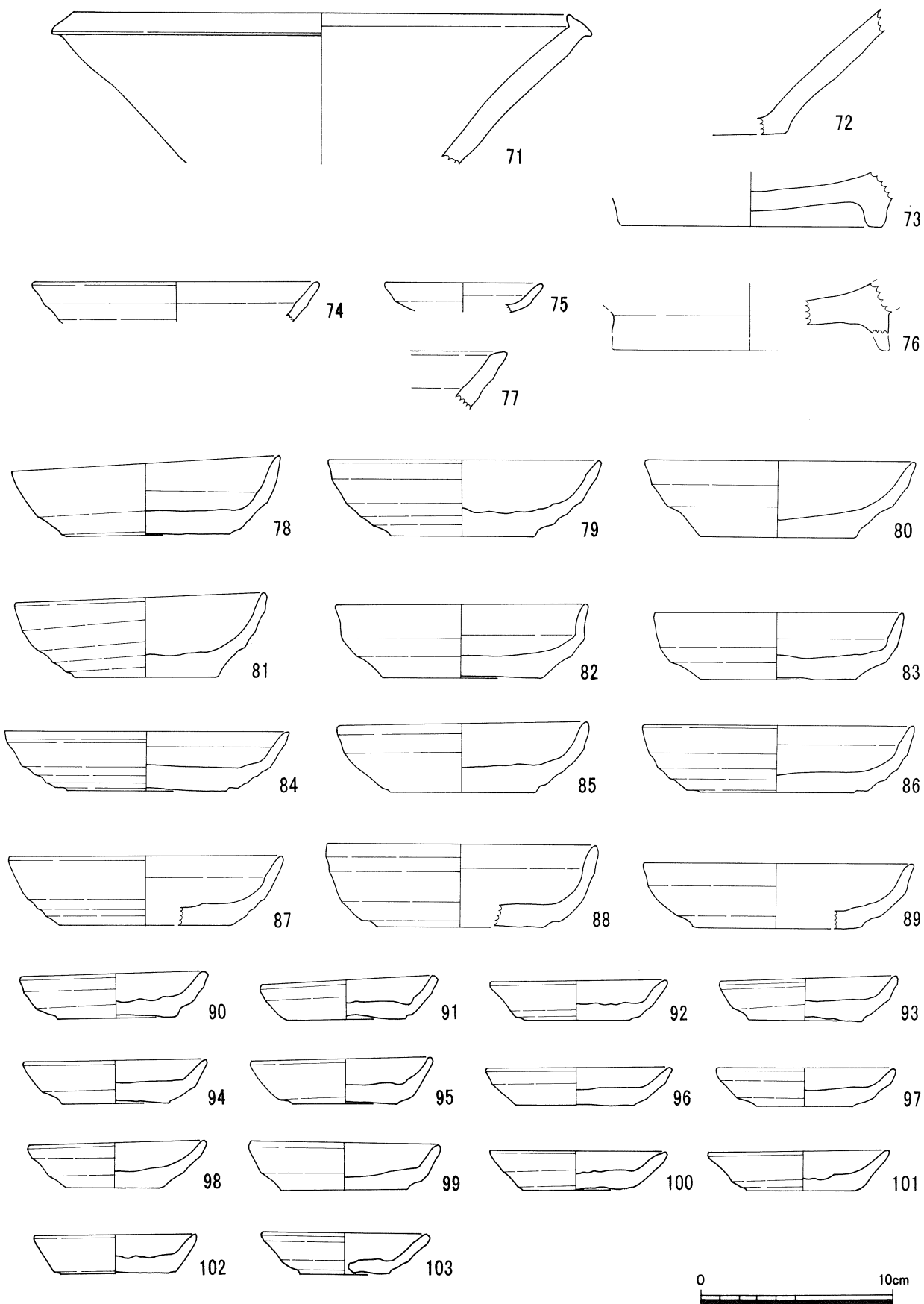
第107図 遺構外出土遺物(14)-1区⑭-



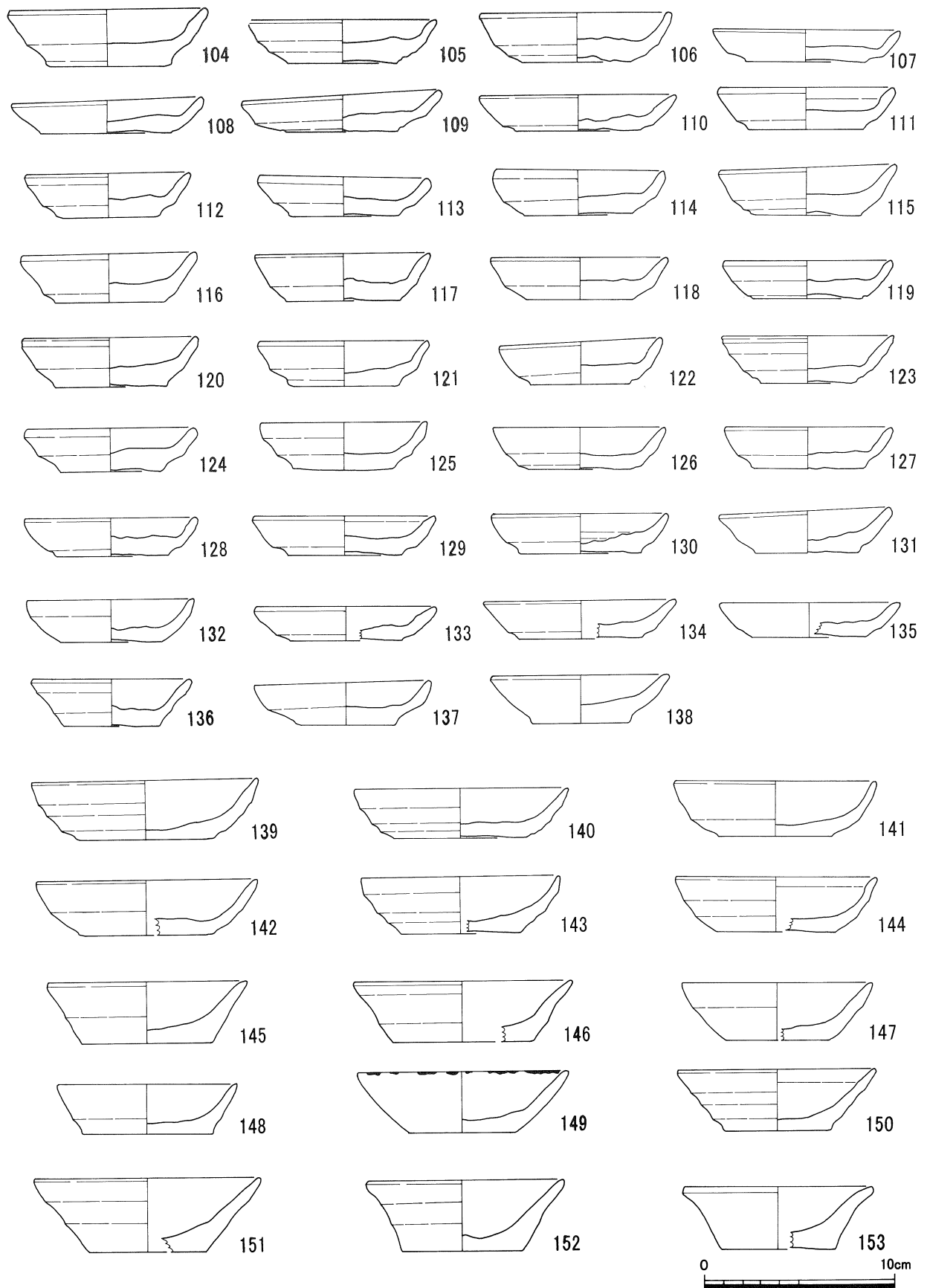
第108図 遺構外出土遺物(15)-2区①-



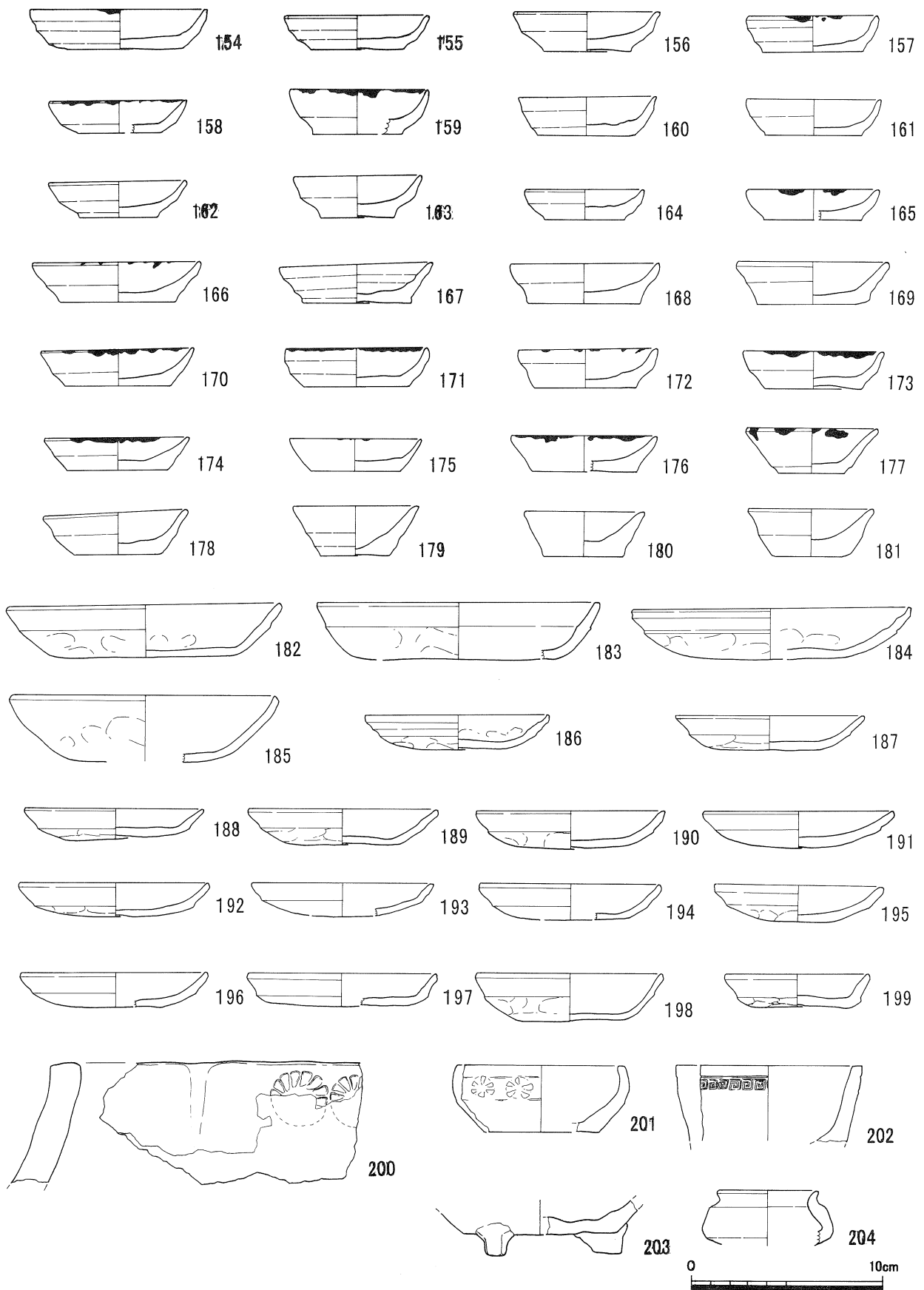
第109図 遺構外出土遺物(16)-2区②-



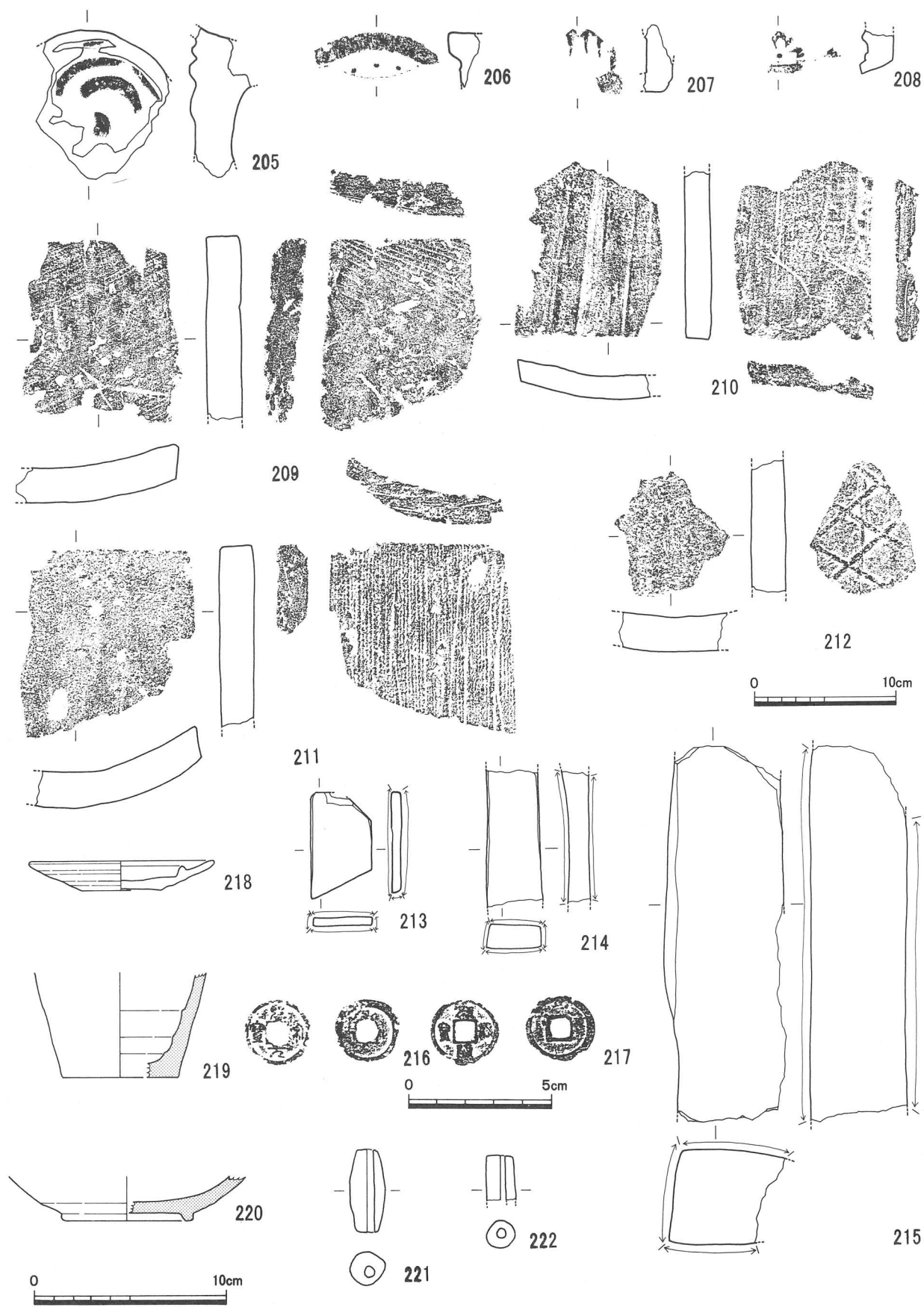
第110図 遺構外出土遺物(17)-2区③-



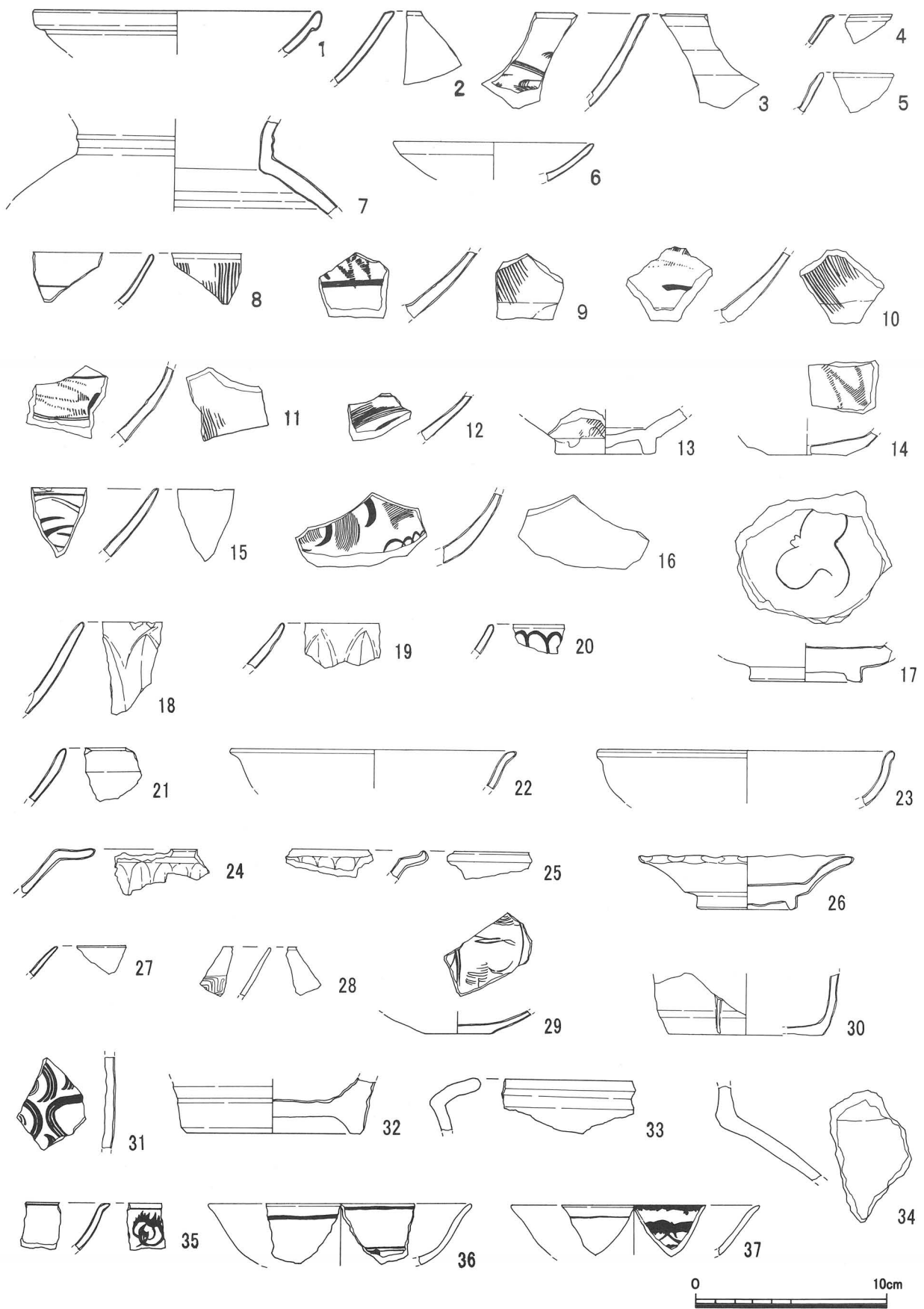
第111図 遺構外出土遺物(18)-2区④-



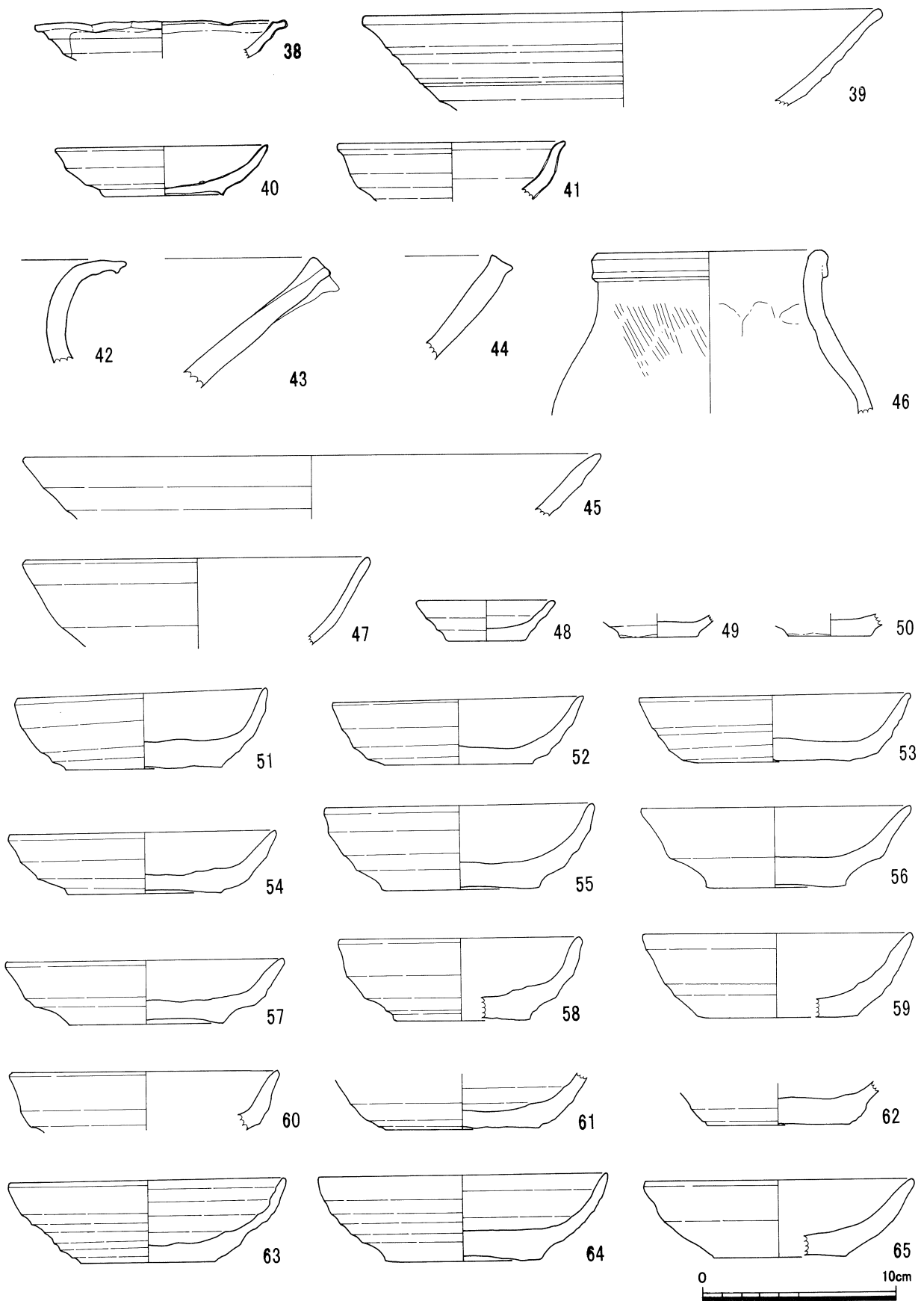
第112図 遺構外出土遺物(19)-2区⑤-



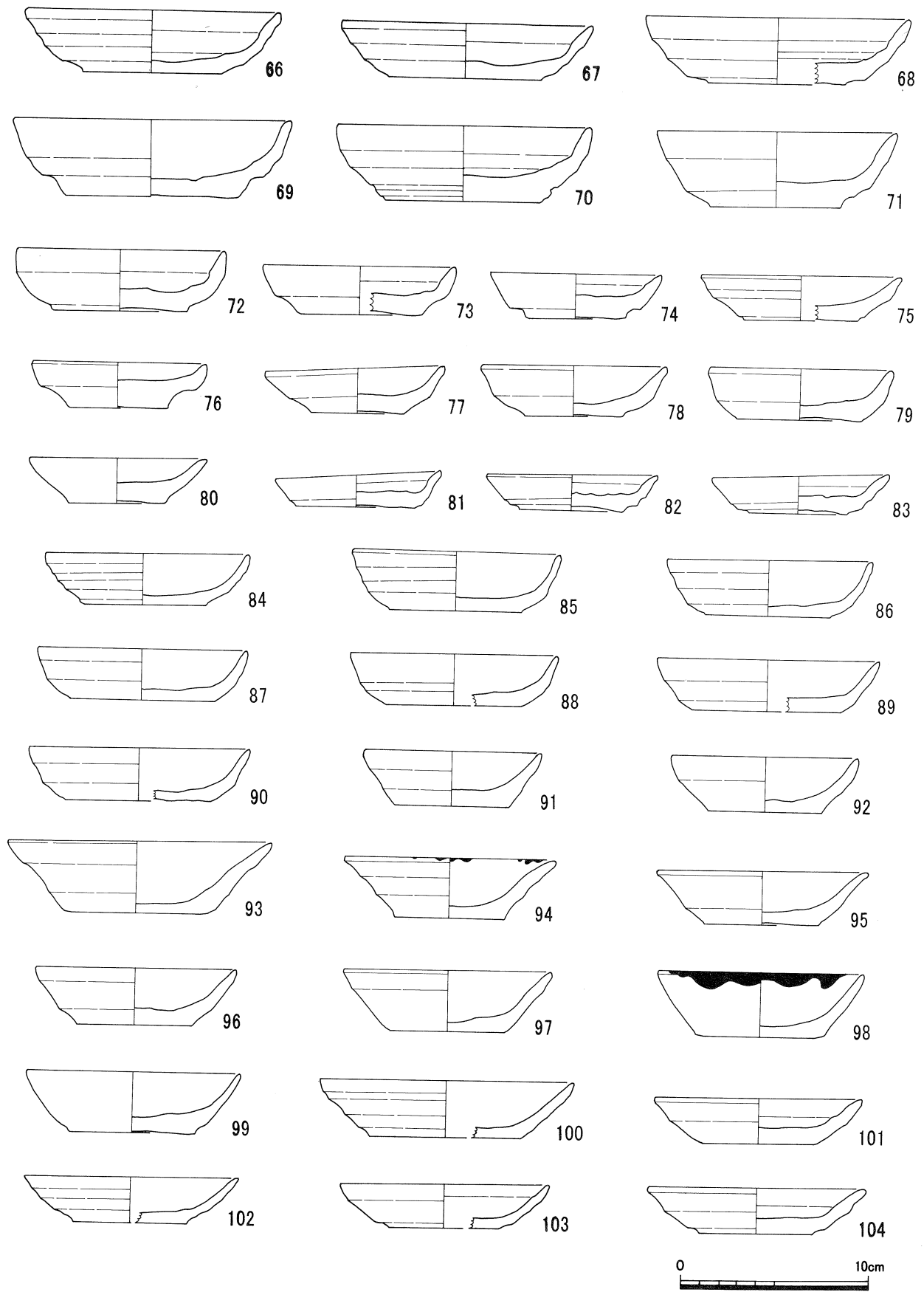
第113図 遺構外出土遺物(20)-2区⑥-



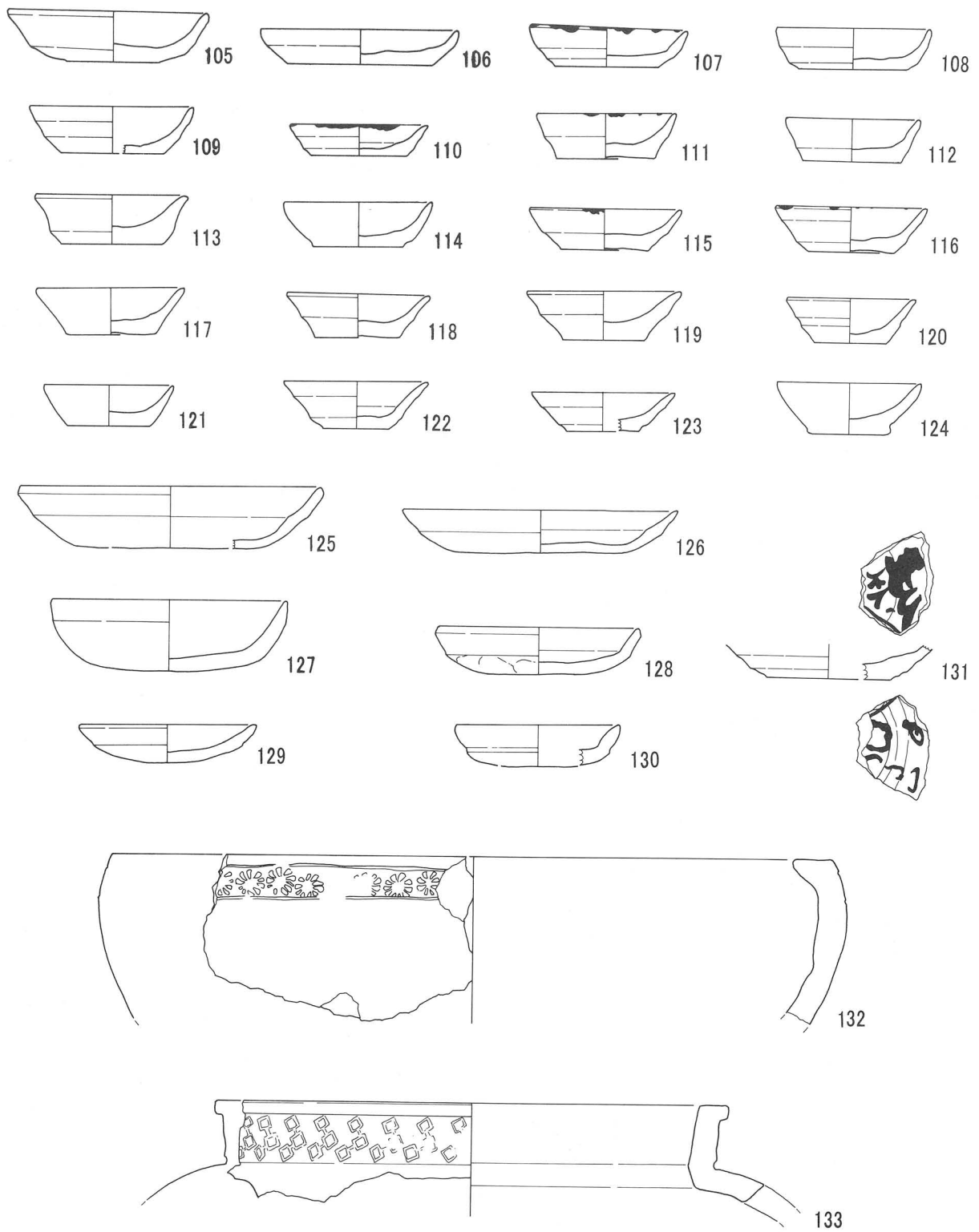
第114図 遺構外出土遺物(21)-3区①-



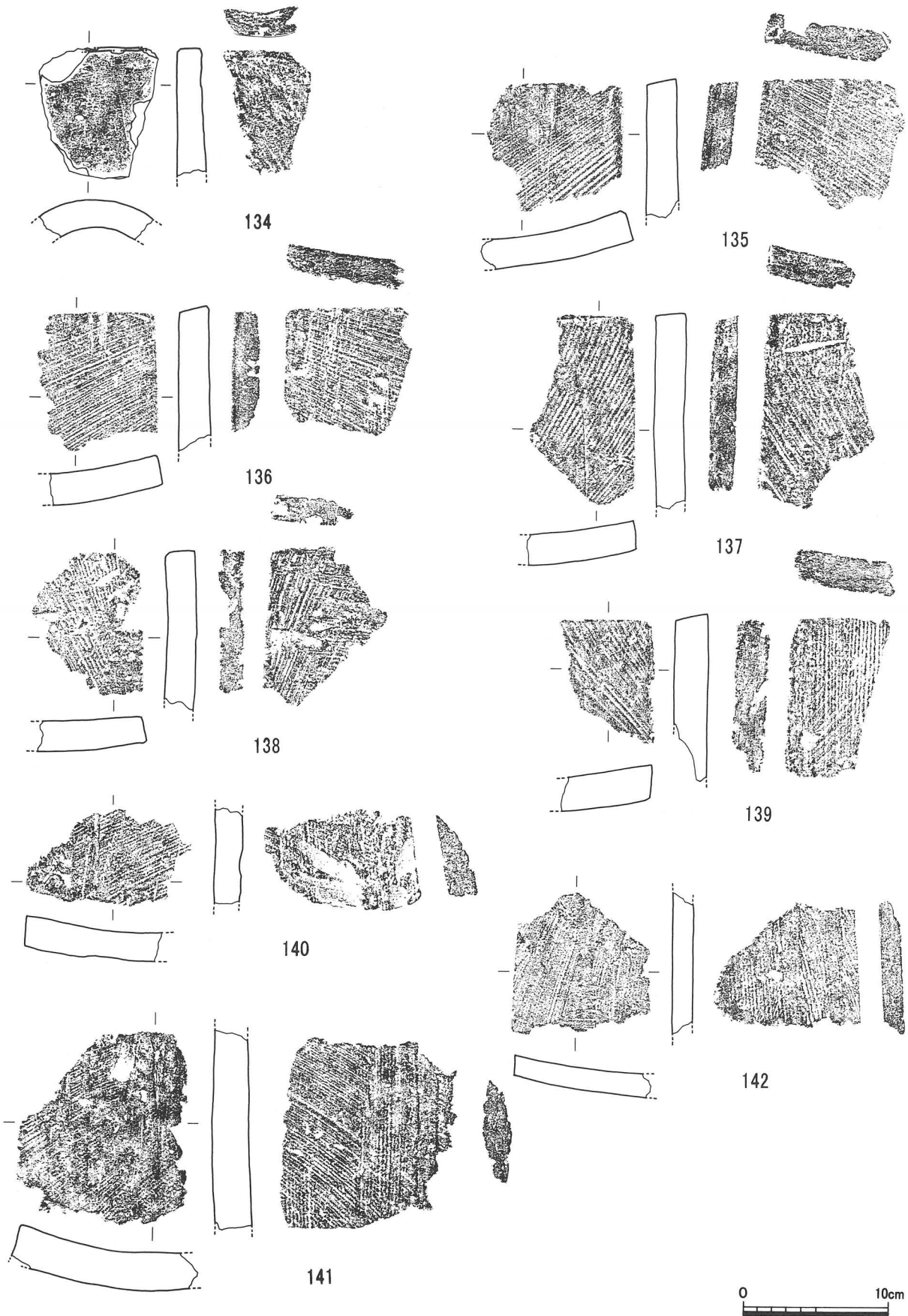
第115図 遺構外出土遺物(22)-3区②-



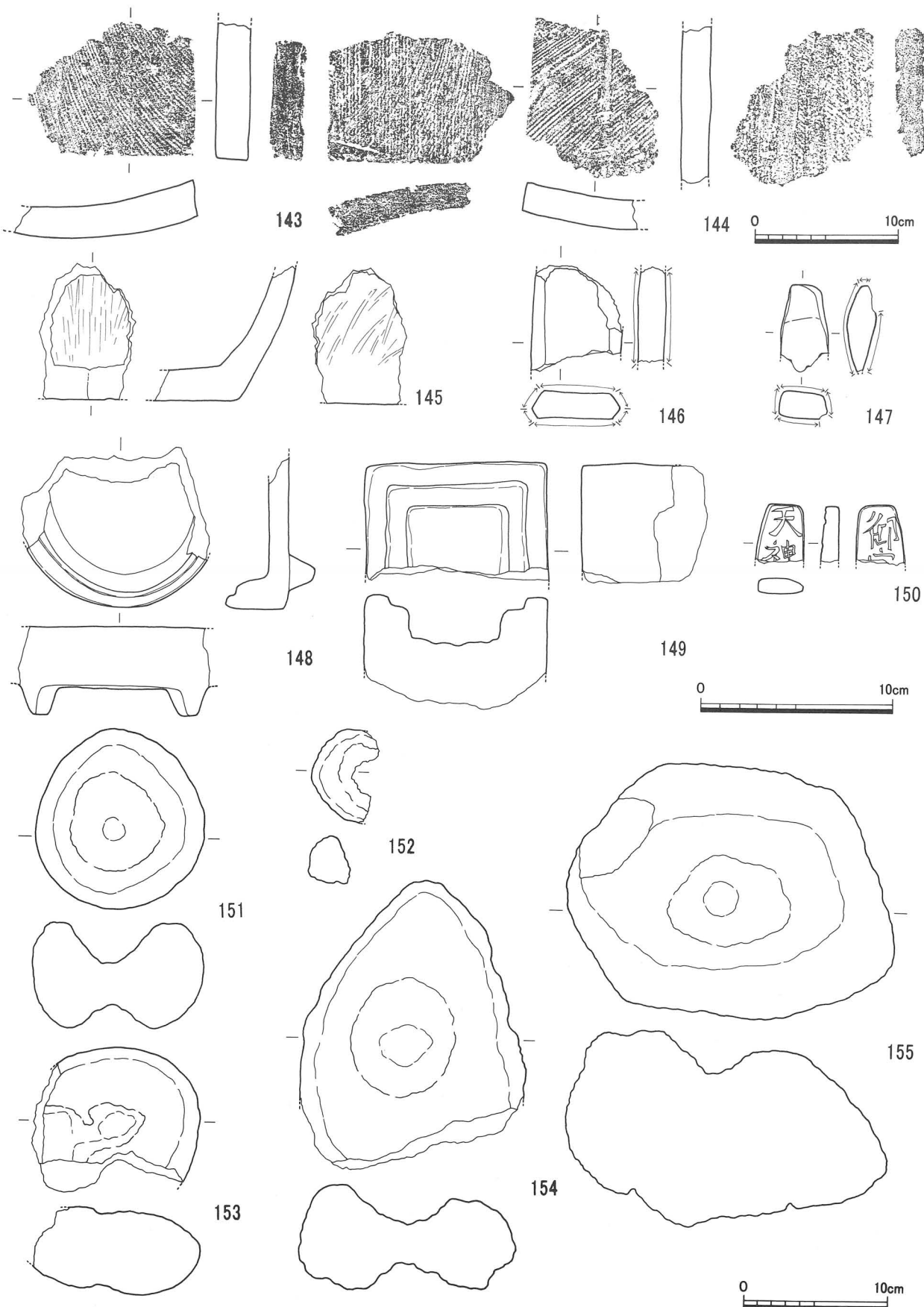
第116図 遺構外出土遺物(23)-3区③-



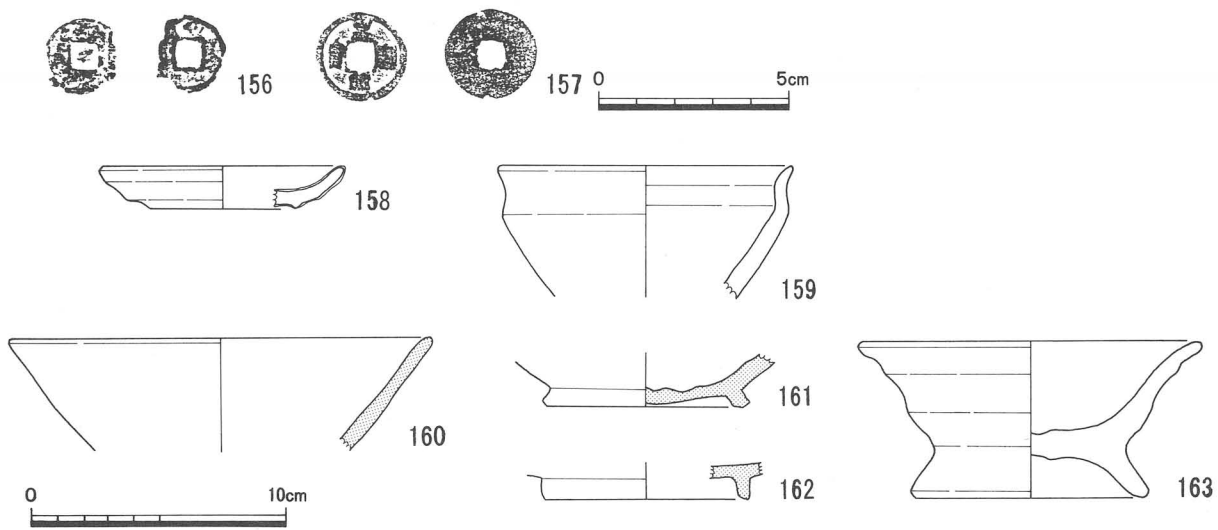
第117図 遺構外出土遺物(24)-3区④-



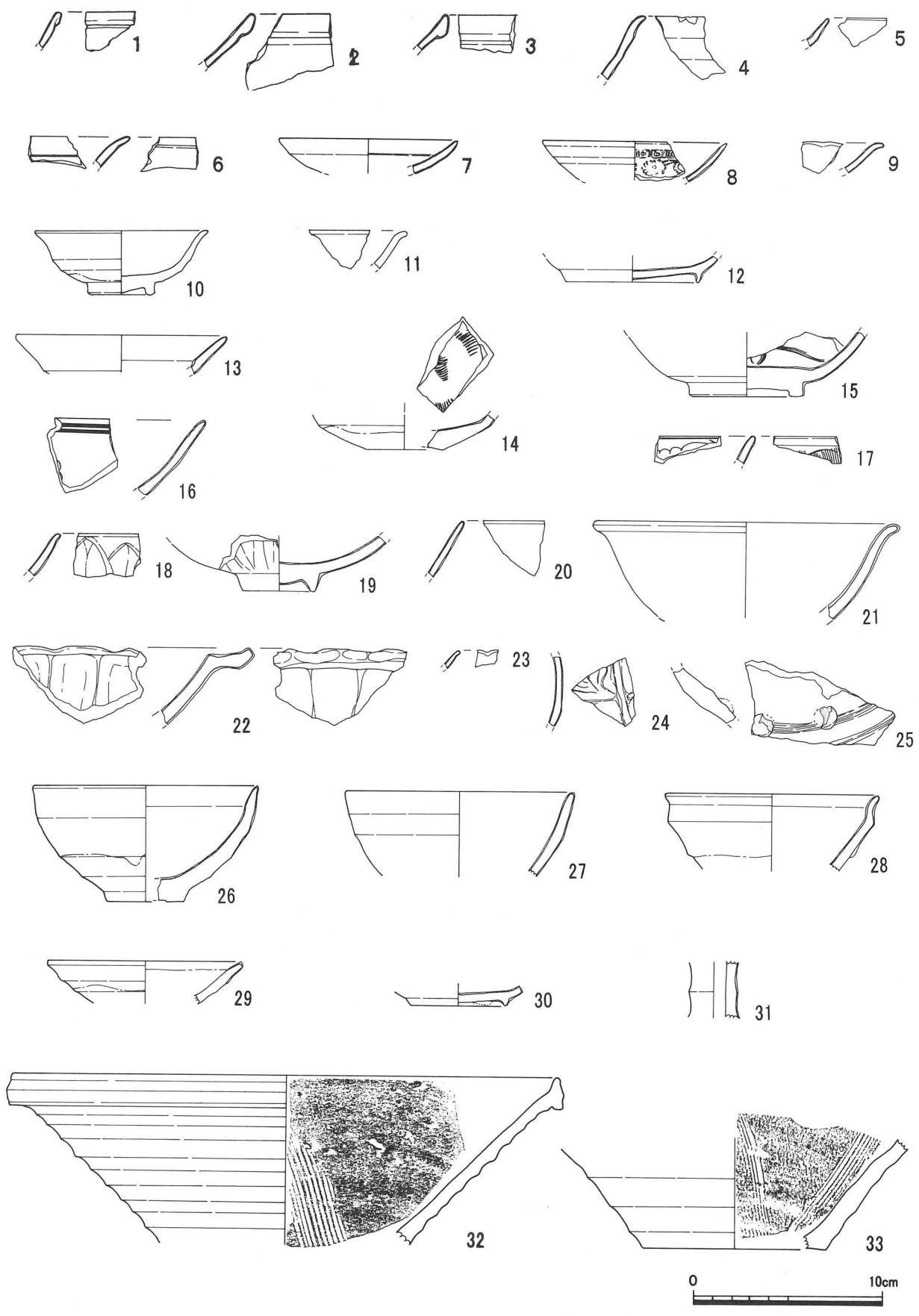
第118図 遺構外出土遺物(25)-3区⑤-



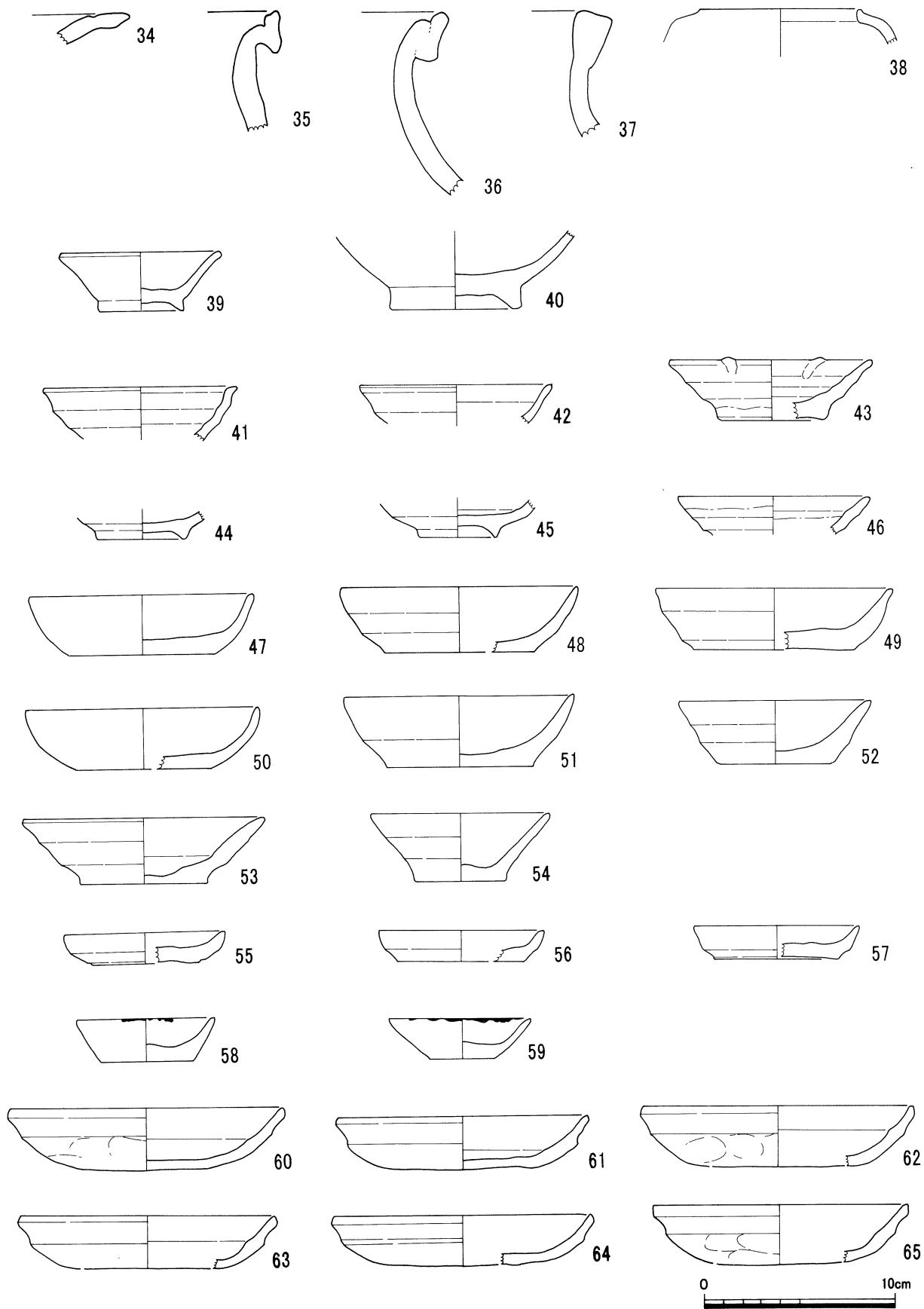
第119図 遺構外出土遺物(26)-3区⑥-



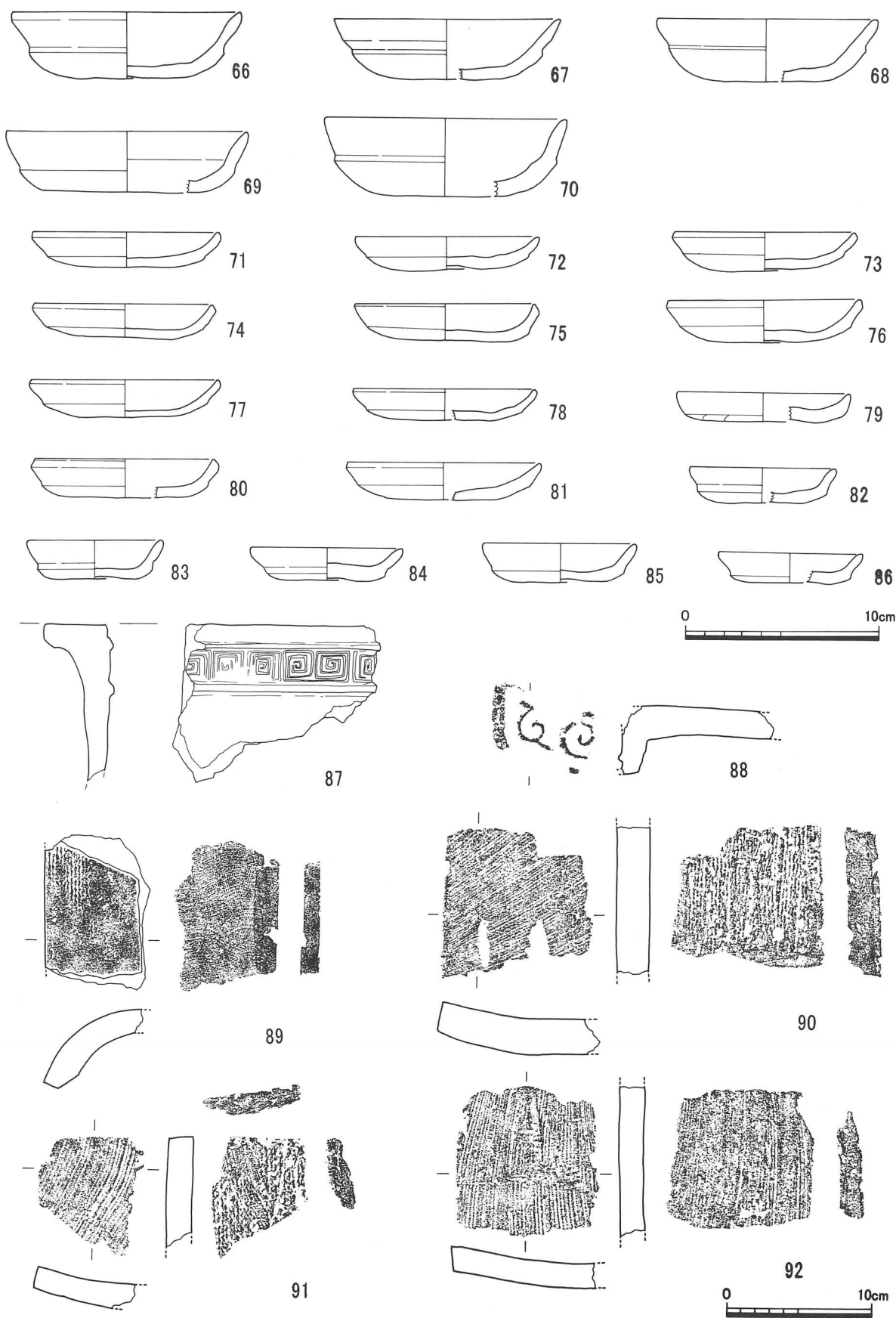
第120図 遺構外出土遺物(27)-3区⑦-



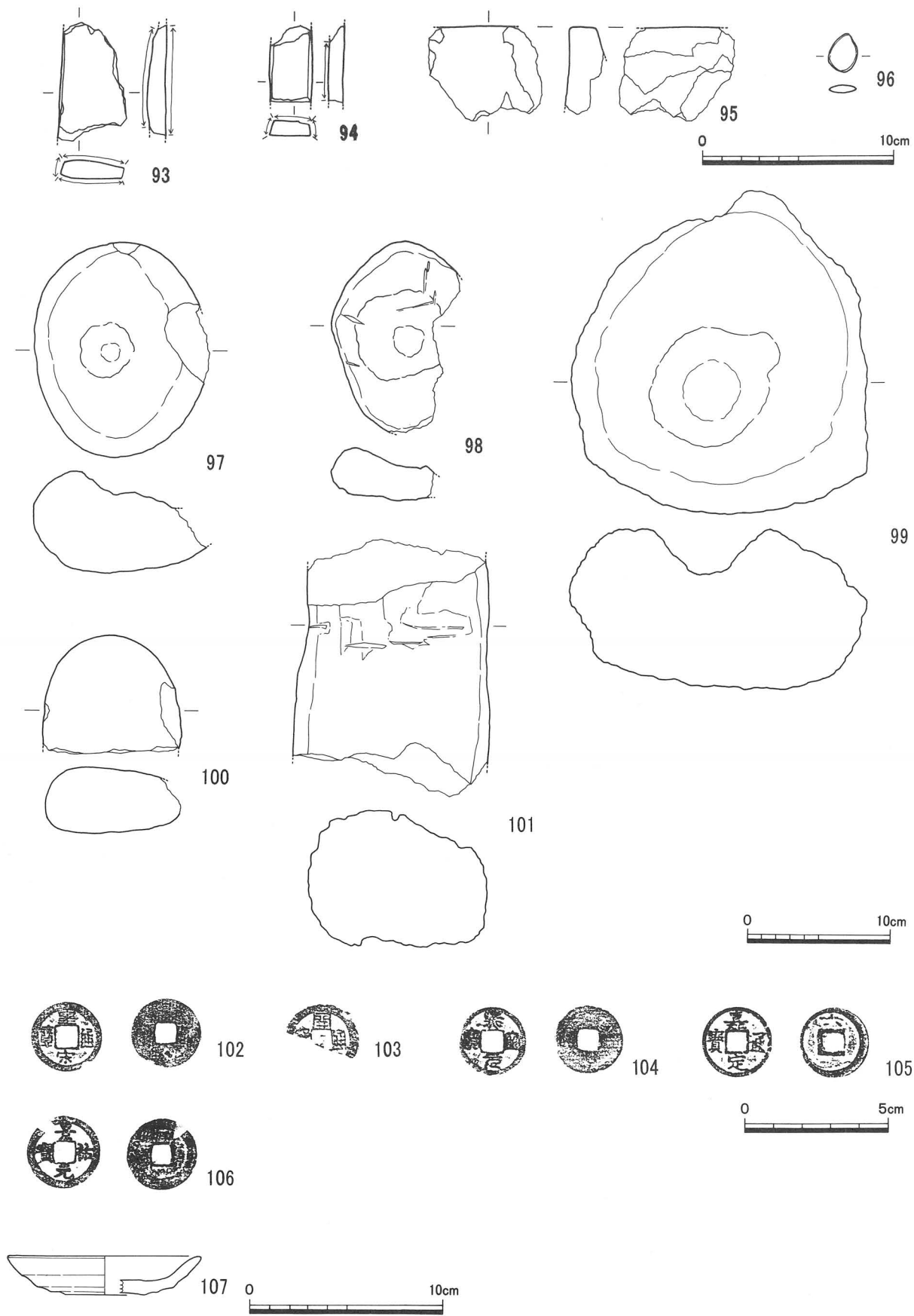
第121図 遺構外出土遺物(28)-4区①-



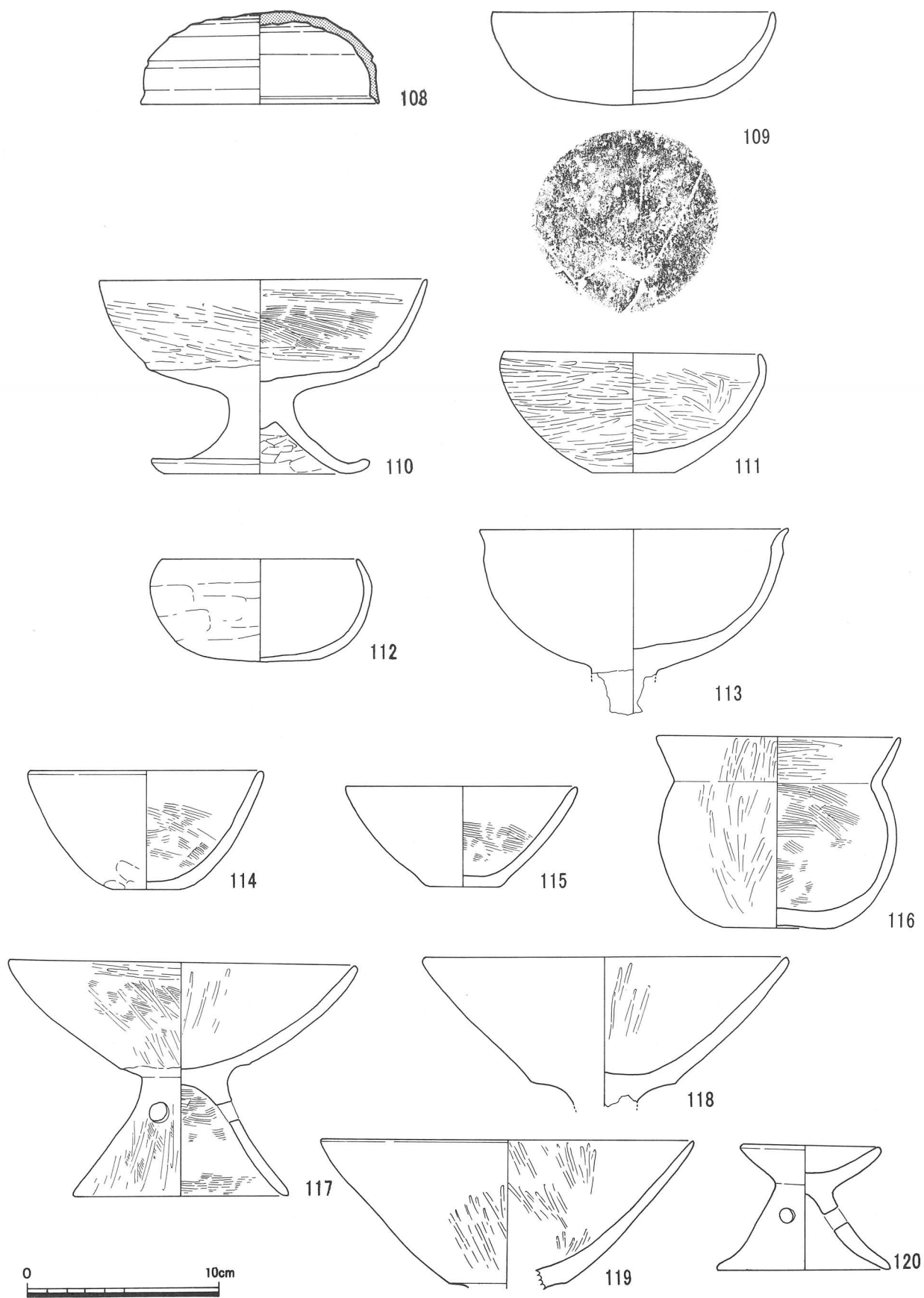
第122図 遺構外出土遺物(29)-4区②-



第123図 遺構外出土遺物(30)-4区③-



第124図 遺構外出土遺物(31)-4区④-



第125図 遺構外出土遺物(32)-4区⑤-



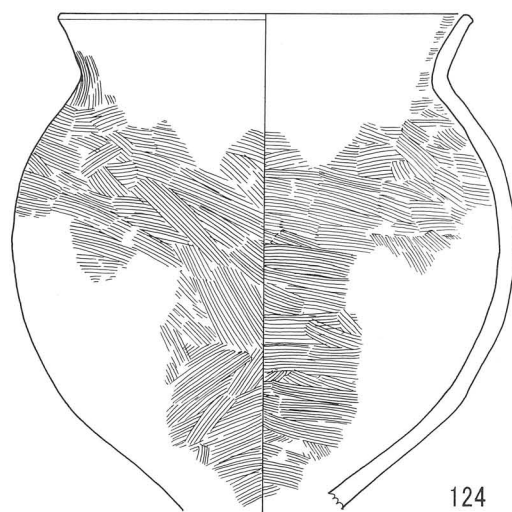
121



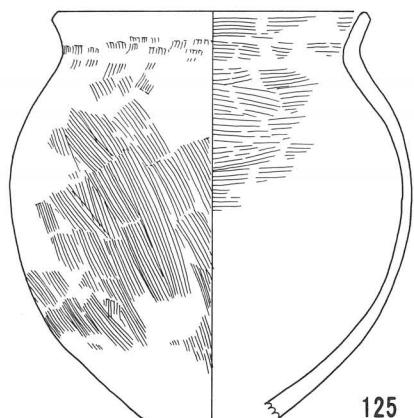
122



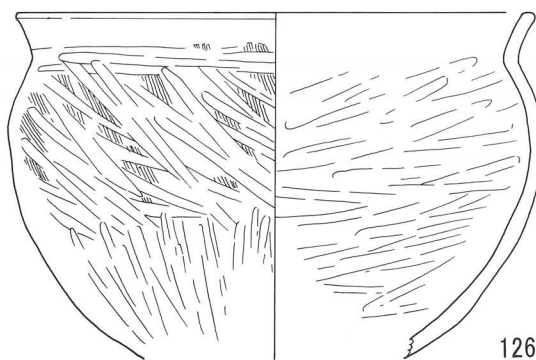
123



124



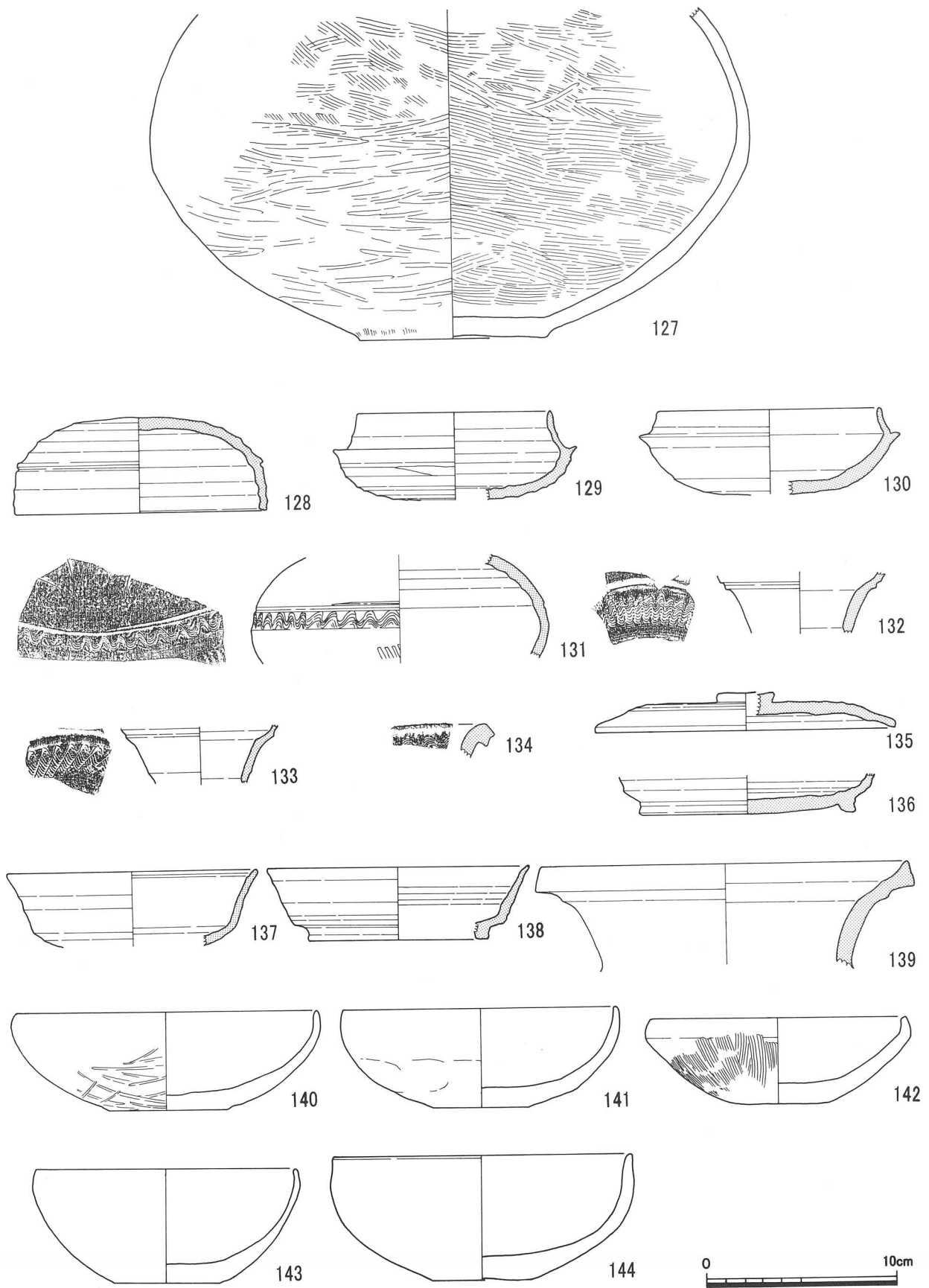
125



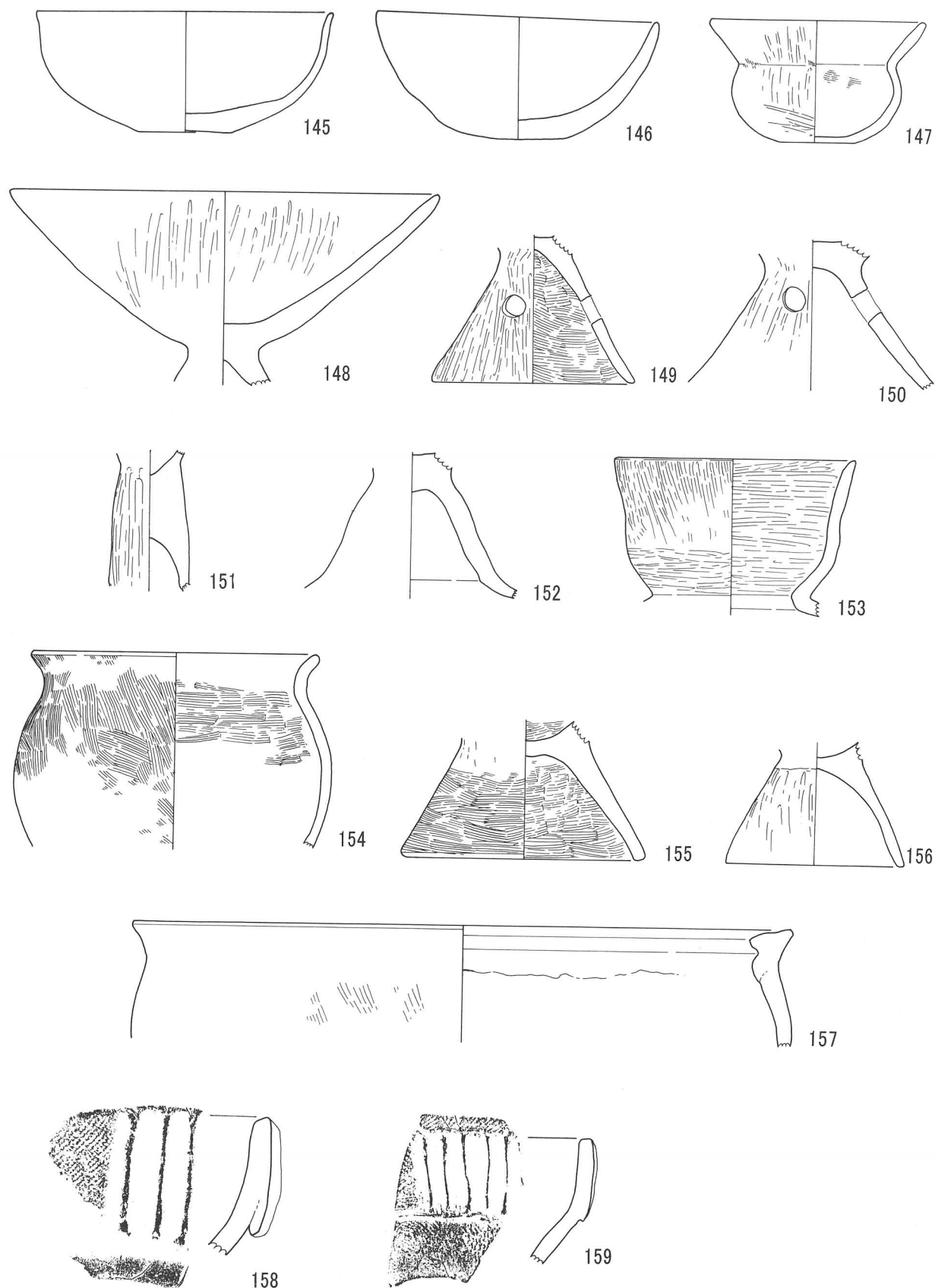
126



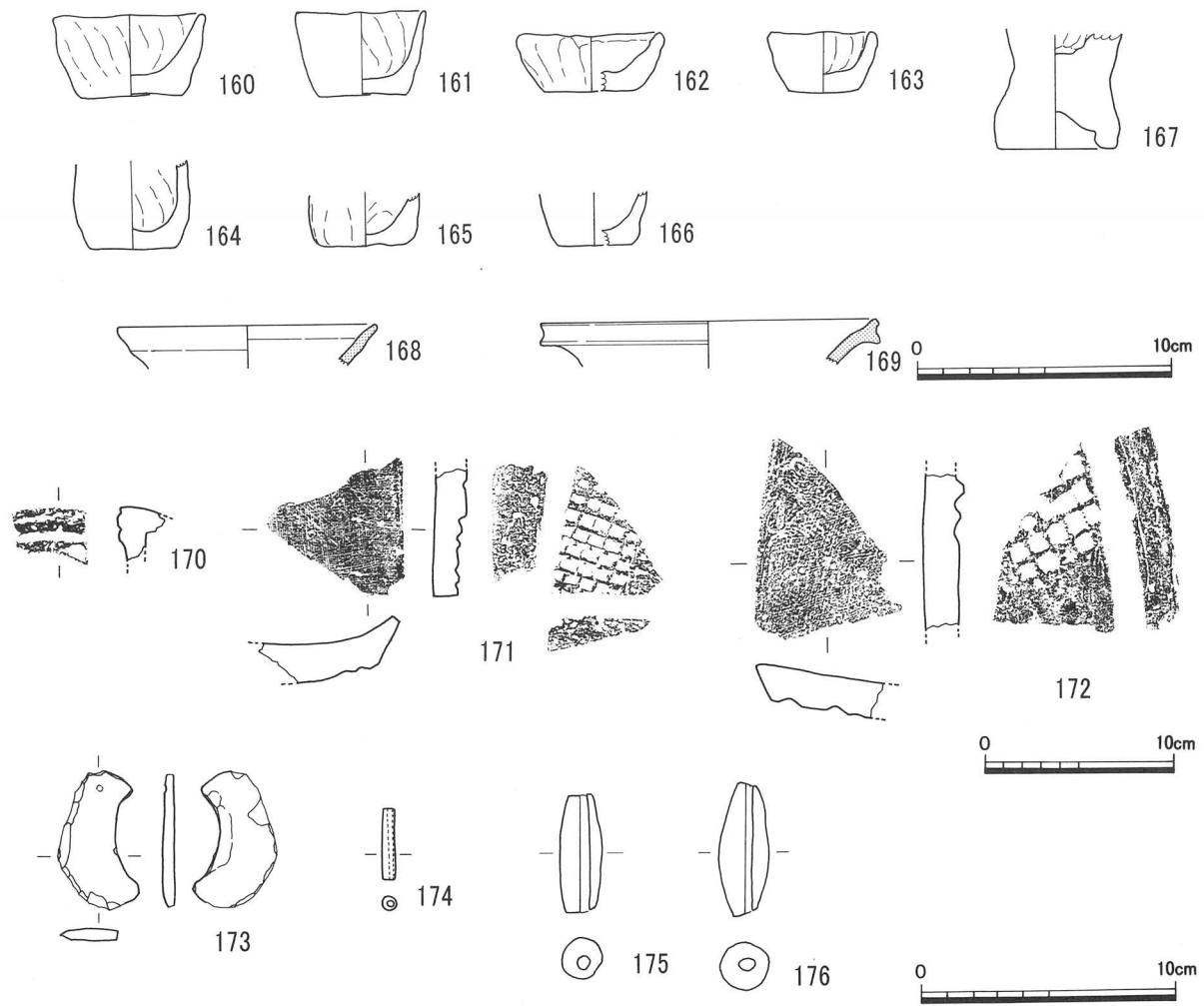
第126図 遺構外出土遺物(33)-4区⑥-



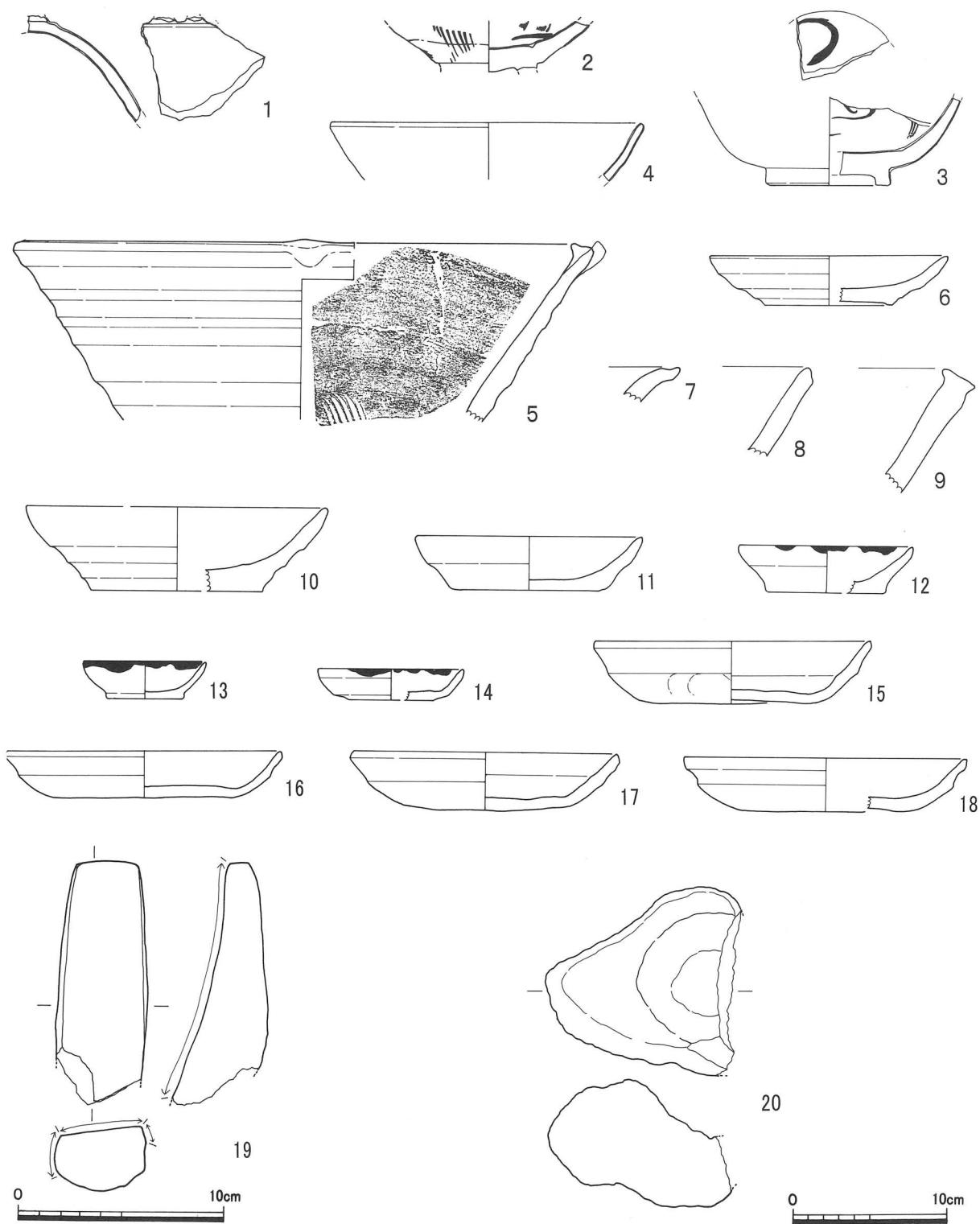
第127図 遺構外出土遺物(34)-4区⑦-



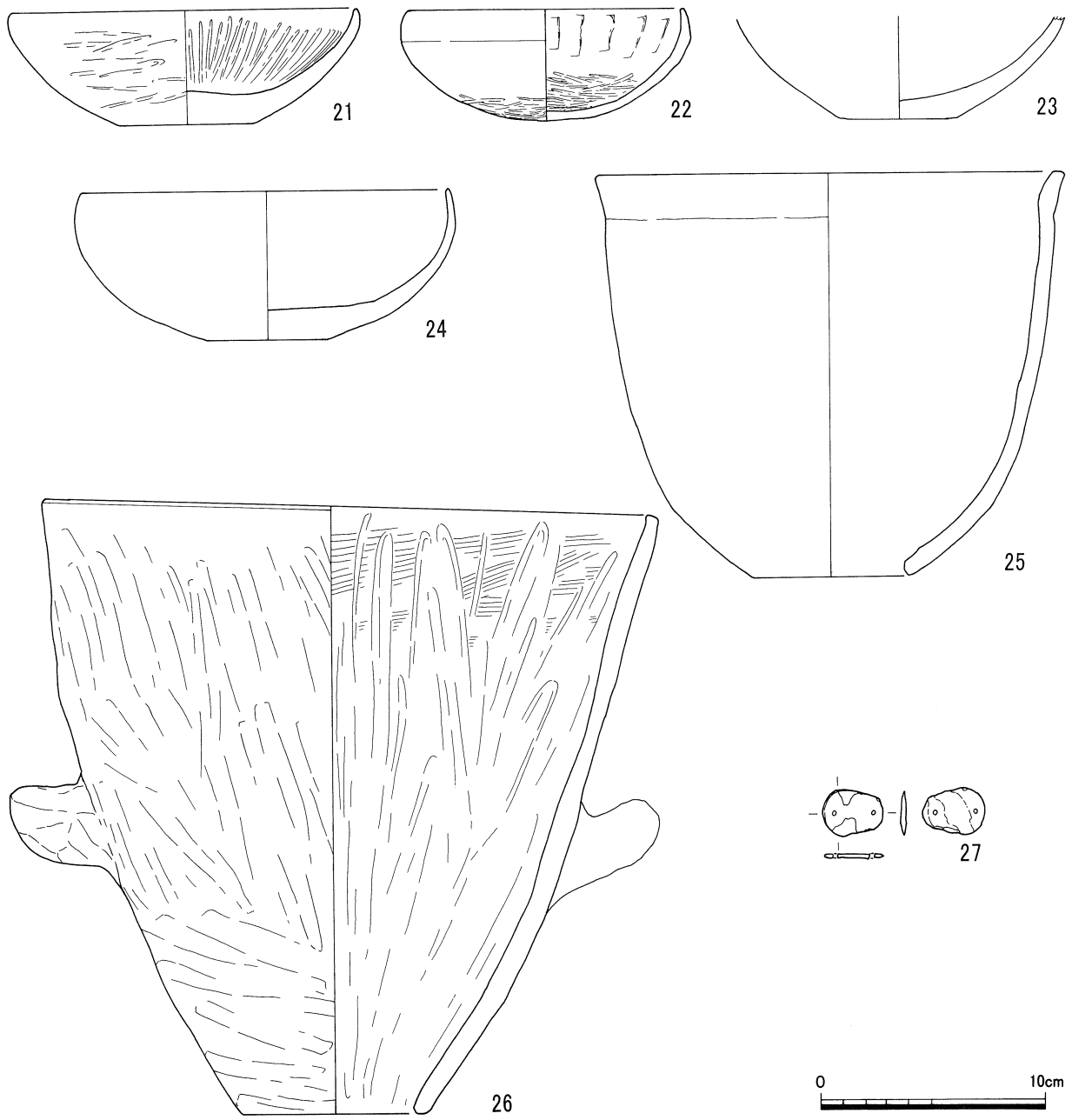
第128図 遺構外出土遺物(35)-4区⑧-



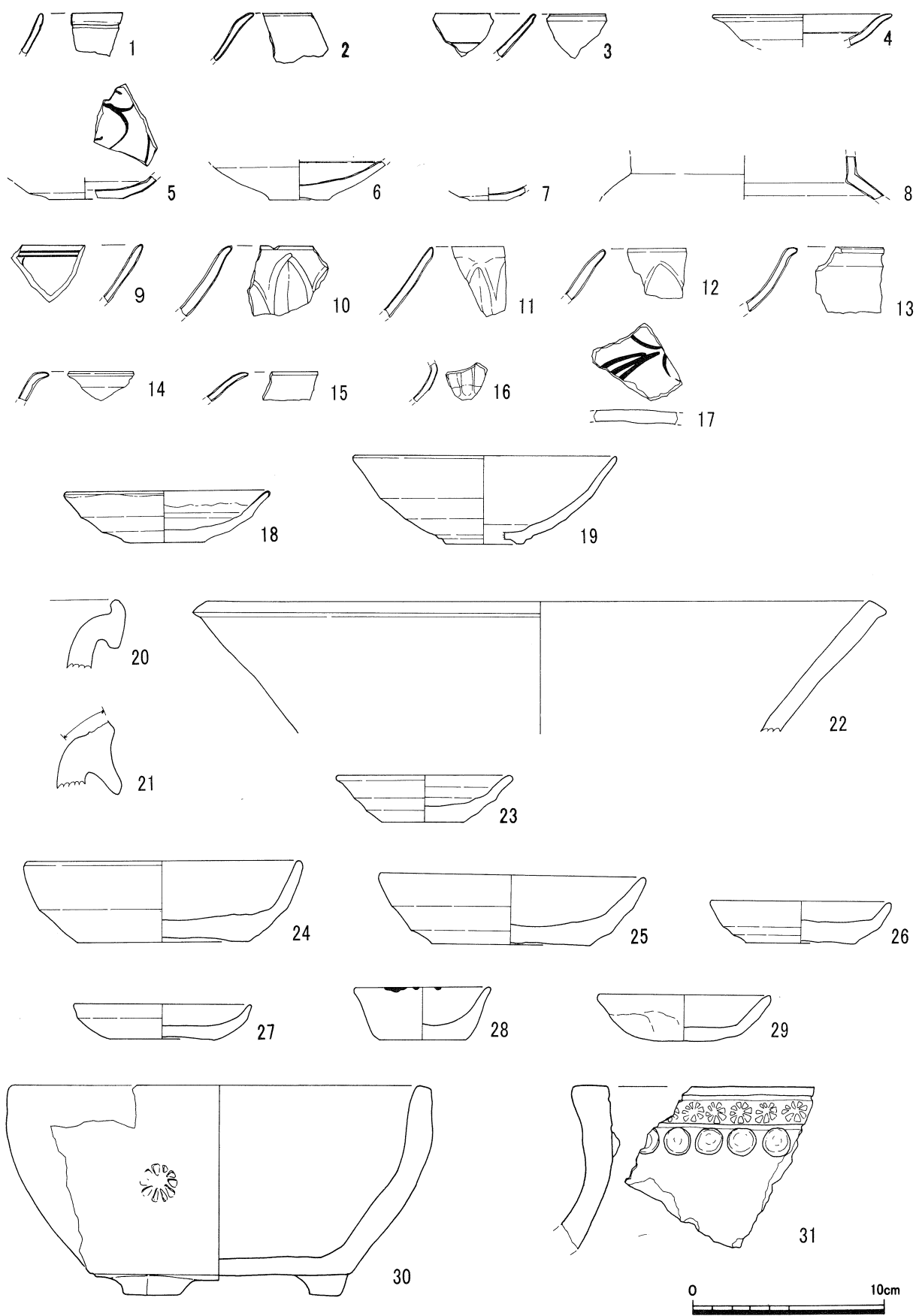
第129図 遺構外出土遺物(36)-4区⑨-



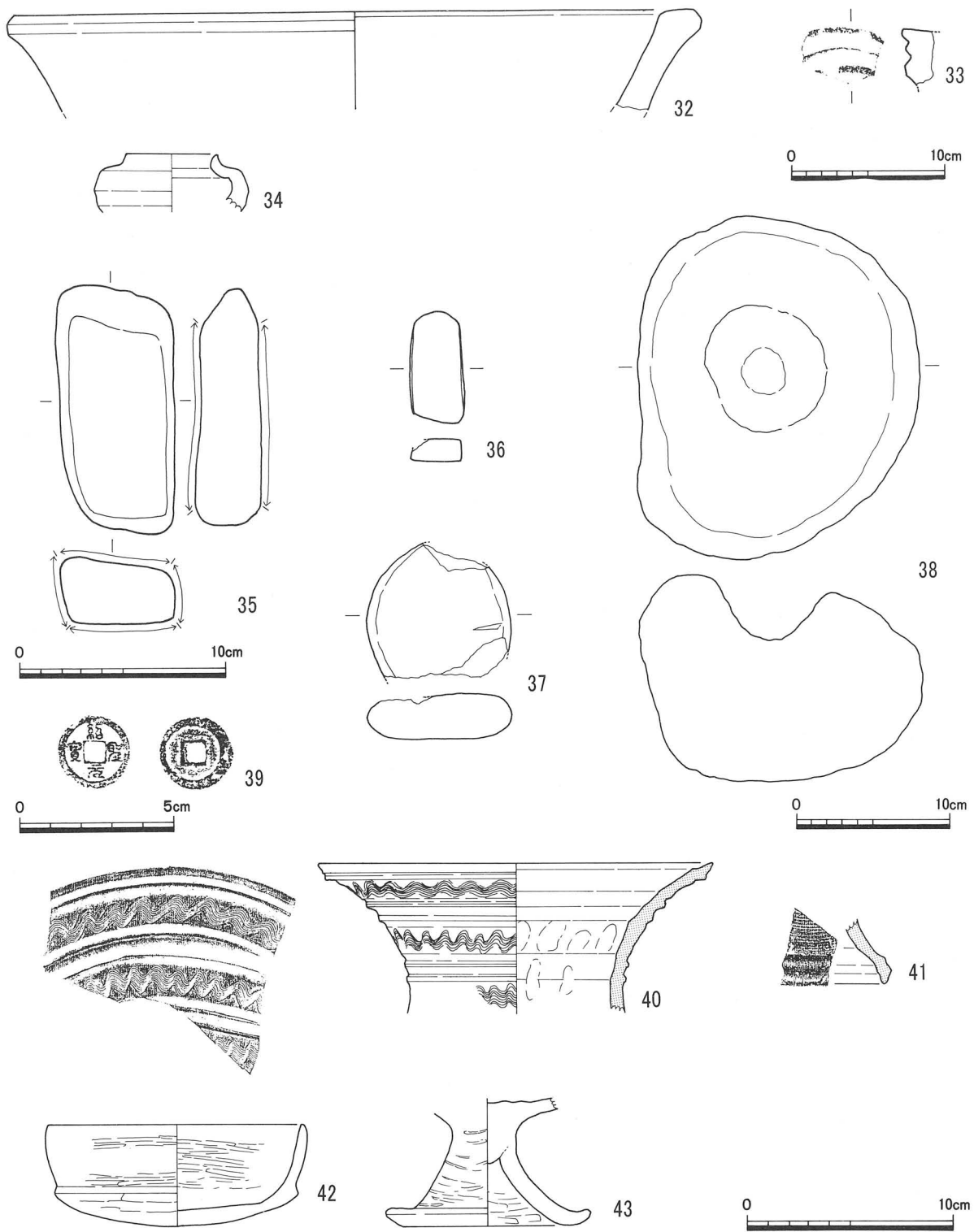
第130図 遺構外出土遺物(37)-5区①-



第131図 遺構外出土遺物(38)-5区②-



第132図 遺構外出土遺物(39)-地点不明①-



第133图 遺構外出土遺物(40)-地点不明②-

VI. 調査の成果と課題

1. 遺物について

(1) 出土遺物の全体組成について

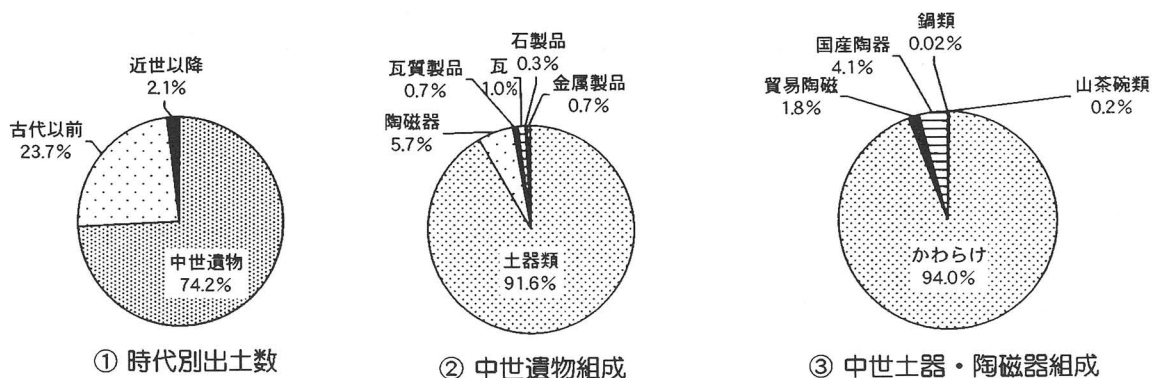
御所之内遺跡第13次調査地点は、当遺跡内においては2830㎡という広い面積の調査が行われたため、中世を中心に長期にわたる大量の遺物が出土した。出土破片数を時代別にみると、中世の遺物が62,972点で74%を占め最も多く、古代以前の遺物が約20,117点・24%で、これに次ぐ。古代以前の遺物で、最古のものは弥生時代中期の壺破片であるが、弥生時代のものはごく少量であり、4世紀～6世紀と平安時代後半の遺物が多い傾向がみられた。残る2%は近世以降の遺物1,746点で、17世紀前半の瀬戸美濃・唐津などの陶磁器がややまとまって出土している。

中世遺物は総計で62,972点出土した。最も多くを占めるのは土器類で、57,681点で91.6%を占める。次いで陶磁器3,597点で5.7%、瓦661点1%、金属製品・瓦質製品・石製品はいずれも1%以下である(第12表参照)。

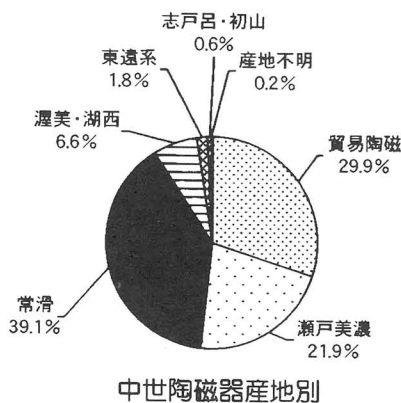
中世の土器・陶磁器組成では、かわらけが57,577点で94%を占める。次いで国産陶器が2,495点で4.1%、貿易陶磁が1,102点で1.8%である。これに対して、山茶碗は92点で0.2%、鍋類は12点で0.02%と非常に少ない。これは静岡県内でも伊豆地域・駿河東部地域で顕著にみられる傾向である。

陶磁器を産地別にみると、常滑が1,434点・39.1%で最も多く、貿易陶磁が29.9%でこれに次ぐ。瀬戸美濃は796点・21.9%、渥美湖西は236点・6.6%である。一方、静岡県内に産地のある東遠江系山茶碗は65点・1.8%、志戸呂・初山は23点・0.6%で、著しく少ない傾向が認められる。

当遺跡では、中世前期・後期の遺構面を把握できず、とくに北側の4区から5区では、ほぼ同一面上に遺構・遺物が展開しており、層位によって遺構の時間的な変遷を把握することは困難であった。そこで、以下、時期判別可能な陶磁器の時期別出土量やその変化を追うことにより、当遺跡の変遷を考えてみたい。



第134図 出土遺物組成グラフ



第135図 中世陶磁器産地別グラフ

較して少ない傾向がみえる。また、盤類は35点で、折縁のものが目立つようであるが、破片が小さいため詳細は不明である。その他、香炉も出土している。

白磁261点のうち碗が119点と最も多く、その中でもV～Ⅷ類の端反碗が73点で、最も多く出土している。Ⅱ・Ⅳ類の玉縁碗も25点あり、比較的多い傾向がみえる。これに対して、Ⅸ類の口禿碗は3点と少ない。皿は70点で、Ⅳ～Ⅶ類の平底皿やⅨ類の口禿皿が多い。また、明代のB群・C群はそれぞれ13点・3点と比較的少ない。また、壺類が17点でやや多く、そのほとんどが四耳壺と思われる。合子・小壺なども出土しており、器種のバラエティーは豊富である。

青白磁は碗・皿・合子・梅瓶などがある。全体数は53点で少ないため器種の量的な傾向の把握は難しいが、皿20点、梅瓶10点などが比較的多い傾向がみられ、その他、香炉・合子・水注などがある。皿を除くと、奢侈品と考えられる器種が目立つ傾向が認められる。

その他の陶器類は72点出土している。天目茶碗が19点、褐釉の壺類が6点出土している。泉州産は黄釉18点、緑釉27点で当地域では比較的多い傾向がみえる。緑釉の壺が2点ある他は、すべて盤類である。

全体を通しての器種別の組成は第136図③に示した。碗が64%で圧倒的に多い。碗の種類別の内訳は、右側の小円グラフに示したように、青磁が80%を占め、白磁が17%である。青白磁はわずか0.1%で青磁碗の圧倒的な量が見てとれる。皿・鉢・坏類は15%で、碗の1/4以下である。器種別の傾向を同様の小円グラフで示した。碗と傾向が異なり、白磁が47%で半分近くを占めている。青磁も40%近い数値を示しており、また、青白磁も12%で碗にみられたようなひとつの種類への圧倒的な偏りは認められなかった。その他の器種は盤類や壺類・合子などを併せた数量であるが、それでも全体の12.2%しかなく、碗・皿にははるかに及ばない。種類別では、泉州産の緑釉・黄釉の盤が一定量あるため陶器が40%と最も多い。この他、四耳壺・壺などで白磁が13%を示す。青磁20.9%のほとんどは盤類、青白磁17.2%は梅瓶・合子などである。これらは一定の器種分化が進んでおり、皿・鉢類と同様に特定種類への偏りはやはりみられなかった。

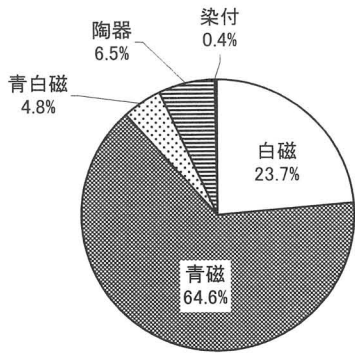
貿易陶磁の時期が最も反映されるのが青磁碗の産地と分類別の割合である。第136図②に青磁碗の産地・分類別のグラフを示した。龍泉窯系劃花文碗(A類)が27.8%と最も多く、蓮弁文碗(B-1類)24.2%を上回っている。同安窯系碗も19.3%と多く、劃花文と同安窯系碗をあわせて半分近くを占めることになり、この傾向に当遺跡の特徴が最もよく表われていると思われる。これに対して、14世紀以降と考えられるヘラ・線描き蓮弁文碗(B-3類)は0.7%、雷文帯碗(C類)は0.2%、端反碗のD-1類4.2%、同D-2類は0.5%であり、非常に少ない傾向が認められた。

貿易陶磁の時期別の数量をグラフ化したものが第136図④である。時期区分は主な編年案^(註1)と、静岡

(2) 貿易陶磁

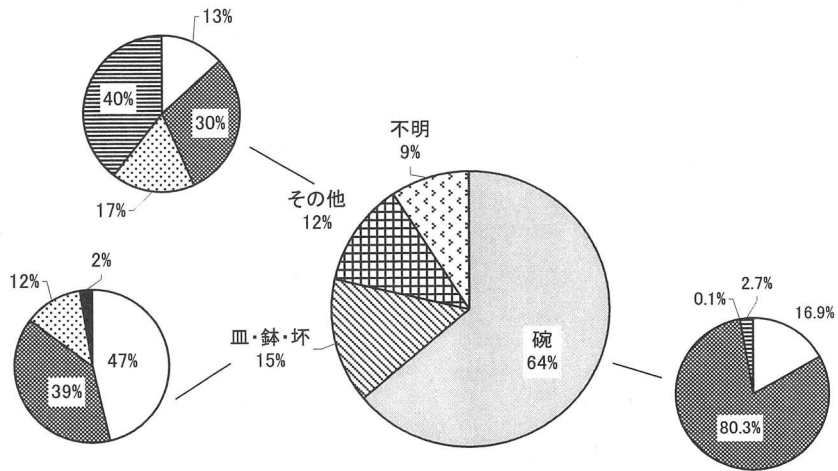
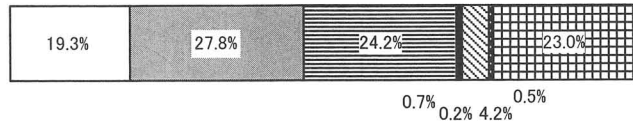
貿易陶磁の出土総数は1102点である。種別でみると青磁が712点で64.6%となり全体の2/3を占める。白磁は261点で23.7%、青白磁は53点で4.8%、陶器は72点で約6.5%、染付はわずかに4点・0.4%である。

青磁のうち、同安窯系は141点で、龍泉窯系は571点である。同安窯系では皿に比べて碗が多く、3/4を占める。龍泉窯系では碗が456点と圧倒的に多く、その中でもA類(Ⅰ-2~4・6類)劃花文碗が157点と最も多く出土している。B-1類(Ⅰ-5類)とⅢ類が137点で、これに次ぎ、これ以外のヘラ・線描きのB-3類は4点、C類(雷文帯碗)は1点、D類(端反碗)は27点で、非常に少ない。皿・鉢類は31点で碗と比較して少ない傾向がみえる。



① 貿易陶磁の種類別

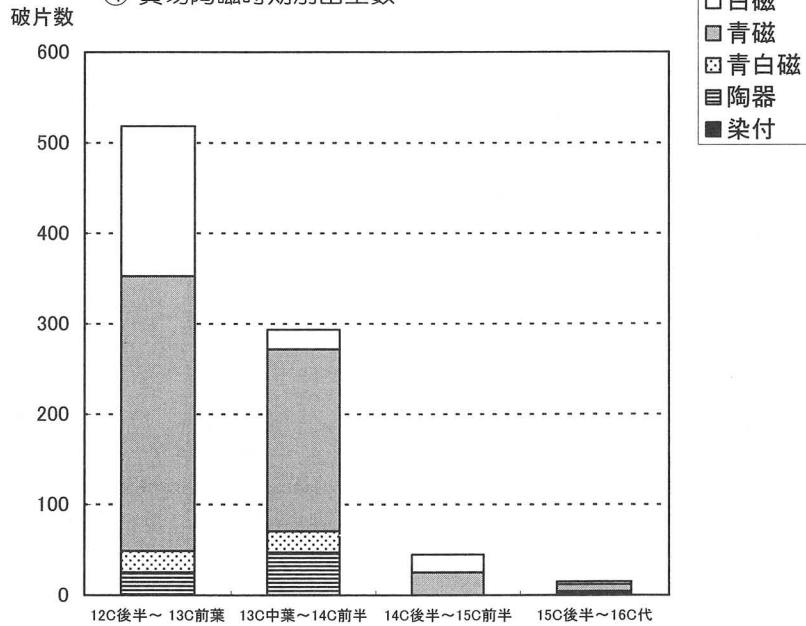
② 青磁碗 産地と分類別組成



③ 貿易陶磁の器種別



④ 貿易陶磁時期別出土数

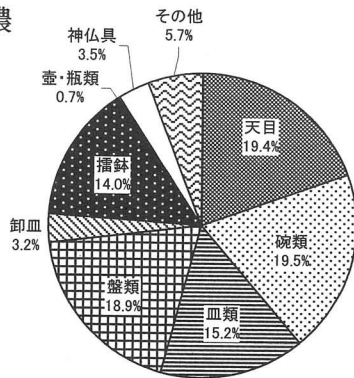


第136図 貿易陶磁の組成と時期別出土量グラフ

県菊川町の横地城跡総合調査報告書に掲載された編年^(註2)、その他鎌倉・平泉などの東国の出土傾向を参考にして計数を行った。

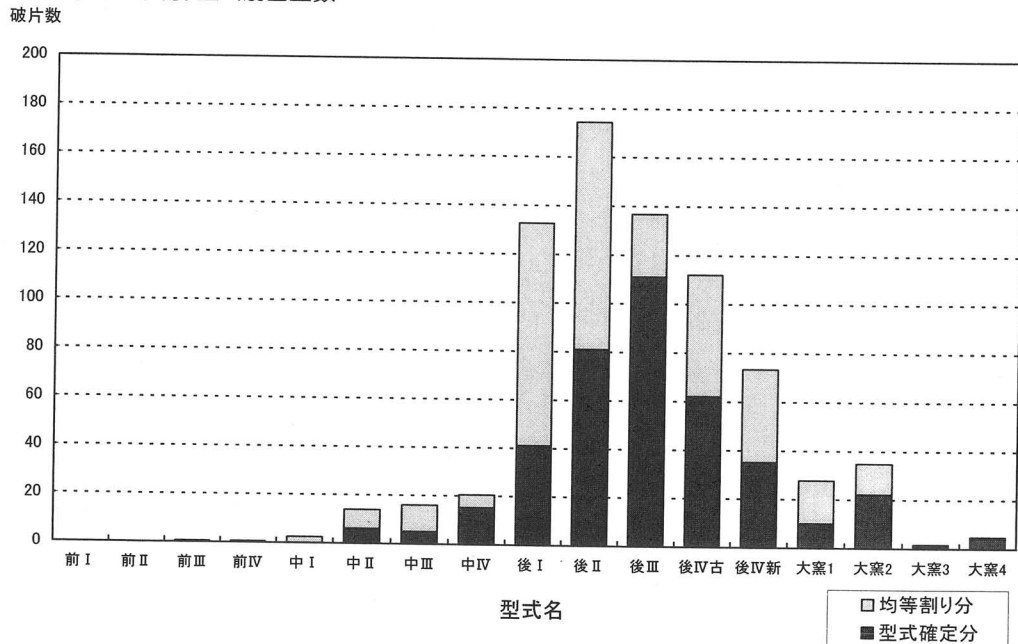
12世紀後半から13世紀前葉にかけての出土量が最も多い。その多くを占めるのが青磁で、同安窯系青磁・龍泉窯系青磁劃花文碗の量が反映している。白磁の碗・皿・壺類も多いため、白磁も一定量認められる。13世紀中葉以降14世紀にかけては、東国各地で龍泉窯系の鎬蓮弁文碗（B-1類）が大量に流通する時期であるが、本遺跡においては青磁碗はむしろ減少する傾向を示す。また、白磁の口禿碗・皿（IX類）もそれほど大量には出土していないため、白磁も減少する傾向がみえる。しかし、青白磁や泉州系陶器の増加により、種類が多様化する時期でもある。ところが、14世紀後半になると、全体の出土量が急激に減少する。これは青磁のヘラ・線描き蓮弁文碗（B-3類）や端反碗などが非常に少なく、また盤類などの出土量も多くないことによる。この傾向は15世紀後半以降16世紀になってさらに進み、いっそうの減少傾向を示す。当遺跡においてはこの時期に各地で流通する白磁皿B・C類、青磁稜花皿、染付碗・皿などが少ないことに起因していると思われる。

(3) 瀬戸美濃



① 瀬戸美濃 器種別

② 瀬戸美濃 型式別出土数



第137図 瀬戸美濃の組成と型式別出土量グラフ

瀬戸美濃は山茶碗を除いて796点出土している。このうち、器種不明を除いた752点について、器種別のグラフに表したものが第137図①である。天目茶碗・小天目茶碗などの天目類が19.4%、平碗・浅碗などの碗類が19.5%で、多くを占めている。また、盤類18.9%、皿類15.2%と続き、供膳形態が全体の7割以上を占めている。これに対して、播鉢が14.0%、卸皿は少なく3.2%で、調理具は少ない傾向がみえる。その他の器種はいずれも数%以下であるが、花瓶や香炉などの神仏具が3.5%とやや高い比率を示していることが注目される。

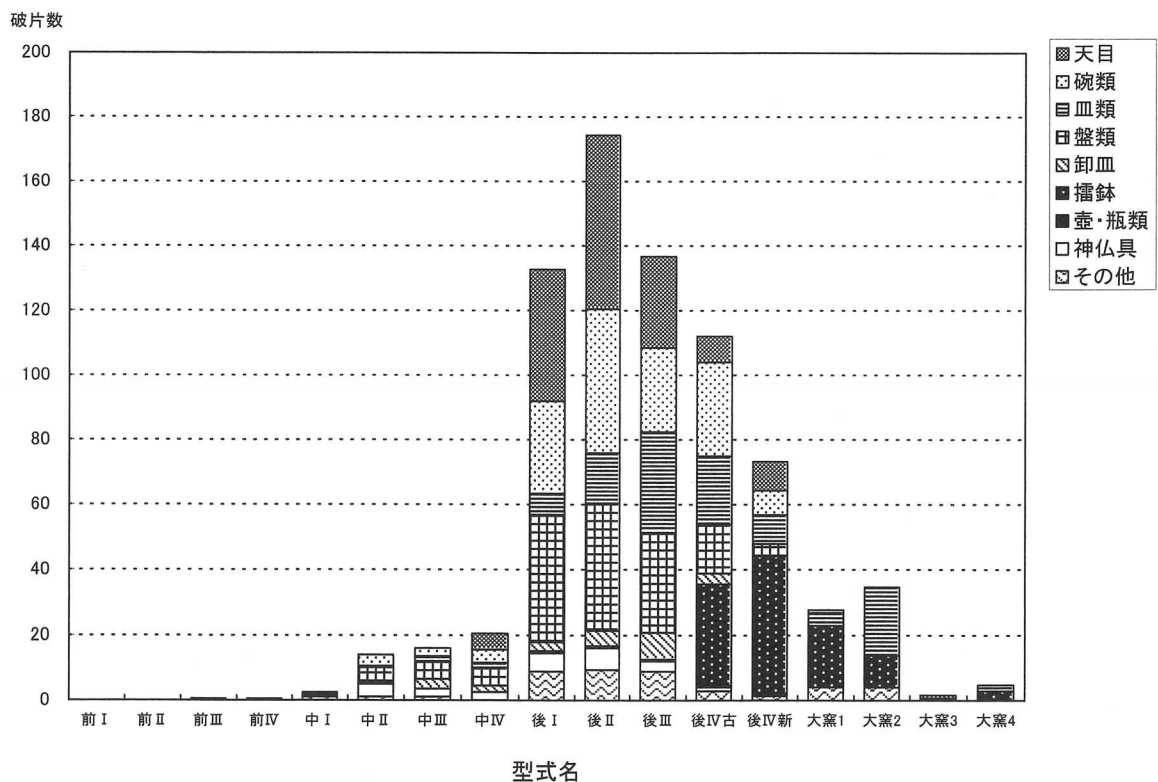
第137図②のグラフには型式別の出土量を棒グラフで示した。濃い色のグラフがその型式固有の点数で、薄い色は数型式にわたる点数を型式数で割った数値を表わしている。たとえば、後Ⅰ～Ⅲ期の天目茶碗が6点の場合、後Ⅰ・Ⅱ・Ⅲそれぞれ2点ずつとして計算している。

後Ⅱ期が最も多く、全体の23%を占める。その前後も多く、後Ⅰ期17%、後Ⅲ期18%で、この3期で全体の半分以上の出土量を占めている。一方、中Ⅳ期以前と大窯期の製品は非常に少なく、後Ⅰ期での極端な増加と大窯期以降の減少が当遺跡の特徴といえる。

同様の出土量グラフを器種別に表したものが第138図③である。当遺跡で最古の瀬戸美濃製品は入子で、前Ⅲ期～中Ⅱ期に比定されるものである。2個体出土している。中Ⅱ期に、碗類・盤類・壺類・神仏具などが少量出土し、中Ⅲ・Ⅳ期でやや増加する。当遺跡の主要な器種である天目茶碗は、中Ⅳ期からあらわれる。

後Ⅰ期になると、前段階の6倍の出土量になり、次の後Ⅱ期でピークを迎えることになる。後Ⅰ期の器種構成は、天目類30%、碗類22%、盤類29%が大きな比率を占める。これら3器種の増加が当該期の急激な出土量増大につながっている。また、鉢類や柄付片口、小杯など、前段階ではみられなかった

③ 瀬戸美濃 型式別・器種別出土数

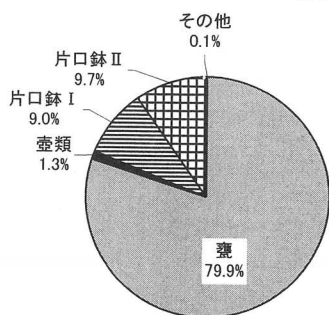


第138図 瀬戸美濃の型式別・器種別出土量グラフ

器種も出現し、器種のバラエティーが豊かになることも特徴的である。次の後Ⅱ期には、天目・碗類・盤類は少しずつ増加してその割合には変化がみられないものの、皿類が前段階の4%から8%に倍増し、出土量増加の要因となっている。後Ⅲ期になると、天目・碗類が減り全体の出土量も減少するが、皿は逆に増加傾向となり22%を占める。後Ⅳ古期になると、播鉢の出現により器種構成に大きな変化があらわれる。天目7%、碗類25%、皿類18%、盤類13%となり、天目を初めとして供膳具は減少するのに対して、播鉢は27%で最大の比率となる。とくに天目類の減少は著しい。後Ⅳ新期では、碗類、盤類も大きく後退し、播鉢は57%となり半分以上を占めるようになる。大窯期にはいると、全体の出土量は激減し、主要な器種は皿類と播鉢で占められるようになる。大窯2段階で、皿類が増えるものの、大窯3・4段階の出土量はわずかとなり、器種構成も不明となる。

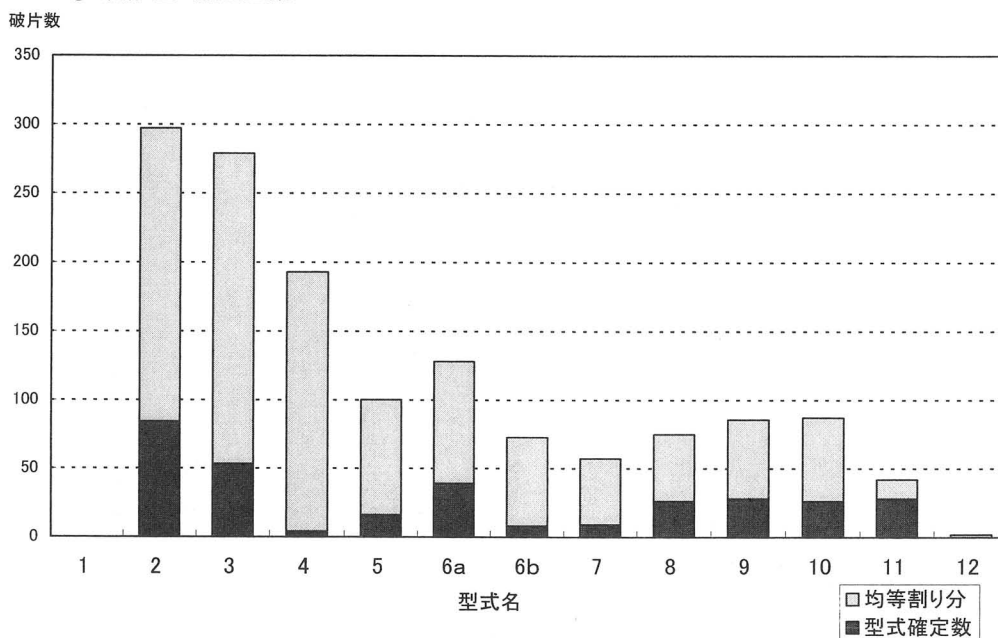
(4) 常滑

常滑の出土数は山茶碗を除き1434点を数える。器種不明15点を除いた1419点の器種別グラフを第139図①に示した。圧倒的に甕が多く、1134点で約80%を占める。ついで片口鉢が多く、片口鉢Ⅰ類が9%、同Ⅱ類が9.7%である。壺類は非常に少なく1.3%である。グラフには示していないが、渥美も同様の傾向を示しており、出土点数236点のうち205点が甕で87%を占めている。



① 常滑 器種別

② 常滑 型式別出土数



第139図 常滑の組成と型式別出土量グラフ

瀬戸美濃同様に型式別のグラフを第139図②に示した。1型式は出土しておらず、2型式の出土量が最大で全体の21%を占めている。3型式も多く19%、4型式は若干減少するものの13.5%である。以上の2～4型式で全体の半分以上を占めており、鎌倉時代前半期に、大量の常滑製品が当遺跡に持ち込まれたことが想定される。

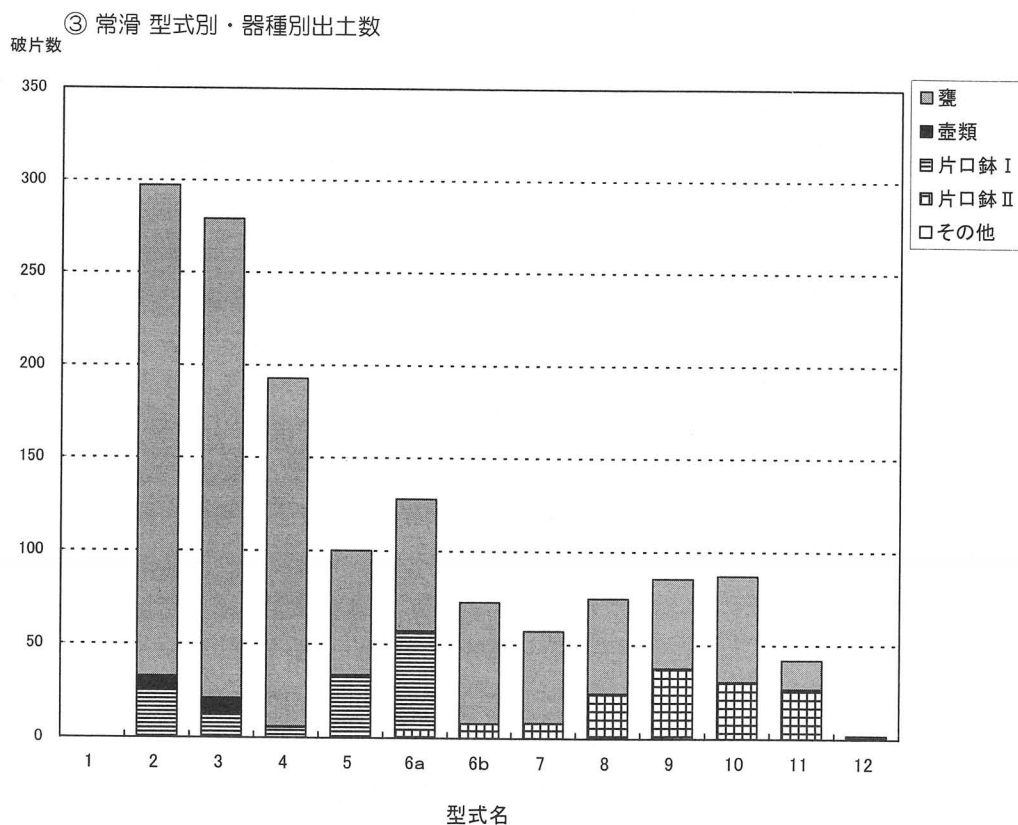
その後、5型式から減少傾向がみられ、6 a型式と8～10型式で少し増加するものの、全体には低い出土量で推移するが12型式までは極端な減少はみられない。全体に常滑製品は量の多寡はあるものの、安定して供給されていたと考えられよう。

型式別の出土量を器種別に表したものが第140図③のグラフである。全体の器種別グラフでみたように、すべて時期を通じて甕が多い傾向がみえるが、時期によってやや割合が異なることが明らかになった。2型式では甕と片口鉢Ⅰ類が10：1の比率を示している。3型式では20：1、4型式では30：1と、2型式に比べて減少傾向を示すものの、5型式では2：1、6 a型式では1.3：1と増加に転じ、片口鉢の占める割合が高くなっていくことがわかる。また、片口鉢Ⅱ類でも、当初6 b型式では甕：片口鉢Ⅱ類が8：1であったが、次第に増加し9型式では1.2：1とほぼ同量となり、11型式では1：1.6と逆転する。

このような型式ごとの出土量の変化、器種別の割合の増減減少は、当遺跡の消長のあらわれであると同時に、産地における生産量や流通量・流通経路の問題、他の産地との競合関係など、複雑な要因によるものと考えられ、在地土器も含めて多角的な検討が必要と考えられる。

(5) かわらけと遺構内共伴遺物

次に当遺跡で最も出土量の多いかわらけについて検討する。伊豆地域では、韮山町と三島市の三嶋大社周辺を除いては中世のかわらけの良好な資料が少なく、現段階において編年が確立されていない状況



第140図 常滑の型式別・器種別出土量グラフ

である^(註3)。その理由として、前述のように資料が非常に限られていることと、大量にかわらけが出土している葦山町においては、中世全般にわたる遺跡が重層的に展開しているため、遺構の重複が著しく、層位的な検討や共伴遺物との検証などが可能な良好な一括資料に恵まれていないことがあげられる。ここでは、当遺跡において比較的良好的一括資料をあげ、共伴遺物とともにその年代を推定し、かわらけの変遷を追っていくこととする。

第1期 第1号井戸(SE01)の一括出土資料が相当する。わずかな破片を除いて手づくね成形かわらけはほとんど出土しておらず、ロクロ成形かわらけのみで構成される段階と考えられる。大小の2法量のロクロ成形かわらけがあり、それぞれ器形から2分することができる。大形のかわらけには口径14cm前後・底径8～9cmの口径と底径の差の小さい皿形のもの(第141図1・2)と、底径7cmほどで口径と底径の差の大きい坏形のもの(3・4)がある^(註4)。小形かわらけも大形と同様に皿形(5・6)と坏形(7・8)の2種がある。また、坏形でも底部が非常に厚く底径がさらに小さくなる9・10のようなものがあり、これらは古代末の土師質土器の系譜をひくものと思われる。ロクロ成形後の調整は底部外面・内面とも顕著なものは認められず、わずかに底部内面のロクロ成型時の盛り上がり指またはへら状の工具で調整したような痕跡が一部に認められるのみである。

第1号井戸では、これらのかわらけに貿易陶磁・東遠江系山茶碗が共伴している。第142図64～67は貿易陶磁である。64～66は白磁の碗で、64がⅡ類、65がⅣ類、66はⅤ類である。67は白磁小壺である。68～70は東遠江系の山茶碗で、68・69は碗、70は片口鉢である。

第2期 第2号井戸(SE02)出土資料がこの段階である。ロクロ成形かわらけに加えて手づくね成形かわらけが一定量出土する。

ロクロ成形かわらけは前段階同様大小の2法量があり、大形は口径13.0～14.0cm・器高3.5～4.0cmを測る。また、底径9.0cm前後の皿形(11・12)、7.0cm前後の坏形(13・14)がある。口径・底径とも前段階との差はあまりないが、皿形・坏形ともに器高の低いものがみられるようになる。また小形かわらけは皿形のもの(15・16・18)が主体となるようであるが、17のように底部が厚く小さめの底部から引き出されるように立ち上がっている例は前段階からの系譜を引くものと考えられる。

手づくね成形かわらけは口径14～15cm・器高2.5～3.0cmの大形かわらけ(71・72)と口径9.5～10.0cm・器高2.0cm前後の小形かわらけ(73～76)がある。器厚は比較的薄手で、口唇部も丁寧につくられている。外側に面取りを施す例が多いが、丸くおさめるものもある。底部は平坦で底部内面にはナデまたはハケ状の調整痕が認められる。調整の順序は底部内面→口縁部のナデである。小形かわらけには、口縁部のナデが強いため屈曲が明瞭で口縁部がやや外反気味になるもの(73・74)と、ナデが弱いあるいは口縁下に沈線を施す程度の調整のため、口縁部が内彎し全体に扁平な半球状を呈すもの(75・76)との2種が認められる。

第2号井戸の共伴遺物は貿易陶磁のみで、77は白磁碗Ⅴ類かⅧ類、78は青磁劃花文碗(A類)である。

第3期 第3号溝状遺構、第34号・36号・48号・50号土坑出土のかわらけを第3期とする。

大形のロクロ成形かわらけは口径が縮小し、口径が12.0cm前後のもの(21・22)も認められる。器高も3.5cm前後となり、前段階より低くなる。器高の低化が進むため大小とも皿形・坏形の差は不明瞭になっている。器形は底部脇からやや引き出し気味に立ち上がり、体部は内彎して口縁部に至るもの、口縁部でやや外反するものなどが認められる。また、本段階では大小ともに底部内面にナデ痕や底部外面に板状圧痕など成形後の調整が普遍的に認められるようになることが大きな特徴である。底部内面のナデ痕は丁寧で見込み部ほぼ全面にわたり丁寧に数回施されている。

手づくね成形かわらけの口径は大形のもの12.0～13.0cm、器高は3.0cm前後となり、前段階に比べ口径の縮小と器高の増加が顕著である(79・80・82・83)。また、器厚が厚手になり、口唇部も丸

みをもち外側の面取りを施さなくなる。第34号・50号土坑（SX34・50）の手づくねかわらけ（84・85）は、口径は10.5～11.5cmとさらに縮小し、その一方で器高が3.5cm前後と高くなる。また、口縁部高が拡大し外反が強くなる特徴を示す。小形かわらけも同様で、第3号溝状遺構の口径は8.0cm（81）、第34号・50号土坑のもの（86・87）は7.0cm代に縮小している。また、口縁部高が拡大し、体部～底部にかけて扁平な形状になる。底部内面の調整も口縁部の横ナデが底部中央まで及んでいるものが多く、前段階までの底部内面→口縁部の調整順序が崩れている。手づくねかわらけの小形化・粗雑化が進んだ段階である。

第3期の遺構陶磁器の共伴例がなく、明確な実年代比定は困難である。

第4期 第1号溝状遺構、第2号溝状遺構、第1～5号土坑墓のかわらけがこの段階である。手づくねかわらけを伴わない時期である。第1号・2号溝状遺構の新旧関係によりa・bの小期に区分した。

第4a期は第1号溝状遺構と第5号土坑墓に良好な資料がある。この段階から大中小の3法量が見られる。大形のロクロ成形かわらけ（27・28）は口径12.0～13.0cm・底径8.0～9.0cm・器高は3.5～4.0cm、中形かわらけ（29・30・37）は口径11.0～11.5cm・底径6.0～8.0cm・器高3.0cm前後で、口径・底径の縮小傾向が進み、全体的に小型化する。とくに底径の縮小が進むため前段階に比べて口径と底径の差が開く傾向がある。小形のかわらけ（31・32・35）も同様の傾向で、口径7.0～8.0cm・底径5.0～6.0cm・器高1.5～2.0cmを測る。

第1号溝状遺構の共伴遺物には、コースター型の手づくねかわらけ（88）、楠葉産の瓦器碗（89）、青磁坏（90）、常滑の甕（91）・片口鉢I類（92）がある。

第4b期は第2号溝状遺構と第1号土坑墓が該当する。ロクロ成形かわらけの口径・底径の縮小傾向・小型化傾向がさらに進む段階である。大形のかわらけは良好な資料がなかったため、ここでは不明である。中形かわらけ（36～38）は口径10.5～11.0cm・底径6.5cm前後・器高2.5～3.0cm、小形かわらけ（39・40）は口径7.0～7.5cm・底径5.0cm前後・器高2.0cmを測り、全体に小型化傾向が顕著である。とくに底径の縮小が進み前段階に比べて口径と底径の差がさらに大きくなる傾向が認められる。また、内底面のナデ調整も省略傾向がみられるようになり、前段階まで底部内面全体に施されていたナデ調整が、数回のナデから一方向の1回ナデに変化するようである。

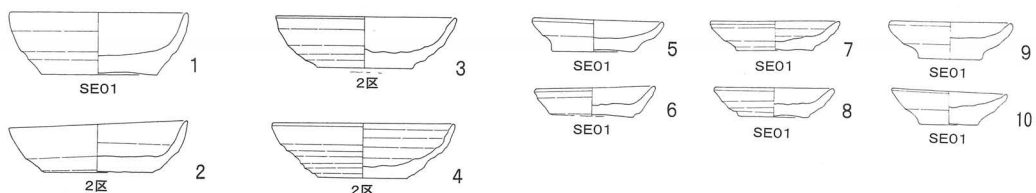
共伴資料は陶磁器がないが、第2号溝状遺構では瓦質風炉が出土している。

第5期 第4号溝状遺構・第16号溝状遺構がこの段階である。当遺跡において、最もかわらけの出土量の多い段階であり、法量や器形のバラエティーが豊富である。具体的には、第Ⅲ章遺物の項に記したように、第4号・16号土坑では、A～Dの4種の器形が認められ、D類を除きそれぞれ大中小の3法量がある。

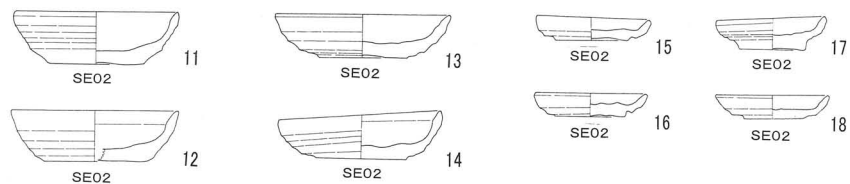
A類は体部が内彎して立ち上がる器形で、大形I類、中形II類、小形III類に分けられる。大形のA-I類（41）は口径12.0cm前後、底径は7.0～8.0cm、器高は3.0cm前後である。中形のA-II類（42）は口径8.0～10.0cm、底径5.0～7.0cm、器高は2.5～3.0cmである。小形のA-III類（43・44）は口径6.0～7.0cm、底径4.0cm前後、器高は2.0cm前後を測る。いずれも見込みのナデと底部外面の板状圧痕が顕著である。

B類は体部が直線的に立ち上がる箱形の器形のもので、A類と同様に大中小のI～III類がある。大形のB-I類（45）は口径12.0～14.0cm、底径は8.0～9.0cm、器高は3.0～4.0cmである。中形のB-II類（46）は口径10.0～11.0cm、底径5.5～7.0cm、器高は2.5cm前後である。大形・中形ともに法量にややばらつきがあり、さらに細分も可能であるが、個体差の範囲とも考えられるので、3法量にとどめた。小形のB-III類はC-III類とともに、出土量が非常に多く、本期の主要なかかわらけである。口径6.5～7.5cm、器高は2.0～2.5cmを測るものであるが、底径の差によりさらに二分することができる。底径が

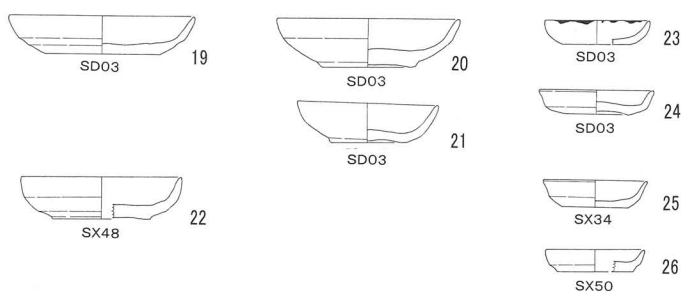
第1期



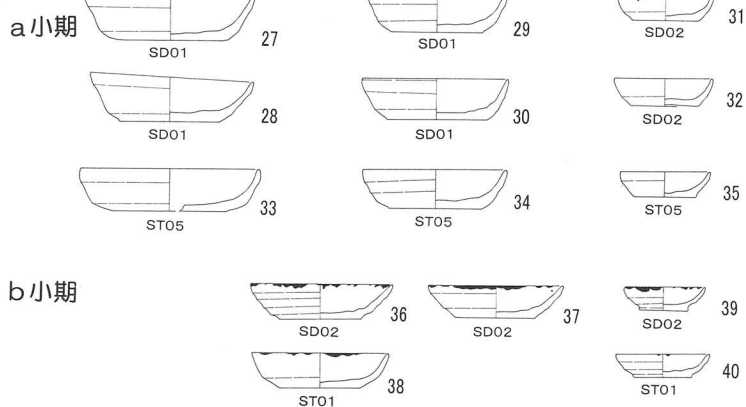
第2期



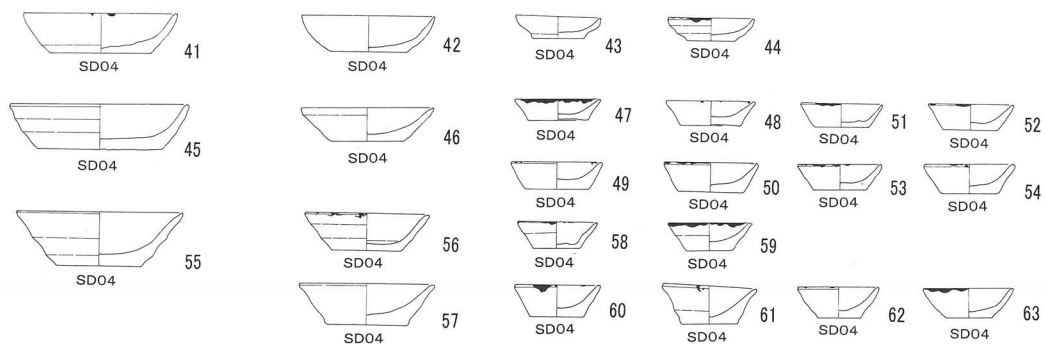
第3期



第4期

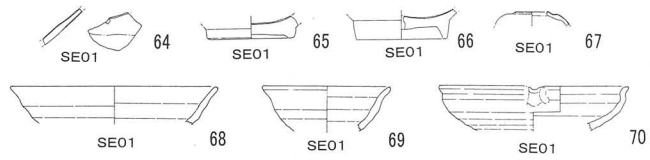


第5期



第141図 かわらけの変遷と共伴遺物(1) (S=1/6)

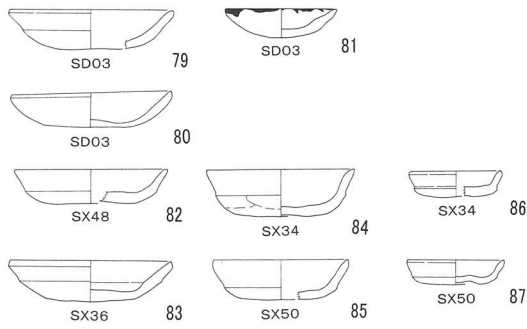
第1期



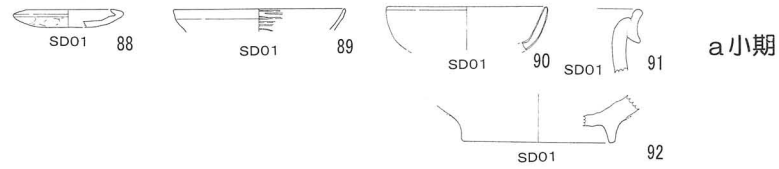
第2期



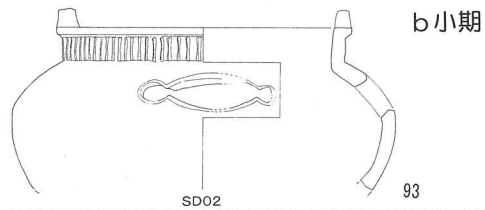
第3期



第4期

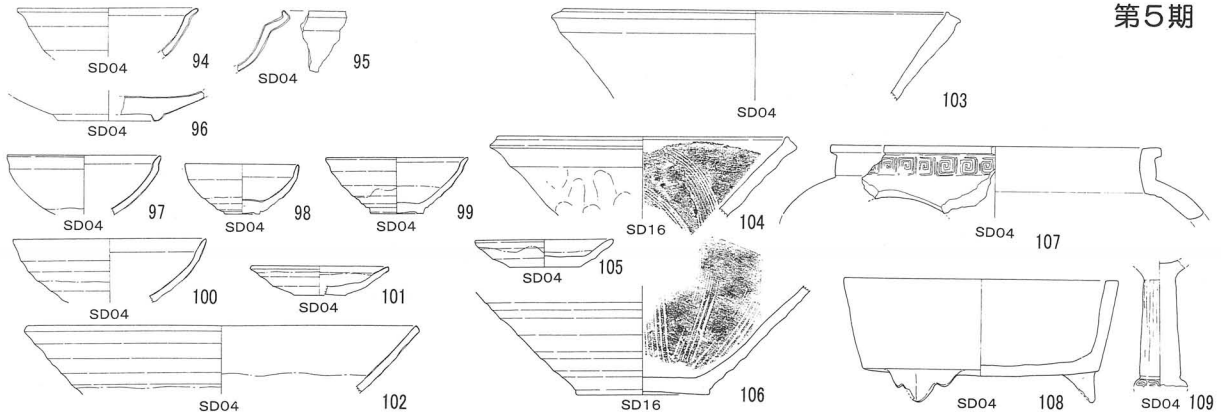


a 小期



b 小期

第5期



第142図 かわらけの変遷と共伴遺物(2) (S=1/6)

4.5～5.0cmを測る箱形のもはa類とし、器厚によりさらに1・2類に分けた。箱形で器厚の薄いⅢa1類は47・48で、器厚の厚手のⅢa2類は49・50である。底径が小さく4.0～4.5cmのやや逆台形を呈すものはb類とし、a類同様器厚により1・2類に分けた。器厚の薄いⅢb1類は51・52で、厚手のⅢb2類は53・54である。a・b類ともに厚手の2類の方が、やや大きくなる傾向がある。また、底部外面の板状圧痕は顕著にみられるが、見込みのナデはあるものとなないものがある。

C類は器高が高く逆台形を呈すものである。やはり大中小の3法量がある。大形のC-I類(55)は口径13.0cm前後、底径は6.5cm前後、器高は4.0cm以上である。中形のC-II類(56・57)は口径10.0～11.0cm、底径5.5～6.0cm、器高は3.2～3.6cmである。小形のC-III類は口径8.0cm以下のものであるが、法量と器厚によりさらに細分した。C-III1類(58・59)は器厚が薄手で、口径6.0～6.8cm、器高は2.0cm前後、底径は4.0cm以下である。C-III2類(60・61)は1類よりもやや大きめで厚手である。口径6.5～8.0cm、器高は2.5cm前後、底径は4.0～4.5cm以下である。底部が厚く全体に粗雑なつくりである。以上のC類は、見込みのナデや底部外面の板状圧痕はほとんど認められない。

D類(62・63)は小形のみ認められた器形で、器高が高く体部が内彎して立ち上がるものである。C類に近く同類に含めてもよいかもしれない。

以上のようにいくつかの器形が一度に出現するのが第5期である。A類・B類は第4期の系統上にあるものであるが、C・D類は新出の器形であり、当地域ではその祖形となるものが認められない。他地域からの影響が考えられるが、現在までのところその系譜は不明である。

第4号・16号溝状遺構とも、3法量のうち、小形かわらけが多いことが特色である。第4号溝状遺構の場合、実測可能個体で大中小の割合は、1：4：16である。また、小形かわらけはほとんどのものに口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用された可能性が考えられる。これに対して、中形かわらけのスス付着の割合は2～3割ほど、大形かわらけはほとんど認められなかった。後述するこの時期の遺跡の性格によるものと考えられるが、器形のバラエティーとも関連し、興味深いかわらけ様相といえよう。

当期に共伴する陶磁器は瀬戸美濃が中心になる。後I～III期が主体で、天目茶碗(97)・小天目茶碗(98)・平碗(100)・縁釉小皿(101)・直縁大皿(102)・柄付片口など器種も豊富である。常滑は甕・片口鉢II類が伴出し、8型式が主体である。貿易陶磁は青磁端反碗(D-1類・94)、青磁盤類(95・96)などが出土している。第16号溝状遺構では、常滑8型式の片口鉢II類の内面に挿り目があり(104)、類例の少ない例として注目される。その他、後IV期に併行する志戸呂の播鉢(106)がある。瓦質製品も多く伴出しており、火鉢(108)・風炉(107)の他、燭台(109)や香炉なども出土している。

各期の実年代について

第1期は手づくねかわらけ出現以前の段階で、共伴する貿易陶磁・東遠江系山茶碗の年代から12世紀代の中葉から後葉に位置づけられる。古代末の土師質土器の系譜をひくものもあるが、11世紀代に盛行する足高高台坏は含まれていないことから、12世紀以降と考えられる。

次の第2期は手づくねかわらけを伴う段階で、白磁碗V類、同安窯系青磁碗・皿や龍泉窯系青磁劃花文碗などが共伴していることから、12世紀末～13世紀初頭と考えられる。第2号井戸の手づくねかわらけは、葦山における出現期の手づくねかわらけよりも若干後出のものと考えられ^(註5)、平泉や鎌倉の手づくねかわらけとの比較によっても、13世紀初頭に位置づけられる可能性が高い。葦山の手づくねかわらけは、口唇部のつくりやナデなどの技法が京都とは異なり、直接的な技術伝播とは考えにくく、京都の影響で成立したことは他地域と同様であるが、京都との直接的な関わりというよりも、鎌倉あるいは平泉を介しての影響と考えた方が妥当であろう。

第3期は共伴する陶磁器類がないため、直接的な比定はできないが、前後の関係から13世紀の前半か

ら中葉に位置づけられる。ロクロ成形かわらけ・手づくね成形かわらけともに前の段階より小型化・粗雑化している。

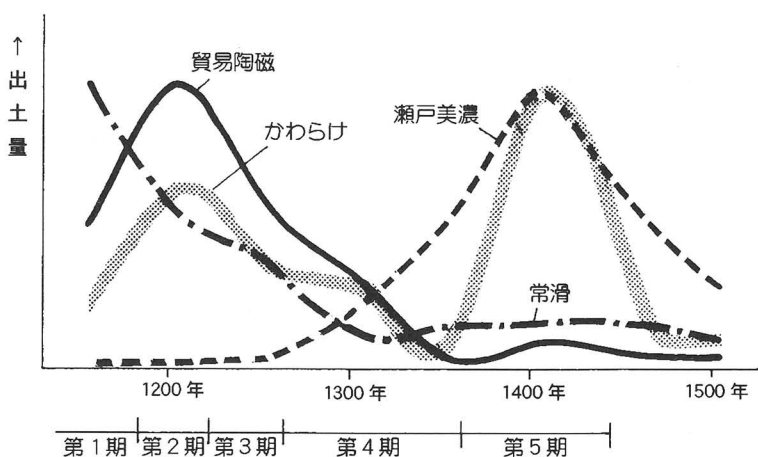
第4期のa小期は第1号溝状遺構から13世紀後半の楠葉産瓦器碗、コースター型のかわらけなどが出土していることから、13世紀後半以降と考えられる。手づくね成形かわらけはなく、ロクロ成形かわらけのみの段階である。b小期は陶磁器を共伴していないため、詳細は不明であるが、瓦質風炉があることから14世紀代に位置づけられよう。かわらけ・陶磁器ともに出土量が少なく、また、年代に幅があることから、今後検討が必要である。

第5期は、第4号・第16号溝状遺構で、瀬戸美濃の後Ⅰ～Ⅲ期が多く共伴しているため、14世紀後葉～15世紀前葉に位置づけられる。一部後Ⅳ古期の遺物もあるため、15世紀中葉まで下がる可能性もある。かわらけ・陶磁器ともに大量の遺物が出土する時期であるが、多様なかわらけが出土しており、陶磁器の年代幅も広いため、さらに時期区分が可能と思われるが、当調査区内の遺構の出土状況では詳細な検討ができなかったため、今後の資料増加を待って再検討を行いたい。

(6) 時期別の出土量について

以上、史跡北条氏邸跡の陶磁器それぞれの器種や時期別の出土状況を概観した。次にこれらを組み合わせて、遺跡全体の様相として考察するため、貿易陶磁・瀬戸美濃・常滑・かわらけの出土量を概念的に表わしたものが第143図のグラフである。かわらけについては、全点を時期別に判別することは不可能なので、実測可能個体について、その時期別の割合を示している。グラフは実数ではなく、全体に占める各時期の割合とその推移を折れ線グラフで表わしている。

貿易陶磁は12世紀末～13世紀前葉にピークがあり、14世紀後半からは激減する。瀬戸美濃は14世紀末～15世紀前半にかけて最も出土量が多く、貿易陶磁と入れ替わるような様相を示している。常滑は12世紀後半にピークがあり、その後は全体に減少傾向するが、全体的に安定的な供給が認められる。かわらけは、12世紀末～13世紀前葉と14世紀末～15世紀前半に2つのピークがあり、あたかも貿易陶磁、瀬戸美濃と呼応しているように見える。



第143図 主要遺物の出土量の推移

2. 遺構の時期的な展開について

前項で検討した遺物の時期区分を元に、遺構の変遷を第144・145図に示した。前述のように、当遺跡では時期別の遺構面がとらえられないため、出土遺物により時期決定の可能なもののみ掲載し、その他時期不明の遺構は省略してある。そのため、当遺跡の検出遺構のすべてを網羅するものではない。また、調査区南部の1区は、第5期の遺構面までの調査にとどまっており、下層の第4期以前の遺構配置は不明である。

第1期の遺構 遺物によって確定できるのは第1号井戸のみである。第14号土坑も破片資料であるが、古代末の土師器の系譜をひくものが出土しているので、この時期に存在したと思われる。遺物量も多くはないため、当遺跡において主体的な遺構の展開する以前の段階と考えられる。第1号井戸廃絶の後、第2・3号掘立柱建物跡がつくられるが、位置関係から1～3号掘立柱建物跡がすべて同時期に建てたとは考えられないので、第1号井戸との位置を考慮すれば、第1号掘立柱建物跡と第1号柱穴列が伴う可能性も考えられる。

第2期の遺構 確実に遺物が出土しているのは第2号井戸のみであるが、前後の遺構の重複関係や周辺の遺物の出土状況から、第1号～4号掘立柱建物跡がこの時期に含まれると思われる。また、主軸方向や柱間寸法がほぼ同じことから、第6号・7号柱穴列もこの時期のものと考えられる。第7号～10号掘立柱建物跡・第5号柱穴も未調査ではあるが、主軸方向から同時期の可能性がある。

調査区北側に塀跡と思われる柱穴列を伴った大型の掘立柱建物跡が並び、その南側には小型の掘立柱建物跡が配置されている。第5～7号柱穴列も同時期であると想定すれば、L字の区画施設の可能性がある。第9・10号掘立柱建物跡は位置関係からその性格の推測はむずかしいが、周辺から大量のかわらけが出土していることから、大型掘立柱建物跡と関連する施設であった可能性が高い。第1号井戸は最も南で検出されている。

第2期は、かわらけ・貿易陶磁・常滑などが大量に出土しており、当遺跡の中心的な時期であったと思われる。

第3期の遺構 第3号溝状遺構、第19・34・35・36・48・49・50・56号土坑が該当する。共伴する陶磁器がないため、詳細な時期の特定はできないが、かわらけの様相からはある程度の時間幅が想定され、すべての遺構が同時期に存在していたものではないだろう。また、周辺から検出された土坑で確実な伴出遺物により時期決定ができなかった土坑のなかにも、同時期のものが含まれている可能性がある。なお、第2期の掘立柱建物跡の主軸方位を考慮すると、第1号→第2→第4号の順序が予想され、第4号が最も新しい可能性がある。土坑群の広がりから、第4号掘立柱建物跡は、残存していた可能性も考えられる。

第4期の遺構 第1号・2号溝状遺構、第1号～5号土坑墓によって構成される。調査区北側に土坑墓が集中していることから、この時期には、少なくとも遺跡北側は居住地から墓域に変わっていたことが想像される。土坑墓南側の土坑集中域でも、第47号・第54号土坑からは銭貨が出土しており、土坑墓の可能性が高い。北側が墓域として機能していたとすれば、第1号溝状遺構は、遺跡の南北の性格を分ける区画溝の役割を果たしていた可能性があり興味深い。

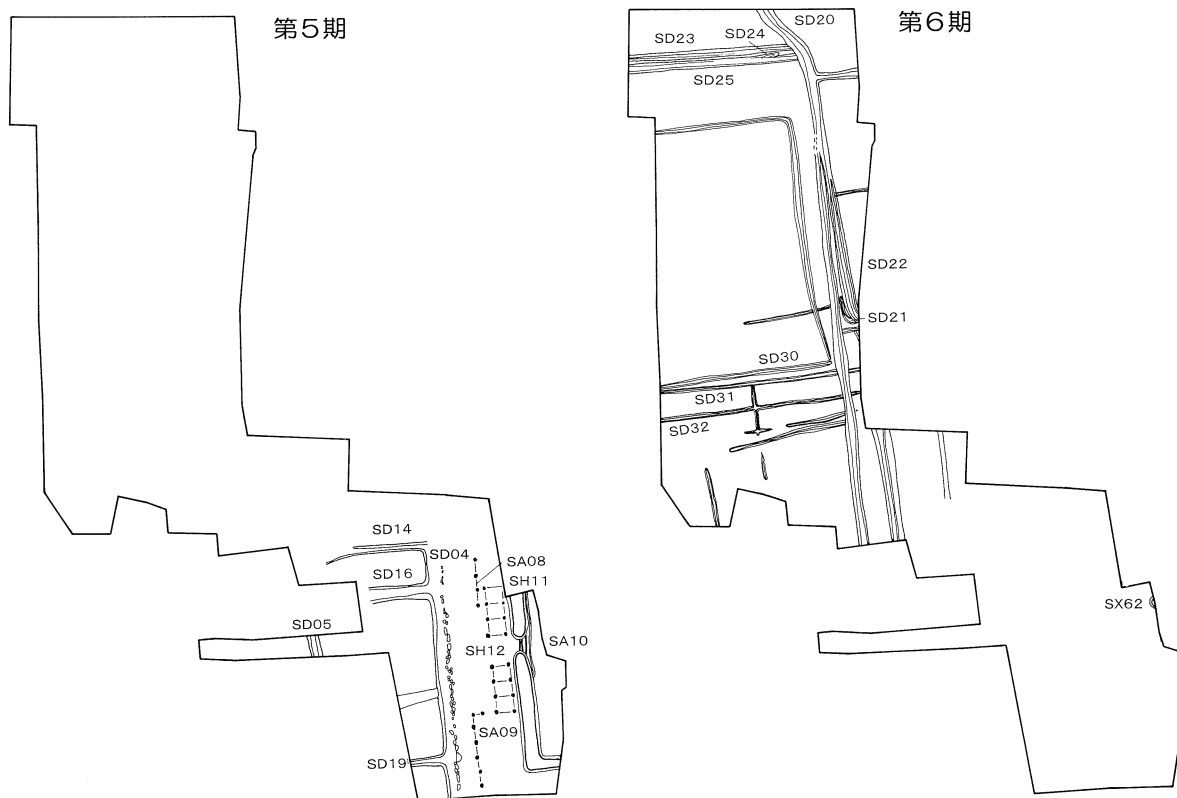
第4期は、第1号・2号溝状遺構の重複から少なくとも2小期以上に分けることができるが、当遺跡においてかわらけ・陶磁器とも最も少ない時期であり、詳細は不明である。

第5期の遺構 調査区南側で遺構が多く展開する時期である。第11号・12号掘立柱建物跡やそれに付随する第8号・9号柱穴列、築地塀の基礎と思われる土塁状の高まり・第10号遺構などがあり、主軸を同じくして第4号・5号・14号・16号・19号溝状遺構が西側に展開する。

第8号・9号掘立柱建物跡と柱穴列については、同時期に類例がなく性格は不明であるが、第10号遺



第144図 主な遺構の変遷(1) (S=1/1,000)



第145図 主な遺構の変遷(2) (S=1/1,000)

構の高まりが、第11号・12号掘立柱建物跡の間で途切れていることからすれば、門のような施設であったことが推測される。同様に、第8号・9号柱穴列も塀のような施設が想像できる。溝状遺構は東西・南北方向に走っており、方形に区画されているようすがみられ、東側の施設に伴う区画溝であったと考えられる。

第6期の遺構 近世以降の溝状遺構によって構成される時期である。第20号溝状遺構～第39号溝状遺構まで20基の溝が想定される。このうち南北に走る第20・21・22号溝状遺構と、東西に走る第23・24・25・30・31・32号溝状遺構、L字に曲がる第27号溝状遺構などによって、方形の区画が構成されている。屋敷の区画溝の可能性が考えられる。ただし、それぞれの詳細な時期や、溝同士の組み合わせなどは不明であり、どのような性格の場であったのは不明である。

平治の乱で敗れた源頼朝は、1160年に伊豆韮山の蛭ヶ小島に流されるが、娘政子との結婚を通じて北条氏が後見的な立場となる。文治元年（1185年）平家を倒し、東国において武家政権が樹立され、頼朝の舅にあたる北条氏は執権・得宗として鎌倉幕府の中核で繁栄することになるが、北条氏の本貫地が韮山であり、その館跡が当遺跡と推定されている。元弘三年（1333年）に、鎌倉幕府が滅び北条氏は滅亡するが、残された子女の一部は本貫地韮山にもどり、北条貞時の妻である円成尼が本貫地に円成寺を建てた。円成尼が亡くなった後の円成寺は一時衰退するが、伊豆国守護山内上杉氏の庇護を受けて繁栄することになる^(註6)。また、長祿二年（1458年）、永享の乱・享徳の乱で乱れた東国を治めるために、新たな関東公方として足利義政の庶兄政知が派遣され、韮山に堀越御所を構えた。これも、明応二年（1493年）、伊勢盛時（通称北条早雲）によって滅ぼされる。以上のように、当遺跡は鎌倉時代の北条

氏の本貫地の館、鎌倉幕府滅亡後の14世紀中頃から15世紀にかけての円成寺、そして、15世紀後半の堀越御所という3つの歴史背景を有している。

以上の歴史背景とみると、先述の出土遺物の消長と関連性がいくつか認められるように思われる。12世紀末～13世紀前半のピークは北条氏の台頭期であり、それに呼応するように、大量の貿易陶磁やかかわらけが出土している。また、願成就院の建立時期と重なっていることから、この地に多くの文物が流入し繁栄していたと想像される。とくに、手づくねかわらけの存在は、京や鎌倉との密接な関係を示唆するものである。その後13世紀後半以降の減少は、北条氏が本格的に本拠を鎌倉に移したためと推測できる。14世紀末～15世紀前半のピークについては円成寺、とくに山内上杉氏の庇護下での繁栄と関連していると考えられる。瀬戸美濃天目茶碗や神仏具の出土量、灯明皿に使用したと思われるススの付着した大量のかかわらけなどは、同時期中世集落とは様相を異にしており、区画された遺構配置とともに、寺院としての特徴を示している。しかし、寺院の主要部分が未確認であるので、円成寺の様相については今後の調査をまって再考したい。また、15世紀後半の遺物が少ないことから、堀越御所については当遺跡の範囲には主要部分が及んでいなかったと思われる。

註

1. 参考文献：横田賢次郎・森田 勉 1978、小野正敏 1982、森田 勉 1982、山本信夫 1988 他
2. 参考文献：原 廣志 1999
3. 参考文献：池谷 1998において中世前期の編年試案を示したが、再検討が必要である。
4. 第1号井戸では、坏形のかかわらけは底部破片のみの出土で完形品がないため、同種の包含層出土遺物を使用している。
5. 出現期の手づくねかわらけと思われるものは、御所之内遺跡第1次調査（文献：葦山町 1985）、願成就院跡、正念寺跡（未報告）で出土している。
6. 円成寺の成立・沿革については、参考文献：湯之上 1996で詳しく論じられている。

参考文献

報告書

- 神奈川県立埋蔵文化財センター 1986『千葉地東遺跡』
- 鎌倉市教育委員会 1991『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』
- 鎌倉市教育委員会 2002『永福寺跡 一遺物編・考察編一』
- 鎌倉市鶴岡八幡宮研修棟城内用地発掘調査団 1983『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書』
- 菊川町教育委員会 1999『横地城跡 総合調査報告書』
- 菊川町教育委員会 2000『横地城跡 総合調査報告書 資料編』
- 国立歴史民俗博物館 1994「日本出土の貿易陶磁 東日本編2」国立歴史民俗博物館資料調査報告5
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1998『元島遺跡Ⅰ（遺構編 本文）』
- 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 1999『元島遺跡Ⅰ（遺物・考察編Ⅰ 中世）』
- 葦山町教育委員会 1985『御所之内遺跡発掘調査報告書 予備調査～第3次調査』
- 葦山町教育委員会 1997『葦山町史跡整備基本構想Ⅰ』
- 葦山町教育委員会 1995『伊豆葦山円成寺遺跡』
- 葦山町教育委員会 1999『史跡北条氏邸跡発掘調査概報一御所之内遺跡第22次調査一』
- 富士宮市教育委員会 2000『元富士大宮司館跡』
- 三島市教育委員会 1990『三嶋大社境内遺跡Ⅰ』
- 三島市教育委員会 1997『三嶋大社境内遺跡第3地点』
- 横小路周辺遺跡発掘調査団 1996『横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点』

論文等

- 浅野晴樹 1991「東国における中世在土器について—主に関東を中心にして—」『国立歴史民俗博物館研究紀要』第31集

- 飯村 均 1998 「東国のかわらけ」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中近世土器研究会
- 池谷初恵 1999 「伊豆国における白色系かわらけについて—胎土分析による京・鎌倉との比較—」『静岡県考古学研究』No.30
- 池谷初恵 1999 「韮山町御所之内遺跡群における貿易陶磁の変遷」『静岡県考古学研究』No.31
- 伊野近富 1987 「かわらけ考」『京都府埋蔵文化財論集』第1集 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 伊野近富 1998 「中世前期の京都系土師器皿の伝播と受容」『中近世土器の基礎研究』XⅢ日本中世土器研究会
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 小野正敏 1985 「出土遺物よりみた15・16世紀における画期の素描」『MUSEUM』No.416
- 小野正敏 2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴—貿易陶磁を中心に—」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 河野真知郎 1986 「鎌倉における中世土器様相」『神奈川考古』第21号 神奈川考古学会
- 河野真知郎 1992 「鎌倉の搬入土器と在地土器」『中近世時の基礎研究』Ⅶ 日本中世土器研究会
- 小森俊寛・上村憲章 1996 「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『京都市埋蔵文化財研究所 研究紀要』第3号 京都市埋蔵文化財研究所
- 齋木秀雄 2002 「12世紀末から13世紀のかわらけ」『かながわの中世 ～鎌倉から小田原へ～ —土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 宗臺秀明 1996 「第六章 遺物の編年と遺跡の性格」『横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点』横小路周辺遺跡発掘調査団
- 宗臺秀明 1998 「中世都市鎌倉の初期かわらけ」『中近世土器の基礎研究』XⅢ 日本中近世土器研究会
- 宗臺秀明 2002 「14世紀のかわらけ」『かながわの中世 ～鎌倉から小田原へ～ —土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 鋤柄俊夫 1988 「畿内における古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎的研究』Ⅳ 日本中世土器研究会
- 鋤柄俊夫 1994 「平安京出土土師器の諸問題」『平安京出土土器の研究』古代学協会
- 田代郁夫 2002 「15世紀のかわらけ」『かながわの中世 ～鎌倉から小田原へ～ —土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」全国シンポジウム『常滑焼をおって』資料集
- 中野晴久 1996 「瓷器系中世陶器の生産」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その流通と生産』資料集
- 服部実喜 1992 「南武蔵・相模における中世の食器様相(1)—中世初頭の様相」『神奈川考古』第28号
- 服部実喜 1994 「南武蔵・相模における中世の食器様相(2)—中世前期の様相」『神奈川考古』第30号
- 服部実喜 1995 「南武蔵・相模における中世の食器様相(3)—中世後期の様相Ⅰ」『神奈川考古』第31号
- 服部実喜 1996 「南武蔵・相模における中世の食器様相(4)—中世後期の様相Ⅱ」『神奈川考古』第32号
- 原 廣志 1999 「横地氏関連遺跡群と周辺遺跡の特徴について」『横地城跡 総合調査報告書』
- 藤澤良祐 1986 「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ』
- 藤澤良祐 1991 「古瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』
- 藤澤良祐 1996 「中世瀬戸の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その流通と生産』資料集
- 藤澤良祐 2000 「遠江出土の瀬戸美濃焼」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 藤澤良祐 2001 「瀬戸・美濃大釜製品の生産と流通—研究の現状と課題」『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品』資料集 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤原良章 1988 「中世の食器考—(かわらけ)ノートー」『列島の文化史』Ⅴ 日本エディタースクール
- 馬淵和雄 2002 「貿易陶磁と国産陶磁」『かながわの中世 ～鎌倉から小田原へ～ —土器様相を中心として』神奈川県考古学会
- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会
- 八重樫忠郎 1995 「3. 出土遺物(1)かわらけ」『志羅山遺跡第35次発掘調査報告書』平泉町教育委員会
- 八重樫忠郎 2001 「中世前期の時間軸としての遺物」『平泉文化研究年報』第1号
- 山本信夫 1988 「北宋期貿易陶磁器の編年—太宰府出土例を中心として」『貿易陶磁研究』No.8 日本貿易陶磁研究会
- 湯之上 隆 1996 「覚海円成と伊豆円成寺—鎌倉禅と女性をめぐる—」『静岡県史研究』第12号
- 横田賢次郎・森田勉 1978 「太宰府出土の輸入陶磁器について—型式分類と編年を中心にして」『九州歴史 資料館研究報告』

遺構・遺物一覽表

第3表 掘立柱建物跡一覧表(1) 単位m ()は残存値

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第1号掘立柱建物跡 SH01		4×2間 底付1.6m 51㎡ 柱間2.1m	N-86° -W	12C末~13C前		
ヒット1 SH01-P1		円形 径0.63 深0.20				
ヒット2 SH01-P2		円形 径0.56 深0.25				
ヒット3 SH01-P3		円形 径0.47 深0.10				
ヒット4 SH01-P4		隅丸方形 0.40×0.30 深0.08				
ヒット5 SH01-P5		円形 径0.47 深0.17				
ヒット6 SH01-P6		隅丸方形? (0.40)×0.39 深0.08				
ヒット7 SH01-P7		隅丸方形 0.42×0.41 深0.10				
ヒット8 SH01-P8		隅丸方形 0.45×0.42 深0.18				
ヒット9 SH01-P9		楕円形? 0.56×(0.40) 深0.13				
ヒット10 SH01-P10		円形 径0.33 深0.04				
ヒット11 SH01-P11		円形 径0.52 深0.17				
ヒット12 SH01-P12		不整楕円形 0.60×0.51 深0.20				
ヒット13 SH01-P13		楕円形 0.38×0.31 深0.07				
ヒット14 SH01-P14		円形 径0.50 深0.21			かわらけ	
ヒット15 SH01-P15		円形 径0.43 深0.28				
ヒット16 SH01-P16		円形 径0.35 深0.20				
ヒット17 SH01-P17		楕円形 0.46×0.41 深0.24				
ヒット18 SH01-P18		楕円形 0.48×0.39 深0.14				
ヒット19 SH01-P19		楕円形 (0.53)×0.42 深0.21			スラグ	
第2号掘立柱建物跡 SH02		3×4間 56㎡ 柱間2.1m	N-87° -W	12C末~13C前		
ヒット1 SH02-P1		不整楕円形 (0.41)×0.33 深0.26				
ヒット2 SH02-P2		楕円形 0.41×0.38 深0.30			かわらけ	
ヒット3 SH02-P3		楕円形 0.47×0.35 深0.30			釘	
ヒット4 SH02-P4		円形 径0.51 深0.20			かわらけ	
ヒット5 SH02-P5		楕円形 0.60×0.39 深0.35			かわらけ	
ヒット6 SH02-P6		円形 径0.43 深0.25				
ヒット7 SH02-P7		楕円形 0.52×0.40 深0.20			釘	
ヒット8 SH02-P8		楕円形 0.48×0.40 深0.15				
ヒット9 SH02-P9		円形 径0.30 深0.17				
ヒット10 SH02-P10		円形 径0.35 深0.30			かわらけ	
ヒット11 SH02-P11		円形? 径0.37 深0.15				
ヒット12 SH02-P12		円形? 径0.40 深0.36			かわらけ	
ヒット13 SH02-P13		不整隅丸方形 0.42×0.35 深0.46			かわらけ	
ヒット14 SH02-P14		楕円形 0.45×0.40 深0.28				
ヒット15 SH02-P15		不整隅丸方形 0.43×0.40 深0.34				
ヒット16 SH02-P16		不整隅丸方形? 0.45×(0.35) 深0.40			かわらけ	
ヒット17 SH02-P17		隅丸方形 0.45×0.45 深0.28			貿易陶磁	
ヒット18 SH02-P18		楕円形 0.44×0.34 深0.43			かわらけ	
ヒット19 SH02-P19		楕円形 0.50×0.40 深0.34				
第3号掘立柱建物跡 SH03		2×3間 28.3㎡ 柱間2.1m	N-87° 30'-W	12C末~13C前		
ヒット1-A SH03-P1A		楕円形 0.50×0.35 深0.36				
ヒット1-B SH03-P1B		隅丸方形? 0.40×(0.30) 深0.28				
ヒット2 SH03-P2		不整形 0.80×0.48 深0.31			かわらけ	
ヒット3 SH03-P3		楕円形 0.55×0.40 深0.26			かわらけ 貿易陶磁	
ヒット4 SH03-P4		楕円形 0.51×0.46 深0.33			かわらけ 常滑 スラグ	
ヒット5 SH03-P5		楕円形 0.49×0.40 深0.24				
ヒット6 SH03-P6		円形 径0.63 深0.40			かわらけ	
ヒット7 SH03-P7		楕円形 0.43×0.37 深0.35				
ヒット8 SH03-P8		隅丸方形 0.50×0.50 深0.48			かわらけ	
ヒット9 SH03-P9		楕円形 0.42×0.39 深0.25			かわらけ	
ヒット10 SH03-P10		楕円形 0.42×0.31 深0.30			かわらけ	
第4号掘立柱建物跡 SH04		4×(2~)間 柱間2.1m	N-89° -W	12C末~13C前		
ヒット1 SH04-P1		不整隅丸方形 0.33×0.30 深0.22			かわらけ	
ヒット2 SH04-P2		不整隅丸方形 0.36×0.35 深0.56			かわらけ 貿易陶磁	
ヒット3 SH04-P3		円形 径0.40 深(0.39)			かわらけ	
ヒット4 SH04-P4		楕円形 0.60×0.43 深0.33			かわらけ	
ヒット5 SH04-P5		楕円形 0.38×0.33 深0.43			かわらけ	
ヒット6 SH04-P6		楕円形 0.58×0.45 深0.38				
ヒット7 SH04-P7		隅丸方形 0.40×0.35 深0.35			かわらけ	
第5号掘立柱建物跡 SH05		2×1間 9.5㎡ 柱間2.1m	N-82° 30'-W	12C末~13C前		
ヒット1 SH05-P1		楕円形 0.45×0.38 深(0.08)			かわらけ	
ヒット2 SH05-P2		隅丸方形 0.36×0.36 深0.11			かわらけ	
ヒット3 SH05-P3		楕円形? 0.40×(0.28) 深0.12			かわらけ	
ヒット4 SH05-P4		隅丸方形 0.34×0.29 深0.26			かわらけ	
ヒット5 SH05-P5		円形 径0.33 深0.27			かわらけ	

第4表 掘立柱建物跡一覧表(2) 単位m ()は残存値

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第6号掘立柱建物跡 SH06		2×1間 8.0m ² 柱間2.1m	N-84° 30'-W	12C末~13C前		
ピット1 SH06-P 1		隅丸方形 0.35×0.27 深0.34				
ピット2 SH06-P 2		楕円形 0.36×0.32 深0.39			かわらけ	
ピット3 SH06-P 3		隅丸方形 0.40×0.32 深0.36			かわらけ 瓦	
ピット4 SH06-P 4	確認のみ	円形? 径0.34				
ピット5 SH06-P 5	確認のみ	楕円形 0.35×0.29				
第7号掘立柱建物跡 SH07	確認のみ	2×2間 16m ² ? 柱間2.0m	N-83° 30'-W	12C末~13C前?		
ピット1 SH07-P 1	確認のみ	円形 径0.35				
ピット2 SH07-P 2	確認のみ	楕円形 0.51×0.40				
ピット3 SH07-P 3	確認のみ	楕円形 0.40×0.34				
ピット4 SH07-P 4	確認のみ	隅丸方形 0.35×0.35				
ピット5 SH07-P 5	確認のみ	円形? 径0.32				
第8号掘立柱建物跡 SH08	確認のみ	2×2間 16m ² ? 柱間2.0m	N-83° 30'-W	12C末~13C前?		
ピット1 SH08-P 1	確認のみ	楕円形 0.50×0.43				
ピット2 SH08-P 2	確認のみ	楕円形 0.40×0.33				
ピット3 SH13-P 3	確認のみ	楕円形 0.35×0.25				
ピット4 SH08-P 4	確認のみ	楕円形 0.26×0.21				
ピット5 SH08-P 5	確認のみ	楕円形 0.35×0.28				
ピット6 SH08-P 6	確認のみ	楕円形? 0.55×(0.40)				
ピット7 SH08-P 7	確認のみ	隅丸方形 0.43×0.43				
第9号掘立柱建物跡 SH09	確認のみ	2×3間 26.8m ² ? 柱間2.1m	N-80° -W	12C末~13C前?		
ピット1 SH09-P 1	確認のみ	円形 径0.35				
ピット2 SH09-P 2	確認のみ	円形? 径0.50				
ピット3 SH09-P 3	確認のみ	隅丸方形 0.64×0.50				
ピット4 SH09-P 4	確認のみ	楕円形 0.39×0.30				
ピット5 SH09-P 5	確認のみ	楕円形 0.30×0.25				
ピット6 SH09-P 6	確認のみ	隅丸方形 0.56×0.43				
ピット7 SH09-P 7	確認のみ	隅丸長方形 0.50×0.35				
ピット8 SH09-P 8	確認のみ	不整形 0.33×0.27				
ピット9 SH09-P 9	確認のみ	隅丸方形 0.30×0.28				
ピット10 SH09-P 10	確認のみ	楕円形 0.45×0.35				
ピット11 SH09-P 11	確認のみ	不整隅丸方形 0.37×0.36				
ピット12 SH09-P 12	確認のみ	楕円形? 0.43×(0.36)				
第10号掘立柱建物跡 SH10	確認のみ	2×1間 9.2m ² ? 柱間2.1m	N-88° -W	12C末~13C前?		
ピット1 SH10-P 1	確認のみ	円形 径0.41				
ピット2 SH10-P 2	確認のみ	円形 径0.35				
ピット3 SH10-P 3	確認のみ	不整形 0.55×0.35				
ピット4 SH10-P 4	確認のみ	円形 径0.33				
ピット5 SH10-P 5	確認のみ	楕円形 0.42×0.30				
第11号掘立柱建物跡 SH11		3×1間 13.2m ² 柱間2.0m	N-15° -E	中世後期		
ピット1 SH11-P 1		楕円形 0.37×0.35 深0.14				
ピット2 SH11-P 2		楕円形 0.33×0.27 深0.21				
ピット3 SH11-P 3		隅丸方形 0.22×0.15 深0.11				
ピット4 SH11-P 4		楕円形 0.46×0.35 深0.12				
ピット5 SH11-P 5		隅丸方形 0.28×0.18 深0.04				
ピット6 SH11-P 6		隅丸方形 0.70×0.60 深0.20			瓦	
ピット7 SH11-P 7		隅丸方形 0.53×0.47 深0.12				
第12号掘立柱建物跡 SH12		3×1間 12.5m ² 柱間2.0m	N-12° -E	中世後期		
ピット1 SH12-P 1		不整形 0.77×0.55 深0.24			かわらけ	
ピット2 SH12-P 2		不整形 0.85×0.52 深0.19			かわらけ	
ピット3 SH12-P 3		不整形 0.47×0.41 深0.12			かわらけ 常滑	
ピット4 SH12-P 4		楕円形 0.37×0.32 深0.26			かわらけ	
ピット5 SH12-P 5		楕円形 0.32×0.28 深0.08				
ピット6 SH12-P 6		円形 径0.44 深0.10				
ピット7 SH12-P 7		隅丸方形 0.38×0.33 深0.11				
ピット8 SH12-P 8		楕円形 0.44×0.34 深0.10				

第5表 柱穴列一覧表(1)

単位m ()は残存値

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第1号柱穴列(堀跡) SA01		長13.2m 6間 柱間2.1m	N-86° -W	12C末~13C前		
ピット1 SA01-P 1		楕円形 0.35×0.25 深0.18			かわらけ	
ピット2 SA01-P 2		円形 径0.35 深0.26				
ピット3 SA01-P 3		隅丸方形 0.33×0.30 深0.18			かわらけ	
ピット4 SA01-P 4		隅丸方形 0.33×0.33 深0.18			かわらけ	
ピット5 SA01-P 5		楕円形 0.40×0.37 深0.30			かわらけ	
ピット6 SA01-P 6		楕円形 0.51×0.38 深0.07				
ピット7 SA01-P 7		楕円形 0.40×0.34 深0.34				

第6表 柱穴列一覧表(2)

単位m ()は残存値

遺構名	調査状況	規模	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考
第2号柱穴列(堀跡) SA02		L字形 南北長12.0m 6間 東西長12.9m 6間 柱間2.0~2.1m	N-87° -W	12C末~13C前		布握伴なう
ピット1 SA02-P 1		円形 径0.40 深0.21			かわらけ	
ピット2 SA02-P 2		不整隅丸方形 0.58×0.50 深0.17			かわらけ	
ピット3 SA02-P 3		不整形 0.42×0.32 深0.32				
ピット4 SA02-P 4		不整形 0.61×0.51 深0.31			かわらけ	
ピット5 SA02-P 5		楕円形 0.62×0.58 深0.34			かわらけ	
ピット6 SA02-P 6		隅丸方形? (0.62)×0.52 深0.46			かわらけ	
ピット7 SA02-P 7		楕円形? (0.39)×(0.25) 深0.34			かわらけ	
ピット8 SA02-P 8		楕円形 0.54×0.36 深0.44			かわらけ	
ピット9 SA02-P 9		不整隅丸方形 0.60×0.60 深0.50			かわらけ	
ピット10 SA02-P 10		不整楕円形 0.75×0.55 深0.37			かわらけ 土師器	
ピット11 SA02-P 11		楕円形 0.60×0.55 深0.51			かわらけ 貿易陶磁 渥美	
ピット12 SA02-P 12		楕円形 0.78×0.73 深0.41			かわらけ	
ピット13 SA02-P 13		楕円形 0.62×0.55 深0.32			かわらけ 貿易陶磁	
溝1 SA02-D 1		長(2.95) 幅(0.34) 深0.32 断面U字形	N-4° -E		かわらけ 東遠江系	
溝2 SA02-D 2		長5.28 幅0.48 深0.20 断面U字形	N-4° 30'-E		かわらけ 瓦	
溝3 SA02-D 3		長(1.40) 幅(0.40) 深0.30 断面U字形	N-86° -E		かわらけ 貿易陶磁 軽石凹石	
溝4 SA02-D 4		長(5.72) 幅0.55 深0.18 断面U字形	N-86° -E		かわらけ 貿易陶磁 常滑凹石	
第3号柱穴列(堀跡) SA03		長6.6m 3間 柱間2.1m	N-3° 30'-E	12C末~13C前		
ピット1 SA03-P 1		楕円形 0.45×0.40 深0.37				
ピット2 SA03-P 2		楕円形? (0.56)×0.45 深0.47			かわらけ	
ピット3 SA03-P 3		楕円形 0.45×0.35 深0.25			かわらけ	
ピット4 SA03-P 4		楕円形 0.45×(0.40) 深0.30			かわらけ	
第4号柱穴列(堀跡) SA04		L字形 南北長15.5m 8間 東西長 (2.8m) (2~)間 柱間1.9~2.1m	N-3° -E	12C末~13C前		
ピット1 SA04-P 1		円形 径0.32 深0.22			かわらけ	
ピット2 SA04-P 2		隅丸方形 0.40×0.35 深0.15			かわらけ	
ピット3 SA04-P 3		円形? 径0.40 深0.57			かわらけ	
ピット4 SA04-P 4		不整隅丸方形 0.35×0.35 深0.36			かわらけ	
ピット5 SA04-P 5		円形 径0.35 深0.34			かわらけ	
ピット6 SA04-P 6		楕円形? (0.40)×0.35 深0.52			かわらけ	
ピット7 SA04-P 7		楕円形 (0.44)×0.37 深0.44			かわらけ	
ピット8 SA04-P 8		円形 径0.41 深0.27			かわらけ	
ピット9 SA04-P 9		円形 径0.32 深0.39			かわらけ	
ピット10 SA04-P 10		楕円形 0.46×0.41 深0.30			かわらけ	
第5号柱穴列(堀跡) SA05	確認のみ	長(14.2)m (7~)間 柱間2.1m	N-85° -W	12C末~13C前		
ピット1 SA05-P 1	確認のみ	隅丸方形 0.19×0.19				
ピット2 SA05-P 2	確認のみ	楕円形? 0.37×(0.19)				
ピット3 SA05-P 3	確認のみ	不明				
ピット4 SA05-P 4	確認のみ	不整楕円形 0.59×0.35				
ピット5 SA05-P 5	確認のみ	不明				
ピット6 SA05-P 6	確認のみ	隅丸方形 0.50×0.38				
ピット7 SA05-P 7	確認のみ	不明				
ピット8 SA05-P 8	確認のみ	円形 径0.34				
第6号柱穴列(堀跡) SA06		長(11.1)m (5~)間 柱間2.1m	N-4° -E	12C末~13C前		
ピット1 SA06-P 1		円形 径0.35 深0.22				
ピット2 SA06-P 2		楕円形? (0.32)×(0.25) 深0.18				
ピット3 SA06-P 3		楕円形 0.22×0.20 深0.10				
ピット4 SA06-P 4		隅丸方形 0.30×0.28 深0.15				
ピット5 SA06-P 5		楕円形 0.30×0.24 深0.27				
ピット6 SA06-P 6		隅丸方形 0.30×0.22 深0.19				
第7号柱穴列(堀跡) SA07		長(11.0) (5~)間 柱間2.1m	N-3° -E	12C末~13C前		
ピット1 SA07-P 1		不整隅丸方形 0.35×0.35 深0.09				
ピット2 SA07-P 2		円形 径0.35 深0.12			かわらけ	
ピット3 SA07-P 3		円形 径0.29 深0.17				
ピット4 SA07-P 4		不整形 0.70×(0.49) 深0.41			かわらけ	
ピット5 SA07-P 5		円形 径0.30 深0.44			かわらけ	
ピット6 SA07-P 6		詳細不明				
第8号柱穴列(堀跡) SA08		長(6.0)m 3間 柱間2.0m	N-14° 30'-E	中世後期		
ピット1 SA08-P 1		円形 径0.20 深0.07				
ピット2 SA08-P 2		不整楕円形 0.42×0.30 深0.20				
ピット3 SA08-P 3		円形 径0.25 深0.18				
ピット4 SA08-P 4		楕円形 0.27×0.23 深0.11				
第9号柱穴列(堀跡) SA09		長(9.6)m 3間 柱間1.8~2.0m	N-10° -E	中世後期		
ピット1 SA09-P 1		楕円形 0.50×0.41 深0.11			かわらけ	
ピット2 SA09-P 2		円形 径0.49 深0.21			かわらけ	
ピット3 SA13-P 3		円形 径0.52 深0.15			かわらけ	
ピット4 SA09-P 4		円形 径0.52 深0.20				
ピット5 SA09-P 5		楕円形 0.48×0.40 深0.18			かわらけ	
ピット6 SA09-P 6		円形 径0.26 深0.18			瓦質	
ピット7 SA13-P 7		楕円形 0.45×0.35 深0.15			かわらけ 常滑 金属製品	
第10号遺構 SA10		長(23.5)×(5.0)m 幅2.7m 高(0.4)m	N-10° -E	中世後期	かわらけ 貿易陶磁 常滑 釘	築地塀基礎?

第7表 井戸一覧表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	調査状況	規模		時期	主な出土遺物	備考
			規	深さ			
第1号井戸	SE01 隅丸方形 素掘		上径2.00×1.90 底径0.75×0.69	1.7	12C後半	かわらけ 貿易陶磁 東遠江系 灰釉陶器 土師器	
第2号井戸	SE02 堀形 円形 木枠 木枠 方形	完掘せず	掘方径(4.90) 木枠:1.50×(0.70)	(4.2)	12C末~13C初	かわらけ 貿易陶磁 常滑 東遠江系 瓦 箸 種子 獣骨	
第3号井戸	SE03 楕円形?	未掘	(5.00)×(4.00)	-	不明		
第4号井戸	SE04 円形?	未掘	径(5.00)	-	不明		

第8表 溝状遺構一覧表 単位m ()は残存値

遺構名	規模			断面形	主軸方位	時期	主な出土遺物	備考	
	長さ	幅	深さ						
第1号溝状遺構	SD01	(36.60)	0.60~1.20	0.29~0.45	U字形	屈曲	13C後半	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 東遠江系 磁石 銭貨	
第2号溝状遺構	SD02	(4.60)	0.50	0.10	皿状	N-4° 30'-E	13C末~14C	かわらけ 常滑 瓦質	
第3号溝状遺構	SD03	(16.50)	1.45	0.57	逆台形	L字形に屈曲	13C中葉	かわらけ 貿易陶磁 常滑 軽石凹石	
第4号溝状遺構	SD04	(31.60)	2.00	0.40~0.70	U字形	N-13° -E	14C末~15C前半	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 志戸呂 瓦質 瓦 磁石 銭貨 釘 スラグ	東側に石列
第5号溝状遺構	SD05	(2.30)	1.50	0.28	U字形	N-5° -E	不明	かわらけ 瀬戸美濃 釘	
第6号溝状遺構	SD06	(11.25)	0.50	0.07	皿状	N-76° -W	不明	かわらけ	
第7号溝状遺構	SD07	(1.50)	0.35	0.20	U字形	不明	不明	かわらけ 貿易陶磁 釘	
第8号溝状遺構	SD08	(3.75)	0.20~0.45	0.10	U字形	N-83° -W	不明		
第9号溝状遺構	SD09	(8.50)	0.60	0.20	U字形	N-30° -E	不明	かわらけ	
第10号溝状遺構	SD10	(4.90)	0.40	0.20	U字形	N-9° -E	15C代	かわらけ 貿易陶磁 常滑	
第11号溝状遺構	SD11	(4.25)	0.60~0.90	0.20	皿状	N-7° 30'-W	12C末~13C前	かわらけ 貿易陶磁 常滑	
第12号溝状遺構	SD12	(7.10)	0.70	0.12	皿状	屈曲	不明	かわらけ 常滑 瓦質	
第13号溝状遺構	SD13	(8.30)	(1.65)	0.52	逆台形	不明	不明	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 瓦質	
第14号溝状遺構	SD14	(19.20)	1.10	0.26	逆台形	N-76° -W	中世後期	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 志戸呂 瓦質 瓦 軽石凹石 釘	
第15号溝状遺構	SD15	(1.55)	1.05~1.90	0.56	逆台形	不明	不明	かわらけ 常滑 渥美	
第16号溝状遺構	SD16	(7.60)	1.70~2.10	0.55	U字形	N-77° -W	14C末~15C前半	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 渥美 志戸呂 瓦質 磁石 軽石凹石 刀子 釘	
第17号溝状遺構	SD17	(6.30)	0.60~1.00	0.10	皿状	N-14° 30'-W	不明	かわらけ 瀬戸美濃 常滑 瓦	
第18号溝状遺構	SD18	(4.50)	1.30	0.33	U字形	N-86° -W	不明	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 磁石 銭貨	
第19号溝状遺構	SD19	(4.00)	1.00	0.63	V字形	N-77° 30'-W	中世後期	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 瓦質 瓦 磁石 軽石凹石	
第20号溝状遺構	SD20	(71.70)	1.30~1.80	0.30~0.66	U字形	N-9° -E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 瓦質 瓦 磁石 軽石凹石 釘	
第21号溝状遺構	SD21	(14.10)	0.55	0.33	U字形	N-5° -E	近世以降	近世陶磁器 貿易陶磁	
第22号溝状遺構	SD22	(25.50)	1.40	0.50	U字形	N-4° -E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸美濃 常滑	
第23号溝状遺構	SD23	(20.80)	0.70~1.20	0.37	U字形	N-79° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁	
第24号溝状遺構	SD24	(3.10)	0.30	0.09	皿状	N-79° -W	近世以降		
第25号溝状遺構	SD25	(21.50)	0.60~1.00	0.25~0.34	U字形	N-79° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸美濃 常滑	
第26号溝状遺構	SD26	(5.30)	1.20	0.48	逆台形	N-81° -W	近世以降	近世陶磁器	
第27号溝状遺構	SD27	(48.20)	0.20~1.20	0.09~0.25	U字形	N-6° 30'-E	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 磁石 軽石凹石	
第28号溝状遺構	SD28	(4.30)	0.40	0.13	U字形	N-86° -W	近世以降	かわらけ	
第29号溝状遺構	SD29	(11.40)	0.40	0.05	皿状	N-86° -W	近世以降		
第30号溝状遺構	SD30	(22.10)	0.40	0.10	皿状	N-83° 30'-W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸美濃 常滑 瓦	
第31号溝状遺構	SD31	(25.50)	0.60	0.14	U字形	N-83° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸美濃 常滑	
第32号溝状遺構	SD32	(25.00)	0.50	0.15	U字形	N-84° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瀬戸美濃 釘	
第33号溝状遺構	SD33	(12.80)	0.30	0.07	皿状	N-9° -E	近世以降	かわらけ	
第34号溝状遺構	SD34	(12.70)	0.20~0.50	0.01~0.11	皿状	N-86° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁 常滑	
第35号溝状遺構	SD35	(15.00)	0.40~1.10	0.08~0.18	U字形	N-89° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 瓦質 軽石凹石	
第36号溝状遺構	SD36	(7.90)	0.30~0.60	0.11	U字形	N-4° 30'-E	近世以降	かわらけ 釘	
第37号溝状遺構	SD37	(28.00)	1.60~2.20	0.27	U字形	N-7° -W	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁 常滑	
第38号溝状遺構	SD38	(2.30)	0.60	0.37	U字形	不明	近世以降	近世陶磁器 かわらけ 貿易陶磁 常滑	
第39号溝状遺構	SD39	(9.20)	0.70	-	不明	N-9° -E	近世以降		確認のみ

第9表 土坑墓一覧表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	規模		時期	主な出土遺物	備考
		径	深さ			
第1号土坑墓	ST01 楕円形	2.36×1.86	0.22	14C後半~	かわらけ 釘	
第2号土坑墓	ST02 不整形	2.14×1.60	0.21	14C後半~	かわらけ 釘 漆骨	
第3号土坑墓	ST03 楕円形	3.15×2.40	0.15	14C後半~	かわらけ 瓦 釘 骨	
第4号土坑墓	ST04 不整形	1.90×1.85	0.45	14C後半~	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 釘	
第5号土坑墓	ST05 隅丸長方形?	1.77×(1.71)	0.15	14C後半~	かわらけ 常滑 瓦 軽石凹石 スラグ 釘 炭	

第10表 土坑一覽表

単位m ()は残存値

遺構名	形状	規模		時期	主な出土遺物	備考
		径	深さ			
第1号土坑	SX01	楕円形	1.05×0.80	0.18	不明	
第2号土坑	SX02	不整楕円形	0.87×0.70	0.17	不明	
第3号土坑	SX03	楕円形	1.38×0.80	0.23	不明	かわらけ 常滑
第4号土坑	SX04	円形	径1.33	0.26	不明	かわらけ 貿易陶磁
第5号土坑	SX05	楕円形	1.90×1.15	0.10	不明	かわらけ
第6号土坑	SX06	円形?	径(0.87)	0.09	不明	
第7号土坑	SX07	円形	径0.96	(0.28)	不明	かわらけ
第8号土坑	SX08	不整楕円形	1.73×0.66	0.17	不明	かわらけ
第9号土坑	SX09	不整形	1.35×1.00	0.15	不明	かわらけ
第10号土坑	SX10	楕円形	1.10×0.75	0.08	不明	かわらけ
第11号土坑	SX11	円形	径0.85	0.10	不明	かわらけ 釘
第12号土坑	SX12	楕円形	0.60×0.50	0.14	不明	かわらけ
第13号土坑	SX13	円形	径0.75	0.20	不明	かわらけ
第14号土坑	SX14	不整形	1.05×0.90	0.20	古代末	土師器 かわらけ
第15号土坑	SX15	隅丸方形	0.77×0.65	0.21	不明	
第16号土坑	SX16	不整形	1.07×0.72	0.05	不明	かわらけ
第17号土坑	SX17	不整隅丸方形	1.05×0.80	0.40	不明	
第18号土坑	SX18	楕円形	0.88×0.72	0.10	不明	かわらけ
第19号土坑	SX19	円形	径1.45	0.32	13C	かわらけ
第20号土坑	SX20	不整形	1.45×1.23	0.18	不明	かわらけ
第21号土坑	SX21	円形	径0.70	0.07	不明	
第22号土坑	SX22	楕円形	(0.97)×0.77	0.60	不明	かわらけ 貿易陶磁
第23号土坑	SX23	不整形	1.65×(1.38)	0.20	不明	
第24号土坑	SX24	円形	径1.05	0.55	不明	かわらけ
第25号土坑	SX25	円形	径1.00	0.10	不明	かわらけ
第26号土坑	SX26	楕円形?	(0.80)×0.75	0.08	不明	かわらけ
第27号土坑	SX27	円形	径0.90	0.10	不明	かわらけ 渥美
第28号土坑	SX28	長楕円形	1.65×0.45	0.21	不明	かわらけ 釘
第29号土坑	SX29	不整隅丸方形	0.68×0.56	0.40	不明	かわらけ 常滑
第30号土坑	SX30	円形	径0.89	0.10	不明	
第31号土坑	SX31	円形?	径(0.65)	0.07	不明	
第32号土坑	SX32	円形?	径0.63	0.08	不明	
第33号土坑	SX33	円形	径0.85	0.12	不明	かわらけ
第34号土坑	SX34	円形?	径0.85	0.10	13C	かわらけ
第35号土坑	SX35	楕円形	1.58×1.16	0.14	不明	かわらけ 貿易陶磁 常滑 整石凹石
第36号土坑	SX36	円形	径1.05	0.15	不明	かわらけ 貿易陶磁 常滑 釘
第37号土坑	SX37	円形	径0.65	0.25	13C	かわらけ
第38号土坑	SX38	円形	径1.35	0.30	不明	かわらけ 貿易陶磁 常滑 滑石 釘
第39号土坑	SX39	楕円形	1.43×0.70	0.18	13C	かわらけ 貿易陶磁 釘
第40号土坑	SX40	円形	径0.86	0.10	不明	かわらけ
第41号土坑	SX41	円形	径0.82	0.14	不明	かわらけ
第42号土坑	SX42	楕円形	0.73×0.48	0.13	不明	
第43号土坑	SX43	円形	径1.05	0.10	不明	かわらけ
第44号土坑	SX44	不整円形	径1.07	0.23	不明	かわらけ
第45号土坑	SX45	隅丸長方形	1.53×0.82	0.12	不明	かわらけ
第46号土坑	SX46	円形	径0.90	0.13	不明	かわらけ
第47号土坑	SX47	楕円形	0.66×0.55	0.30	中世後期	かわらけ 銭貨
第48号土坑	SX48	円形	径1.15	0.33	不明	かわらけ 渥美
第49号土坑	SX49	楕円形	0.80×0.65	0.10	不明	かわらけ
第50号土坑	SX50	不整形	1.08×0.75	0.65	13C	かわらけ
第51号土坑	SX51	不整隅丸方形	0.87×0.60	0.48	不明	貿易陶磁
第52号土坑	SX52	楕円形?	(0.75)×0.70	0.18	不明	かわらけ
第53号土坑	SX53	円形	径1.13	0.23	不明	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 釘
第54号土坑	SX54	隅丸方形?	(0.83)×0.70	0.10	不明	かわらけ 銭貨 釘
第55号土坑	SX55	円形	径0.80	0.06	不明	
第56号土坑	SX56	不整形	0.78×(0.58)	0.08	不明	かわらけ
第57号土坑	SX57	楕円形?	(0.88)×(0.54)	0.06	不明	かわらけ
第58号土坑	SX58	楕円形?	(1.12)×0.94	0.14	不明	かわらけ
第59号土坑	SX59	円形	径1.25	0.14	不明	かわらけ 貿易陶磁 瓦質 砥石 釘
第60号土坑	SX60	不整形	1.00×0.95	0.03	不明	かわらけ 貿易陶磁
第61号土坑	SX61	不整形	(1.05)×1.00	0.09	不明	かわらけ 貿易陶磁
第62号土坑	SX62	楕円形?	(1.82)×(0.48)	0.25	近世?	火葬土坑

第11表 集石遺構一覧表

遺構名	分布範囲	時期	主な出土遺物	備考
第1号集石遺構	GS01 南北(9.60)m 東西(3.75)m	中世後期?	かわらけ 瓦 軽石凹石	
第2号集石遺構	GS02 南北 2.05m 東西 5.74m	中世後期?	かわらけ 貿易陶磁 瀬戸美濃 常滑 東遠江系 瓦	
第3号集石遺構	GS03 南北(7.10)m 東西(1.70)m	不明		
第4号集石遺構	GS04 南北(0.70)m 東西(0.87)m	不明		
第5号集石遺構	GS05 南北(2.80)m 東西(7.00)m	不明	常滑	
第6号集石遺構	GS06 南北 4.45m 東西 4.40m	中世後期?	かわらけ 瀬戸美濃 常滑 瓦	
第7号集石遺構	GS07 南北(6.15)m 東西(1.10)m	不明		
第8号集石遺構	GS08 南北 1.95m 東西 1.50m	不明	瓦 軽石凹石	
第9号集石遺構	GS09 南北 4.90m 東西 1.72m	不明	かわらけ 瓦	
第10号集石遺構	GS10 南北 7.80m 東西 4.63m	中世後期?	かわらけ 瀬戸美濃 常滑 瓦質 瓦	
第11号集石遺構	GS11 南北(3.08)m 東西 1.35m	不明	瓦	
第12号集石遺構	GS12 南北 2.53m 東西 1.10m	不明	かわらけ 瓦	
第13号集石遺構	GS13 南北 0.70m 東西 0.97m	不明		
第14号集石遺構	GS14 南北 1.72m 東西 2.08m	不明	瓦	
第15号集石遺構	GS15 南北 1.18m 東西 1.75m	不明		
第16号集石遺構	GS16 南北(4.48)m 東西 7.20m	中世後期?	かわらけ 瀬戸美濃 常滑 渥美 瓦	
第17号集石遺構	GS17 南北 0.92m 東西 2.56m	不明	かわらけ	
第18号集石遺構	GS18 南北(3.70)m 東西 0.38m	不明		
第19号集石遺構	GS19 南北(1.05)m 東西 0.58m	不明		

第12表 中世遺物組成表

種別	破片数	接合後	割合
土器類	57681	56187	91.60%
山茶碗類	92	91	0.15%
土師質土器類	57589	56096	91.45%
陶磁器	3597	3416	5.71%
常滑	1434	1380	2.28%
渥美・湖西	236	230	0.37%
瀬戸美濃	796	701	1.26%
貿易陶磁	1102	1076	1.75%
志戸呂	21	21	0.03%
初山窯	2	2	0.00%
その他・不明	6	6	0.01%
瓦質	423	380	0.67%
火鉢	100	90	0.16%
風炉	32	23	0.05%
香炉	18	18	0.03%
燭台	14	14	0.02%
茶釜(双耳壺)	5	5	0.01%
瓦器碗	3	2	0.00%
その他	73	52	0.12%
不明	178	176	0.28%
瓦	661	619	1.05%
丸瓦	113	103	0.18%
平瓦	519	487	0.82%
不明	29	29	0.05%
石製品	173	163	0.27%
磁石	46	46	0.07%
硯	1	1	0.00%
滑石鍋	4	4	0.01%
軽石加工品	47	47	0.07%
軽石片	40	40	0.06%
その他	35	25	0.06%
金属製品	437	437	0.69%
銭貨	26	26	0.04%
刀子	1	1	0.00%
釘	252	252	0.40%
スラグ	28	28	0.04%
羽口	6	6	0.01%
その他	124	124	0.20%
合計	62972	61202	100.00%

カベ土 93 93

第13表 中世以外の遺物組成表

種別	破片数	接合後
古代以前	20117	19579
土師器	18457	17939
須恵器	1417	1401
灰釉陶器	194	190
瓦	15	15
石製品	34	34
近世陶磁器	1746	1733
合計	21863	21312

第14表 中世土器・陶磁器組成表

種別	破片数	接合後	割合
山茶碗類	92	91	0.15%
山茶碗	40	39	0.07%
小皿	33	33	0.05%
小碗	2	2	
片口鉢	17	17	0.03%
土師質土器類	57589	56096	93.98%
かわらけ	57577	56084	93.96%
鍋類	12	12	0.02%
その他			
常滑	1434	1380	2.34%
壺	18	18	0.03%
鉢	1134	1100	1.85%
鉢	266	246	0.43%
その他	1	1	0.00%
不明	15	15	0.02%
渥美・湖西	236	230	0.39%
壺	1	1	0.00%
鉢	205	199	0.33%
鉢	13	13	0.02%
不明	17	17	0.03%
瀬戸美濃	796	701	1.30%
天目茶碗	146	125	0.24%
碗類	147	126	0.24%
皿類	114	98	0.19%
卸皿類	24	21	0.04%
盤類	142	137	0.23%
播鉢	105	92	0.17%
壺・瓶類	5	5	0.01%
神仏具類	26	21	0.04%
鉢類	23	18	0.04%
小壺・小瓶	5	5	0.01%
その他	15	9	0.02%
不明	44	44	0.07%
貿易陶磁器	1102	1076	1.80%
青磁	712	697	1.16%
碗類	565	559	0.92%
皿類	63	59	0.10%
盤類	35	30	0.06%
壺類			
その他	5	5	0.01%
不明	44	44	0.07%
白磁	261	257	0.43%
碗類	119	118	0.19%
皿類	70	67	0.11%
盆類	2	2	0.00%
壺類	17	17	0.03%
その他	4	4	0.01%
不明	49	49	0.08%
青白磁	53	51	0.09%
碗類	1	1	0.00%
皿類	20	19	0.03%
壺類	10	10	0.02%
その他	13	12	0.02%
不明	9	9	0.01%
染付	4	4	0.01%
碗類			
皿類	4	4	0.01%
その他			
その他	72	67	0.12%
褐釉	25	20	0.04%
泉州系	47	47	0.08%
黒釉			
志戸呂	21	21	0.03%
天目茶碗			
碗類			
皿類	3	3	0.00%
播鉢	17	17	0.03%
鉢類			
壺・瓶類			
仏具類			
不明	1	1	0.00%
初山	2	2	0.00%
天目茶碗	1	1	0.00%
碗類			
皿類	1	1	0.00%
播鉢			
壺・瓶類			
仏具類			
その他	6	6	0.01%
産地不明播鉢			
産地不明	6	6	0.01%
合計	61278	59603	100.00%

第15表 貿易陶磁分類別一覽表

分類				破片数	接合後 破片数	分類				破片数	接合後 破片数									
種別	器種	窯	型式			種別	器種	窯	型式											
白磁	碗類 261 (257)	119 (118)	II類	9	9	青磁	碗類	同安窯系	B類 (森田I-1)	109	109									
			IV類	16	16				龍泉窯系	A類 I-2	130	130								
			IV・V類	14	14					I-3	5	5								
			V類	14	14					I-4	17	17								
			IV・V・Ⅷ類	13	13					I-2~4	3	3								
			V・Ⅷ類	31	30					I-6	2	2								
			Ⅷ類	1	1					B類(蓮弁文) B-1(1-5)	137	131								
			IX類	3	3					B-3(B)	4	4								
			12~13C不明	12	12					C類 C-1(雷文)	1	1								
			明代	1	1					D類 D-1(古)	24	24								
			不明	4	4					D-2(新)	3	3								
			小碗(明代)	1	1					無文	8	8								
			皿類 70 (67)	II・III類	6					6	6	皿類	同安窯系	龍泉窯系	描文(I類)	32	32			
															IV類	5	5	劃花文(I類)	6	6
															V・VI類	4	4	蓮弁文折縁皿類	3	3
	Ⅷ類	5					5	無文折縁皿類							5	5				
	IX類	13					13	腰折坏	6						6					
	印花(型押)	2					2	棧花皿	8						4					
	輪花	2					2	不明	3						3					
	巴群	13					11	碗・皿不明	43						43					
C群(端反) C-1	3	2				盤類	35	30												
明代	3	3				その他	5	5												
12~13C不明	7	7	不明	1	1															
不明	7	7	青白磁	碗																
碗・皿	10	10										53	皿	20	19					
不明	39	39										(51)	碗・皿	3	3					
腰折坏	3	3											梅瓶	10	10					
面取釜	2	2											合子	7	6					
四耳壺	9	9											合子・香炉	2	2					
壺	3	3											袋物	4	4					
壺・水注	3	3											不明	6	6					
小壺	2	2											染付	皿	B-1群	不明	2	2		
合子	1	1										(4)								
不明	0	0		その他	72 (67)	楊釉	泉州系	泉州系	壺	18	18									
合計												1102	1076							

第16表 常滑・渥美・湖西 器種・時期別一覽表

産地名	器種名	常滑型式												合計	接合後 個体数			
		1	2	3	4	5	6a	6b	7	8	9	10	11			12	不明	
常滑	甕	68	49	2	1	3	3	1	2	1	6	2				1134	1100	
		51		3		4			85		70		3					
			508		12					6		13						
			4						2			17						
			27								11							
							168											
							4			1								
								7										
			片口鉢I	13		2	15	35									128	123
				22			6											
				5			30											
			片口鉢II				1	5	8	24	27	20	26				138	123
						5					21							
	三筋壺	2	4			1									7	7		
	三筋壺・玉縁壺	1			1										1	1		
	広口壺	1													8	8		
		7																
	鷹口壺				1										1	1		
	壺											1			1	1		
	片口碗				1										1	1		
	不明													15	15	15		
合計															1434	1380		
産地名	器種名	渥美・湖西年代						合計	合計									
		12世紀中	12世紀後半	12世紀代	13世紀初頭	13世紀前半	不明											
渥美	甕	5	83	1	2		114	205	199									
	鉢		6					6	6									
	甕・鉢		9					9	9									
	壺			1				1	1									
	片口鉢						7	7	7									
	不明						3	3	3									
渥美・湖西	片口鉢			3				3	3									
	広口壺			1			1	2	2									
合計								236	230									

第17表 瀬戸美濃 器種・時期別一覧表

器種名1	器種名2	古瀬戸前期				古瀬戸中期					古瀬戸後期					古瀬戸計	古瀬戸～大窯	大窯					大窯計	合計	接合後個体数								
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	中期	I	II	III	IV	古			新	後期	1	2	3				4	大窯						
天目	天目茶碗							5			8	15	15	3	5	20	87						1			1	1	88	79				
	灰軸天目										14	2	3				5											5	5				
	小天目茶碗										7	11	4				53											53	41				
碗類	灰軸平底末広碗							3									3											3	3				
	灰軸平碗					2					9	25	13	21	7	3	135											135	117				
						3						35	15																				
	灰軸淺碗							2					3				3											3	3				
	鐵軸淺碗												5				5											5	2				
皿類	鐵軸碗																					1					1	1	1				
	灰軸底卸目皿							1									1											1	1				
	灰軸折縁小皿					1		2					2				5											5	5				
	灰軸折縁中皿											2		1	1		4											4	4				
	灰軸縁軸小皿											3	14	11	13	4	58											58	51				
												1		4																			
														8																			
	鐵軸縁軸小皿													12	2		14											14	14				
	縁軸小皿(軸?)														1		1											1	1				
	灰軸腰折皿															2	2											2	2				
	鐵軸八稜皿													2			2											2	1				
	灰軸端反皿																					1						1	1				
	灰軸丸皿																						16				16	16	9				
	鐵軸丸皿																						2				2	2	2				
	灰軸端反or丸皿																					2					2	2	2				
	灰軸はさみ皿																					2					2	2	2				
	鐵軸棧皿																						2				2	2	2				
志野鐵軸皿																							2			2	2	1					
盤類	灰軸折縁深皿						1	5			6	2	1			24											24	23					
							8				1																						
	灰軸直縁大皿										3	5	8	5		21											21	19					
	灰軸卸目付大皿										2	1	3			9											9	9					
	灰軸盤類						1				1		2			88											88	86					
卸皿	灰軸卸皿						3	2			2	4	8	3	1	24											24	21					
											1																						
搦鉢	搦鉢															8	17								51	41	6	2	2	3	13	105	92
壺・瓶類	灰軸四・三耳壺																										3	3					
	灰軸四耳壺						1									1											1	1					
神仏具	灰軸水注						1									1											1	1					
	灰軸花瓶							5			5		2			12											12	11					
	鐵軸尊式花瓶												1			1											1	1					
	灰軸袴腰香炉										1					1											1	1					
	灰軸筒形香炉										1	1				4											4	4					
														2		2																	
鉢類	鐵軸香炉						4									4											4	1					
	灰軸筒形容器											3				4											4	3					
	灰軸小鉢												2			3											3	2					
													1																				
	灰軸輪花小鉢										2					2											2	2					
	灰軸碗形鉢										9					9											9	6					
	灰軸搦鉢形小鉢													1		1											1	1					
	鐵軸鉢												1			1											1	1					
小壺・小瓶類	灰軸柄付片口										3	4				7											7	6					
	鐵軸大海茶入							1								1											1	1					
	灰軸小瓶															4											4	4					
	入子															2											2	1					
	鐵軸小杯										1		1			2											2	2					
	鐵軸德利																					2	7			7	9	4					
	灰軸燭台										1					1											1	1					
	灰軸行平															1											1	1					
	灰軸不明											9				40											40	40					
	不明											1				3											4	4					
合計															704	43									49	796	701						

第18表 山茶碗 産地別一覧表

産地	器種	破片数	接合後
瀬戸	山茶碗	3	3
	片口鉢	6	6
美濃	山茶碗	3	3
	小碗	6	6
常滑	小碗	1	1
	小碗	1	1
渥美	山茶碗	4	4
	小皿	1	1
渥美・湖西	山茶碗	2	2
	山茶碗	22	21
東遠江系	小皿	32	32
	片口鉢	11	11
合計		92	91

第19表 掘立柱建物跡・堀跡 出土遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						全長(6.9)	巾(7.8)	高(5.9)			
1	SH06-P3	瓦		丸	凸 縄目 凹 布目	全長(6.9)	巾(7.8)	高(5.9)	厚2.2	長石 砂粒 暗灰色 焼成やや軟	破片
2	SA02	石製品		軽石加工品		長(7.3)	幅(13.2)	厚5.6			1/2
3	SA02	石製品		軽石加工品		長15.3	幅13.6	厚5.8			ほぼ完形

第20表 井戸 出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1	SE01	貿易陶磁		白磁 碗	Ⅱ類?	—	—	—	灰白色 釉・緑色 不透明	体部破片	
2	SE01	貿易陶磁		白磁 碗	Ⅳ類	—	—	6.8	白色 釉・灰白色 透明	底部1/5	
3	SE01	貿易陶磁		白磁 碗	Ⅴ類	—	—	7.0	灰白色 釉・灰白色 透明	底部1/4	
4	SE01	貿易陶磁		白磁 小壺?		2.7	—	—	白色 釉・緑味灰白色 透明	口縁部1/2	貫入あり
5	SE01	貿易陶磁		白磁 合子		—	—	—	白色 釉・青味灰白色 透明	破片	
6	SE01	国産陶器	東遠江系	碗	金谷Ⅱ-1	16.2	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	12C後
7	SE01	国産陶器	東遠江系	碗	金谷Ⅱ-1	10.0	—	—	微砂粒 青灰色	口縁部破片	12C後
8	SE01	国産陶器	東遠江系	片口鉢	金谷Ⅱ-1	14.8	—	—	微砂粒 青灰色	1/6	12C後
9	SE01	かわらけ		大 口口	大 口口	14.0	4.9	9.0	砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	
10	SE01	かわらけ		大 口口	大 口口	—	(1.8)	8.0	砂粒多混 淡褐色 良好	底部のみ	
11	SE01	かわらけ		大 口口	大 口口	—	(2.9)	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	底部1/3	
12	SE01	かわらけ		大 口口	大 口口	—	(1.9)	6.8	砂粒混 淡褐色 良好	底部のみ	
13	SE01	かわらけ		大 口口	大 口口	—	(2.6)	5.0	砂粒多混 橙褐色 良好	底部1/4	
14	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	10.0	2.6	6.4	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	
15	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	10.3	2.6	6.5	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
16	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	10.2	2.7	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
17	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.5	2.3	5.6	砂粒多混 淡褐色 良好	1/2	
18	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	2.6	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
19	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.5	2.5	6.6	砂粒多混 淡褐色 良好	2/3	
20	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	10.0	2.0	5.5	砂粒混 淡褐色 良好	体部1/2	
21	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.6	2.1	5.6	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
22	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.8	2.9	5.0	砂粒多・白色粒子混 橙褐色 良好	1/3	
23	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.1	2.8	4.6	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
24	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	9.4	2.8	4.8	砂粒・白色粒子多混 橙褐色 良好	1/3	片口状?
25	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	—	(2.1)	4.3	砂粒多混 橙褐色 良好	底部のみ	
26	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	—	(2.0)	5.0	砂粒多混 淡橙褐色 良好	底部のみ	
27	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	—	(2.4)	5.3	砂粒混 淡褐色 良好	底部のみ	
28	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	—	(2.2)	5.2	砂粒多混 橙褐色 良好	底部のみ	
29	SE01	かわらけ		小 口口	小 口口	—	(1.8)	4.1	砂粒混 橙褐色 良好	底部のみ	
30	SE01	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.4	2.9	丸	微砂粒混 淡～淡橙褐色 良好	体部1/2	
31	SE02	貿易陶磁		白磁 碗	V・Ⅵ類(水平)	—	—	—	灰白色 釉・灰白色 透明	口縁部破片	
32	SE02	貿易陶磁		白磁 碗	Ⅹ類	—	—	—	白色 釉・青味灰白色	口縁部破片	
33	SE02	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(Ⅰ-2類)	—	—	—	淡灰色 釉・薄灰緑色 透明	体部破片	
34	SE02	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(Ⅰ-5類)	—	—	5.4	淡灰色 釉・濃緑色	底部破片	
35	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	13.0	4.1	7.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
36	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	13.0	4.0	7.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
37	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	12.4	3.9	7.6	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
38	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	13.6	4.0	8.0	スコリア・砂粒混 淡～橙褐色 良好	1/4	
39	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	13.8	3.4	7.0	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
40	SE02	かわらけ		大 口口	大 口口	12.9	3.9	7.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	
41	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	1.9	5.7	スコリア・砂粒混 淡～暗褐色 良好	完形	
42	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.4	2.0	5.6	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
43	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.8	2.0	5.4	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
44	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.1	1.9	5.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	
45	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.9	1.8	5.5	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
46	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.4	2.2	5.8	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
47	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.9	2.4	5.5	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
48	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.6	2.1	5.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
49	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.6	2.2	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
50	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	2.1	5.4	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
51	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	1.8	5.2	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
52	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	1.9	5.8	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
53	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.5	2.3	5.5	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
54	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.6	1.9	5.3	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/5	
55	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.0	2.0	6.4	スコリア・砂粒混 黒褐色 良好	1/4	
56	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.7	2.7	5.2	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	完形	
57	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.6	2.2	6.0	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	完形	内面スス付着
58	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.9	1.9	4.5	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
59	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.5	2.1	5.9	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
60	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.6	2.0	5.6	スコリア多・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
61	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.0	2.2	4.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
62	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	9.4	1.6	6.1	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
63	SE02	かわらけ		小 口口	小 口口	8.0	1.8	5.9	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
64	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.0	2.7	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
65	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.6	2.5	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
66	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.8	2.5	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
67	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.0	3.0	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
68	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.2	2.7	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
69	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	15.2	2.5	丸	砂粒混 淡～橙褐色 良好	1/2	
70	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.4	3.3	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
71	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.4	2.8	丸	砂粒混 内・黒褐色 外・淡褐色 良好	1/4	底部スノコ状圧痕
72	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.0	2.6	丸	微砂粒混 暗褐色 良好	破片	
73	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.0	2.8	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
74	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	14.2	(2.8)	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
75	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.6	(2.5)	丸	スコリア・砂粒混 暗褐色 良好	破片	
76	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.2	2.7	丸	砂粒混 橙褐色 良好	破片	内口縁スス付着
77	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.2	2.8	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
78	SE02	かわらけ		大 手づくね	大 手づくね	13.4	2.7	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	

第21表 井戸 出土遺物一覧表(2)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
79	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.6	2.7	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/5	
80	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.6	2.8	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
81	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.2	2.5	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	破片	
82	SE02	かわらけ		大	手づくね	14.4	2.8	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	破片	
83	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.8	2.9	丸	スコリア・微砂粒混 暗褐色 良好	破片(2片)	内底スス付着
84	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.2	2.3	丸	微砂粒混 淡橙褐色 良好	1/5	
85	SE02	かわらけ		大	手づくね	14.0	(2.5)	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	破片	
86	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.2	(2.4)	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	破片	
87	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.0	(2.8)	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	破片	
88	SE02	かわらけ		大	手づくね	12.1	(2.5)	丸	砂粒混 暗褐色 良好	破片	
89	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.2	(2.8)	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	破片	
90	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.6	(3.1)	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	破片	
91	SE02	かわらけ		大	手づくね	14.8	2.8	丸	スコリア・微砂粒混 淡褐色 良好	破片	
92	SE02	かわらけ		大	手づくね	14.2	2.8	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
93	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.8	2.7	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	破片	内底スス付着
94	SE02	かわらけ		大	手づくね	14.4	(2.8)	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/5	
95	SE02	かわらけ		大	手づくね	12.6	2.9	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
96	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.0	(2.7)	丸	スコリア・微砂粒混 内 暗褐色 外 淡	破片	
97	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.8	(2.4)	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	破片	
98	SE02	かわらけ		大	手づくね	13.0	(2.8)	丸	砂粒混 暗褐色 良好	破片	
99	SE02	かわらけ		大	手づくね	11.4	2.7	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/6	
100	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	2.0	丸	砂粒混 淡褐色 良好	完形	
101	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.7	1.8	丸	砂粒混 淡褐色 良好	4/5	
102	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.9	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
103	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.5	1.8	丸	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
104	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.9	丸	スコリア・砂粒混 暗褐色 良好	3/4	
105	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.0	2.0	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
106	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.8	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
107	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	1.9	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
108	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.7	丸	砂粒混 黒褐色 良好	1/4	
109	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	1.8	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
110	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	2.0	丸	砂粒混 淡～橙褐色 良好	3/4	
111	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.9	丸	砂粒混 黒褐色 良好	1/2	
112	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	2.3	丸	砂粒混 橙褐色 良好	完形	口縁につなぎ目
113	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.8	丸	微砂粒混 暗褐色 良好	ほぼ完形	口縁外に指頭痕
114	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
115	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	2.0	丸	砂粒混 淡褐色 良好	完形	
116	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	1.9	丸	スコリア・砂粒多混 淡橙褐色 良好	完形	
117	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	2.1	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
118	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	2.1	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
119	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.8	1.8	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
120	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.4	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
121	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	1.9	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
122	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.0	2.1	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
123	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	1.8	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
124	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.0	1.8	丸	砂粒混 暗褐色 良好	1/4	
125	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.0	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
126	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.6	2.1	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
127	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.6	1.8	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
128	SE02	かわらけ		小	手づくね	9.0	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
129	SE02	かわらけ		小	手づくね	10.0	1.8	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
130	SE02	石製品	砥石			長(11.2) 幅9.6 厚6.9				下部欠損	

第22表 溝状遺構 出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
1	SD01	貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿		8.8	—	—	淡灰色 釉 暗緑褐色 透明	口縁部1/8	貫入あり
2	SD01	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	折腰(坏)	12.6	—	—	淡灰色 釉 薄青緑色 透明	1/4	
3	SD01	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 中Ⅱ Ⅲ期	15.0	—	—	灰白色 釉 薄緑色 外面剥落	1/4底部欠損	
4	SD01	国産陶器	常滑	薬	6b型式	—	—	—	砂粒 橙～茶褐色	口縁部破片	
5	SD01	国産陶器	常滑	薬	10型式	—	—	—	長石 砂粒多 暗灰色	口縁部破片	
6	SD01	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅰ	5～6a型式	—	—	12.0	長石 砂粒多 灰褐色	底部1/6	
7	SD01	国産陶器	東遠江系	碗	皿山Ⅰ-1	—	—	8.5	微砂粒 青灰色	底部破片	12C前
8	SD01	国産陶器	東遠江系	片口鉢	金谷Ⅰ-1	15.0	—	—	微砂粒 淡灰色	口縁部破片	12C前
9	SD01	国産陶器	東遠江系	片口鉢	金谷Ⅱ-1	14.9	—	—	微砂粒 青灰色	口縁部破片	12C後
10	SD01	かわらけ		大	ロクロ	13.3	3.8	9.0	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
11	SD01	かわらけ		大	ロクロ	12.9	3.5	8.0	スコリア・砂粒多混 濃橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
12	SD01	かわらけ		大	ロクロ	13.2	3.5	9.0	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
13	SD01	かわらけ		大	ロクロ	12.7	3.8	7.8	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	4/5	摩擦着しい
14	SD01	かわらけ		大	ロクロ	12.7	3.7	7.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
15	SD01	かわらけ		大	ロクロ	12.4	2.9	8.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/5	底部板状圧痕
16	SD01	かわらけ		大	ロクロ	—	(2.4)	9.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
17	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.5	3.2	7.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	
18	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.0	7.2	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
19	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.8	3.1	7.0	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
20	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.1	7.4	砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
21	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.7	3.0	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
22	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.2	3.1	7.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
23	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.9	2.9	7.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
24	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.7	3.2	6.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
25	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.5	3.2	7.4	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
26	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.0	2.7	7.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
27	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.1	3.3	8.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕

第23表 溝状遺構 出土遺物一覽表(2)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
28	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.6	2.8	6.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
29	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.9	3.1	7.2	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
30	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.4	2.8	7.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/5	底部板状圧痕
31	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.4	2.9	6.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
32	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.8	2.7	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
33	SD01	かわらけ		大?	ロクロ	12.0	3.2	7.6	砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
34	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.8	2.9	6.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
35	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.6	2.7	5.4	砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
36	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.0	3.4	6.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
37	SD01	かわらけ		中	ロクロ	11.6	2.5	8.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
38	SD01	かわらけ		中	ロクロ	10.0	2.8	6.2	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
39	SD01	かわらけ		大	ロクロ	-	(2.4)	7.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	底部1/4	
40	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.2	1.9	4.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
41	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.2	砂粒多混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
42	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.2	1.9	5.3	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
43	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.7	2.2	5.2	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
44	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.5	2.0	4.8	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
45	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.8	2.2	5.3	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
46	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.7	2.0	5.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
47	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.7	1.8	5.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
48	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.6	1.8	5.4	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
49	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	4.8	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/5	底部板状圧痕
50	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.8	2.2	5.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
51	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.5	1.9	5.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
52	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.2	1.7	6.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
53	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.4	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
54	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.2	4.2	微砂粒混 精製 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
55	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.8	2.0	5.2	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
56	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.4	1.8	5.4	砂粒混 橙褐色 良好	1/5	底部板状圧痕
57	SD01	かわらけ		小	ロクロ	9.2	2.2	5.5	砂粒多混 橙褐色 良好	1/5	
58	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.4	2.0	5.8	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
59	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.0	1.8	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕
60	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.0	2.2	5.8	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
61	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.1	2.0	5.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス付着
62	SD01	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	底部板状圧痕
63	SD01	かわらけ		小	ロクロ	8.2	1.9	6.0	スコリア・砂粒多混 淡褐色 良好	1/3	
64	SD01	かわらけ		小	内折れ	6.6	1.4	丸	微砂粒混 精製 橙褐色 良好	1/6	
65	SD01	瓦器	桶葉	碗		13.6	-	-	緻密 灰色 表面灰黒色	口縁部破片	輪花碗?
66	SD01	石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(6.1)	幅3.6	厚1.0		下端部欠損	砥面(5)面
67	SD01	石製品		軽石加工品		長12.4	幅13.9	厚7.8		完形	表裏加工
68	SD01	銭貨		北宋銭	皇宋通宝					完存	初鑄1038年
69	SD02	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.0	7.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
70	SD02	かわらけ		中	ロクロ	11.4	3.4	6.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
71	SD02	かわらけ		中	ロクロ	11.3	2.8	6.4	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
72	SD02	かわらけ		中	ロクロ	10.6	2.5	6.2	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/6	スス 板状圧痕
73	SD02	かわらけ		中	ロクロ	10.2	2.6	6.3	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
74	SD02	かわらけ		中	ロクロ	11.0	2.6	6.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
75	SD02	かわらけ		中	ロクロ	11.0	2.9	6.5	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
76	SD02	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	3.8	微砂粒混 やや精製 淡橙褐色 良好	完形	スス付着
77	SD02	瓦質製品		風炉		23.0	-	-	微砂粒 橙~灰褐色	口~体部1/2	
78	SD03	貿易陶磁		白磁 皿	Ⅱ・Ⅲ類	9.6	-	-	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
79	SD03	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (Ⅰ-2類)	-	-	-	淡灰色 釉 薄緑色	口縁部破片	
80	SD03	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A3類 (Ⅰ-3類)	-	-	-	淡灰色 釉 淡緑灰色 透明	体部破片	
81	SD03	貿易陶磁		陶器 褐釉長胴壺		-	-	10.0	表面 灰色 中暗褐色 緻密	体部下位1/4	
82	SD03	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	10型式	-	-	-	長石 砂粒 赤褐~灰色	口縁部破片	
83	SD03	かわらけ		大	ロクロ	14.4	3.8	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
84	SD03	かわらけ		大	ロクロ	14.6	3.0	9.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
85	SD03	かわらけ		中	ロクロ	11.1	3.2	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
86	SD03	かわらけ		中	ロクロ	10.2	2.7	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
87	SD03	かわらけ		中	ロクロ	9.0	2.9	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	摩滅著しい
88	SD03	かわらけ		中	ロクロ	-	(2.3)	5.4	微砂粒混 淡褐色 良好	底部のみ	
89	SD03	かわらけ		小	ロクロ	8.2	1.9	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着
90	SD03	かわらけ		小	ロクロ	9.0	1.9	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
91	SD03	かわらけ		小	ロクロ	8.0	1.5	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
92	SD03	かわらけ		小	ロクロ	8.2	1.9	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
93	SD03	かわらけ		大	手づくね	13.0	(3.0)	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/5	
94	SD03	かわらけ		大	手づくね	12.6	3.0	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	
95	SD03	かわらけ		小	手づくね	8.8	2.3	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
96	SD03	かわらけ		小	手づくね	9.0	1.9	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
97	SD03	石製品		軽石加工品		長14.1	幅(9.7)	厚8.1		1/2	
98	SD04	貿易陶磁		白磁 碗・皿	Ⅸ類	-	-	-	淡灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
99	SD04	貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗		-	-	-	灰白色 釉 薄緑灰色	口縁部破片	
100	SD04	貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿		-	-	-	灰色 釉 薄緑灰色	口縁部破片	
101	SD04	貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿		-	-	5.4	灰色 釉 淡緑灰色	底部1/2	
102	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (Ⅰ-5類)	-	-	-	淡灰色 釉 オリーブ色	口縁部破片	
103	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	14.0	-	-	淡灰色 釉 暗青緑色	口縁部破片	
104	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	14.8	-	-	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部1/8	
105	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗		10.6	-	-	灰白色 釉 淡青緑色 不透明	体部1/5	輪花小碗
106	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	折腰(坏)	-	-	-	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部破片	
107	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤		-	-	8.0	淡灰色 釉 濃緑色	底部破片	
108	SD04	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤		-	-	-	灰白色 釉 淡青緑色	口縁部破片	無文
109	SD04	貿易陶磁		青白磁 合子類		9.1	1.7	-	白色 釉 青白色 不透明	1/5	
110	SD04	貿易陶磁		陶器 天目茶碗		12.4	5.1	3.6	淡灰褐色 釉 黒褐色	1/4	
111	SD04	貿易陶磁		陶器 天目茶碗		11.8	-	-	灰白色 釉 黒褐色	口縁部1/8	
112	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後Ⅲ期	12.0	-	-	淡灰褐色 釉 明茶褐色	1/5	
113	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後Ⅲ期	12.0	-	-	灰灰褐色 釉 茶~黒褐色	1/6	

第24表 溝状遺構 出土遺物一覽表(3)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
114	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄軸 後Ⅲ期	11.5	—	—	乳白色 釉 茶～黒褐色	1/6	
115	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄軸 後Ⅱ期	9.0	3.9	2.7	灰白色 釉 黒褐色	1/2	
116	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄軸 後Ⅰ・Ⅱ期	9.0	—	—	淡灰褐色 釉 茶～黒褐色	1/2	
117	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄軸 後Ⅰ・Ⅱ期	9.0	—	—	淡褐色 釉 茶色	1/4	
118	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰軸 後Ⅰ期	15.0	—	—	乳白色 釉 淡黄褐色	1/6	
119	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰軸 後Ⅳ古期	15.0	—	—	乳灰褐色 釉 薄緑褐色 光沢	口縁部1/8	
120	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰軸 後Ⅰ期	—	—	6.7	乳白色 釉 薄緑色 光沢	底部1/2	
121	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰軸 後Ⅱ期	10.8	2.3	4.0	淡灰褐色 釉 濃緑褐色	1/3	
122	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰軸 後Ⅱ期	11.1	—	—	淡灰色 釉 濃緑褐色	1/4	
123	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰軸 後Ⅳ古期	10.4	—	—	淡褐色 釉 薄緑色	口縁部1/4	
124	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	折縁中皿	灰軸 後Ⅰ期	10.0	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑色	口縁部破片	
125	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	浅碗	灰軸 後Ⅲ期	11.2	4.4	—	乳白色 釉 黒褐色	1/5	
126	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	直縁大皿	灰軸 後Ⅰ期	24.0	—	—	乳白色 釉 淡黄褐色	口縁部破片	
127	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	直縁大皿	灰軸 後Ⅲ期	31.0	—	—	乳白色 釉 薄緑色	口縁部破片	
128	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	碗形鉢	灰軸 後Ⅰ・Ⅱ期	23.0	—	—	乳白色 釉 薄緑色	口縁部1/5	
129	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	小鉢	灰軸 後Ⅲ期	11.1	—	—	淡灰色 釉 薄緑褐色	口縁部破片	
130	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	小鉢	鉄軸 後Ⅰ・Ⅱ期	5.5	3.3	—	淡褐色 釉 黒～茶褐色	1/5	
131	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	柄付片口	灰軸 後Ⅲ期	—	—	—	淡灰色 釉 深緑色	底部1/3	
132	SD04	国産陶器	瀬戸美濃	柄付片口	灰軸 後Ⅰ・Ⅱ期	15.0	—	—	乳灰褐色 釉 薄緑色	口縁1/8	
133	SD04	国産陶器	常滑	壺	6b型式	—	—	—	長石 砂粒 橙褐～灰色	口縁部破片	
134	SD04	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	8型式	32.0	—	—	長石 砂粒 赤～灰褐色	口縁部破片	
135	SD04	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	8型式	32.0	—	—	長石 砂粒 赤～灰褐色	口縁部1/6	
136	SD04	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	11型式	27.8	—	—	長石 砂粒 赤～灰褐色	口縁部1/6	
137	SD04	国産陶器	常滑	広口壺	2～3型式	—	—	11.0	砂粒 灰色	底部1/5	
138	SD04	国産陶器	志戸呂	緑釉小皿	鉄軸 後Ⅳ古併行	10.8	2.2	5.4	淡褐色 釉 赤茶色	完形	
139	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	12.0	3.1	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
140	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	12.0	2.8	7.0	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	2/5	スス 板状圧痕
141	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	12.4	2.9	7.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
142	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	12.6	3.5	8.5	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	2/5	底部板状圧痕
143	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	12.6	3.6	7.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/5	底部板状圧痕
144	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	13.2	3.3	8.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
145	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	13.3	3.3	8.2	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
146	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	14.0	3.6	9.7	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	3/5	底部板状圧痕
147	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	14.6	3.8	9.4	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
148	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	14.6	3.7	9.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	底部板状圧痕
149	SD04	かわらけ		大 口口	大 口口	13.0	4.2	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
150	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.8	6.0	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
151	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.2	6.0	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
152	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.7	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
153	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.8	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
154	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.8	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
155	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.6	2.8	6.4	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
156	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.0	3.0	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
157	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	8.6	2.3	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
158	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	7.8	2.5	4.8	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	底部板状圧痕
159	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	8.7	2.3	5.2	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
160	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	8.6	2.2	4.8	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
161	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	8.4	2.3	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
162	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	9.9	2.6	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
163	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	9.8	2.8	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
164	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.6	5.4	微砂粒混 明橙褐色 良好	1/2	
165	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.6	2.8	7.0	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
166	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.6	2.6	6.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
167	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.8	2.9	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部摩滅
168	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.6	2.4	7.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
169	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.0	2.5	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着
170	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.2	2.8	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
171	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.0	3.1	7.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
172	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.6	3.2	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁5/6欠	底部板状圧痕
173	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	9.8	2.9	5.4	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	2/5	スス 板状圧痕
174	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	9.8	3.1	5.8	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕
175	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.0	3.1	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	底部板状圧痕
176	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.0	2.1	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
177	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.4	2.4	7.6	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
178	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.5	2.4	8.0	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	口縁3/4欠	底部板状圧痕
179	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.6	3.6	6.1	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	
180	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.6	3.2	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部摩滅
181	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	10.8	3.5	6.1	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/5	
182	SD04	かわらけ		中 口口	中 口口	11.1	3.1	5.5	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス付着
183	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	5.9	1.7	4.0	スリヤ・砂粒混 明橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
184	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	2.0	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
185	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	2.0	4.3	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/6欠	スス付着
186	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	1.5	4.4	砂粒混 淡褐色 良好	3/5	スス付着
187	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	1.7	3.8	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
188	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	1.9	4.0	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
189	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.2	2.1	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
190	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.3	1.7	4.0	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	口縁1/4欠	スス 板状圧痕
191	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.3	1.9	4.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
192	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.3	1.9	4.0	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
193	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.4	1.8	4.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
194	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.5	1.9	4.3	砂粒混 明橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
195	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.6	1.7	4.0	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/3欠	スス 板状圧痕
196	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.6	1.9	3.5	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
197	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.6	2.0	4.4	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
198	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.6	1.9	3.8	微砂粒混 赤褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
199	SD04	かわらけ		小 口口	小 口口	6.7	1.9	4.1	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕

第25表 溝状遺構 出土遺物一覧表(4)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考	
						単位cm ()は残存値						
						口径	器高	底径				
200	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	1.8	3.8	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
201	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.0	4.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/5	スス付着
202	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	1.9	4.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	スス付着
203	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	1.8	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
204	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.0	5.3	スリヤ・砂粒混 淡褐色 良好	口縁1/2欠	スス 板状圧痕
205	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.1	2.0	4.2	砂粒混 暗橙褐色 良好	4/5	板状圧痕
206	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.2	1.4	4.3	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
207	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	1.6	5.0	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
208	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.7	1.5	5.0	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
209	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	1.7	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
210	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.9	1.9	5.5	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
211	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	1.8	5.0	スリヤ・砂粒混 明橙褐色 良好	5/6	
212	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	1.9	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕
213	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	5.0	砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着
214	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.3	1.9	4.2	砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
215	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.4	2.0	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
216	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.7	2.0	4.3	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
217	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
218	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
219	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.5	微砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス付着
220	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.0	4.2	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	3/5	スス 板状圧痕
221	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	1.9	4.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
222	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	1.8	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
223	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.2	4.7	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	スス付着
224	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	1.9	4.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
225	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	1.9	4.8	微砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
226	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	2.3	4.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス付着
227	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.2	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
228	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.2	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁5/6欠	底部板状圧痕
229	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.6	2.3	4.2	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
230	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.5	2.0	4.8	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス付着
231	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.5	2.2	4.5	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス付着
232	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.7	2.3	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
233	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
234	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
235	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.9	2.1	5.2	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
236	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	5.3	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁3/4欠	底部板状圧痕
237	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.3	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
238	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.0	5.1	微砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
239	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.8	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	スス付着
240	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.4	4.7	砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
241	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.3	4.8	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
242	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.3	4.8	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	完形	スス付着
243	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	スス 板状圧痕
244	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.3	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス 板状圧痕
245	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	1.9	5.4	微砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
246	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.0	5.2	スリヤ・砂粒混 淡褐色 良好	完形	底部板状圧痕
247	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.0	5.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
248	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.0	5.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
249	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
250	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.2	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
251	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.1	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
252	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	2.3	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
253	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	2.4	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
254	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.5	2.5	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
255	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	2.1	5.2	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
256	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.3	2.4	5.0	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
257	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.4	2.2	5.1	砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
258	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.5	2.3	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
259	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.5	1.9	5.4	スリヤ・砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
260	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.6	2.3	5.3	砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
261	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.6	2.2	5.3	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
262	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.6	2.4	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
263	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.6	2.4	5.2	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
264	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.7	2.0	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
265	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	2.2	4.2	砂粒混 淡褐色 良好	3/4	スス付着
266	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	2.0	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
267	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.6	2.2	4.5	砂粒やや多 橙褐色 良好	完形	スス付着
268	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.7	2.5	4.5	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
269	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.6	砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
270	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.8	2.1	4.6	スリヤ・微砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
271	SD04	かわらけ			小	ロク口	6.9	2.2	4.2	砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着 表面剥落
272	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス付着
273	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.4	スリヤ・砂粒混 淡橙褐色 良好	完形	スス付着
274	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.7	砂粒多 橙褐色 良好	4/5	スス付着
275	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.1	4.5	砂粒混 橙褐色 良好	完形	
276	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.2	4.6	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
277	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.0	2.3	4.6	砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
278	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.1	2.1	4.3	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	底部板状圧痕
279	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.1	2.3	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
280	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.1	4.6	微砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	スス付着
281	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.4	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	
282	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.2	4.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	スス付着
283	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.5	4.5	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
284	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.3	4.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス付着
285	SD04	かわらけ			小	ロク口	7.2	2.3	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着

第26表 溝状遺構 出土遺物一覽表(5)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
286	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.4	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
287	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.3	4.9	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	
288	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.2	4.5	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
289	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.5	4.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
290	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.8	4.5	砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
291	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
292	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	1.9	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	スス付着
293	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.3	5.1	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
294	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.5	5.0	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	5/6	スス付着
295	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.3	4.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
296	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
297	SD04	かわらけ		小	ロクロ	5.8	2.0	3.7	砂粒混 淡褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
298	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.2	2.1	3.7	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
299	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.1	3.9	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
300	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	3.9	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス 板状圧痕
301	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	3.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
302	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.3	3.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス付着
303	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.5	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
304	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
305	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	4.0	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
306	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.5	2.2	4.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
307	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.2	3.9	砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
308	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.2	4.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
309	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.2	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅
310	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.3	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
311	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.7	2.5	3.8	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
312	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.7	2.2	3.9	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
313	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.7	2.2	3.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
314	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.4	3.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
315	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.3	3.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
316	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.0	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅
317	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.1	4.0	微砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
318	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.5	3.9	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
319	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.0	3.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
320	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.2	3.7	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
321	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.2	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕
322	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.4	4.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	スス付着
323	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.5	4.2	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス付着
324	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.7	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
325	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.9	2.5	4.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
326	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	3.1	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
327	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.5	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
328	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.4	4.3	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
329	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
330	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.1	2.8	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
331	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス付着
332	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
333	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/4欠	スス付着
334	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.9	5.1	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
335	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
336	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
337	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.6	4.7	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	内底摩滅著しい
338	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
339	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.7	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
340	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.7	4.3	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
341	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	3.0	5.3	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/3欠	スス付着
342	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.9	5.5	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
343	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.5	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
344	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.8	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	3/5	スス 板状圧痕
345	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.5	2.7	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着
346	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.5	2.7	4.7	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
347	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.5	3.2	4.4	砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス 板状圧痕
348	SD04	かわらけ		小	ロクロ	8.0	2.6	5.3	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
349	SD04	かわらけ		小	ロクロ	8.1	2.9	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス 板状圧痕
350	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.4	3.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
351	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.6	4.0	砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
352	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.7	3.7	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
353	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.2	3.4	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
354	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.3	3.2	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
355	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.6	3.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
356	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.8	4.0	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
357	SD04	かわらけ		小	ロクロ	8.0	2.7	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
358	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.3	3.7	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
359	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.1	4.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
360	SD04	かわらけ		小	ロクロ	6.5	2.1	3.6	砂粒混 淡褐色 良好	5/6	スス付着
361	SD04	かわらけ		小	ロクロ	7.7	2.4	4.2	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
362	SD04	瓦質製品	火鉢	スクラップ+連珠		48.0	-	-	スコリア 砂粒 灰白色(表面 灰色)	口縁部1/8	
363	SD04	瓦質製品	火鉢	扁球胴		17.2	-	-	スコリア 砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	1/4	
364	SD04	瓦質製品	火鉢	丸形 浅		21.4	7.6(脚2.6)	18.4	砂粒多 橙褐色(表面 灰色)	1/3	
365	SD16	瓦質製品	火鉢	扁球胴		推定34.0	-	-	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	破片	
366	SD04	瓦質製品	火鉢	丸形 浅		推定54~56	-	-	砂粒 灰色(表面 暗灰色)	破片	
367	SD04	瓦質製品	風炉			-	-	-	砂粒 灰色	口縁部破片	
368	SD04	瓦質製品	風炉			-	-	-	スコリア 砂粒 灰白色(表面 灰色)	破片	
369	SD04	瓦質製品	風炉			26.0	-	-	砂粒 灰色(外表面 暗灰色)	口縁部破片	
370	SD04	瓦質製品	風炉			34.0	-	-	砂粒 灰褐色	口縁部1/6	
371	SD04	瓦質製品	香炉			10.5	4.2	6.4	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	1/8	

第27表 溝状遺構 出土遺物一覧表(6)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
372	SD04	瓦質製品		香炉		-	-	7.0	スリ7 砂粒 淡褐色	底部1/4	
373	SD04	瓦質製品		燭台		-	-	-	砂粒 灰色(外面 灰褐色)	脚部のみ	
374	SD04	瓦質製品		不明		-	-	-	スリ7 砂粒 灰白色~灰褐色	脚部破片	
375	SD04	瓦		軒丸	巴文	瓦当径-	瓦当厚(2.9)	全長- 体部高-	長石 砂粒 暗灰色 焼成軟	瓦当1/3	
376	SD04	瓦		丸	凸 縄目 凹 布目	全長(10.9)	巾(6.2)	高(6.6)	厚 長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
377	SD04	瓦		平	凸 縄目 凹 ナデ	全長(15.9)	巾(10.1)	厚2.3	長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
378	SD04	瓦		平	凸 縄目・ナデ 凹 布目	全長(10.5)	巾(10.8)	厚2.3	長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
379	SD04	石製品	伊予	砥石	中砥	長(6.0)	幅5.5	厚1.3		上・下端欠損	砥面(3)面
380	SD04	銭貨		北宋銭	熙寧元宝					完存	初鑄1068年
381	SD05	国産陶器	瀬戸美濃	皿	灰 中皿期	13.8	3.3	6.8	乳褐色 釉 薄緑色	1/4	
382	SD05	かわらけ		小	ロクロ	9.6	2.1	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
383	SD05	かわらけ		小	ロクロ	9.4	2.1	5.2	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	摩滅著しい
384	SD05	かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.1	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
385	SD10	貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗		-	-	-	淡灰褐色 釉 薄緑灰色	体部破片	
386	SD10	かわらけ		大	ロクロ	13.2	3.7	7.0	砂質 淡橙褐色 良好	1/6	底部板状圧痕
387	SD10	かわらけ		中	ロクロ	10.5	3.7	5.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
388	SD10	かわらけ		中	ロクロ	11.0	2.8	6.0	砂質 淡橙褐色 良好	1/6	
389	SD10	かわらけ		中	ロクロ	10.4	3.2	6.0	砂質 淡褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
390	SD10	かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	4.3	砂質 淡橙褐色 良好	2/3	
391	SD11	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (I-5類)	-	-	-	淡灰色 釉 淡緑灰色 透明	口縁部破片	貫入あり
392	SD13	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿	劃花文	-	-	-	灰白色 釉 淡緑色 透明	底部1/5	
393	SD13	国産陶器	瀬戸美濃	折縁深皿	灰釉 中(II)・皿期	-	-	16.0	乳白色 釉 薄緑色 光沢	底部1/6	
394	SD13	国産陶器	常滑	片口鉢 II	11型式	-	-	13.0	長石 砂粒 赤褐色	底部付近1/6	
395	SD13	かわらけ		大	ロクロ	-	(1.7)	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	底部1/2	
396	SD13	かわらけ		大	ロクロ	-	(1.8)	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	底部のみ	
397	SD13	かわらけ		小	ロクロ	-	(1.7)	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	底部のみ	
398	SD14	貿易陶磁		白磁 皿	V・VI類	-	-	3.6	灰白色 釉 黄味灰白色	体~底部破片	
399	SD14	国産陶器	瀬戸	山茶碗 片口鉢	7型式	-	-	-	灰色	口縁部破片	瀬戸系
400	SD14	国産陶器	常滑	碟	3型式	-	-	-	砂粒 灰色	口縁部破片	
401	SD14	国産陶器	常滑	片口鉢 II	11型式	30.8	-	-	石英 砂粒 赤褐色	口縁部1/4	
402	SD14	国産陶器	常滑	片口鉢 II	11型式	35.0	-	-	長石 砂粒 暗灰色	口縁部破片	
403	SD14	国産陶器	志戸呂	播鉢	錆 後IV併行	-	-	11.6	淡褐色 釉 明茶色	底部1/4	
404	SD14	かわらけ		大	ロクロ	12.0	2.7	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
405	SD14	かわらけ		大	ロクロ	11.6	2.6	8.0	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
406	SD14	かわらけ		小	ロクロ	9.2	2.8	5.4	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	スス付着
407	SD14	かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.0	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
408	SD14	石製品		軽石加工品		長13.2	幅11.1	厚7.4		完形	
409	SD15	国産陶器	常滑	碟	3型式	-	-	-	長石 砂粒 橙~灰褐色	口縁部破片	
410	SD15	かわらけ		大	手づくね	13.0	(3.5)	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
411	SD15	かわらけ		小	ロクロ	9.5	2.1	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
412	SD16	貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗		-	-	-	灰白色 釉 淡緑灰色 透明	口縁部破片	
413	SD16	貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗		-	-	-	淡灰色 釉 薄緑灰色	体部破片	
414	SD16	貿易陶磁		白磁 碗	D類	11.2	-	-	白色 釉 青味灰白色 透明	口縁部1/6	
415	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後II期	11.0	5.9	3.9	灰白色 釉 薄緑~灰色	2/3	
416	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後III期	11.6	-	-	灰褐色 釉 茶褐色	1/8	
417	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄釉 後III期	8.4	-	-	淡灰褐色 釉 茶~黒褐色	1/5	
418	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後III期	15.4	-	-	灰褐色 釉 薄緑褐色 光沢	口縁部1/4	
419	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後IV古期	16.8	6.5	5.4	淡褐色 釉 淡黄褐色	1/5	
420	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	縁袖小皿	鉄釉 後III期	9.4	2.4	4.5	灰白色 釉 濃茶褐色	1/4	
421	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	縁袖小皿	灰釉 後IV古期	10.0	-	-	淡灰色 釉 淡緑褐色	1/5	
422	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	縁袖小皿	灰釉 後IV古期	10.5	2.3	4.8	乳白色 釉 薄緑色	1/4	
423	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	端反皿	灰釉 大蓋1段階	11.6	-	-	淡灰褐色 釉 淡灰褐色	口縁部破片	
424	SD16	国産陶器	瀬戸美濃	柄付片口	灰釉 後III期	15.0	-	-	淡灰褐色 釉 淡緑色	口縁部1/5	
425	SD16	国産陶器	志戸呂	播鉢	錆釉 後IV併行	30.0	-	-	淡橙褐色 釉 明茶色	口縁部破片	
426	SD16	国産陶器	志戸呂	播鉢	錆釉 後IV併行	-	-	-	淡橙褐色 釉 明茶色	体~底部1/3	
427	SD16	国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿)Ⅲ-1	8.6	-	-	微砂粒 灰色	口縁部破片	13C前
428	SD16	国産陶器	常滑	片口鉢 II	8型式	24.0	-	-	砂粒 赤褐色	口縁部1/5	内面磨目あり
429	SD16	かわらけ		大	ロクロ	13.2	3.2	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	底部摩滅
430	SD16	かわらけ		大	ロクロ	13.2	4.3	8.2	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
431	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.1	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
432	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.2	2.9	6.8	微砂粒混 淡褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
433	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.4	2.7	7.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
434	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.0	3.4	7.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
435	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.4	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
436	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.0	3.2	6.8	微砂粒混 黒褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
437	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.4	3.5	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
438	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.9	3.0	6.2	微砂粒混 赤褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
439	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.8	3.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
440	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.0	2.9	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
441	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.2	3.0	6.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
442	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.4	2.8	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
443	SD16	かわらけ		中	ロクロ	10.6	3.1	6.0	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
444	SD16	かわらけ		中	ロクロ	11.4	3.1	6.4	微砂粒混 赤褐色 良好	3/5	底部板状圧痕
445	SD16	かわらけ		中	ロクロ	8.7	2.5	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
446	SD16	かわらけ		中	ロクロ	9.2	2.3	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	スス付着 底部摩滅
447	SD16	かわらけ		中	ロクロ	8.3	2.5	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
448	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.3	1.8	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
449	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.8	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅
450	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.7	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
451	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.9	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/3欠	スス 板状圧痕
452	SD16	かわらけ		小	ロクロ	7.0	1.8	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
453	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.2	1.5	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
454	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.0	1.4	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
455	SD16	かわらけ		小	ロクロ	7.0	1.8	4.8	微砂粒混 濃茶褐色 良好	1/2	
456	SD16	かわらけ		小	ロクロ	6.9	1.9	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕

第28表 溝状遺構 出土遺物一覧表(7)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
457	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.7	1.8	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
458	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.5	2.0	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
459	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.0	3.6	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
460	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.4	1.9	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
461	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.6	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅
462	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.4	1.7	4.8	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
463	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.5	2.1	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
464	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.2	2.0	5.4	微砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
465	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.0	4.4	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	スス付着
466	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.6	2.2	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
467	SD16	かわらけ			小 ロクロ	8.0	2.2	5.6	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
468	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.9	2.2	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
469	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.8	2.3	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
470	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.3	4.4	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	底部摩滅
471	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.6	2.5	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
472	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.3	2.3	4.6	微砂粒混 淡褐色 良好	4/5	底部摩滅
473	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.2	2.5	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
474	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.6	2.3	3.4	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	底部摩滅
475	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.6	4.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
476	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.6	2.3	3.8	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
477	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.2	2.4	4.6	微砂粒混 淡褐色 良好	完形	
478	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.2	2.7	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部摩滅
479	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.8	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部摩滅
480	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.4	2.6	4.6	微砂粒混 淡褐色 良好	4/5	スス付着
481	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.5	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
482	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.3	2.5	5.1	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
483	SD16	かわらけ			小 ロクロ	6.0	2.3	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4欠	底部摩滅
484	SD16	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.2	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
485	SD16	かわらけ			大 ロクロ	13.6	3.8	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
486	SD16	かわらけ			大 ロクロ	14.0	3.6	9.4	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
487	SD16	かわらけ			大 ロクロ	11.3	3.1	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
488	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.2	2.5	6.8	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
489	SD16	かわらけ			小 ロクロ	8.8	2.2	6.4	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
490	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.1	2.0	6.6	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
491	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.4	1.9	7.2	微砂粒混 淡褐色 良好	5/6	
492	SD16	かわらけ			小 ロクロ	10.4	1.7	6.8	微砂粒混 淡褐色 良好	2/5	
493	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.0	2.3	5.2	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
494	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.2	1.9	5.2	微砂粒混 淡褐色 良好	5/6	
495	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.3	2.3	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
496	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.0	2.1	5.2	微砂粒混 淡褐色 良好	4/5	
497	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.4	2.5	6.0	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
498	SD16	かわらけ			小 ロクロ	9.4	2.8	5.8	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
499	SD16	かわらけ			小 手づくね	9.0	2.0	丸	微砂粒混 茶褐色 良好	口縁一部欠	
500	SD16	瓦質製品	火鉢	スタフ+連珠	33.0	-	-	砂粒 淡褐色(表面 淡灰褐色)	口縁部破片	酸化炎焼成	
501	SD16	瓦質製品	火鉢	スタフ+連珠	-	-	18.4	スロア 砂粒 灰白色	底部破片		
502	SD16	瓦質製品	行火		24.0	15.0	19.0	砂粒 淡灰色(表面 暗灰色)			
503	SD16	瓦質製品	燭台		11.4	-	-	砂粒 灰色(外面 灰黒色)	皿部1/4		
504	SD16	瓦質製品	燭台		10.8	-	-	砂粒 灰色(表面 暗灰色)	皿部1/4		
505	SD16	瓦質製品	燭台		-	-	9.8	砂粒 灰色(外面 灰黒色)	脚部のみ		
506	SD16	石製品	伊予 砥石	中砥	長(6.3) 幅3.1 厚1.5				上・下端欠損	砥面(4)面	
507	SD16	石製品	軽石加工品		長30.1 幅19.9 厚10.5				完形		
508	SD17	国産陶器	瀬戸美濃 天目茶碗	鉄釉	後IV古期	12.4	-	-	乳白色 釉 茶~黒褐色	1/5底部欠損	
509	SD17	瓦	平	凸 縄目 凹 ナデ	全長(17.3) 巾21.1 厚2.4			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部1/3		
510	SD18	貿易陶磁	龍泉窯系 青磁 碗	B1類 (1-5類)	-	-	-	淡灰色 釉 オリーブ色	口縁部破片		
511	SD18	国産陶器	瀬戸美濃 小天目茶碗	鉄釉	後II期	8.9	3.9	3.0	灰色 釉 黒褐色	1/2	
512	SD18	かわらけ		大 ロクロ	12.4	1.9	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい	
513	SD18	かわらけ		小 ロクロ	9.2	1.5	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3		
514	SD18	かわらけ		小 ロクロ	6.4	2.0	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4		
515	SD18	かわらけ		小 ロクロ	9.3	3.0	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3		
516	SD18	かわらけ		小 手づくね	9.2	1.7	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4		
517	SD18	石製品	上野 砥石	中砥	長(7.1) 幅(3.6) 厚1.8				破片	砥面(3)面	
518	SD18	銭貨	北宋銭	皇宋通宝	15.6	-	-	淡灰色 釉 濃緑褐色	完存	初鑄1038年	
519	SD19	貿易陶磁	龍泉窯系 青磁 碗	D2類	-	-	-	淡灰色 釉 暗青緑色 不透明	口縁部1/6	雷文あり 貫入あり	
520	SD19	貿易陶磁	龍泉窯系 青磁 碗	D2類	-	-	-	淡灰色 釉 暗青緑色 不透明	口縁部破片		
521	SD19	国産陶器	瀬戸美濃 平碗	灰釉	後II期	15.2	5.9	5.2	乳褐色 釉 薄黄褐色	1/3	
522	SD19	国産陶器	瀬戸美濃 輪花小鉢	灰釉	後I・II期	11.6	-	-	淡灰色 釉 薄緑色	口縁部破片	
523	SD19	国産陶器	瀬戸美濃 香炉	鉄釉	中II期	-	-	-	乳白色 釉 明茶褐色	1/5口縁欠	
524	SD19	かわらけ		大 ロクロ	13.2	4.0	6.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕	
525	SD19	かわらけ		中 ロクロ	11.0	4.8	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい	
526	SD19	かわらけ		中 ロクロ	11.2	3.9	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅	
527	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.4	3.8	6.2	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	底部摩滅	
528	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.8	3.4	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕	
529	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.0	3.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	摩滅著しい	
530	SD19	かわらけ		中 ロクロ	9.8	3.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4		
531	SD19	かわらけ		中 ロクロ	9.8	3.2	6.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部摩滅	
532	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.3	3.4	6.6	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4		
533	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.0	3.0	6.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅	
534	SD19	かわらけ		中 ロクロ	11.2	3.0	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部摩滅	
535	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.6	3.1	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕	
536	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.4	3.0	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕	
537	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.4	2.8	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕	
538	SD19	かわらけ		中 ロクロ	10.0	2.7	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅	
539	SD19	かわらけ		小 ロクロ	7.0	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅	
540	SD19	かわらけ		小 ロクロ	6.2	1.7	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅	
541	SD19	かわらけ		小 ロクロ	6.0	1.8	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい	
542	SD19	かわらけ		小 ロクロ	6.6	2.0	3.7	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	スス付着 底部摩滅	

第29表 溝状遺構 出土遺物一覧表(8)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考	
						単位cm ()は残存値						
						口径	器高	底径				
543	SD19	かわらけ			小	口口	6.6	2.2	4.1	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
544	SD19	かわらけ			小	口口	6.7	2.0	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
545	SD19	かわらけ			小	口口	5.8	2.2	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
546	SD19	かわらけ			小	口口	6.2	2.2	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	スス付着
547	SD19	かわらけ			小	口口	6.4	2.4	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
548	SD19	かわらけ			小	口口	6.6	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部摩滅
549	SD19	かわらけ			小	口口	7.0	2.4	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
550	SD19	かわらけ			小	口口	7.1	2.7	5.1	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着 底部摩滅
551	SD19	かわらけ			小	口口	7.5	2.4	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着 底部摩滅
552	SD19	かわらけ			小	口口	7.5	2.5	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着 底部摩滅
553	SD19	かわらけ			小	口口	7.5	2.5	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
554	SD19	かわらけ			小	口口	8.0	2.9	5.6	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
555	SD19	かわらけ			小	口口	8.0	2.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 底部摩滅
556	SD19	かわらけ			小	口口	8.4	2.4	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
557	SD19	かわらけ			小	口口	7.0	3.0	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	摩滅著しい
558	SD19	かわらけ			小	口口	7.4	2.5	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	底部摩滅
559	SD19	かわらけ			小	口口	6.9	2.4	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部摩滅
560	SD19	かわらけ			小	口口	6.9	2.7	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部摩滅
561	SD19	かわらけ			小	口口	6.8	2.4	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
562	SD19	かわらけ			小	口口	7.2	2.7	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	
563	SD19	かわらけ			小	口口	7.2	2.5	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部摩滅
564	SD19	かわらけ			小	口口	7.6	2.5	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
565	SD19	かわらけ			小	口口	7.4	2.5	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着 底部摩滅
566	SD19	かわらけ			小	口口	7.4	2.5	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着 底部摩滅
567	SD19	かわらけ			小	口口	7.4	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
568	SD19	かわらけ			小	口口	7.2	2.3	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部摩滅
569	SD19	かわらけ			小	口口	7.1	2.1	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
570	SD19	かわらけ			小	口口	8.2	2.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	底部摩滅著しい
571	SD19	かわらけ			小	口口	8.0	1.9	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 底部摩滅
572	SD19	かわらけ			小	口口	7.6	2.4	4.7	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着
573	SD19	かわらけ			小	口口	7.8	2.5	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	スス付着 底部摩滅
574	SD19	かわらけ			小	口口	8.0	2.5	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
575	SD19	かわらけ			小	口口	8.2	2.7	4.5	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
576	SD19	かわらけ			小	口口	8.2	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
577	SD19	かわらけ			小	口口	8.6	2.9	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
578	SD19	瓦質製品	香炉				-	-	6.0	砂粒 灰色(表面 灰黒色)	底部1/6	
579	SD19	瓦質製品	双耳壺				-	-	11.8	砂粒 灰白色(表面 灰色)	底部1/6	
580	SD19	瓦質製品	燗台				-	-	-	砂粒 灰白色(表面 灰色)	脚部のみ	
581	SD19	瓦	軒丸		巴文	部高一 体部厚一				長石 砂粒 灰色 焼成硬	瓦当破片	
582	SD19	瓦	丸		凸・ナデ 凹・布目	全長(9.4) 巾(6.0) 高5.9 厚1.7				長石 砂粒 表 青灰色 中 赤褐色 焼成硬	破片	
583	SD19	石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(5.5) 幅3.0 厚0.8					下端部欠損	砥面(2)面
584	SD19	石製品		軽石加工品		長18.7 幅19.8 厚9.1					ほぼ完形	
585	SD20	国産陶器	瀬戸美濃 德利	鉄釉	大窯2・3段階	-	-	-	-	淡褐色 釉 濃茶色	3/4口縁 底部欠	
586	SD20	国産陶器	瀬戸美濃 種皿	鉄釉	大窯2後段階	10.1	2.0	6.0		淡橙褐色 釉 明茶色	2/3	
587	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 天目茶碗	鉄釉		11.4	-	-		乳白色 釉 黒褐色	1/6	17世紀後半
588	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 天目茶碗	鉄釉		10.0	6.5	4.8		淡橙褐色 釉 暗紫色	1/3	17世紀後半
589	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 碗	灰釉		12.4	6.8	5.4		淡灰褐色 釉 薄緑色	1/3	17世紀後半
590	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 小杯	鉄釉		8.4	3.6	3.8		淡灰褐色 釉 黒褐色	1/2	17世紀後半
591	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 灯明皿	鉄釉		7.6	1.3	3.2		淡灰褐色 釉 赤茶色	1/4	
592	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 皿	志野		12.2	2.5	6.8		淡褐色 釉 乳白色	1/3	17世紀前半
593	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 皿	灰釉		10.0	2.6	4.6		乳白色 釉 黄褐色	1/4	17世紀前半
594	SD20	近世陶磁器	瀬戸美濃 搦鉢	錆釉	登窯期	-	-	10.0		乳白色 釉 赤茶色	底部1/6	
595	SD20	近世陶磁器	唐津	鉄釉		-	-	4.4		淡灰褐色 釉 暗緑色	底部のみ	砂目
596	SD20	近世陶磁器	美濃 (磁器)皿			13.2	4.8	7.4		白色 釉 透明 コバルト	1/3	
597	SD20	近世陶磁器	肥前 (磁器)碗			-	-	-		白色 釉 透明 呉須 青色	底部1/3	
598	SD20	近世陶磁器	肥前 (磁器)皿			-	-	8.8		白色 釉 透明 呉須 青色	底部1/3	
599	SD20	瓦質製品	瓦			28.0	-	-		灰色	口縁部1/4	
600	SD20	石製品	不明	砥石		長(7.0) 幅2.9 厚1.9					上・下端欠損	砥面(4)面
601	SD20	石製品	伊予	砥石	中砥	長(9.5) 幅3.2 厚2.0					上・下端欠損	砥面(4)面
602	SD20	石製品		砥石		長(15.5) 幅5.6 厚2.4					下端部欠損	弥生時代?
603	SD20	石製品		軽石加工品		長(6.2) 幅0.8 厚4.3					1/2	
604	SD20	石製品		軽石加工品		長11.0 幅(7.0) 厚5.2					1/2	
605	SD20	石製品		軽石加工品		長11.4 幅12.9 厚6.6					3/4	
606	SD20	貿易陶磁		白磁 碗	V・四類(水平)	-	-	-		灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
607	SD20	貿易陶磁		白磁 皿		-	-	-		白色 釉 白色 不透明	口縁部破片	輪花
608	SD20	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	-	-	-		淡灰色 釉 淡緑灰色	体部破片	
609	SD20	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	折腰(坏)	-	-	-		灰白色 釉 薄青緑色	破片	
610	SD20	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	15.0	-	-		淡灰色 釉 薄青緑色	口縁部破片	
611	SD20	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄 後IV新时期	11.8	-	-		淡灰褐色 釉 黒褐色	口縁部破片	
612	SD20	国産陶器	瀬戸美濃	折縁深皿	灰 中(II)・III期	-	-	18.0		乳白色 釉 薄緑色	底部破片	
613	SD20	国産陶器	常滑	壺	9型式	-	-	-		長石 砂粒 赤褐色	口縁部破片	
614	SD20	国産陶器	常滑	壺	10型式	-	-	-		長石 砂粒 暗褐色	口縁部破片	
615	SD20	国産陶器	常滑	壺	10型式	-	-	-		長石 砂粒 橙褐色	口縁部破片	
616	SD20	かわらけ			小	口口	7.0	2.1	5.1	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	底部摩滅
617	SD20	かわらけ			大	手づくね	13.0	2.6	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
618	SD20	瓦		丸	凸・縹目 凹・布目	全長(5.2) 巾(6.8) 高(6.3) 厚1.6				長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
619	SD23	貿易陶磁		白磁 碗・皿	D類	-	-	-		白色 釉 淡青白色	口縁部破片	
620	SD23	国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後III期	11.8	-	-		灰白色 釉 黒色	1/8	被熱
621	SD25	国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後II期	15.4	-	-		灰白色 釉 薄緑色	口縁部1/6	
622	SD25	石製品		軽石加工品		長(12.9) 幅5.4 厚5.4					上・下端欠損	
623	SD27	近世陶磁器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉	12.0	-	-		淡褐色 釉 黒褐色	口縁部1/4	17世紀前半
624	SD27	貿易陶磁		陶器 緑釉盤		-	-	-		暗灰色 釉 薄緑色	体部破片	
625	SD27	瓦		丸	凸・ナデ 凹・布目	全長(11.0) 巾(7.8) 高一 厚1.6				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
626	SD27	石製品	上野	砥石	中砥	長(10.5) 幅2.9 厚2.6					下端部欠損	砥面(3)面
627	SD27	石製品		砥石		長(8.7) 幅5.3 厚3.7					下端部欠損	弥生時代?

第30表 溝状遺構 出土遺物一覧表(9)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
628	SD27	石製品		軽石加工品		長(11.6)	幅(10.6)	厚(6.0)		1/2	
629	SD27	石製品		軽石加工品		長(13.0)	幅(7.2)	厚(4.8)		1/2	
630	SD27	石製品		軽石加工品		長(14.2)	幅(13.8)	厚(7.1)		完形	
631	SD27	石製品		軽石加工品		長(10.2)	幅(8.4)	厚(4.3)		2/3	
632	SD27	石製品		軽石加工品		長(14.1)	幅(10.4)	厚(6.9)		ほぼ完形	
633	SD30	近世陶磁器	瀬戸美濃	皿	志野	11.0	1.9	6.4	暗灰色 釉 灰白色	1/4	17世紀前半
634	SD30	瓦		丸	凸ナデ 凹布目	全長(7.4)	巾(1.8)	高(3.8) 厚()	長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
635	SD34	近世陶磁器	唐津	皿(胎土目)		11.6	3.1	4.4	淡灰褐色 釉 深緑色	1/2	1580年代
636	SD34	近世陶磁器	唐津	皿(胎土目)		11.6	2.9	4.0	淡灰色 釉 薄緑灰色	1/2	1580年代
637	SD35	瓦質製品		不明		-	-	-	微砂粒 灰白色(表面 灰色)	底部破片	
638	SD35	石製品		軽石加工品		長(12.2)	幅(7.2)	厚(2.9)		完形	
639	SD37	貿易陶磁		白磁 皿	皿類	-	-	5.8	白色 釉 青味灰白色 透明	底部1/3	
640	SD37	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(1-5類)	-	-	-	淡灰色 釉 薄青緑色	口縁部破片	
641	SD37	貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	椀花皿	11.8	2.7	5.7	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	1/3	
642	SD37	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	Ⅱ型式	-	-	13.4	長石 砂粒 橙～灰褐色	底部破片	
643	SD37	かわらけ			小 ロクロ	9.2	2.6	5.7	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
644	SD37	かわらけ			小 ロクロ	9.4	2.6	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
645	SD37	かわらけ			小 ロクロ	7.4	1.8	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕

第31表 土坑墓 出土遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1	ST01	かわらけ			大 ロクロ	10.7	2.7	6.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
2	ST01	かわらけ			小 ロクロ	7.4	1.8	4.6	スリア・微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
3	ST03	かわらけ			大 ロクロ	12.4	3.5	8.5	砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
4	ST04	かわらけ			大 ロクロ	11.6	3.7	5.4	スリア・小砂利・砂粒多混 淡褐色 良好	1/3	
5	ST04	かわらけ			大 ロクロ	-	(2.2)	5.8	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	底部1/2	
6	ST04	かわらけ			大 ロクロ	-	(2.7)	6.0	スリア・小砂利・砂粒多混 橙褐色 良好	底部のみ	
7	ST04	かわらけ			小 ロクロ	9.6	2.5	3.8	スリア・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/4	
8	ST04	かわらけ			小 ロクロ	8.6	1.4	6.0	砂粒多混 淡褐色 良好	1/6	
9	ST05	かわらけ			大 ロクロ	14.2	3.3	9.0	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
10	ST05	かわらけ			中 ロクロ	11.3	3.1	7.3	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
11	ST05	かわらけ			中 ロクロ	11.0	2.6	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
12	ST05	かわらけ			中 ロクロ	11.2	2.8	7.4	スリア・微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
13	ST05	かわらけ			小 ロクロ	7.0	2.0	4.8	緻密 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
14	ST05	かわらけ			小 ロクロ	8.0	1.8	5.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
15	ST05	かわらけ			小 ロクロ	7.6	1.9	5.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/6	摩滅著しい
16	ST05	石製品		軽石加工品		長(9.2)	幅(10.2)	厚(7.0)		1/3	

第32表 土坑 出土遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1	SX14	土師器			柱状高 ロクロ	-	(3.1)	6.2	砂粒多混 赤褐色 良好	底部のみ	
2	SX19	かわらけ			大 手づくね	11.6	3.0	3.0	丸 砂粒多混 淡褐色 良好	1/4	
3	SX34	かわらけ			大 ロクロ	-	(1.8)	7.0	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	底部1/3	底部板状圧痕
4	SX34	かわらけ			大 ロクロ	-	(2.1)	7.0	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	底部1/4	底部板状圧痕
5	SX34	かわらけ			小 ロクロ	8.2	2.1	5.2	微砂粒 緻密 淡橙褐色 良好	1/3	
6	SX34	かわらけ			大 手づくね	11.6	3.7	3.1	丸 微砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
7	SX34	かわらけ			大 手づくね	11.4	3.1	3.1	丸 微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
8	SX34	かわらけ			大 手づくね	10.8	3.0	3.0	丸 砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
9	SX34	かわらけ			大 手づくね	12.0	3.3	3.3	丸 スリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
10	SX34	かわらけ			小 手づくね	7.4	2.0	2.0	丸 砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
11	SX35	かわらけ			大 手づくね	10.4	3.4	3.4	丸 微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
12	SX35	石製品		軽石加工品		長(23.4)	幅(13.7)	厚(10.9)		完形	
13	SX36	かわらけ			大 手づくね	12.2	3.3	3.3	丸 砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
14	SX36	かわらけ			大 手づくね	12.8	3.2	3.2	丸 砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
15	SX39	かわらけ			小 ロクロ	7.9	2.1	4.4	微砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
16	SX47	銭貨		唐銭	開元通宝					一部欠損	初鑄960年
17	SX47	銭貨		北宋銭	景德元宝					完存	初鑄1004年
18	SX47	銭貨		北宋銭	元豊通宝					完存	初鑄1078年
19	SX47	銭貨		北宋銭	紹聖元宝					完存	初鑄1094年
20	SX47	銭貨		北宋銭	嘉祐通宝					完存	篆書 初鑄1086年
21	SX48	かわらけ			大 ロクロ	12.4	3.3	7.6	微砂粒混 淡橙褐色 良好	1/5	
22	SX48	かわらけ			大 手づくね	12.0	2.7	2.7	丸 微砂粒混 淡橙褐色 良好	1/6	
23	SX50	かわらけ			小 ロクロ	7.6	1.7	5.8	砂粒多混 橙褐色 良好	1/6	
24	SX50	かわらけ			大 手づくね	10.6	3.1	3.1	丸 微砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
25	SX50	かわらけ			小 手づくね	7.6	1.9	1.9	丸 微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
26	SX50	かわらけ			小 手づくね	7.8	2.0	2.0	丸 微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
27	SX50	かわらけ			小 手づくね	7.8	1.8	1.8	丸 スリア・微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
28	SX54	銭貨		北宋銭	天聖元宝					完存	初鑄1023年
29	SX56	かわらけ			大 手づくね	10.6	3.3	3.3	丸 砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	
30	SX59	石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(2.6)	幅(3.0)	厚(0.7)		破片	砥面(3)面

第33表 集石遺構 出土遺物一覽表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
1	GS01	かわらけ			小 口コ	6.8	1.9	4.1	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
2	GS01	かわらけ			大 口コ	11.8	3.0	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
3	GS01	かわらけ			大 口コ	11.0	2.7	7.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/5	底部板状圧痕
4	GS01	かわらけ			大 口コ	-	(18)	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	底部1/3	底部板状圧痕
5	GS01	瓦	平		凸 縄目 凹 布目	全長(10.3)	巾(14.3)	厚2.1	長石 砂粒 灰色 焼成硬	下部破片	
6	GS01	石製品	軽石加工品			長15.6	幅18.4	厚8.3		完形	
7	GS02	国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	11型式	35.0	-	-	長石 砂粒多 橙~灰褐色	口縁部破片	
8	GS02	国産陶器	東濃江系	小皿	金谷(皿)Ⅲ-1?	8.6	-	-	微砂粒 灰色	口縁部破片	13C前?
9	GS02	かわらけ			中 口コ	10.5	3.1	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
10	GS02	かわらけ			中 口コ	10.2	2.7	6.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/6	底部板状圧痕
11	GS02	かわらけ			中 口コ	-	(18)	6.8	砂粒混 橙褐色 良好	底部のみ	底部板状圧痕
12	GS02	かわらけ			小 口コ	7.8	2.3	4.9	砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
13	GS02	かわらけ			小 口コ	7.8	2.1	5.6	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
14	GS02	かわらけ			小 口コ	6.5	2.2	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
15	GS02	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(8.8)	巾(8.4)	厚2.2	長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
16	GS02	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(11.6)	巾(6.3)	厚2.3	長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
17	GS06	かわらけ			中 口コ	10.0	2.3	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 摩滅
18	GS06	かわらけ			中 口コ	-	(2.2)	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	底部摩滅
19	GS06	かわらけ			小 口コ	7.6	2.2	5.5	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
20	GS06	かわらけ			小 口コ	7.3	2.4	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	底部摩滅
21	GS06	かわらけ			小 口コ	7.2	1.8	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	摩滅著しい
22	GS08	石製品	軽石加工品			長11.6	幅10.9	厚5.7		完形	裏裏加工
23	GS08	石製品	軽石加工品			長16.0	幅18.4	厚8.6		完形	
24	GS09	瓦	軒平		凸 ナデ 凹 布目	長(7.0)	体部厚2.2		長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
25	GS10	かわらけ			小 口コ	7.0	2.5	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
26	GS10	かわらけ			大 口コ	11.0	2.5	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
27	GS10	瓦	軒丸		巴文 凸 ナデ 凹 布目	瓦当径13.3 瓦当厚3.4 全長(29.9)	体部高6.9 体部厚1.9		長石 砂粒 灰色 焼成硬	2/3	
28	GS10	瓦	軒丸		凸 ナデ 凹 ?	瓦当径一 瓦当厚一 全長一 体部高一 体部厚1.7			長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
29	GS10	瓦	軒平		剣頭文 縄目 凹 布目	瓦当巾22.0 瓦当高5.4 瓦当厚2.2 全長(16.2) 体部厚2.2			長石 砂粒 明灰色 焼成やや軟	1/2	
30	GS10	瓦	軒平		剣頭文	瓦当巾(5.8) 瓦当高(5.0) 瓦当厚2.4 全長一 体部厚一			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	瓦当破片	
31	GS10	瓦	軒平		剣頭文	瓦当巾(7.5) 瓦当高(5.3) 瓦当厚2.2 全長一 体部厚一			長石 砂粒 灰色 焼成硬	瓦当破片	
32	GS10	瓦	軒平		凸 ナデ 凹 ?	瓦当巾一 瓦当高一 瓦当厚一 全長(11.0) 体部厚3.0			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	瓦当破片	
33	GS10	瓦	軒平		剣頭文	瓦当巾一 瓦当高(2.0) 瓦当厚(1.0) 全長一 体部厚一			長石 砂粒 灰色 焼成硬	瓦当破片	
34	GS10	瓦	軒平		凸 ナデ 凹 ?	瓦当巾一 瓦当高一 瓦当厚一 全長(25.0) 体部厚2.3			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	1/3	
35	GS10	瓦	丸		凸 縄目 凹 布目	全長(12.5) 巾(8.5) 高6.7 厚2.0			長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
36	GS10	瓦	丸		凸 縄目 凹 布目	全長(5.0) 巾(6.6) 高一 厚(1.3)			長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
37	GS10	瓦	丸		凸 縄目 凹 布目	全長(9.8) 巾13.9 高6.9 厚2.3			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部破片	
38	GS10	瓦	平		凸 ナデ 凹 布目	全長(8.7) 巾(9.3) 厚2.8			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部破片	
39	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(16.7) 巾(17.2) 厚2.2			長石 砂粒 灰色 焼成軟	上部1/3	
40	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長32.9 巾22.9 厚2.2			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	2/3	
41	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長34.1 巾(13.1) 厚			長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	2/3	
42	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(15.5) 巾(11.9) 厚2.2			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部1/4	
43	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(23.9) 巾(13.6) 厚2.2			長石 砂粒 明灰色 焼成軟	上部1/3	
44	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(17.5) 巾(11.5) 厚2.4			砂粒 明灰色 焼成やや軟	上部1/4	
45	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(11.9) 巾(9.9) 厚2.4			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部1/5	
46	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ?	全長(19.6) 巾(11.0) 厚2.3			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	胴部1/4	
47	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ?	全長(15.4) 巾(8.4) 厚2.1			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部1/4	
48	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(15.1) 巾(10.3) 厚2.3			砂粒 暗灰色 焼成やや軟	上部1/4	
49	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ	全長(7.5) 巾(10.5) 厚2.5			長石 砂粒 明灰色 焼成軟	破片	
50	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(11.5) 巾(12.2) 厚1.7			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部破片	
51	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(16.2) 巾(12.1) 厚1.9			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部1/4	
52	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(5.5) 巾(5.9) 厚2.0			長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
53	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ?	全長(9.0) 巾(12.3) 厚2.1			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	下部破片	
54	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(11.6) 巾(10.0) 厚2.3			長石 砂粒 明灰色 焼成軟	下部破片	
55	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(14.4) 巾(11.3) 厚2.2			長石 砂粒 明灰色 焼成軟	下部破片	
56	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(15.3) 巾(13.0) 厚2.8			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部破片	
57	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(11.4) 巾(12.3) 厚2.3			長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	下部破片	
58	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(10.8) 巾20.4 厚2.5			長石 砂粒 灰色 焼成硬	胴部1/3	
59	GS10	瓦	平		凸 ナデ 凹 布目	全長(12.0) 巾(10.0) 厚2.9			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	胴部破片	
60	GS10	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(12.8) 巾(12.5) 厚2.3			長石 砂粒 灰色 焼成硬	胴部破片	
61	GS10	瓦	平		凸 縄目 ナデ 凹 ナデ	全長(9.8) 巾(13.7) 厚2.4			長石 砂粒 灰色 焼成硬	胴部破片	
62	GD11	瓦	平		凸 縄目 凹 布目	全長(5.0) 巾19.7 厚2.2			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部破片	
63	GS12	瓦	平		凸 縄目 凹 布目	全長(10.2) 巾(12.8) 厚2.4			長石 砂粒 灰色 焼成硬	上部破片	
64	GS17	かわらけ			小 口コ	9.4	2.0	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
65	GS17	かわらけ			小 口コ	9.1	2.4	6.8	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
66	GS16	国産陶器	瀬戸美濃	摺鉢	錆釉 後IV古期	28.0	9.4	-	淡橙褐色 釉 茶褐色	1/3	
67	GS16	かわらけ			大 口コ	11.8	2.6	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
68	GS16	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(14.2) 巾(15.3) 厚2.8			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部破片	
69	GS16	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(10.4) 巾(14.1) 厚2.5			長石 砂粒 灰色 焼成硬	胴部破片	
70	GS16	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ	全長(19.4) 巾(9.6) 厚2.0			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部1/4	
71	GS16	石製品	軽石加工品			長9.2	幅9.2	厚3.5		完形	

第34表 1区出土遺物一覽表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 碗	IV類	—	—	—	灰白色 釉 淡灰白色 透明	口縁部破片	
2		貿易陶磁		白磁 碗	II類	—	—	7.1	灰白色 釉 緑味灰白色 透明	底部1/4	
3		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類	—	—	—	淡灰白色 釉 灰白色 透明	体部破片	
4		貿易陶磁		白磁 碗	V・皿類(水平)	—	—	—	灰白色 釉 暗灰白色 透明	口縁部破片	
5		貿易陶磁		白磁 碗	V・皿類?	—	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
6		貿易陶磁		白磁 碗	IX類	11.6	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
7		貿易陶磁		白磁 碗・皿	IX類	—	—	—	白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
8		貿易陶磁		白磁 皿	IV類	—	—	—	白色 釉 白色 透明	口縁部破片	
9		貿易陶磁		白磁 皿	IV類	—	—	—	白色 釉 淡灰白色 透明	口縁部破片	
10		貿易陶磁		白磁 皿	V類?	—	—	—	白色 釉 青味灰白色 透明	口縁部破片	
11		貿易陶磁		白磁 皿	VIIIb類	9.6	2.1	4.0	白色 釉 緑味灰白色 透明	1/5	
12		貿易陶磁		白磁 皿	IX類(印花)	16.0	—	—	乳白色 釉 白色	口縁部破片	内面印花型押
13		貿易陶磁		白磁 皿	IX類	—	—	—	灰白色 釉 灰白色	口縁部破片	
14		貿易陶磁		白磁 杯	腰折	14.0	—	—	灰白色 釉 青灰白色 不透明	口縁部破片	
15		貿易陶磁		白磁 小碗	—	7.8	—	—	白色 釉 白色	口縁部1/8	
16		貿易陶磁		白磁 皿	B群	—	—	3.6	灰褐色 釉 乳白色	底部のみ	貫入あり 明代
17		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	15.2	—	—	灰白色 釉 薄緑褐色 不透明	口縁部破片	
18		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰褐色 釉 淡緑灰色	体部破片	
19		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑褐色	体部破片	
20		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿	—	—	—	3.4	灰白色 釉 淡緑褐色	底部1/4	
21		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿	—	—	—	3.6	灰白色 釉 薄緑色 透明	底部1/4	
22		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿	—	—	—	—	灰白色 釉 淡青灰色	口縁部破片	
23		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	淡灰色 釉 淡緑灰色 透明	口縁部破片	
24		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	灰白色 釉 暗緑灰色 透明	口縁部破片	
25		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	灰白色 釉 淡青灰色	口縁部破片	
26		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	灰白色 釉 薄緑色 透明	口縁部破片	
27		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	灰白色 釉 淡青灰色 透明	口縁部破片	
28		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	5.2	淡灰色 釉 緑褐色	底部1/4	
29		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	淡灰色 釉 薄青綠色	体部破片	
30		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(I-2類)	—	—	—	淡灰色 釉 淡緑灰色	口縁部破片	
31		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A4類(I-4類)	—	—	—	灰白色 釉 薄青灰色	口縁部破片	
32		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A4類?(I-4類?)	—	—	—	灰白色 釉 緑褐色	口縁部破片	
33		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A4類(I-4類)	—	—	—	灰白色 釉 淡青綠色 不透明	体部破片	
34		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A6類(I-6類)	—	—	—	灰白色 釉 淡青綠色	口縁部破片	
35		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A6類(I-6類)	—	—	—	灰白色 釉 淡青綠色 透明	体部破片	
36		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	14.4	—	—	淡灰色 釉 オリーブ色 透明	口縁部1/8	
37		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	15.4	—	—	淡灰色 釉 オリーブ色 透明	口縁部1/6	
38		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	—	—	—	淡白色 釉 淡青灰色 不透明	口縁部破片	
39		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	—	—	—	淡灰色 釉 オリーブ色 透明	口縁部破片	
40		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	—	—	—	灰白色 釉 淡緑灰色 透明	口縁部破片	
41		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	—	—	—	淡灰色 釉 暗緑色	口縁部破片	
42		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(I-5類)	—	—	5.0	灰白色 釉 暗緑灰色 透明	底部1/3	
43		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	15.6	—	—	灰色 釉 暗緑褐色	口縁部1/8	無文
44		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	14.6	—	—	淡灰色 釉 薄青灰色 不透明	口縁部1/8	
45		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	—	—	6.3	淡灰色 釉 薄緑灰色	底部のみ	
46		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 小碗	—	—	—	3.5	灰白色 釉 薄青綠色 不透明	底部1/4	
47		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	—	—	—	灰白色 釉 薄青灰色 不透明	底部2/3	「河濱遺範」の印
48		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	—	—	4.0	灰白色 釉 青綠色 不透明	底部1/5	底部裏付部無釉
49		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	—	—	—	灰白色 釉 黄褐色 不透明	口縁部破片	14C後半(薄手)
50		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿	—	8.8	—	—	灰白色 釉 薄青綠色	口縁部破片	劃花文
51		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤	—	—	—	—	灰白色 釉 青綠色 不透明	口縁部破片	無文
52		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 香炉	—	—	—	(6.8)	灰白色 釉 青綠色 不透明	破片	夜学香炉
53		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	3.6	白色 釉 薄青白色	底部1/4	
54		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	2.8	白色 釉 薄青灰白色	底部1/3	
55		貿易陶磁		青白磁 皿	—	10.9	1.8	3.1	白色 釉 青白色 ほぼ透明	1/3	
56		貿易陶磁		青白磁 梅瓶	—	—	—	—	灰白色 釉 薄青白色 透明	胴部破片	
57		貿易陶磁		青白磁 梅瓶	—	—	—	9.2	灰白色 釉 青灰白色 不透明	底部1/3	
58		貿易陶磁		陶器 天目茶碗	—	—	—	3.6	淡灰色 釉 黒褐色	底部のみ	
59		貿易陶磁		陶器 緑釉盤	—	—	—	—	淡褐色 釉 淡緑色	体部破片	釉やや剥落
60		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後II期	11.0	—	—	灰白色 釉 茶~黒褐色	口縁部1/6	
61		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後II期	11.6	—	—	淡灰褐色 釉 黒褐色	1/3	外面釉剥落
62		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後III期	11.6	—	—	乳灰褐色 釉 茶~黒褐色	1/8	
63		国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄釉 後I期	9.0	4.5	3.1	乳白色 釉 茶色	1/4	
64		国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後I期	15.6	—	—	乳白褐色 釉 淡黄褐色	口縁部破片	
65		国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後II期	17.0	—	—	灰白色 釉 淡黄褐色	1/5	
66		国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後II期	15.6	6.5	4.5	淡灰褐色 釉 薄緑色 光沢	1/3	
67		国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後IV古期	14.6	—	—	淡灰色 釉 暗黄緑色	口縁部1/5	
68		国産陶器	瀬戸美濃	平碗	灰釉 後IV新期	13.0	—	—	乳白色 釉 淡黄褐色~薄緑色	口縁部1/8	
69		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後I期	12.8	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑色 光沢	口縁部破片	
70		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後III期	9.6	—	—	淡灰褐色 釉 濃茶褐色	1/5	
71		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後IV古期	9.4	—	—	乳白色 釉 薄緑色	1/5	
72		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後III・IV古期	—	—	—	淡褐色 釉 薄緑色	底部2/3	
73		国産陶器	瀬戸美濃	折縁小皿	灰釉 中III・IV期	8.2	1.7	4.5	淡灰褐色 釉 薄緑色	2/3	
74		国産陶器	瀬戸美濃	折縁小皿	灰釉 後I・II期	7.7	1.6	4.2	淡灰色 釉 薄緑色	1/4	
75		国産陶器	瀬戸美濃	腰折皿	灰釉 後IV新期	12.0	—	—	乳白色 釉 薄緑色	口縁部破片	
76		国産陶器	瀬戸美濃	卸皿	灰釉 後III期	15.0	3.5	6.8	乳白色 釉 薄緑色	1/4	
77		国産陶器	瀬戸美濃	折縁深皿	灰釉 中(II)・III期	—	—	—	乳白色 釉 薄黄褐色	口縁部破片	
78		国産陶器	瀬戸美濃	卸目付大皿	灰釉 後III期	—	—	—	淡灰色 釉 薄緑色	口縁部破片	
79		国産陶器	瀬戸美濃	折縁深皿	灰釉 後I期	18.4	—	—	灰白色 釉 薄緑色 光沢	口縁部破片	
80		国産陶器	瀬戸美濃	花瓶	灰釉 中III・IV期	18.4	—	—	乳白色 釉 薄黄緑色	口縁部破片	
81		国産陶器	瀬戸美濃	花瓶	灰釉 中III・IV期	16.0	—	—	淡灰褐色 釉 緑褐色 光沢	口縁部破片	
82		国産陶器	瀬戸美濃	直縁大皿	灰釉 後I期	32.0	—	—	淡褐色 釉 淡黄褐色	口縁部破片	
83		国産陶器	瀬戸美濃	花瓶	灰釉 後III・IV古期	—	—	—	淡灰褐色 釉 淡緑褐色	底部1/3	
84		国産陶器	瀬戸美濃	柄付片口	灰釉 後I・II期	16.0	—	—	乳白色 釉 薄緑色	口縁1/8	
85		国産陶器	瀬戸美濃	柄付片口	灰釉 後I・II期	15.6	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑色	口縁部破片	
86		国産陶器	瀬戸美濃	鉢	鉄釉 後III期	11.6	—	—	淡灰褐色 釉 淡灰褐色	1/5	
87		国産陶器	瀬戸美濃	入子	前III~中II期	8.0	—	—	乳白色	1/3	

第35表 1区出土遺物一覧表(2)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
88		国産陶器	常滑	壺	3型式	—	—	—	石英 砂粒 灰色	口縁部破片	
89		国産陶器	常滑	壺	4型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
90		国産陶器	常滑	壺	4型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
91		国産陶器	常滑	壺	6a型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
92		国産陶器	常滑	壺	10型式	—	—	—	砂粒多 橙～灰褐色	口縁部破片	
93		国産陶器	常滑	壺	11型式	—	—	—	砂粒多 橙～灰褐色	口縁部破片	
94		国産陶器	常滑	壺	6a～8型式	—	—	16.0	砂粒多 橙～灰褐色	口縁部破片	
95		国産陶器	常滑	壺	6a～8型式	—	—	19.6	砂粒多 橙～灰褐色	口縁部破片	
96		国産陶器	常滑	片口鉢 I	2型式	—	—	13.0	長石 砂粒多 灰色	底部2/5	
97		国産陶器	常滑	片口鉢 I	2型式	—	—	12.2	長石 砂粒多 灰色	底部1/5	
98		国産陶器	常滑	片口鉢 I	2～3型式	—	—	11.0	長石 砂粒多 灰色	底部1/5	
99		国産陶器	常滑	片口鉢 I	2～3型式	22.0	—	—	長石 砂粒多 灰色	口縁部破片	
100		国産陶器	常滑	片口鉢 I	4型式	30.0	—	—	砂粒多 灰色	口縁部1/8	
101		国産陶器	常滑	片口鉢 I	6a型式	—	—	—	砂粒多 灰色	口縁部破片	
102		国産陶器	常滑	片口鉢 I	5型式	29.6	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
103		国産陶器	常滑	片口鉢 II	7型式	26.2	—	—	砂粒 暗灰色	口縁部破片	
104		国産陶器	常滑	片口鉢 II	8型式	19.0	—	—	長石 砂粒 橙～灰褐色	口縁部破片	
105		国産陶器	常滑	片口鉢 II	8型式	31.0	—	—	長石 砂粒 橙～灰褐色	口縁部1/5	
106		国産陶器	常滑	片口鉢 II	9型式	—	—	—	長石 砂粒 橙～灰褐色	口縁部破片	
107		国産陶器	常滑	片口鉢 II	9型式	29.0	—	—	砂粒多 橙～灰褐色	口縁部1/5	
108		国産陶器	常滑	片口鉢 II	10型式	29.6	—	—	長石 砂粒 橙褐色	口縁部破片	
109		国産陶器	常滑	片口鉢 II	11型式	—	—	15.0	長石 砂粒 橙褐色	底部1/5	内面 撞目あり
110		国産陶器	常滑	片口鉢 II	11型式	39.0	—	—	長石 砂粒 橙～暗赤褐色	口縁部破片	
111		国産陶器	常滑	蓋口壺	5～6a型式	—	—	7.4	砂粒 濃赤褐色	底部1/3	
112		国産陶器	常滑	山茶碗	3型式	—	—	8.2	長石 砂粒多 灰色	底部1/4	
113		国産陶器	瀬美	壺	—	—	—	—	砂粒 灰色	肩部破片	12世紀後半 押印
114		国産陶器	瀬美	壺	—	—	—	—	砂粒 灰色	頸部破片	12世紀後半
115		国産陶器	瀬美	壺	—	—	—	16.0	砂粒 灰色	底部破片	12世紀後半
116		国産陶器	瀬美	鉢	—	—	—	14.9	砂粒 灰色	体部下位1/6	12世紀後半
117		国産陶器	瀬美	壺	—	—	—	—	砂粒 灰色	頸、肩部破片	刻文12C世紀末
118		国産陶器	瀬美湖西	碗	13世紀前半	—	—	7.7	砂粒 灰色	底部のみ	
119		国産陶器	東遠江系	碗	金谷 I-1	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
120		国産陶器	東遠江系	碗	金谷 III-1	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
121		国産陶器	東遠江系	碗	金谷 III-1	15.5	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
122		国産陶器	東遠江系	碗	金谷 III-1	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
123		国産陶器	東遠江系	碗	金谷 III-1～2	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
124		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) I-1?	9.6	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
125		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-1	8.8	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
126		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2	7.9	2.0	4.4	微砂粒 灰色	1/2	
127		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2	7.9	2.1	4.0	微砂粒 灰色	1/2	
128		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2	8.2	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
129		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2	8.4	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
130		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-1?	—	—	4.0	微砂粒 灰色	底部1/2	
131		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-1?	—	—	4.6	微砂粒 灰色	底部ほぼ完形	
132		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2?	—	—	4.4	微砂粒 淡灰色	底部1/2	
133		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿) III-2?	—	—	4.6	微砂粒 灰色	底部1/2	
134		国産陶器	志戸呂	掃鉢	錆 後IV併行	—	—	—	8.5 長石 砂粒 橙～灰褐色	底、胴部破片	
135		かわらけ		大	口口	15.0	3.9	7.2	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
136		かわらけ		大	口口	14.0	4.6	7.4	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
137		かわらけ		小	口口	10.8	2.6	6.4	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
138		かわらけ		小	口口	9.0	2.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
139		かわらけ		小	口口	9.1	2.1	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
140		かわらけ		小	口口	9.2	1.9	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
141		かわらけ		大	口口	12.4	3.2	9.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
142		かわらけ		大	口口	12.5	3.5	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
143		かわらけ		大	口口	12.4	3.1	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
144		かわらけ		大	口口	12.6	3.4	8.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
145		かわらけ		大	口口	11.7	3.5	7.4	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	
146		かわらけ		大	口口	12.4	2.9	8.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着
147		かわらけ		大	口口	12.6	3.1	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
148		かわらけ		中	口口	11.4	3.1	6.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
149		かわらけ		中	口口	11.6	3.1	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
150		かわらけ		中	口口	10.8	3.2	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
151		かわらけ		中	口口	11.2	3.0	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部摩滅
152		かわらけ		中	口口	10.8	2.9	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
153		かわらけ		中	口口	10.6	2.8	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
154		かわらけ		中	口口	10.8	2.8	7.0	スリ7・微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
155		かわらけ		中	口口	11.0	2.4	7.0	スリ7・微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
156		かわらけ		大	口口	12.2	2.7	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
157		かわらけ		中	口口	11.8	2.7	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
158		かわらけ		中	口口	10.6	3.1	7.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着 摩滅
159		かわらけ		中	口口	11.2	2.5	7.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
160		かわらけ		中	口口	10.8	2.7	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
161		かわらけ		中	口口	10.4	2.5	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
162		かわらけ		大	口口	13.4	3.4	7.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
163		かわらけ		大	口口	13.0	3.7	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
164		かわらけ		大	口口	13.7	3.7	6.2	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
165		かわらけ		大	口口	12.4	3.4	7.0	微砂粒混 淡褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
166		かわらけ		大	口口	13.0	3.6	7.6	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
167		かわらけ		大	口口	12.4	3.4	8.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	板状圧痕 摩滅
168		かわらけ		大	口口	10.5	3.5	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
169		かわらけ		中	口口	11.0	3.5	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
170		かわらけ		中	口口	10.2	3.3	5.8	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	内面に文字?
171		かわらけ		小	口口	7.6	2.2	5.8	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
172		かわらけ		小	口口	7.5	2.5	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着 底部摩滅
173		かわらけ		小	口口	8.0	2.0	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
174		かわらけ		小	口口	7.6	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕

第36表 1区出土遺物一覧表(3)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径		底径			
						口径	器高				
175		かわらけ		小	ロクロ	7.8	2.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス 板状圧痕
176		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
177		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.2	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
178		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
179		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.2	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着
180		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
181		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
182		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.2	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	底部板状圧痕
183		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.2	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部摩滅
184		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.0	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
185		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部摩滅
186		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.1	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
187		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部摩滅
188		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.1	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着 底部摩滅
189		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	4.4	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
190		かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.0	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	摩滅著しい
191		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.1	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
192		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.0	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	摩滅著しい
193		かわらけ		小	ロクロ	8.0	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
194		かわらけ		小	ロクロ	6.6	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部摩滅著しい
195		かわらけ		小	ロクロ	6.7	2.0	4.0	微砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
196		かわらけ		小	ロクロ	7.7	1.9	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着 摩滅
197		かわらけ		小	ロクロ	7.0	1.9	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
198		かわらけ		小	ロクロ	7.4	1.9	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着 摩滅
199		かわらけ		小	ロクロ	9.0	1.9	6.0	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
200		かわらけ		小	ロクロ	8.2	2.0	5.0	微砂粒混 淡褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
201		かわらけ		小	ロクロ	8.8	2.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	摩滅著しい
202		かわらけ		小	ロクロ	9.0	2.0	6.0	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	二次焼成あり
203		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.4	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着 底部摩滅
204		かわらけ		小	ロクロ	8.0	1.8	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
205		かわらけ		小	ロクロ	8.0	2.2	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
206		かわらけ		小	ロクロ	8.1	2.1	5.4	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	
207		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
208		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.2	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
209		かわらけ		小	ロクロ	7.5	1.9	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス 板状圧痕
210		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.2	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
211		かわらけ		小	ロクロ	7.8	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
212		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.3	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部摩滅
213		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
214		かわらけ		小	ロクロ	7.1	2.0	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	底部板状圧痕
215		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.1	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
216		かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	
217		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.2	5.0	スリヤ・微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
218		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.1	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
219		かわらけ		小	ロクロ	8.0	1.8	6.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
220		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
221		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.2	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着 摩滅
222		かわらけ		小	ロクロ	7.5	2.2	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
223		かわらけ		小	ロクロ	7.0	1.9	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着
224		かわらけ		小	ロクロ	7.5	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	スス付着
225		かわらけ		小	ロクロ	7.6	1.7	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
226		かわらけ		小	ロクロ	8.0	2.3	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
227		かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.0	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
228		かわらけ		小	ロクロ	6.6	1.5	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	スス付着 摩滅
229		かわらけ		小	ロクロ	6.6	1.7	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
230		かわらけ		小	ロクロ	6.4	1.5	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
231		かわらけ		小	ロクロ	6.4	2.2	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	底部摩滅
232		かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.1	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着 底部摩滅
233		かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.2	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着 底部摩滅
234		かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.0	3.6	微砂粒混 淡褐色 良好	口縁一部欠	スス付着
235		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.5	4.5	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
236		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.6	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
237		かわらけ		小	ロクロ	6.6	2.4	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス付着
238		かわらけ		小	ロクロ	6.8	2.7	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	
239		かわらけ		小	ロクロ	7.3	2.9	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁1/2欠	スス付着
240		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.8	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
241		かわらけ		小	ロクロ	7.0	2.8	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
242		かわらけ		小	ロクロ	7.4	2.6	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
243		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.9	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	摩滅著しい
244		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.6	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス付着 摩滅
245		かわらけ		小	ロクロ	8.3	3.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
246		かわらけ		小	ロクロ	7.6	2.7	4.8	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス付着
247		かわらけ		大	手づくね	14.0	2.8	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
248		かわらけ		大	手づくね	14.0	3.0	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
249		かわらけ		大	手づくね	14.0	(2.6)	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
250		かわらけ		大	手づくね	14.0	2.7	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/5	
251		かわらけ		大	手づくね	13.0	3.1	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
252		かわらけ		大	手づくね	12.0	3.5	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	5/6	
253		かわらけ		小	手づくね	10.2	2.4	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス付着
254		かわらけ		小	手づくね	9.6	2.2	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
255		かわらけ		小	手づくね	9.8	2.1	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	スス付着
256		かわらけ		小	手づくね	9.0	1.9	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
257		かわらけ		小	手づくね	9.4	1.9	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
258		かわらけ		小	手づくね	9.0	2.1	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	摩滅著しい
259		かわらけ		小	手づくね	8.0	2.2	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
260		かわらけ		大	手づくね	10.0	2.9	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
261		瓦質製品	火鉢			37.0	-	-	砂粒 灰色(表面 灰黒色)	口縁部破片	

第37表 1区出土遺物一覽表(4)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
262		瓦質製品		火鉢	角型	-	-	-	砂粒 灰白色(表面 灰色)	口縁部破片	
263		瓦質製品		風炉		-	-	-	砂粒 淡灰色(表面 灰黑色)	口縁部破片	
264		瓦質製品		風炉		-	-	-	砂粒 灰白色(表面 灰色)	口縁部破片	
265		瓦質製品		香炉		14.7	-	-	砂粒 灰色(表面 灰黑色)	1/8	
266		瓦質製品		香炉		8.3	-	-	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	1/8	
267		瓦質製品		香炉		8.0	-	-	砂粒 橙褐色(表面 灰黑色)	1/8	
268		瓦質製品		燭台		7.8	-	-	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	皿部1/3	
269		瓦質製品		燭台		-	-	8.2	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	脚部破片	
270		瓦質製品		燭台		-	-	13.6	砂粒 灰白色(表面 暗灰色)	脚部破片	
271		瓦質製品		不明		-	-	-	砂粒 灰白色(表面 灰色)	脚部破片	酸化炎焼成
272		瓦		軒丸	巴 連珠文	瓦当径一 瓦当厚3.0 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成硬	瓦当1/3	
273		瓦		軒丸	巴 連珠文	瓦当径一 瓦当厚3.0 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成硬	瓦当1/4	
274		瓦		軒丸	巴文	瓦当径一 瓦当厚一 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成硬	破片	
275		瓦		軒丸	巴文	瓦当径一 瓦当厚(3.0) 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 暗灰色 烧成硬	瓦当1/4	
276		瓦		軒丸	巴 連珠文	瓦当径一 瓦当厚(2.2) 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成硬	破片	
277		瓦		軒丸	巴文	瓦当径一 瓦当厚(3.0) 全長一 体部高一 体部厚一	-	-	砂粒 暗灰色 烧成軟	破片	
278		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(3.0) 瓦当高(3.6) 瓦当厚1.8 全長一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成硬	破片	
279		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中22.8 瓦当高5.7 瓦当厚2.3 全長一 体部厚一	-	-	砂粒 明灰色 烧成やや軟	瓦当完形	
280		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(7.0) 瓦当高(5.6) 瓦当厚2.7 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	瓦当1/3	
281		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(13.5) 瓦当高(5.3) 瓦当厚(2.2) 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	瓦当3/4	
282		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(8.6) 瓦当高5.3 瓦当厚2.2 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	瓦当1/3	
283		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(9.0) 瓦当高5.4 瓦当厚2.3 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	瓦当1/3	
284		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(4.5) 瓦当高5.4 瓦当厚2.4 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
285		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(3.5) 瓦当高5.2 瓦当厚2.5 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
286		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(5.4) 瓦当高5.3 瓦当厚(1.5) 全長一 体部厚一	-	-	砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
287		瓦		軒平	刺頭文	瓦当中(2.4) 瓦当高(4.0) 瓦当厚(1.5) 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
288		瓦		軒平	半截花文	瓦当中(8.4) 瓦当高5.4 瓦当厚(1.9) 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 黑褐色 烧成軟	瓦当1/3	
289		瓦		軒平	半截花文	瓦当中(4.0) 瓦当高(4.5) 瓦当厚2.1 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
290		瓦		軒平	半截花文	瓦当中(2.5) 瓦当高4.9 瓦当厚2.0 全長一 体部厚一	-	-	砂粒 暗灰色 烧成軟	破片	
291		瓦		軒平	半截花文	瓦当中(2.2) 瓦当高(3.3) 瓦当厚一 全長一 体部厚一	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
292		瓦		軒平	凸・ナデ 凹・布目	瓦当中一 瓦当高一 瓦当厚一 全長(12.1) 体部厚2.5	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
293		瓦		軒平	凸・ナデ 凹・布目	瓦当中一 瓦当高一 瓦当厚一 全長(10.3) 体部厚2.1	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
294		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(12.9) 巾(9.5) 高6.0 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
295		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(13.5) 巾(7.0) 高7.0 厚1.8	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
296		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(7.4) 巾(5.9) 高(5.4) 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
297		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(8.2) 巾(7.3) 高(6.0) 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
298		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(8.9) 巾(8.9) 高6.6 厚2.3	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
299		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(13.8) 巾(6.6) 高(6.6) 厚	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
300		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(7.9) 巾(7.0) 高(6.4) 厚2.3	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成やや軟	破片	
301		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(8.3) 巾(3.8) 高(4.4) 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
302		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(10.8) 巾(9.2) 高一 厚2.2	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
303		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(3.0) 巾(4.2) 高(5.3) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
304		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(7.1) 巾(9.5) 高一 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
305		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(7.2) 巾(4.4) 高(5.3) 厚1.9	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
306		瓦		丸	凸・縄目 凹・布目	全長(4.3) 巾(4.1) 高(5.1) 厚1.6	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
307		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(9.8) 巾(8.2) 厚2.3	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
308		瓦		平	凸・縄目・ナデ 凹・布目	全長(16.0) 巾(12.6) 厚2.2	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	上部1/5	
309		瓦		平	凸・縄目 凹・ナデ	全長(20.8) 巾(15.4) 厚2.1	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成軟	胴部1/3	
310		瓦		平	凸・ナデ 凹・布目・ナデ	全長(11.3) 巾(8.0) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
311		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長33.2 巾(17.2) 厚2.3	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	1/2	
312		瓦		平	凸・縄目 凹・?	全長(13.5) 巾(12.5) 厚2.3	-	-	砂粒 暗灰色 烧成軟	下部1/5	
313		瓦		平	凸・ナデ 凹・布目・ナデ	全長(14.3) 巾(9.7) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成やや軟	破片	
314		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(12.6) 巾(11.5) 厚2.4	-	-	砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
315		瓦		平	凸・ナデ 凹・布目・ナデ	全長(13.3) 巾(8.2) 厚2.6	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
316		瓦		平	凸・格子目 凹・ナデ	全長(9.5) 巾(11.7) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
317		瓦		平	凸・ナデ 凹・ナデ	全長(15.1) 巾(7.5) 厚1.9	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
318		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(13.0) 巾(14.1) 厚2.4	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	下部1/5	
319		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(10.9) 巾(7.2) 厚2.5	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
320		瓦		平	凸・縄目 凹・ナデ	全長(10.3) 巾(9.3) 厚2.4	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
321		瓦		平	凸・縄目 凹・布目	全長(11.0) 巾(9.7) 厚2.2	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
322		瓦		平	凸・縄目 凹・ナデ	全長(15.9) 巾(7.5) 厚2.2	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
323		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(17.8) 巾(9.8) 厚2.5	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	下部1/5	
324		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(17.0) 巾(9.0) 厚2.6	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
325		瓦		平	凸・縄目 凹・ナデ	全長(13.3) 巾(9.9) 厚2.3	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
326		瓦		平	凸・縄目 凹・布目・ナデ	全長(11.5) 巾(11.8) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
327		瓦		平	凸・縄目 凹・布目	全長(10.0) 巾(7.9) 厚2.0	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成硬	破片	
328		瓦		平	凸・縄目 凹・ナデ	全長(10.5) 巾(13.2) 厚2.4	-	-	長石 砂粒 灰色 烧成やや軟	破片	
329		瓦		平	凸・ナデ 凹・ナデ	全長(8.0) 巾(6.5) 厚2.3	-	-	長石 砂粒 暗灰色 烧成硬	破片	
330		石製品		鉢(滑石)		口径一 器高一 底径一	-	-		破片	
331		石製品		鉢?(滑石)		口径一 器高一 底径一	-	-		破片	
332		石製品		温石(滑石)		長(5.6) 幅10.8 厚2.3	-	-		破片	近世?
333		石製品	天草	砥石	中砥	長(6.8) 幅2.8 厚2.8	-	-		上・下端欠損	砥面(4)面

第38表 1区出土遺物一覧表(5)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
334		石製品	天草	砥石	中砥	長(7.3)	幅(4.6)	厚(1.8)		上・下端欠損	砥面(4)面
335		石製品	伊予	砥石	中砥	長(4.1)	幅(2.8)	厚(0.7)		上・下端欠損	砥面(2)面
336		石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(3.9)	幅(2.7)	厚(0.5)		上端部のみ	砥面(2)面
337		石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(3.3)	幅(3.2)	厚(0.6)		上端部のみ	砥面(1)面
338		石製品	鳴滝	砥石	仕上砥	長(4.8)	幅(2.7)	厚(0.9)		破片	砥面(2)面
339		銭貨		北宋銭	聖宋元宝					一部欠損	裏書 初鑄1101年
340		近世陶磁器	唐津	碗		12.0	4.3	4.0	乳白色 釉 透明	1/6	鉄絵あり
341		近世陶磁器	瀬戸美濃	皿(志野)	志野	12.6	2.3	7.0	淡褐色 釉 乳白色	1/5	17世紀後半
342		灰釉陶器	東遠	小碗	IV-2~3期	9.8			長石 砂粒 灰色		口縁部破片
343		灰釉陶器		碗				6.6	長石 砂粒 淡灰色		底部1/2
344		灰釉陶器		耳皿				4.2	長石 砂粒 淡灰色		底部~体部破片
345		灰釉陶器		瓶類					長石 砂粒多 灰色		肩部破片
346		須恵器		坏蓋					微砂粒 淡青灰色 良好		蓋部分2/3
347		須恵器		壺類					微砂粒 淡青灰色 良好		口縁部1/4
348		土製品		菅玉		長 5.7 径 1.5 孔径 0.5			砂粒 橙褐色 良好		ほぼ完形
349		弥生土器		壺					砂粒 淡~橙褐色 良好		肩部破片
		瓦		軒丸		瓦当径一 瓦当厚31 全長一 体部高一 体部厚一			長石 砂粒多 表 淡灰褐色 中 橙褐色 焼成やや軟		瓦当1/2
350		瓦		平	凸タタキ 凹 布目	全長(7.5) 巾(8.7) 厚2.2			長石 砂粒 青灰色 焼成硬		破片 古代
352		瓦		平	凸タタキ 凹 ナデ	全長(6.5) 巾(4.1) 厚1.4			長石 砂粒 表 青灰色 中 赤褐色		破片 古代
353		瓦		平	凸タタキ 凹 ナデ	全長(10.1) 巾(9.9) 厚2.4			長石 砂粒 表 青灰色 中 赤褐色		破片 古代

第39表 2区出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 碗	IV類				白色 釉 淡青灰白色 透明		口縁部破片
2		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類				淡灰白色 釉 灰白色 透明		体部破片
3		貿易陶磁		白磁 碗	V類?				白色 釉 灰白色 透明		体部破片
4		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類				灰白色 釉 青白色 不透明		底部1/4
5		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類				6.0 灰白色 釉 青白色 不透明		底部1/4
6		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類				6.4 灰白色 釉 緑味灰白色 透明		底部1/4
7		貿易陶磁		白磁 碗	V・VII類 (水平)	16.2			灰白色 釉 灰白色 透明		口縁部1/8 貫入あり
8		貿易陶磁		白磁 碗	V・VII類 (水平)				淡灰褐色 釉 薄緑灰色		口縁部破片
9		貿易陶磁		白磁 碗	V・VII類 (外反)				灰白色 釉 緑味灰白色 透明		口縁部破片
10		貿易陶磁		白磁 碗	V・VII類 (外反)				灰白色 釉 灰白色 透明		口縁部破片
11		貿易陶磁		白磁 碗	V・VII類 (外反)				灰白色 釉 緑味灰白色 透明		口縁部破片
12		貿易陶磁		白磁 皿	IX類				白色 釉 灰白色 透明		口縁部破片
13		貿易陶磁		白磁 四耳壺	III類				6.0 灰白色 釉 灰白色 透明		底部1/4 底部無軸
14		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗					7.6 灰白色 釉 青味灰白色		底部1/2
15		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗					淡灰褐色 釉 薄緑褐色		体部破片
16		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗					淡灰褐色 釉 薄緑灰色		体部破片
17		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗					5.2 灰色 釉 暗緑色		底部1/4
18		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿					灰白色 釉 薄緑灰色 透明		底部1/4
19		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿					5.0 灰白色 釉 薄緑色		底部1/3
20		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿					4.5 灰白色 釉 薄青緑色		底部1/3 底裏無軸
21		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (I-2類)	15.0			3.2 淡灰色 釉 薄緑褐色		底部1/3
22		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (I-2類)	14.0			淡灰色 釉 薄青緑色		口縁部破片
23		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (I-5類)				灰白色 釉 淡青緑色 不透明		口縁部破片
24		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (I-5類)				灰白色 釉 暗緑灰色		口縁部破片
25		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B2類				淡灰色 釉 薄緑灰色		口縁部破片
26		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B3類	15.0			灰白色 釉 淡青緑色		口縁部破片 貫入あり
27		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類				灰白色 釉 薄青緑色 不透明		口縁部破片
28		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤					12.2 灰~橙褐色 釉 淡青灰色		底部1/8 釉不透明 貫入あり
29		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤					11.0 灰白色 釉 薄青緑色		底部破片
30		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	蓮弁折縁				5.2 淡灰色 釉 深緑灰色 不透明		底部1/4 見込みに双魚文
31		貿易陶磁		青白磁 碗		16.4			灰白色 釉 薄緑色		口縁部1/6 貫入あり 発色不良
32		貿易陶磁		青白磁 皿					灰白色 釉 薄青白色		口縁部破片
33		貿易陶磁		青白磁 合子類		5.6			白色 釉 青白色		体部1/8
34		貿易陶磁		陶器 天目茶碗					灰白色 釉 暗茶褐色		口縁部破片
35		貿易陶磁		陶器 緑釉盤					淡~灰褐色 釉 薄緑灰色		底部破片
36		貿易陶磁		陶器 緑釉盤					橙褐色 釉 薄緑色		破片
37		貿易陶磁		陶器 緑釉壺?					橙褐色 釉 薄緑色		頸部破片
38		貿易陶磁		陶器 黄釉盤					淡灰褐色 釉 淡黄褐色		口縁部破片
39		貿易陶磁		陶器 黄釉盤					灰白色 釉 黄褐色		底部破片 内面鉄絵
40		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 中IV期	11.8			灰白色 釉 茶~黒褐色		1/4底部欠
41		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後I期	10.9			乳白色 釉 茶~黒褐色		口縁部1/5
42		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後II期	12.0			灰白色 釉 茶~黒褐色		口縁部1/6
43		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後II期	12.2			淡灰褐色 釉 薄緑褐色		口縁部1/4
44		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	灰釉 後II期	11.6			淡褐色 釉 薄緑色		口縁部破片
45		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	灰釉 後III期	11.6			乳白色 釉 薄緑色		1/6 外面釉剥落
46		国産陶器	瀬戸美濃	小天目茶碗	鉄釉 後II期	9.0	4.0	3.4	淡褐色 釉 茶褐色		1/2
47		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後II期	11.0	2.1	5.0	灰白色 釉 薄緑色		1/3
48		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後I・II期				5.7 淡灰褐色 釉 薄緑色		底部1/2
49		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後III~IV前期				5.2 淡灰褐色		底部のみ
50		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後IV前期	9.6	2.6	4.5	灰白色 釉 薄緑褐色		2/3(口縁1/8)
51		国産陶器	瀬戸美濃	折縁深皿	灰釉 中IV期	22.4			淡褐色 釉 薄黄緑色		口縁部破片
52		国産陶器	瀬戸美濃	摺鉢	鉄釉 後IV中期	(25.0)			灰色 釉 赤褐色		口縁部破片
53		国産陶器	瀬戸美濃	盤類	鉄釉 後I・II期				乳白色 釉 淡黄褐色		底部1/4
54		国産陶器	瀬戸美濃	摺鉢	鉄釉 後IV期~大窯				淡褐色 釉 暗茶褐色		底部1/2
55		国産陶器	瀬戸美濃	浅碗	鉄釉 後III期	13.4			淡灰色 釉 茶褐色		破片
56		国産陶器	瀬戸美濃	平底末広碗	灰釉 中IV期	10.2	3.7		乳白色 釉 淡褐色		1/2
57		国産陶器	瀬戸美濃	大海茶入	鉄釉 中III期	7.2			灰色 釉 黒~茶褐色		口縁部1/3
58		国産陶器	瀬戸美濃	皿(志野鉄絵)	志野 大窯4後段階	12.0	2.9		淡灰褐色 釉 乳白色		3/4
59		国産陶器	瀬戸美濃	山茶碗 片口鉢	6型式				灰色		口縁部破片 瀬戸系
60		国産陶器	常滑	壺	2型式				砂粒 灰色		口縁部破片
61		国産陶器	常滑	壺	3型式				砂粒 灰色		口縁部破片

第40表 2区出土遺物一覧表(2)

単位cm ()は残存値

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
62		国産陶器	常滑	甕	3型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
63		国産陶器	常滑	甕	3型式	—	—	—	長石 砂粒 暗灰褐色	口縁部破片	
64		国産陶器	常滑	甕	8型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
65		国産陶器	常滑	甕	8型式	—	—	—	砂粒多 灰色	口縁部破片	
66		国産陶器	常滑	甕	3型式	—	—	—	砂粒 灰～橙褐色	口縁部破片	
67		国産陶器	常滑	甕	5型式	—	—	—	砂粒 灰～橙褐色	口縁部破片	
68		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅰ	2～3型式	—	—	—	微砂粒 淡灰色	口縁部破片	
69		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	6a～6b型式	—	—	—	長石 砂粒多 灰～暗赤褐色	口縁部破片	
70		国産陶器	渥美	鉢		32.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	12世紀後半
71		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	10型式	28.0	—	—	砂粒 灰褐色	口縁部破片	
72		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	9型式	—	—	—	砂粒 橙褐色	底部破片	
73		国産陶器	瀬美湖西	片口鉢		—	—	14.0	微砂粒 灰色	底部1/5	12世紀代
74		国産陶器	東遠江系	碗	金谷Ⅲ-1	14.9	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
75		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(Ⅲ)Ⅲ-2	8.2	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
76		国産陶器	東遠江系	片口鉢	金谷Ⅰ～Ⅱ	—	—	—	微砂粒 灰色	底部破片	
77		国産陶器	東遠江系	片口鉢	金谷Ⅱ-1	15.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
78		かわらけ			大 □□□	14.0	4.1	8.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	歪み著しい
79		かわらけ			大 □□□	14.1	4.0	7.4	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
80		かわらけ			大 □□□	14.0	4.0	8.2	砂質 淡褐色 良好	2/3	
81		かわらけ			大 □□□	13.1	4.4	7.4	砂質 淡褐色 良好	1/3	
82		かわらけ			大 □□□	13.1	3.9	8.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
83		かわらけ			大 □□□	13.0	3.5	8.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
84		かわらけ			大 □□□	14.8	3.1	8.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
85		かわらけ			大 □□□	13.1	3.7	7.6	微砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
86		かわらけ			大 □□□	14.1	3.5	8.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
87		かわらけ			大 □□□	14.3	3.6	9.0	砂粒多混 淡褐色 良好	1/4	
88		かわらけ			大 □□□	14.0	4.3	8.7	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/6	
89		かわらけ			大 □□□	14.0	3.4	8.8	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
90		かわらけ			小 □□□	9.8	2.4	6.0	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
91		かわらけ			小 □□□	9.3	2.3	6.1	砂粒混 淡褐色 良好	完形	
92		かわらけ			小 □□□	9.3	2.1	5.5	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
93		かわらけ			小 □□□	9.2	2.4	6.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
94		かわらけ			小 □□□	9.5	2.3	5.5	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	歪み著しい
95		かわらけ			小 □□□	9.6	2.4	5.5	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
96		かわらけ			小 □□□	9.6	2.0	6.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
97		かわらけ			小 □□□	9.3	2.0	5.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	板状圧痕 歪み
98		かわらけ			小 □□□	9.2	2.5	5.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
99		かわらけ			小 □□□	10.0	2.6	6.6	砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
100		かわらけ			小 □□□	9.2	2.1	5.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
101		かわらけ			小 □□□	9.4	2.1	5.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
102		かわらけ			小 □□□	8.4	2.0	5.5	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	
103		かわらけ			小 □□□	8.8	2.2	4.6	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	底部穿孔 板状
104		かわらけ			小 □□□	10.4	3.0	6.5	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
105		かわらけ			小 □□□	9.8	2.3	5.7	砂粒多混 淡褐色 良好	2/3	
106		かわらけ			小 □□□	10.0	2.6	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
107		かわらけ			小 □□□	9.8	1.7	6.3	砂粒混 淡橙褐色 良好	4/5	
108		かわらけ			小 □□□	10.0	1.9	6.8	砂粒多混 淡褐色 良好	4/5	歪み著しい
109		かわらけ			小 □□□	10.5	2.2	5.8	砂粒多混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
110		かわらけ			小 □□□	10.2	1.9	6.5	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
111		かわらけ			小 □□□	9.3	2.2	6.1	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
112		かわらけ			小 □□□	8.6	2.3	5.2	砂質 淡褐色 良好	1/3	
113		かわらけ			小 □□□	9.1	2.2	5.8	砂粒多混 淡橙褐色 良好	2/3	
114		かわらけ			小 □□□	9.0	2.5	5.6	砂質 淡橙褐色 良好	4/5	
115		かわらけ			小 □□□	9.3	2.7	5.8	砂質 淡橙褐色 良好	2/3	
116		かわらけ			小 □□□	9.2	2.6	5.7	砂質 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
117		かわらけ			小 □□□	9.3	2.5	6.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
118		かわらけ			小 □□□	9.2	2.2	5.6	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
119		かわらけ			小 □□□	9.0	2.0	5.8	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
120		かわらけ			小 □□□	9.2	2.6	5.8	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/4	
121		かわらけ			小 □□□	9.0	2.4	5.8	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
122		かわらけ			小 □□□	8.5	2.4	5.2	砂質 淡褐色 良好	ほぼ完形	
123		かわらけ			小 □□□	9.0	2.5	5.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
124		かわらけ			小 □□□	9.0	2.3	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	
125		かわらけ			小 □□□	8.8	2.5	5.4	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
126		かわらけ			小 □□□	9.0	2.2	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
127		かわらけ			小 □□□	8.8	2.2	6.0	スリ7・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	
128		かわらけ			小 □□□	9.0	2.0	5.9	砂質 淡橙褐色 良好	1/3	
129		かわらけ			小 □□□	9.6	2.1	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
130		かわらけ			小 □□□	9.2	2.1	6.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	
131		かわらけ			小 □□□	9.1	2.4	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	口縁一部欠	
132		かわらけ			小 □□□	8.5	2.2	5.3	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	
133		かわらけ			小 □□□	9.6	1.8	5.8	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
134		かわらけ			小 □□□	10.0	2.0	6.4	砂粒多混 淡褐色 良好	1/4	
135		かわらけ			小 □□□	9.4	1.8	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	摩滅著しい
136		かわらけ			小 □□□	8.4	2.5	5.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
137		かわらけ			小 □□□	9.3	2.3	5.2	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
138		かわらけ			小 □□□	9.4	2.5	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
139		かわらけ			小 □□□	11.8	3.1	7.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
140		かわらけ			中 □□□	11.2	2.6	7.0	スリ7・微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	
141		かわらけ			中 □□□	10.6	2.9	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
142		かわらけ			中 □□□	11.6	2.9	7.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
143		かわらけ			中 □□□	10.4	3.0	6.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
144		かわらけ			中 □□□	10.6	2.9	6.2	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
145		かわらけ			中 □□□	10.4	3.2	6.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
146		かわらけ			中 □□□	11.4	3.2	7.3	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
147		かわらけ			中 □□□	10.0	3.0	5.6	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	器面剥落
148		かわらけ			中 □□□	9.4	2.6	6.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕

第41表 2区出土遺物一覧表(3)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						単位cm ()は残存値					
						口径	器高	底径			
149	かわらけ			中	ロクロ	10.0	3.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	摩滅著しい
150	かわらけ			中	ロクロ	10.4	3.2	5.6	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
151	かわらけ			中	ロクロ	11.8	3.9	6.0	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
152	かわらけ			中	ロクロ	10.3	3.7	6.3	砂粒・小砂利多混 橙褐色 良好	4/5	
153	かわらけ			中	ロクロ	10.0	3.3	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
154	かわらけ			小	ロクロ	9.2	2.1	5.4	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス付着
155	かわらけ			小	ロクロ	7.6	1.8	4.8	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	
156	かわらけ			小	ロクロ	7.8	2.1	4.1	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
157	かわらけ			小	ロクロ	6.9	1.9	5.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
158	かわらけ			小	ロクロ	7.2	1.7	4.3	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	口縁部スス付着
159	かわらけ			小	ロクロ	7.3	2.5	4.6	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
160	かわらけ			小	ロクロ	7.3	2.1	5.2	砂粒多混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
161	かわらけ			小	ロクロ	7.0	1.9	5.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
162	かわらけ			小	ロクロ	7.2	1.9	4.1	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	2/3	摩滅著しい
163	かわらけ			小	ロクロ	6.8	2.2	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
164	かわらけ			小	ロクロ	6.4	1.6	4.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
165	かわらけ			小	ロクロ	7.0	1.6	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
166	かわらけ			小	ロクロ	8.8	2.1	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
167	かわらけ			小	ロクロ	8.1	2.2	5.8	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
168	かわらけ			小	ロクロ	8.0	2.2	6.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	底部板状圧痕
169	かわらけ			小	ロクロ	8.0	2.3	5.8	砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	スス 板状圧痕
170	かわらけ			小	ロクロ	8.0	2.0	5.5	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
171	かわらけ			小	ロクロ	7.6	2.1	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
172	かわらけ			小	ロクロ	7.5	2.1	5.4	微砂粒混 橙褐色 良好	完形	スス 板状圧痕
173	かわらけ			小	ロクロ	7.4	2.0	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	スス 板状圧痕
174	かわらけ			小	ロクロ	7.6	1.7	5.2	砂粒混 淡橙褐色 良好	3/4	スス 板状圧痕
175	かわらけ			小	ロクロ	7.0	1.7	4.7	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	器面剥落
176	かわらけ			小	ロクロ	7.8	1.9	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
177	かわらけ			小	ロクロ	6.9	2.4	3.4	砂粒混 淡橙褐色 良好	完形	口縁部スス付着
178	かわらけ			小	ロクロ	7.6	2.4	4.6	砂粒多混 橙褐色 良好	3/4	底部板状圧痕
179	かわらけ			小	ロクロ	6.6	2.6	3.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
180	かわらけ			小	ロクロ	6.4	2.4	4.2	微砂粒混 橙褐色 良好	3/4	
181	かわらけ			小	ロクロ	6.5	2.5	4.0	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	回転ヘラ切り
182	かわらけ			大	手づくね	14.4	2.8	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
183	かわらけ			大	手づくね	14.8	3.0	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
184	かわらけ			大	手づくね	14.6	2.7	丸	砂粒多混 淡褐色 良好	1/3	
185	かわらけ			大	手づくね	14.0	(3.5)	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
186	かわらけ			小	手づくね	9.6	1.8	丸	砂粒多混 淡褐色 良好	1/4	
187	かわらけ			小	手づくね	9.8	1.8	丸	砂粒多混 淡褐色 良好	2/3	
188	かわらけ			小	手づくね	9.4	1.7	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	2/3	
189	かわらけ			小	手づくね	10.0	1.9	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
190	かわらけ			小	手づくね	10.0	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
191	かわらけ			小	手づくね	10.0	1.9	丸	砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
192	かわらけ			小	手づくね	10.0	1.8	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
193	かわらけ			小	手づくね	9.6	(1.7)	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
194	かわらけ			小	手づくね	9.7	1.9	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
195	かわらけ			小	手づくね	8.8	1.9	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
196	かわらけ			小	手づくね	9.8	1.8	丸	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
197	かわらけ			小	手づくね	10.0	1.7	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
198	かわらけ			小	手づくね	10.0	2.5	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	5/6	
199	かわらけ			小	手づくね	7.5	1.8	丸	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
200	瓦質製品	火鉢							スコリア 砂粒 橙褐色(表面 暗灰色)	口縁部破片	大型スタンプあり
201	瓦質製品	香炉				8.8	3.5	6.0	スコリア 砂粒 淡橙褐色(表面 暗灰色)	1/6	
202	瓦質製品	香炉				9.6	-	-	スコリア 砂粒 淡~橙褐色	1/8	酸化炎焼成
203	瓦質製品	不明				-	-	8.0	スコリア 砂粒 淡橙褐色	底部1/3	酸化炎焼成
204	土製品	香炉?				口径 5.2	器高 -	底径 -	微砂粒 淡橙褐色 良好	1/3	
205	瓦	軒丸		巴文		瓦当径一 瓦当厚(3.3)	全長一 体部高	厚	長石 砂粒 暗灰色 焼成軟	瓦当1/2	
206	瓦	軒丸		蓮珠文		瓦当径一 瓦当厚(2.2)	全長一 体部高	厚	砂粒 暗灰色 焼成軟	瓦当破片	
207	瓦	軒平		刺頭文		瓦当中(3.0) 瓦当高(3.9)	瓦当厚2.2	全長一 体部厚	長石 砂粒 灰色 焼成硬	瓦当破片	
208	瓦	軒平		半截花文		瓦当中(3.0) 瓦当高(2.9)	瓦当厚2.3	全長一 体部厚	長石 砂粒 黒褐色 焼成軟	瓦当破片	
209	瓦	平		凸 ナデ 凹 布目		全長(12.7)	巾(10.1)	厚2.5	長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部1/5	
210	瓦	平		凸 縄目 凹 布目 ナデ		全長(11.5)	巾(8.8)	厚1.7	長石 砂粒 灰色 焼成やや軟	破片	
211	瓦	平		凸 縄目 凹 ナデ		全長(12.5)	巾(11.5)	厚2.5	長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	上部破片	
212	瓦	平		凸 格子目 凹 ナデ		全長(9.1)	巾(7.1)	厚2.5	長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
213	石製品	鳴滝		砥石		長(5.5)	幅3.1	厚0.6		上端部のみ	砥面(5)面
214	石製品	上野		砥石		長(7.1)	幅2.8	厚0.9		上・下端欠損	砥面(4)面
215	石製品	伊予		砥石		長(19.8)	幅(6.0)	厚4.9		上・下端欠損	砥面(3)面
216	銭貨		北宋銭	聖宋元宝						完存	篆書 初鑄1101年
217	銭貨		北宋銭	元祐通宝						完存	篆書 初鑄1086年
218	近世陶磁器	瀬戸美濃		灯明皿		9.6	1.6	4.0	灰色 釉 赤茶色	1/4	
219	須恵器			瓶類		-	-	6.0	砂粒 内面 橙褐色 表面 灰褐色	底部1/4	在地(花坂?)
220	灰釉陶器			碗	K-14	-	-	6.8	微砂粒 淡灰色	1/5	
221	土製品			菅玉		長 4.4	径 1.8	孔径 0.5	微砂粒 灰褐色 良好	完形	
222	土製品			菅玉		長 2.3	径 1.5	孔径 0.5	微砂粒 灰色 良好	1/3	

第42表 3区出土遺物一覧表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 碗	IV類	15.0	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
2		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類	—	—	—	灰白色 釉 緑味灰白色 透明	口縁部破片	貫入あり
3		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類	—	—	—	灰白色 釉 緑味灰白色 透明	口縁部破片	
4		貿易陶磁		白磁 碗	V・VI類 (水平)	—	—	—	白色 釉 緑味灰白色 透明	口縁部破片	
5		貿易陶磁		白磁 碗・皿	IX類	—	—	—	白色 釉 青味灰白色 透明	口縁部破片	
6		貿易陶磁		白磁 皿	V・VI類	10.4	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
7		貿易陶磁		白磁 四耳壺	III類	—	—	—	灰白色 釉 緑味灰白色 透明	頸部破片	
8		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰色 釉 薄緑褐色 透明	口縁部破片	
9		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	灰白色 釉 薄緑灰色 透明	体部破片	
10		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑褐色 透明	体部破片	
11		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰褐色 釉 薄緑褐色 透明	体部破片	
12		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	灰色 釉 薄緑色 透明	体部破片	
13		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	5.3	橙～灰褐色 釉 薄緑白色	底部のみ	
14		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿	—	—	—	4.0	淡灰色 釉 薄緑褐色	底部1/4	
15		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (I-2類)	—	—	—	淡灰色 釉 灰緑色 透明	口縁部破片	
16		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A3類 (I-3類)	—	—	—	灰白色 釉 淡緑灰色	体部破片	
17		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (I-2類)	—	—	5.9	淡灰色 釉 淡緑灰色 透明	底部のみ	
18		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (I-5類)	—	—	—	淡灰色 釉 オリーブ色	口縁部破片	
19		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (I-5類)	—	—	—	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部破片	釉厚い
20		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B3類	—	—	—	淡灰色 釉 薄緑灰色	口縁部破片	
21		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰色 釉 薄緑灰色	口縁部破片	
22		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	14.8	—	—	淡灰色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部1.8	
23		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D2類	15.4	—	—	淡灰～橙褐色 釉 オリーブ色	口縁部1.6	
24		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤	蓮弁折縁	—	—	—	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部破片	
25		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	蓮弁折縁	—	—	—	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部破片	
26		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	稜花皿	11.0	2.8	5.2	灰白色 釉 淡青灰色 不透明	1/3	
27		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	—	白色 釉 薄青白色 透明	口縁部破片	
28		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	—	白色 釉 薄青白色 透明	口縁部破片	雷文あり
29		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	3.4	白色 釉 薄青白色 透明	底部1/3	
30		貿易陶磁		青白磁 盤類?	—	—	—	8.0	白色 釉 青白色 透明	底部1/5	
31		貿易陶磁		青白磁 梅瓶	—	—	—	—	白色 釉 青白色 透明	胴部破片	
32		貿易陶磁		青白磁 梅瓶	—	—	—	9.4	灰白色 釉 青灰白色	底部1/3	
33		貿易陶磁		陶器 黄釉盤	—	—	—	—	淡灰褐色 釉 黄褐色～茶色	口縁部破片	
34		貿易陶磁		陶器 緑釉壺?	—	—	—	—	橙灰褐色 釉 緑色	胴部破片	胴部内側無釉
35		貿易陶磁		染付 皿	B1群	—	—	—	白色 釉 透明 呉須 青色	口縁部破片	
36		貿易陶磁		染付 皿	B1群	13.6	—	—	白色 釉 透明 呉須 青色	口縁部破片	
37		貿易陶磁		染付 皿	B1群	6.8	—	—	白色 釉 透明 呉須 濃青色	口縁部破片	
38		国産陶器	瀬戸美濃	八棱皿	鉄釉 後Ⅲ期	6.5	—	—	淡褐色 釉 黒褐色	口縁部1/5	
39		国産陶器	瀬戸美濃	直縁大皿	灰釉 後Ⅲ期	27.0	—	—	灰色 釉 乳白色	口縁部破片	
40		国産陶器	瀬戸美濃	丸皿	灰釉 大窯2後段階	11.0	2.6	6.2	淡灰褐色 釉 淡緑灰色	1/6	
41		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 大窯3段階	11.8	—	—	淡灰褐色 釉 茶褐色	口縁部破片	
42		国産陶器	常滑	壺	2型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
43		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	9型式	—	—	—	長石 砂粒 内 灰色 外 赤褐色	口縁部破片	
44		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	9～10型式	—	—	—	長石 砂粒 橙褐色	口縁部破片	
45		国産陶器	常滑	壺	11～12型式	12.4	—	—	砂粒 赤褐色	口縁部1/4	
46		国産陶器	渥美湖西	片口鉢	—	30.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	12世紀代
47		国産陶器	湖西	山茶碗	—	18.0	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	12世紀末
48		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿)Ⅲ-1	7.2	2.2	4.1	微砂粒 灰色	1/5	
49		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿)Ⅲ-1?	—	—	—	微砂粒 灰色	底部(ほぼ)完形	
50		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷(皿)Ⅲ-2?	—	—	—	微砂粒 灰色	底部1/2	
51		かわらけ		大 口口口		13.1	4.1	8.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
52		かわらけ		大 口口口		13.0	3.5	7.7	砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
53		かわらけ		大 口口口		14.0	3.5	7.8	砂粒混 淡褐色 良好	4/5	
54		かわらけ		大 口口口		13.9	3.2	8.0	砂粒多混 明橙褐色 良好	2/3	
55		かわらけ		大 口口口		14.0	4.4	8.2	砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
56		かわらけ		大 口口口		14.0	4.2	7.6	砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	剥落著しい
57		かわらけ		大 口口口		14.4	3.3	8.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
58		かわらけ		大 口口口		12.6	3.3	7.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
59		かわらけ		大 口口口		14.0	4.4	8.2	砂粒・小砂粒多混 淡橙褐色 良好	体部4/5	
60		かわらけ		大 口口口		14.0	(3.1)	(3.1)	砂粒混 橙褐色 良好	体部1/3	
61		かわらけ		大 口口口		—	(2.9)	8.0	砂粒混 橙褐色 良好	底部1/3	
62		かわらけ		大 口口口		—	(1.7)	7.4	石英・砂粒混 橙褐色 良好	底部1/3	
63		かわらけ		大 口口口		14.4	4.3	7.0	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	
64		かわらけ		大 口口口		15.0	4.5	8.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
65		かわらけ		大 口口口		14.0	4.0	6.8	砂粒・小砂粒混 橙褐色 良好	1/5	
66		かわらけ		大 口口口		13.4	3.3	7.3	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
67		かわらけ		大 口口口		13.2	2.9	8.0	砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	
68		かわらけ		大 口口口		14.0	3.5	7.3	スリ7・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/5	
69		かわらけ		大 口口口		14.6	4.1	9.0	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
70		かわらけ		大 口口口		13.4	4.0	8.2	微細 橙褐色 良好	1/3	
71		かわらけ		大 口口口		12.7	4.0	7.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
72		かわらけ		大 口口口		11.0	3.3	7.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
73		かわらけ		小 口口口		10.2	2.6	6.6	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
74		かわらけ		小 口口口		9.0	2.4	5.2	砂粒混 淡褐色 良好	1/5	
75		かわらけ		小 口口口		10.6	2.4	6.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
76		かわらけ		小 口口口		9.3	2.5	5.3	砂粒多混 淡褐色 良好	4/5	
77		かわらけ		小 口口口		9.5	2.6	4.9	スリ7・砂粒多混 淡褐色 やや良好	1/2	
78		かわらけ		小 口口口		9.8	2.7	5.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
79		かわらけ		小 口口口		9.8	2.7	6.6	砂粒多混 粗 淡褐色 良好	1/4	
80		かわらけ		小 口口口		9.4	2.4	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
81		かわらけ		小 口口口		8.8	2.0	6.4	砂粒混 灰～橙褐色 良好	完形	
82		かわらけ		小 口口口		9.0	2.0	5.4	砂粒混 灰～橙褐色 良好	完形	
83		かわらけ		小 口口口		9.4	2.2	5.2	砂粒混 橙～茶褐色 良好	完形	
84		かわらけ		中 口口口		10.7	2.7	6.6	微砂粒混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
85		かわらけ		中 口口口		11.0	3.2	7.0	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
86		かわらけ		中 口口口		10.9	3.0	6.6	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	ほぼ完形	底部板状圧痕
87		かわらけ		中 口口口		11.0	2.7	7.6	スリ7・砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕

第43表 3区出土遺物一覽表(2)

単位:cm ()は残存値

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考	
						口径	器高	底径				
88		かわらけ			中	ロクロ	11.0	2.7	7.2	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
89		かわらけ			中	ロクロ	11.8	2.7	8.0	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
90		かわらけ			中	ロクロ	11.6	2.8	7.6	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
91		かわらけ			中	ロクロ	9.4	2.9	6.0	スリア・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
92		かわらけ			中	ロクロ	10.0	2.9	6.0	砂粒多混 粗 淡橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
93		かわらけ			中	ロクロ	13.8	3.9	7.5	砂粒少混 微細 淡褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
94		かわらけ			中	ロクロ	11.2	3.2	5.8	砂粒混 やや微細 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
95		かわらけ			中	ロクロ	11.2	2.8	6.0	砂粒多混 ガガツ 橙褐色 良好	1/4	摩滅著しい
96		かわらけ			中	ロクロ	10.6	3.0	6.0	砂粒混 淡褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
97		かわらけ			中	ロクロ	11.0	3.2	6.0	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/2	器面剥落
98		かわらけ			中	ロクロ	11.0	3.4	6.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
99		かわらけ			中	ロクロ	11.2	3.2	6.6	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	底2/3 口破片	底部板状圧痕
100		かわらけ			中	ロクロ	13.4	3.0	8.0	砂粒混 微細 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
101		かわらけ			中	ロクロ	11.0	2.4	6.0	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
102		かわらけ			中	ロクロ	11.2	2.4	6.0	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス 板状圧痕
103		かわらけ			中	ロクロ	11.0	2.3	5.8	微砂粒混 緻密 淡褐色 良好	1/5	
104		かわらけ			中	ロクロ	11.6	2.4	6.0	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	摩滅著しい
105		かわらけ			中	ロクロ	9.9	2.5	4.5	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	完形	
106		かわらけ			小	ロクロ	9.6	1.7	7.0	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
107		かわらけ			小	ロクロ	7.7	2.0	5.0	砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス 板状圧痕
108		かわらけ			小	ロクロ	7.6	2.0	5.2	微細 やや軟 明橙褐色 良好	1/2	底部板状圧痕
109		かわらけ			小	ロクロ	8.0	2.3	5.0	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
110		かわらけ			小	ロクロ	6.6	1.5	4.6	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着
111		かわらけ			小	ロクロ	6.8	2.2	4.8	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	スス付着
112		かわらけ			小	ロクロ	6.6	2.1	4.8	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
113		かわらけ			小	ロクロ	7.4	2.4	5.0	砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	器面剥落
114		かわらけ			小	ロクロ	7.2	2.2	4.4	砂粒多混 淡橙褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
115		かわらけ			小	ロクロ	7.4	2.1	4.3	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス 板状圧痕
116		かわらけ			小	ロクロ	7.4	2.2	4.2	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	スス付着
117		かわらけ			小	ロクロ	7.2	2.3	4.4	微細 砂質 橙褐色 良好	1/3	底部板状圧痕
118		かわらけ			小	ロクロ	6.9	2.2	4.1	スリア・砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
119		かわらけ			小	ロクロ	7.6	2.4	4.0	スリア・砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	器面剥落
120		かわらけ			小	ロクロ	6.4	2.2	3.6	スリア・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	
121		かわらけ			小	ロクロ	6.4	2.0	4.0	砂粒多混 橙褐色 良好	2/3	
122		かわらけ			小	ロクロ	7.0	2.3	3.2	微細 淡黄褐色 良好	2/3	底部板状圧痕
123		かわらけ			小	ロクロ	7.0	1.9	3.6	砂粒混 淡橙褐色 良好	1/5	
124		かわらけ			小	ロクロ	7.1	2.5	4.0	砂粒多混 橙褐色 良好	2/3	器面剥落
125		かわらけ			大	手づくね	14.8	3.0	丸	砂粒多混 淡褐色 良好	1/4	
126		かわらけ			大	手づくね	13.4	2.1	丸	スリア・砂粒多混 淡橙褐色 良好	破片	
127		かわらけ			大	手づくね	11.6	3.5	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
128		かわらけ			小	手づくね	10.0	2.3	丸	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
129		かわらけ			小	手づくね	8.6	1.9	丸	スリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/5	
130		かわらけ			小	手づくね	8.0	(2.0)	丸	スリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
131		かわらけ			小	ロクロ	-	(1.7)	6.0	砂粒混 淡橙褐色 良好	底部破片	墨書あり
132		瓦質製品	火鉢	スタフ+連珠			35.0	-	-	微砂粒 灰色	-	口縁部破片
133		瓦質製品	風炉				24.8	-	-	スリア 砂粒 橙褐色	口縁部1/6	一部酸化炎焼成
134		瓦	丸	凸・ナデ 凹・布目		全長(8.9) 巾(7.8) 高一厚1.8				長石 砂粒 表 青灰色 中 赤褐色	破片	
135		瓦	平	凸・ナデ 凹・ナデ		全長(9.1) 巾(9.6) 厚2.2				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
136		瓦	平	凸・縄目・ナデ 凹・ナデ		全長(9.6) 巾(7.5) 厚2.2				長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片	
137		瓦	平	凸・縄目・ナデ 凹・ナデ		全長(13.3) 巾(7.7) 厚2.2				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
138		瓦	平	凸・縄目・ナデ 凹・ナデ		全長(11.0) 巾(7.6) 厚2.1				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
139		瓦	平	凸・縄目 凹・ナデ		全長(11.2) 巾(6.3) 厚2.3				長石 砂粒多 明灰色 焼成軟	破片	
140		瓦	平	凸・縄目 凹・ナデ		全長(6.4) 巾(9.0) 厚2.0				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
141		瓦	平	凸・縄目・ナデ 凹・布目		全長(13.2) 巾(10.9) 厚2.6				長石 砂粒 灰色 焼成硬	胴部1/5	
142		瓦	平	凸・縄目 凹・ナデ		全長(9.7) 巾(8.9) 厚1.7				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
143		瓦	平	凸・縄目 凹・ナデ		全長(9.5) 巾(12.7) 厚2.5				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	下部破片	
144		瓦	平	凸・縄目 凹・ナデ		全長(10.5) 巾(8.0) 厚2.1				長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片	
145		石製品		鍋(滑石)		口径一 器高一 底径一						破片
146		石製品	伊予	砥石	中砥	長(5.4) 幅4.7 厚1.4					上・下端欠損	砥面(4)面
147		石製品	上野	砥石	中砥	長(4.6) 幅2.5 厚1.2						破片 砥面(5)面
148		石製品	不明	香炉		長(7.8) 幅(9.6) 厚4.6					1/3	
149		石製品	不明	香炉?		長(8.2) 幅12.7 厚(8.2)					1/2	
150		石製品	不明			長(3.0) 幅2.5 厚1.0					破片	
151		石製品		軽石加工品		長12.6 幅11.7 厚7.4					完形	表裏加工
152		石製品		軽石加工品		長(6.5) 幅(4.1) 厚3.3					1/2	
153		石製品		軽石加工品		長(9.5) 幅(11.5) 厚6.0					1/2	
154		石製品		軽石加工品		長(19.3) 幅15.4 厚10.5					3/4	表裏加工
155		石製品		軽石加工品		長17.5 幅22.2 厚15.0					ほぼ完形	
156		銭貨		寛永通宝							一部欠損	新寛永
157		銭貨		北宋銭	皇宋通宝						完存	初鑄1038年
158		近世陶磁器	瀬戸美濃	皿		9.6	1.7	5.6	淡褐色 釉 乳白色	1/5	17世紀前半	
159		近世陶磁器	志戸呂	天目茶碗	鉄釉	登1小期併行	11.4	-	-	橙~灰褐色 釉 茶色	1/2	17世紀初頭
160		灰釉陶器		碗		16.4	-	-	長石 砂粒多 灰色	-	口縁部破片	
161		灰釉陶器		瓶類		-	-	8.0	砂粒多 灰色	-	底部2/3	
162		緑釉陶器		碗		-	-	8.0	微砂粒 橙褐色	-	底部破片	
163		土師器		高台付坏		13.2	6.2	9.2	長石 砂粒 濃橙褐色 良好	1/3		

第44表 4区出土遺物一覽表(1)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 碗	Ⅱ類	—	—	—	白色 釉黄味白色 透明	口縁部破片	貫入あり
2		貿易陶磁		白磁 碗	Ⅳ類	—	—	—	白色 釉灰白色 透明	口縁部破片	
3		貿易陶磁		白磁 碗	Ⅳ類	—	—	—	白色 釉灰白色 透明	口縁部破片	
4		貿易陶磁		白磁 碗	V・Ⅵ類 (外反)	—	—	—	灰白色 釉緑味灰白色 透明	口縁部破片	
5		貿易陶磁		白磁 皿	Ⅱ・Ⅲ類	—	—	—	白色 釉灰白色 透明	口縁部破片	
6		貿易陶磁		白磁 皿	Ⅳ類	—	—	—	白色 釉灰白色 透明	口縁部破片	
7		貿易陶磁		白磁 皿	V・Ⅵ類	9.4	—	—	灰白色 釉黄味白色 透明	口縁部破片	
8		貿易陶磁		白磁 皿	Ⅸ類 (印花)	9.8	—	—	白色 釉白色 透明	口縁部破片	貫入あり
9		貿易陶磁		白磁 皿	輪花皿	—	—	—	白色 釉白色 不透明	口縁部破片	
10		貿易陶磁		白磁 皿	B群	9.0	3.4	3.5	淡褐色 釉乳白色	1/2	
11		貿易陶磁		白磁 皿	C-1群	—	—	—	灰褐色 釉白色 不透明	口縁部破片	
12		貿易陶磁		白磁 皿	C-1群	—	—	7.0	灰白色 釉乳白色 不透明	底部1/4	
13		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰褐色 釉薄緑灰色	口縁部破片	
14		貿易陶磁	同安窯系	青磁 皿	—	—	—	4.0	淡灰褐色 釉薄緑褐色	底部1.5	
15		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類 (Ⅰ-2類)	—	—	6.0	淡灰色 釉暗緑色 透明	底部4.5	
16		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A4類 (Ⅰ-4類)	—	—	—	灰白色 釉淡青緑色 不透明	口縁部破片	
17		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A6類 (Ⅰ-6類)	—	—	—	淡灰色 釉薄緑灰色	口縁部破片	
18		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (Ⅰ-5類)	—	—	—	灰白色 釉薄青緑色 透明	口縁部破片	
19		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類 (Ⅰ-5類)	—	—	—	淡灰色 釉暗緑色 透明	底部のみ	
20		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	—	—	—	—	淡灰色 釉薄緑灰色 透明	口縁部破片	無文
21		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D2類	16.0	—	—	灰白色 釉青緑色	口縁部1.8	
22		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 盤	椀花 蓮弁	—	—	—	灰白色 釉淡青緑色	口縁部破片	
23		貿易陶磁		青白磁 皿	—	—	—	—	白色 釉青白色	口縁部破片	
24		貿易陶磁		青白磁 梅瓶	—	—	—	—	白色 釉青白色	体部破片	
25		貿易陶磁		陶器 褐釉有耳壺	—	—	—	—	灰褐色 釉茶色 不透明	肩部破片	
26		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後Ⅰ期	11.8	6.1	4.0	淡灰褐色 釉茶~黒褐色	1.3	
27		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後Ⅳ新期	12.0	—	—	淡灰白色 釉黒色	口縁部破片	
28		国産陶器	瀬戸美濃	天目茶碗	鉄釉 後Ⅳ新期	11.2	—	—	灰~橙褐色 釉濃茶褐色 光沢	1.8	
29		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後Ⅱ期	10.2	—	—	淡灰褐色 釉薄緑色	1.6底部欠損	
30		国産陶器	瀬戸美濃	端反or丸皿	灰釉 大窯1・2段階	—	—	5.0	灰色 釉濃緑灰色	底部1.2	
31		国産陶器	瀬戸美濃	端台	灰釉 後Ⅰ・Ⅱ期	—	—	—	淡灰色 釉濃緑色	頭部のみ	
32		国産陶器	瀬戸美濃	椀鉢	錆釉 大窯1段階	28.8	—	—	乳褐色 釉濃青紫色	口縁部破片	
33		国産陶器	瀬戸美濃	椀鉢	錆釉 後Ⅳ期~大窯	—	—	—	淡褐色 釉暗紫褐色	底部1.6	
34		国産陶器	常滑	甕	2型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
35		国産陶器	常滑	甕	6a型式	—	—	—	長石 砂粒 橙~灰褐色	口縁部破片	
36		国産陶器	常滑	甕	6b型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
37		国産陶器	常滑	甕	11型式	—	—	—	長石 砂粒 暗灰色	口縁部破片	
38		国産陶器	常滑	片口碗	5~6a型式	8.4	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
39		国産陶器	瀬美	小碗	—	8.4	3.1	4.5	砂粒多 淡灰色	2/3	12世紀第3四半期
40		国産陶器	湖西	山茶碗	—	—	—	7.0	砂粒多 淡灰色	底部、胴部の一部	12世紀末
41		国産陶器	東遠江系	碗	金谷Ⅰ-1	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
42		国産陶器	東遠江系	碗?	金谷Ⅰ-1?	10.0	—	—	微砂粒 灰色	口縁部破片	
43		国産陶器	東遠江系	輪花小皿	金谷Ⅰ-1	10.6	3.2	5.6	微砂粒 灰色	1.4	
44		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷Ⅰ-1	—	—	4.6	微砂粒 灰色	底部1.2	
45		国産陶器	東遠江系	小皿	金谷Ⅰ-1	—	—	4.1	微砂粒 灰色	底部1/4	
46		国産陶器	志戸呂	緑釉小皿	鉄 後Ⅳ併行	10.0	—	—	暗茶褐色 釉 黒褐色	口縁部破片	
47		かわらけ			中 口口	11.8	3.1	7.6	微砂粒混 橙褐色 良好	4/5	
48		かわらけ			大 口口	12.4	3.4	7.8	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
49		かわらけ			大 口口	12.4	3.2	8.4	スコリア・微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	底部板状圧痕
50		かわらけ			大 口口	12.2	3.1	7.0	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
51		かわらけ			大 口口	12.0	3.7	7.6	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	
52		かわらけ			中 口口	10.0	3.3	6.0	砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	
53		かわらけ			大 口口	12.6	3.4	6.6	砂粒多混 淡褐色 良好	1/3	
54		かわらけ			中 口口	9.4	3.5	4.8	砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
55		かわらけ			小 口口	8.4	1.6	5.6	砂粒多混 橙褐色 良好	1/2	
56		かわらけ			小 口口	8.6	1.6	6.6	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
57		かわらけ			小 口口	8.6	1.7	6.5	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
58		かわらけ			小 口口	7.2	2.2	4.8	スコリア・微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	スス付着
59		かわらけ			小 口口	7.4	2.1	3.4	微砂粒混 橙褐色 良好	2/3	スス付着
60		かわらけ			大 手づくね	14.4	3.2	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	
61		かわらけ			大 手づくね	13.2	2.7	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
62		かわらけ			大 手づくね	14.3	3.1	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
63		かわらけ			大 手づくね	13.4	2.7	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
64		かわらけ			大 手づくね	13.6	2.6	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
65		かわらけ			大 手づくね	13.2	3.0	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/6	
66		かわらけ			大 手づくね	11.8	3.4	丸	微砂粒混 橙褐色 良好	1/3	
67		かわらけ			大 手づくね	11.6	3.1	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
68		かわらけ			大 手づくね	11.4	3.2	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
69		かわらけ			大 手づくね	12.4	3.1	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/6	
70		かわらけ			大 手づくね	12.4	4.0	丸	砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
71		かわらけ			小 手づくね	9.6	1.8	丸	スコリア・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/4	
72		かわらけ			小 手づくね	9.4	1.7	丸	砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
73		かわらけ			小 手づくね	9.6	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	ほぼ完形	
74		かわらけ			小 手づくね	9.4	1.8	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
75		かわらけ			小 手づくね	9.2	2.0	丸	スコリア・砂粒多混 橙褐色 良好	ほぼ完形	
76		かわらけ			小 手づくね	10.1	2.2	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	2/3	
77		かわらけ			小 手づくね	9.8	1.9	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/2	
78		かわらけ			小 手づくね	9.4	1.6	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/3	
79		かわらけ			小 手づくね	9.0	1.5	丸	スコリア・砂粒混 茶褐色 良好	1/4	
80		かわらけ			小 手づくね	9.2	2.0	丸	スコリア・砂粒混 淡褐色 良好	1/5	
81		かわらけ			小 手づくね	10.0	1.9	丸	砂粒多混 灰褐色 良好	1/4	
82		かわらけ			小 手づくね	7.6	1.8	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	1/4	
83		かわらけ			小 手づくね	7.0	2.0	丸	微砂粒混 淡橙褐色 良好	ほぼ完形	
84		かわらけ			小 手づくね	7.9	1.7	丸	微砂粒混 淡橙褐色 良好	1/2	
85		かわらけ			小 手づくね	7.9	2.0	丸	微砂粒混 淡褐色 良好	3/4	
86		かわらけ			小 手づくね	7.4	1.6	丸	スコリア・砂粒混 橙褐色 良好	1/4	
87		瓦質製品		火鉢	角型	—	—	—	微砂粒 灰白色(表面 灰色)	口縁部破片	

第45表 4区出土遺物一覧表(2)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考			
						口径	器高	底径						
88		瓦		軒平	唐草文	瓦当巾(6.5)	瓦当高(2.8)	瓦当厚(1.6)	瓦当全長(8.2)	瓦当体部厚(2.0)	長石 砂粒 明灰色(一部黒褐) 焼成軟	破片		
89		瓦		丸	凸 罫目 凹 布目	全長(9.1)	巾(6.7)	高(5.6)	厚(2.0)		長石 砂粒 暗灰色 焼成やや軟	破片		
90		瓦		平	凸 罫目 凹 ナデ	全長(9.9)	巾(10.3)	厚(2.5)			長石 砂粒 灰色 焼成硬	破片		
91		瓦		平	凸 罫目 凹 ナデ	全長(7.6)	巾(6.1)	厚(1.7)			長石 砂粒 暗灰色 焼成硬	破片		
92		瓦		平	凸 罫目 凹 ナデ	全長(10.3)	巾(9.8)	厚(1.8)			長石 砂粒 暗灰色 焼成やや軟	破片		
93		石製品	不明	磁石		長(6.0)	幅(3.5)	厚(1.0)				破片	砥面(3)面	
94		石製品	鳴滝	磁石	仕上砥	長(3.9)	幅(2.1)	厚(0.8)					上・下端欠損	砥面(3)面
95		石製品		鏡?(滑石)		口径一	器高一	底径一				破片		
96		石製品		不明		長(2.0)	幅(1.5)	厚(0.4)				完形		
97		石製品		軽石加工品		長(15.0)	幅(11.9)	厚(6.9)				ほぼ完形		
98		石製品		軽石加工品		長(13.4)	幅(8.1)	厚(5.1)				2/3		
99		石製品		軽石加工品		長(22.5)	幅(20.3)	厚(12.4)				完形		
100		石製品		軽石加工品		長(8.1)	幅(9.7)	厚(4.6)				1/2		
101		石製品		軽石加工品		長(17.2)	幅(13.1)	厚(9.2)				上・下端欠損		
102		銭貨		北宋銭	皇宋通宝							完存	初鑄1038年	
103		銭貨		唐銭	開元通宝							1/2	初鑄960年	
104		銭貨		北宋銭	熙寧元宝							完存	篆書 初鑄1068年	
105		銭貨		北宋銭	嘉定通宝							完存	背方 初鑄1208年	
106		銭貨		北宋銭	景祐元宝							完存	初鑄1034年	
107		近世陶磁器	志戸呂	皿		10.0	2.1	4.0	灰色 釉 濃赤茶色			1/4		
108		須恵器		蓋		12.4	4.9	—	砂粒 淡灰色 良好			4/5	陶色・陶色系	
109		土師器		坏		14.8	4.9	—	丸 長石 砂粒 明橙褐色 良好			ほぼ完形		
110		土師器		高坏		17.0	10.3	11.3	長石 砂粒 明橙褐色 良好			ほぼ完形		
111		土師器		坏		13.4	6.4	4.4	砂粒 淡橙褐色 良好			ほぼ完形		
112		土師器		坏		10.2	5.4	—	丸 長石 砂粒 明橙褐色 良好			1/2		
113		土師器		高坏		16.0	—	—	長石 砂粒 明橙褐色 良好			坏部3/4		
114		土師器		鉢		12.2	6.3	4.0	長石 砂粒多 濃橙褐色 良好			1/3		
115		土師器		鉢		12.0	5.3	4.0	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			1/2		
116		土師器		小型壺		12.6	10.1	5.6	長石 砂粒多 橙褐色 良好			1/3		
117		土師器		高坏		18.2	12.3	11.3	長石 砂粒多 橙褐色 良好			ほぼ完形		
118		土師器		高坏		19.2	—	—	長石 砂粒多 橙褐色 良好			口縁部のみ		
119		土師器		高坏		19.4	—	—	長石 砂粒多 赤褐色 良好			坏部1/2		
120		土師器		高坏		7.2	6.6	8.9	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			ほぼ完形		
121		土師器		台付壺		18.4	—	—	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			口縁~体部1/6		
122		土師器		台付壺		16.0	—	—	長石 砂粒多 茶褐色 良好			1/3		
123		土師器		台付壺		15.4	—	—	長石 砂粒多 茶褐色 良好			口縁部1/3、体部下半破片		
124		土師器		台付壺		16.2	—	—	長石 砂粒多 茶褐色 良好			1/4台部欠損		
125		土師器		台付壺		12.4	—	—	長石 砂粒多 茶褐色 良好			1/3		
126		土師器		壺		20.4	—	—	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			1/2		
127		土師器		壺		—	—	9.8	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			胴部下半1/6		
128		須恵器		蓋		13.1	5.0	—	長石 砂粒 青灰色 良好			1/2	陶色 陶色系	
129		須恵器		坏		12.6	—	—	砂粒 暗青灰色 良好			1/2	陶色 陶色系	
130		須恵器		坏		11.8	4.5	—	砂粒 暗青灰色 良好			1/3		
131		須恵器		はそうor小型壺		—	—	—	微砂粒 暗灰色 良好			体部破片	陶色 陶色系	
132		須恵器		はそう		—	—	—	微砂粒 暗灰色 良好			体部破片	陶色 陶色系	
133		須恵器		はそう		—	—	—	微砂粒 暗灰色 良好			体部破片	陶色 陶色系	
134		須恵器		壺		—	—	—	長石 砂粒 暗紫灰色 良好			口縁部破片	陶色 陶色系	
135		須恵器		蓋		3.0	2.0	15.6	砂粒 淡灰色 良好			1/6	助宗	
136		須恵器		坏(高台付壺)		—	—	11.2	砂粒 淡灰色 良好			底部4/5	湖西	
137		須恵器		坏(高台付壺)		13.0	—	—	砂粒 淡青灰色 良好			1/8	湖西	
138		須恵器		高台付坏		13.6	3.8	9.4	砂粒 淡青灰色 良好			1/8	助宗	
139		須恵器		壺		19.6	—	—	長石 砂粒 暗紫灰色 良好			頭部破片	在地(花坂?)	
140		土師器		坏		16.0	5.2	6.0	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			1/4		
141		土師器		坏		14.2	5.2	5.0	長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			1/2		
142		土師器		坏		13.2	4.5	—	丸 長石 砂粒多 淡橙褐色 良好			1/2		
143		土師器		坏		13.4	6.0	5.4	長石 砂粒多 明橙褐色 良好			1/2		
144		土師器		坏		15.6	6.5	5.2	長石 砂粒多 明橙褐色 良好			1/3		
145		土師器		坏		15.6	6.3	5.0	長石 砂粒多 橙褐色 良好			1/2		
146		土師器		坏		14.4	6.6	6.6	長石 砂粒多 橙褐色 良好			2/3		
147		土師器		小型丸底壺		11.0	6.3	4.0	砂粒 茶褐色 良好			1/2		
148		土師器		高坏		22.0	—	—	スリア 砂粒 橙褐色 良好			口縁部1/2		
149		土師器		高坏		—	—	10.4	スリア 砂粒 橙褐色 良好			脚部のみ		
150		土師器		高坏		—	—	—	スリア 砂粒 橙褐色 良好			脚部1/2		
151		土師器		高坏		—	—	—	スリア 砂粒 橙褐色 良好			脚部1/2		
152		土師器		高坏		—	—	—	長石 砂粒多 橙褐色 良好			脚部3/4		
153		土師器		壺		12.2	—	—	砂粒 橙褐色 良好			口縁部1/2		
154		土師器		台付壺		14.8	—	—	砂粒 茶褐色 良好			口縁部1/2		
155		土師器		台付壺		—	—	12.4	スリア 砂粒 淡橙褐色 良好			台部のみ		
156		土師器		台付壺		—	—	9.0	長石 砂粒多 橙褐色 良好			台部のみ		
157		土師器		壺		34.0	—	—	スリア 砂粒 赤褐色 良好			口縁部破片		
158		土師器		壺		—	—	—	長石 砂粒多 橙褐色 良好			口縁部破片		
159		土師器		壺		—	—	—	長石 砂粒多 橙褐色 良好			口縁部破片		
160		土師器		手づくね土器		6.0	3.2	4.0	砂粒 橙~茶褐色 良好			3/4		
161		土師器		手づくね土器		5.0	3.3	3.4	砂粒 暗茶橙褐色 良好			2/3		
162		土師器		手づくね土器		5.8	2.3	3.8	砂粒 暗茶橙褐色 良好			1/2		
163		土師器		手づくね土器		4.2	2.4	2.6	長石 砂粒多 淡褐色 良好			1/4		
164		土師器		手づくね土器		—	—	3.4	長石 砂粒多 橙褐色 良好			1/2		
165		土師器		手づくね土器		—	—	3.4	長石 砂粒多 淡褐色 良好			2/3		
166		土師器		手づくね土器		—	—	3.0	長石 砂粒多 淡褐色 良好			1/2		
167		土師器		?		—	—	4.8	長石 砂粒多 淡褐色 良好			脚部のみ		
168		灰釉陶器	東濃	碗	IV-1期	—	—	—	砂粒 灰色			口縁部破片		
169		灰釉陶器		広口瓶		—	—	—	砂粒多 淡灰褐色			口縁部破片		
170		瓦		軒丸	巴文	瓦当径一	瓦当厚一	全長一	体部高一	体部厚一	長石 砂粒 表青灰色 中赤褐色 焼成硬	破片	古代	
171		瓦		平	凸 タタキ 凹 布目	全長(7.0)	巾(6.8)	厚(2.0)			長石 砂粒 表青灰色 中赤褐色	破片	古代	
172		瓦		平	凸 タタキ 凹 布目	全長(8.0)	巾(6.4)	厚(2.0)			長石 砂粒 青灰色 焼成硬	破片	古代	

第46表 4区出土遺物一覧表(3)

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
173		石製品		石製模造品		長(5.3)	幅(2.5)	厚0.6		完形	古代
174		石製品		管玉		長2.8	径0.6	孔径0.2		完形	古代
175		土製品		管玉模造品		長4.6	径1.6	孔径0.5	微砂粒 灰色 良好	完形	
176		土製品		管玉模造品		長5.3	径2.0	孔径0.6	スリ7 砂粒 橙褐色 良好	ほぼ完形	

第47表 5区出土遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 四耳壺	Ⅲ類	—	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	肩部破片 把手残	
2		貿易陶磁	同安窯系	青磁 碗		—	—	—	灰白色 釉 薄緑灰色 透明	底部1/4	
3		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A2類(Ⅰ-2類)	—	—	6.0	淡灰色 釉 淡緑褐色 透明	底部1/2	
4		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗		15.0	—	—	灰白色 釉 薄青灰色 不透明	口縁部1/8	被熱
5		国産陶器	瀬戸美濃	襷鉢	錆釉 後Ⅳ新时期	28.0	—	—	淡褐色 釉 赤紫褐色	口縁部1/8	
6		国産陶器	瀬戸美濃	丸皿	灰釉 大窯2後段階	11.4	2.4	3.1	灰色 釉 灰緑~乳白色	1/2	
7		国産陶器	常滑	壺	2型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
8		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅰ	2型式	—	—	—	長石 砂粒 灰色	口縁部破片	
9		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	11型式	—	—	—	長石 砂粒 暗灰色	口縁部破片	
10		かわらけ		大	ロクロ?	14.6	4.1	8.4	砂粒多混 橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
11		かわらけ		中	ロクロ?	11.0	2.6	7.6	砂粒多混 橙褐色 良好	1/4	底部板状圧痕
12		かわらけ		中	ロクロ?	8.4	2.3	5.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/5	
13		かわらけ		小	ロクロ?	6.0	1.8	3.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	スス 板状圧痕
14		かわらけ		小	ロクロ?	7.0	1.9	4.0	微砂粒混 橙褐色 良好	1/4	スス付着
15		かわらけ		大	手づくね	13.4	3.0	—	丸 スリ7・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/2	
16		かわらけ		大	手づくね	13.4	2.3	—	丸 スリ7・砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	
17		かわらけ		大	手づくね	13.0	2.8	—	丸 スリ7・砂粒混 淡橙褐色 良好	1/3	
18		かわらけ		大	手づくね	13.6	2.6	—	丸 砂粒多混 淡橙褐色 良好	1/3	摩滅著しい
19		石製品	不明	砥石		長(11.9)	幅4.3	厚3.3		下端部欠損	破面(3)面
20		石製品		軽石加工品		長12.1	幅(12.2)	厚7.3		1/2	
21		土師器		坏		15.4	5.1	5.8	砂粒 橙褐色 良好	1/2	
22		土師器		坏		12.2	5.0	—	丸 砂粒 淡褐色 良好	1/2	
23		土師器		坏		—	—	5.2	砂粒 橙褐色 良好	1/2	
24		土師器		坏		16.6	6.7	5.4	砂粒 橙褐色 良好	1/2	
25		土師器		甌		21.0	18.1	7.0	砂粒 淡橙褐色 良好	3/4	
26		土師器		甌		27.3	28.0	8.4	砂粒 淡橙褐色 良好	完形	
27		石製品		石製模造品		長(2.1)	幅2.7	厚0.3		完形	古代

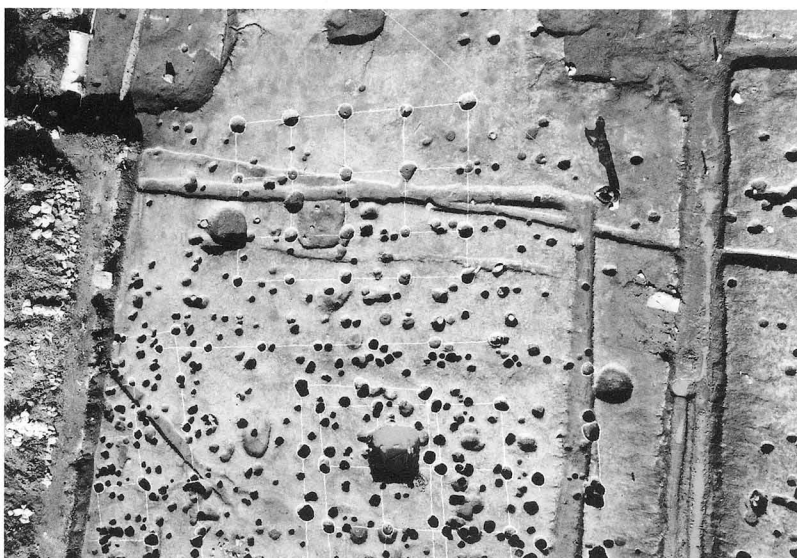
第48表 出土位置不明遺物一覧表

No	遺構	種別	産地	器種	分類	計測値			胎土・焼成	残存	備考
						口径	器高	底径			
1		貿易陶磁		白磁 碗	Ⅱ類	—	—	—	灰白色 釉 緑味灰白色 透明	口縁部破片	
2		貿易陶磁		白磁 碗	V-4類	—	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
3		貿易陶磁		白磁 碗	V・Ⅷ類?	—	—	—	灰白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	貫入あり
4		貿易陶磁		白磁 皿	Ⅳ類	9.4	—	—	白色 釉 灰白色 透明	口縁部破片	
5		貿易陶磁		白磁 皿	Ⅷb類	—	—	3.8	灰白色 釉 灰白色 透明	底部1/4	
6		貿易陶磁		白磁 皿		—	—	3.0	灰白色 釉 黄味灰褐色	底部1/4	
7		貿易陶磁		白磁 皿	印花文	—	—	1.9	白色 釉 白色	底部1/3	
8		貿易陶磁		白磁 四耳壺	Ⅲ類	—	—	—	灰白色 釉 青味灰白色 透明	頸部破片	
9		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	A4類(Ⅰ-4類)	—	—	—	灰白色 釉 黄褐色	口縁部破片	
10		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(Ⅰ-5類)	—	—	—	淡青灰色 釉 暗緑灰色 透明	口縁部破片	
11		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(Ⅰ-5類)	—	—	—	淡灰色 釉 深青緑色 透明	口縁部破片	
12		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	B1類(Ⅰ-5類)	—	—	—	乳白色 釉 黄褐色 不透明	口縁部破片	貫入あり
13		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 碗	D1類	—	—	—	灰白色 釉 薄青緑色 不透明	口縁部破片	
14		貿易陶磁	龍泉窯系	青磁 皿・鉢	無文折縁	—	—	—	淡灰色 釉 オリーブ色 透明	口縁部破片	
15		貿易陶磁		青白磁 皿		—	—	—	白色 釉 薄青白色 不透明	口縁部破片	
16		貿易陶磁		青白磁 合子類		—	—	—	白色 釉 青白色	底部破片	
17		貿易陶磁		陶器 緑釉甌		—	—	—	灰褐色 釉 緑色	底部破片	
18		国産陶器	瀬戸美濃	緑釉小皿	灰釉 後Ⅳ新时期	10.6	2.7	4.1	淡灰褐色 釉 淡灰褐色	完形	
19		国産陶器	瀬戸美濃	山茶碗	大畑大洞(新)	13.6	4.6	—	淡灰色	1/3	東濃系
20		国産陶器	常滑	壺	6a~6b型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
21		国産陶器	常滑	壺	7型式	—	—	—	砂粒 灰色	口縁部破片	
22		国産陶器	常滑	片口鉢Ⅱ	8型式	36.0	—	—	長石 砂粒多 橙~灰褐色	口縁部破片	
23		国産陶器	湖西	小皿		9.2	2.5	4.2	砂粒多 灰色	4/5	12世紀後半
24		かわらけ		大	ロクロ	14.4	4.2	8.8	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
25		かわらけ		大	ロクロ	13.8	3.6	8.2	微砂粒混 橙褐色 良好	5/6	
26		かわらけ		小	ロクロ	9.4	2.2	5.6	微砂粒混 橙褐色 良好	2/5	
27		かわらけ		小	ロクロ	9.2	1.8	5.2	微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
28		かわらけ		小	ロクロ	7.2	2.7	4.4	微砂粒混 橙褐色 良好	3/5	スス付着 摩滅
29		かわらけ		小	手づくね	9.0	2.4	—	丸 微砂粒混 橙褐色 良好	1/2	
30		瓦質製品		火鉢	スタブ	21.8	10.9	13.2	灰白色(表面 暗灰色)	1/6	
31		瓦質製品		火鉢	スタブ+連珠	推定35.0	—	—	灰白色	口縁部破片	
32		瓦質製品		火鉢		33.6	—	—	灰白色(表面 暗灰色)	口縁部破片	
33		瓦		軒丸	巴文	瓦当径一 瓦当厚(2.0) 全長一 体部高一 体部厚一	—	—	長石 砂粒 暗灰色 焼成軟	瓦当破片	
34		土製品		香炉?		口径4.3	器高-	底径-	微砂粒 橙褐色 良好	1/4	
35		石製品		磨石		長11.5	幅5.6	厚3.2		完形	弥生時代?
36		石製品		軽石加工品		長(7.1)	幅3.5	厚1.5		完形	
37		石製品		軽石加工品		長(8.5)	幅9.3	厚3.0		2/3	
38		石製品		軽石加工品		長22.3	幅18.3	厚12.9		完形	
39		銭貨		北宋銭	紹聖元宝					完形	篆書 初鑄1094年
40		須恵器	陶色・陶	壺		19.0	—	—	長石 砂粒 暗青灰色 良好	口縁部破片	陶色 陶色系
41		須恵器	陶色・陶	高坏 脚		—	—	—	微砂粒 淡灰色 良好	底部破片	陶色 陶色系
42		土師器		坏		12.5	4.9	—	丸 微砂粒 橙褐色 良好	1/4	
43		土師器		高坏		—	—	9.8	砂粒 淡橙褐色 良好	台部のみ	

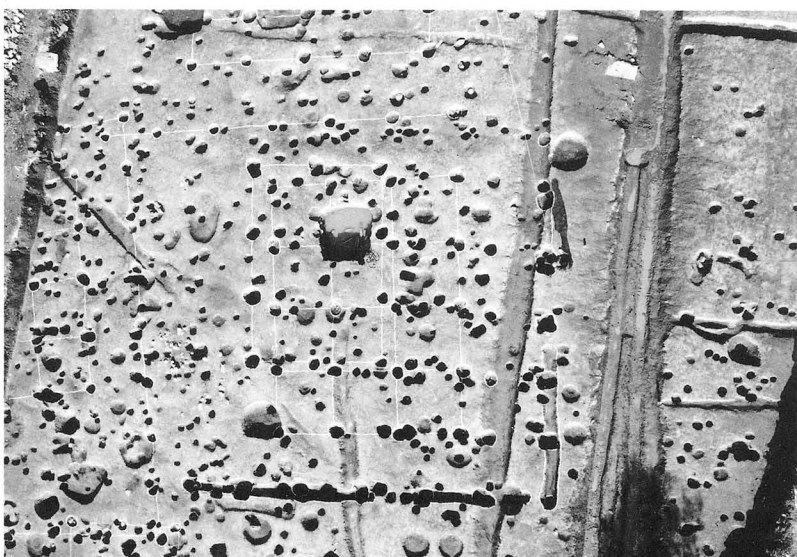
写真図版



1.調査区全景

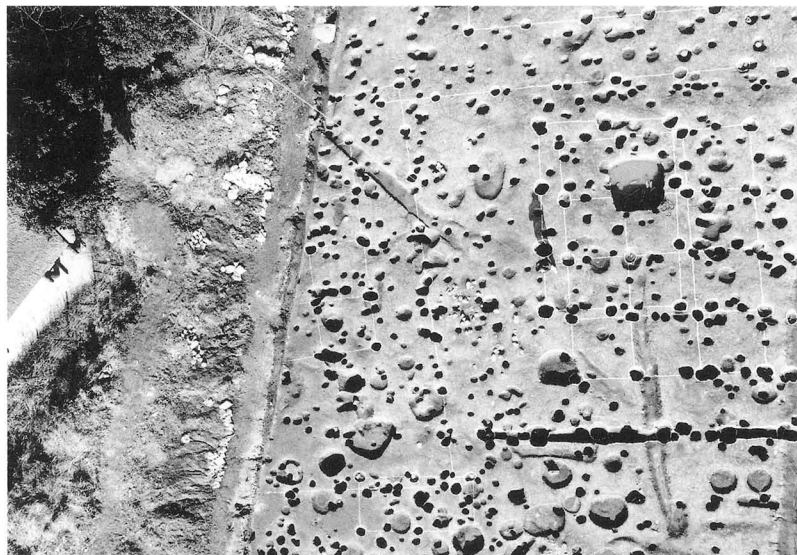


2.第1号掘立柱建物跡・
第1号柱穴列



3.第2・3号掘立柱建物跡・
第2・3号柱穴列

图版 2



1. 第2~4号掘立柱建物跡・
第2~4号柱穴列



2. 第4号土坑墓



3. 第5号土坑墓



1. 第 1 号井戸(1)



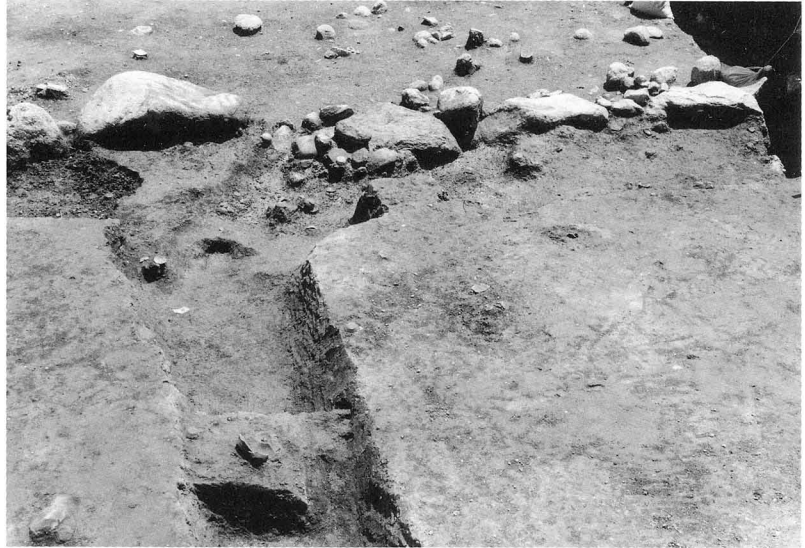
2. 第 1 号井戸(2)



3. 第 1 号井戸(3)

図版 4

1. 第 3 号溝状遺構



2. 第 4 号溝状遺構



3. 第 4 号溝状遺構土層断面

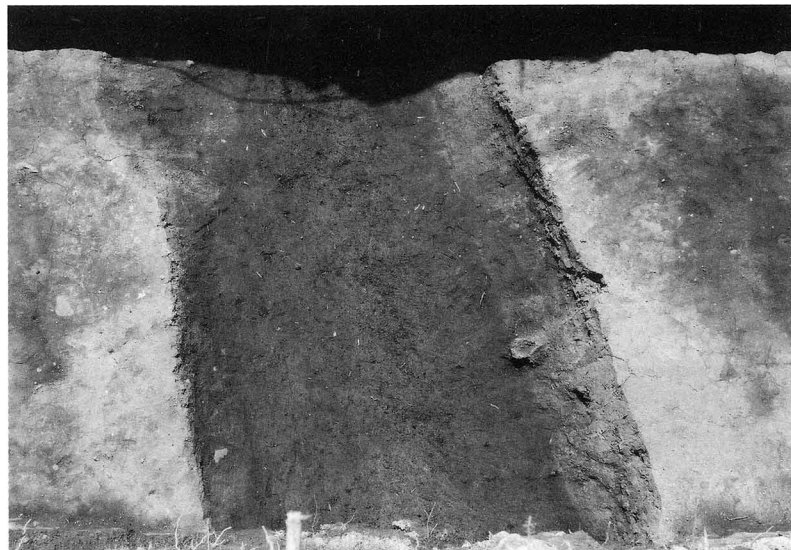




1. 第 4 号溝状遺構



2. 第 4 号溝状遺構遺物出土状況



3. 第 5 号溝状遺構

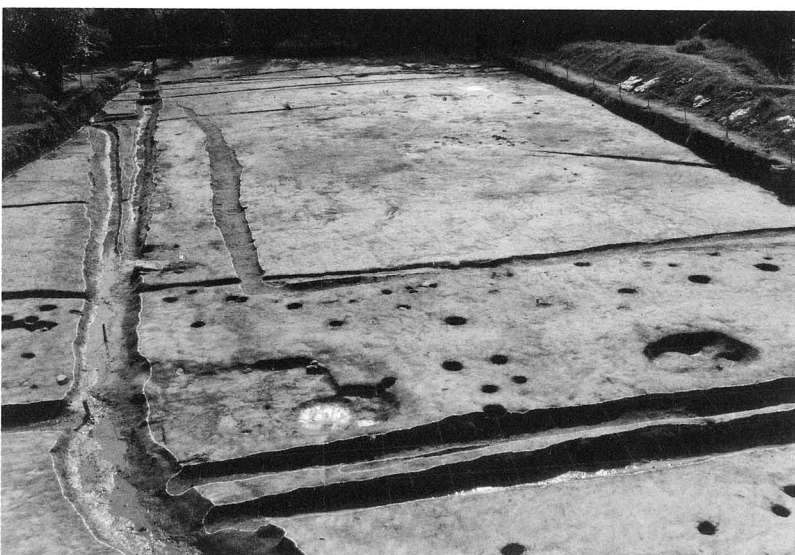
図版 6



1. 第17号溝状遺構



2. 1区集石検出状況



3. 近世溝状遺構



1.発掘調査風景

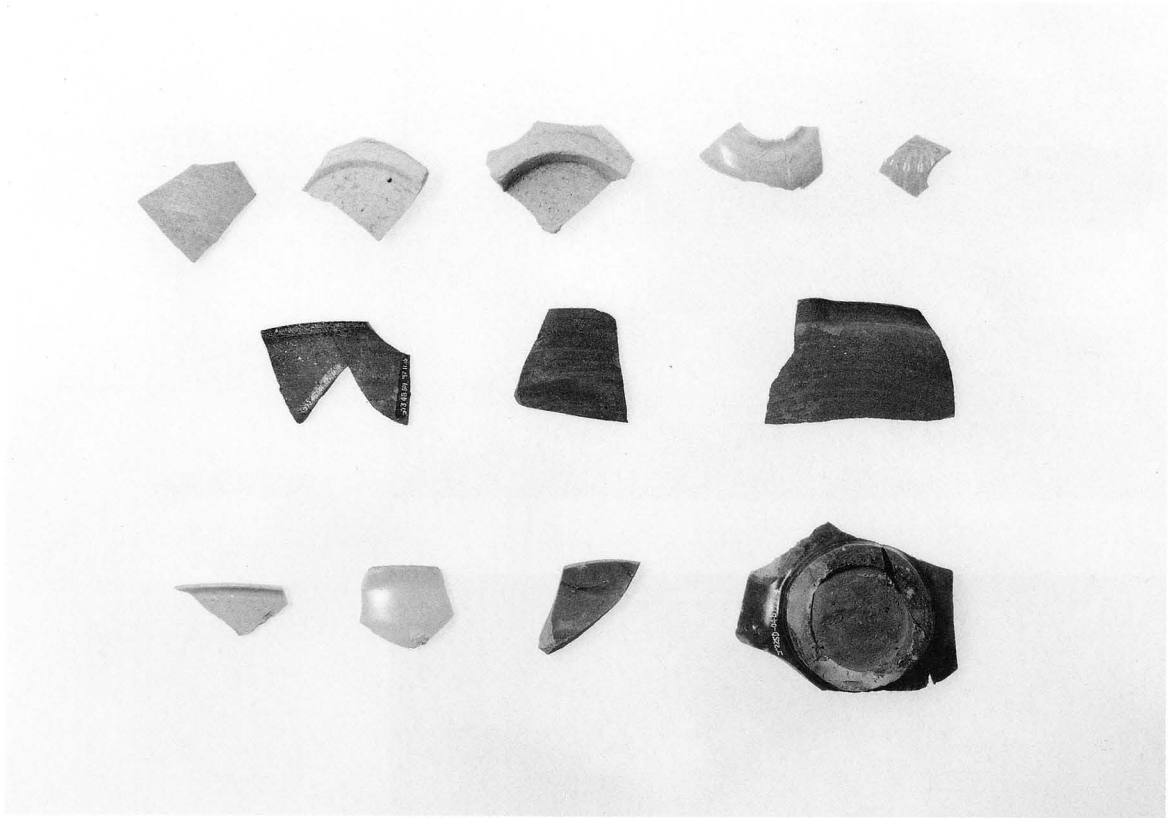


2.見学会風景



3.見学会風景

图版 8



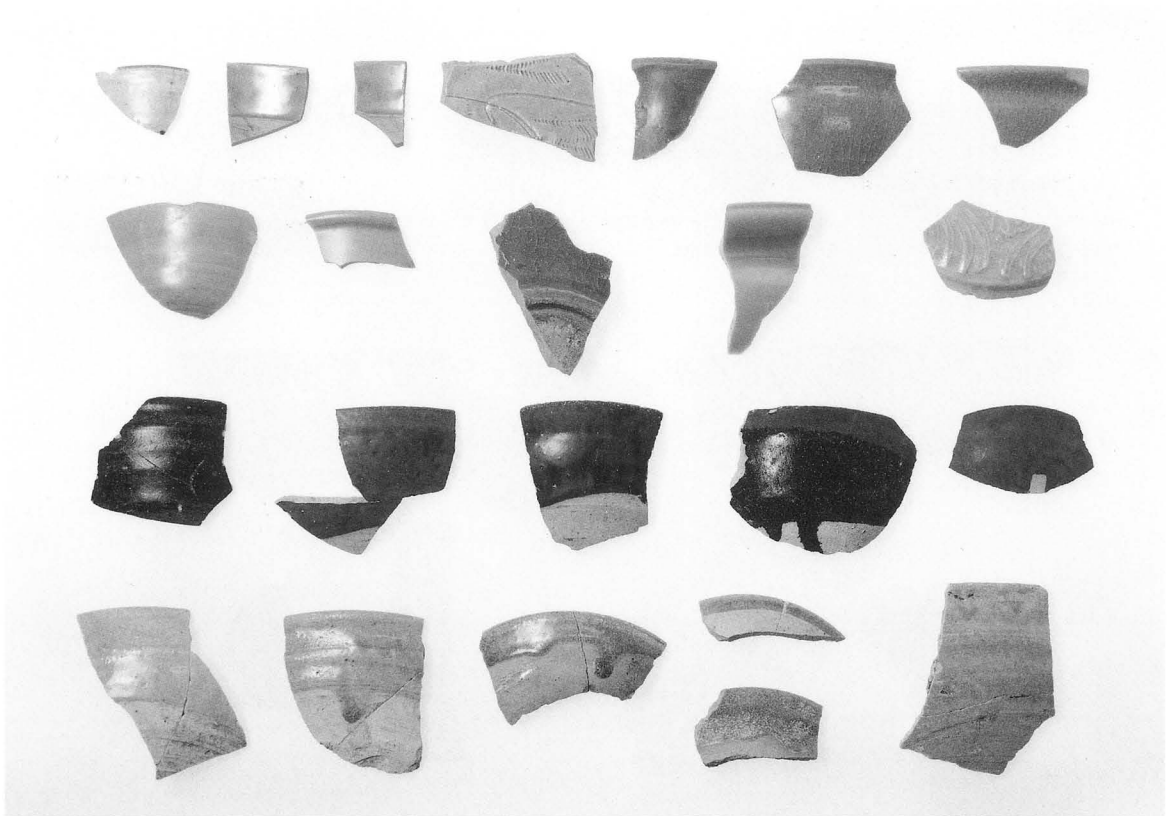
1. 第 1 号・2 号井戸出土陶磁器



2. 第 1 号溝状遺構出土陶磁器



1. 第 3 号沟状遺構出土陶磁器



2. 第 4 号沟状遺構出土陶磁器



1.第4号溝状遺構出土陶磁器



2.第4号溝状遺構出土瓦質製品



1. 第16号溝状遺構出土陶磁器



2. 第16号溝状遺構出土陶磁器・瓦質製品



1. 近世溝状遺構出土陶磁器



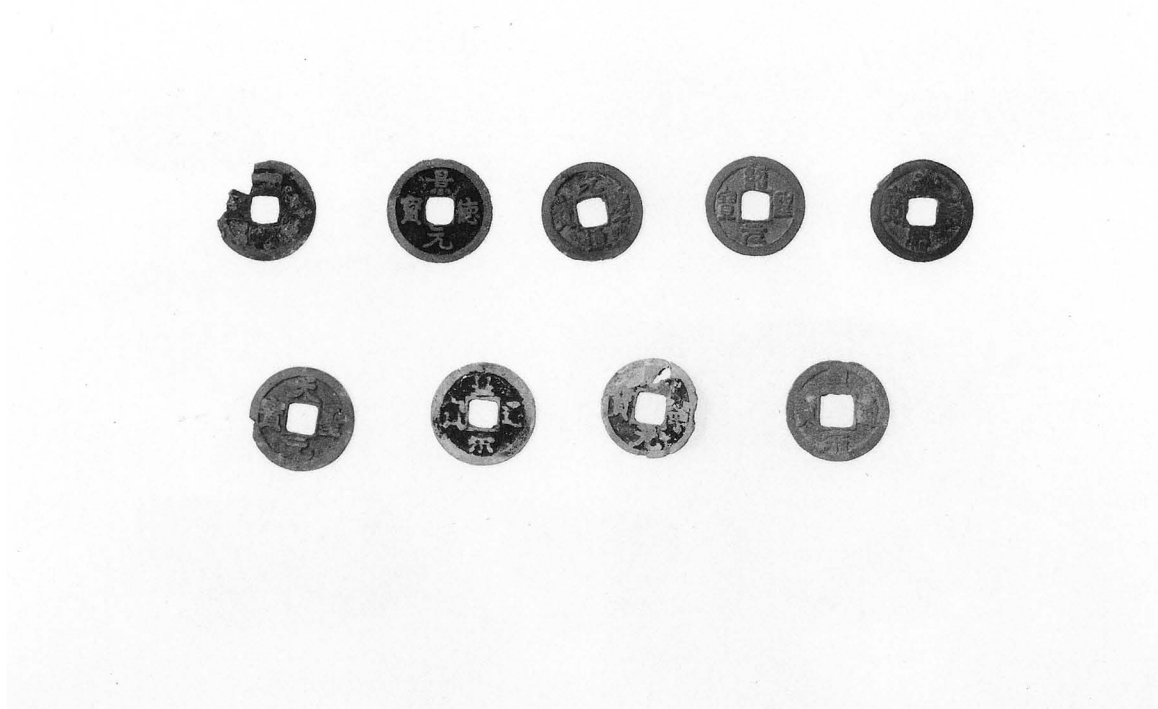
2. 軒丸瓦



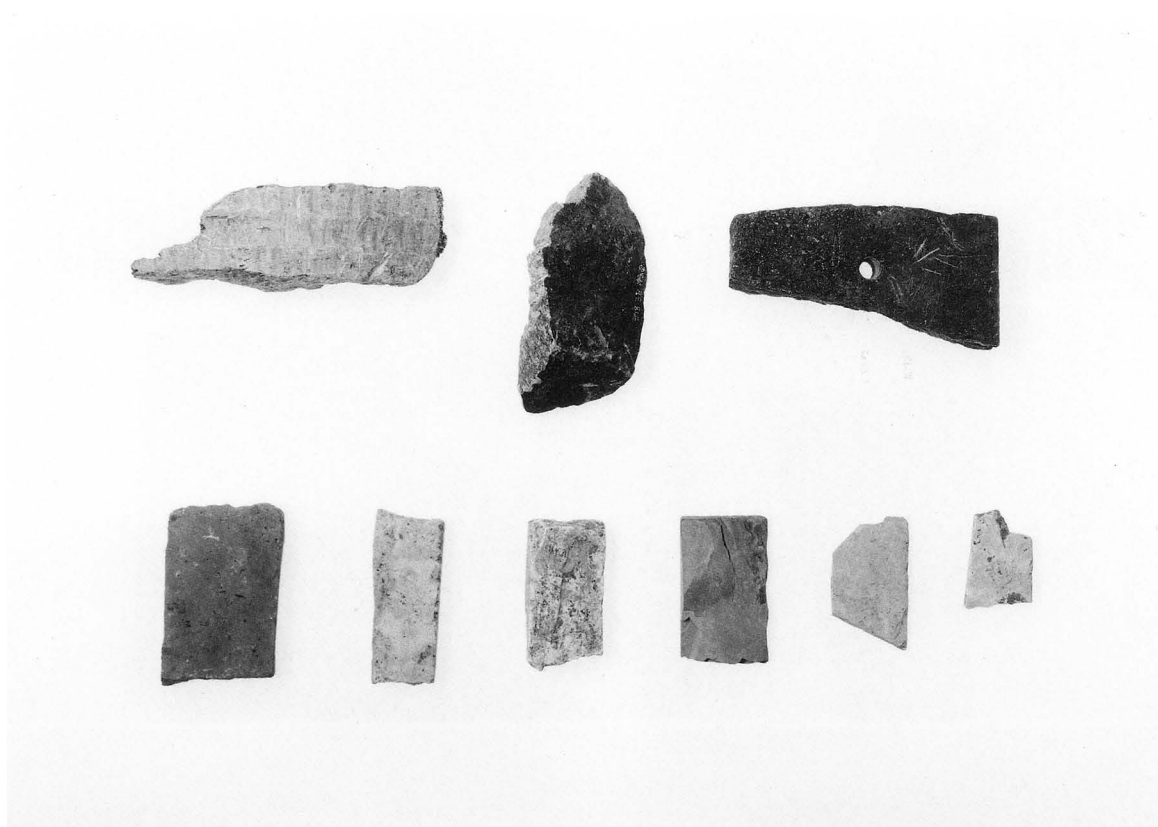
1.軒平瓦



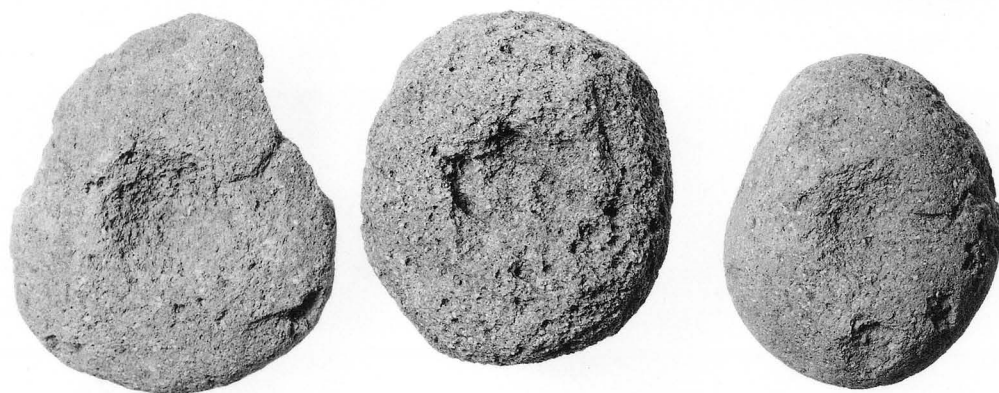
2.平瓦



1. 錢貨



2. 石製品(1)



1.石製品(2)



2.石製品(3)

図版16



1.第1号井戸出土かわらけ



2.第2号井戸出土かわらけ



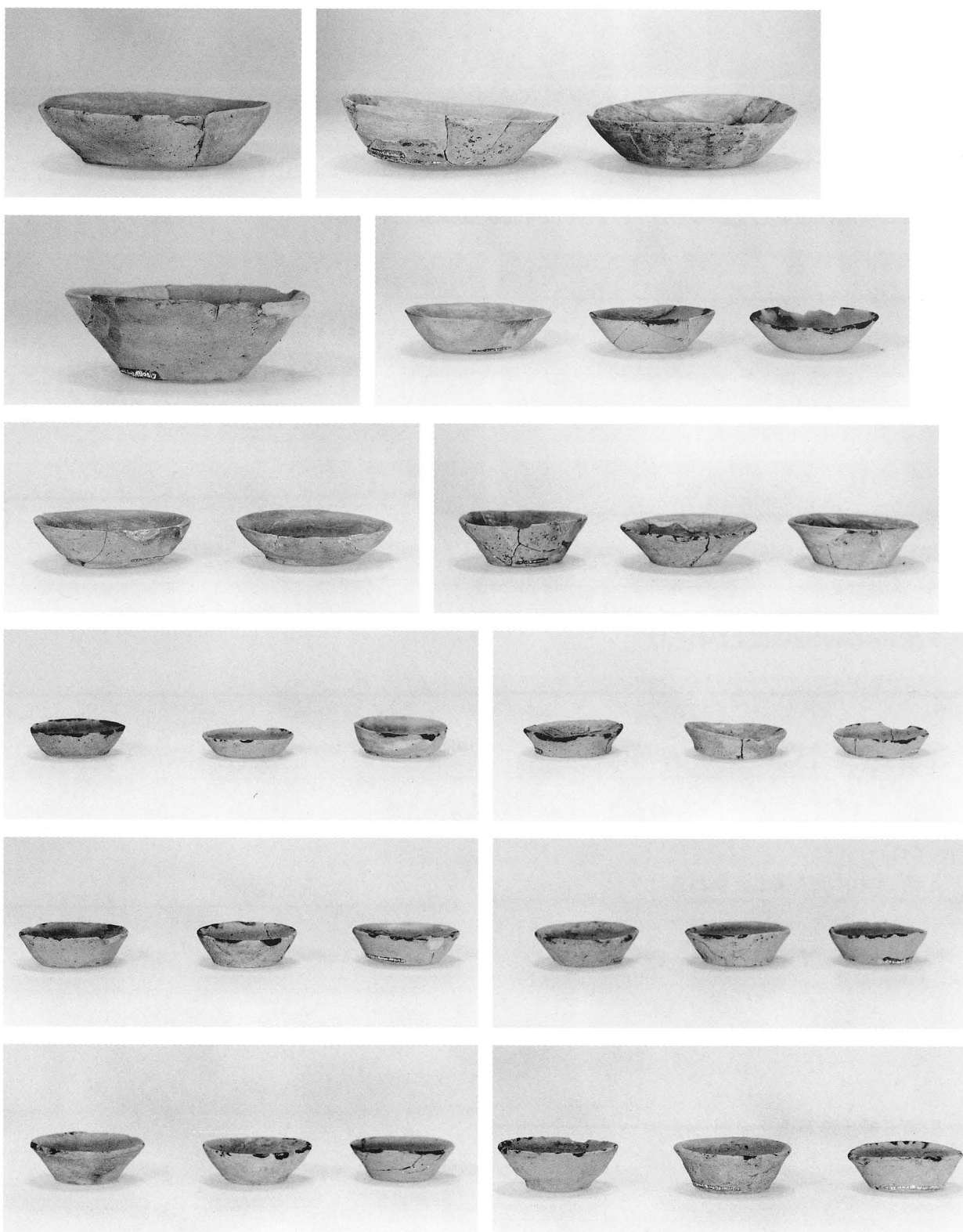
3.第1号溝状遺構出土かわらけ



4.第2号溝状遺構出土かわらけ



5.第3号溝状遺構出土かわらけ



第4号溝状遺構出土かわらけ

図版18



1.第5号溝状遺構出土かわらけ



2.第10号溝状遺構出土かわらけ



3.第16号溝状遺構出土かわらけ



4.第19号溝状遺構出土かわらけ



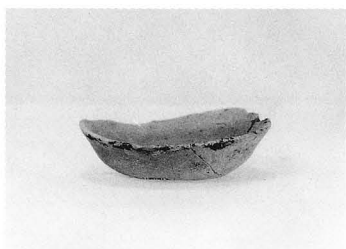
5.第5号土坑墓出土かわらけ



6.第34号土坑出土かわらけ



7.第36号土坑出土かわらけ



1. 第39号土坑出土かわらけ



2. 第50号土坑出土かわらけ



3. 第56号土坑出土かわらけ



4. 4区遺物集中地点出土須恵器・土師器



5. 4区出土土師器



6. 5区出土土師器

報告書抄録

ふりがな	しせきほうじょうしていあとはくつちょうさほうこく							
書名	史跡北条氏邸跡発掘調査報告							
副書名	御所之内遺跡第13次発掘調査報告							
巻次	I							
シリーズ名	葦山町文化財調査報告							
シリーズ番号	No.42							
編集者名	原 茂光 池谷初恵							
編集機関	葦山町教育委員会							
所在地	〒410-2123 静岡県田方郡葦山町四日町210-3							
発行年月日	西暦2002年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
御所之内遺跡	しずおかけん たがた 静岡県田方 ぐん にらやまちょうお 郡 葦山町大 あぎよっか まちあぎ 字 四日町字 ごじよの うち 御所之内	22326	—	35° 02' 41"	138° 56' 35"	1992.03.09 ～12.29 1993.03.18 ～07.25	2,826.68m ²	保養施設建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
御所之内	居館・集落	古 代 中 世 近 世	掘立柱建物跡 井戸 溝 土坑 土坑墓	かわらけ 貿易陶 磁 国産陶器 瓦 瓦質製品 石製品		史跡北条氏邸跡内 の調査		

史跡北条氏邸跡発掘調査報告 I
— 御所之内遺跡第13次発掘調査報告 —

平成14年 3月20日印刷
平成14年 3月29日発行

編集・発行 韮山町教育委員会
〒410-2123
静岡県田方郡韮山町四日町210-3
電話 055-949-5251

印刷 アサダ印刷株式会社

